小矢部市埋蔵文化財報告書第51冊

富山県小矢部市

# 桜町遺跡発掘調査報告書

弥生・古墳・古代・中世編Ⅰ

第1分冊

2003年

小矢部市教育委員会

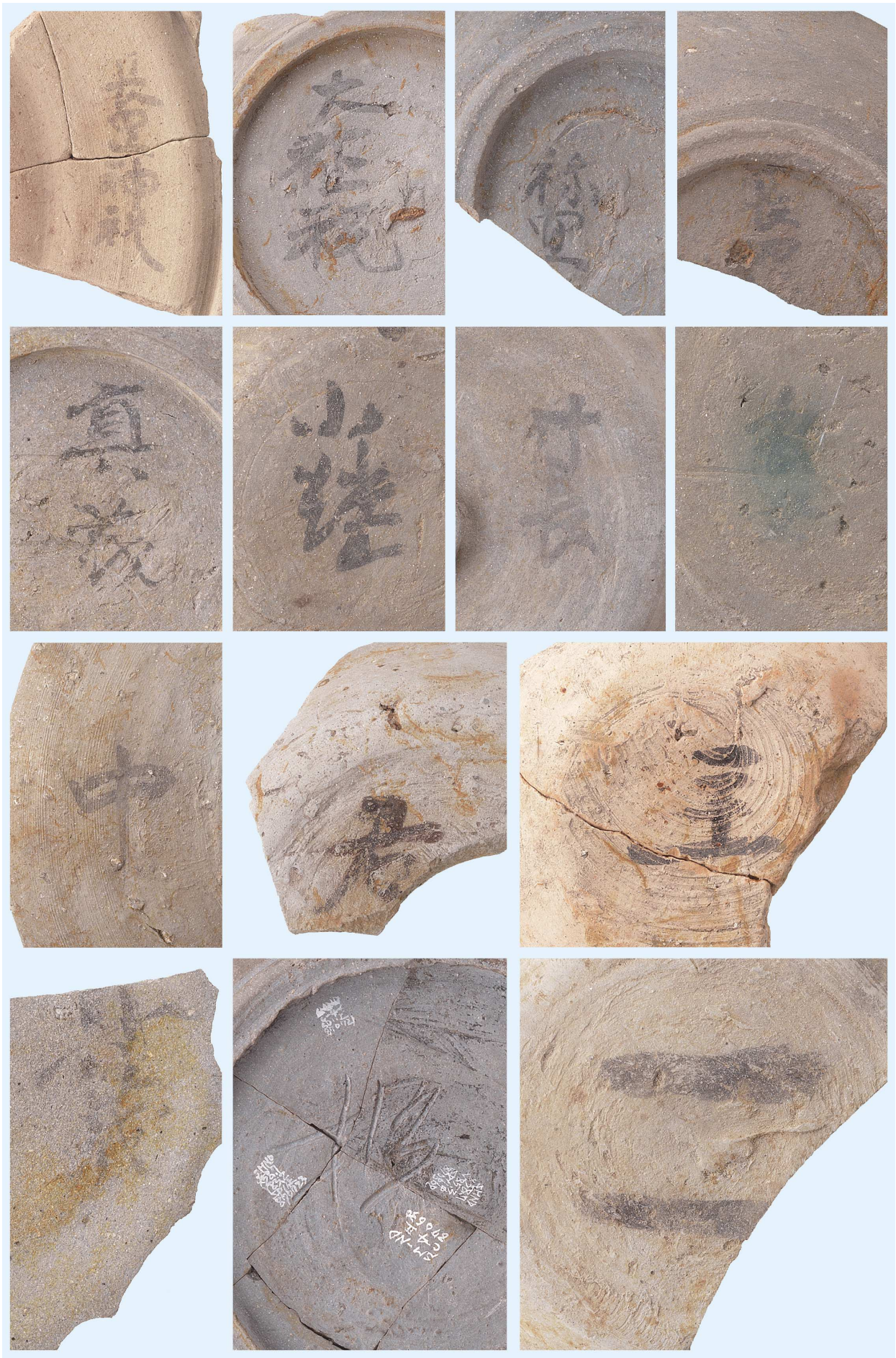
遺跡遠景（東上空から）

1984年度調査区　SB18・22付近

1985年度調査区　SB17・18付近

1987年度調査区　SD11

和同開珎と帯金具



墨書土器

小矢部市埋蔵文化財報告書第 51 冊

富山県小矢部市

# 桜町遺跡発掘調査報告書

弥生・古墳・古代・中世編Ⅰ

第１分冊

2003年

小 矢 部 市 教 育 委 員 会

# 序

本書は国道８号小矢部バイパス建設に伴い、昭和59年から62年にかけて実施した桜町遺跡の発掘調査報告書です。

桜町遺跡は、昭和46年に発見され、昭和54年の分布調査で縄文時代の遺跡でもあることがわかりました。昭和63年に舟岡地区で行われた調査では、それまでの縄文観をくつがえしたと言われる高床式建物の柱等木製品が多く出土し、全国的に注目されるようになりました。

ここに収録しました産田・中出地区の調査では、多くの遺構、遺物とともに全国でも出土例のない、「長岡神祝」など神職名等を記した墨書土器が出土しました。これらは、縄文時代からつづく桜町遺跡の長い歴史の中でも特筆すべきものです。

この発掘成果が、今後の研究の参考となり、埋蔵文化財に対する理解ならびに保護の一助となれば幸いです。

終わりに、調査に協力していただきました地元の方々及び、国土交通省、富山県埋蔵文化センターをはじめとします関係諸機関の方々に心から感謝申し上げます。

平成15年３月

小矢部市教育委員会

教育長　楠　　公尚

# 例　　言

1．本書は、富山県小矢部市桜町に所在する桜町遺跡で、1984年度・1985年度・1986年度・1987年度に実施した発掘調査の報告書である。

2．この発掘調査は、国道８号小矢部バイパスの建設に伴うもので、小矢部市教育委員会が国土交通省（前建設省）から委託を受けて実施した。

3．調査年度、調査地区名、発掘面積、調査期間は次のとおりである。

・1984（昭和59）年度　産田地区、7,000㎡、1984年５月８日～11月22日（延136日）。

・1985（昭和60）年度　産田地区、4,000㎡、1985年５月22日～12月19日（延142日）。

・1986（昭和61）年度　中出地区、2,000㎡、1986年７月９日～12月10日（延82日）。

・1987（昭和62）年度　中出地区、3,500㎡、1987年５月20日～11月10日（延140日）。

4．調査主体は小矢部市教育委員会である。調査の実施にあたり、富山県教育委員会から調査員の派遣を受けた。発掘調査担当者は下記のとおりである。

・1984年度　富山県教育委員会派遣文化財保護主事　安念幹倫
小矢部市教育委員会主事　伊藤隆三・高木場万里

・1985年度　富山県教育委員会派遣文化財保護主事　安念幹倫
小矢部市教育委員会主事　伊藤隆三・高木場万里
同　上　嘱託　山森伸正・林　浩明

・1986年度　富山県教育委員会派遣文化財保護主事　安念幹倫
小矢部市教育委員会主任　伊藤隆三
同　上　主事　高木場万里
同　上　嘱託　山森伸正・林　浩明

・1987年度　富山県教育委員会派遣文化財保護主事　岡本淳一郎
小矢部市教育委員会主任　伊藤隆三
同　上　主事　高木場万里
同　上　嘱託　山森伸正・林　浩明

5．本書の作成は、小矢部市教育委員会が行った。作成にあたり、桜町遺跡調査等検討委員会（田中琢委員長）の指導を受けた。担当者は下記のとおりである。

・2001年度　総括　文化課　課　長　日光久悦
主務　同　上　課長補佐　久々忠義・伊藤隆三　主任　塚田一成
事務　同　上　課長補佐　稲原　勉　主査　藤井陽子

・2002年度　総括　同　上　課　長　日光久悦
主務　同　上　課長補佐　久々忠義　主任　塚田一成
事務　同　上　主　任　高木場万里　主事　大野淳也・中井真夕

6．本書の編集・執筆は、小矢部市教育委員会文化課職員の協力を得て、久々忠義と塚田一成が行った。ただし、付載　桜町遺跡の自然科学分析（板東・産田・中出地区）については、分析を委託した専門機関の報告を掲載した。

7．本書は２分冊からなる。第１分冊は本文・図・表からなり、第２分冊は写真図版である。またほかに、付図４枚と本書を収めたCD－ROM１枚が付いている。本書の図・写真図版の表示は次のとおりである。

１）遺構番号は調査年度毎に、遺構の種別ごとに付した。遺構番号・表記は調査現場で付したものをそのまま使用し、掘立柱建物－SB、竪穴住居－SI、土坑－SK、柱穴・小穴－P、溝・堀－SD、畠－SF、その他SXと表記している。なお、遺構番号は遺構検出時点で付したため、井戸もSKと表記している。

２）遺物番号は、調査年度ごとに通し番号を付した。実測図版の番号と写真図版の番号は、共通している。写真のみ掲載したものは、実測図版番号に続けて番号を付した。木製品と金属製品については、年度ごとに分けていないので、番号の後に年度を記した。

３）土器実測図の断面は、須恵器・珠洲を除いて白抜きである。赤彩、内面黒色、油煙、炭化物、漆の付着は、スクリーントーンで示した。

４）本書で示す方位はすべて磁北で、水平基準は海抜高である。

５）引用・参考文献は、著者と発行年（西暦）を［　］で文中に示し、巻末に一括して掲載した。

６）遺構図版の縮尺は、原則として1/80としたが、他に1/20と1/40のものがある。土層については1/20と1/60としたものがある。土器図版の縮尺は、原則として1/3とし、1/2～1/8のものがある。金属器は1/1とした。木器については、原則として1/4としたが、一部1/2～1/5のものがある。

７）遺物・写真図版については、土器は原則として1/3とし、ほかに1/2と1/4がある。銭貨は1/1、石器は1/2である。木器は原則として1/2とし、ほかに1/3と1/4がある。

8．出土遺物と調査に関する資料はすべて小矢部ふるさと歴史館が保管している。遺物の注記は、桜町遺跡を示す「SM」に出土地区名（産田SAN、中出ND）・出土地点等を併記した。また、本書に掲載した遺物は、図版毎にコンテナに入れ収蔵してある。

9．発掘調査中および報告書作成中、下記の方々・機関から多大な御教示・御協力を得た。記して深甚なる謝意を表したい。（敬称略、五十音順）

赤羽仁諭・飯島泰男・池野正男・上野　章・宇野隆夫・奥野清一・狩野　睦・岸本雅敏・北野博司・久宝敏雄・酒井重洋・渋谷六一・神保孝造・鈴木三男・竹村利夫・西井龍儀・能城修一・橋本　正・長谷川益夫・松村恵司・水野和雄・宮田進一・宮本哲郎・邑本順亮・山川　勉・山田昌久・吉井亮一・和田晴吾

# 目　　次

第Ⅰ章　位置と環境 …… 1
遺跡の位置 …… 1
歴史的環境 …… 1
第Ⅱ章　調査に至る経緯 …… 3
第Ⅲ章　調査の概要 …… 9
第Ⅳ章　遺構・遺物 ……11
1　1984年度調査区（産田地区）……11
A．概要 ……11
B．弥生時代 ……11
C．飛鳥時代 ……11
D．奈良時代 ……12
E．平安時代 ……13
F．中世・近世 ……13
2　1985年度調査区（産田地区）……14
A．概要 ……14
B．弥生時代 ……14
C．古墳時代 ……14
D．飛鳥時代 ……14
E．奈良時代 ……15
F．平安時代 ……16
G．中世・近世 ……17
3　1986年度調査区（中出地区）……17
A．概要 ……17
B．古墳時代 ……17
C．飛鳥時代 ……17
D．奈良時代 ……18
E．平安時代 ……18
F．中世・近世 ……18
4　1987年度調査区（中出地区）……19
A．概要 ……19
B．弥生・古墳時代 ……19
C．飛鳥時代 ……20

D．奈良時代 ……20
E．平安時代 ……21
F．中世・近世 ……24
第Ⅴ章　まとめ ……25
参考文献 ……28

付載　桜町遺跡の自然科学分析（板東・産田・中出地区） ……31
パリノ・サーヴェイ株式会社

# 図　版　目　次

## 巻首図版

巻首図版１　調査区全景（東上空から）
巻首図版２　上：1984年度調査区　SB18・22付近
　　下：1985年度調査区　SB17・18付近
巻首図版３　上：1987年度調査区　SD11
　　下：和同開珎と帯金具
巻首図版４　墨書土器

## 図版

第１図　遺跡位置図 …… 2
第２図　調査箇所位置図 …… 4
第３図　基本土層図 ……10
第４図　遺跡の時代 ……25
第５図　古代遺構変遷図 ……29
第６図　1984年度調査区遺構図⑴掘立柱建物 ……91
第７図　1984年度調査区遺構図⑵掘立柱建物 ……92
第８図　1984年度調査区遺構図⑶掘立柱建物 ……93
第９図　1984年度調査区遺構図⑷掘立柱建物 ……94
第10図　1984年度調査区遺構図⑸掘立柱建物 ……95
第11図　1984年度調査区遺構図⑹掘立柱建物 ……96
第12図　1984年度調査区遺構図⑺掘立柱建物 ……97
第13図　1984年度調査区遺構図⑻掘立柱建物 ……98
第14図　1984年度調査区遺構図⑼掘立柱建物 ……99

第15図　1984年度調査区遺構図⑽掘立柱建物 ……100
第16図　1984年度調査区遺構図⑾掘立柱建物 ……101
第17図　1984年度調査区遺構図⑿掘立柱建物 ……102
第18図　1984年度調査区遺構図⒀掘立柱建物 ……103
第19図　1984年度調査区遺構図⒁掘立柱建物 ……104
第20図　1984年度調査区遺構図⒂掘立柱建物 ……105
第21図　1984年度調査区遺構図⒃掘立柱建物 ……106
第22図　1984年度調査区遺構図⒄掘立柱建物 ……107
第23図　1984年度調査区遺構図⒅掘立柱建物 ……108
第24図　1984年度調査区遺構図⒆掘立柱建物 ……109
第25図　1984年度調査区遺構図⒇掘立柱建物 ……110
第26図　1984年度調査区遺構図(21)土坑 ……111
第27図　1984～1987年度調査区遺構図(22)土層 ……112
第28図　1985年度調査区遺構図⑴掘立柱建物 ……113
第29図　1985年度調査区遺構図⑵掘立柱建物 ……114
第30図　1985年度調査区遺構図⑶掘立柱建物 ……115
第31図　1985年度調査区遺構図⑷掘立柱建物 ……116
第32図　1985年度調査区遺構図⑸掘立柱建物 ……117
第33図　1985年度調査区遺構図⑹掘立柱建物 ……118
第34図　1985年度調査区遺構図⑺掘立柱建物 ……119
第35図　1985年度調査区遺構図⑻掘立柱建物 ……120
第36図　1985年度調査区遺構図⑼掘立柱建物 ……121
第37図　1985年度調査区遺構図⑽掘立柱建物 ……122
第38図　1985年度調査区遺構図⑾掘立柱建物 ……123
第39図　1985年度調査区遺構図⑿掘立柱建物 ……124
第40図　1985年度調査区遺構図⒀掘立柱建物 ……125
第41図　1985年度調査区遺構図⒁掘立柱建物 ……126
第42図　1985年度調査区遺構図⒂柵 ……127
第43図　1985年度調査区遺構図⒃土坑 ……128
第44図　1985年度調査区遺構図⒄土坑・井戸 ……129
第45図　1986年度調査区遺構図⑴掘立柱建物 ……130
第46図　1986年度調査区遺構図⑵掘立柱建物 ……131
第47図　1986年度調査区遺構図⑶掘立柱建物 ……132
第48図　1987年度調査区遺構図⑴掘立柱建物 ……133
第49図　1987年度調査区遺構図⑵掘立柱建物 ……134

第50図　1987年度調査区遺構図⑶掘立柱建物 ……135
第51図　1987年度調査区遺構図⑷掘立柱建物 ……136
第52図　1987年度調査区遺構図⑸掘立柱建物 ……137
第53図　1987年度調査区遺構図⑹掘立柱建物 ……138
第54図　1987年度調査区遺構図⑺掘立柱建物 ……139
第55図　1987年度調査区遺構図⑻土坑 ……140
第56図　1987年度調査区遺構図⑼溝・杭列 SD−11 ……141・142
第57図　1984年度調査区遺物図⑴弥生土器・須恵器・土師器・製塩土器 ……143
第58図　1984年度調査区遺物図⑵土師器・土錘 ……144
第59図　1984年度調査区遺物図⑶須恵器　ヘラ書き土器……145
第60図　1984年度調査区遺物図⑷須恵器・土師器・製塩土器・支脚・土錘 ……146
第61図　1984年度調査区遺物図⑸須恵器 ……147
第62図　1984年度調査区遺物図⑹須恵器 ……148
第63図　1984年度調査区遺物図⑺須恵器・珠洲 ……149
第64図　1984年度調査区遺物図⑻珠洲・土師皿・瀬戸美濃・青磁・唐津・越中瀬戸 ……150
第65図　1984年度調査区遺物図⑼土錘・耳環 ……151
第66図　1985年度調査区遺物図⑴弥生土器 ……152
第67図　1985年度調査区遺物図⑵弥生土器・土師器 ……153
第68図　1985年度調査区遺物図⑶弥生土器・土師器 ……154
第69図　1985年度調査区遺物図⑷土師器 ……155
第70図　1985年度調査区遺物図⑸土師器・須恵器 ……156
第71図　1985年度調査区遺物図⑹須恵器 ……157
第72図　1985年度調査区遺物図⑺遺構　須恵器・土師器……158
第73図　1985年度調査区遺物図⑻遺構　須恵器・土師器……159
第74図　1985年度調査区遺物図⑼須恵器 ……160
第75図　1985年度調査区遺物図⑽須恵器 ……161
第76図　1985年度調査区遺物図⑾須恵器 ……162
第77図　1985年度調査区遺物図⑿須恵器・ヘラ書き土器・墨書土器・漆書土器・円面硯 ……163
第78図　1985年度調査区遺物図⒀須恵器 ……164
第79図　1985年度調査区遺物図⒁須恵器 ……165
第80図　1985年度調査区遺物図⒂須恵器 ……166
第81図　1985年度調査区遺物図⒃須恵器 ……167
第82図　1985年度調査区遺物図⒄須恵器 ……168
第83図　1985年度調査区遺物図⒅須恵器 ……169
第84図　1985年度調査区遺物図⒆須恵器 ……170

第85図　1985年度調査区遺物図⑳須恵器 ……171
第86図　1985年度調査区遺物図㉑土師器　赤彩土器・黒色土器 ……172
第87図　1985年度調査区遺物図㉒土師器 ……173
第88図　1985年度調査区遺物図㉓製塩土器・土錘・珠洲・青磁・白磁・瀬戸美濃・唐津・
越中瀬戸・土師器 ……174
第89図　1985年度調査区遺物図㉔土錘・土馬 ……175
第90図　1986年度調査区遺物図⑴須恵器 ……176
第91図　1986年度調査区遺物図⑵須恵器 ……177
第92図　1986年度調査区遺物図⑶須恵器・土師器 ……178
第93図　1986年度調査区遺物図⑷土師器・製塩土器 ……179
第94図　1986年度調査区遺物図⑸須恵器 ……180
第95図　1986年度調査区遺物図⑹須恵器 ……181
第96図　1986年度調査区遺物図⑺須恵器 ……182
第97図　1986年度調査区遺物図⑻須恵器 ……183
第98図　1986年度調査区遺物図⑼須恵器 ……184
第99図　1986年度調査区遺物図⑽須恵器 ……185
第100図　1986年度調査区遺物図⑾須恵器・土師器 ……186
第101図　1986年度調査区遺物図⑿須恵器・土師器 ……187
第102図　1986年度調査区遺物図⒀須恵器 ……188
第103図　1986年度調査区遺物図⒁須恵器・墨書土器 ……189
第104図　1986年度調査区遺物図⒂土師器　赤彩土器・黒色土器 ……190
第105図　1986年度調査区遺物図⒃土師器 ……191
第106図　1986年度調査区遺物図⒄土錘・支脚・管玉 ……192
第107図　1987年度調査区遺物図⑴弥生土器・土師器 ……193
第108図　1987年度調査区遺物図⑵弥生土器・土師器 ……194
第109図　1987年度調査区遺物図⑶弥生土器・土師器 ……195
第110図　1987年度調査区遺物図⑷土師器 ……196
第111図　1987年度調査区遺物図⑸土師器 ……197
第112図　1987年度調査区遺物図⑹土師器 ……198
第113図　1987年度調査区遺物図⑺土師器 ……199
第114図　1987年度調査区遺物図⑻須恵器・土師器 ……200
第115図　1987年度調査区遺物図⑼須恵器・土師器 ……201
第116図　1987年度調査区遺物図⑽須恵器 ……202
第117図　1987年度調査区遺物図⑾須恵器 ……203
第118図　1987年度調査区遺物図⑿須恵器 ……204

第119図　1987年度調査区遺物図⑬須恵器 ……205
第120図　1987年度調査区遺物図⑭須恵器 ……206
第121図　1987年度調査区遺物図⑮須恵器 ……207
第122図　1987年度調査区遺物図⑯須恵器　墨書土器 ……208
第123図　1987年度調査区遺物図⑰須恵器　ヘラ書き土器 ……209
第124図　1987年度調査区遺物図⑱須恵器　ヘラ書き土器・漆書土器・漆容器 ……210
第125図　1987年度調査区遺物図⑲土師器　赤彩土器・黒色土器 ……211
第126図　1987年度調査区遺物図⑳土師器　黒色土器 ……212
第127図　1987年度調査区遺物図㉑須恵器 ……213
第128図　1987年度調査区遺物図㉒須恵器 ……214
第129図　1987年度調査区遺物図㉓須恵器 ……215
第130図　1987年度調査区遺物図㉔須恵器 ……216
第131図　1987年度調査区遺物図㉕須恵器 ……217
第132図　1987年度調査区遺物図㉖須恵器 ……218
第133図　1987年度調査区遺物図㉗須恵器 ……219
第134図　1987年度調査区遺物図㉘須恵器・土師器 ……220
第135図　1987年度調査区遺物図㉙須恵器・土師器 ……221
第136図　1987年度調査区遺物図㉚土師器 ……222
第137図　1987年度調査区遺物図㉛土錘・陶錘・紡錘車 ……223
第138図　1985・1987年度調査区遺物図㉜和同開珎・帯金具 ……224
第139図　1986・1987年度調査区遺物図㉝桶・漆器椀・棒ほか ……225
第140図　1986・1987年度調査区遺物図㉞編板・下駄 ……226
第141図　1987年度調査区遺物図㉟板・棒・鞘 ……227
第142図　1987年度調査区遺物図㊱木簡・斎串・板 ……228
第143図　1985・1987年度調査区遺物図㊲漆掻き木・板・杭 ……229
第144図　1987年度調査区遺物図㊳杭 ……230
第145図　1987年度調査区遺物図㊴杭・柱 ……231
第146図　1987年度調査区遺物図㊵棒・板 ……232
第147図　1984年度調査区遺物図⑩柱 ……233
第148図　1984年度調査区遺物図⑪柱 ……234
第149図　1984年度調査区遺物図⑫柱 ……235
第150図　1984年度調査区遺物図⑬柱 ……236
第151図　1985・1986年度調査区遺物図㉕柱 ……237

## 表


表1-1　調査の経過(1) ……5
表1-2　調査の経過(2) ……6
表1-3　調査の経過(3) ……7
表1-4　調査の経過(4) ……8
表2　墨書種類一覧……23
表3　時期区分……30
表4-1　1984年度掘立柱建物一覧表(1)……43
表4-2　1984年度掘立柱建物一覧表(2)……44
表5-1　1985年度掘立柱建物一覧表(1)……44
表5-2　1985年度掘立柱建物一覧表(2)……45
表6　1986年度掘立柱建物一覧表……45
表7-1　1987年度掘立柱建物一覧表(1)……45
表7-2　1987年度掘立柱建物一覧表(2)……46
表8　1986年度調査区遺物取り上げ区割…46
表9　1987年度調査区遺物取り上げ区割…46
表10-1　1984年度遺物一覧表(1)……47
表10-2　1984年度遺物一覧表(2)……48
表10-3　1984年度遺物一覧表(3)……49
表10-4　1984年度遺物一覧表(4)……50
表10-5　1984年度遺物一覧表(5)……51
表11-1　1985年度遺物一覧表(1)……51
表11-2　1985年度遺物一覧表(2)……52
表11-3　1985年度遺物一覧表(3)……53
表11-4　1985年度遺物一覧表(4)……54
表11-5　1985年度遺物一覧表(5)……55
表11-6　1985年度遺物一覧表(6)……56
表11-7　1985年度遺物一覧表(7)……57
表11-8　1985年度遺物一覧表(8)……58
表11-9　1985年度遺物一覧表(9)……59
表11-10　1985年度遺物一覧表(10)……60
表11-11　1985年度遺物一覧表(11)……61
表12-1　1986年度遺物一覧表(1)……61
表12-2　1986年度遺物一覧表(2)……62
表12-3　1986年度遺物一覧表(3)……63
表12-4　1986年度遺物一覧表(4)……64
表12-5　1986年度遺物一覧表(5)……65
表12-6　1986年度遺物一覧表(6)……66
表12-7　1986年度遺物一覧表(7)……67
表12-8　1986年度遺物一覧表(8)……68
表12-9　1986年度遺物一覧表(9)……69
表13-1　1987年度遺物一覧表(1)……69
表13-2　1987年度遺物一覧表(2)……70
表13-3　1987年度遺物一覧表(3)……71
表13-4　1987年度遺物一覧表(4)……72
表13-5　1987年度遺物一覧表(5)……73
表13-6　1987年度遺物一覧表(6)……74
表13-7　1987年度遺物一覧表(7)……75
表13-8　1987年度遺物一覧表(8)……76
表13-9　1987年度遺物一覧表(9)……77
表13-10　1987年度遺物一覧表(10)……78
表13-11　1987年度遺物一覧表(11)……79
表13-12　1987年度遺物一覧表(12)……80
表13-13　1987年度遺物一覧表(13)……81
表13-14　1987年度遺物一覧表(14)……82
表13-15　1987年度遺物一覧表(15)……83
表13-16　1987年度遺物一覧表(16)……84
表13-17　1987年度遺物一覧表(17)……85
表13-18　1987年度遺物一覧表(18)……86
表13-19　1987年度遺物一覧表(19)……87
表13-20　1987年度遺物一覧表(20)……88
表13-21　1987年度遺物一覧表(21)……89
表13-22　1987年度遺物一覧表(22)……90


## 付図


付図1　1984～1987年度調査区遺構全体図
付図2　1984年度調査区遺構全体図
付図3　1985～1987年度調査区遺構全体図
付図4　1987年度調査区 SD11遺構

# 報告書抄録

| | |
|---|---|
| ふりがな | さくらまちいせきはっくつちょうさほうこくしょ |
| 書名 | 桜町遺跡発掘調査報告書 |
| 副書名 | 弥生・古墳・古代・中世編 |
| 巻次 | Ⅰ |
| シリーズ名 | 小矢部市埋蔵文化財調査報告書 |
| シリーズ番号 | 第51冊 |
| 編著者名 | 久々忠義　　塚田一成 |
| 編集機関 | 小矢部市教育委員会 |
| 所在地 | 〒932-8611　富山県小矢部市本町１番１号 |
| 発行年月日 | 西暦2003年３月31日 |

| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所在地 | コード<br>市町村 | コード<br>遺跡番号 | 北緯<br>°′″ | 東経<br>°′″ | 調査期間 | 調査面積<br>m² | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 桜町（さくらまち） | 小矢部市（おやべし）産田（さんでん）・中出（なかで） | 16209 | 209021 | 36°<br>41′<br>00″ | 136°<br>52′<br>40″ | 19840508～19841122<br>19850522～19851219<br>19860709～19861210<br>19870520～19871110 | 7000<br>4000<br>2000<br>3500 | 道路（国道８号小矢部バイパス）建設に伴う事前調査 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 桜町 | 集落跡 | 弥生時代中期・後期・終末期 | 中期の溝１ | 弥生土器 | |
| | | 古墳時代初期・前期・中期・後期 | 前期の井戸１ | 土師器・須恵器・紡錘車・管玉 | |
| | | 飛鳥時代前期・中期・後期 | 掘立柱建物26<br>土坑６・溝１ | 土師器・須恵器・耳環・製塩土器・支脚・土錘・陶錘・ヘラ書き土器・漆容器・柱根 | |
| | | 奈良時代前期・中期・後期 | 掘立柱建物46<br>竪穴住居6・溝7<br>土坑２ | 土師器・須恵器・和同開珎・円面硯・土錘・ヘラ書き土器・漆容器・墨書土器・灯明皿・鉄滓・炉壁・編板・鞘・柱根・礎板・モモ・クルミ | |
| | | 平安時代前期 | 掘立柱建物11<br>道路１・柱穴１・溝２<br>杭列１・土坑１ | 土師器・須恵器・製塩土器・土馬・円面硯・墨書土器・杯蓋硯・土錘・ヘラ書き土器・漆容器・灯明皿・木簡・帯金具・斎串・下駄・箸・ひょうたん・板 | 木簡や「長岡神祝」などの墨書土器が出土。 |
| | | 中世・近世 | 掘立柱建物４<br>土坑１・畠６・柵５ | 珠洲・土師皿・青磁・白磁・瀬戸美濃・越前・銭貨・越中瀬戸・唐津・土人形・漆椀・下駄・桶・杓子・かんざし・キセル・漆掻きの木 | |

# 第Ⅰ章　位置と環境

**遺跡の位置**（第１図）

桜町遺跡は、富山県小矢部市桜町、西中野に所在する。小矢部市は、富山県の西端中央に位置し、石川県に隣接する。市内中央をJR北陸線が通り、石動駅がある。南部には北陸自動車道が東西に走り、西部には能越自動車道が南北に走っており、両道は市内南東部で交差する。

市域の地形は、北・西・南の三方が山地、東が平地、中央部が台地となっている。山地は、北に市内最高所である稲葉山（標高347m）、西に三国山（標高323m）や倶利伽羅峠（標高276m）がある石動丘陵、南に蟹谷丘陵（標高199m）がある。東側は、庄川の堆積作用によって形成された砺波平野が広がる。砺波平野は、田園のなかに屋敷が点在する散居村の景観で知られている。中央の台地は、庄川と小矢部川が形成した河岸段丘である。小矢部川は、川幅が50～100mで、段丘と平地の境を南から北へ蛇行しながら流れ、市街地南部で石動・蟹谷丘陵から流れ出す渋江川が合流し、市街地北部では、宝達山系の丘陵から流れ出す子撫川が合流する。

桜町遺跡は、小矢部川と子撫川の合流部西側にあり、市街地と子撫川の間の水田地帯に立地する。遺跡は、東西約１㎞南北800m面積約60万㎡と推計されている。標高は、丘陵下の北側で約30m、丘陵下の南側で約26m、小矢部側付近の北東部で約23mを測り、北西部から北東部へ傾斜している。遺跡の北側を画する子撫川は、現在の川底との比高差が約５m、その両岸には、比高差約４mの旧川床面がある。（注１）

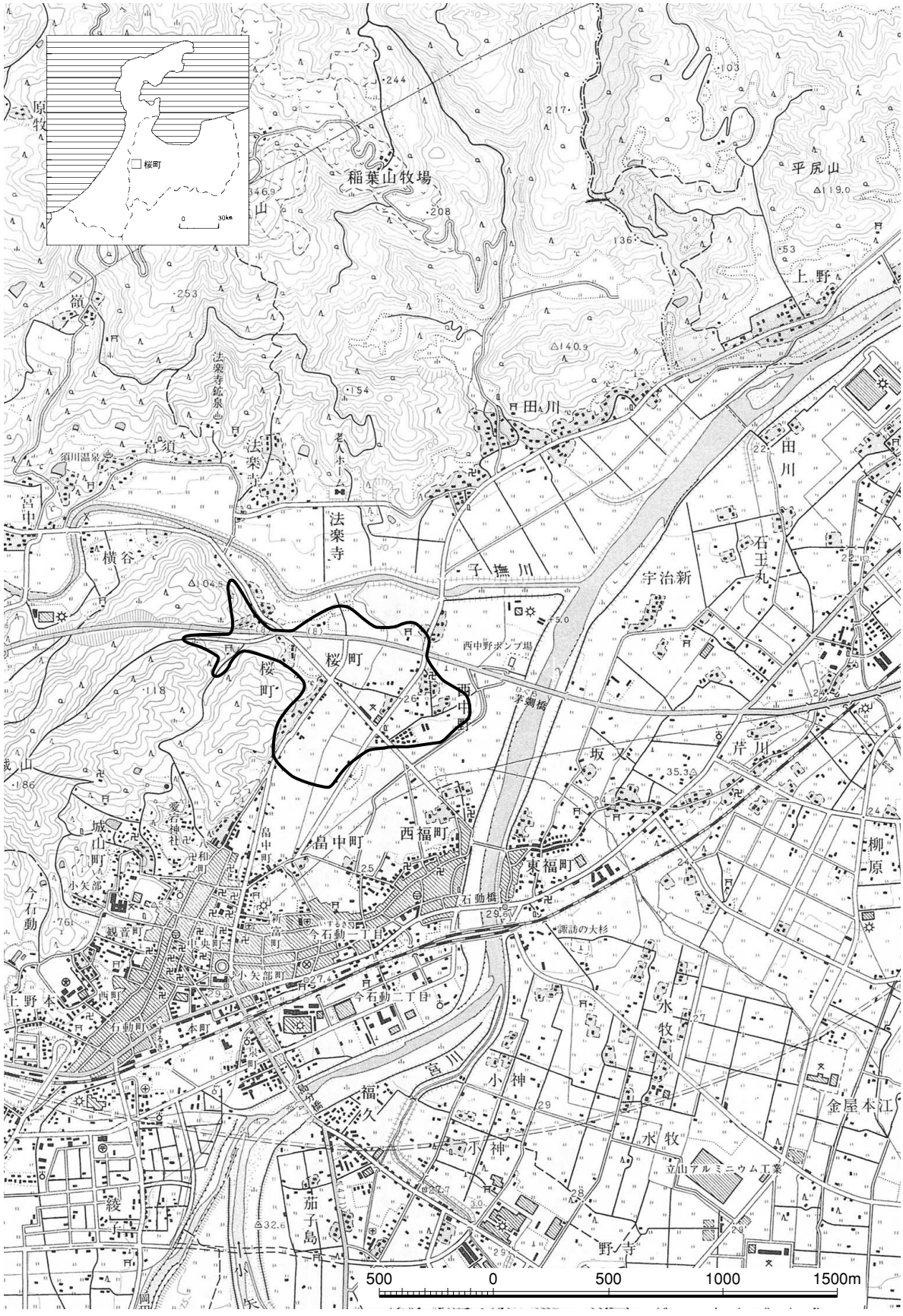
**歴史的環境**

小矢部市街地である石動は、天正13年（1585）前田利秀が開いた城下町である。利秀死去により今石動城が廃された後は、北陸街道の宿場町として発展してきた。中世は、遺跡の南約４㎞にある蓮沼が、砺波郡の軍事・交通の拠点であった。室町時代には、砺波郡守護代遊佐氏の居城があり、蓮沼と放生津を往来する舟運がさかんであった。

蓮沼の周辺は、古墳時代、古代においても砺波郡の中心地であった。蓮沼の西方丘陵地には、関野１号墳や若宮古墳などの大型古墳があり、大伴家持が「焼太刀を砺波の関に明日よりは守部遣り添え君を留めむ」と詠んだ砺波関が、倶利伽羅峠下の石坂字関野あたりに想定されている。古代北陸道は、加賀の深見駅（津幡町）からここに至り、丘陵沿いに伏木方面へ向かうものと考えられている。越中最初の駅「坂本駅」を、ここあるいは桜町遺跡付近に想定する説がある。

桜町遺跡の周辺には、西側の丘陵上には、弥生終末期か古墳前期と見られる天狗山古墳群、北西の丘陵斜面には飛鳥時代の桜町横穴墓群が残されている［小矢部市2003］。

注１）桜町（さくらまち）の地名の由来については、よくわからないが、山麓の地形と関係があると思われる。「さく」は、山の裂け目、谷間を意味する古代地名であり、「まち」は谷あるいは区画された田を意味するといわれる。同様に、その小字である産田（さんでん）には荒廃した農地、中出（なかで）には山などの間といった意味があるという［楠原・溝手1983］。




第1図　遺跡位置図(1：25,000)

# 第Ⅱ章　調査に至る経緯

**遺跡の発見**

桜町遺跡は、1971年（昭和46）に富山県教育委員会が国庫補助を受けて実施した分布調査事業で発見された。西井龍儀氏が、桜町地内で土師器や須恵器が散布していることを発見し、『富山県遺跡地図』（1972年刊）に、桜町A遺跡と桜町B遺跡の２ヶ所が登載された。

**詳細分布調査**

1977年（昭和52）に、国道８号線の混雑解消のため、桜町および西中野地内にバイパスが建設されることが決定された。一方、小矢部市教育委員会は、1979年（昭和54）から国庫補助を受けて遺跡分布調査事業を実施することになった。調査は、富山大学人文学部考古学研究室の協力を得て小矢部市埋蔵文化財分布調査団を結成し、５ヶ年にわたって行うことになったが、国道８号バイパスの建設計画があることから、初年度はその地域を対象に行われた。

その結果、桜町A遺跡と桜町B遺跡の周辺にも遺物の散布が確認され、採集遺物から、奈良・平安時代と中世の集落跡が埋もれていることが推測された［市教委1980A］。さらに、1983年（昭和58）には、西側の谷の中から縄文土器が採集され、縄文時代の遺跡でもあることが確認された。また、1993年（平成５）に『富山県埋蔵文化財包蔵地地図』が作成された際、その地割りから、遺跡の範囲と重複して、また遺跡の東南へ張り出す形で桜町条里遺跡が設定されている［県教委1993］。

**試掘調査**

桜町遺跡にかかる国道８号バイパスの建設は、東側から進められた。そのため、1980年（昭和55）に、西中野の古苗代地区・鷲場地区・小三昧前地区の試掘調査が行われた。調査方法は、道路幅約40mの間に７mまたは17mの間隔をおいて、幅３mのトレンチを連続的に掘り進めて、遺構および遺物の遺存状況を確認する方法で行われた［市教委1980B］。

その後、1982年（昭和57）に西中野の板東地区と桜町の産田地区で、1983年（昭和58）に桜町の産田地区・中出地区で、試掘調査が行われた。これらの調査では、10m四方のうちに幅２m長さ５mのトレンチを１ヶ所ずつ合計130ヶ所を掘削する方法で行われた［市教委1983A］。

**本調査**（第２図・表１）

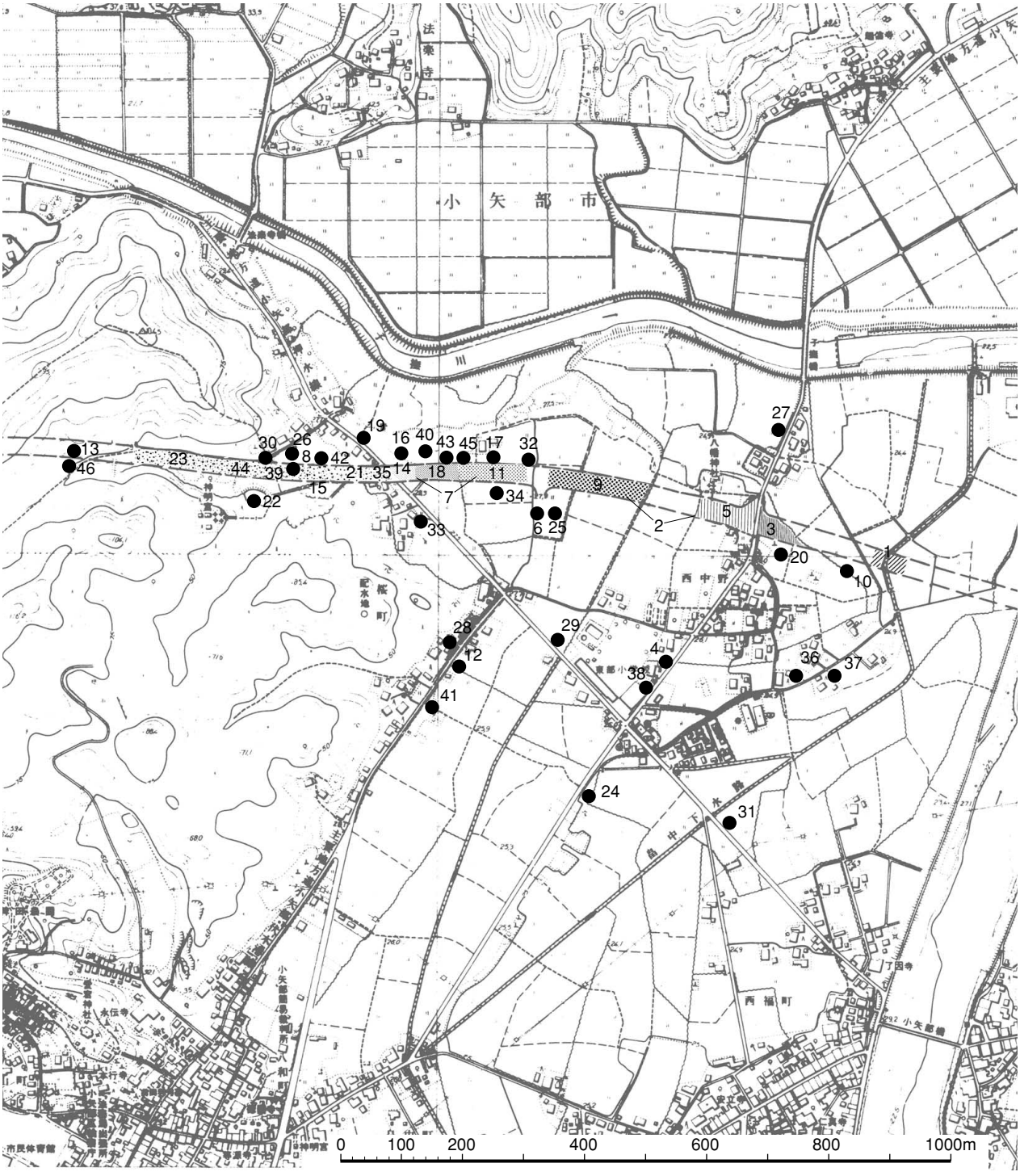
試掘調査の結果、試掘対象面積47,000㎡のうちその４割近い18,008㎡で本調査が必要となった。

本調査は、1981年（昭和56）に古苗代・鷲場地区で行われ、江戸時代中期の水路の中から漆椀・箸・桶・櫛・下駄などの木製品が多数出土し、今石動町の庶民生活の一端があきらかとなった［市教委1982］。1982年（昭和57）は小三昧前地区で行われ、古代の掘立柱建物５棟や畦畔状遺構が発掘された。1983年（昭和58）には板東地区で行われ、古代と中世の掘立柱建物15棟、井戸14基、柵、溝、土坑が発掘された［市教委1983B・1986］。

さらには、本書に収録している、1984・1985年（昭和59・60）の産田地区の調査［市教委1985］、

1986・1987年（昭和61・62）の中出地区の調査が行われた。

国道８号バイパスに伴う発掘調査は、1988年（昭和63）から舟岡地区の調査にかかっており、2003年現在も継続中である。桜町遺跡の発掘調査は、そのほかにも、県道改良や個人住宅の建設、遺跡の範囲確認などに関連して行われている。これまでの調査について、第２図に調査地点を印し、表１にその概要を記す。




第２図　調査箇所位置図（1：10,000）

**表１－１　調査の経過(1)**

| 地区番号 | 年度 | 所　在　地 | 調査目的・調査面積 | 時 代 ・ 特 記 事 項 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 1980年<br>昭和55 | 西中野字古苗代<br>西中野字鷲場<br>西中野字小三昧前 | 国道８号小矢部バイパス<br>建設に伴う試掘調査<br>対象面積　16,000㎡ | 奈良後半・室町後半 |
| 1 | 1981年<br>昭和56 | 西中野字古苗代<br>西中野字鷲場 | 国道８号小矢部バイパス<br>建設に伴う本調査<br>発掘面積　1,400㎡ | 江戸後半<br>漆器や下駄など木製品が多数出土。 |
| 2 | 1982年<br>昭和57 | 西中野字板東<br>桜町字産田 | 国道８号小矢部バイパス<br>建設に伴う試掘調査<br>対象面積　14,000㎡ | 飛鳥・奈良・中世・江戸 |
| 3 | | 西中野字小三昧前 | 国道８号小矢部バイパス<br>建設に伴う本調査<br>発掘面積　2,500㎡ | 弥生終末・奈良・中世・江戸<br>畦畔状遺構 |
| 4 | | 桜町字産田 | 小矢部伏木港線建設に伴う試掘調査<br>対象面積　2,900㎡ | 古代・中世 |
| 4 | | 桜町字産田 | 小矢部伏木港線建設に伴う本調査<br>発掘面積　1,735㎡ | 縄文・弥生終末・古墳・飛鳥・奈良・中世 |
| 5 | 1983年<br>昭和58 | 西中野字板東<br>BAN | 国道８号小矢部バイパス<br>建設に伴う本調査<br>発掘面積　4,500㎡ | 古墳・飛鳥・奈良・平安・中世<br>鎌倉時代の建物・井戸 |
| 6 | | 桜町字産田 | 城山都市下水路建設に伴う本調査<br>発掘面積　360㎡ | 飛鳥・奈良・平安・中世 |
| 7 | | 桜町字産田<br>桜町中出 | 国道８号小矢部バイパス<br>建設に伴う試掘調査<br>対象面積　10,000㎡ | 縄文・古代 |
| 8 | | 桜町字舟岡<br>FO | 用水管埋設<br>本調査<br>発掘面積　100㎡ | 縄文<br>縄文晩期の土器群 |
| 9 | 1984年<br>昭和59 | 桜町字産田<br>SAM | 国道８号小矢部バイパス<br>建設に伴う試掘調査<br>発掘面積　7,000㎡ | 弥生中期・飛鳥・奈良・平安・中世・近世<br>飛鳥・奈良時代の建物群 |
| 10 | | 西中野字込角<br>KK | 国道８号小矢部バイパス<br>地下ボックス建設に伴う本調査<br>発掘面積　108㎡ | 近代 |
| 11 | 1985年<br>昭和60 | 桜町字産田 | 国道８号小矢部バイパス<br>建設に伴う本調査<br>発掘面積　4,000㎡ | 弥生後期・弥生終末期・古墳・飛鳥・奈良・平安・中世・近世<br>和同開珎 |
| 12 | | 桜町字雀谷 | 小矢部伏木港線道路改良工事に伴う本調査<br>発掘面積　530㎡ | 縄文・古墳前期・奈良・平安・中世 |
| 13 | | 桜町字舟岡 | 国道８号小矢部バイパス<br>建設に伴う試掘調査<br>発掘面積　100㎡ | 縄文晩期 |
| 15 | | 桜町字舟岡 | 国道８号小矢部バイパス<br>建設に伴う試掘調査<br>発掘面積　200㎡ | 古代 |

**表１－２　調査の経過(2)**

| 地区番号 | 年度 | 所　在　地 | 調査目的・調査面積 | 時代・特記事項 |
|---|---|---|---|---|
| 14 | 1986年<br>昭和61 | 桜町字中出<br>ND | 国道８号小矢部バイパス建設に伴う本調査<br>発掘面積　2,000㎡ | 縄文・古墳・飛鳥・奈良・平安・中世・近世<br>中世末の建物 |
| 15 | | 桜町字舟岡 | 国道８号小矢部バイパス建設に伴う試掘調査<br>発掘面積　500㎡ | 縄文（前期・中期・後期・晩期） |
| 12 | | 桜町字雀谷 | 小矢部伏木港線道路改良工事に伴う本調査<br>発掘面積　530㎡ | 縄文（後期後葉・晩期）・弥生終末・古墳前期・奈良・平安 |
| 16 | | 桜町字中出 | 個人住宅建設に伴う本調査<br>発掘面積　130㎡ | 縄文中期・弥生終末・古墳飛鳥・奈良・平安・中世 |
| 17 | | 桜町字板東 | 農作業小屋及び車庫建設に伴う本調査<br>発掘面積　200㎡ | 古代・中世 |
| 18 | 1987年<br>昭和62 | 桜町字中出 | 国道８号小矢部バイパス建設に伴う本調査<br>発掘面積　3,500㎡ | 縄文・弥生・古墳・飛鳥・奈良・平安・中世・近世<br>木簡や「長岡神祝」などの墨書土器 |
| 19 | | 桜町字深沢 | 小矢部押水線道路改良工事に伴う試掘調査<br>対象面積　2,000㎡ | 縄文(中期・後期・晩期)・弥生・古墳・平安・中世・江戸 |
| 20 | | 桜町字小三昧前 | 個人住宅建設に伴う試掘調査<br>対象面積　50㎡ | 古代 |
| 21 | 1988年<br>昭和63 | 桜町字舟岡 | 国道８号小矢部バイパス建設に伴う本調査<br>発掘面積　2,600㎡ | 縄文（中期・後期・晩期）<br>平安・中世<br>縄文後期初頭の建築部材 |
| 19 | | 桜町字深沢 | 小矢部押水線道路改良工事に伴う本調査<br>発掘面積　400㎡ | 縄文(中期・後期・晩期)・奈良・平安・鎌倉・室町・江戸 |
| 21 | 1989年<br>平成元 | 桜町字舟岡 | 国道８号小矢部バイパス建設に伴う本調査<br>発掘面積　610㎡ | 縄文（前期・中期） |
| 22 | | 桜町字舟岡・蟹坪 | 重要遺跡確認緊急調査事業に伴う試掘調査<br>発掘面積　550㎡ | 縄文(前期・後期・晩期)・弥生終末・古墳・中世 |
| 23 | 1990年<br>平成２ | 桜町字舟岡 | 国道８号小矢部バイパス建設に伴う試掘調査<br>対象面積　2,000㎡ | 縄文（晩期）・古墳・平安<br>縄文晩期の土器棺墓 |
| 24 | 1991年<br>平成３ | 桜町字池田 | 個人住宅建設に伴う試掘調査<br>対象面積　491㎡ | 近世 |
| 25 | 1993年<br>平成５ | 桜町字産田<br>（桜町条里） | ガソリンスタンド建設に伴う試掘調査<br>対象面積　1,613㎡ | 古代・中世<br>古代道路遺構 |
| 25 | | 桜町字産田<br>（桜町条里） | ガソリンスタンド建設に伴う本調査<br>発掘面積　1,613㎡ | 飛鳥・奈良・室町 |

**表１－３　調査の経過(3)**

| 地区番号 | 年度 | 所　在　地 | 調査目的・調査面積 | 時 代 ・ 特 記 事 項 |
|---|---|---|---|---|
| 26 | 1993年<br>平成５ | 桜町字舟岡 | 農機具・資材庫建設に伴う試掘調査<br>対象面積　79㎡ | 縄文後期・中世 |
| 27 | | 桜町<br>（桜町条里） | 県道改良工事に先立つ試掘調査<br>対象面積　700㎡ | 縄文・古代 |
| 28 | | 桜町字狐谷 | 住宅建設に伴う試掘調査<br>対象面積　366㎡ | なし |
| 29 | | 桜町字雀谷<br>（桜町条里） | 公民館建設に伴う試掘調査<br>対象面積　1,857㎡ | 縄文 |
| 27 | | 西中野<br>（桜町条里） | 県道改良工事に先立つ試掘調査<br>対象面積　800㎡ | 古代 |
| 30 | | 桜町字舟岡 | 看板設置に伴う試掘調査<br>対象面積　１㎡ | なし |
| 31 | | 桜町字向田島<br>（桜町条里） | 車庫建設に先立つ試掘調査<br>対象面積　140㎡ | なし |
| 31 | | 桜町字向田島<br>（桜町条里） | 下水道建設に先立つ試掘調査<br>対象面積　142㎡ | なし |
| 32 | 1994年<br>平成６ | 桜町字産田 | 広告塔設置に先立つ試掘調査<br>対象面積　８㎡ | 古代・中世 |
| 33 | | 桜町 | 個人住宅建設に伴う試掘調査<br>対象面積　70㎡ | なし |
| 34 | 1995年<br>平成７ | 西中野字板東 | 誘導看板設置に先立つ試掘調査<br>対象面積　3.3㎡ | 中世 |
| 35 | 1996年<br>平成８ | 桜町字舟岡 | 国道８号小矢部バイパス建設に伴う本調査<br>発掘面積　1,655㎡ | 縄文後期・古墳・古代・中世・近世 |
| 36 | | 桜町字産田 | 駐車場造成に先立つ試掘調査<br>対象面積　544㎡ | 古代 |
| 35 | 1997年<br>平成９ | 桜町字舟岡<br>第１調査区 | 国道８号小矢部バイパス建設に伴う本調査<br>発掘面積　1,655㎡ | 縄文(中期・後期)・古代・中世・江戸<br>縄文後期初頭の大量の木材 |
| 37 | | 西中野字道窪 | 農機具格納庫建設に伴う試掘調査<br>対象面積　99㎡ | なし |
| 38 | | 西中野字下川原 | 車庫建設に先立つ試掘調査<br>対象面積　54㎡ | なし |
| 39 | 1998年<br>平成10 | 桜町字舟岡<br>第２調査区 | 国道８号小矢部バイパス建設に伴う本調査<br>発掘面積　3,000㎡ | 縄文(早期～晩期)・古墳・古代・中世<br>彫刻柱 |

**表１－４　調査の経過(4)**

| 地区番号 | 年度 | 所　在　地 | 調査目的・調査面積 | 時代・特記事項 |
|---|---|---|---|---|
| 40 | 1998年<br>平成10 | 西中野 | 宅地造成に先立つ試掘調査<br>発掘面積　318㎡ | 古墳・古代 |
| 39 | 1999年<br>平成11 | 桜町字舟岡<br>第２調査区<br>第３調査区 | 国道８号小矢部バイパス建設に伴う本調査<br>発掘面積　2,752㎡ | 縄文(中期～晩期)・古墳・古代・中世<br>縄文晩期の半割柱 |
| 41 | | 桜町字雀谷 | 事業所拡張に伴う試掘調査<br>対象面積　1,005㎡ | 古代 |
| 42 | | 桜町字舟岡 | 遺跡の範囲を把握するための試掘調査<br>対象面積　1,473㎡ | 縄文・古墳・古代・中世・江戸 |
| 43 | | 西中野字桜町前 | 宅地造成に先立つ試掘調査<br>対象面積　402㎡ | 弥生・奈良 |
| 39 | 平成12年<br>2000 | 桜町字舟岡<br>第３調査区 | 国道８号小矢部バイパス建設に伴う本調査<br>発掘面積　1,120㎡ | 縄文(後期・晩期)・古墳・平安・中世<br>環状木柱列遺構 |
| 44 | | 桜町字舟岡<br>第３調査区<br>第４調査区<br>第５調査区 | 国道８号小矢部バイパス建設に伴う試掘調査<br>対象面積　3,749㎡ | 縄文 |
| 42 | | 桜町字舟岡<br>第11調査区 | 遺跡の範囲を把握するための試掘調査<br>対象面積　211㎡ | 縄文(中期・後期・晩期)・古墳・平安・中世 |
| 45 | | 西中野字桜町前 | 個人住宅建設に先立つ試掘調査<br>対象面積　402㎡ | 弥生終末・飛鳥・奈良・中世 |
| 41 | | 桜町字雀谷 | 分譲住宅地造成に伴う試掘調査<br>対象面積　4,510㎡ | なし |
| 46 | | 桜町字地山 | 山土砂採取に伴う立会調査<br>対象面積　6,621㎡ | なし |
| 44 | 2001年<br>平成13 | 桜町字舟岡<br>第１～５調査区 | 国道８号小矢部バイパス建設に伴う試掘調査<br>対象面積　3,498㎡ | 縄文（中期・後期・晩期）<br>古代・中世・近世 |
| | | 桜町字舟岡<br>第３調査区<br>第４調査区 | 国道８号小矢部バイパス建設に伴う本調査<br>発掘面積　1,400㎡ | 縄文（中期・後期・晩期）<br>古代・中世・近世 |
| 42 | | 桜町字舟岡<br>第11調査区 | 遺跡の範囲を把握するための試掘調査<br>対象面積　1,900㎡ | 縄文中期 |
| 45 | | 西中野字桜町前 | 個人住宅の建設に先立つ試掘調査<br>対象面積　165㎡ | 弥生終末・飛鳥・奈良 |
| 33 | | 桜町字中出 | 車庫の建設に先立つ立会調査<br>対象面積　100㎡ | なし |

# 第Ⅲ章　調査の概要

**調査地の現況**

調査地は、小矢部川の支流子撫川の右岸に形成された自然堤防上に立地する。

子撫川は、富山・石川県境に位置する宝達山の東に延びる山系から流れ出し、北から南へ流路をとる。南から北へ流れる河川が多いなかで県内唯一の逆さ川として知られる。その流れは、小矢部川に合流する手前2.7㎞で東に折れ、遺跡付近ではその北側を流れる。

調査地は、現在国道８号線が建設されて自動車が通っているが、調査前は、そのほとんどが水田で、民家も数棟含まれていた。調査地は、遺跡の中では高いところにあたり、その標高は22.4～28.7m で、西側に向かって高くなっている。

**調査区の区割**（付図１、表８・９）

調査区は、1982年（昭和57）度の発掘調査から遺跡全体を覆うことができるよう市内泉町地内に任意の点を置き、南北方向を磁北に合わせたＹ軸と、それに直交する東西方向をＸ軸とする座標を設定した。Ｙ軸は南から北方向へ、Ｘ軸は西から東方向へ、20m ごとに数字を刻んでいる。

各年度の調査地は、次のとおりである。

1984（昭59）年度調査区　X68～77Y82～86　　1986（昭61）年度調査区　X55～58Y84～88

1985（昭60）年度調査区　X61～66Y84～87　　1987（昭62）年度調査区　X58～61Y84～87

なお、遺物の取り上げは、２ｍ四方を一区画とし、少数点以下に１桁目に１～９の数字で示し、その中をさらに１ｍごとに区分して取り上げた場合には、２桁目に５の数字を付した。例えば、X70.55というのは、X70とX80の間20m のうちの10m～11m の間を示している。ただし、本書遺物一覧表では、２桁目の数字を省略した。なお、1986年と1987年の調査については、10m 四方を一区画として取り上げており、表８と表９に区名を示した。

**発掘調査**

調査の諸段階としては、表土・包含層掘削、遺構検出・掘削、遺構の記録写真撮影・実測図化、空中写真測量、自然科学分析がある。

表土・包含層掘削は、人力でスコップを使った。遺構検出・掘削は、人力でジョレンやねじり鎌を使って行った。遺構番号は、調査年度毎に、遺構の種類毎に番号をつけた。遺構は、埋土の堆積状況を観察・記録するためのセクションベルトを残し、移植ゴテで発掘した。掘立柱建物の柱穴のセクションは、平面的に少しずつ下げて柱痕跡を確認したのち断ち割り図化している。

遺構のセクション図は基本的に1/20で作成した。遺構によっては、遺物の出土状況図も作成している。写真は、セクションについては基本的に35㎜カメラで、個別の完掘写真や重要な箇所についてはブローニー判カメラも併せて用いた。全景・ブロック写真は４×５インチ判カメラも用いた。フィルムは、35㎜・ブローニー判はカラーと白黒、４×５インチ判は白黒を使用した。

遺構の平面図作成には空中写真測量を利用した。撮影にはヘリコプターを使用し、10×８イン

チ判の写真で測量を行った。

自然科学分析は、花粉分析、樹種同定、骨同定、炭素14年代測定を実施した。樹種同定は、東北大学鈴木三男教授と森林総合研究所能城修一木材特性研究領域チーム長に、骨同定は、奈良文化財研究所埋蔵文化財センターの松井　章主任研究官に依頼した。花粉分析はパリノ・サーヴェイ株式会社に、炭素14年代測定は学習院大学理学部年代測定室にそれぞれ委託した。

**現地説明会**

1987年度の発掘調査で、10月18日に現地説明会を開催した。この調査では、「長岡神祝」と墨書された須恵器が出土し、『延喜式』神名帳に記載がある「長岡神社」や『和名抄』に記載がある「長岡郷」との関連が想定され、桜町遺跡が古代長岡郷にあたるものと注目を集めた。

**遺物整理・保管**

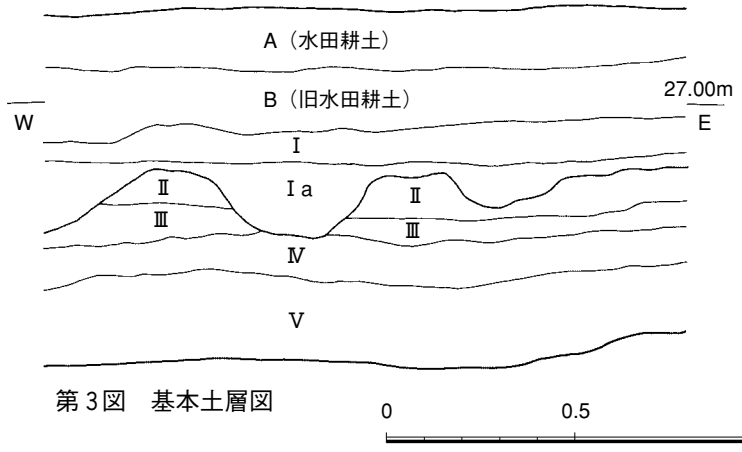
出土遺物の水洗は、現場のプレハブ事務所で行い、注記・接合・復元・実測作業は、北蟹谷小学校、津沢保育所整理室、埴生にある小矢部ふるさと歴史館桜町遺跡整理棟で行った。遺物の写真撮影は、高精度のデジタル撮影とし、アーガス．フォト．スタジオに委託した。木製品の実測は、この写真をもとに図化した。

出土品および図面・写真は、小矢部ふるさと歴史館桜町遺跡整理棟、鷲島にある桜町遺跡出土木製品管理センターで保管している。

**基本土層**（第３図）

長さ440m に及ぶ調査区であるため、堆積土層は一様ではない。1987年度調査区の土層を基本土層として第３図に示す。

地表面（水田面）から地山とするⅣ層（灰色粘土層）上面までの深さは、約60㎝である。その間は６層に区分される。上部のＡ・Ｂ２層（厚さ30㎝）は水田の耕土、その下のⅠ層は、暗褐色土で、中世の遺物を含む。Ⅰａ層は、暗灰褐色土で、炭化物を多く含み、平安時代中期の土器が含まれる。Ⅱ層は、黄白色砂質土で、飛鳥時代の遺物を含む。Ⅲ層は、暗灰色粘土で、弥生・古墳時代の遺物を含む。




第３図　基本土層図

土層説明

Ａ：耕土Ⅰ　暗灰褐色砂質土　7.5Y　5／1
Ｂ：耕土Ⅱ　暗青灰色砂質土　5Y　5／1
Ⅰ：暗褐色土（砂質をおびる　耕土カク乱含む？）　10YR　5／1
Ⅰａ：暗灰褐色土（炭化物、土器を多量に含む）　10YR　6／1
Ⅱ：黄白色砂質土（シルト？）　5Y　8／2
Ⅲ：暗灰色粘土　5Y　6／1
Ⅳ：灰色粘土　5Y　7／1
Ⅴ：黒灰色粘土　10BG　3／1

# 第Ⅳ章　遺構・遺物

## １．1984年度調査区（産田地区）

**A. 概　要**（付図２、表４・10、第６～27・57～65図、図版１～18・63～72）

この調査区は、遺跡の北端のほぼ中央部にあたる。地表面から深さ40～50㎝のところで、Ⅲ層上面に至る。その上には、耕土（25㎝）、Ⅰ層（20㎝、中世・近世遺物包含層）、Ⅱ層（10㎝、古代包含層）が堆積する。

出土遺物には、弥生時代、飛鳥時代、奈良時代、平安時代、鎌倉～室町時代、江戸時代のものがあり、検出した遺構は、飛鳥時代と奈良時代の掘立柱建物41棟（注２）、土坑11基、奈良時代以降の道路１条、近世以降の溝４本などがある。

なお、出土遺物の時期区分については、表３（30ページ）による。

**B. 弥生時代**（第57図、図版70）

遺構はあきらかでない。弥生時代中期の甕１が、調査区東寄りから出土している。Ⅲ層出土となっている。

**C. 飛鳥時代**（第７～17・19・21・22・25・57～62・65図、図版２・３・５～17・63～72）

遺構は、掘立柱建物22棟、土坑６基がこの時期のものといえる。

遺物は、須恵器、土師器、耳環（銀環）が出土している。

須恵器には、杯、杯蓋、高杯、提瓶、平瓶、甕、甑がある。甕は、大型品が多いのが特徴である。小型甕には、「斎」とヘラ書きがある須恵器43がある。須恵器の大甕45・59・62は、頸部に「×」のヘラ書きがある。

土師器には、甕、把手付甕・小型甕、小型壺、台付土器、製塩土器、土錘、支脚がある。

製塩土器は、棒状尖底形で、土坑内の他にSB05・14・18の柱内からも出土している。

耳環は、SB09・13付近から出土した。銅芯上にかすかに銀がみられ、銀環のようである。

**掘立柱建物**　建物は、主軸方向の違いから、次の３群に分けられる。建物は、床面積が30㎡を越える中型建物、30㎡以下の小型建物、高床倉庫とみられる総柱建物がある。

第１群　中型建物 SB06・07・11・12・27、小型建物 SB09・38、総柱建物 SB19・22・31

第２群　中型建物 SB05・13・14、小型建物 SB03・41、総柱建物 SB23・33

第３群　中型建物 SB08・15・16・28、総柱建物 SB18

第１群は、主軸方向が北より78°～90°東に振れるか、それに直交するもの。時期は、SB11柱穴内から須恵器高杯４が出土しており、７世紀前葉とみる。

第２群は、主軸方向が北より74°～83°東に振れるか、それに直交するもの。この群には、SB05の桁行５間床面積45㎡、SB14の床面積44㎡の、やや大きい建物がある。

第３群は、主軸方向が北より40°～60°東に振れるか、それに直交するもの。時期は、SB08

柱穴内の須恵器杯３、SB11柱穴内の製塩土器５から、７世紀前葉とみる。

大型建物は、東西棟で、桁行３間のものが特徴である。桁行３間以上の建物は、小杉町流通業務団地№７遺跡、舟橋村利田横枕遺跡遺跡などで見つかっており、７世紀代の建物の特徴を示すものと見られる。大型建物は、間尺が1.1～1.5mの狭いものが多い。

SB38は、桁行２間の建物であるが、主軸方向からこの時期に含めておきたい。また、桁行１間の建物SB41があるが、SB13に接することからこの建物の付属施設と考えられる。

建物は、重なりがあるものがあり、X70～74区から７世紀中葉から後葉の土器も出土しており、７世紀代のうちに建て替えが行われたものと考えられる。どの群が古くてどの群が新しいのか、群ごとに一度に建て替えされたのか、徐々に行われたのかは、よくわからない。建物の主軸方向が、北に対して西へ徐々に移動している可能性があること、主軸方向が群の中でも一定でないことから、第１群から第３群へと、随時建て替えられていったものであろう。

柱根を残す建物は、SB12・13・14・15・16・19・23・28がある。総柱建物SB23は太さ約６㎝の丸木と割材を用いているが、その他は、太さ12～18㎝のクリの割材を用いるものが多い。

**土坑**　11基あり、この時期の土師器が出土するものが多い。SK02から小型甕７、SK04から提瓶９・10、SK06から製塩土器15、甕11、把手付甕16は、SK08から土師器甕18が出土している。

大きさは、径２～３ｍの楕円形、長楕円形、あるいは不整形なもので、深さは20㎝前後の浅いものが多い。長さ15㎝前後の細長い河原石や火を受けた平らな砂岩質の石や炭化物を含む穴も見られるという。製塩土器の出土が多いことが注目されている。

**D. 奈良時代**（第６・７・10・15～18・20～25・63図、図版４～９・12・14・15・69・71）

遺構は、掘立柱建物19棟がこの時期のものと思われる。

遺物は、須恵器、土師器が出土している。須恵器には、杯蓋・高台杯・杯・長頸壺・短頸壺・壺蓋・鉢があり、８世紀前葉から後葉までのものがある。

その他に、この時期と思われるものに、フイゴの羽口と砥石がある。

**掘立柱建物**　建物は、主軸方向の違いから、次の３群に分けられる。建物は、床面積が20㎡をこえる中型建物、20㎡以下の小型建物、高床倉庫とみられる総柱建物がある。

第１群　中型建物SB10・20・21・37、総柱建物SB04

第２群　中型建物SB01・29、小型SB17・26・40、総柱建物SB25

第３群　中型建物SB02・24・32・34・35・36、小型建物30・39

第１群は、主軸方向が北より20°～34°西に振れるか、それに直交するもの。

第２群は、主軸方向が北より22°～51°東に振れるか、それに直交するもの。

第３群は、主軸方向が北より17°～36°東に振れるか、それに直交するもの。

中型建物は、南北棟で、桁行２間の建物が多い。この時期の間尺は1.5～２ｍのものが多い。

これらの時期を判定する遺物は、柱穴内からは出土していないが、SB24付近に奈良時代の須恵器が多い。これらの建物は、SB26とSB36に重なりがあるので、時期差があることがわかる。また、群の中でも主軸方向にばらつきがある。そのようなことから、飛鳥時代の建物の主軸に近い

ものが古いとみて、第１群から第３群へと徐々に建て替えられていったものと考えておきたい。

柱根を残す建物は、SB10・26・32・34・35がある。SB26・32は、太さ10～14㎝の丸木と割材を併用しており、その他は太さ10～19㎝のクリの割材である。

**E. 平安時代**（付図２、第63図、図版４・69）

遺構は、道路（側溝 SD５・６の間）がこの時期にあたるものと考えられる。

遺物は、９世紀前葉とみられる須恵器杯蓋70～72と杯79・81がある。

**道路**　SD５・６は、道路の側溝である。溝は幅約70㎝、深さ約10㎝、路面幅4.5～５m である。1993年(平成５)に、この調査区の南隣接地でガソリンスタンドの建設に伴う発掘調査が行われ、その道路の延長が検出された。その報告では、７世紀末の土器が多いことから、その頃に作られたものと考えられている［市教委1994］。しかし、その当時の出土遺物を確認したところ、道路の側溝から奈良時代中葉の須恵器杯蓋が出土していることがわかった。(注３)　また、この道路面は、飛鳥時代の堆積層とみられるⅡ層を掘り込んで作られている。さらには、奈良時代の建物 SB24の柱穴が50㎝の深さがあるのに対し、溝の深さは10㎝以下と浅い。そのようなことから、この道路は奈良中期以降に作られたものである可能性が高い。

**F. 中世・近世**（付図２、第63・64図、図版71・72）

中世の遺物には、珠洲87～100、土師皿101～104、青磁109～111・163～166、白磁112～115・167～169、瀬戸美濃105～108・116・170～174、洪武通寶177がある。銭貨はこの他に、開元通寶、天聖元寶、元豊通寶が出土している。時期は、鎌倉時代から戦国時代までのものである。白磁114の外底面には、「++」の墨書がある。

近世の遺物には、越中瀬戸119・120・123・124・126・175・176、唐津121・122・125があり、これらは、16世紀末から17世紀にかけてのものである。唐津121の外底面には文字の墨書があるが、判読できない。また、唐津125・122の外底部には、釉薬で「〇」記号が記されている。

遺構は、溝 SD２・４・７があるが、近世以降のものとみられる。SD４は、1993年（平成５）の南隣接地の調査で、中世条里の坪界溝と理解されている。しかし、この溝の覆土は、旧耕土直下の酸化鉄を含む層と同一であり、近世以降の可能性が高い。

注２）1985年に刊行された概報では、掘立柱建物の時期を次のように分けている［市教委1985］。

Ⅰ期（６世紀末～７世紀前半代）　SB03・05・06・09・10・11・13・14・22・27・38・41

Ⅱ期（７世紀後半代）　SB04・08・18・23・29・37・40

Ⅲ期（８世紀代）　SB01・02・17・24・26・28・30・32・35・36

本書では、建物の柱間などの特徴や重複関係から、飛鳥時代から奈良時代にかけて６段階の変遷を想定する。概報では６世紀末～７世紀代とされる SB04・10・29・37・40を８世紀代に、８世紀代とされる SB28を７世紀後葉から８世紀初め頃に位置づけるが、現場を見ていないものの分析であるので、確証はない。

注３）『平成５年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報』図14の13

## 2．1985年度調査区（産田地区）

**A. 概　要**（付図３、第27～44・66～89図、表５・11、図版18～35・73～93）

この調査区は、1984年度調査区の西側にあり、その間には約30m の未発掘地がある。地表面から深さ60㎝のところで、Ⅲ層上面に至る。その上には、耕土（50㎝）、Ⅱ層（10㎝、古代包含層）が堆積する。

出土遺物には、弥生時代後期・終末期、古墳時代初期・中期・後期、飛鳥時代、奈良時代、平安時代、鎌倉～室町時代、江戸時代のものがあり、検出した遺構は、弥生後期、飛鳥時代、奈良時代、平安時代の溝３条、古墳前期の井戸１基、飛鳥時代、奈良時代の掘立柱建物29棟、奈良時代の竪穴住居４棟、平安時代の柱穴１、中世以降とみられる畠４群がある。その他に、柵とされるものや溝、取水施設、暗渠などがあるが、近現代のものが多いと見られる。

**B. 弥生時代**（第27・66・67図、図版23・24・73・74・76）

遺構は、溝 SD01がある。

**溝**　SD01は、幅1.5m 深さ45㎝、底面が弧状の溝で、調査区中央を北西から南東へほぼ直線的に通る。覆土は、灰色土および灰黒色土で、底部は弧状である。覆土から、弥生時代後期の甕１～８、長頸壺９、鉢10、小型鉢11、器台12が出土した。甕３は、底部に焼成後の穿孔がある。時期は、弥生後期とみられる。その他、包含層中から後期の甕15・16・345、終末期の甕17～21・346、細頸壺24、蓋27、器台29、装飾器台30が出土している。

**C. 古墳時代**（第44・67～70図、図版35・74～76）

遺構は、井戸 SE01がある。

**井戸**　SE01は、上面の直径3.5m 深さ2.5m である。覆土下部から、古墳前期の土師器の壺13と甕14が出土している。

遺物は、包含層中から初期の土師器の甕22・23・41、壺25・33・34・35、鉢31が、前期の土師器の甕37～40、壺26・36、小型壺42～44、高杯45～52が、中期の須恵器杯53、後期の須恵器杯55が出土している。

**D. 飛鳥時代**（第28・38・70～74図、図版25・27・77・81・82）

遺構は、掘立柱建物３棟（SB01・02・23）、溝１条（SD02）が、この時期のものと思われる。

遺物は、包含層中から前期の須恵器杯蓋54、杯56、有蓋長頸壺57、広口壺58・62、提瓶63、甕64、中期の須恵器杯蓋131・132、高杯218～223、後期の須恵器杯蓋124～130・223・225、壺224が出土しており、支脚367もこの時期とみられる。高杯222は漆容器として使われている。杯蓋225の内面にはヘラ書き「≢」がある。

**掘立柱建物**　主軸方向が北より30°～47.5°西に振れるもの。SB02は、梁行３間の側柱建物で、柱穴覆土から前期の須恵器杯100と土師器高杯101が出土している。SB02・23は、SB01と主軸方向がほぼ同じであり、間尺が狭い点も共通性がある。時期を特定する遺物はないが、飛鳥後期とみておきた。

**溝**　SD02は、西から東へ流れる溝であるが、Ⅲ層を掘り込んでおり、この時期と考えられる。

**E. 奈良時代**（第29～41・43・72～89図、図版20～22・25～34・77～92）

遺構は、竪穴住居４棟（SI01～04）、掘立柱建物23棟（SB03～20・21・24～27）、溝１条（SD04）、土坑１基（SK01）が、この時期のものと思われる。

遺物は、須恵器、土師器、炉壁、鉄滓、砥石、モモ、クルミが出土した。須恵器には、杯蓋、高台杯、杯、甕、壺、小型壺、長頸壺、短頸壺、平瓶、横瓶、円面硯240があり、土師器には、甕、鍋、小型甕、杯、高杯、土錘、小型土器がある。土錘には、棒状の細いもの、紡錘形のものなど数種類がある。特徴的な遺物として、和同開珎１点、ヘラ書き土器３点、漆付着土器８点、墨書土器４点があげられる。

**竪穴住居**　SI01は、調査区の西寄りにある。一辺約3.5mの台形で、深さは６㎝、床面は水平である。主軸方向は、北に対して西へ振れる。覆土から、須恵器高台杯65、杯72、土師器の甕66・68～71、小型甕67・73、モモ核364、クルミ365が出土している。時期は奈良中期とみる。

SI02は、SI01の西側にある。長辺2.6m、短辺1.9mの長方形で、深さは２㎝、床面は水平である。主軸方向は東西にある。覆土から、須恵器の杯蓋74・75、高台杯76、杯77～80、土師器の鍋81・82・85・296、小型甕83・84、和同開珎387、鉄滓360、炉壁361が出土している。時期は奈良中期とみる。

SI03は、調査区の東寄りにある。一辺４～５mの方形に近い不整形で、深さは10㎝ほどが残る。主軸方向は、北に対して西へ振れる。覆土から、須恵器の杯蓋86・87、杯90・92、高台杯88・89・197、高杯か91、壺93、土師器の高杯94・95、甕96～98、鍋99が出土している。時期は奈良後期とみる。

SI04は、SI03の東側にある。一辺3.5～４mの方形で、深さは10㎝、床面は水平である。主軸方向は、北に対して西へ振れる。覆土から、土師器の甕102～105、鍋106が出土している。時期は奈良中期とみる。

SI01～04は、発掘時にはSKが付されており土坑と認識されていたが、後に、SIに変換されており、竪穴住居に見直しされた。しかし、カマドなどは見つかっていない。SI01からは、モモ核やクルミ、SI02から鉄滓と炉壁が出土していることから、倉庫や鍛冶などの作業場であったのかもしれない。

**掘立柱建物**　掘立柱建物は、主軸方向の違いから、次の３群に分けられる。建物は、床面積が20㎡を越える中型建物、20㎡以下の小型建物、高床倉庫とみられる総柱建物がある。

第１群　中型建物SB13・25、小型建物SB12・15・16、総柱建物SB19

第２群　中型建物SB06・09・14・17・21、小型建物03・18・21・22、総柱建物SB04

第３群　中型建物SB05・07・08・26（87年SB13と同一）、小型建物SB20・27、総柱建物SB10

第１群は、主軸方向が北より７°～14°東に振れるか、それに直交するもの。中型建物は、間尺が２m前後である。時期は、柱穴内遺物に、SB13の土師器小型甕110、SB16の土師器小型甕111があることから、奈良中期と考えられる。

第２群は、主軸方向が北より13°～19.5°東に振れるもの。中型建物は、間尺が2.1～2.5mの広いものが多い。SB13は、周囲に幅30～50㎝深さ10㎝の溝SD12が巡る。時期は、柱穴内遺物に、SB17の須恵器杯蓋112があることから、奈良中期と考える。

第３群は、主軸方向が０°～６°西に振れるもの。中型建物は、間尺が2.1～2.5mの広いものが多い。SB26は桁行４間で床面積は42㎡とやや大きい。時期は、柱穴内遺物に、SB05の須恵器杯蓋107、SB07の須恵器杯108、土師器鍋113があることから、奈良中期で第２群よりやや新しい時期と考える。

柱根を残す建物は、SB06・07・09・15・16・17・22・25・26で、柱はいずれも割材を用いる。柱の太さは、径10㎝前後のもの、径15㎝前後のもの、20㎝近いものなどがある。SB07の柱343は、底近くの外皮側に段を残している。

第２群のSB04・14には、厚板342のような礎板が残る。厚板342は、約５㎝のスギ板で、長辺42㎝、短辺23㎝である。

**溝**　SD04は、調査区の北西部を西から東へ流れる。覆土から土師器118が出土しており、時期は奈良中期と考えられる。

**土坑**　SK01は、SI03の東側にある。径1.2mの不整形平面で、深さ７㎝、底面は水平である。覆土から、須恵器の高台杯114、土師器の甕115・116が出土しており、時期は奈良中期と考えられる。

SK02は、SB15と同じ場所にあり、一辺50㎝の方形平面で、深さ５㎝、底面は水平である。覆土から、土師器甕117が出土しており、時期は奈良中期と考えられる。

**和同開珎**　銅製で、寸法は、直径2.4㎝、厚さ１㎜、重さ２ｇである。

**ヘラ書き土器**　いずれも須恵器杯蓋の内面にある。「×」を書く226、「二」を書く227、「一」を書く228がある。時期は、８世紀前葉・中葉のものである。

**漆付着土器**　天井部に漆が付着する須恵器杯蓋161、漆容器として使った須恵器の杯222・353、高台杯232・233、漆で「＋」を天井部に書いた須恵器杯蓋229、同じく外底面に書いた須恵器高台杯230・231がある。時期は、奈良後期とみる。

**墨書土器**　内面に「息」と書いた須恵器杯蓋234、内面に「田（留か）志」のような字を書いた須恵器杯蓋386、外底面に「真茂」と書いた須恵器高台杯235、外底面に「和」のような字を書いた須恵器高台杯236がある。時期は、いずれも奈良中期とみる。

**F. 平安時代**（第33・39・41・72・73・75・77・88図、図版21・23・26・27・30～32）

遺構は、掘立柱建物３棟（SB11・24・28）柱穴１基（Pit01）がこの時期のものと思われる。遺物には、須恵器杯蓋、杯、土師器の甕・鍋、製塩土器、土馬がある。製塩土器300は平底型で、調査区東端から出土した。

**掘立柱建物**　中型建物SB24と小型建物SB11・28がある。主軸方向が北より８°～16°西へ振れるかそれに直交するもの。中型建物は、間尺が1.4mの狭いものを用いるものがあるが、SB24は、桁行の中柱が入らず１間2.6mと広い。時期は、柱穴内遺物に、SB11に奈良後期とみられる土師

器小型甕109があるが、1987年度調査区では、同じ主軸方向の建物が9世紀前葉とみられることから、平安初期に置きたい。

柱根を残す建物は、SB11があり、柱はいずれも割材を用いる。

**柱穴**　Pit01は、調査区の南西隅にある。径70～90㎝の楕円形の穴で、北よりに太さ20㎝の柱根が残る。覆土から土師器小型甕123が出土しており、時期は平安前期と考えられる。

**土馬**　遺構があまり見られない調査区南東部から散発的に出土した。胴体338、足部339～341・358の4点がある。同一個体の可能性が高い。時期は特定できないが、他の祭祀遺物との関連からこの時期に含める。

**G. 中世・近世**（第88図、図版93）

遺構は、明確でないが、調査区中央に畠4群（SF01～04）がある。

遺物は、中世のものは、珠洲323～325、瀬戸美濃331～333・381・382、青磁326～330、白磁380があり、南北朝時代から戦国までのものである。近世のものは、越中瀬戸334、唐津335・336、土人形383、合子蓋337がある。

**畠**　畠とみられる溝群は、幅40～60㎝深さ10～20㎝の溝が50～80㎝間隔に3～5条並行している。SF01・03・04は、溝の方向が北からやや東に振れ、SF02は、ほぼ南北方向をとる。古代の包含層を掘り込んでおり、中世以降のものと考えられる。

## 3．1986年度調査区（中出地区）

**A. 概　要**（付図3、第45～47・90～106図、表6・12、図版37～43・94～108）

この調査区は、県道小矢部押水線の側にあたり、近・現代の取水施設や水路が掘られており、攪乱が激しい。地表面から深さ40㎝のところで、Ⅲ層上面に至る。その上には、耕土約20㎝、約20㎝の褐色砂質土（中世以降の堆積層）がのる。平安前期の溝は、Ⅲ層を掘り込んでいる。この調査区では、Ⅲ層上面から50㎝ほど下にある淡茶褐色土から、縄文時代中期の土器が出土する。

出土遺物には、縄文時代、古墳時代、飛鳥時代、奈良時代、平安時代、鎌倉～室町時代、江戸時代のものがあり、検出した遺構は、平安前期と近世の遺構がある。縄文時代のものについては、後日刊行予定の『縄文土器・石器編』で報告の予定である。

**B. 古墳時代**（第97～101・106図、図版94・96・104～106・108）

遺構は認められない。

遺物は、SD11内と包含層中から、中期の土師器の高杯170・171・173・174、甕188、小型壺185が、後期の須恵器の杯蓋116～119・121～123・129～131、平瓶179、土師器の杯145～169・299・308～312、高杯172・175～178、甕181・182・313・315、甑281・314、小型土器317・318が出土している。また、この時代のものと見られるものに、緑色凝灰岩製の管玉290・291がある。

**C. 飛鳥時代**（第93・96・97・100・102・106図、図版95・97・107・108）

遺構は認められない。

遺物は、SD11内と包含層中から、前期の須恵器の杯蓋120・124～128、杯134～144、甕234、

後期の杯蓋132・133、甕180・183・184、小型壺186・187がある。また、この時代のものと見られるものに、製塩土器90～107、須恵器甕115、支脚288・289がある。

この時期の特徴的な遺物には、ヘラ記号のある須恵器杯が２点ある。135には「三」、138には「≪」が描かれている。

**D. 奈良時代**（第90～95・101～106図、図版97～105・107・137）

遺構は認められない。

遺物は、SD11内と包含層中から、この時代全般にわたる須恵器の杯蓋・高台杯・杯・甕・横瓶、土師器の杯・皿・甕・鍋・小型甕・甑、土錘が出土している。

この時期の特徴的な遺物には、漆付着土器４点、灯明皿２点、墨書土器７点、墨痕がついた土器３点、ヘラ記号のある土器３点がある。

**漆付着土器**　漆が付着する須恵器高台杯16・36、割れ目を漆で補修した須恵器高台杯24、漆容器として使った須恵器杯60がある。奈良前期・中期のものと見られる。

**灯明皿**　油煙痕が付いた須恵器の杯54、杯257があり、灯明皿として使われたものと考えられる。いずれも奈良前期とみる。

**墨書土器**　須恵器の杯266・303・304、高台杯300～302・321・322がある。判読できる文字は、「長」、「吉足」、「吉」、「衣女」である。時期は奈良中期・後期のものとみる。

墨痕が付着するものに、須恵器の杯蓋12・13、高台杯232があり、232は転用硯と見られる。いずれも奈良中期のものとみる。（266・321・322の写真は、1987年度図版137参照）

**ヘラ書き土器**　須恵器高台杯30、須恵器杯81・240がある。いずれも「×」か「＋」を描いてある。いずれも奈良中期とみる。

**E. 平安時代**（第92～94図、図版42・101・108）

遺構は、溝１条（SD11）がこの時期のものと考えられる。

**溝**　SD11（調査時は東西溝と呼ばれていた。1987年度の調査では、この溝の続きがSD11とされているので同じ遺構名を使うこととする）は、調査区を北西から東南へ流れる水路である。幅約２m深さ30㎝で、底がやや平らである。

覆土は砂と砂礫である。平安前期の須恵器の杯65・74、短頸壺109、双耳瓶110・111、土師器甕89が出土していることから、時期は平安前期と見られる。他に、フイゴ羽口が出土しているが、この時期か奈良時代のものであろう。

覆土には、古墳、飛鳥、奈良の各時代の土器もかなり多く含まれている。このことについては、平安前期の人々が、他所から集めたものを投げ込んだ可能性を想定しておきたい。

**F. 中世・近世**　（第45～47・139・140・151図、図版39～41・145・147・162）

遺構は、掘立柱建物４棟（SB01～04）、土坑１基（SK01）、井戸１基がある。

遺物は、越前、木製品がある。

**掘立柱建物**　建物は、主軸方向がいずれもほぼ共通しており、北に対して東へ40～50°振れる。

SB01は、２間×２間の床面積47㎡の総柱建物である。柱穴は長辺1.5m短辺90㎝の楕円形のも

のがあるのが特徴である。柱穴内には柱根が５本残る。柱は太さ18～28㎝の丸木のもの４本、太さ10㎝ほどの割材のもの１本がある。柱298は、そのうちの一本で、樹種はクリである。

この建物の伴出遺物については、よくわからないが、1987年に、柱穴４の柱根の放射性炭素年代測定が実施されている。年代測定は、学習院大学理学部年代測定室木越邦彦氏により、その結果は次のとおりである。

GaK－18283　470±100（A.D.1480）

測定値は、室町時代ということになるが、楕円形の掘り方を持つ柱穴は、砺波市増山遺跡や上市町弓庄城跡などに類例があり、16世紀後半から17世紀にかけての時期に認められる。時期については、もう少し検討が必要である。

この建物の東北側には、南北３m東西2.7mの方形土坑があり、その三隅にも柱根が残る（SB04とする）。SB01の付属屋があったのかもしれない。また、東南側にも、小さな柱穴を結んで１間×１間約８㎡の建物が復元されているが、付属する小屋のようなものかもしれない。

SB02は、SB01の北側にある床面積約31㎡の側柱建物である。柱根はないが、柱穴底に石が敷かれている。

SB05は、調査区西寄りにある。太さ20㎝ほどの柱根３本が残る。

**土坑**　SK01は、SB05の東側にある。長辺１m短辺70㎝の楕円形で、深さは約40㎝である。覆土から、銅製の無文銭９枚（320）が出土した。銭は六道銭の可能性があり、そうであれば墓坑ということになる。

**井戸**　SB02とSB05の中間に、直径約1.5mの円形で、深さ1.68mの素掘りで、井戸とされる穴がある。出土品には、SE01の注記がある曲物の底板292がある。SE01がこの井戸かどうか確かでない。

**木製品**　漆椀296は、内面赤色、外面黒色、文様はない。下駄297は、一本作りで、庭下駄などと呼ばれるもの。ほかに、桶の底板302、柄杓の底板303、桶の栓304がある。いずれも江戸時代のものとみられる。

## ４．1987年度調査区（中出地区）

**A. 概　要**（付図３・４、第48～56・107～146図、表７・13、図版44～62・109～157）

この調査区は、1986年度調査区の東側にあたり、1985年度調査区との間である。この調査区の堆積土は、第Ⅲ章　調査の概要の基本土層のとおりである。

出土遺物には、縄文時代、弥生時代終末期、古墳時代、飛鳥時代、奈良時代、平安時代、鎌倉～室町時代、江戸時代のものがあり、検出した遺構は、弥生時代、飛鳥時代、奈良時代、平安時代のものがある。（注４）　縄文時代のものについては、後日刊行予定の『縄文土器・石器編』で報告の予定である。

**B. 弥生時代・古墳時代**（第107～113・126・128・135・137、図版109～115・128・130～134・144）

遺構は、認められない。

遺物は、弥生終末期～古墳初期、古墳前期、古墳中期、古墳後期の各時期のものが、柱穴や溝内、包含層から出土している。これらは、基本土層のⅢ層（暗灰色土）に含まれていたものが、飛鳥時代以降の人々の掘削によって掘り起こされたものと考えられる。

弥生終末期～古墳初期のものは、土師器の甕１～13・17・19・27・757・758、壺14～16・18・28・769、細頸壺20・23・24・759、小型器台21、器台22、高杯760、装飾器台761、蓋26・749、台付鉢765・766・771がある。

古墳前期のものは、土師器の甕29～35・40・747、壺36・39、小型壺41～46・773、高杯47～51・774・775・748、小型土器762～764・866がある。

古墳中期のものは、土師器の甕768、高杯770、杯772がある。

古墳後期のものは、須恵器の杯蓋422～424、杯425～427、土師器の杯402～403・623・626・750・751、紡錘車693～695がある。

**C. 飛鳥時代**（第27・53・126・128・137図、図版50・58・134・144）

遺構は、掘立柱建物１棟（SB14）、溝２条（SD12・13）がこの時期のものと思われる。

遺物は、前期と後期のものが、溝や包含層から出土している。飛鳥前期のものは、須恵器の杯427～432、飛鳥後期のものは、須恵器の杯蓋433～435・788、杯789、平瓶602がある。その他に、製塩土器416、須恵器甕620、土錘688・690、陶錘692がこの時代のものと見られる。

**掘立柱建物**　SB14は、桁行２間梁間３間床面積約12㎡の小型建物である。時期の決め手となる土器はないが、主軸方向および間尺が狭いことから、この時期のものと考えておきたい。

**溝**　SD12は、1985年度調査区のSD02の続きである。SD13はSD12に形状が近く、同じ方向から流れてきているので、この時期に含めておきたい。

**D. 奈良時代**（第27・48・50・52・55・114～120・123～137、図版44・45・57～61・116～129・134・138～144・146・148・152・154・157）

遺構は、竪穴住居２棟（SI01・02）、掘立柱建物４棟（SB01・05・06・09）、溝６条（SD10・15～17・25・32・33）、土坑１基（SK17）が、この時期のものと思われる。

遺物は、前期から後期の須恵器と土師器が、溝や包含層から出土している。量が多いので個別の説明は省略する。表13をみていただきたい。他に鉄滓864・865があるが、1985年度調査区で奈良時代の遺構から鉄滓が出土しているので、これもこの時期のものと見ておきたい。

**竪穴住居**　SI01は、調査区の北東部にある。長辺４m、短辺3.4mの台形で、深さは約20㎝、床面は水平である。主軸方向は、北に対して東へ振れる。南東隅にカマドの構築材とみられる白っぽい粘土の塊がある。

SI02は、SI01の西側にある。長辺3.3m、短辺1.8mの長方形で、深さは約７㎝、床面は水平である。主軸方向は南北にある。

これらの時期は、覆土から須恵器、土師器が出土しているが、時期を確定することができない。1985年度調査区に、奈良中期と後期の竪穴があるので、それと近い時期と思われる。

**掘立柱建物**　主軸方向の違いから、次の２群に分けられる。建物は、床面積が20㎡を越える中型

建物、20㎡以下の小型建物、高床倉庫とみられる総柱建物がある。

第１群　小型建物 SB09

第２群　中型建物 SB05・06、総柱建物 SB01

第１群の SB09は、桁行２間梁間２間の方形の小型建物である。時期の決め手となる土器はないが、主軸方向が北に対して東へ10°振れ、1985年調査区の第２群と同じであることから、奈良中期とみる。

第２群は、主軸方向が北に対して４°～33°西に振れるものである。SB01柱穴から奈良後期とみられる土器が出土している。

柱根を残す建物は、SB01・06がある。柱の太さは、SB06は太さ20～25㎝、SB01は太さ約10㎝である。

**溝**　SD10は、調査区の中央を北から南へ流れる。幅2.4～４ｍで、南北端が狭い。深さは約１ｍである。北側の SD15・25が合流するところには、建築材の転用とみられる厚板730・735や柱743を杭にして打ち込んだ堰が作られている。

覆土から、ほかに土師器杯781、編板707、鞘716が、SD10に重複する SD06から、奈良後期とみられる土師器杯624・627が出土している。

SD15・17・25・33は、幅70㎝深さ10～25㎝の細い溝、SD32は幅1.1m、深さ40㎝のやや広い溝であるが、これらは SD10から分流した溝とみられ、SD10の堰は、そこへ水を分流するための施設と考えられる。

SD16は、SD10の西側にほぼ並行している。幅1.6m、深さ55㎝である。SD10に比べ流れ方向が西へ振れるので、SD10よりやや新しいかもしれない。掘立柱建物第２群と主軸が合うので、奈良後期の可能性がある。

**土坑**　SK17は、SB12の北側にある。長辺1.5m 短辺90㎝の長方形で、深さは20㎝、北寄りに直径50㎝深さ５㎝の穴がある。覆土から須恵器の杯109・110、杯蓋111、土師器鍋113が出土した。時期は、奈良中期と見る。

**E. 平安時代**（付図４、第27・49・51～56・114～116・121・122・124・125・127・129・133～137、図版47～52・54～57）

遺構は、掘立柱建物８棟（SB03・04・07・08・10～12・15）、溝１条（SD11）、土坑１（SK01）がこの時期のものと思われる。

遺物は、SD11から多く出土しており、下記のとおりである。

**掘立柱建物**　掘立柱建物は、主軸方向の違いから、次の４群に分けられる。建物は、床面積が20㎡を越える中型建物、20㎡以下の小型建物、高床倉庫とみられる総柱建物がある。

第１群　中型建物 SB12、小型建物 SB03

第２群　中型建物 SB11、小型建物 SB04

第３群　中型建物 SB07・08・10・15

第１群は、主軸方向がほぼ磁北に近いもの。中型建物は、間尺が広い。SB12は、桁行側の柱

穴が多く、建て替えが行われているのかもしれない。この建物に関連するとみられるSK07・09～13から土器が比較的多く出土している。SK07から須恵器の杯蓋60・61、瓶62、土師器の鍋65、甕66・67、小型甕68、土錘70～72、SK09から須恵器杯蓋73、土師器鍋74、SK10から須恵器杯蓋75・76、土師器の甕77・78、高杯79、土錘80、SK11から須恵器の杯蓋81・82・84、高台杯85、土師器の甕83・86・87、鍋88・89、SK12から須恵器の杯蓋90・91、杯92・93、土師器の甕94～96・99、鍋97・100・101、小型甕98、SK13から須恵器杯蓋102・103、高台杯104、土師器甕105が出土している。これらの時期は、平安前期９世紀前葉とみる。

第２群は、主軸方向が北より12°～13°西へ振れるもの。SB11は、間尺が2.7mの広いものがある。柱穴の北側と西側に別の柱列があり、建て替えが行われているらしい。柱穴内から土師器高杯636が出土しており、平安前期９世紀前葉とみる。

第３群は、主軸方向が北に対して25.5°～34°西に振れるもの。大型建物SB07・08は、桁行３間梁間２間床面積30～35㎡であるが、SB10は桁行４間で床面積43㎡とやや大きい。柱間は、２～３mの広いものがある。柱穴の掘方は丸くて小さいが、SB08のように方形のものもある。

SB15の北側にある土坑（X57.6Y85.1区）内から、時期は特定できないが、牛の歯が出土している。

SB07は、SD11の流路がその手前で屈曲しており、SD11より少し古いか同時期であることを示し、SD11の出土遺物から、平安前期９世紀中葉とみる。

柱根を残す建物は、SB08・12・15がある。柱の太さは、SB08・12は太さ20～25㎝、SB15は約10㎝である。SB12では、太さ20㎝と太さ10～15㎝の両方が見られる。

**溝**　SD11は、1986年度調査区を北西から南東へ流れてきたが、この調査区西中央部で、SB07をさけるように北へ折れ、さらに西に折れて、南東へ流れる。上手と下手では幅約２～３mであるが、中央部は幅７mと広くなっている。深さは約30㎝で、底はすり鉢状または弧状である。覆土は、褐色または青灰色の砂や砂礫土である。

溝中央部の広くなったところには、溝の中に流路に沿って杭が打ち込まれている。杭には、建築材とみられる柱734～743、棒744、厚板746が転用されている。杭列W22～24の延長上には、SD26・26が分流する。そのようなことから、これらの杭列は、水路の護岸および分流のための施設と考えられる。SD26・27は、幅90㎝深さ25～30㎝で覆土もSD11と同じである。

覆土からは、大量の須恵器、土師器、木製品、ひょうたんが出土した。須恵器には、杯蓋、高台杯、杯、壺、短頸壺、把手付鍋、双耳瓶、瓶、甕、円面硯があり、土師器には、椀、杯、皿、高台皿、高台椀、高杯、鍋、甕、小型甕、甑、土錘がある。最も新しい土器は、平安前期９世紀中頃のものである。

ひょうたんは、丸型867と洋梨型868の果皮部分である。

覆土から、墨書土器、円面硯、ヘラ書き土器、漆付着土器、灯明皿、木簡、斎串、帯金具など、特徴的な遺物が出土している。

**墨書土器**　33点あり、SD11から26点、SK09から１点、包含層他から６点出土した。

**表 2　墨書種類一覧**（1984～1986年出土分を含む）

| 区　分 | 種類、点数（番号） |
|---|---|
| 地　名 | 長岡 2 点（340・797） |
| 人　名 | 真茂 2 点（343・799）、小継 2 点（804・820）、小長（300）、吉足（301）、衣丸（304）、衣女（345）、竹長（346）、島長（800）、橋家（813）、人□（817）、田（留）志（386） |
| 地名＋職名 | 長岡神祝 2 点（338・798） |
| 職　名 | 大祝（339）、祢宜（342）、大社祝（341）、祝 2 点（806・819）、尉（816） |
| その他 | 二 2 点（347・815）、中 2 点（348・815）、王（349）、君（801）、女（803、衣女か）、小（818、小継か）、継（812　小継か）、不明（235・322・805・808・809・811） |

墨書があるのは、須恵器の杯蓋 6 点、高台杯14点、杯12点、土師器椀 1 点である。部位は、杯蓋の内外、高台杯・杯・椀の外底部、高台杯の体外面である。種類は、地名、人名、職名、その他がある。この他に、墨痕と思われる黒色物が付着するものが 5 点（837～840・842）ある。

**円面硯・杯蓋硯**　3 点あり、円面硯 1 点（375）、杯蓋硯 2 点（368・841）がある。円面硯は SB 11付近の包含層から、杯蓋硯は SD11から出土した。

**ヘラ書き土器**　19点あり、SD11から14点、包含層から 5 点出土した。器種は、須恵器の杯蓋 3 点、高台杯12点、杯 4 点である。部位は、杯蓋内面、高台杯の内底面、高台・杯の外底部と体外面である。種類は、「×」記号が最も多く 9 点（352～359・362・363・365）、「—」記号が 2 点（350・351）、「又」記号が 1 点（610）、「扱」の文字 1 点（355）、不明 6 点（360・361・364・366・367）がある。

**漆付着土器**　16点あり、SD11から12点、包含層から 4 点出土した。器種は、須恵器の杯蓋天井部と内面、杯外底部、高台杯・杯の内面、種類は、「大」記号 2 点（810・814）、「N」記号が 1 点（150）、「十」記号 1 点（369）、漆容器11点（370・371・828～836）、その他 2 点（350・442）がある。

**灯明皿**　油煙痕が付いた須恵器杯が 5 点（843～847）ある。いずれも SD11から出土した。

**木製品**　SD11からは、木簡 4 点（717・718・719・722）、木簡とみられる板 3 点（720・721・723）、斎串724、箸と見られる細棒703・704、編板706、四つ歯の下駄708、器の台部と見られる702、丸棒714・715などがある。

**木簡**　文字が判読できるのは、717と722の 2 点である。

717　（釈文）「一石一石」（11.6）×1.9×0.7　両端欠損。上部側辺に欠き込みあり。

722　（釈文）「一」　（7.9）×2.2×0.5　上部欠損。

717の石は右のようにも見えるが、石と見たい。もしそうであれば、米などの量を表しているものと考えられる。下端を尖らせた725は、付札木簡の特徴である。そのようなことから、これ

らは、米などの付札木簡と考えられるが、717は、同じ文字を連ねているので、習書木簡であろう。

**帯金具**　鉸具697、鉈尾698、巡方699がある。鉸具と巡方は銅製で、鉈尾は鉄製である。材質が違うので、鉸具・巡方と鉈尾は別物である。また、鉸具の縦幅、鉈尾の基部幅は、2.3㎝であるが、巡方の幅は3.3㎝である。この幅は、帯幅と一致することになるので、鉸具・鉈尾と巡方は、別物となる。これら３点は、すべて別物の帯金具ということになろう。

**土坑**　SK01は、調査区西寄り中央部にあり、SD11と重なる。直径約1.5ｍの円形で、深さ約60㎝である。覆土から、須恵器杯蓋58、高台杯59が出土している。59は口縁部に油煙痕が付着している。時期は、平安前期９世紀前葉と見る。

**F. 中世・近世**（図版45・46・142）

調査区東半分の北寄りと南寄りに、南北方向の細い溝の集合がある。中世以降の畠跡と考えられる。また水路の護岸のために打ち込まれたとみられる杭（726～729）があり、江戸時代前期の漆掻きの木が使われている。

**畠**　SX01～21は、北寄りの一群で、主軸方向が北よりやや西に振れる。溝の幅30～100㎝、深さ10～20㎝で、20～100㎝の間隔で並んでいる。SX01から、９世紀中葉の土師器甕114～115、SX05から須恵器杯119、SX07から鍋129・130が出土している。時期は平安中期と考えられているが、この時期の遺構と方向が一致せず、中世以降のものではないかと考えられる。

**漆掻きの木**　726～729は、太さ4.5㎝、長さは20～30㎝で、下端が尖っている。調査区中央のSD10上面に打ち込まれていた杭と見られる。表面に幅２～３㎜の溝が２～３㎜間隔に刻まれており、溝の中に、漆とみられる黒い塊が見える。細い材であるが、枝ではなく幹材である。

時期が特定できなかったので、放射性炭素C14年代測定を実施したところ、下記のとおり、西暦1660年頃という年代が得られた。

726　Beta－166312　　260±40（補正C14年代230±40、暦年代AD1660）

727　Beta－166313　　230±40（補正C14年代220±40、暦年代AD1660）

遺物はその他に、中世の珠洲854～856、青磁849～851、瀬戸852・853、近世のかんざし700、キセル701、銭貨848がある。珠洲は南北朝から戦国時代まで、青磁・瀬戸は鎌倉時代と室町時代のものである。かんざしは、耳掻き部分が取れている。キセルは、雁首部分で、江戸の中期段階の特徴をもつ［江戸遺跡研究会編1987］。

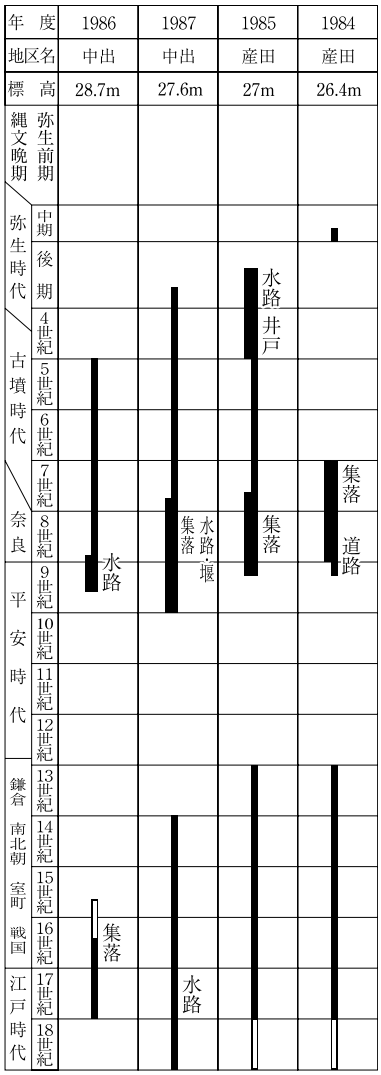
銭貨848は、無文銭で、孔が四角くなく変形している。中世末から江戸初期に表れる悪銭の一種に雁首銭というのがある。それかもしれない［滝沢1983］。

注４）1987年10月18日に開催された桜町遺跡（中出地区）現地説明会資料では、SD09・14、SD06・07・10・12・15・16・21などを弥生・古墳時代に、SB01～08・10～13、SD11などを奈良・平安時代としている。

# 第Ⅴ章　まとめ

## 1．遺跡の時代

国道８号バイパス建設に先立ち、1984年から1987年の４ヶ年に亘り発掘調査を実施した桜町遺跡産田地区・中出地区では、縄文時代、弥生時代、古墳時代、飛鳥時代、奈良時代、平安時代、鎌倉時代、南北朝時代、室町時代、戦国時代、江戸時代の遺物や遺構が発掘された。長期に亘り人々の活動の痕跡が残されているが、第４図のように、その間には盛衰があり、断絶する時期がある。




**第４図　遺跡の時代**

## 2．縄文時代

縄文時代前期、中期、後期の土器・石器がある。それらは、基本土層のⅤ層に含まれるが、遺構は検出されていない。詳細は、今後刊行の『土器・石器編』で紹介する予定である。

## 3．弥生時代

弥生時代は、中期後葉、後期後葉、終末期の土器があり、それらは、基本土層のⅢ層に含まれる。遺構は、後期後葉の土器を含む溝が１条残されている。

この時代は、砺波平野に水田稲作が波及し定着する時期である。溝は、北西から南東へ直線的に走るもので、水田などへ水を供給するために人が掘った用水路と見られる。

## 4．古墳時代

古墳時代は、前期、中期、後期の土器があり、それらは、弥生時代と同じ基本土層のⅢ層に含まれる。遺構は、前期の井戸が１基残されている。

この時代は、市内の丘陵地に多くの古墳が作られた時代である。埴生地区には、関野１号墳（前期）、若宮古墳（後期）など大型古墳があり、当時この地域に砺波平野のなかでも最も有力な勢力が存在していたことを物語っている。桜町地内にも、西方500mの丘陵上に天狗山古墳が残されていて、この地域にも埴生の首長を支える有力者の存在が伺われる。

調査区には井戸だけが残るが、1982（昭和57）年に県道小矢部押水線改良及び城山都市下水路新設に伴う発掘調査では、３方を溝で四角く囲んだ建物跡SB02が発掘されている。古墳時代の家である可能性が高い［市教委1983B］。

## 5．飛鳥時代

飛鳥時代は、前期、中期、後期の土器があり、それらは、基本土層のⅡ層に含まれる。遺構は、

掘立柱建物26棟、土坑６基、溝３本がある。（第５図）

掘立柱建物は、床面積が33～45㎡の中型建物、10～20㎡の小型建物、10～17㎡の総柱建物がある。中型建物は住居、小型建物は住居または倉庫、総柱建物は高床倉庫と考えられる。高床建物は、中央部にまとまってあり、その周囲に住居などが配置された集落の姿を見ることができる。中型建物は1984年度調査区に多く、1985年・1987年調査区はみな小型建物である。

この時代は、北西700mの丘陵斜面には桜町横穴墓群が作られている。この集落の住人がその被葬者であった可能性が高い。桜町横穴墓群は、1963（昭和38）年に発掘が行われており、太刀を副葬した人骨が出土している［小矢部市史編1971］。埋葬された人々は、武人的な性格を有する人々であったことが推測される。

この時代は、斉明４年（658）越国守阿倍比羅夫が蝦夷、粛慎を討つなど、大和朝廷の東北進出に関わるできごとが多い。この集落の誕生が、そのような動きと関わりがあるとすれば、兵士のような人々が住まわされたとか、東北への兵糧生産などの目的で開発が進められたことが考えられる。

遺物では、製塩土器と須恵器の大甕が多いことが目を引く。製塩土器は、能登半島の海浜部で海水を煮詰めて作られ、この土器に詰めて運ばれてきたものである。塩が何の目的で使われたものかは定かでないが、この時代の内陸の集落や須恵器の生産遺跡から出土することが多い。定着の初めに、越国から支給されたものであったのだろうか。

**６．奈良時代**

奈良時代は、前期、中期、後期の土器があり、それらは、基本土層のⅡ層に含まれる。遺構は、掘立柱建物46棟、竪穴住居６棟、土坑２基、溝７本がある。（第５図）掘立柱建物は、1984年度調査区にもあるが、1985年度調査区へも広がり、集落の発展がみられる。

掘立柱建物は、床面積が21～42㎡の中型建物、７～18㎡の小型建物、７～15㎡の総柱建物がある。中型建物は住居、小型建物は住居または倉庫、総柱建物は高床倉庫と考えられる。この時期の高床倉庫は散在するように見える。

竪穴住居は、鉄滓や炉壁が出土し、鍛冶工房とみられものがある。和同開珎はそのようなところから出土している。

溝は、建物群の西端を画するようにして北北西から南南東へ流れるSD10があり、その中には堰とみられる杭が打ち込まれ、そこから小水路が分流する。水田などへの用水路とみられる。調査区南方に、耕作地があるのであろう。

出土遺物で注目されるものに、墨書土器、漆付着土器がある。

墨書土器は、真茂、竹長、小長、吉足、衣女、島長、橋家など人名と見られる文字を記すもの、尉とみられる職名を記すものがある。円面硯も出土しており、文字を書くことができる人がいたこともわかる。尉は、軍事・警察に関わる職名である。漆付着土器には、漆容器として使ったもの、漆で補修された土器、漆で記号を記すものがある。漆容器は、ここに漆を扱う工人がいたことを物語る。SD10からは、白木の鞘が出土しているが、鞘に漆を塗る作業すなわち太刀の生産

がここで行われていたものと考えられる。尉の墨書土器の存在と合わせて、この遺跡の軍事的な性格を伺わせる。

**７．平安時代**

平安時代は、前期の土器があり、それらは、基本土層のⅠ層・Ⅰａ層に含まれる。遺構は、掘立柱建物11棟、溝２本、土坑１基、柱穴１基があり、道路もこの時期に含まれる可能性が高い。掘立柱建物は、調査区西寄りに偏り、飛鳥時代から平安時代にかけて、居住域が次第に西へ移動していることが見られる。（第５図）

掘立柱建物は、床面積が24～43㎡の中型建物、10㎡ほどの小型建物があり、総柱建物は見られない。中型建物は住居、小型建物は住居または倉庫と考えられる。建物は概して小さく、50㎡を越える大型建物は見られないので､飛鳥時代､奈良時代と同様一般的な集落であったと見られる。

溝は、北西から南東へ流れるSD11がある。水路が幅広くなるところでは、溝の中に護岸とみられる杭が打ち込まれている。杭列は分流する小水路の方向を示し、この場所が、水田などへ用水を供給する水源地であったことがわかる。

出土遺物で注目されるものに、墨書土器、帯金具、斎串、灯明皿、土馬、木簡がある。

墨書土器については、長岡、長岡神祝、祢宜、大社祝の存在が、発掘時から注目されている。長岡については､『和名類聚抄』に見える砺波郡12郷の一つ「長岡郷」に通じること。また、長岡神祝、祢宜、大社祝については､『延喜式』神名帳に見える「長岡神社」の神職のことを示す可能性が高いことが指摘されている。長岡郷の所在地については、それまで、小矢部川右岸の正得（現在長岡神社がある）・荒川付近とする説があったが、この墨書土器によって、桜町遺跡のある小矢部川左岸地域も長岡郷に含まれること、その中心村落であった可能性や祭祀関係集落であった可能性も想定されている［藤井1988］。

遺跡の性格を考える上で、帯金具、木簡、斎串、灯明皿はどのような意味があるのであろう。帯金具は鉸具、巡方、鉈尾の３点があるが、大きさや材質に違いがあり、同一の帯に付けられていたものではないと思われる。（注５）　斎串は、神を招き降ろす時に用いる串であり、灯明皿は、祭祀儀式に灯明が焚かれたことを示しており、ここで祭祀が行われたことを物語っている。ここが水源地であることから、祭祀の内容は、水に関わることすなわち豊作を祈る祭祀であったものと考えられる。溝の中ではないが、水神への捧げ物とされる土馬の出土も関係があるものと思われる。帯金具は、ここの集落の住人が身に着けていた可能性、祭祀に関わる人物が身に付けていた可能性とともに、そのものが捧げ物であった可能性も考えられる。

この場所で祭祀が行われたことは明らかであるが、神社建築にあたる建物は見られない。当時の長岡神社が、立派な社殿を有していたかどうかは、よくわからないが、この場所が長岡神社であったとは考えにくい。長岡神祝、祢宜、大社祝の墨書土器は、祭祀を行うに際し、持ち込まれたものと考えられる。

木簡は、米などの貢進物の付札の習書木簡であろう。貢進木簡は、郷単位で記載・製作が行われたといわれる［山中1995］。墨書土器には、小継、衣丸といった人名を記したものがある。そ

のような人物が、郷の行政事務を担当していたのかもしれない。ここにあるような中型建物に彼らが住んでいたのか、郷の中心集落から運ばれてきたものなのか、いずれともいえないが、郷長のいる集落には、50㎡を越えるような大型建物が存在したであろうから、ここは、長岡郷を構成する一般集落とみるのが適当であろう。このような建物群が周辺にもいくつか点在し、全体として長岡郷を構成していたものと考えられる。

1984年度調査区で検出された幅６ｍの道路は、富山市水橋荒町遺跡や石川県津幡町加茂遺跡で類例があることから、この時期のものである可能性が高い［富山市教委2000］。

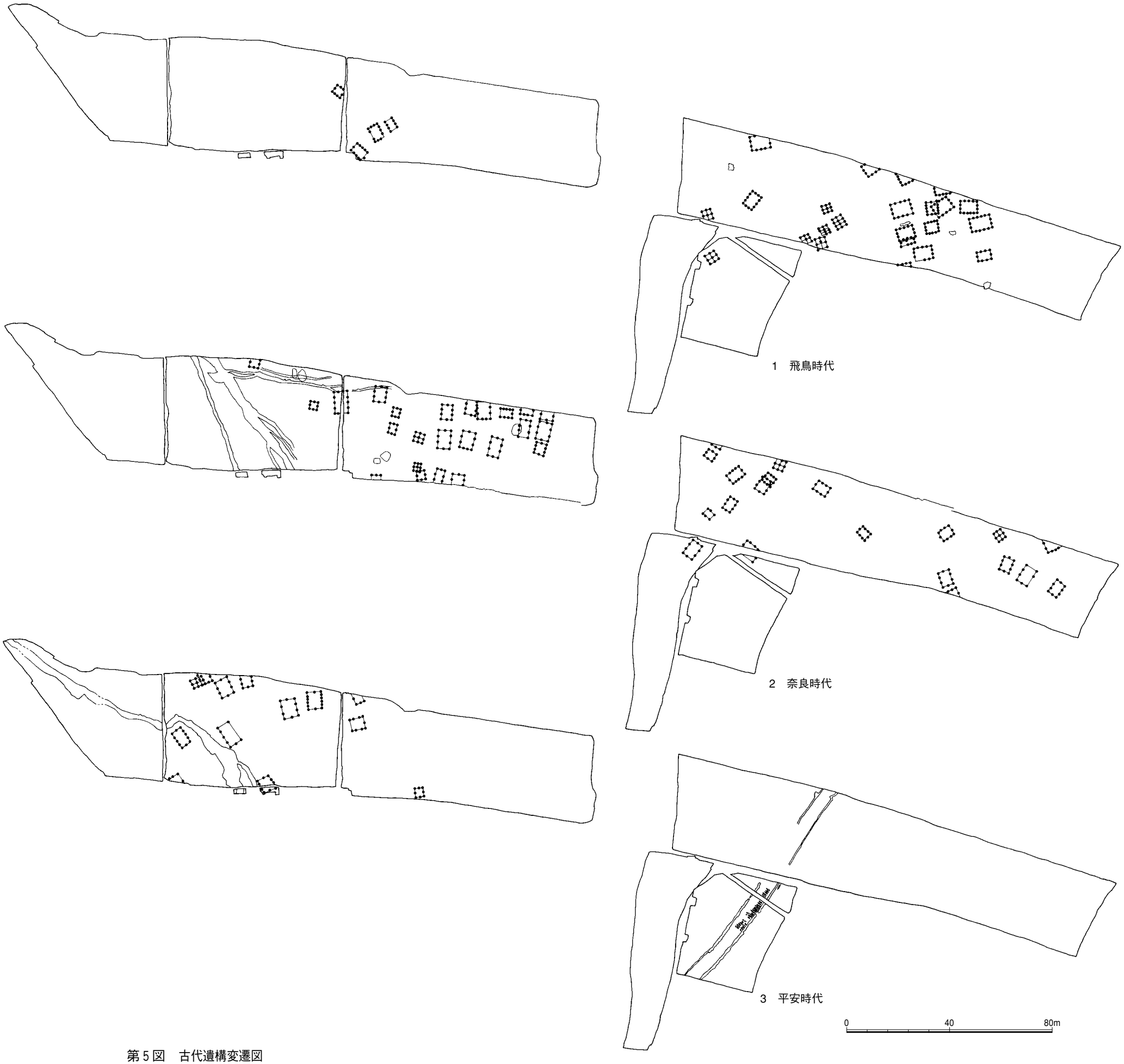
**８．中世・近世**

この時期は、鎌倉時代から江戸時代中期までの遺物が出土している。遺構は、調査区西端に１６世紀後半～17世紀代と見られる建物４棟、土坑１基がある。

注５）平城京出土銅銙には、少初位から正六位の位階に対応する８段階の規格差があるといわれる［松村1996］。それに当てはめると、鉸具と鉈尾は少初位クラス、巡方は従７位クラスの人が身に付けたものということになる。『越中国官倉納穀交替記』にみえる砺波郡の郡司は、少初位で擬少領、従７位で擬大領となっている者がある。

**参考文献**


小矢部市史編集委員会編1971『小矢部市史上巻』
小矢部市教育委員会・小矢部市埋蔵文化財分布調査団1980A『小矢部市埋蔵文化財分布調査概報1987年度』
小矢部市教育委員会1980B『富山県小矢部市桜町遺跡発掘調査概報』
小矢部市教育委員会1982『富山県小矢部市桜町遺跡（古苗代・鷲場地区）』
楠原佑介・溝手理太郎編著1983『地名用語語源辞典』東京堂出版
小矢部市教育委員会1983A『富山県小矢部市桜町遺跡（小三昧・坂東・産田地区）』
小矢部市教育委員会1983B『富山県小矢部市桜町遺跡（産田地区）』
滝沢武雄1983『国史大辞典』第３巻　吉川弘文館
小矢部市教育委員会1985『富山県小矢部市桜町遺跡―産田地区発掘調査概報―』
小矢部市教育委員会1986『富山県小矢部市桜町遺跡（小三昧・坂東地区）図版編』
藤井一二1988「桜町遺跡考発掘をめぐって（４）」
石川考古学研究会・北陸古代土器研究会1988『シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題』
小矢部市教育委員会1994『平成５年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報　桜町遺跡（産田地区・五社遺跡・谷内窯跡群・埴生南遺跡）』
山中敏史1995「古代地方官衙論」『考古学研究会40周年記念論集展望考古学』考古学研究会
伊藤隆三1995「古代北陸道の発掘調査―富山県小矢部市桜町遺跡―産田地区―」『古代交通研究第４号』
松村恵司1996「古代集落と在地社会」『土地と在地の世界をさぐる　古代から中世へ』山川出版社
砺波市史編纂委員会1990『砺波市史資料編１　考古、古代・中世』
平川南2000『墨書土器の研究』吉川弘文館
江戸遺跡研究会編2001『図説江戸考古学研究事典』「Ⅶ江戸の生活文化」柏書房株式会社
富山市教育委員会2002『フォーラム古代の道と駅』第１回「奈良時代の富山を探る」フォーラム資料
平川南2003『古代地方木簡の研究』吉川弘文館
小矢部市史編纂委員会辺2003『小矢部市史』




第 5 図　古代遺構変遷図

**表 3　時期区分**

| 時代 | | 時期区分 | 年代 | 土器型式・遺跡・併行関係 |
|---|---|---|---|---|
| 弥生 | | 中期　Ⅱ期 | 前２世紀 | 矢木ジワリ式 |
| | | Ⅲ期 | 前１世紀前半 | 小松式　石塚遺跡 |
| | | Ⅳ期 | 前１世紀後半 | 磯部遺跡　埴生南遺跡 |
| | | | １世紀前半 | 戸水Ｂ式 |
| | | 後期　Ⅴ期 | １世紀後半 | 猫橋式 |
| | | | ２世紀前半 | 法仏式　　平田・藤森遺跡 |
| | | | ２世紀後半 | 月影Ⅰ式　平桜川東遺跡　庄内０式 |
| | | 終末期 | ３世紀前半 | 月影Ⅱ式　庄内１・２式 |
| 古墳 | | 初期 | ３世紀後半 | 古府クルビ式　布留０・１式 |
| | | 前期 | ４世紀 | 高畠式　竹倉島遺跡　布留２式 |
| | | 中期 | ５世紀 | 宮地式　五社遺跡　道林寺遺跡 |
| | | 後期 | ６世紀 | 若宮古墳　　TK47→MT15 |
| 古代 | 飛鳥 | 前期 | ７世紀前葉 | 流団№７窯、　飛鳥Ⅰ　　TK209 |
| | | 中期 | ７世紀中葉 | 安居ロノ部窯、飛鳥Ⅱ・Ⅲ　　TK46 |
| | | 後期 | ７世紀後葉 | 山王奥堤窯、　飛鳥Ⅳ　　TK48 |
| | 奈良 | 前葉 | ８世紀前葉 | 松永Ⅰ窯　　平城Ⅰ・Ⅱ　　須恵器Ⅲ期 |
| | | 中葉 | ８世紀中葉 | 平桜岡山窯　　平城Ⅲ・Ⅳ　　Ⅳ１期 |
| | | 後葉 | ８世紀後葉 | 南太閤山Ⅱ窯　平城Ⅴ　　Ⅳ２期 |
| | 平安 | 前期 | ９世紀前葉 | 高沢島Ⅱ遺跡　平城Ⅵ　　Ⅴ１期 |
| | | | ９世紀中葉 | 末窯　高瀬遺跡　　Ⅴ２期 |
| | | | ９世紀後葉 | 増山笹山窯　　Ｋ－90　　Ⅵ１・２期 |
| | | 中期 | 10世紀前半 | Ｏ－53　　Ⅵ３・Ⅶ１期 |
| | | | 10世紀後半 | Ⅶ２古期 |
| | | 後期 | 11世紀前半 | Ⅶ２新期 |
| | | | 11世紀後半 | 桜町遺跡舟岡 SD09・11 |
| | | 末期 | 12世紀前半 | 八俵西遺跡 |
| | | | 12世紀後半 | 北反畝遺跡　　珠洲第Ⅰ期 |
| 中世 | 鎌倉 | | 13世紀前半 | 〃　第Ⅱ期 |
| | | | 13世紀後半 | 〃　第Ⅲ期 |
| | 南北朝 | | 14世紀 | 〃　第Ⅳ期 |
| | 室町 | | 15世紀前半 | 〃　第Ⅴ期 |
| | | | 15世紀後半 | 〃　第Ⅵ期 |
| 近世 | 戦国 | | 16世紀前半 | 日の宮遺跡24区穴12 |
| | | | 16世紀後半 | 弓城城跡 SD1002 |
| | 江戸 | 前期 | 17世紀 | 増山城下町 |

（注）古代については、内田亜紀子　1998「北陸古代土器研究小史－編年と実年代観の問題を中心として－」『富山考古学研究創刊号』財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所を参考にした。

# 付載　桜町遺跡の自然科学分析（板東・産田・中出地区）

パリノ・サーヴェイ株式会社

## はじめに

桜町遺跡（富山県小矢部市桜町所在）は、小矢部川の支流にあたる子撫川右岸に立地する遺跡である。子撫川が形成した自然堤防上を中心に、奈良・平安時代を中心とした遺構・遺物が検出されている。また、本遺跡西側の小谷では、縄文時代の遺構・遺物が多量に出土している。当社では、桜町遺跡の古環境変遷を明らかにする目的で、発掘調査の初期段階より現地調査・協議・分析調査を継続実施しており、雀谷地区に関してはすでに報告済みである（パリノ・サーヴェイ株式会社，1987）。今回は、これまで行ってきた分析調査のうち、奈良・平安時代を中心とする板東地区、産田地区、中出地区の成果をまとめて報告する。

## １．板東地区

### ⑴　試料

板東地区ではＡ地点（Ｘ－83，Ｙ－80）から６点、Ｂ地点（Ｘ－81，Ｙ－80）から４点の試料を採取した。試料採取地点の柱状図、採取層位、試料番号等について図１に示した。１層～８層に分層されており、１層は現耕作土、２層は黄褐色粘質土、３層は褐色粘質土、４層は茶褐色粘質土、５層は灰青色粘質土、６層は暗青灰色粘質土、７層は青灰色粘質土、８層は白色粘土である（添付資料による）。このうち、２層は奈良時代、６層は古墳時代の包含層になっている。

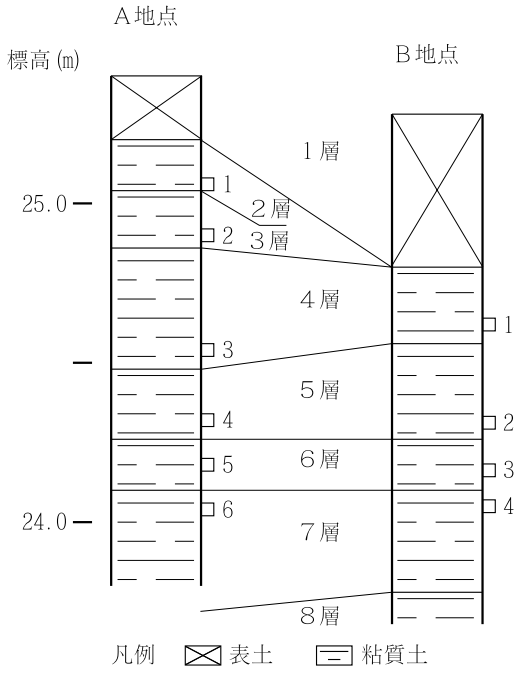



図１　板東地区の試料採取層位

### ⑵　分析方法

試料を約20g秤量し、塩酸による炭酸塩の除去、フッ化水素酸による試料の泥化、重液分離（臭化亜鉛　比重2.2）による有機物の濃集、アセトリシス処理（濃硫酸：無水酢酸　１：９）によるセルロースの分解、水酸化カリウムによる腐植酸の除去、の順に行い、花粉化石を濃集した。

残渣の一部をとってグリセリンゼリーで封じてプレパラートを作成し、その中に検出される花粉・胞子化石を同定・計数する。これらの結果は一覧表に示す。さらに、各層の傾向を把握する目的で、層位分布図を作成する。図中では、木本花粉はその総数、草本花粉やシダ類胞子は、総数から不明花粉を除いた数を基数として百分率で表している。ただし、検出数が少ない試料に関しては、結果が歪曲される恐れがあるため、検出された種類を＋で表すのにとどめておく。

### ⑶ 結果

結果を表１・図２に示す。花粉化石は全体的に保存が悪く、花粉外膜に風化が認められる個体が多い。花粉化石の風化は特に下部層で顕著にみられ、下部ほど検出個数が少なくなっている。一方シダ類胞子は、花粉化石の保存が悪くなるにしたがって、全体に占める割合が増加している。

７層は、A・B 地点とも花粉化石の保存が悪く、大部分がシダ類胞子からなる。産出傾向をみると、草本花粉ではイネ科やヨモギ属が、木本花粉ではマツ属やハンノキ属、コナラ亜属が多く検出される傾向があり、６層より上位と類似した傾向がみられる。

６層は、A 地点、B 地点ともに花粉の保存状態が悪いが、特に B 地点での保存が悪い。産出傾向は、後述する２層～５層と類似した傾向がみられる。

２層～５層は、シダ類胞子と草本花粉の割合が多いのが特徴で、木本花粉は極端に少ない。木本花粉は、マツ属とハンノキ属が多く、コナラ亜属、スギ属、ニレ属－ケヤキ属などが検出される。

### ⑷ 考察

分析結果をみると、水生植物の花粉化石が少量みられるが、これは、本遺跡周辺が氾濫の影響等を受けやすく、湿地のような状況であった時期があったことを示唆する。一方、全体的に化石の保存が悪く、特に下位では花粉化石の検出数が減少する。花粉化石は好気的環境下による風化に弱く、分解すると考えられている（中村，1967など）。このことから、氾濫の合間には比較的乾いた時期も存在したと推測され、この期間に花粉化石が風化を受け、保存が全体的に悪くなっていると考えられる。なお、広葉樹花粉よりも針葉樹花粉やシダ類胞子の方が、風化に強いとされている（徳永・山内，1971）。今回シダ類胞子化石やマツ属などの針葉樹花粉化石が多いのは、花粉化石の保存状態が悪く、風化に強い化石が相対的に高くなっているためであり、周辺植生の中でこれらが優勢であったわけではないと推測される。

木本花粉に着目すると、ハンノキ属、コナラ亜属、スギ属、ニレ属－ケヤキ属、エノキ属－ムクノキ属、トネリコ属など、低地や河畔など湿った場所を好む種類が多く検出される。これらは、古墳時代～古代にかけて、小撫川等の河畔や低地を中心に、湿地林や河畔林として分布していたと推定される。このような景観は砺波平野の各遺跡で復元されており、福光町の梅原胡摩堂遺跡では、中世の植生景観として、ハンノキ湿地林が存在していた可能性が示されている（パリノ・サーヴェイ株式会社，1996）。また、庄川の沖積低地に立地する大門町の布目沢東遺跡・布目沢北遺跡においても、古墳時代以降、コナラ亜属やハンノキ属、スギ属などが分布していたことが推定されている（パリノ・サーヴェイ株式会社，1991）。

一方草本花粉をみると、イネ科やヨモギ属などが多く検出され、水生植物（ガマ属、オモダカ属、ミズワラビ属、サンショウモなど）も少量ながら検出される。このことから、低地には開けた草地や湿地が存在したことが考えられる。なお、大門町の布目沢東遺跡・布目沢北遺跡では、古墳時代以降に草本花粉化石の割合が増加することや、イネ属の花粉化石が検出されるようにな

表１　板東地区の花粉分析結果

| 種類 | A 地点 | | | | | | B 地点 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 試料番号 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 木本花粉 | | | | | | | | | | |
| モミ属 | 3 | 1 | 3 | 1 | 3 | 1 | 1 | － | － | 1 |
| ツガ属 | － | 3 | 1 | 1 | 2 | 2 | － | 1 | － | － |
| マツ属 | 27 | 38 | 24 | 12 | 33 | 4 | 19 | 38 | 22 | 11 |
| コウヤマキ属 | 1 | 3 | 2 | 4 | － | 1 | 4 | 3 | － | 1 |
| スギ属 | 11 | 7 | 18 | 7 | 8 | 2 | 10 | 11 | 7 | 2 |
| イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科 | 6 | 6 | 5 | 3 | 2 | 2 | － | 1 | 2 | 2 |
| ヤナギ属 | － | － | － | － | － | － | 1 | － | － | － |
| サワグルミ属 | 1 | － | － | － | 2 | － | 1 | － | 1 | － |
| クルミ属 | － | － | 2 | 3 | 1 | － | 2 | － | － | 1 |
| クマシデ属－アサダ属 | － | 3 | 3 | 4 | 1 | 4 | 1 | 3 | － | 2 |
| ハシバミ属 | － | 1 | 1 | 3 | － | － | － | － | － | － |
| カバノキ属 | 1 | － | － | － | － | － | － | － | 1 | － |
| ハンノキ属 | 30 | 17 | 21 | 29 | 23 | 10 | 17 | 17 | 15 | 24 |
| ブナ属 | 1 | 1 | － | 7 | 1 | － | 2 | － | 1 | 2 |
| コナラ属コナラ亜属 | 14 | 12 | 9 | 14 | 12 | 7 | 28 | 13 | 8 | 11 |
| クリ属 | － | 1 | 3 | 2 | － | － | 3 | 3 | － | 2 |
| ニレ属－ケヤキ属 | 4 | 4 | 2 | 3 | 9 | 1 | 4 | 1 | 2 | 4 |
| エノキ属－ムクノキ属 | 2 | － | 3 | 5 | － | － | － | 3 | 2 | － |
| マンサク属 | － | － | － | － | 1 | － | － | － | － | － |
| ウルシ属 | － | － | － | － | － | 1 | － | － | － | － |
| カエデ属 | － | 1 | － | － | － | 1 | 1 | － | 1 | － |
| トチノキ属 | － | － | － | － | － | － | 4 | 6 | 1 | 1 |
| クロウメモドキ科 | － | － | － | － | 1 | － | － | － | － | － |
| ツタ属 | － | 1 | － | － | － | － | － | － | － | － |
| シナノキ属 | － | 1 | 1 | － | － | － | － | － | － | 1 |
| ウコギ科 | － | － | 1 | － | － | － | － | － | － | － |
| トネリコ属 | 1 | 2 | 1 | － | － | － | － | － | － | － |
| ガマズミ属 | － | － | － | 2 | 3 | － | 6 | － | － | － |
| 草本花粉 | | | | | | | | | | |
| ガマ属 | － | 1 | － | － | － | － | － | － | － | － |
| オモダカ属 | － | 1 | － | － | － | － | － | － | － | － |
| イネ科 | 301 | 312 | 293 | 220 | 208 | 43 | 142 | 136 | 70 | 54 |
| カヤツリグサ科 | 16 | 15 | 11 | 15 | 10 | 4 | 3 | － | － | － |
| クワ科 | 3 | 4 | － | 3 | 1 | － | 1 | 1 | － | 1 |
| サナエタデ節－ウナギツカミ節 | 3 | 3 | 1 | 2 | 3 | － | 1 | 1 | － | － |
| ソバ属 | 2 | 3 | 1 | 2 | － | － | 1 | － | － | － |
| アカザ科 | 27 | 11 | 35 | 43 | 13 | 5 | 3 | 3 | 1 | － |
| ナデシコ科 | 23 | 11 | 27 | 11 | 10 | 2 | 5 | 4 | 3 | 1 |
| カラマツソウ属 | － | － | 4 | － | 3 | － | － | 2 | 1 | － |
| キンポウゲ科 | － | 1 | － | － | － | － | － | 2 | － | 1 |
| タケニグサ属 | 1 | － | － | － | － | － | － | － | － | － |
| アブラナ科 | 40 | 60 | 22 | 8 | 5 | 2 | 2 | 3 | 3 | 1 |
| マメ科 | － | － | － | － | 1 | － | 2 | － | － | － |
| フウロソウ属 | － | － | － | － | 1 | － | － | － | － | － |
| トウダイグサ科 | － | － | － | － | － | － | 1 | － | － | － |
| キカシグサ属 | 1 | 2 | － | － | － | － | － | － | － | － |
| アリノトウグサ属 | － | 1 | － | 1 | － | － | － | － | － | － |
| セリ科 | 1 | － | 1 | － | － | 1 | 2 | － | － | 1 |
| ネナシカズラ属 | － | － | － | 3 | 1 | － | 4 | － | － | 1 |
| シソ科 | － | 1 | － | － | － | － | － | 3 | － | － |
| アカネ属－ヤエムグラ属 | 1 | 1 | － | － | － | － | － | － | － | － |
| アカネ科 | － | － | － | － | 10 | 1 | 4 | － | － | － |
| ホタルブクロ属－ツリガネニンジン属 | － | － | － | － | － | － | － | － | 2 | － |
| ヨモギ属 | 102 | 75 | 130 | 135 | 107 | 46 | 94 | 73 | 41 | 47 |
| キク亜科 | 6 | 5 | 7 | 3 | 5 | 2 | 5 | 5 | － | 1 |
| タンポポ亜科 | 8 | 4 | 6 | 5 | 3 | － | 3 | 3 | 1 | 2 |
| 不明花粉 | 7 | 19 | 10 | 7 | 12 | 9 | 288 | 4 | 6 | 1 |
| シダ類胞子 | | | | | | | | | | |
| ミズワラビ属 | － | － | 1 | － | － | － | － | － | － | － |
| サンショウモ | － | － | － | － | － | － | 1 | － | － | － |
| 他のシダ類胞子 | 224 | 609 | 441 | 682 | 537 | 618 | 251 | 844 | 1513 | 1532 |
| その他の微化石 | | | | | | | | | | |
| クンショウモ | － | － | － | 1 | － | － | － | － | － | － |
| ボトリオコックス属 | 56 | 11 | 8 | － | 7 | － | 1 | 4 | － | － |
| 二次堆積の花粉化石 | 1 | 3 | － | 7 | 15 | 2 | 7 | 9 | 5 | 3 |
| 合　計 | | | | | | | | | | |
| 木本花粉 | 102 | 102 | 100 | 100 | 102 | 36 | 104 | 100 | 63 | 65 |
| 草本花粉 | 535 | 511 | 538 | 451 | 381 | 106 | 273 | 236 | 122 | 110 |
| 不明花粉 | 7 | 19 | 10 | 7 | 12 | 9 | 288 | 4 | 6 | 1 |
| シダ類胞子 | 224 | 609 | 442 | 682 | 537 | 618 | 252 | 844 | 1513 | 1532 |
| 総計（不明を除く） | 861 | 1222 | 1080 | 1233 | 1020 | 760 | 629 | 1180 | 1698 | 1707 |

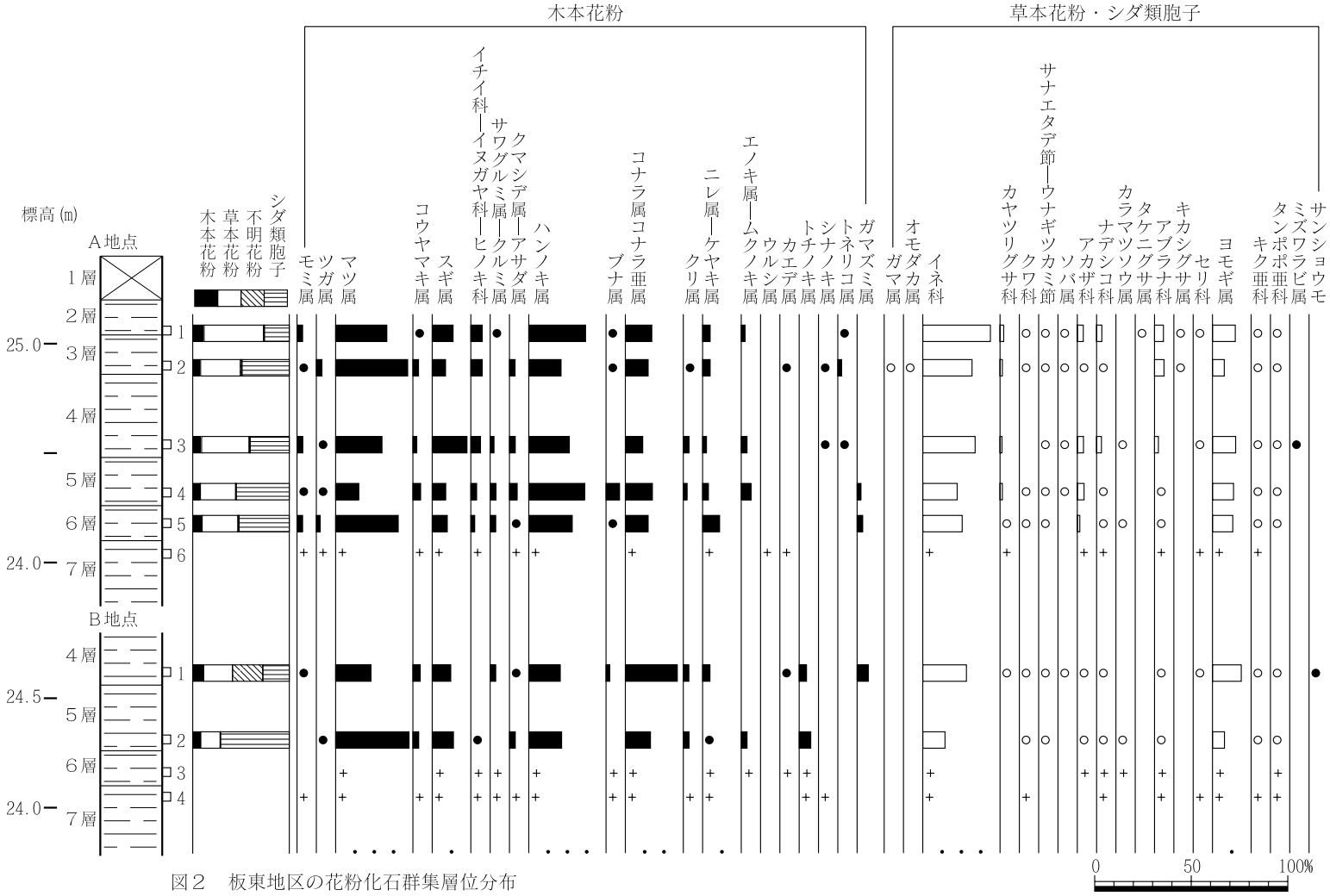



図２　板東地区の花粉化石群集層位分布

出現率は、木本花粉は木本花粉化石総数、草本花粉・シダ類胞子は総数より不明花粉を除く数を基数として百分率で算出した。なお、●○は１％未満、＋は木本花粉100個体未満の試料について検出した種類を示す。

表２　産田地区の花粉分析結果

| 種　類 / 試料番号 | 1 | 2 | 3 | 4−1 | 4−2 | 4−3 | 5 | 6 | 7 | 8 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 木本花粉 | | | | | | | | | | |
| モミ属 | − | 1 | 3 | − | − | − | − | − | − | − |
| ツガ属 | 1 | − | − | − | − | 2 | 3 | − | − | − |
| マツ属 | 53 | 28 | 7 | − | 1 | 3 | 18 | − | − | − |
| コウヤマキ属 | − | 2 | 4 | − | − | − | − | − | − | − |
| スギ属 | 120 | 174 | 243 | 4 | 14 | 123 | 74 | 1 | 1 | 1 |
| イチイ科−イヌガヤ科−ヒノキ科 | 4 | 21 | 3 | − | − | 6 | − | − | − | − |
| ヤナギ属 | 1 | 4 | 7 | − | − | 3 | − | − | − | − |
| ヤマモモ属 | 1 | 1 | − | − | − | − | − | − | − | − |
| サワグルミ属 | 2 | 1 | 1 | − | − | − | − | − | − | − |
| クルミ属 | − | 2 | 6 | 2 | 1 | 4 | 4 | − | 1 | 1 |
| クマシデ属−アサダ属 | 9 | 19 | 23 | 1 | 6 | 11 | 24 | − | 1 | − |
| ハシバミ属 | − | 1 | 1 | − | − | − | − | − | − | − |
| カバノキ属 | 1 | 5 | − | − | − | 1 | − | − | − | − |
| ハンノキ属 | 16 | 15 | 8 | − | 2 | 6 | 11 | − | − | 1 |
| ブナ属 | 7 | 26 | 23 | − | 2 | 4 | 19 | − | − | 1 |
| コナラ属コナラ亜属 | 17 | 31 | 50 | 4 | 4 | 20 | 14 | − | 1 | − |
| コナラ属アカガシ亜属 | 4 | 10 | 12 | − | − | 7 | 8 | − | − | − |
| クリ属 | 6 | 8 | 8 | − | 3 | 19 | 9 | − | − | − |
| シイノキ属 | − | 3 | 8 | − | − | 2 | 1 | 1 | − | − |
| ニレ属−ケヤキ属 | 3 | 11 | 12 | 2 | 1 | 10 | 11 | 6 | − | 1 |
| エノキ属−ムクノキ属 | − | 4 | 1 | − | − | 1 | 1 | − | − | − |
| カエデ属 | − | 1 | 1 | − | − | 1 | − | − | − | − |
| トチノキ属 | − | 2 | 3 | − | 1 | 4 | 3 | 1 | − | − |
| ブドウ属 | − | − | 1 | − | − | − | 1 | − | − | − |
| マタタビ属 | − | − | 1 | − | − | − | − | − | − | − |
| ウコギ科 | − | − | − | − | 1 | 1 | − | 1 | − | − |
| ミズキ属 | 1 | − | − | − | − | − | − | − | − | − |
| イボタノキ属 | − | − | 1 | − | − | − | − | − | − | − |
| トネリコ属 | − | 1 | 2 | − | − | 1 | − | − | − | − |
| ニワトコ属 | − | 1 | − | − | − | − | − | − | − | − |
| ガマズミ属 | − | 1 | − | − | − | − | − | − | − | − |
| 草本花粉 | | | | | | | | | | |
| ガマ属 | − | − | 1 | − | − | − | − | − | − | − |
| ヒルムシロ属 | − | − | 1 | − | − | − | − | − | − | − |
| オモダカ属 | 1 | 15 | 22 | 1 | 1 | 10 | 11 | − | − | − |
| イネ科 | 377 | 702 | 313 | 19 | 29 | 350 | 317 | 14 | 3 | 1 |
| カヤツリグサ科 | 32 | 123 | 81 | 21 | 15 | 138 | 96 | 4 | − | 3 |
| ホシクサ属 | − | − | − | − | − | − | 1 | − | − | − |
| イボクサ属 | − | − | 1 | − | − | − | − | − | − | − |
| ミズアオイ属 | − | 8 | 2 | − | − | 2 | 1 | − | − | − |
| クワ科 | − | − | 3 | − | − | − | − | − | − | − |
| サナエタデ節−ウナギツカミ節 | 1 | 3 | 7 | − | − | 1 | 6 | − | − | − |
| ソバ属 | − | 4 | − | − | − | − | 2 | − | − | − |
| アカザ科−ヒユ科 | 4 | 2 | 25 | 24 | 16 | 27 | 16 | 1 | − | − |
| ナデシコ科 | 2 | 2 | 2 | − | − | 5 | 5 | − | − | − |
| キンポウゲ科 | − | − | 1 | − | − | − | − | − | − | − |
| アブラナ科 | 9 | 16 | 6 | − | − | 3 | 3 | − | − | − |
| バラ科 | 2 | − | − | − | − | − | − | − | − | − |
| マメ科 | − | − | 1 | − | − | − | − | − | − | − |
| ミズユキノシタ属 | − | 1 | − | − | − | − | − | − | − | − |
| アリノトウグサ属 | − | − | − | − | 1 | − | − | − | − | − |
| セリ科 | 1 | 7 | 5 | − | − | 1 | 2 | − | − | − |
| シソ科 | − | − | 1 | − | − | − | − | − | − | − |
| ヨモギ属 | 19 | 57 | 76 | 4 | 6 | 41 | 37 | 3 | − | 2 |
| キク亜科 | 1 | 2 | 13 | − | 3 | 2 | 2 | − | − | 1 |
| タンポポ亜科 | 1 | 4 | 1 | − | − | − | 2 | − | − | − |
| 不明花粉 | 3 | 28 | 17 | 6 | 2 | 20 | 15 | 5 | − | 1 |
| シダ類胞子 | | | | | | | | | | |
| ヒカゲノカズラ属 | 1 | − | − | − | − | − | − | − | − | − |
| 他のシダ類胞子 | 18 | 22 | 19 | − | 3 | 11 | 52 | 25 | 5 | 7 |
| 合　計 | | | | | | | | | | |
| 木本花粉 | 246 | 373 | 429 | 13 | 36 | 229 | 201 | 10 | 4 | 5 |
| 草本花粉 | 450 | 946 | 562 | 69 | 71 | 580 | 501 | 22 | 3 | 7 |
| 不明花粉 | 3 | 28 | 17 | 6 | 2 | 20 | 15 | 5 | 0 | 1 |
| シダ類胞子 | 19 | 22 | 19 | 0 | 3 | 11 | 52 | 25 | 5 | 7 |
| 総計（不明を除く） | 715 | 1341 | 1010 | 82 | 110 | 820 | 754 | 57 | 12 | 19 |

ることから、稲作など土地開発に伴う草地の拡大に起因しているのではないかと考えられている（パリノ・サーヴェイ株式会社，1991）。本遺跡でも縄文時代の花粉分析を継続実施しており、別報にて報告する予定であるが（パリノ・サーヴェイ株式会社，未公表資料）、これと今回の結果を比べてみても、草本花粉の割合が多い。このことから、古墳時代以降に起こった、土地開発にともなう草地の拡大は、本遺跡周辺でも起こっていたと考えられる。栽培植物であるイネ属の花粉化石は、その形態の違いにより野生のイネ科花粉とは区別可能である（中村，1974）。しかし、今回検出されたものは、保存状態が悪く、両者の区別をつけることはできなかった。また、ソバ属の花粉化石が検出されることから、古墳時代以降に栽培・利用されていたことが考えられる。

## ２．産田地区

### ⑴　試料

試料は、産田地区で採取された試料10点である。試料採取地点の柱状図、採取層位、試料番号等について図３に示した。添付資料によれば、A層、B層は現在の耕作土、Ⅰ層は暗褐色土、Ⅰａは暗灰褐色土（炭化物・土器含む）、Ⅱ層が黄白色砂質土、Ⅲ層が暗灰色粘土、Ⅳ層は灰色粘土、Ⅴ層は黒灰色粘土である。時代観は、Ⅰ層とⅠａ層は奈良時代、Ⅱ層は古墳時代、Ⅲ層は弥生時代後期～古墳時代に相当すると考えられている。分析試料は各層から１点づつ採取し試料番号１～８としたが、１a層のみ場所を変えて３箇所採取したため、４－１～４－３の３点存在する。このため、柱状図には便宜上Ⅰａ層に３点分併記してある。

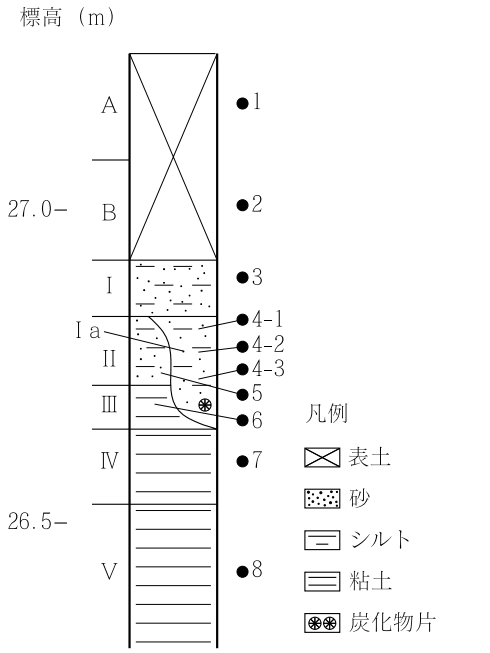



図３　産田地区の分析試料採取層位
4-1～3は、同一層位を場所を変えて採取しているので、便宜上このように示した。

### ⑵　分析方法

分析方法は、先に述べた板東地区と同様に実施した。

### ⑶　結果

結果を表２、図４に示す。Ⅲ層より下位とⅠａ層の一部では保存状態が悪く、花粉化石がほとんど検出されない。検出された試料は、A層、B層、Ⅰ層、１a層の一部、Ⅱ層である。検出された地点の組成はいずれも類似する。木本花粉はスギ属の割合が高く、マツ属、ハンノキ属、コナラ亜属、アカガシ亜属などを伴う。草本花粉はイネ科花粉の割合が非常に高く、カヤツリグサ科やアブラナ科、ヨモギ属などが検出される。その他、少量ではあるが、ガマ属、ヒルムシロ属、オモダカ属などの水生植物や栽培植物であるソバ属が検出される。

### ⑷　考察

検出された種類構成をみると、下部ではほとんど見られないのに対し、耕作土ではスギ属やイ

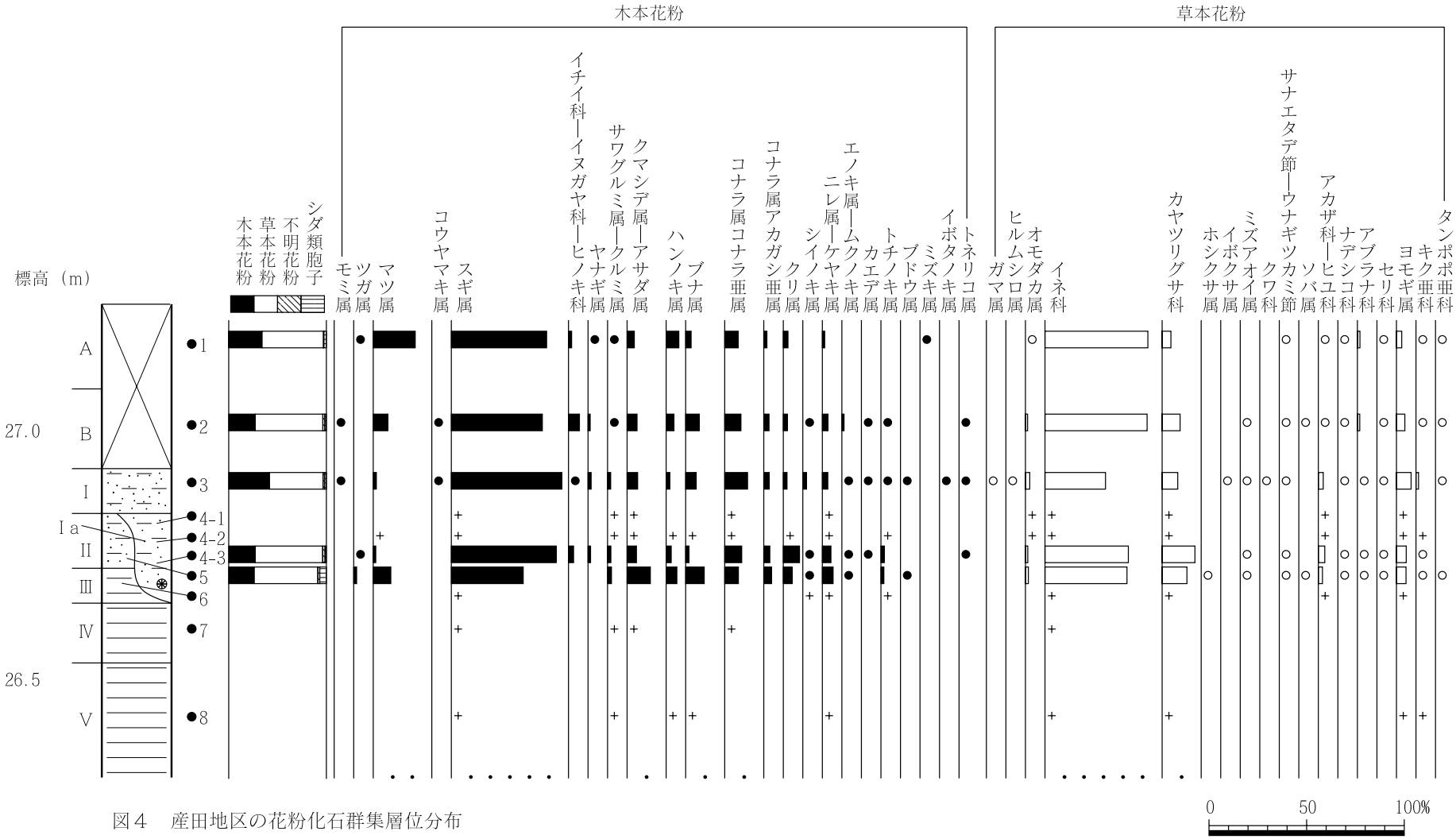



図４　産田地区の花粉化石群集層位分布

出現率は、木本花粉は木本花粉化石総数、草本花粉・シダ類胞子は総数より不明花粉を除く数を基数として百分率で算出した。なお、●○は１％未満、＋は木本花粉100個体未満の試料について検出した種類を示す。

ネ科を中心に多産している。スギ属とイネ科の多産は奈良時代や古墳時代の堆積層にまで及んでいるが、この組成は板東地区の結果とは大きく異なっている。また、層相観察の結果をみると、現在の耕作の影響がⅠ層にまで及んでいることが認められる。このような状況から考えると、Ⅰ層、Ⅰa層、Ⅱ層で検出された花粉化石は、現在の耕作土からの落ち込みである可能性が高いと思われる。Ⅰa層の結果をみると、3試料中2試料では花粉化石が検出されていない。おそらく、Ⅰa層は本来花粉化石が検出されない層位であるが、上部からの攪乱の影響が及ぶ箇所のみ花粉化石が検出されているものと思われる。奈良時代以前の堆積物は、花粉化石がほとんど含まれていないことから、攪乱によってわずかでも上位層の花粉化石が混入すれば、その影響を直接受けてしまい、耕作土と同じ組成になってしまうと考えられる。

このように、奈良時代以前の堆積物からは、花粉化石がほとんど検出されなかった。その理由としては、板東地区に比べて氾濫の影響を受けにくく、好気的状況になる期間が長かったなどの理由が考えられる。また立地からみても板東地区より山地側で標高も高いことから、水の影響を受けにくかったことが示唆される。

現在の後背山地はスギの植林が広く行われており、低地では水田が営まれている。スギ属とイネ科が多産する耕作土の花粉化石群集はこの状況を反映しているものと思われる。

### 3．中出地区

⑴　試料は、試料番号1（上）と試料番号2（下）の2点である。いずれも腐植が集積したシルト層であり、縄文時代の遺物包含層に相当する。

⑵　**分析方法**

分析方法は、先に述べた板東地区と同様に実施した。

⑶　**結果**

結果を表3に示す。花粉化石は2試料ともに保存が悪く、ほとんど検出されない。わずかにコナラ亜属、イネ科、ヨモギ属などが検出される程度である。

表3　中出地区の花粉分析結果

| 種類 | 試料番号 1 | 2 |
|---|---|---|
| 木本花粉 | | |
| ハンノキ属 | 1 | － |
| ブナ属 | 2 | － |
| コナラ属コナラ亜属 | 8 | － |
| コナラ属アカガシ亜属 | 1 | － |
| シイノキ属 | － | 1 |
| ニレ属－ケヤキ属 | 2 | － |
| トチノキ属 | 1 | － |
| 草本花粉 | | |
| イネ科 | 19 | 4 |
| クワ科 | 1 | － |
| アカザ科 | 1 | 1 |
| カラマツソウ属 | － | 1 |
| ヨモギ属 | 48 | － |
| キク亜科 | 2 | － |
| タンポポ亜科 | 1 | － |
| シダ類胞子 | 1 | － |
| 合　計 | 88 | 7 |

⑷　**考察**

分析の結果、花粉化石はほとんど検出されなかった。これは、好気的状況下による分解等が主な理由として考えられる。縄文時代の花粉分析は、周辺遺跡では大門町の小泉遺跡(安田,1982a；1982b)や先述した布目沢遺跡などで行われているが、現在舟岡地区の試料で縄文時代の古植生に関する解析を進めていることから、これも含めた形で今後検討していきたいと考えている。

### 4．まとめ

今回板東、産田、中出の各地区の分析結果をまとめて報告した。また以前に雀谷地区の分析結果について報告を行っている。これらの成果をまとめたのが表4である。縄文時代以前をはじめ

表４　桜町遺跡の古環境変遷

<table>
<tr><th rowspan="2">時代</th><th colspan="4">地区別の状況</th><th colspan="2">総括</th></tr>
<tr><th>板東</th><th>産田</th><th>中出</th><th>雀谷</th><th>低地</th><th>丘陵</th></tr>
<tr><td>近・現代</td><td rowspan="3"></td><td>丘陵地のスギ植林と、低地の水田化</td><td rowspan="3"></td><td rowspan="3"></td><td rowspan="3">水田開発による草地の拡大<br>湿地林や河畔林などが低地に成立</td><td rowspan="3">スギ植林・マツ二次林<br>ナラ類・カシ類・クリ・トチノキ、カエデ属などの豊富な樹種構成からなる森林</td></tr>
<tr><td>近世</td><td></td></tr>
<tr><td>中世</td></tr>
<tr><td>古代</td><td rowspan="2">ハンノキ属、コナラ亜属、スギ属、ニレ属－ケヤキ属、トネリコ属などほ河畔林や湿地林が分布　水田開発に伴う草地の拡大と森林の減少　ソバの栽培</td><td rowspan="3">花粉化石が検出されない(好気的環境？)</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>古墳</td></tr>
<tr><td>弥生</td><td>花粉化石が検出されない（好気的環境？）</td><td>低地はハンノキ湿地林や水生植物からなる草地など、丘陵上は、ナラ類、カシ類、クリ、スギなどが生育</td></tr>
<tr><td>縄文</td><td></td><td></td><td>花粉化石が検出されない(好気的環境？)</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>

とする空白部分はまだ多いが、これらの部分は、今後の分析調査で補っていきたいと考えている。

丘陵地の森林植生は、雀谷地区の結果に反映されており、弥生時代以降、スギ、ナラ類、カシ類、クリ、トチノキ、カエデ類などの豊富な樹種構成から成る森林が成立していたものと思われる。このような傾向は、縄文時代を中心に分析した大門町の小泉遺跡（安田，1982a；1982b)や布目沢東遺跡・布目沢北遺跡（パリノ・サーヴェイ株式会社，1991）においても共通してみられることから、縄文時代以前もこのような景観であったと思われる。種類数が多く豊富な樹種構成からなる森林構成は、砺波平野における特徴の一つでもある。富山県は海から山地までの距離が短く、勾配が急なため、狭い範囲の中に多くの植生をみることができる。このため、低地では様々な植生帯を反映した植物化石が流入し、種類数が豊富な植物化石群集となると考えられる。

開発が進むと、マツの二次林やスギの植林などが後背山地を中心に増加してきたことが伺われる。石川県鹿島町の石動山大宮坊で行われた寄生虫卵分析結果では、周辺植生に由来するとみられるスギ属花粉が多量に検出されている（金原ほか，1995)。また、羽咋市の吉崎・次場遺跡では、最上部でマツ属が卓越する層位がみられる（パリノ・サーヴェイ株式会社，1994)。このことから、中近世の宝達丘陵では、スギの植林やマツ二次林が分布を拡大していったことが推測される。ただし、桜町遺跡では、中・近世の結果が詳細に得られていないので、その開始時期を推定することは難しく、今後の課題である。

一方低地をみると、弥生時代以前にはハンノキ属やニレ属－ケヤキ属などからなる河畔林や湿地林が存在していたこと推測される。これは先に述べた各遺跡でも、同様な傾向として認められる。その後、古墳時代頃から草本花粉の割合が増加し、栽培植物のイネ属やソバ属の花粉化石が

検出されはじめることから、耕地の拡大に伴う森林の減少と草地の拡大が考えられる。弥生時代頃に相当する雀谷地区の花粉分析結果では、人為的な植生干渉を示唆するような傾向は認められていないが、今後舟岡地区の結果と併せて解析することにより、周辺植生と人との関わりの変遷が明らかにできるものと期待している。

引用文献

金原正明・金原正子・中村亮仁（1995）大宮坊跡（厠跡）における自然科学分析.「史跡石動山環境整備事業報告Ⅱ」, p.51－70, 石川県鹿島町教育委員会.

中村　純（1967）花粉分析. 232p.,古今書院.

中村　純（1974）イネ科花粉について, とくにイネ（*Oryza sativa*）を中心として. 第四紀研究, 13,p.187－193.

パリノ・サーヴェイ株式会社（1987）桜町遺跡（雀谷地区）花粉分析報告.「小矢部市埋蔵文化財調査報告書第21冊　富山県小矢部市桜町遺跡」, p.30－37, 小矢部市教育委員会.

パリノ・サーヴェイ株式会社（1991）布目沢東遺跡自然科学分析報告. 大門町埋蔵文化財調査報告第７集　大門町企業団地内遺跡発掘調査報告（１）　－布目沢東遺跡・布目沢西遺跡－. p.81－118., 富山県埋蔵文化財センター・大門町教育委員会.

パリノ・サーヴェイ株式会社（1994）吉崎・次場遺跡の古環境について.「吉崎・次場遺跡　第13次発掘調査」, p.135－164, 石川県羽咋市教育委員会.

徳永重元・山内輝子（1971）花粉・胞子.「化石の研究法」, p.50－73, 共立出版株式会社.

安田喜憲（1982a）花粉分析.「大門町埋蔵文化財報告第５集　小泉遺跡　－県道改修工事に伴う調査－」, p.48－62, 大門町教育委員会.

安田喜憲（1982b）花粉分析からみた富山湾沿岸の縄文前期の遺跡　－ナラ林文化と環日本海文化圏－.「大門町埋蔵文化財報告第５集　小泉遺跡　－県道改修工事に伴う調査－」, p.99－108, 大門町教育委員会.

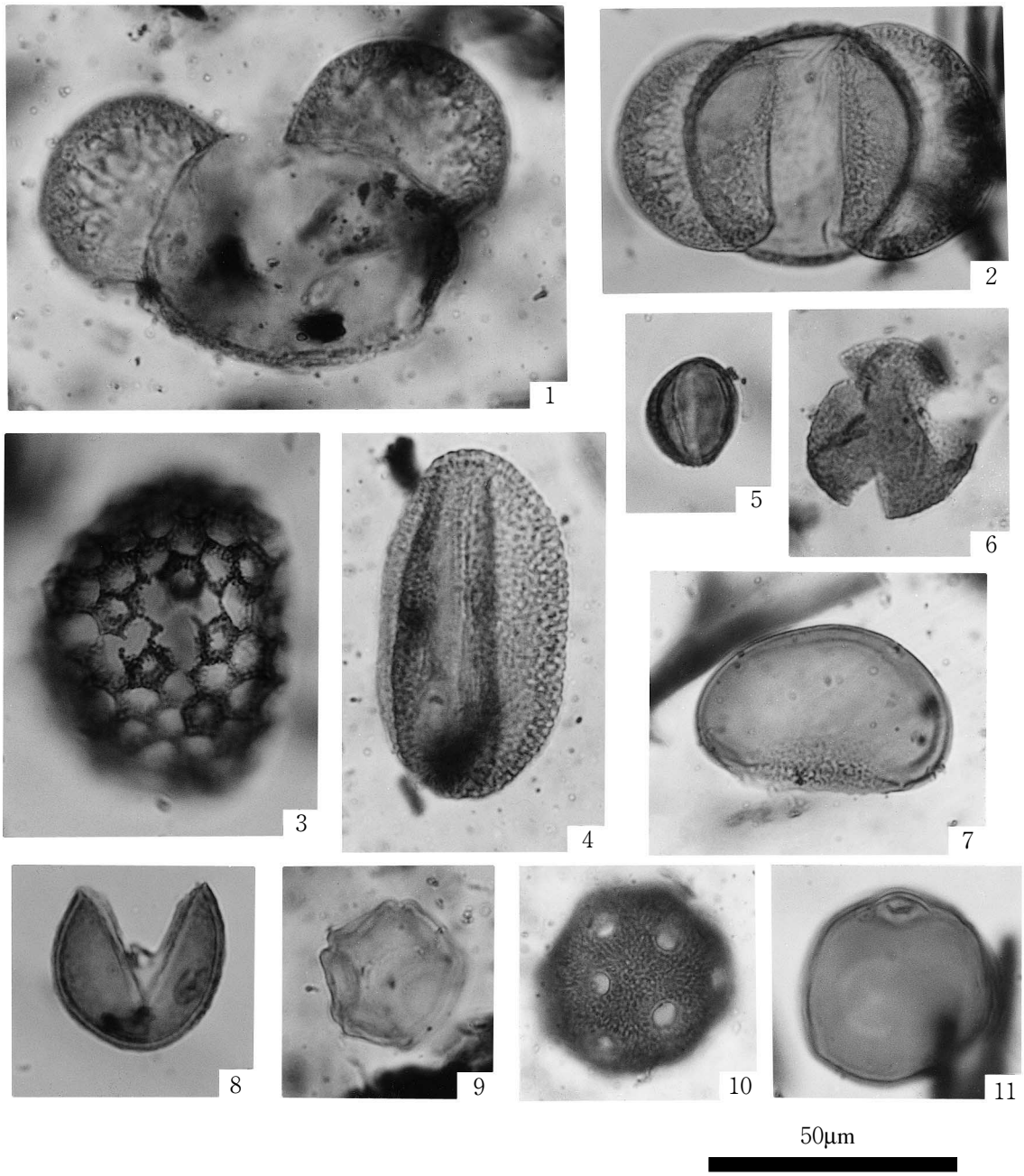
**編者注　地層の名称及び時代について**

本付載の地層の時代観は、調査時点での理解であり、第Ⅲ章から第Ⅴ章の説明とは異なる。地層の対比と時代観については、次表のように考えている。

**地層対比表**

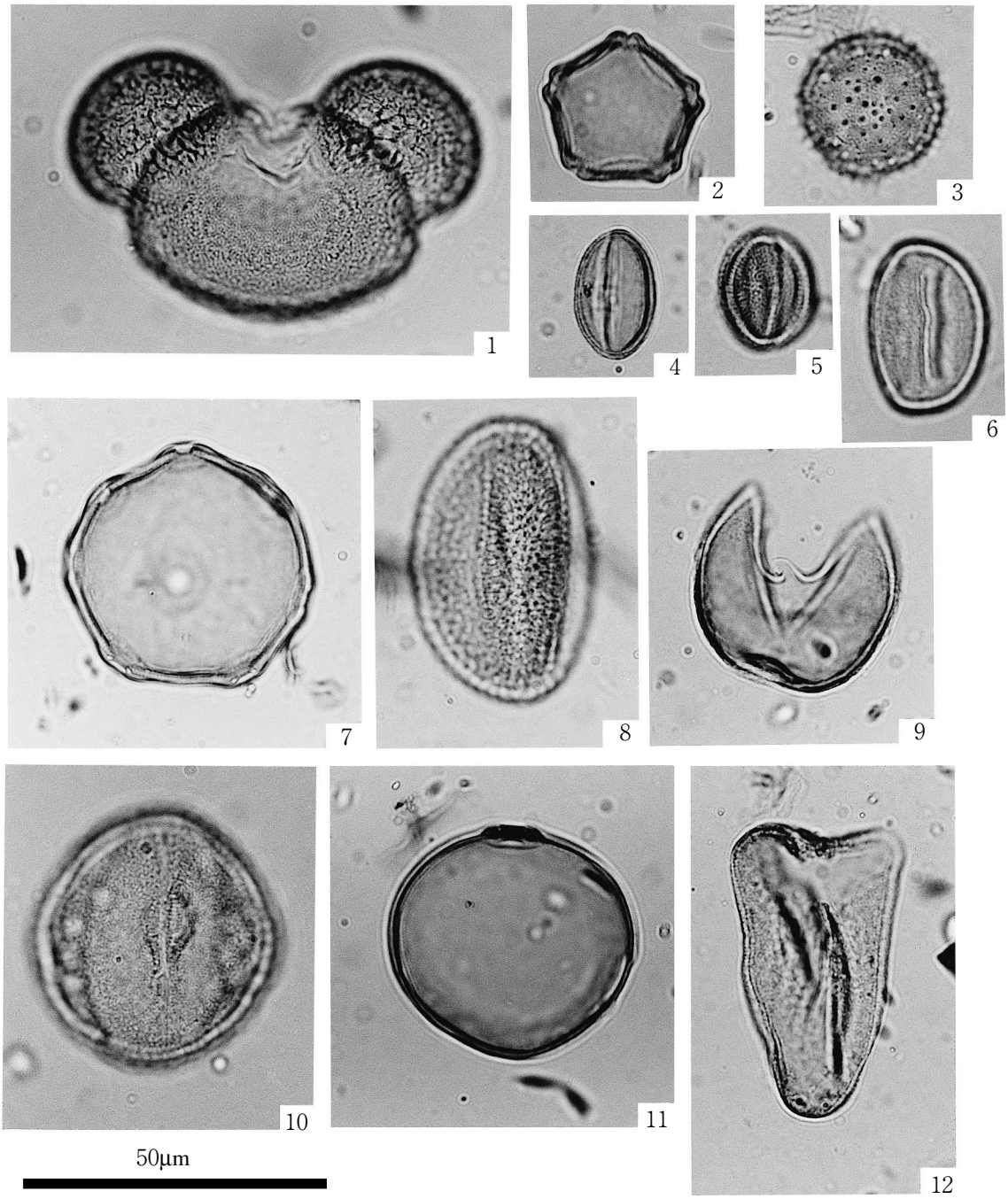
| 板東地区 | 産田地区 | 基本土層 | 時代 |
|---|---|---|---|
| １層耕土 | A層現耕土 | A層現耕土 | |
| | B層旧耕土 | B層旧耕土 | |
| ２層黄褐色土 | Ⅰ　層暗褐色土 | Ⅰ　層暗褐色土 | 中世・近世 |
| ３層褐色粘質土 | Ⅰa層暗灰色粘土 | Ⅰa層暗灰色粘土 | 平安中期以降 |
| ４層茶褐色粘質土 | | | 奈良・平安 |
| ５層灰青色粘質土 | Ⅱ層黄白色砂質土 | Ⅱ層黄白色砂質土 | 飛鳥 |
| ６層暗青灰色粘質土 | Ⅲ層暗灰色粘土 | Ⅲ層暗灰色粘土 | 弥生・古墳 |
| ７層青灰色粘質土 | Ⅳ層灰色粘土 | Ⅳ層灰色粘土 | 縄文 |
| | Ⅴ層黒灰色粘土 | Ⅴ層黒灰色粘土 | |
| ８層白色粘質土 | | | |

図版１　板東地区の花粉化石




１.マツ属（A 地点；１）
２.マツ属複維管束亜属（B 地点；２）
３.サナエタデ節－ウナギツカミ節（B 地点；２）
４.ソバ属（A 地点；２）
５.ヨモギ属（B 地点；４）
６.コナラ属コナラ亜属（A 地点；４）
７.シダ類胞子（A 地点；４）
８.スギ属（B 地点；２）
９.ハンノキ属（A 地点；２）
10.ナデシコ科（A 地点；５）
11.イネ科（B 地点；２）

図版２　産田地区の花粉化石




1.マツ属（試料番号２）
2.ハンノキ属（試料番号１）
3.オモダカ属（試料番号３）
4.シイノキ（試料番号３）
5.ヨモギ属（試料番号３）
6.コナラ属アカガシ亜属（試料番号１）
7.クルミ属（試料番号３）
8.ソバ属（試料番号５）
9.スギ属（試料番号３）
10.ブナ属（試料番号５）
11.イネ科（試料番号１）
12.カヤツリグサ科（試料番号３）

**表４－１　1984年度掘立柱建物一覧表(1)**

| 遺構名 | 棟・柵の方向 | 方位 | 柱間数 桁×梁 | 規模m桁×梁 床面積m² | 柱　間　m | | 柱根 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 桁　行 | 梁　行 | |
| SB01 | 南北 | N－22°－E | ３×２ | ６×4.2<br>25.2 | ２ | ２　2.2 | 柱根１本が残る、割材柱 |
| SB02 | 南北 | N－17°－E | ３×２ | 7.2×4.8<br>34.5 | ２.45　2.3 | 2.4 | 柱根６本が残る、割材柱 |
| SB03 | 東西 | N－83°－E | ３×２ | 5.3×3.6<br>19 | 1.3　1.6　1.9<br>2.1 | 1.7　1.9 | 柱根なし |
| SB04 | 南北 | N－34°－W | ２×２ | 3.8×3.2<br>12.1 | 1.9 | 1.6　1.8 | 総柱、柱根なし<br>掘方が大きい |
| SB05 | 東西 | N－75°－E | 5×3 | 8.5×5.4<br>45.9 | 1.1　1.4　1.5<br>1.7　1.9　2.1 | 1.6　1.7<br>1.8　1.9 | 柱根15本が残る、割材柱 |
| SB06 | 東西 | N－89°－W | ４×３<br>南桁５間 | ７×4.7<br>32.9 | １ 1.3 1.4 1.5<br>1.7　1.8　２ | 1.5　1.6<br>1.7 | 柱根６本が残る、割材柱 |
| SB07 | 東西 | N－78.5°－E | 不明 | 不明 | 1.2　1.5　1.6 | 1.3　1.6 | 柱根４本が残る、割材柱 |
| SB08 | 東西 | N－58°－E | ４×５ | 7.3×5.4<br>39.4 | 1.7　1.8　1.9 | 1.6　1.8<br>1.9　２ | 柱根14本すべてが残る<br>割材柱 |
| SB09 | 東西 | N－80°－E | ４×３ | 5×4.1<br>20.5 | 1.0　1.1　1.2<br>1.3　1.4　1.5 | 1.1　1.2<br>1.3　1.4<br>1.5 | 柱根７本が残る |
| SB10 | 南北 | N－20°－W | ４×２ | 5.8×4.4<br>25.5 | 1.6　1.7　1.8<br>2.4 | 2.2 | 柱根10本すべてが残る<br>割材柱 |
| SB11 | 東西 | N－81°－E | ４×３ | ７×５<br>35 | 1.5　1.6　1.7<br>1.8　1.9　２ | 1.5　1.6<br>1.7　1.9　２ | 柱根なし |
| SB12 | 東西か | N－78°－E | 不明 | 不明 | 1.6　1.7　1.9 | 1.6 | 柱根５本すべてが残る、<br>割材柱 |
| SB13 | 東西 | N－74°－E | ４×３ | 6.8×4.９<br>33.　3 | 1.5　1.6　1.9 | 1.5　1.6<br>1.7 | 柱根８本が残る、割材柱 |
| SB14 | 東西 | N－74°－E | ４×３ | 7.9×5.6<br>44.2 | 1.8　1.9　２ | 1.7　1.9<br>２ | 柱根14本すべてが残る<br>割材柱<br>柱が南に傾いている |
| SB15 | 東西か | N－60°－E | 不明 | 不明 | 1.3　1.5　1.8 | 1.3　1.4<br>1.7 | 柱根２本が残る、割材柱 |
| SB16 | 東西か | N－54°－E | 不明×４ | 不明×５ | 1.7 | 1.6　1.8 | 柱根５本が残る、割材柱 |
| SB17 | 東西 | N－47°－W | ３×２ | 4.2×3.3<br>13.8 | 0.8　0.9　1.5<br>1.7　1.8 | 1.6　1.7 | 柱根なし |
| SB18 | 南北 | N－30°－W | ３×２ | 4.4×4.1<br>18 | 1.3　1.4　1.5<br>1.6　1.7 | 1.8　1.9<br>２　2.1<br>2.2 | 総柱、柱根８本が残る<br>割材柱 |
| SB19 | 南北 | N－30.5°－W | ２×２ | 4.4×4<br>17.6 | 1.9　2.1　2.2<br>2.3 | 1.9　２ | 総柱、柱根６本が残る<br>割材柱 |
| SB20 | 南北か | N－24°－W | 不明×２ | 不明×3.4 | 2.3 | 1.6　1.8 | 柱根なし |
| SB21 | 南北か | N－25.5°－W | 不明×２ | 不明×3.9 | 1.8　2.3 | 1.8　2.1 | 柱根なし |
| SB22 | 東西 | N－70°－E | ２×２ | 3.2×2.9<br>9.2 | 1.5　1.7　1.8 | 1.3　1.4<br>1.5 | 柱根なし |
| SB23 | 南北 | N－21.5°－W | ３×２ | 3.2×3.3<br>10.5 | 0.9　１　1.3<br>1.6 | 1.5　1.7<br>1.8 | 総柱、柱根２本が残る<br>割材柱と芯持ち柱 |
| SB24 | 東西 | N－57°－W | ３×２ | 5.4×４<br>21 | 1.5　1.8　1.9<br>２ | 1.8　２<br>2.2 | 柱根５本が残る、割材柱 |
| SB25 | 南北 | N－24°－E | ２×２ | ４×3.8<br>15.　2 | ２ | 1.9 | 総柱、柱根３本が残る<br>割材柱 |
| SB26 | 東西 | N－50°－W | ３×２ | 4.7×４<br>18.8 | 1.5　1.6　1.7 | 1.8　２ | 柱根９本すべてが残る<br>割材柱と芯持ち柱がある<br>柱が西に傾いている |
| SB27 | 東西 | N－82°－E | ４×３ | 7.6×5.5<br>41.8 | 1.8　２ | 1.7　1.9 | 柱根１本が残る |
| SB28 | 南北 | N－40°－E | ４×３ | 6.4×4.4<br>28.1 | 1.1　1.4　1.5<br>1.7 | 1.2　1.4<br>1.5　1.8 | 柱根５本が残る、割材柱 |

**表４－２　1984年度掘立柱建物一覧表(2)**

| 遺構名 | 棟・柵の方向 | 方位 | 柱間数 桁×梁 | 規模m桁×梁 床面積㎡ | 柱　間　m 桁　行 | 梁　行 | 柱根 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SB29 | 南北 | N－51°－E | ４×３ | 6.3×4.3 27 | 1.1　1.5　1.6 1.7　1.8 | ２　2.1 2.2 | 柱根なし |
| SB30 | 東西 | N－52°－W | ２×２ | ４×3.4 13.6 | 1.8　２　2.1 | 1.6　1.7 | 柱根３本が残る |
| SB31 | 南北 | N－20°－W | ２×２ | ４×3.6 14.4 | 1.9　2.1 | 1.7　1.9 | 総柱、柱根なし |
| SB32 | 南北 | N－24°－E | ３×２ | 5.3×4.2 22.2 | 1.5　1.7　1.9 2.1 | ２　2.1 | 柱根５本が残る 柱は芯持ち柱 |
| SB33 | 南北 | N－33.5°－W | ２×２ | 3.6×3.6 12.9 | 1.7　1.8　1.9 | 1.7　1.8 1.9 | 総柱、柱根１本が残る |
| SB34 | 東西か | N－51°－W | 不明 | 不明 | 1.6　1.8　2.3 | 2.4 | 柱根３本が残る、割材柱 |
| SB35 | 南北 | N－36°－E | ３×２ | 5.4×3.8 20.5 | 1.4　1.5　1.6 1.8　2.3　2.4 | 1.9　２ | 柱根２本が残る、割材柱 |
| SB36 | 南北 | N－23°－E | ３×２ | 5.7×4.4 25 | 1.7　1.8　2.2 2.3 | 1.9　２ 2.2 | 柱根なし |
| SB37 | 南北 | N－56°－E | ３×２ | 5.1×４ 20.4 | 1.4　1.5　2.2 | 1.8　２ 2.1 | 柱根なし |
| SB38 | 南北 | N－５°－W | ４×２ | 4.8×4.5 21.6 | 0.8　１　1.2 1.3　1.4 | ２　2.3 2.4 | 柱根１本が残る |
| SB39 | 東西か | N－59°－W | 不明 | 不明 | 1.9　２ | | 柱根１本が残る |
| SB40 | 東西 | N－45°－W | ２×１ | 3.3×2.6 8.5 | 1.4　2.2　2.4 | 2.6 | 柱根なし |
| SB41 | 東西 | N－75°－E | ２×１ | 5.8×1.8 10.4 | 2.6　2.8　３ | 1.8 | 柱根１本が残る |

方位は北に対する主軸方向の角度を示した。

**表５－１　1985年度掘立柱建物一覧表(1)**

| 遺構名 | 棟・柵の方向 | 方位 | 柱間数 桁×梁 | 規模m桁×梁 床面積㎡ | 柱　間　m 桁　行 | 梁　行 | 柱根 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SB01 | 東西 | N－47.5°－W | ４×１ | 5.7×４ 22.8 | 1.3　1.4　1.5 | ４ | 柱根６本が残る、割材柱 平安 |
| SB02 | 南北 | N－30°－W | ４×２ | 5.8×4.1 23.7 | 1.3　1.4　1.5 | 1.3　1.4 | 柱根７本が残る、割材柱 |
| SB03 | 南北 | N－13°－E | ２×２ | 3.4×3.3 11.2 | 1.7 | 1.6　1.7 | 柱根２本が残る、割材柱 |
| SB04 | 南北 | N－17.5°－E | ２×２ | 3.6×3.6 12.9 | 1.8 | 1.7　1.9 | 総柱、礎板４枚が残る、割板 |
| SB05 | 南北 | N－４°－E | ３×２ | 5.6×4.2 23.5 | 1.8　２ | 2.1 | 柱根なし |
| SB06 | 南北 | N－11.5°－E | 不明×２ | 不明×4.1 | ２ | 1.4　1.7 | 柱根３本が残る、割材柱 |
| SB07 | 南北 | N－０° | ３×２ | 6.6×5 33 | 2.2 | 1.7　2.5 3.3 | 柱根２本が残る、割材柱 |
| SB08 | 南北 | N－3°－E | ３×２ | 7×5 35 | 2.2　2.3　2.4 | 2.5 | 柱根なし |
| SB09 | 南北 | N－12.5°－E | ３×２ | 6.5×5.1 33.1 | ２　2.1　2.2 2.3 | 1.9　2.4 2.7　3.2 | 柱根１本が残る |
| SB10 | 南北 | N－６°－E | ２×２ | ３×2.4 7.2 | 1.4　1.6 | 1.1　1.3 | 総柱、柱根なし |
| SB11 | 南北 | N－８°－W | ２×２ | 3.4×3.2 10.8 | 1.7　1.8 | 1.5　1.7 | 柱根７本が残る、割材柱 |
| SB12 | 南北 | N－14°－E | 不明×２ | 不明×3.4 | 2.1　2.2 | 1.6　1.8 | 柱根なし |
| SB13 | 南北 | N－７°－E | 不明×２ | 不明×4.8 | 2.1 | 2.4 | 柱根なし、周溝巡る |
| SB14 | 南北 | N－13.5°－E | ３×２ | 7.2×4.6 33.1 | 2.2　2.3　2.4 2.6 | 2.2　2.3 2.4 | 礎板５枚が残る、割板 |

## 表５－２　1985年度掘立柱建物一覧表(2)

| 遺構名 | 棟・柵の方向 | 方位 | 柱間数 桁×梁 | 規模m桁×梁 床面積㎡ | 柱　間　m 桁　行 | 梁　行 | 柱根 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SB15 | 東西か | N－81°－W | ３×不明 | 4.7×不明 | 1.5　1.6 | 1.7 | 柱根６本すべてが残る、割材柱 |
| SB16 | 南北 | N－10°－E | ３×２ | 4.6×3.9<br>17.9 | 1.2　1.3　1.6<br>1.7 | 1.7　2.2 | 柱根２本が残る、割材柱 |
| SB17 | 南北 | N－14°－E | ３×２ | 7×5<br>35 | 2.2　2.3　2.4<br>2.5 | 2.3　2.4<br>2.5　2.7 | 柱根１本が残る |
| SB18 | 南北 | N－19.5°－E | ３×２ | 4.5×3.7<br>16.6 | 1.4　1.7 | 1.8　1.9 | 柱根なし |
| SB19 | 東西か | N－81°－W | ２×２か | 3×2.4か<br>7.2か | 1.5 | 1　1.2 | 総柱か |
| SB20 | 南北 | N－２°－E | 不明×２ | 不明×4.2 | 1.3　1.4　1.5 | 2.1 | 柱根なし |
| SB21 | 南北 | N－13.5°－E | 不明×２ | 不明×4.9 | 2.4　2.5 | 2.1 | 柱根なし |
| SB22 | 南北 | N－15°－E | ２×２ | 3×3.8<br>11.4 | 1.9 | 1.5 | 柱根３本が残る、割材柱 |
| SB23 | 東西 | N－33°－W | ２×１ | 4.3×3.3<br>14.1 | 1.2　1.3　1.4<br>1.6　1.7 | 3.3 | 柱根なし |
| SB24 | 東西 | N－78.5°－E | ３×２ | 5.5×4.4<br>24.2 | 1.4　1.5　2.6 | 1.9　2.2<br>2.3 | 柱根６本が残る、割材柱 |
| SB25 | 南北 | N－８°－E | ３×２ | 5.9×4.6<br>27.1 | 1.8　1.9　2<br>2.1 | 2.2　2.4 | 柱根１本が残る、割材柱 |
| SB26 | 南北 | N－３°－W | ４×３か | 8.3×5.1<br>42.3 | 1.9　2　2.1 | 1.4　1.8 | 柱根２本が残る、割材柱 |
| SB27 | 東西 | N－86.5°－W | ３×２ | 4.6×3.1<br>14.2 | 1.2　1.4　1.6<br>1.8 | 1.4　1.7 | 柱根なし |
| SB28 | 南北 | N－16°－W | 不明×２ | 不明×3.6 | 1.9 | 1.7　1.9 | 柱根なし |
| SA01 | 東西 | N－88°－E | 2 | 3.85 | 1.85　2 | | 柱根１本が残る |
| SA02 | 南北 | N－1.5°－W | ４以上か | 8.3以上か | 1.9　2　2.2 | | |
| SA03 | 南北 | N－31°－E | ２以上か | 4.3以上か | 2　2.3 | | |
| SA04 | 東西 | N－90°－E | 2 | 3.1 | 1.5　1.6 | | 柱根２本が残る |
| SA05 | 東西 | N－80°－W | 3 | 5.4 | 1.4　2 | | |

## 表６　1986年度掘立柱建物一覧表

| 遺構名 | 棟・柵の方向 | 方位 | 柱間数 桁×梁 | 規模m桁×梁 床面積㎡ | 柱　間　m 桁　行 | 梁　行 | 柱根 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SB01 | 南北 | N－42°－E | ２×２ | 8.4×5.6<br>47 | 4　4.2 | 2.6　2.8 | 総柱、柱根９本が残る<br>芯持柱 |
| SB02 | 南北 | N－38°－E | ３×２ | 6.7×4.7<br>31.4 | 2　2.3　2.4<br>2.5 | 2.3　2.4 | 柱根なし |
| SB03 | 東西 | N－54°－W | １×１ | 3.4×2.6<br>8.8 | 3.4 | 2.6 | 柱根なし |
| SB05 | 東西 | N－52.5°－E | 1×1か | 3.8×2.2か<br>8.3か | 3.8 | 2.2か | 柱根3本すべてが残る |

## 表７－１　1987年度掘立柱建物一覧表(1)

| 遺構名 | 棟・柵の方向 | 方位 | 柱間数 桁×梁 | 規模m桁×梁 床面積㎡ | 柱　間　m 桁　行 | 梁　行 | 柱根 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SB01 | 東西 | N－66°－E | ２×２ | 4.7×3.4<br>15.9 | 2.35 | 1.6　1.8 | 総柱、柱根３本が残る |
| SB02 | 南北 | N－25.5°－W | 不明×２ | 不明×4.2 | 2.1　2.2 | 2.1 | 柱根なし |
| SB03 | 南北 | N－12°－E | 不明×２ | 不明×3.4 | 1.7　1.8 | 1.6　1.8 | 柱根なし |
| SB04 | 南北 | N－12°－W | 不明×２ | 不明×4 | 1.7　1.8　1.9<br>2 | 1.8　2.2 | 柱根なし |

**表７－２　1987年度掘立柱建物一覧表(2)**

| 遺構名 | 棟・柵の方向 | 方位 | 柱間数 桁×梁 | 規模m桁×梁 床面積$m^2$ | 柱　間　m 桁　行 | 梁　行 | 柱根 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SB05 | 南北 | N－26.5°－W | ３×２ | 6.7×5 33.5 | 2.3　2.4　2.6 2.7 | 2.2　2.3 | 柱根なし |
| SB06 | 南北 | N－25.5°－W | ３×２ | 6.3×4.8 30.2 | 2　2.1　2.3 | 2.3　2.4 2.5 | 柱根６本が残る、割材柱 |
| SB07 | 南北 | N－34°－W | ３×２ | 7.1×4.3 30.5 | 1.5　1.6　1.8 1.7　1.9　2 | 2.1　2.2 | 柱根なし |
| SB08 | 南北 | N－27°－W | ３×２ | 6.8×5.2 35.3 | 1.8　1.9　2 3.1　3.2 | 2.5　2.7 | 柱根７本が残る、割材柱 |
| SB09 | 東西 | N－10°－E | ２×２ | 3×3.1 9.3 | 1.3　1.5　1.7 | 1.4　1.7 | 柱根なし |
| SB10 | 南北 | N－33.5°－W | ４×２ | 9×4.8 43.2 | 1.8　2.2　2.4 2.6 | 2.4　2.7 | 柱根なし |
| SB11 | 南北 | N－13°－W | ３×２ | 7.2×5.6 40.3 | 2.1　2.3　2.5 2.6 | 2.8 | 柱根なし |
| SB12 | 南北 | N－6.5°－W | ３×２ | 6.7×5.3 35.5 | 2.9　3　3.7 3.8 | 2.6　2.7 | 柱根２本が残る、東側柱列上に細い柱２本残る |
| SB13 | 1985年度 SB26と同一建物 | | | | | | |
| SB14 | 南北 | N－52°－W | ３×２ | 3.6×3.4 12.2 | 1.1　1.2　1.3 | 1.6　1.8 | 柱根なし |
| SB15 | 南北か | N－33°－W | 不明×２ | 不明×4 | 3.7 | 2 | 柱根１本が残る |

**表８　1986年度調査区遺物取り上げ区割**

| | X54.4～55 | X55.1～55.5 | X55.6～56 | X56.1～56.4 | X56.5～57 | X57.1～57.5 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| Y87.1～87.5 | G－２ | G－１ | G－１ | | | |
| Y86.6～87 | D－５ | D－３ | D－１ | E－３ | E－１ | F |
| Y86.1～86.5 | | D－４ | D－２ | E－４ | E－２ | F |
| Y85.6～86 | | A | A | B－３ | B－１ | C－１ |
| Y85.1～85.5 | | A | A | B－４ | B－２ | C－２ |
| Y84.8～85 | | | | B－４ | B－２ | C－３ |

**表９　1987年度調査区遺物取り上げ区割**

| | X57.6～58 | X58.1～58.5 | X58.6～59 | X59.1～59.4 | X59.5～60 | X60.1～60.5 | X60.6～61 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Y86.5～87 | A－１ | B－１ | C－１ | D－１ | E－１ | F－１ | G－１ |
| Y86～86.5 | A－２ | B－２ | C－２ | D－２ | E－２ | F－２ | G－２ |
| Y85.5～86 | A－３ | B－３ | C－３ | D－３ | E－３ | F－３ | G－３ |
| Y85～85.5 | A－４ | B－４ | C－４ | D－４ | E－４ | F－４ | G－４ |
| Y84.5～85 | A－５ | B－５ | C－５ | D－５ | E－５ | F－５ | G－５ |

## 表10－１　1984年度遺物一覧表(1)

| 番号 | 種　類 | 器　種 | 出土遺構・地区・層位 | 大 き さ | 特　徴 | 時　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 弥生土器 | 甕 | X73.8Y82.2Ⅲ層 | 口径24cm<br>器高約33.5cm | 口唇部刻み、胴部内外ハケメ | 弥生中期後葉 |
| 2 | 須恵器 | 小型壺 | SB03－８ | 口径8.5cm | 口縁部やや内傾 | 飛鳥前期 |
| 3 | 〃 | 杯 | SB08－１、SK09 | 口径11cm、器高3.5cm | 蓋受け立ち上がりが低い<br>黒い砂粒 | 〃 |
| 4 | 〃 | 高杯 | SB11 | 口径13.4cm、器高13cm | 脚に２段の透かし | 〃 |
| 5 | 土師器 | 製塩土器 | SB18 | | 棒状尖底型 | 飛鳥 |
| 6 | 須恵器 | 杯蓋 | SB26 | 口径11cm、器高４cm | 口縁部に沈線 | 〃 |
| 7 | 土師器 | 小型甕 | SK02 | 口径11cm、器高16cm | 底部が平底傾向 | 飛鳥中期か |
| 8 | 須恵器 | 高杯か | SK04 | 口径10cm | 杯部が浅い | 飛鳥前期か |
| 9 | 〃 | 堤瓶 | 〃 | 口径10.5cm | 頸部に沈線が巡る | 〃 |
| 10 | 〃 | 〃 | 〃 | 口径8.5cm | 胴部に環状把手が付く | 〃 |
| 11 | 土師器 | 甕 | SK06 | 口径25cm | 口縁部が外反<br>胴部の膨らみが小さい | 飛鳥後期 |
| 12 | 〃 | 小型甕 | 〃 | 口径13.6cm | 口縁部が内傾ぎみに立つ | 〃 |
| 13 | 〃 | 小型壺 | 〃 | 口径7.5cm、器高６cm | 口縁部短く反る | 〃 |
| 14 | 〃 | 台部 | 〃 | 台径11.5cm | 台端部面取り | 〃 |
| 15 | 〃 | 製塩土器 | 〃 | 口径12cm | 棒状尖底型 | 〃 |
| 16 | 〃 | 把手付甕 | 〃 | 口径28cm、器高25cm | 底部が平底傾向 | 〃 |
| 17 | 土製品 | 土錘 | 〃 | 長さ６cm、径４cm | 棒状 | 〃 |
| 18 | 土師器 | 甕 | SK08 | 口径19cm | 口縁部がくの字に開く<br>胴部の膨らみが小さい | 〃 |
| 19 | 〃 | 〃 | 〃 | 口径16.2cm | 口縁部が立ちぎみに開く<br>胴部の膨らみが大きい | 飛鳥前期 |
| 20 | 〃 | 〃 | SK10 | 口径18cm | 胴部の膨らみが大きい<br>内面ヘラミガキ | 〃 |
| 21 | 須恵器 | 杯蓋 | 不明 | 口径14cm、器高４cm | 口径が大きい | 〃 |
| 22 | 〃 | 〃 | X72.1Y83.2Ⅱ層<br>X72.5Y83.2Ⅲ層 | 口径11.5cm、器高3.6cm | 口径が小さい | 〃 |
| 23 | 〃 | 〃 | X70.7Y83.2Ⅰ層<br>X72Y83.6Ⅱ層 | 口径12.5cm、器高3.4cm | 口径が小さい<br>黒い砂粒 | 〃 |
| 24 | 〃 | 杯 | X73.4Y83.1Ⅱ層<br>X72.9Y82.8Ⅲ層 | 口径10cm、器高3.4cm | 立ち上がりが低い | 〃 |
| 25 | 〃 | 〃 | X68.2Y84.6Ⅱ層 | 口径10cm、器高2.4cm | 皿状 | 〃 |
| 26 | 〃 | 杯蓋 | X70.5Y83.3Ⅰ層<br>X70.2Y83.3Ⅲ層 | 口径9.4cm、器高3.4cm | 内面にかえり<br>宝珠つまみ | 飛鳥中期 |
| 27 | 〃 | 〃 | X70.1Y83.2Ⅰ層<br>X70.7Y82.5Ⅲ層 | 口径10.6cm、器高3.4cm | 〃 | 〃 |
| 28 | 〃 | 〃 | X71.1Y83.4Ⅱ層 | 口径10.6cm、器高３cm | 〃 | 〃 |
| 29 | 〃 | 〃 | 試掘Ｈ－９ | 口径11cm | 〃 | 〃 |
| 30 | 〃 | 〃 | X75Y81.9Ⅱ層 | 口径13cm | 内面に小さいかえり | 飛鳥後期 |
| 31 | 〃 | 杯 | 不明 | 口径7.8cm、器高3.4cm | 口径が小さい | 飛鳥中期 |
| 32 | 〃 | 〃 | X70.2Y83.4Ⅲ層 | 口径8.5cm、器高3.8cm | 口径が小さい | 〃 |
| 33 | 〃 | 〃 | X70.2Y83.3Ⅲ層 | 口径10cm、器高4.5cm | 口縁部に段ある<br>白い砂粒 | 〃 |
| 34 | 〃 | 高杯 | X70.5Y83.8Ⅲ層 | 口径10cm、器高約6.7cm | 杯部椀状 | 〃 |

**表10－２　1984年度遺物一覧表(2)**

| 番号 | 種　類 | 器　種 | 出土遺構・地区・層位 | 大きさ | 特　徴 | 時　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 35 | 須恵器 | 台付鉢 | 不明 | 口径12.6cm、<br>器高約10.8cm | 鉢部がコップ状 | 飛鳥中期 |
| 36 | 〃 | 〃 | X70.7Y83.1Ⅲ層<br>X71.4Y82.8 | 口径12cm<br>器高約13.4cm | 鉢部がコップ状<br>脚に１段透かし | 〃 |
| 37 | 〃 | 高杯 | X72.4Y83.1Ⅱ層 | 口径10cm | 杯部に２条の沈線が巡る | 〃 |
| 38 | 〃 | 〃 | X68.9Y85Ⅲ層 | 台部径7.5cm | 脚端部に稜 | 〃 |
| 39 | 〃 | 〃 | X73.8Y82.7Ⅲ層 | 台部径9.4cm | 脚に２段透かし | 飛鳥前期 |
| 40 | 〃 | 瑞 | X73Y82.8Ⅲ層 | 胴部径11cm | 頸部が細い、胴部に穴 | 〃 |
| 41 | 〃 | 平瓶 | X70.6Y83Ⅲ層１<br>X70.9Y83.1他 | 口径9.6cm | 頸部に２条の沈線が巡る | 〃 |
| 42 | 〃 | 壺 | X70.1Y83.3 | 口径9.5cm | 口縁部内湾ぎみ | 〃 |
| 43 | 〃 | 壺 | 不明 | | ヘラ書き土器「斎□」 | 〃 |
| 44 | 〃 | 甕 | X70.4Y84.1<br>X72.5Y83.7他 | 口径23.6cm | 口縁部肥厚 | 〃 |
| 45 | 〃 | 甕 | X71.2Y83.6Ⅰ・Ⅲ層 | 口径30cm | 口縁部肥厚、口頸部内面にヘラ書き「×」 | 〃 |
| 46 | 〃 | 〃 | X69.5Y84.5Ⅲ層 | | 口縁部肥厚 | 〃 |
| 47 | 土師器 | 〃 | X73.2Y83 | 口径24cm | 口縁部外反、胴部張る | 〃 |
| 48 | 〃 | 〃 | X73.2Y82.5 | 口径19cm、器高約23cm | 〃　長胴化 | 飛鳥後期 |
| 49 | 〃 | 〃 | X68.7Y84.2Ⅲ層 | 口径26.6cm | 〃　〃 | 飛鳥中期 |
| 50 | 〃 | 〃 | SK06 | 口径21.4cm | 〃　〃 | 〃 |
| 51 | 〃 | 〃 | X65.5Y84.6 | 口径13.8cm | 〃 | 〃 |
| 52 | 〃 | 製塩土器 | X73.5Y83.2 | | 棒状尖底型 | 〃 |
| 53 | 〃 | 〃 | X73.2Y83.1 | | 〃 | 〃 |
| 54 | 〃 | 〃 | X70.5Y84.5 | | 〃 | 〃 |
| 55 | 土製品 | 支脚 | X73.3Y83.7Ⅱ層 | 長さ9.6cm、太さ3.8cm | 棒状 | 〃 |
| 56 | 〃 | 土錘 | X73Y82.3 | 長さ4.4cm、太さ3.8cm | 紡錘形 | 奈良か |
| 57 | 〃 | 〃 | X74.6Y83 | 長さ４cm、太さ1.2cm | 管形 | 〃 |
| 58 | 〃 | 〃 | X71.8Y82.7 | 長さ６cm、太さ2.8cm | 太い管形 | 〃 |
| 59 | 須恵器 | 大型甕 | X70.6Y84.6Ⅲ層<br>X70.6Y84.5 | 口径21cm | 口縁部肥厚、頸部に櫛歯波状文とヘラ書き「×」 | 飛鳥 |
| 60 | 〃 | 〃 | X71.5Y83.5 | 口径33cm、器高67cm | 口縁部肥厚、頸部に櫛歯列点文 | 〃 |
| 61 | 〃 | 〃 | X70.3Y83.4 | 口径26.5cm | 口縁部肥厚 | 〃 |
| 62 | 〃 | 〃 | X71.2Y83.6Ⅲ層 | 口径23cm | 口縁部肥厚、頸部内面にヘラ書き「×」 | 〃 |
| 63 | 〃 | 〃 | X73.4Y83.1Ⅲ層 | 口径21cm | 口頸部立つ、胴部に環状把手 | 〃 |
| 64 | 〃 | 杯蓋 | X70.5Y83.1Ⅲ層<br>X70.2Y83.3Ⅲ層 | 口径15.3cm、器高3.6cm | 口縁端部嘴状 | 奈良前期 |
| 65 | 〃 | 〃 | X70.8Y83.9Ⅲ層<br>X71.9Y83.6Ⅲ層 | 口径18.6cm、器高3.2cm | 口縁端部三角 | 〃 |
| 66 | 〃 | 〃 | X75.6Y82.5Ⅰ・Ⅱ層 | 口径17.4cm | 〃 | 〃 |
| 67 | 〃 | 〃 | X70.2Y84.2Ⅱ層<br>X70.3Y84.2 | 口径15.4cm、器高３cm | 〃 | 〃 |
| 68 | 〃 | 〃 | X70.9Y84.3<br>X70.8Y84.5他 | 口径17.6cm、器高3.7cm | 口縁端部丸い | 奈良中期 |

**表10－３　1984年度遺物一覧表(3)**

| 番号 | 種　類 | 器　種 | 出土遺構・地区・層位 | 大きさ | 特　徴 | 時　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 69 | 須恵器 | 杯蓋 | X74.8Y83.1Ⅲ層 | 口径12cm、器高3.8cm | 口縁端部立つ | 奈良中期 |
| 70 | 〃 | 〃 | 不明 | 口径11cm、器高３cm | 口縁端部小さい | 平安初期 |
| 71 | 〃 | 〃 | X69.6Y83.8Ⅰ・Ⅲ層 | 口径15cm | 口縁端部折れる | 〃 |
| 72 | 〃 | 〃 | X71.1Y84.1Ⅲ層<br>X71.6Y83 | 口径12.2cm | 〃 | 〃 |
| 73 | 〃 | 壺蓋か | X68.7Y84Ⅰ層 | 口径18cm | 口縁端部長い | 奈良前期 |
| 74 | 〃 | 高台杯 | X69.1Y83.8Ⅰ層<br>X69.5Y83.1他 | 口径17.5cm、器高4.8cm | 底部境丸く体部開く<br>高台高い | 〃 |
| 75 | 〃 | 〃 | X70.3Y83.9Ⅲ層<br>X70.5Y84.9Ⅲ層 | 口径15.6cm、器高4.5cm | 底部境丸く体部開く<br>黒い砂粒 | 〃 |
| 76 | 〃 | 〃 | X72.1Y83.8Ⅲ層<br>X71.5Y83.8Ⅰ・Ⅲ層 | 口径17.4cm、器高４cm | 底部境丸く体部開く | 〃 |
| 77 | 〃 | 杯 | X74.2Y83.2Ⅲ層 | 口径11cm、器高3.6cm | 底部境に稜、白い砂粒 | 奈良中期 |
| 78 | 〃 | 〃 | X82.6Y83.2Ⅰ層<br>X72.6Y83.5Ⅲ層 | 口径11.2cm、器高３cm | 〃 | 〃 |
| 79 | 〃 | 〃 | X68.4Y83.4Ⅰ層 | 口径13cm、器高2.9cm | 底部平坦、口縁開く | 平安初期 |
| 80 | 〃 | 〃 | X74.7Y82.3耕土～Ⅰ層 | 口径13cm、器高３cm | 底部境に稜 | 奈良中期 |
| 81 | 〃 | 〃 | 不明 | 口径12cm、器高3.2cm | 底部境に稜、口縁開く | 奈良後期 |
| 82 | 〃 | 壺蓋 | X70.2Y83Ⅲ層 | 口径9.6cm | 口縁端部鋭い | 奈良前期 |
| 83 | 〃 | 無頸壺 | X68.1Y84.1Ⅲ層 | 口径5.5cm | 口唇面内傾 | 奈良 |
| 84 | 〃 | 鉢 | X72.8Y82.8Ⅲ層 | 口径13.4cm、器高13cm | 口縁肥厚、体部２条沈線 | 奈良前期 |
| 85 | 〃 | 双耳瓶 | X73Y83.7Ⅱ層 | 底径11cm | 胴部に環状把手 | 奈良後期 |
| 86 | 〃 | 台付長頸瓶 | X67.4Y85.2耕土<br>X70.5Y83 | 口径8.4cm、器高22.2cm | 体部肩張る、高台高い | 奈良前期 |
| 87 | 珠洲 | 甕 | X71.5Y83.2Ⅱ層 | | 口縁部嘴頭、珠洲Ⅰ期 | 鎌倉前半 |
| 88 | 〃 | 〃 | X69.3Y83.3Ⅰ層 | | 口縁部方頭、珠洲Ⅳ期 | 南北朝 |
| 89 | 〃 | 〃 | X70.4Y84.1Ⅰ・Ⅲ層 | | 口縁部引出し、珠洲Ⅱ期 | 鎌倉前半 |
| 90 | 〃 | 〃 | X75.7Y81.4Ⅰ・Ⅲ層 | | 〃　〃 | 〃 |
| 91 | 〃 | 〃 | 不明 | | 口縁部方頭、珠洲Ⅴ期 | 室町 |
| 92 | 〃 | 〃 | X69.9Y83.8Ⅰ層 | | 〃　〃 | 〃 |
| 93 | 〃 | すり鉢 | X72Y83.3Ⅲ層<br>X72.2Y83.5Ⅰ層 | | 口縁部内端尖る、印花文刻印、珠洲Ⅱ期 | 鎌倉前半 |
| 94 | 〃 | 〃 | X70.4Y84.3Ⅲ層 | | 口縁部内端尖る、卸し目間隔あく、珠洲Ⅱ期 | 〃 |
| 95 | 〃 | 〃 | 不明 | | 口唇部水平、珠洲Ⅲ期 | 鎌倉後半 |
| 96 | 〃 | 〃 | X70.5Y83.1Ⅲ層 | | 口唇部外傾、珠洲Ⅲ期 | 〃 |
| 97 | 〃 | 〃 | X68.7Y84.4Ⅱ層 | | 口唇部に櫛目波状文<br>珠洲Ⅴ期 | 室町 |
| 98 | 〃 | 〃 | X71.5Y84Ⅰ・Ⅲ層 | | 口縁部三角頭、断面に漆付着、珠洲Ⅳ期 | 南北朝 |
| 99 | 〃 | 〃 | X74.8Y82.6Ⅱ層 | | 幅広口唇部に櫛目波状文<br>珠洲Ⅴ期 | 室町 |
| 100 | 〃 | 〃 | X69.1Y84.2Ⅲ層 | | 口唇部幅広内傾、珠洲Ⅴ期 | 〃 |
| 101 | 土師器 | 小皿 | X74.5Y83耕土 | 口径９cm、器高1.6cm | 手づくね、口縁部立つ | 南北朝 |
| 102 | 〃 | 〃 | X74.5Y83.5Ⅰ層 | 口径9.4cm、器高1.6cm | 〃　〃 | 〃 |

**表10－4　1984年度遺物一覧表(4)**

| 番号 | 種　類 | 器　種 | 出土遺構・地区・層位 | 大きさ | 特　徴 | 時　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 103 | 土師器 | 小皿 | X68.4Y84.5 | 口径8.8cm、器高1.8cm | 手づくね、口縁部外反し底部との境に稜をなす | 室町 |
| 104 | 〃 | 〃 | X71.6Y83.1Ⅰ層 | 口径10.5cm、器高1.9cm | 手づくね、口縁部外反 | 〃 |
| 105 | 瀬戸美濃 | 天目茶碗 | X75.8Y82.7 | 口径約10.8cm | 鉄釉 | 戦国 |
| 106 | 〃 | 〃 | X73.9Y83.2Ⅰ層 | 底径4.4cm | 〃 | 〃 |
| 107 | 〃 | 〃 | X60.9Y84.2 | 底径４cm | 〃 | 〃 |
| 108 | 〃 | 茶入れ | X72Y84.5 | 底径3.5cm | 底部、灰釉 | 〃 |
| 109 | 青磁 | 椀 | X70.1Y83.3Ⅰ層 | 口径16.8cm | 体部外面に鎬蓮弁文 | 鎌倉 |
| 110 | 〃 | 〃 | X73.2Y82.7Ⅲ層 | 底径6.2cm | | 室町 |
| 111 | 〃 | 〃 | 不明 | 底径８cm | | 〃 |
| 112 | 白磁 | 皿 | X69.5Y84.5表土・Ⅱ層 | | 口縁部端反り | 戦国 |
| 113 | 〃 | 〃 | X72.5Y83.4Ⅱ層 | 底径6.5cm | | 室町 |
| 114 | 〃 | 〃 | 不明 | 底径4.4cm | 裏面に墨書「++」 | 〃 |
| 115 | 〃 | 〃 | X70.6Y82.8Ⅱ層 | 底径7.2cm | | 〃 |
| 116 | 瀬戸美濃 | 椀 | X70.1Y84.1Ⅲ層 | 口径9.2cm | 鉄釉 | 戦国 |
| 117 | 唐津 | 〃 | X70.2Y83.7Ⅰ層 | 口径12.2cm、器高６cm | 灰釉（暗緑色） | 江戸前期 |
| 118 | 〃 | 〃 | X68.6Y83.6Ⅰ層 | 底径4.4cm | 〃 | 〃 |
| 119 | 越中瀬戸 | 皿 | X74.4Y83.1Ⅱ層 | 口径9.8cm、器高2.4cm | 灰釉 | 〃 |
| 120 | 〃 | 〃 | X70Y83.5 | 口径11cm | 〃 | 〃 |
| 121 | 唐津 | 〃 | X74Y87Ⅱ層 | 底径4.6cm | 〃　底部に墨書「□」 | 〃 |
| 122 | 〃 | 〃 | X68.7Y83.4Ⅰ層 | 底径４cm | 〃　底部に釉薬で「〆」 | 〃 |
| 123 | 越中瀬戸 | 〃 | X69Y88.3 | 口径10.8cm、器高2.6cm | 〃 | 〃 |
| 124 | 〃 | 〃 | X70.1Y83.7 | 口径10cm、器高2.6cm | 〃 | 〃 |
| 125 | 唐津 | 〃 | X76.5Y83Ⅰ層 | 底径4.4cm | 〃　底部に釉薬で「〆」 | 〃 |
| 126 | 越中瀬戸 | すり鉢 | SD01X70.5Y84溝 | | 鉄釉 | 戦国 |
| 127 | 土製品 | 土錘 | X74Y83Ⅲ層 | 長さ4.2cm、径3.5cm | 紡錘形 | 奈良 |
| 128 | 〃 | 〃 | X73.6Y81.1 | 長さ3.6cm、径3.3cm | 〃 | 〃 |
| 129 | 〃 | 〃 | 不明 | 長さ３cm、径2.9cm | 〃 | 〃 |
| 130 | 〃 | 〃 | X73Y82Ⅱ層 | 長さ4.2cm、径3.7cm | 〃 | 〃 |
| 131 | 〃 | 〃 | Ⅲ層 | 長さ４cm、径3.2cm | 〃 | 〃 |
| 132 | 〃 | 〃 | X68.1Y84.3Ⅰ～Ⅱ層 | 長さ4.1cm、径３cm | 〃 | 〃 |
| 133 | 〃 | 〃 | X73.9Y82.3Ⅱ層 | 長さ3.2cm、径3.8cm | 〃 | 〃 |
| 134 | 〃 | 〃 | X73.8Y83Ⅱ層 | 長さ7.2cm、径3.1cm | 長い筒状 | 〃 |
| 135 | 〃 | 〃 | X74.9Y83.4Ⅱ層 | 径3.2cm | 〃 | 〃 |
| 136 | 〃 | 〃 | X70.2Y84.2Ⅱ層 | 径3.5cm | 〃 | 〃 |
| 137 | 銅製品 | 耳環(銀環) | X72Y83.1Ⅱ層 | 環径2.85cm、管径５mm | 断面隅丸方形 | 飛鳥 |
| 138 | 〃 | 〃 | X72.5Y83.1Ⅳ層 | 環径2.7cm、管径5.5mm | 〃 | 〃 |
| 139 | 木製品 | 柱 | SB05－６ | 太さ12.6cm | 割材、クリ | 〃 |
| 140 | 〃 | 〃 | SB08－７ | 太さ14.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 141 | 〃 | 〃 | SB08－８ | 太さ17.4cm | 〃　〃 | 〃 |
| 142 | 〃 | 〃 | SB10－２ | 太さ12cm | 〃　〃 | 奈良 |
| 143 | 〃 | 〃 | SB14－３ | 太さ12.5cm | 〃　〃 | 飛鳥 |
| 144 | 〃 | 〃 | SB13－１ | 太さ15cm | 〃　〃 | 〃 |
| 145 | 〃 | 〃 | SB08－12 | 太さ18.5cm | 〃　〃 | 〃 |
| 146 | 〃 | 〃 | SB08－13 | 太さ17.3cm | 〃　〃 | 〃 |
| 147 | 〃 | 〃 | SB14－７ | 太さ14cm | 〃　〃 | 〃 |
| 148 | 〃 | 〃 | SB12－３ | 太さ11.2cm | 〃　〃 | 〃 |

## 表10－５　1984年度遺物一覧表(5)

| 番号 | 種　類 | 器　種 | 出土遺構・地区・層位 | 大 き さ | 特　徴 | 時　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 149 | 木製品 | 柱 | SB26－８ | 太さ12.4cm | 芯持材、クリ | 奈良 |
| 150 | 須恵器 | 杯蓋 | X67.9Y84.7 | 口径10.6cm、器高3.5cm | 口径小さい | 飛鳥前期 |
| 151 | 〃 | 杯 | X73.7Y83.1 | 口径13cm、器高４cm | 立ち上がり小さい | 〃 |
| 152 | 〃 | 〃 | X70.8Y83 | 口径13.8cm、器高3.7cm | 〃 | 〃 |
| 153 | 〃 | 〃 | X71.7Y83.5 | 口径12.9cm、器高3.5cm | 〃 | 〃 |
| 154 | 〃 | 甕 | X70.7Y84.5 | 胴径60cm | 胴部肩やや張る | 〃 |
| 155 | 〃 | 杯 | 不明 | 口径12cm、器高３cm | 底部に丸み | 奈良中期 |
| 156 | 〃 | 羽口 | X73.6Y83.1Ⅱ層 | | 溶解発泡している | 古代 |
| 157 | 〃 | 〃 | X73.2Y83.1Ⅱ層 | | 〃 | 〃 |
| 158 | 石製品 | 砥石 | X68.3Y84.5Ⅲ層 | 厚さ3.7cm | 断面四角形、凝灰岩 | 古代か |
| 159 | 欠　番 | | | | | |
| 160 | 珠洲 | 壺 | X75Y83耕土 | | 彩杉状叩き目、珠洲Ⅲ期 | 鎌倉後期 |
| 161 | 〃 | 〃 | X76Y82.9Ⅰ・Ⅱ層 | | 〃 | 〃 |
| 162 | 珠洲か | 〃 | X68Y84.4表土・Ⅰ層 | | 外面黒色、生焼け品か | 南北朝か |
| 163 | 青磁 | 椀 | 不明 | | 口縁部外反 | 室町 |
| 164 | 〃 | 〃 | 表採 | | 〃 | 〃 |
| 165 | 〃 | 〃 | X72Y82.6 | | 体部 | 〃 |
| 166 | 〃 | 皿 | 不明 | | 稜花皿 | 戦国 |
| 167 | 白磁 | 〃 | X75Y82耕土 | | 口縁部端反り | 〃 |
| 168 | 〃 | 壺か | 不明 | | 肩部か | 〃 |
| 169 | 〃 | 皿 | X69.5Y83.1Ⅲ層 | | 碁笥底 | 〃 |
| 170 | 瀬戸美濃 | 天目茶椀 | X72Y83 | | 鉄釉 | 〃 |
| 171 | 〃 | 〃 | X67.2Y84.3 | | 〃 | 〃 |
| 172 | 〃 | 〃 | 不明 | | 〃 | 〃 |
| 173 | 〃 | 〃 | 〃 | | 〃 | 〃 |
| 174 | 〃 | 〃 | X75Y81.8 | | 〃 | 〃 |
| 175 | 越中瀬戸 | 皿 | 不明 | | 菊花文 | 〃 |
| 176 | 〃 | 〃 | X76.5Y83 | | 灰釉 | 〃 |
| 177 | 銅銭貨 | 洪武通寶 | 不明 | 径2.3cm | | 中世 |

## 表11－１　1985年度遺物一覧表(1)

| 番号 | 種　類 | 器　種 | 出土遺構・地区・層位 | 大 き さ | 特　徴 | 時　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 弥生土器 | 甕 | SD01H区 | 口径15cm、器高17.5cm | 有段口縁 | 弥生後期 |
| 2 | 〃 | 〃 | 〃 | 口径14cm、器高14.8cm | 〃 | 〃 |
| 3 | 〃 | 〃 | 〃 M区 | 口径12cm、器高13.8cm | 〃　焼成後底部穿孔 | 〃 |
| 4 | 〃 | 〃 | 〃 | 口径17.8cm | 〃 | 〃 |
| 5 | 〃 | 〃 | 〃 | 口径16cm、器高約19cm | 〃 | 〃 |
| 6 | 〃 | 〃 | 〃 | 口径17.5cm<br>器高27.4cm | 〃 | 〃 |
| 7 | 〃 | 〃 | 〃 | 口径17.6cm | 〃 | 〃 |
| 8 | 〃 | 〃 | 〃 | 口径14.8cm | 有段口縁に擬凹線 | 〃 |
| 9 | 〃 | 長頸壺 | 〃 X63.2Y85.8 | 口径15cm | 有段口縁 | 〃 |
| 10 | 〃 | 鉢 | 〃 | 口径28cm | 有段口縁（幅広）、内外面に赤彩 | 弥生終末期 |
| 11 | 〃 | 小型鉢 | 〃 H区 | 口径10.6cm、器高5.8cm | 底部あげ底、茶色の砂粒 | 弥生後期 |
| 12 | 〃 | 器台 | 〃 M区 | 口径24cm、器高18.4cm | 台部に円形スタンプ文 | 〃 |

## 表11－２　1985年度遺物一覧表(2)

| 番号 | 種　類 | 器　種 | 出土遺構・地区・層位 | 大 き さ | 特　徴 | 時　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 13 | 土師器 | 甕 | SE01 | 口径13.4cm、器高24cm | 有段口縁、底部丸底 | 古墳前期 |
| 14 | 〃 | 壺 | 〃 | 口径12.6cm<br>器高21.8cm | くの字口縁、端部面取り<br>胴部丸い、底部上げ底 | 〃 |
| 15 | 弥生土器 | 甕 | X63.6Y85.2 | 口径18cm | 有段口縁に擬凹線 | 弥生後期 |
| 16 | 〃 | 〃 | X61.2Y86Ⅱ層 | 口径12cm | 有段口縁（幅広） | 〃 |
| 17 | 〃 | 〃 | X61.7Y85.4Ⅱ層 | 口径17cm | 〃 | 弥生終末期 |
| 18 | 〃 | 〃 | X61.2Y85.5Ⅱ層 | 口径19cm | 〃 | 〃 |
| 19 | 〃 | 〃 | 試掘Ｆ－10Ｗ | 口径18cm | 〃 | 〃 |
| 20 | 〃 | 〃 | 試掘Ｅ－11 | 口径16cm、器高14.7cm | くの字口縁 | 〃 |
| 21 | 〃 | 〃 | X61.5Y86Ⅱ層 | 口径16cm | 〃 | 〃 |
| 22 | 土師器 | 〃 | X61.2Y85.5Ⅱ層 | 口径16.2cm | 〃 | 古墳初期 |
| 23 | 〃 | 〃 | X63.5Y84.7Ⅲ層 | 口径17cm | 〃 | 〃 |
| 24 | 〃 | 細頸壺 | X65.4Y84.9 | 口径8.4cm | 〃 | 弥生終末期 |
| 25 | 〃 | 壺 | X82.1Y85.1Ⅰ～Ⅱ層 | 口径27cm | 有段口縁が外反 | 古墳前期 |
| 26 | 〃 | 〃 | X61.5Y84Ⅱ層 | 口径18cm | くの字口縁の内面肥厚 | 〃 |
| 27 | 弥生土器 | 蓋 | 試掘Ｆ－10Ｗ | 紐径3.2cm | 赤彩か | 弥生終末期 |
| 28 | 土師器 | 小型器台 | 試掘Ｅ－11 | | | 古墳初期 |
| 29 | 弥生土器 | 器台 | X65.4Y84.9Ⅲ層 | 口径13.6cm | 口縁部に擬凹線と刻み | 弥生終末期 |
| 30 | 土師器 | 装飾器台 | 試掘Ｅ－11 | 口径19.6cm | 杯部に８つの透かし穴 | 古墳初期 |
| 31 | 〃 | 鉢 | X61.2Y85.3Ⅱ層 | 口径９cm、器高6.6cm | あまい有段口縁 | 〃 |
| 32 | 〃 | 甕 | X61.7Y84.7 | | 口唇部が面をなし、上下に張り出す | 〃 |
| 33 | 〃 | 壺 | X61.1Y85.8Ⅱ層 | 口径16.5cm | 有段口縁が外反 | 〃 |
| 34 | 〃 | 〃 | 試掘Ｃ－１ | 口径13.8cm | 〃 | 〃 |
| 35 | 〃 | 〃 | X61.2Y86.4 | 口径16cm | 〃 | 〃 |
| 36 | 〃 | 〃 | X61.8Y85.6Ⅱ層 | 口径19.2cm | 口縁部下が稜をなす | 古墳前期 |
| 37 | 〃 | 甕 | 試掘Ｆ－18 | 口径21cm | くの字口縁 | 〃 |
| 38 | 〃 | 〃 | SI01 | 不明確 | 〃　頸部立ちぎみ | 〃 |
| 39 | 〃 | 〃 | X64Y85.2Ⅱ層 | 口径18cm、器高約26cm | くの字口縁、胴部張る | 〃 |
| 40 | 〃 | 〃 | X63.1Y84.5Ⅱ層 | | くの字口縁 | 〃 |
| 41 | 〃 | 〃 | X61.2Y85.5Ⅱ層 | 口径14.6cm | くの字口縁端部立つ | 古墳初期 |
| 42 | 〃 | 小型壺 | X62.8Y85Ⅰ～Ⅱ層 | 口径7.8cm、器高8.4cm | 丸底 | 古墳前期 |
| 43 | 〃 | 〃 | 不明 | 口径8.4cm、器高9.6cm | 〃 | 〃 |
| 44 | 〃 | 〃 | X61.1Y84.6Ⅲ層 | 口径9.4cm、器高９cm | 〃 | 〃 |
| 45 | 〃 | 高杯 | X63.5Y84.7Ⅲ層 | 口径24cm | 大型、口縁部外反、茶色の砂粒含む | 〃 |
| 46 | 〃 | 〃 | X62Y85.5Ⅱ層 | 口径21cm | 口縁部が有段外反 | 〃 |
| 47 | 〃 | 〃 | X不明 Y85.6 | 口径18cm | 杯部椀状 | 〃 |
| 48 | 〃 | 〃 | X62.2Y86Ⅱ層 | 口径18cm | 口縁部外反 | 〃 |
| 49 | 〃 | 〃 | X64.9Y84.3Ⅱ層 | 口径16cm | 杯部椀状 | 〃 |
| 50 | 〃 | 〃 | X61.3Y85.5Ⅱ層 | 口径17cm | 〃 | 〃 |
| 51 | 〃 | 〃 | X不明 Y85.4Ⅰ～Ⅱ層 | 口径17cm、器高11.8cm | 〃　脚部開く | 〃 |
| 52 | 〃 | 〃 | X61.5Y86.1 | 台径10cm | 〃　〃<br>外面赤彩 | 〃 |
| 53 | 須恵器 | 杯 | X61.1Y85.4Ⅱ層 | 口径11cm、器高4.8cm | 立ち上がりが高い | 古墳中期 |
| 54 | 〃 | 杯蓋 | X62.8Y84.8Ⅱ層 | 口径12.2cm、器高3.6cm | 口径小さい | 飛鳥前期 |
| 55 | 〃 | 杯 | X63.4Y85.7Ⅰ層 | 口径12.8cm | 立ち上がりやや高い | 古墳後期 |

**表11－3　1985年度遺物一覧表(3)**

| 番号 | 種　類 | 器　種 | 出土遺構・地区・層位 | 大きさ | 特　徴 | 時　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 56 | 須恵器 | 杯 | X67.5Y85.3Ⅱ層 | 口径12.8cm | 立ち上がり低い | 飛鳥前期 |
| 57 | 〃 | 有蓋長頸壺 | X61～61.7Ⅱ層<br>Y84.5～85.3 | 口径９cm、器高16.6cm | 〃<br>頸部に波状文 | 〃 |
| 58 | 〃 | 広口壺 | X63.4～63.7耕～Ⅱ層<br>Y84.6～84.8 | 口径12cm、器高13.8cm | 口縁部肥厚 | 〃 |
| 59 | 〃 | 甕 | X64.5Y85.3Ⅱ層 | 口径17cm | 〃<br>頸部に櫛歯波状文 | 〃 |
| 60 | 〃 | 〃 | X61.3Y85.6Ⅰ～Ⅱ層 | | 口縁部引出し | 奈良後期 |
| 61 | 〃 | 〃 | X62.4Y84.7Ⅱ層 | | 口唇部面取り | 〃 |
| 62 | 〃 | 広口壺 | X63Y84.9Ⅱ層 | 口径12.2cm | 胴部中央に沈線巡る | 飛鳥前期 |
| 63 | 〃 | 提瓶 | X62.5Y85Ⅱ層 | 器高15.4cm | 胴部にボタン状の貼付け | 〃 |
| 64 | 〃 | 甕 | X61.3Y84.9 | 口径12.6cm | 〃 | 〃 |
| 65 | 〃 | 高台杯 | SI01 | 口径12cm | 土師器か | 奈良中期 |
| 66 | 土師器 | 甕 | 〃 | 口径20.2cm | 口縁端部尖る | 〃 |
| 67 | 〃 | 小型甕 | 〃 | 口径14cm | 口縁端部尖る | 〃 |
| 68 | 〃 | 甕 | 〃 | 口径21.4cm | 口縁端部丸い | 〃 |
| 69 | 〃 | 〃 | 〃 | 口径17.6cm | 口縁端部丸い | 〃 |
| 70 | 〃 | 〃 | 〃 | 口径24.2cm | 口縁端部尖る | 〃 |
| 71 | 〃 | 〃 | 〃 | | 口縁端部尖る | 〃 |
| 72 | 須恵器 | 杯 | 〃 | 底径７cm | 底部平ら | 〃 |
| 73 | 土師器 | 小型甕 | 〃 | 口径11.8cm | 口縁端部丸い | 〃 |
| 74 | 須恵器 | 杯蓋 | SI02 | 口径15.8cm | 口縁端部嘴状 | 奈良前期 |
| 75 | 〃 | 〃 | 〃 | | 口縁端部三角形 | 奈良中期 |
| 76 | 〃 | 高台杯 | 〃 | 口径13.2cm、器高3.1cm | 底部境丸く体部開く | 奈良前期 |
| 77 | 〃 | 杯 | 〃 | 口径14cm | 底部境に稜、体部立つ | 奈良中期 |
| 78 | 〃 | 〃 | 〃 | 口径13.8cm | 〃 | 〃 |
| 79 | 〃 | 〃 | 〃 | 底径10cm | 〃 | 〃 |
| 80 | 〃 | 〃 | 〃 | 口径13cm | 口縁端部尖る | 〃 |
| 81 | 土師器 | 鍋 | 〃 | 口径30cm | 口縁端部薄い | 〃 |
| 82 | 〃 | 〃 | 〃 | 口径34cm | 口縁端部尖る | 奈良後期 |
| 83 | 〃 | 小型甕 | 〃 | 底径６cm | 平底 | 〃 |
| 84 | 〃 | 〃 | 〃 | | 口縁端部尖る | 〃 |
| 85 | 〃 | 鍋 | 〃 | 口径35.5cm | 口縁端部面取り | 奈良中期 |
| 86 | 須恵器 | 杯蓋 | SI03 | 口径14cm | 口縁端部外へ張り出す | 〃 |
| 87 | 〃 | 〃 | 〃 | | 口縁端部立つ | 〃 |
| 88 | 〃 | 高台杯 | 〃 | 口径13.8cm、器高3.6cm | 底部境丸い | 奈良前期 |
| 89 | 〃 | 〃 | 〃 | 台径９cm | 高台高い | 奈良中期 |
| 90 | 〃 | 杯 | 〃 | 口径11cm | 底部境丸い | 奈良前期 |
| 91 | 〃 | 高杯か | 〃 | 口径13cm | 体部に段 | 〃 |
| 92 | 〃 | 杯 | 〃 | 口径12.6cm、器高３cm | 底部にヘラ記号「×」 | 奈良中期 |
| 93 | 〃 | 壺 | 〃 | 台径11cm | 台部高い | 〃 |
| 94 | 土師器 | 高杯 | 〃 | 台径8.4cm | 脚端部面取り、内面黒色 | 〃 |
| 95 | 〃 | 〃 | 〃 | 台径9.5cm | 脚端部丸い、内面黒色 | 〃 |
| 96 | 〃 | 甕 | 〃 | 口径23.4cm | 口縁部内面肥厚 | 平安初期 |
| 97 | 〃 | 〃 | 〃 | 口径19.7cm | 口縁部やや尖る | 〃 |
| 98 | 〃 | 〃 | 〃 | 口径24.8cm | 口縁端部尖る | 平安初期 |
| 99 | 〃 | 鍋 | 〃 | 口径32cm | 口縁端部尖る | 〃 |

## 表11－4　1985年度遺物一覧表(4)

| 番号 | 種　類 | 器　種 | 出土遺構・地区・層位 | 大きさ | 特　徴 | 時　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 100 | 須恵器 | 杯 | SB03－1 | 口径12cm | 立ち上がり低い | 飛鳥前期 |
| 101 | 土師器 | 高杯 | 〃 | 台径14cm | 脚開く | 〃 |
| 102 | 〃 | 甕 | SI04 | 口径21cm | 口縁端部丸い | 奈良中期 |
| 103 | 〃 | 〃 | 〃 | 口径22cm | 口縁端部 | 〃 |
| 104 | 〃 | 〃 | 〃 | 口径23.5cm | 口縁端部面取り | 〃 |
| 105 | 〃 | 〃 | 〃 | 口径23cm | 口縁端部丸い | 〃 |
| 106 | 〃 | 鍋 | 〃 | 口径29cm | 口縁端部面取り | 〃 |
| 107 | 須恵器 | 杯蓋 | SB05－3 | 口径14cm | 口縁端部嘴状 | 〃 |
| 108 | 須恵器 | 杯 | SB07－5 | 口径11.8cm、器高3cm | 底部境に稜 | 〃 |
| 109 | 土師器 | 甕 | SB11 | | 口縁端部やや立つ | 〃 |
| 110 | 土師器 | 甕 | SB13－10 | | 口縁端部薄い | 〃 |
| 111 | 〃 | 〃 | SB16－4 | | 口縁端部外反 | 〃 |
| 112 | 須恵器 | 杯蓋 | SB17－10 | 口径14.2cm | 口縁端部三角形 | 〃 |
| 113 | 土師器 | 鍋 | SB07－5 | | 口縁部内湾 | 〃 |
| 114 | 須恵器 | 高台杯 | SK01 | 台径10cm | 底部境丸い | 〃 |
| 115 | 土師器 | 甕 | 〃 | 口径15.2cm | 口縁端部丸い | 〃 |
| 116 | 〃 | 〃 | 〃 | 口径17.8cm | 口縁端部面取り | 〃 |
| 117 | 〃 | 〃 | SK02 | | 口縁端部丸い | 〃 |
| 118 | 〃 | 〃 | SD04 | | 口縁端部面取り | 〃 |
| 119 | 須恵器 | 杯蓋 | SD05<br>X61.3Y84.9Ⅱ層 | | 口縁端部三角形 | 〃 |
| 120 | 〃 | 小型甕 | SD06 | | 口縁端部丸い | 奈良後期 |
| 121 | 〃 | 甕 | SD102X63.8Y85.4 | | 口縁部外反 | 奈良前期 |
| 122 | 〃 | 〃 | 〃　X63.6Y85.4 | | 口縁端部面取り | 奈良中期 |
| 123 | 〃 | 小型甕 | Pit01X61.3Y84.5 | | 口縁端部尖る | 平安前期 |
| 124 | 須恵器 | 杯蓋 | X63.9Y84.6 | 口径19cm、器高3cm | 小さなかえり付く | 飛鳥後期 |
| 125 | 〃 | 〃 | X62.5Y84.9 | 口径19cm、器高2.8cm | 〃 | 〃 |
| 126 | 〃 | 〃 | X61.5Y85.1Ⅰ～Ⅱ層<br>X61.5Y85.2 | 口径13.6cm、器高2.5cm | 〃 | 〃 |
| 127 | 〃 | 〃 | X63.4Y84.7Ⅱ層<br>X64.1Y84.6 | 口径13.6cm | 〃 | 〃 |
| 128 | 〃 | 〃 | 試掘B－6 | 口径18cm | 〃 | 〃 |
| 129 | 〃 | 〃 | X63.8Y84.6<br>X63.9Y84.6 | 口径18cm | 〃 | 〃 |
| 130 | 〃 | 〃 | X64.1Y85.8Ⅱ層<br>X63.6Y84.9 | 口径19cm | 〃 | 〃 |
| 131 | 〃 | 〃 | X65.3Y84.9Ⅱ層 | 口径9cm | 〃 | 飛鳥中期 |
| 132 | 〃 | 〃 | 不明 | 口径9.8cm | 〃 | 〃 |
| 133 | 〃 | 〃 | X65.3Y84.2Ⅰ～Ⅱ層<br>X65.1Y84.8 | 口径15.4cm、器高2.7cm | 口縁端部嘴状 | 奈良前期 |
| 134 | 〃 | 〃 | X62.7Y84.9Ⅰ～Ⅱ層 | 口径15.2cm、器高2cm | 〃 | 〃 |
| 135 | 〃 | 〃 | X64.9～65耕土<br>Y84.3～84.5 | 口径16.2cm、器高2.6cm | 〃 | 〃 |
| 136 | 〃 | 〃 | X63.9～64Ⅰ～Ⅱ層<br>Y84.3 | 口径16.6cm、器高3cm | 〃 | 〃 |
| 137 | 〃 | 〃 | X63Y84.9耕土・Ⅱ層 | 口径15.2cm、器高3.2cm | 〃 | 〃 |
| 138 | 〃 | 〃 | X63.3Y84.9Ⅰ～Ⅱ層 | 口径15.6cm、器高2.3cm | 〃 | 〃 |

## 表11－5　1985年度遺物一覧表(5)

| 番号 | 種　類 | 器　種 | 出土遺構・地区・層位 | 大きさ | 特　徴 | 時　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 139 | 須恵器 | 杯蓋 | X61.2Y85.1Ⅰ～Ⅱ層 | 口径12cm、器高2.4cm | 口縁端部立つ | 奈良中期 |
| 140 | 〃 | 〃 | X61.3Y85.4Ⅰ～Ⅱ層<br>X61.5Y85.4 | 口径13.2cm、器高2.7cm | 口縁端部外へ開く | 〃 |
| 141 | 〃 | 〃 | 試掘F－18 | 口径12.8cm | 口縁端部三角 | 〃 |
| 142 | 〃 | 〃 | X64.5Y84.9 | 口径13cm、器高2.9cm | 〃 | 〃 |
| 143 | 〃 | 〃 | X63.7Y85.5Ⅰ～Ⅱ層 | 口径14.6cm、器高2.7cm | 口縁端部内傾 | 〃 |
| 144 | 〃 | 〃 | X64.9Y84.3耕土 | 口径14.4cm、器高3.6cm | 〃 | 〃 |
| 145 | 〃 | 〃 | X62.4Y84.8Ⅱ層<br>X63Y84.9 | 口径12.4cm、器高2.3cm | 口縁端部三角 | 〃 |
| 146 | 〃 | 〃 | 試掘　A－7 | 口径12.2cm | 口縁端部立つ | 〃 |
| 147 | 〃 | 〃 | 試掘　A－7 | 口径13.7cm | 〃 | 〃 |
| 148 | 〃 | 〃 | X61.2Y84.6耕土 | 口径10.4cm、器高1.3cm | 口縁端部短い | 〃 |
| 149 | 〃 | 〃 | X61.6Y85.3Ⅰ～Ⅱ層 | 口径13.2cm、器高３cm | 口縁端部三角 | 〃 |
| 150 | 〃 | 〃 | X62.5Y84.5Ⅱ層 | 口径12.2cm、器高3.6cm | 〃 | 〃 |
| 151 | 〃 | 〃 | X62.8Y84.7Ⅱ層<br>X62.7Y85.1 | 口径18.4cm、器高2.6cm | 口縁端部嘴状 | 奈良前期 |
| 152 | 〃 | 〃 | 試掘　B－10 | 口径16.2cm | 〃 | 〃 |
| 153 | 〃 | 〃 | X61.1～62Ⅰ～Ⅱ層<br>Y85.2～85.4 | 口径18.5cm、器高2.4cm | 〃 | 〃 |
| 154 | 〃 | 〃 | X63.4Y85.8Ⅰ層 | 口径16cm、器高2.8cm | 口縁端部三角 | 〃 |
| 155 | 〃 | 〃 | X61.7Y85.3Ⅰ～Ⅱ層 | 口径16.6cm、器高2.2cm | 〃 | 〃 |
| 156 | 〃 | 〃 | X63.3Y84.8Ⅱ層 | 口径16cm、器高2.8cm | 〃 | 〃 |
| 157 | 〃 | 〃 | X61.2Y85.1Ⅰ～Ⅱ層 | 口径15cm、器高３cm | 〃 | 〃 |
| 158 | 〃 | 〃 | X63.2Y84.6Ⅱ層<br>X63.6Y84.5 | 口径16.4cm、器高2.8cm | 〃 | 〃 |
| 159 | 〃 | 〃 | 試掘　A－9 | 口径14.6cm | 〃 | 奈良中期 |
| 160 | 〃 | 〃 | X64.5Y85.7Ⅱ層 | 口径15.8cm、器高2.6cm | 〃 | 〃 |
| 161 | 〃 | 〃 | X62.7Y85.1Ⅱ層 | 口径14.4cm、器高2.7cm | 〃　天井部に漆か | 〃 |
| 162 | 〃 | 〃 | X62.2Y84Ⅱ層 | 口径12cm、器高３cm | 口縁端部やや丸み | 〃 |
| 163 | 〃 | 〃 | X64.4Y86.3Ⅱ層 | 口径13cm、器高2.7cm | 〃 | 〃 |
| 164 | 〃 | 〃 | X62.2Y84.5Ⅱ層 | 口径12.8cm、器高2.6cm | 〃 | 〃 |
| 165 | 〃 | 〃 | X62.2Y86Ⅰ～Ⅱ層 | 口径12.8cm、器高2.8cm | 〃 | 〃 |
| 166 | 〃 | 〃 | X62.3Y85.6Ⅰ～Ⅱ層 | 口径11.6cm、器高2.7cm | 口縁端部折れる | 〃 |
| 167 | 〃 | 〃 | 試掘　F－10 | 口径12cm | 口縁端部外へ開く | 〃 |
| 168 | 〃 | 〃 | 〃 | 口径12cm | 口縁端部三角 | 〃 |
| 169 | 〃 | 〃 | 試掘　E－11 | 口径15.6cm | 口縁端部折れる | 〃 |
| 170 | 〃 | 〃 | X61.9Y85.3Ⅰ～Ⅱ層 | 口径19cm | 〃 | 〃 |
| 171 | 〃 | 高台杯 | X61.3Y85.2Ⅰ～Ⅱ層<br>X61.2Y86.3 | 口径10cm、器高3.4cm | 底部境に稜、体部外反 | 〃 |
| 172 | 〃 | 〃 | X61.2Y84.8Ⅱ層<br>X61.3Y84.7 | 口径10.6cm、器高3.7cm | 底部境丸い、体部外反 | 〃 |
| 173 | 〃 | 〃 | 試掘　F－1Ⅰ層 | 口径11.2cm、器高4.2cm | 〃 | 〃 |
| 174 | 〃 | 〃 | X63.9Y84.4Ⅰ層 | 口径11cm、器高4.2cm | 底部境に稜、体部立つ | 〃 |
| 175 | 〃 | 〃 | 試掘　E－11 | 口径11.2cm、器高４cm | 〃　〃 | 〃 |
| 176 | 〃 | 〃 | X61.4Y85.2Ⅰ～Ⅱ層 | 口径11cm、器高4.4cm | 底部境丸い、〃 | 〃 |
| 177 | 〃 | 〃 | X63.6Y85Ⅱ層<br>X63.4Y84.9 | 口径12.3cm、器高3.9cm | 〃　〃 | 〃 |

**表11－6　1985年度遺物一覧表(6)**

| 番号 | 種　類 | 器　種 | 出土遺構・地区・層位 | 大きさ | 特　徴 | 時　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 178 | 須恵器 | 高台杯 | X61.8Y85.7Ⅰ～Ⅱ層 | 口径12.4cm、器高4.5cm | 底部境に稜、体部立つ | 奈良中期 |
| 179 | 〃 | 〃 | I区P－1Ⅰ層 | 口径11cm、器高5cm | 底部境丸い、〃 | 〃 |
| 180 | 〃 | 〃 | X61.3Y85.1Ⅰ～Ⅱ層 | 口径15.2cm、器高3.8cm | 〃　体部開く | 奈良前期 |
| 181 | 〃 | 〃 | X64.5Y85.3Ⅱ層 | 口径15cm、器高4.3cm | 〃　〃 | 〃 |
| 182 | 〃 | 〃 | X62Y86.3排水溝<br>X62.1Y86.1 | 口径13.8cm、器高4.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 183 | 〃 | 〃 | X64.6Y84.9Ⅱ層<br>X64.8Y84.7 | 口径14cm、器高4.2cm | 〃　体部立つ | 〃 |
| 184 | 〃 | 〃 | X63.3Y85.4Ⅰ～Ⅱ層 | 口径14cm、器高4.4cm | 〃　〃 | 〃 |
| 185 | 〃 | 〃 | X61.7Y85.4Ⅱ層 | 口径14cm、器高4.5cm | 〃　〃 | 〃 |
| 186 | 〃 | 〃 | I区P－1 | 口径13.4cm、器高3.9cm | 底部境に稜　〃 | 〃 |
| 187 | 〃 | 〃 | 試掘　A－7 | 口径13cm、器高4.5cm | 〃　〃 | 〃 |
| 188 | 〃 | 〃 | 試掘　A－9Ⅰ層 | 口径15cm、器高3.2cm | 〃 | 〃 |
| 189 | 〃 | 〃 | X63Y84.9Ⅱ層<br>X62.9Y84.8 | 口径16.6cm、器高4.8cm | 底部境丸い、体部開く | 飛鳥後期 |
| 190 | 〃 | 〃 | X61.6Y85.4<br>X61.5Y85.5 | 口径17.4cm、器高4.6cm | 〃　〃 | 奈良前期 |
| 191 | 〃 | 〃 | X61.5～61.8Ⅰ～Ⅱ層<br>Y84.7～85.2 | 口径17.4cm、器高4.4cm | 〃　〃 | 飛鳥後期 |
| 192 | 〃 | 〃 | X61.3Y85.4Ⅰ～Ⅱ層<br>X61.2Y85.1 | 口径17.2cm、器高7cm | 底部境丸い、体部立つ | 奈良前期 |
| 193 | 〃 | 〃 | 試掘　C－9 | 口径15.6cm、器高7cm | 〃　〃 | 〃 |
| 194 | 〃 | 〃 | 試掘　C－11 | 口径18cm、器高7.7cm | 〃　〃 | 〃 |
| 195 | 〃 | 〃 | 試掘　D－14 | 口径16cm | 〃　〃 | 〃 |
| 196 | 〃 | 〃 | 試掘　D－12 | 台径9cm | 底部境丸い | 〃 |
| 197 | 〃 | 〃 | SI03 | 台径10.6cm | 高台細い | 奈良中期 |
| 198 | 〃 | 杯 | X61.8Y84.7Ⅰ層 | 口径12.8cm、器高3.8cm | 底部境丸い、体部開く | 飛鳥後期 |
| 199 | 〃 | 〃 | X63.5Y84.7Ⅱ層 | 口径13.6cm、器高3.8cm | 底部先丸い、〃 | 奈良前期 |
| 200 | 〃 | 〃 | X61.2Y86Ⅱ層 | 口径13cm、器高3.6cm | 〃　〃 | 〃 |
| 201 | 〃 | 〃 | 試掘　A－9 | 口径12cm、器高3.4cm | 〃　〃 | 〃 |
| 202 | 〃 | 〃 | X63.4Y84.4Ⅱ層 | 口径14.8cm、器高3cm | 底部境に稜、体部立つ | 〃 |
| 203 | 〃 | 〃 | X61.3Y85Ⅱ層 | 口径13cm、器高3.2cm | 底部平ら　〃 | 奈良後期 |
| 204 | 〃 | 〃 | 不明 | 口径11cm、器高3.3cm | 底部小さく体部開く | 奈良中期 |
| 205 | 〃 | 〃 | X61.6Y85.2Ⅰ～Ⅱ層<br>X61.7Y85.3 | 口径12cm、器高3.2cm | 底部境丸い、体部開く | 〃 |
| 206 | 〃 | 〃 | X61.3Y85.1Ⅰ～Ⅱ層 | 口径13cm、器高3.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 207 | 〃 | 〃 | X61.1Y85.4Ⅰ～Ⅱ層 | 口径13.2cm、器高3cm | 〃　〃 | 〃 |
| 208 | 〃 | 〃 | 試掘D－12 | 口径12.8cm、器高3.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 209 | 〃 | 〃 | X62.8Y85Ⅰ～Ⅱ層<br>X62.9Y85 | 口径13.8cm、器高3.4cm | 〃　〃 | 〃 |
| 210 | 〃 | 〃 | X63.1～63.3Ⅱ層<br>Y84.6～84.9 | 口径13.4cm、器高4cm | 〃　〃 | 〃 |
| 211 | 〃 | 〃 | X61.8Y84.8 | 口径13.8cm、器高2.9cm | 〃　〃 | 〃 |
| 212 | 〃 | 〃 | X61.5Y85.2Ⅰ～Ⅱ層 | 口径11.8cm、器高2.8cm | 〃　〃 | 〃 |
| 213 | 〃 | 〃 | X61.2Y85.1Ⅰ～Ⅱ層 | 口径12.2cm、器高2.8cm | 底部平坦、〃 | 〃 |
| 214 | 〃 | 〃 | 試掘　A－7 | 口径12cm、器高4cm | 〃　体部立つ | 〃 |
| 215 | 〃 | 〃 | 試掘　A－9 | 口径12cm、器高4cm | 〃　〃 | 〃 |

## 表11－7　1985年度遺物一覧表(7)

| 番号 | 種　類 | 器　種 | 出土遺構・地区・層位 | 大きさ | 特　徴 | 時　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 216 | 須恵器 | 杯 | X63Y85Ⅱ層<br>X63Y84.6 | 口径11.4cm、器高3.5cm | 底部平担、体部立つ | 奈良中期 |
| 217 | 〃 | 〃 | SD07 | 口径16cm、器高3.2cm | 底部境丸い、体部開く | 奈良前期 |
| 218 | 〃 | 高杯 | X63.3Y84.8Ⅱ層 | 口径14.2cm、器高7.6cm | 底部境丸い　〃 | 飛鳥中期 |
| 219 | 〃 | 〃 | X61.5Y85.2Ⅰ～Ⅱ層 | 口径14.8cm、器高6.8cm | 〃　〃 | 〃 |
| 220 | 〃 | 〃 | 不明 | 口径10.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 221 | 〃 | 〃 | X63～63.3Ⅱ層<br>Y84.6～84.9 | 口径14.2cm、器高７cm | 〃　〃 | 〃 |
| 222 | 〃 | 〃 | X63Y84.5～85 | 口径8.8cm | 底部境に稜　〃<br>内面に漆（漆容器） | 〃 |
| 223 | 〃 | 〃 | X63.2Y84.6Ⅱ層<br>X63Y84.6 | 台径６cm | 底部境に稜 | 飛鳥後期か |
| 224 | 〃 | 壺 | X64.3Y85.3Ⅱ層 | 台径9.2cm | 体部深く脚低い | 〃 |
| 225 | 〃 | 杯蓋 | X61.4Y85.5Ⅰ～Ⅱ層 | 口径17.2cm、器高2.9cm | かえり小さい<br>内面にヘラ記号「≠」 | 飛鳥後期 |
| 226 | 〃 | 〃 | X62.1Y85.6Ⅰ～Ⅱ層 | 口径16.4cm、器高2.9cm | 口縁端部三角<br>内面にヘラ記号「×」 | 奈良前期 |
| 227 | 〃 | 〃 | X61.9Y85.2Ⅰ～Ⅱ層 | 口径14.6cm、器高3.4cm | 口縁端部内屈<br>内面にヘラ記号「二」 | 〃 |
| 228 | 〃 | 〃 | X61.3Y85.2Ⅰ～Ⅱ層 | 口径15cm、器高3.3cm | 口端端部外開き<br>内面にヘラ記号「―」 | 〃 |
| 229 | 〃 | 〃 | X63.7Y84.7Ⅱ層 | | 天井部外面に漆記号「＋」 | 〃 |
| 230 | 〃 | 高台杯 | X62.8Y85.1Ⅱ層 | 台径9.6cm | 底面に漆記号「＋」 | 〃 |
| 231 | 〃 | 〃 | X63.7Y84.7Ⅱ層 | 口径11.8cm、器高3.8cm | 底部境に稜、体部立つが口縁端部外反<br>底面に漆記号「＋」 | 〃 |
| 232 | 〃 | 〃 | X62Y85耕土 | 底径7.4cm | 底部境丸い、体部立つ<br>内面に漆（漆容器） | 奈良中期 |
| 233 | 〃 | 〃 | X62.7Y84.3 | 底径８cm | 底部境丸い、体部立つ<br>内面に漆（漆容器） | 〃 |
| 234 | 〃 | 杯蓋 | 試掘　A－７ | 口径12.2cm | 口縁端部立つ<br>内面に墨書「息」 | 〃 |
| 235 | 〃 | 高台杯 | X62Y85.2Ⅰ・Ⅱ層 | 底径10.6cm | 底部境に稜、体部立つ<br>底面に墨書「真茂」 | 〃 |
| 236 | 〃 | 〃 | X62.1Y86.1Ⅰ層 | 口径11.8cm、器高3.3cm | 底部境丸い、体部開く<br>底面に墨痕「和」か | 〃 |
| 237 | 〃 | 杯蓋 | X61.3Y85.1Ⅰ～Ⅱ層 | 口径19.4cm | 口縁端部三角<br>内面に墨痕（杯蓋硯） | 〃 |
| 238 | 〃 | 〃 | X61.9Y85.2Ⅰ～Ⅱ層 | 口径14.5cm | 口縁端部立つ<br>内面に墨痕（杯蓋硯） | 〃 |
| 239 | 〃 | 〃 | X63.7Y84.8Ⅱ層 | 口径14cm | 口縁端部折れる<br>内面に墨痕（杯蓋硯） | 平安前期 |
| 240 | 〃 | 円面硯 | X61.8Y85.3Ⅰ～Ⅱ層 | 口径14cm、器高4.6cm | 方形透かし穴 | 奈良前期 |
| 241 | 〃 | 長頸壺 | X61.8～63.4<br>Y84.8～85他 | 口径10.2cm、器高25cm | 肩部張り、沈線１条 | 〃 |
| 242 | 〃 | 長頸瓶 | X62.5Y85.1Ⅱ層 | 口径10.7cm | 頸部に沈線２条 | 〃 |

## 表11－8　1985年度遺物一覧表(8)

| 番号 | 種　類 | 器　種 | 出土遺構・地区・層位 | 大きさ | 特　徴 | 時　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 243 | 須恵器 | 長頸瓶 | X61.7Y85.2他 | 胴部径20.2 | 肩張り沈線１条<br>頸部に２条沈線 | 奈良前期 |
| 244 | 〃 | 〃 | X65.1Y84.1Ⅱ層 | 胴部径17.4cm | 肩張り沈線３条 | 〃 |
| 245 | 〃 | 〃 | X64.9Y84.5耕土 | 胴部径17.6cm | 胴部丸い、台部に丸い透かし穴 | 飛鳥後期 |
| 246 | 〃 | 〃 | X62.9～63.3Ⅱ層<br>Y84.6～85 | 胴部径16cm | 〃<br>台部高い | 〃 |
| 247 | 〃 | 〃 | X65.8Y85.6 | 胴部径23.7cm | 肩張り、頸部沈線３条 | 奈良前期 |
| 248 | 〃 | 〃 | X64.4Y85.2耕～Ⅱ層<br>X65Y84.5他 | 胴部径21cm | 肩張り、頸部１条 | 〃 |
| 249 | 〃 | 平瓶 | X64.9Y85Ⅰ～Ⅱ層<br>X61.8Y85.1他 | 胴部径30cm | 頸部沈線３条<br>ボタン状把手貼付け | 飛鳥後期 |
| 250 | 〃 | 短頸壺 | X63.1～63.5<br>Y84.4～84.9 | 口径14cm、器高17.7cm | 胴部丸く張る | 奈良前期 |
| 251 | 〃 | 〃 | X62.8～63.2Ⅰ～Ⅱ層<br>Y84.5～85 | 口径10cm | 胴部肩張り胴部沈線１条 | 〃 |
| 252 | 〃 | 〃 | X61.3Y85Ⅰ～Ⅱ層<br>X62Y85.4 | 口径10cm | 胴部肩張る | 〃 |
| 253 | 〃 | 〃 | X62～62.4Ⅱ層<br>Y85.3～86他 | 口径10cm | 〃 | 〃 |
| 254 | 〃 | 〃 | X61.4Y85.7Ⅰ～Ⅱ層 | 口径12cm | 〃　胴部沈線１条 | 〃 |
| 255 | 〃 | 〃 | X61.3～61.6Ⅰ～Ⅱ層<br>Y85.2～85.7 | 口径11cm | 胴部肩張る稜あまい | 奈良中期 |
| 256 | 〃 | 〃 | X64.1～65耕～Ⅱ層<br>Y84.3～84.6 | 口径12.5cm | 胴部丸く張り胴部沈線２条 | 奈良前期 |
| 257 | 〃 | 小型壺 | X64.5Y85.7Ⅱ層 | 口径6.5cm、器高5.5cm | 胴部丸く張る | 奈良前期 |
| 258 | 〃 | 短頸壺 | X64.1Y89.6Ⅱ層 | 口径12.4cm | 〃　沈線２条 | 〃 |
| 259 | 〃 | 横瓶 | X61.9～62Ⅰ～Ⅱ層<br>Y85～85.2 | 口径12cm、器高30.6cm | 頸部沈線２条<br>外面格子叩き目 | 〃 |
| 260 | 〃 | 〃 | X65.6Y85.5Ⅱ層 | 口径11cm | 口唇部斜め | 奈良中期 |
| 261 | 〃 | 〃 | X64.6Y84.3Ⅰ層 | 口径11cm | 口縁端部外へ張り出す | 奈良前期 |
| 262 | 〃 | 〃 | X61.5Y85.5Ⅰ～Ⅱ層 | 胴部長30.8cm | 叩き目横方向 | 奈良中期 |
| 263 | 〃 | 甕 | 試掘　A－９ | 口径22.4cm | 口唇部水平 | 奈良中期 |
| 264 | 〃 | 〃 | 試掘　A－７ | 口径28.4cm | 〃 | 〃 |
| 265 | 〃 | 〃 | X61.7Y85.4土坑状 | 口径15.8cm | 口唇部斜め<br>内面同心円当て具痕 | 奈良後期 |
| 266 | 〃 | 〃 | X62Y85.2Ⅰ～Ⅱ層 | 口径53cm、器高85cm | 口縁部肥厚、頸部櫛歯波状文 | 奈良前期 |
| 267 | 〃 | 〃 | X63Y84他Ⅰ～Ⅱ層 | 口径45cm、器高63cm | 口縁端部上下に拡張 | 〃 |
| 268 | 〃 | 〃 | X61.7Y85.2Ⅰ～Ⅲ層 | 口径21cm | 口唇部斜め | 〃 |
| 269 | 〃 | 〃 | 試掘　A－９ | 口径23cm | 口唇部水平 | 〃 |
| 270 | 土師器 | 杯 | X62.1Y84.7 | 口径13.2cm、器高４cm | 底部丸み、内外赤彩か | 奈良中期 |
| 271 | 〃 | 〃 | X61.5Y84.5 | 口径15.8cm、器高4.5cm | 〃　内外赤彩 | 〃 |
| 272 | 〃 | 〃 | X63.8Y85.4 | 口径13.8cm | 〃 | 〃 |
| 273 | 〃 | 〃 | X62.8Y84.5Ⅱ層 | 口径14.8cm、器高3.9cm | 底部丸み、内面黒色 | 〃 |
| 274 | 〃 | 〃 | X62Y86.2Ⅱ層 | 口径18.4cm、器高５cm | 〃　内外赤彩 | 〃 |
| 275 | 〃 | 高杯 | X62.8Y84.4Ⅲ層 | 口径18cm | Ⅲ状 | 〃 |

## 表11－9　1985年度遺物一覧表(9)

| 番号 | 種　類 | 器　種 | 出土遺構・地区・層位 | 大きさ | 特　徴 | 時　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 276 | 土師器 | 高杯 | X62.8Y84.4Ⅲ層 | 口径17.6cm | 皿状、内外赤彩 | 奈良中期 |
| 277 | 〃 | 〃 | X61.4Y85 | 口径16.2cm | 椀状、内面黒色 | 〃 |
| 278 | 〃 | 〃 | X61.6Y85 | 口径17.5cm | 〃　〃 | 〃 |
| 279 | 〃 | 杯 | X62.1Y84.8 | 口径13.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 280 | 〃 | 〃 | X62.3Y84.6Ⅱ層 | 口径13.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 281 | 〃 | 〃 | X 不明 Y84.8Ⅱ層 | 底径５cm | 〃　葉脈圧痕、黒斑 | 〃 |
| 282 | 〃 | 甕 | X62.1Y84.5 | 口径10cm | 内外面ともナデか | 奈良か |
| 283 | 〃 | 〃 | X61.7Y84.7 | 口径17cm | 口縁端部面取り | 奈良中期 |
| 284 | 〃 | 〃 | X62.7Y84.3 | 口径19.4cm | 口縁端部丸い | 奈良前期 |
| 285 | 〃 | 〃 | 試掘　A－７ | 口径21.6cm | 口縁端部薄くなる | 奈良中期 |
| 286 | 〃 | 〃 | X62.7Y84.3 | 口径24cm | 口縁端部面取り | 〃 |
| 287 | 〃 | 〃 | 試掘　B－10 | 口径21.8cm | 口縁端部尖る | 〃 |
| 288 | 〃 | 〃 | 試掘　A－９ | 口径19.4cm | 口縁端部面取り | 〃 |
| 289 | 〃 | 〃 | X61.2Y84.6耕土<br>X62Y84.4 | 口径20cm | 口縁端部外側へやや張り出す | 〃 |
| 290 | 〃 | 〃 | 試掘　A－９ | 口径20cm | 口縁端部尖る | 〃 |
| 291 | 〃 | 〃 | 試掘　A－９ | 口径18cm | 〃 | 〃 |
| 292 | 〃 | 〃 | 試掘　F－10 | 口径17.8cm | 口縁端部薄くなる | 〃 |
| 293 | 〃 | 〃 | X61.7Y84.5Ⅱ層 | 口径13cm | 口縁端部尖る | 〃 |
| 294 | 〃 | 鍋 | X62.2Y84.5Ⅱ層 | 口径26.6cm | 口縁端部丸い | 奈良前期 |
| 295 | 〃 | 〃 | 試掘　B－10 | 口径32.8cm | 口縁端部面取り | 奈良中期 |
| 296 | 〃 | 〃 | SI02 | 口径34cm | 〃 | 〃 |
| 297 | 〃 | 〃 | X65Y84.5Ⅰ層 | 口径31.6cm | 口縁端部尖る | 奈良後期 |
| 298 | 〃 | 〃 | X64.5Y84.6Ⅱ層 | 口径35.6cm | 口縁端部方形 | 奈良中期 |
| 299 | 〃 | 〃 | X63.6Y85.8Ⅰ層 | 口径34cm | 口縁端部薄くなる | 奈良後期 |
| 300 | 〃 | 製塩土器 | X65.9Y84.9耕土 | 底径16.6cm | 平底、白い砂粒 | 平安 |
| 301 | 土製品 | 土錘 | 不明 | 長さ1.8cm、径１cm | 細い管状 | 奈良か |
| 302 | 〃 | 〃 | X65.4Y84Ⅱ層 | 長さ２cm、径１cm | 〃 | 〃 |
| 303 | 〃 | 〃 | X63.2Y84.8Ⅱ層 | 長さ３cm、径１cm | 〃 | 〃 |
| 304 | 〃 | 〃 | X61.5Y86.6Ⅰ層 | 長さ3.4cm、径1.3cm | 太い管状 | 〃 |
| 305 | 〃 | 〃 | X61.5Y86Ⅱ層 | 長さ3.6cm、径1.2cm | 〃 | 〃 |
| 306 | 〃 | 〃 | X68.5Y84.5Ⅰ層 | 長さ４cm、径1.4cm | 〃 | 〃 |
| 307 | 〃 | 〃 | X61.1Y85.2Ⅰ層 | 長さ3.8cm、径1.5cm | 〃 | 〃 |
| 308 | 〃 | 〃 | X61.9Y83.3Ⅱ層 | 長さ3.2cm、径２cm | 筒形 | 〃 |
| 309 | 〃 | 〃 | X61.6Y86.1Ⅰ層 | 長さ５cm、径1.6cm | 太い管状 | 〃 |
| 310 | 〃 | 〃 | X61.6Y86.1Ⅱ層 | 長さ５cm、径３cm | 紡錘形 | 〃 |
| 311 | 〃 | 〃 | X61.9Y85.4Ⅱ層 | 長さ4.8cm、径2.2cm | 〃 | 〃 |
| 312 | 〃 | 〃 | X61.5Y86.2Ⅱ層 | 長さ4.2cm、径2.4cm | 筒形 | 〃 |
| 313 | 〃 | 〃 | X61.9Y86.3Ⅰ層 | 長さ4.2cm、径3.2cm | 紡錘形 | 〃 |
| 314 | 〃 | 〃 | X63.1Y85.8Ⅰ層 | 長さ４cm、径3.2cm | 〃 | 〃 |
| 315 | 〃 | 〃 | X61.7Y86.1Ⅱ層 | 長さ４cm、径2.8cm | 〃 | 〃 |
| 316 | 〃 | 〃 | X65Y84.4耕土 | 長さ４cm、径3.8cm | 〃 | 〃 |
| 317 | 〃 | 〃 | X64.4Y84Ⅰ層 | 径3.2cm | 〃 | 〃 |
| 318 | 〃 | 〃 | X61.1Y86.4Ⅱ層 | 長さ6.2cm、径3.2cm | 〃 | 〃 |
| 319 | 〃 | 〃 | X61.5Y84.5Ⅱ層 | 長さ5.6cm、径3.8cm | 〃 | 〃 |
| 320 | 〃 | 〃 | X64.4Y84.4Ⅱ層 | 長さ5.2cm、径3.3cm | 筒形 | 〃 |
| 321 | 〃 | 〃 | X63.6Y85.5Ⅰ～Ⅱ層 | 長さ5.8cm、径4.8cm | 紡錘形 | 〃 |

## 表11－10　1985年度遺物一覧表(10)

| 番号 | 種　類 | 器　種 | 出土遺構・地区・層位 | 大 き さ | 特　徴 | 時　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 322 | 土製品 | 土錘 | X63Y84.8Ⅱ層 | 長さ5.8㎝、径5.2㎝ | 紡錘形 | 奈良か |
| 323 | 珠洲 | 甕 | X66.5Y85.6表土 | | 口縁部方頭、珠洲Ⅳ期 | 南北朝 |
| 324 | 〃 | 〃 | D区 | | 口縁部円頭、珠洲Ⅴ期 | 室町 |
| 325 | 〃 | 〃 | X65.9Y84.3耕土 | | 口縁部方頭、珠洲Ⅳ期 | 南北朝 |
| 326 | 青磁 | 蓋 | X65.4Y84耕土 | 口径6.4㎝、器高３㎝ | 青白磁、刻み花文 | 室町 |
| 327 | 〃 | 瓶 | X61.1Y85Ⅰ層 | | 頸部 | 〃 |
| 328 | 〃 | 椀 | X64.2Y85.8耕土 | 口径16㎝ | 口縁部外反、内面に圏線 | 〃 |
| 329 | 〃 | 〃 | X63.3Y84.6耕土 | 底径5.2㎝ | 内面に圏線と文様 | 〃 |
| 330 | 〃 | 〃 | X65.1Y84.3 | 底径5.6㎝ | 内面に文様か | 〃 |
| 331 | 瀬戸美濃 | 折縁鉢 | X64.6Y84.5耕土 | 口径13.8㎝ | 灰釉、花文 | 〃 |
| 332 | 〃 | 天目茶碗 | X65.1Y84.5Ⅰ層 | 底径4.2㎝ | 鉄釉 | 戦国 |
| 333 | 〃 | 皿 | X62.9Y81.6Ⅰ～Ⅱ層 | 底径6.4㎝ | 灰釉、碁笥底 | 〃 |
| 334 | 越中瀬戸 | 〃 | X64.9Y86耕土 | 底径4.6㎝ | 鉄釉 | 江戸 |
| 335 | 唐津 | 〃 | X64.6Y85 | 底径4.2㎝ | 灰釉、見込蛇ノ目釉はぎ | 〃 |
| 336 | 〃 | 〃 | X65.4Y84.2耕土 | 底径3.8㎝ | 灰釉、胎土目 | 戦国 |
| 337 | 土師器 | 合子蓋 | X64Y85.3Ⅰ～Ⅱ層 | 口径15㎝前後 | 口縁部内面に段 | 江戸 |
| 338 | 土製品 | 土馬 | X64.8Y84.2 | 太さ約４㎝ | 胴部 | 奈良 |
| 339 | 〃 | 〃 | X64.8Y84.4 | 太さ2.3㎝ | 脚部 | 〃 |
| 340 | 〃 | 〃 | X63.5Y84.4 | 太さ2.2㎝ | 〃 | 〃 |
| 341 | 〃 | 〃 | X 不明 Y85.2 | 太さ２㎝ | 〃 | 〃 |
| 342 | 木製品 | 板（礎板） | SB04－４ | 長さ42㎝、幅23㎝、厚さ５㎝ | 柾目、スギ | 奈良 |
| 343 | 〃 | 柱 | SB07－６ | 太さ19.6㎝ | 割材、根元に段、クリ | 奈良中期 |
| 344 | 欠　番 | | | | | |
| 345 | 弥生土器 | 甕 | X63.6Y83.2 | 底径３㎝ | 胴下半部、底部大きい | 弥生後期 |
| 346 | 〃 | 〃 | X61.5Y86Ⅰ・Ⅱ層 | 口径16㎝ | 口縁端部横に面取り | 弥生終末期 |
| 347 | 土師器 | 〃 | X63.7Y84.4耕土 | | 底部焼成後穿孔未完通 | 江戸か |
| 348 | 須恵器 | 杯蓋 | X62Y85.4Ⅰ・Ⅱ層 | 器高1.4㎝ | 口縁部欠失 | 奈良 |
| 349 | 〃 | 〃 | X64.5Y85.5 | 口径15.2㎝、器高2.4㎝ | 口縁端部三角 | 奈良前期 |
| 350 | 欠　番 | | | | | |
| 351 | 須恵器 | 高台杯 | X64Y85.7Ⅱ層 | 口径14.5㎝、器高４㎝ | 〃 | 〃 |
| 352 | 〃 | 小型壺 | X64.5Y85.6 | 口径6.7㎝ | 胴部肩張る | 〃 |
| 353 | 〃 | 杯 | X61.1Y85.4Ⅰ・Ⅱ層 | | 内面に漆（漆容器） | 〃 |
| 354 | 土師器 | 杯 | X61.8Y84.7Ⅱ層 | 口径12㎝ | 底部に丸み | 奈良中期 |
| 355 | 〃 | 〃 | 不明 | 口径11㎝ | 〃 | 〃 |
| 356 | 〃 | 鍋 | X63.8Y85.7Ⅰ層 | | 口縁端部横に面取り | 〃 |
| 357 | 〃 | 〃 | X61.7Y85.5Ⅱ・Ⅲ層他 | 口径32㎝ | 口縁外反 | 奈良前期 |
| 358 | 土製品 | 土馬 | 不明 | 太さ2.5㎝ | 足部 | 奈良 |
| 359 | 土師器 | 製塩土器 | X63Y84 | | 棒状尖底 | 飛鳥・奈良 |
| 360 | 鉄滓 | | SI02 | 長さ８㎝、厚さ２㎝ | 椀形滓 | 奈良中期 |
| 361 | 炉壁 | | 〃 | 辺2.5～4.5㎝、厚さ２㎝ | 溶解発泡、４点ある | 〃 |
| 362 | 土製品 | 羽口 | X61.8Y84.8 | 径７㎝ | 外面溶解発泡 | 〃 |
| 363 | 石製品 | 砥石 | X61.8Y85.9Ⅰ・Ⅱ層 | 長さ15.5㎝厚さ２㎝ | 表裏に鋭利な刃物傷 | 奈良か |
| 364 | モモ核 | | SI01 | 高さ２～2.5㎝ | 合計10点ある | 奈良中期 |
| 365 | クルミ | | 〃 | 高さ２～３㎝ | 傷や加工なし | 〃 |
| 366 | 土製品 | 土錘 | X62Y85.2Ⅰ・Ⅱ層 | 長さ６㎝、径2.2㎝ | 太い管状 | 奈良か |
| 367 | 〃 | 支脚 | X61.9Y85.3Ⅰ・Ⅱ層 | 径５㎝ | 上段欠損 | 飛鳥 |

## 表11－11　1985年度遺物一覧表(11)

| 番号 | 種　類 | 器　種 | 出土遺構・地区・層位 | 大 き さ | 特　徴 | 時　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 368 | 土製品 | 土錘 | X61.5Y85.7Ⅰ・Ⅱ層 | 長さ3.5cm、径2.5cm | 紡錘形 | 奈良か |
| 369 | 〃 | 〃 | X61.6Y85.7Ⅰ・Ⅱ層 | 長さ4.2cm、径2.3cm | 〃 | 〃 |
| 370 | 〃 | 〃 | X61.6Y85.8Ⅰ・Ⅱ層 | 長さ4.2cm、径2.5cm | 〃 | 〃 |
| 371 | 〃 | 〃 | X61.4Y86Ⅱ層 | 長さ4.4cm、径３cm | 〃 | 〃 |
| 372 | 〃 | 〃 | X61.1Y85.7Ⅰ層 | 長さ４cm、径2.4cm | 筒形 | 〃 |
| 373 | 〃 | 〃 | X61.5Y86Ⅰ・Ⅱ層 | 長さ5.4cm、径2.5cm | 紡錘形 | 〃 |
| 374 | 〃 | 〃 | X61.1Y85.9 | 長さ5.8cm、径３cm | 〃 | 〃 |
| 375 | 〃 | 〃 | X61.5Y86Ⅰ・Ⅱ層 | 長さ６cm、径2.6cm | 〃 | 〃 |
| 376 | 〃 | 〃 | 不明 | 長さ6.8cm、径３cm | 〃 | 〃 |
| 377 | 石製品 | 砥石 | X62Y86.1Ⅱ層 | 一辺5.5cm、厚さ４cm | 円形凹み、砂岩 | 〃 |
| 378 | 〃 |  | X63.5Y85.3Ⅱ層 | 一辺2.5cm、長さ6.5cm | 断面四角、４面とも平滑<br>砂岩 | 〃 |
| 379 | 土師器 | 小型土器 | X63.4Y84.5Ⅱ層 | 一辺3.1cm、内辺2.1cm | 方形、鋳型か | 〃 |
| 380 | 白磁 | 椀 | E区 |  | 内面底部に圏線 | 室町 |
| 381 | 瀬戸美濃 | 天目茶碗 | 不明 |  | 鉄釉 | 戦国 |
| 382 | 〃 | 椀 | X61.3Y84.9Ⅱ層 | 台径4.7cm | 灰釉、胎土目 | 〃 |
| 383 | 土人形 | 大黒様 | 不明 | 高さ3.4cm、厚さ1.5cm | 形押し | 江戸か |
| 384 | 須恵器 | 広口壺 | X61.2Y84.6 | 口径18cm | 頸部２条の凸体の間に櫛描波状文 | 飛鳥 |
| 385 | 〃 | 杯蓋 | X61.7Y85.5Ⅰ・Ⅱ層 | 口径13cm | 口縁端部立つ、墨痕か | 奈良前期 |
| 386 | 須恵器 | 〃 | X61.7Y85.5Ⅰ・Ⅱ層他 | 口径13cm、口径2.8cm | 内面に墨書「田(留か)志」か | 平安前期 |
| 387 | 銅銭貨 | 和同開珎 | SI02 | 径2.4cm、厚さ１㎜ | 重さ２g、新和同 | 奈良 |

## 表12－１　1986年度遺物一覧表(1)

| 番号 | 種　類 | 器　種 | 出土遺構・地区・層位 | 大 き さ | 特　徴 | 時　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器 | 杯蓋 | SD11X57.4Y85.9 | 口径17.6cm、器高2.9cm | 口縁端部嘴状 | 奈良前期 |
| 2 | 〃 | 〃 | 〃 X57.4Y86他 | 口径15.6cm、器高2.7cm | 〃 | 〃 |
| 3 | 〃 | 〃 | 〃 X57.4Y86他 | 口径17.8cm | 〃 | 〃 |
| 4 | 〃 | 〃 | 〃 X57.4Y85.9 | 口径15.4cm | 〃 | 〃 |
| 5 | 〃 | 〃 | 〃 X56.8Y86.5砂礫 | 口径16cm、器高１cm | 口縁端部三角、内面黒い | 〃 |
| 6 | 〃 | 〃 | 〃 X56.7Y86他砂 | 口径17.6cm、器高3.6cm | 口縁端部やや丸み<br>つまみ小さい | 奈良中期 |
| 7 | 〃 | 〃 | 〃 X56.5Y86.2砂 | 口径17.6cm | 口縁端部折れる | 奈良後期 |
| 8 | 〃 | 〃 | 〃 X56.2Y86.5砂礫 | 口径12cm、器高３cm | 口縁端部やや丸みあり<br>つまみ小さい | 奈良後期 |
| 9 | 〃 | 〃 | 〃 X56.1Y86.5砂礫 | 口径15.8cm、器高３cm | 口縁端部嘴状　〃 | 奈良前期 |
| 10 | 〃 | 〃 | 〃 X57.5Y85.9 | 口径15.5cm、器高2.4cm | 口縁端部三角 | 〃 |
| 11 | 〃 | 〃 | 〃 X56.1Y86.5砂礫 | 口径14.8cm、器高2.6cm | 〃 | 〃 |
| 12 | 〃 | 〃 | 〃 X57.1Y86 | 口径14.2cm、器高2.8cm | 〃　内面墨痕か | 〃 |
| 13 | 〃 | 〃 | 〃 X56.1Y86.5砂礫 | 口径13cm、器高2.8cm | 〃　〃 | 〃 |
| 14 | 〃 | 〃 | 〃 X56.4Y86.3 | 口径12.6cm、器高3.2cm | 口縁端部やや丸みあり | 奈良中期 |
| 15 | 〃 | 〃 | 〃 X56.5Y86.3砂礫 | 口径12cm、器高2.5cm | 口縁端部やや丸みあり<br>つまみ小さい | 〃 |
| 16 | 〃 | 高台杯 | 〃 X56.1Y86.5砂礫 | 口径14.6cm、器高4.2cm | 底部境丸い、体部開く<br>外底部に漆付着 | 奈良前期 |
| 17 | 〃 | 〃 | 〃 X55.9Y86.8Ⅰ層 | 口径13cm、器高3.6cm | 底部境丸い　〃 | 〃 |

## 表12－２　1986年度遺物一覧表(2)

| 番号 | 種　類 | 器　種 | 出土遺構・地区・層位 | 大 き さ | 特　徴 | 時　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 18 | 須恵器 | 高台杯 | SD11X56.8Y86.5砂礫 | 口径13.2cm、器高4.2cm | 底部境丸い、体部開く | 奈良前期 |
| 19 | 〃 | 〃 | 〃 X56.1Y86.5 | 口径12.6cm、器高4.3cm | 〃　白い砂粒多い | 〃 |
| 20 | 〃 | 〃 | 〃 X56.2Y86.5Ⅰ層 | 口径12cm、器高４cm | 〃　体部立つ | 〃 |
| 21 | 〃 | 〃 | 〃 X55.3Y86.9砂礫 | 口径14.8cm、器高4.5cm | 〃　〃 | 〃 |
| 22 | 〃 | 〃 | 〃 | 口径13.6cm、器高3.8cm | 〃　体部開く | 〃 |
| 23 | 〃 | 〃 | 〃 X56.4Y86.5砂礫 | 口径13.9cm、器高４cm | 〃　〃 | 〃 |
| 24 | 〃 | 〃 | 〃 X56.2Y86.5砂礫 | 口径13.6cm、器高４cm | 〃　底部内外割れ目に沿って漆で補修 | 〃 |
| 25 | 〃 | 〃 | 〃 X56.1Y86.5砂礫 | 口径13.2cm、器高3.7cm | 底部境丸い、 | 〃 |
| 26 | 〃 | 〃 | 〃 X54.9Y87.3砂礫 | 口径13.6cm、器高４cm | 〃　体部にあまい稜 | 〃 |
| 27 | 〃 | 〃 | 〃 X56.5Y86.4Ⅲ上 | 口径11cm、器高4.1cm | 〃　白い砂粒多い | 〃 |
| 28 | 〃 | 〃 | 〃 X57.4Y86.6 | 口径11.4cm、器高4.7cm | 〃　体部開く | 〃 |
| 29 | 〃 | 〃 | 〃砂 | 口径10.6cm、器高3.7cm | 〃　外底部黒い | 奈良中期 |
| 30 | 〃 | 〃 | 〃 X57.3Y85.7砂上 | 口径11.2cm、器高４cm | 〃　白い砂粒多い 底部にヘラ記号「×」 | 奈良前期 |
| 31 | 〃 | 〃 | 〃 X57.4Y85.9 | 口径10.7cm、器高4.4cm | 底部境丸い、体部開く | 奈良中期 |
| 32 | 〃 | 〃 | 〃 X57.3Y86 | 口径11.6cm、器高4.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 33 | 〃 | 〃 | 〃 X56.1Y86.5 | 口径9.7cm、器高3.8cm | 〃　〃 | 奈良中期 |
| 34 | 〃 | 〃 | 〃 X56.1Y86.5砂礫 | 口径11.6cm、器高3.8cm | 〃　外底部黒い | 〃 |
| 35 | 〃 | 〃 | 〃 X55.5Y87 | 口径11.2cm、器高4.2cm | 〃　白い砂粒多い | 〃 |
| 36 | 〃 | 〃 | 〃 X57.4Y85.9 | 口径11.6cm、器高4.3cm | 〃　内面漆付着 | 〃 |
| 37 | 〃 | 〃 | 〃 X55.3Y86.1 | 口径15.2cm、器高3.5cm | 〃　体部開く | 〃 |
| 38 | 〃 | 〃 | 〃 X56.8Y86 | 口径15.8cm、器高6.6cm | 〃　〃 | 〃 |
| 39 | 〃 | 〃 | 〃 X57.4Y85.9 | 口径13.5cm、器高4.9cm | 体部に稜 | 〃 |
| 40 | 〃 | 〃 | 〃 X85.8Y57.4 | 口径12.5cm、器高3.8cm | 底部丸み、体部開く | 奈良前期 |
| 41 | 〃 | 〃 | 〃 X57.2Y86 | 口径12.8cm、器高3.4cm | 〃　〃 | 〃 |
| 42 | 〃 | 〃 | 〃砂 | 口径11.6cm、器高３cm | 〃　体部立つ | 〃 |
| 43 | 〃 | 〃 | 〃 X56.5Y86.8砂礫 | 口径12cm、器高3.6cm | 〃　白い砂粒多い | 奈良中期 |
| 44 | 〃 | 〃 | 〃 X56.9Y86.1 | 口径11.5cm、器高3.1cm | 〃　〃 | 〃 |
| 45 | 〃 | 杯 | 〃 X56.5Y86.2 | 口径12.8cm、器高3.7cm | 〃　底部厚い | 奈良前期 |
| 46 | 〃 | 〃 | 〃 X57.4Y85.9 | 口径13.4cm、器高４cm | 〃　〃 | 〃 |
| 47 | 〃 | 〃 | 〃 X56.7Y86.3 | 口径11.4cm、器高3.4cm | 底部境に稜、体部立つ | 奈良中期 |
| 48 | 〃 | 〃 | 〃 X57.5Y86.9 | 口径12.2cm、器高3.4cm | 〃　底部厚い | 奈良前期 |
| 49 | 〃 | 〃 | 〃 X57.5Y85.9 | 口径13.8cm、器高3.3cm | 〃　体部立つ | 奈良中期 |
| 50 | 〃 | 〃 | 〃 X56.2Y86.5砂礫 | 口径11.8cm、器高3.2cm | 底部境丸い、体部開く | 奈良前期 |
| 51 | 〃 | 〃 | 〃 X57.3Y85.7 | 口径12cm、器高3.6cm | 〃　〃 | 〃 |
| 52 | 〃 | 〃 | 〃砂 | 口径11cm、器高3.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 53 | 〃 | 〃 | 〃 X56.5Y86.4 | 口径13cm、器高3.4cm | 〃　〃 | 〃 |
| 54 | 〃 | 〃 | 〃 X56.5Y86.4 | 口径11.6cm、器高３cm | 〃　黒い砂粒多い 口縁部内面に油煙痕 | 〃 |
| 55 | 〃 | 〃 | 〃 X57.3Y85.9 | 口径12cm、器高3.4cm | 底部境に稜、体部立つ | 奈良中期 |
| 56 | 〃 | 〃 | 〃 X57.4Y86 | 口径13.5cm、器高3.2cm | 〃　体部開く | 奈良前期 |
| 57 | 〃 | 杯 | 〃砂 | 口径12.2cm、器高3.5cm | 底部境丸い、　〃 | 奈良中期 |
| 58 | 〃 | 〃 | 〃砂 | 口径13cm、器高3.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 59 | 〃 | 〃 | 〃 X57.4Y86 | 口径13cm、器高3.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 60 | 〃 | 〃 | 〃 X56.6Y86.3 | 口径13cm、器高3.5cm | 〃　〃 内外面に漆（漆容器） | 〃 |

## 表12－３　1986年度遺物一覧表(3)

| 番号 | 種　類 | 器　種 | 出土遺構・地区・層位 | 大きさ | 特　徴 | 時　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 61 | 須恵器 | 杯 | SD11X56.2Y86.4砂礫 | 口径13.8cm、器高3.8cm | 底部境丸い、体部開く | 奈良中期 |
| 62 | 〃 | 〃 | 〃 X56.6Y86.6他 | 口径13cm、器高3.4cm | 底部境に稜、　〃 | 奈良後期 |
| 63 | 〃 | 〃 | 〃 X56.2Y86.5砂礫 | 口径12.2cm、器高3.4cm | 〃　　〃 | 〃 |
| 64 | 〃 | 〃 | 〃 X57.5Y85.9 | 口径13cm、器高3.2cm | 〃　内面黒い | 〃 |
| 65 | 〃 | 〃 | 〃砂 | 口径12.4cm、器高3.4cm | 〃　底部小さい | 平安前期 |
| 66 | 〃 | 〃 | 〃 X56.1Y86.5砂礫 | 口径12.8cm、器高3.2cm | 底部境丸い、体部開く | 奈良中期 |
| 67 | 〃 | 〃 | 〃 X56.4Y86.4 | 口径11.8cm、器高3.5cm | 〃　　〃 | 〃 |
| 68 | 〃 | 〃 | 〃 X56.5Y86.4 | 口径12.2cm、器高3.2cm | 〃　　〃 | 〃 |
| 69 | 〃 | 〃 | 〃 X57.5Y85.9 | 口径12.4cm、器高3.2cm | 底部境に稜、　〃 | 奈良後期 |
| 70 | 〃 | 〃 | 〃 X56.4Y86.4砂礫 | 口径11.2cm、器高３cm | 〃　　〃 | 〃 |
| 71 | 〃 | 〃 | 〃 X57.2Y85.9 | 口径11.6cm、器高３cm | 底部境丸い、体部開く | 奈良中期 |
| 72 | 〃 | 〃 | 〃 X56.7Y86.3 | 口径10cm、器高３cm | 底部境に稜　〃 | 奈良後期 |
| 73 | 〃 | 〃 | 〃砂 | 口径10.2cm、器高３cm | 〃　　〃 | 〃 |
| 74 | 〃 | 〃 | 〃砂 | 口径11.8cm、器高3.8cm | 〃　底部小さい | 平安前期 |
| 75 | 〃 | 〃 | 〃 X56.5Y86.4砂 | 口径11cm、器高2.8cm | 底部境丸い、体部開く | 奈良中期 |
| 76 | 〃 | 〃 | 〃砂 | 口径12.5cm、器高3.1cm | 底部境に稜、　〃 | 奈良後期 |
| 77 | 〃 | 〃 | 〃 X57.5Y85.9 | 口径11.5cm、器高3.4cm | 底部境丸い、　〃 | 奈良中期 |
| 78 | 〃 | 〃 | 〃 X57.5Y85.9 | 口径11.5cm、器高３cm | 底部境に稜、　〃 | 奈良後期 |
| 79 | 〃 | 〃 | 〃 X57.6Y85.9 | 口径12.3cm、器高３cm | 〃　　〃 | 〃 |
| 80 | 〃 | 〃 | 〃 X56.5Y86.4 | 口径12.4cm、器高2.8cm | 底部境丸い、　〃 | 〃 |
| 81 | 〃 | 〃 | 〃 X57.5Y85.9 | 口径11.6cm、器高3.1cm | 底部境に稜、　〃<br>体部外面にヘラ書き「×」 | 〃 |
| 82 | 土師器 | 〃 | 〃 X57.4Y85.9 | 口径12.2cm、器高4.5cm | 底部境丸い、須恵器か | 奈良中期 |
| 83 | 〃 | 〃 | 〃 X57.4Y85.9 | 口径12cm、器高3.2cm | 〃　　〃 | 〃 |
| 84 | 〃 | 〃 | 〃 X54.5Y87.5 | 口径11.7cm、器高2.7cm | 〃　内面黒色 | 〃 |
| 85 | 〃 | 椀 | 〃 X56.5Y86.3砂礫 | 口径17.8cm、器高6.4cm | 底部ヘラ切り、内外赤彩 | 奈良後期 |
| 86 | 〃 | 〃 | 〃砂 | 底径6.6cm | 〃　茶色砂粒 | 〃 |
| 87 | 〃 | 甕 | 〃 X56.9Y86.1 | 口径16cm | 口縁端部短く反る | 奈良前期か |
| 88 | 〃 | 〃 | 〃 X57.1Y86.1 | 口径24cm | 口縁端部横に面取り | 奈良後期 |
| 89 | 〃 | 〃 | 〃 X67.5Y85.9 | 口径22cm | 口縁端部立つ | 平安前期 |
| 90 | 〃 | 製塩土器 | 〃 | 口径14.6cm | 棒状尖底型、橙色 | 飛鳥 |
| 91 | 〃 | 〃 | 〃 X56.5Y86.4 | 口径14cm | 〃 | 〃 |
| 92 | 〃 | 〃 | 〃 X56.4Y86.4 | 口径14cm | 〃 | 〃 |
| 93 | 〃 | 〃 | 〃 X56.7Y86.1 | 口径9.6cm | 〃 | 〃 |
| 94 | 〃 | 〃 | 〃 | 口径10.6cm | 〃 | 〃 |
| 95 | 〃 | 〃 | 〃 X55.4Y86.7 | | 〃 | 〃 |
| 96 | 〃 | 〃 | 〃 X 不明 Y86.5砂礫 | | 〃 | 〃 |
| 97 | 〃 | 〃 | 〃 X56.2Y86 | 胴径８cm | 〃 | 〃 |
| 98 | 〃 | 〃 | 〃 X56.8Y86.1 | | 〃 | 〃 |
| 99 | 〃 | 〃 | 〃 X56Y86.5 | 胴径８cm | 〃 | 〃 |
| 100 | 〃 | 〃 | 〃 X56.2Y85.7 | | 〃 | 〃 |
| 101 | 〃 | 〃 | 〃 X56.4Y86.5 | | | 〃 |
| 102 | 〃 | 〃 | 試掘　F－22 | 胴径9.6cm | 棒状尖底型、橙色 | 〃 |
| 103 | 〃 | 〃 | SD11X55.5Y86.5砂礫 | 胴径７cm | 〃 | 〃 |
| 104 | 〃 | 〃 | 〃 X56.2Y86.8 | 胴径７cm | 〃 | 〃 |
| 105 | 〃 | 〃 | 〃 X56.2Y86.8 | 胴径８cm | 〃 | 〃 |
| 106 | 〃 | 〃 | 〃 X56.5Y86.6Ⅰ層 | 胴径８cm | 〃 | 〃 |

## 表12－4　1986年度遺物一覧表(4)

| 番号 | 種　類 | 器　種 | 出土遺構・地区・層位 | 大きさ | 特　徴 | 時　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 107 | 土師器 | 製塩土器 | SD11X55.4Y86.6砂礫 | 胴径8.4cm | 棒状尖底型、橙色 | 飛鳥 |
| 108 | 須恵器 | 短頸壺 | X57.5Y85.5Ⅲ層上 | 口径13cm | 口縁端部薄く胴部肩丸い | 平安前期 |
| 109 | 〃 | 〃 | SD11X56.5Y86.2他 | 口径13cm | 〃 | 〃 |
| 110 | 〃 | 双耳瓶 | 〃 X57.1Y86Ⅱ層他 | 胴径18cm | 胴部肩やや張る | 〃 |
| 111 | 〃 | 〃 | 〃 X57Y86.1他 | 胴径22cm | 〃 | 〃 |
| 112 | 〃 | 横瓶 | 〃 X57Y86.1砂 | 口径12.6cm、器高25cm | 口唇部水平 | 奈良 |
| 113 | 〃 | 甕 | 〃 X56.2Y86.5砂 | 口径21.4cm | 〃 | 〃 |
| 114 | 〃 | 横瓶 | X56.1Y86.4Ⅰ層 | 口径19.2cm | 〃 | 〃 |
| 115 | 〃 | 甕 | SD11X55.5Y86.5 | 口径21.3cm、<br>器高43.8cm | 口縁部肥厚<br>胴部格子叩き目 | 飛鳥 |
| 116 | 〃 | 杯蓋 | 〃　X56.5Y86.5他 | 口径14.8cm | 口縁部に段 | 古墳後期 |
| 117 | 〃 | 〃 | X55.9Y86.7Ⅰ層 | 口径12.6cm、器高４cm | 口縁部に稜 | 〃 |
| 118 | 〃 | 〃 | SD11X56.1Y86.5他<br>砂礫 | 口径13.4cm | 口縁部に段、黒い砂粒 | 〃 |
| 119 | 〃 | 〃 | X57.4Y86.7他表土 | 口径14.2cm、器高4.2cm | 口縁端部が細い | 〃 |
| 120 | 〃 | 〃 | X55.7Y86.9砂礫 | 口径10.6cm、器高3.2cm | 天井部平ら、小型 | 飛鳥前期 |
| 121 | 〃 | 〃 | 不明 | 口径15cm | 口縁端部が細い | 古墳後期 |
| 122 | 〃 | 〃 | X57.4Y86.7表土他 | 口径13.6cm、器高4.2cm | 口縁部に段 | 〃 |
| 123 | 〃 | 〃 | X57.4Y86.7表土 | 口径14.4cm、器高４cm | 〃 | 〃 |
| 124 | 〃 | 〃 | SD11X56.5Y86.8他<br>砂礫 | 口径14.4cm、器高3.4cm | 天井部丸い | 飛鳥前期 |
| 125 | 〃 | 〃 | SD11X51.9Y87.3砂礫 | 口径13cm、器高4.4cm | 〃 | 〃 |
| 126 | 〃 | 〃 | 〃　砂 | 口径13.4cm、器高3.9cm | 〃 | 〃 |
| 127 | 〃 | 〃 | SD11砂 | 口径13.4cm、器高3.8cm | 〃 | 〃 |
| 128 | 〃 | 〃 | X55.9Y86.5Ⅰ層 | 口径13.5cm、器高3.4cm | 天井部平ら | 飛鳥前期 |
| 129 | 〃 | 〃 | X55.9Y86.6砂礫 | 口径13cm、器高４cm | 天井部削り | 古墳後期 |
| 130 | 〃 | 〃 | X57.4Y86.7他 | 口径13.5cm、器高4.2cm | 口縁端部が細い | 〃 |
| 131 | 〃 | 〃 | X55.9Y86.6砂礫 | 口径16.8cm、器高4.2cm | 〃 | 〃 |
| 132 | 〃 | 杯蓋 | SD11X55.8Y86.6他<br>砂礫 | 口径17.6cm、器高3.6cm | 宝珠つまみ、かえり付く | 飛鳥後期 |
| 133 | 〃 | 〃 | SD11X56.2Y86.5砂礫 | 口径10.5cm | 天井高くかえり付く | 飛鳥前期 |
| 134 | 〃 | 杯 | SD11X57.4Y86他<br>砂礫 | 口径12.8cm、器高５cm | 立ち上がりわずかに立つ | 〃 |
| 135 | 〃 | 〃 | SD11X56.2Y86.4砂礫 | 口径12.5cm、器高3.7cm | 〃<br>底部外面にヘラ書き「三」 | 〃 |
| 136 | 〃 | 〃 | X55.9Y86砂 | 口径10.6cm、器高2.6cm | 立ち上がり低い | 〃 |
| 137 | 〃 | 〃 | 不明 | 口径9.8cm | 〃 | 〃 |
| 138 | 〃 | 〃 | X55.8Y86.5 | 口径12.5cm、器高4.1cm | 立ち上がりやや高い<br>底部外面にヘラ書き「≪」 | 〃 |
| 139 | 〃 | 〃 | X57.5Y86.8 | 口径12.2cm、器高4.4cm | 立ち上がりやや高い | 〃 |
| 140 | 〃 | 〃 | X55.7Y86.7 | 口径13.8cm、器高4.4cm | 〃 | 〃 |
| 141 | 〃 | 〃 | X57.5Y86.8 | 口径12.5cm、器高4.5cm | 立ち上がりやや高い<br>底面に自然釉 | 〃 |
| 142 | 〃 | 〃 | X55.7Y86.7他砂礫 | 口径12.7cm、器高４cm | 立ち上がりやや高い | 〃 |
| 143 | 〃 | 〃 | SD11X56.5Y86.4 | 口径12.2cm、器高4.2cm | 立ち上がり低い | 〃 |
| 144 | 〃 | 高杯 | SD11X56.2Y86.5 | 口径11cm | 体部に２本の稜 | 〃 |
| 145 | 土師器 | 杯 | X56.5Y86.5 | 口径11.8cm、器高4.6cm | 口縁端部外反、内側に稜 | 古墳後期 |

## 表12－5　1986年度遺物一覧表(5)

| 番号 | 種　類 | 器　種 | 出土遺構・地区・層位 | 大きさ | 特　徴 | 時　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 146 | 土師器 | 杯 | X55.9Y86.5 | 口径13.4cm、器高4.8cm | 口縁端部内湾、外側に沈線 | 古墳後期 |
| 147 | 〃 | 〃 | X55.8Y86.5 | 口径16cm、器高5.4cm | 口縁部直線的に開く | 〃 |
| 148 | 〃 | 〃 | 不明 | 口径14.7cm、器高5.4cm | 口縁部内湾 | 〃 |
| 149 | 〃 | 〃 | X56.5Y86.5 | 口径15.4cm、器高6.2cm | 〃　皿状 | 〃 |
| 150 | 〃 | 〃 | SD11X56.2Y86.5砂礫 | 口径15.8cm | 〃 | 〃 |
| 151 | 〃 | 〃 | 試掘　F－20 | 口径13cm、器高４cm | 口縁端部外反、内側に稜内面黒色 | 〃 |
| 152 | 〃 | 〃 | X56Y86.7砂礫 | 口径17cm、器高4.8cm | 〃 | 〃 |
| 153 | 〃 | 〃 | X55.2Y86.9砂礫 | 口径18cm、器高5.2cm | 〃 | 〃 |
| 154 | 〃 | 〃 | X56.4Y86.5砂 | 口径15cm、器高4.8cm | 〃 | 〃 |
| 155 | 〃 | 〃 | X56.2Y86.5 | 口径14.4cm、器高５cm | 〃 | 〃 |
| 156 | 〃 | 〃 | X56.6Y86.5Ⅰ層 | 口径14cm | 口縁部外反、内面黒色 | 〃 |
| 157 | 〃 | 〃 | X56.5Y86.5 | 口径14.2cm | 口縁部外反、内側に稜内面黒色 | 〃 |
| 158 | 〃 | 〃 | 不明 | 口径14.8cm、器高4.2cm | 口縁部外反、外側に稜内面黒色 | 〃 |
| 159 | 〃 | 〃 | X55.9Y86.6砂礫 | 口径16cm | 〃 | 〃 |
| 160 | 〃 | 〃 | X56.4Y86.5礫 | 口径15cm | 〃 | 〃 |
| 161 | 〃 | 〃 | SD11X56.6Y86.4 | 口径13.6cm | 〃 | 〃 |
| 162 | 〃 | 〃 | X56.5Y86.5 | 口径15.7cm | 〃 | 〃 |
| 163 | 〃 | 〃 | X56.6Y86.4 | 口径17.8cm | 口縁部外反、外側に稜内面黒色 | 〃 |
| 164 | 〃 | 椀 | X55.9Y86.5 | 口径16cm、器高5.3cm | 口縁部外反、内面黒色 | 〃 |
| 165 | 〃 | 〃 | X57.6Y86.9Ⅰ層 | 口径14.8cm | 口縁端部立つ | 〃 |
| 166 | 〃 | 〃 | X58.2Y86.8 | 口径15.6cm | 口縁端部外反 | 〃 |
| 167 | 〃 | 〃 | X57.4Y86.8Ⅰ層 | 口径11.8cm | 口縁部外反、外側に稜 | 〃 |
| 168 | 〃 | 〃 | SD11X56.2Y86.4砂礫 | 口径15.8cm | 〃 | 〃 |
| 169 | 〃 | 〃 | SD11X55.5Y86.5砂礫 | 口径18cm | 口縁部外反 | 〃 |
| 170 | 〃 | 高杯 | 試掘　C－19 | 口径18.8cm<br>器高13.3cm | 口縁部外反、脚端部水平に近い | 古墳中期 |
| 171 | 〃 | 〃 | 〃 | 口径25.4cm、器高18cm | 〃 | 〃 |
| 172 | 〃 | 〃 | X57.3Y86 | 口径12.2cm | 口縁部内湾 | 古墳後期 |
| 173 | 〃 | 〃 | X56Y86 | 口径18.6cm | 口縁部開く | 古墳中期 |
| 174 | 〃 | 〃 | X57.3Y85Ⅰ層 | 口径23.2cm | 口縁部直線的に開く | 古墳中期 |
| 175 | 〃 | 〃 | X55.7Y86.5他砂礫 | 口径15cm | 口縁部外反、外側に稜 | 古墳後期 |
| 176 | 〃 | 〃 | X57.1Y86.6Ⅰ層 | 脚径10.8cm | 脚部屈曲なく開く | 〃 |
| 177 | 〃 | 〃 | X55.5Y86.7Ⅰ層 | 脚径10.4cm | 〃 | 〃 |
| 178 | 〃 | 〃 | X55.3Y87砂礫・Ⅱ層 | 脚径10.8cm | 〃　外面赤彩 | 〃 |
| 179 | 須恵器 | 平瓶 | 不明 | 口径５cm、器高12cm | 環状把手が付く | 〃 |
| 180 | 土師器 | 甕 | X57.3Y86.6Ⅰ層 | 口径11.2cm<br>器高13.2cm | 底部平底傾向 | 飛鳥後期 |
| 181 | 〃 | 〃 | SD11X55.5Y86.5砂礫 | 口径13cm、器高13cm | 胴部やや丸い | 古墳後期 |
| 182 | 〃 | 〃 | X56Y86.5砂礫 | 口径13cm、胴径22.8cm | 胴部やや丸い | 古墳後期 |
| 183 | 〃 | 〃 | X57.4Y86.6Ⅰ層 | 口径20cm、胴径24.8cm | 胴部長胴化 | 飛鳥後期 |
| 184 | 〃 | 〃 | 不明 | 口径15cm、胴径17.4cm | 〃 | 〃 |
| 185 | 〃 | 小型壺 | X56.1Y86.6砂礫 | 口径8.6cm、器高15.6cm | 胴部強く張る | 古墳前期 |

## 表12－6　1986年度遺物一覧表(6)

| 番号 | 種　類 | 器　種 | 出土遺構・地区・層位 | 大きさ | 特　徴 | 時　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 186 | 土師器 | 小型壺 | 不明 | 口径8.8cm、器高11.6cm | 口縁部短く反る | 飛鳥 |
| 187 | 〃 | 〃 | X55Y86.5 | 胴径12.2cm | 底部平底傾向 | 〃 |
| 188 | 〃 | 瓶 | X57.3Y86.8表土 | 胴径11cm | 胴部中央に丸い穴 | 古墳中期 |
| 189 | 須恵器 | 杯蓋 | X55.9Y86.6砂礫 | 口径16.6cm、器高3.6cm | 口縁端部小さく内屈 | 奈良前期 |
| 190 | 〃 | 〃 | X55.9Y86.6表土 | 口径15.6cm、器高3.1cm | 口縁端部外へ張る | 〃 |
| 191 | 〃 | 〃 | X55.8Y87.4 | 口径15.8cm、器高2.6cm | 口縁端部三角 | 〃 |
| 192 | 〃 | 〃 | X56.1Y86.3表土 | 口径14.8cm | 口縁端部立つ | 奈良中期 |
| 193 | 〃 | 〃 | X55.7Y86.6砂礫 | 口径15.6cm | 口縁端部小さく内屈 | 〃 |
| 194 | 〃 | 〃 | X56Y86.7Ⅰ層 | 口径15.6cm | 口縁端部折れる | 〃 |
| 195 | 〃 | 〃 | 試掘Ｆ－20 | 口径15.8cm | 口縁端部外へ張る | 〃 |
| 196 | 〃 | 〃 | X57.5Y86.1Ⅰ層 | 口径17cm | 口縁端部折れる | 〃 |
| 197 | 〃 | 〃 | X56.5Y86.3 | 口径18.8cm、器高3.6cm | 口縁端部立つ | 奈良前期 |
| 198 | 〃 | 〃 | Ｅ区　砂 | 口径18.2cm、器高3.4cm | 口縁端部外へ張る | 奈良中期 |
| 199 | 〃 | 〃 | X55.8Y86.7Ⅰ層 | 口径18cm、器高3.2cm | 口縁端部三角 | 奈良前期 |
| 200 | 〃 | 〃 | X57.4Y86 | 口径15.2cm、器高2.6cm | 〃 | 奈良中期 |
| 201 | 〃 | 〃 | X55.9Y86.6砂礫 | 口径13.8cm、器高3.2cm | 口縁端部立つ | 〃 |
| 202 | 〃 | 〃 | X55.9Y86.6砂礫 | 口径15cm、器高2.8cm | 口縁端部三角 | 〃 |
| 203 | 〃 | 〃 | X57.4Y85.9 | 口径16.6cm | 口縁端部折れる | 奈良後期 |
| 204 | 〃 | 〃 | X55.7Y86.7 | 口径12.4cm、器高2.9cm | 口縁端部立つ、小型 | 〃 |
| 205 | 〃 | 〃 | X57.4Y86.8表土 | 口径11.8cm、器高2.2cm | 口縁端部やや丸み | 〃 |
| 206 | 〃 | 高台杯 | X57.2Y85.9 | 口径14.5cm、器高4.2cm | 底部境丸い、体部開く | 奈良前期 |
| 207 | 〃 | 〃 | X57.3Y86表土 | 口径14.5cm、器高4.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 208 | 〃 | 〃 | X55.9Y86.7Ⅰ層 | 口径14cm、器高４cm | 〃　〃 | 〃 |
| 209 | 〃 | 〃 | X55.8Y86.8Ⅰ層 | 口径13.4cm、器高4.6cm | 〃　〃 | 〃 |
| 210 | 〃 | 〃 | X55.9Y86.7Ⅰ層 | 口径13cm、器高4.4cm | 〃　〃 | 〃 |
| 211 | 〃 | 〃 | X55.8Y86.7Ⅰ層 | 口径11.2cm、器高3.1cm | 〃　〃 | 〃 |
| 212 | 〃 | 〃 | X57.4Y85.8Ⅰ層 | 口径11.5cm、器高4.3cm | 〃　〃 | 〃 |
| 213 | 〃 | 〃 | X57.2Y85.7 | 口径12cm、器高3.3cm | 〃　体部立つ | 奈良中期 |
| 214 | 〃 | 〃 | X55.9Y86.7 | 口径10cm、器高4.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 215 | 〃 | 〃 | X55.9Y86.7砂礫 | 口径14cm、器高４cm | 〃　体部開く | 奈良前期 |
| 216 | 〃 | 〃 | X55.6Y86.7 | 口径12.5cm、器高3.9cm | 〃　〃 | 〃 |
| 217 | 〃 | 〃 | X55.6Y86.6 | 口径15cm、器高４cm | 〃　〃 | 〃 |
| 218 | 〃 | 〃 | X57.4Y85.8 | 口径13.4cm、器高４cm | 〃　〃 | 〃 |
| 219 | 〃 | 〃 | 試掘　Ｆ－20 | 口径13cm、器高3.8cm | 体部に稜　〃 | 奈良中期 |
| 220 | 〃 | 〃 | X56.2Y86.9 | 口径11.4cm、器高3.8cm | 底部境丸い、〃 | 〃 |
| 221 | 〃 | 〃 | X55.8Y86.7<br>X56Y86.5 | 口径11.6cm、器高3.3cm | 〃　体部立つ | 〃 |
| 222 | 〃 | 〃 | X57.8Y85.8Ⅰ層砂上 | 口径10.8cm、器高3.9cm | 底部境に稜、〃 | 奈良中期 |
| 223 | 〃 | 〃 | X57.2Y85.8 | 口径8.6cm、器高4.4cm | 〃 | 〃 |
| 224 | 〃 | 〃 | X67.4Y85.8 | 口径12.8cm、器高４cm | 底部境丸い　体部開く | 奈良前期 |
| 225 | 〃 | 〃 | X56.6Y86.2Ⅰ層 | 口径10.8cm、器高４cm | 〃　〃 | 〃 |
| 226 | 〃 | 〃 | X55.8Y86.7Ⅰ層 | 口径12cm、器高4.3cm | 底部境に稜、体部立つ | 奈良中期 |
| 227 | 〃 | 〃 | X56.4Y86.9表土 | 口径11.2cm、器高４cm | 〃　〃 | 〃 |
| 228 | 〃 | 〃 | X57.3Y85.7 | 口径11cm、器高3.8cm | 底部境丸い、体部開く | 奈良前期 |
| 229 | 〃 | 〃 | X57.4Y85.8表土 | 口径11.3cm、器高4.1cm | 底部境丸い、体部立つ | 奈良中期 |
| 230 | 〃 | 〃 | X57.5Y86.6 | 口径11.2cm、器高3.9cm | 底部境に稜、体部立つ | 〃 |
| 231 | 〃 | 〃 | 不明 | 口径10.4cm、器高4.3cm | 底部境丸い、体部立つ | 〃 |

## 表12－7　1986年度遺物一覧表(7)

| 番号 | 種　類 | 器　種 | 出土遺構・地区・層位 | 大きさ | 特　徴 | 時　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 232 | 須恵器 | 高台杯 | X57.4Y85.4 | 口径13.3cm、器高５cm | 体部に稜、底部外面に墨痕（転用硯） | 奈良中期 |
| 233 | 〃 | 〃 | E区　砂 | 口径16.2cm、器高6.4cm | 底部境丸い、体部立つ | 奈良前期 |
| 234 | 〃 | 甕 | 試掘F－20 | 口径24.5cm | 口辺部に櫛描波状文 | 飛鳥 |
| 235 | 〃 | 杯 | X57.4Y85.9 | 口径14cm、器高3.6cm | 底部境丸い、体部開く | 奈良前期 |
| 236 | 〃 | 〃 | X55.8Y86.7 | 口径12.2cm、器高3.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 237 | 〃 | 〃 | X55.9Y86.6Ⅰ層 | 口径12cm、器高3.8cm | 〃　〃 | 〃 |
| 238 | 〃 | 〃 | X55.9Y86.7Ⅰ層 | 口径13.7cm、器高3.5cm | 底部境に稜、〃 | 奈良中期 |
| 239 | 〃 | 〃 | E区　砂 | 口径13.5cm、器高3.6cm | 底部境丸い、体部開く | 奈良前期 |
| 240 | 〃 | 〃 | X55.9Y86砂 | 口径11.7cm、器高3.6cm | 底部境に稜、体部立つ<br>側面にヘラ書き「＋」 | 奈良中期 |
| 241 | 〃 | 〃 | X55.9Y86.5砂礫 | 口径13.5cm、器高3.2cm | 底部境に稜、体部開く | 〃 |
| 242 | 〃 | 〃 | 不明　砂 | 口径12.2cm、器高４cm | 〃　体部立つ | 〃 |
| 243 | 〃 | 〃 | X57.3Y86 | 口径12cm、器高3.6cm | 底部境に稜、〃 | 平安前期 |
| 244 | 〃 | 〃 | X57.4Y86 | 口径12.6cm、器高４cm | 〃　〃 | 奈良中期 |
| 245 | 〃 | 〃 | X55.8Y86.6砂礫 | 口径12.8cm、器高3.2cm | 〃　体部開く、生焼 | 奈良後期 |
| 246 | 〃 | 〃 | X55.7Y87Ⅰ層 | 口径14.6cm、器高3.4cm | 底部境丸い、体部開く | 奈良前期 |
| 247 | 〃 | 〃 | X57.4Y85.5砂上Ⅰ層 | 口径11.7cm、器高４cm | 底部境に稜、〃 | 奈良中期 |
| 248 | 〃 | 〃 | X57.3Y85.8砂上 | 口径12.7cm、器高3.5cm | 〃　〃 | 〃 |
| 249 | 〃 | 〃 | E区　砂 | 口径11.4cm、器高3.2cm | 底部境丸い、〃 | 〃 |
| 250 | 〃 | 〃 | X57.3Y85.8砂上 | 口径12cm、器高3.4cm | 底部境に稜、〃 | 奈良後期 |
| 251 | 〃 | 〃 | X56.5Y86.4Ⅰ層 | 口径11.8cm、器高３cm | 底部境丸い、〃 | 奈良中期 |
| 252 | 〃 | 〃 | X57.6Y86Ⅰ層 | 口径11.4cm、器高3.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 253 | 〃 | 〃 | X57.3Y85.9砂上 | 口径11.4cm、器高3.2cm | 底部境に稜、〃 | 〃 |
| 254 | 〃 | 〃 | X56.6Y86.4 | 口径11.8cm、器高2.8cm | 〃　〃 | 奈良後期 |
| 255 | 〃 | 〃 | X57.2Y86 | 口径12.2cm、器高3.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 256 | 〃 | 〃 | X57.3Y85.9 | 口径15.6cm、器高2.4cm | 底部境丸い　〃 | 奈良前期 |
| 257 | 〃 | 〃 | X55.9Y86.7砂礫 | 口径10.6cm、器高3.2cm | 〃　〃<br>口縁内面に油煙痕 | 〃 |
| 258 | 〃 | 〃 | Ⅱ区 | 口径13cm、器高3.3cm | 底部境丸い、体部開く | 〃 |
| 259 | 〃 | 〃 | X56.6Y86.4 | 口径11.5cm、器高3.1cm | 〃　体部立つ | 奈良中期 |
| 260 | 〃 | 〃 | X57.3Y55.3 | 口径12.5cm、器高2.6cm | 底部境に稜、体部開く | 平安前期 |
| 261 | 〃 | 〃 | 試掘F－20 | 口径13cm | 底部境丸い　〃 | 奈良前期 |
| 262 | 〃 | 〃 | X57Y86 | 口径11cm、器高３cm | 底部境に稜、体部立つ | 奈良中期 |
| 263 | 〃 | 〃 | X55.8Y86.7Ⅰ層 | 口径11cm、器高2.9cm | 〃　体部開く | 〃 |
| 264 | 〃 | 〃 | 試掘F－22 | 口径10.4cm、器高３cm | 〃　〃 | 〃 |
| 265 | 〃 | 〃 | 不明 | 口径11.6cm、器高3.2cm | 〃　〃 | 奈良後期 |
| 266 | 〃 | 〃 | 試掘F－22 | 口径12.2cm、器高３cm | 底部境丸い、〃<br>底面に墨書「良人」か | 奈良中期 |
| 267 | 土師器 | 〃 | 不明 | 口径16cm、器高4.3cm | 底部境丸い、暗文 | 〃 |
| 268 | 〃 | 〃 | E区 | 口径12.4cm | 口縁部内湾、内外赤彩 | 〃 |
| 269 | 〃 | 〃 | X55.8Y86.7Ⅰ層 | 口径11.2cm、器高3.7cm | 底部境丸い、体部内湾 | 〃 |
| 270 | 〃 | 〃 | X57.1Y86.8Ⅰ層 | 口径14.5cm、器高5.5cm | 〃　内面黒色 | 〃 |
| 271 | 〃 | 〃 | 試掘　F－20 | 口径18cm、器高3.1cm | 〃　〃 | 〃 |
| 272 | 〃 | 〃 | X51.1Y87.1 | 口径16cm、器高4.6cm | 〃　体部外反 | 〃 |
| 273 | 〃 | 〃 | 不明 | 口径19cm | 〃　内外赤彩 | 〃 |
| 274 | 〃 | 皿 | X56.1Y86.3Ⅰ層 | 口径17.8cm、器高3.3cm | 底部に丸み | 〃 |

## 表12－８　1986年度遺物一覧表(8)

| 番号 | 種　類 | 器　種 | 出土遺構・地区・層位 | 大きさ | 特　徴 | 時　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 275 | 土師器 | 皿 | 不明 | 口径16cm、器高３cm | 口縁部内湾 | 奈良中期 |
| 276 | 〃 | 甕 | D区 | 口径20.8cm | 口縁端部尖る | 奈良後期 |
| 277 | 〃 | 〃 | X56.5Y86.3 | 口径22cm | 〃 | 〃 |
| 278 | 〃 | 〃 | X56.2Y87.8Ⅰ層 | 口径19.4cm | 口縁部丸く外反 | 飛鳥後期 |
| 279 | 〃 | 〃 | 不明 | 口径19cm | 口縁端部面取り | 奈良中期 |
| 280 | 〃 | 小型甕 | E区　砂 | 口径12.2cm | 〃 | 〃 |
| 281 | 〃 | 甑か | X55Y86.7砂礫 | 口径24cm | 口縁端部外反 | 古墳後期 |
| 282 | 〃 | 鍋 | X55.8Y86.7Ⅰ層 | 口径33.5cm、器高22cm | 口縁部丸く外反 | 奈良前期 |
| 283 | 〃 | 〃 | 不明 | 口径39.5cm | 口縁部短く外反 | 〃 |
| 284 | 〃 | 〃 | X56.4Y86.5Ⅰ層 | 口径32cm | 口縁端部面取り | 奈良中期 |
| 285 | 〃 | 〃 | X56.7Y86.1 | 口径36cm | 〃 | 〃 |
| 286 | 土製品 | 土錘 | X57.2Y80.6表土 | 長さ4.2cm、径３cm | 筒形 | 奈良 |
| 287 | 〃 | 〃 | X55.2Y87.3表土 | 長さ4.8cm、径5.5cm | 紡錘形 | 〃 |
| 288 | 〃 | 支脚 | SD11X54.7Y87.5 | 長さ11cm、基部径4.8cm | 下部やや開がり上げ底 | 飛鳥 |
| 289 | 〃 | 〃 | X54.7Y87.5 | 長さ11.7cm、径3.5cm | 下部やや開がり平底 | 〃 |
| 290 | 石製品 | 管玉 | SD05X56.5Y86.5 | 長さ2.7cm、径８mm | 緑色凝灰岩 | 古墳 |
| 291 | 〃 | 〃 | X57.4Y86.8表土 | 長さ2.6cm、径９mm | 〃 | 〃 |
| 292 | 木製品 | 曲物底板 | SE01 | 径19.4cm、厚さ５mm | 柾目、桜皮とじ、ヒノキ | 江戸か |
| 293 | 〃 | 〃 | 不明 | 径6.5cm、厚さ１cm | 柾目、アスナロ | 〃 |
| 294 | 〃 | 〃 | 不明 | 径7.5cm、厚さ４mm | 柾目、スギ | 〃 |
| 295 | 〃 | 栓 | X57.5Y85表土 | 長さ5.2cm、上端径３cm | スギ | 〃 |
| 296 | 〃 | 漆椀 | 不明 | 台径6.4cm | 赤漆塗、トチノキ | 江戸 |
| 297 | 〃 | 下駄 | 不明 | 長さ17.8cm、幅7.8cm | 柾目、モクレン属 | 〃 |
| 298 | 〃 | 柱 | SB01－６ | 太さ24cm | 芯持材、クリ | 江戸か |
| 299 | 土師器 | 杯 | X55.5Y86.7 | 口径14.5cm、器高5.7cm | 口縁部内湾、内面黒色 | 古墳後期 |
| 300 | 須恵器 | 高台杯 | X57.4Y85.9溝埋土 | 台径8.5cm | 底部境丸い<br>外底面に墨書「小長」か | 奈良中期 |
| 301 | 〃 | 〃 | X57.3Y86溝 | 台径8.6cm | 底部境丸い<br>外底面に墨書「吉足」 | 〃 |
| 302 | 〃 | 〃 | SD11X56.1Y86.5砂礫 | 台径８cm | 底部境丸い<br>外底面に墨書「古」 | 〃 |
| 303 | 〃 | 杯 | X55.6Y86.8溝状落ち込み | | 外底面に墨書「衣丸」 | 〃 |
| 304 | 〃 | 〃 | X56.1Y86.1Ⅲ層 | 口径12cm、器高3.5cm | 底部境丸い、白い砂粒<br>外底面に墨書「千」 | 〃 |
| 305 | 〃 | 短頸壺 | X不明Y86.8 | 口径10.7cm<br>器高12.4cm | 胴部肩張る | 奈良 |
| 306 | 〃 | 壺 | SD11X55.8Y86.7 | 口径16.2cm<br>器高24.3cm | 胴部肩丸い | 〃 |
| 307 | 〃 | 甕 | 〃 X56.2Y86.4 | 口径26.4cm | 胴部肩張る | 〃 |
| 308 | 土師器 | 椀 | SD11X56.4Y86.1 | | 口縁部外反、内面黒色 | 古墳後期 |
| 309 | 〃 | 〃 | 〃 X55Y86.7砂礫 | | 口縁部外反、外側に稜<br>内面黒色 | 〃 |
| 310 | 土師器 | 杯 | 〃 X57.4Y85.8 | | 口縁端部外反、内面黒色<br>口縁部に煤付着 | 〃 |
| 311 | 〃 | 〃 | X56.4Y86.7表土 | | 口縁内湾 | 〃 |
| 312 | 〃 | 〃 | X55Y86.7Ⅰ層 | | 口縁内湾 | 〃 |

## 表12－９　1986年度遺物一覧表(9)

| 番号 | 種　類 | 器　種 | 出土遺構・地区・層位 | 大きさ | 特　徴 | 時　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 313 | 土師器 | 甕 | 不明 | | 口縁部立つ | 古墳後期 |
| 314 | 〃 | 甑 | SD11X56.5Y86.4 | 口径23cm | 筒形、長胴 | 〃 |
| 315 | 〃 | 甕 | SD11X56.4Y86.4 | 口径12cm | くの字口縁 | 古墳後期 |
| 316 | 〃 | 甑 | 不明 | 底径10cm | 縦ハケメ | 飛鳥 |
| 317 | 〃 | 小型土器 | X不明Y86.8Ⅰ層 | 口径2.7cm、器高２cm | 体部立つ | 古墳後期 |
| 318 | 〃 | 〃 | X57.2Y86.3Ⅰ層 | 口径４cm、器高3.2cm | 〃 | 〃 |
| 319 | 土製品 | 羽口 | SD11X56.1Y86.6 | 径６cm | 外面溶解 | 平安前期か |
| 320 | 銅銭 | 不明 | X55.2Y86.4土坑内 | 径２cm | 無文、全部で９枚 | 江戸か |
| 321 | 須恵器 | 高台杯 | SD11X56.2Y86.5 | 台径７cm | 底部境丸い<br>底面に墨書「食」か | 奈良後期 |

## 表13－１　1987年度遺物一覧表(1)

| 番号 | 種　類 | 器　種 | 出土遺構・地区・層位 | 大きさ | 特　徴 | 時　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器 | 甕 | SB09 | 口径20cm | 有段口縁幅広外反 | 古墳初期 |
| 2 | 〃 | 〃 | 〃　P７ | 口径20cm | くの字口縁の反りが強い | 〃 |
| 3 | 〃 | 〃 | 〃 | 口径19.5cm | くの字口縁端部面取り | 〃 |
| 4 | 〃 | 〃 | 〃 | 底径3.5cm | 底部 | 〃 |
| 5 | 〃 | 〃 | 〃 | 口径14cm | 有段口縁幅広外反販 | 〃 |
| 6 | 〃 | 〃 | SD10 | 口径15cm、胴部径20cm | 〃 | 〃 |
| 7 | 〃 | 〃 | SD15 | 口径20cm | 〃 | 〃 |
| 8 | 〃 | 〃 | 〃 | 口径17cm | 有段口縁、端部短く立つ | 〃 |
| 9 | 〃 | 〃 | 不明 | 口径16cm | くの字口縁、端部立つ | 〃 |
| 10 | 〃 | 〃 | C区 | 口径９cm | 有段口縁に擬凹線 | 〃 |
| 11 | 〃 | 〃 | D区Ⅱ層 | 口径18cm | 〃 | 〃 |
| 12 | 〃 | 〃 | X59.9Y85 | 口径12cm、器高27.5cm | 有段口縁、胴部丸い | 〃 |
| 13 | 〃 | 〃 | 不明 | 口径31cm | 有段口縁幅広外反 | 〃 |
| 14 | 〃 | 壺 | D区 | 口径12.5cm | 〃 | 〃 |
| 15 | 〃 | 〃 | SX16 | 口径16cm | 〃 | 〃 |
| 16 | 〃 | 〃 | B区 | 口径13cm | 有段口縁、内外赤彩 | 〃 |
| 17 | 〃 | 甕 | 試掘F－18 | 口径19cm | くの字口縁 | 〃 |
| 18 | 〃 | 壺 | X59.2Y85.4Ⅲ層 | 口径13cm | 有段口縁幅広 | 〃 |
| 19 | 〃 | 甕 | X60.2Y85.7 | 口径14cm | 有段口縁段くずれ | 〃 |
| 20 | 〃 | 細頸壺 | SD10 | 口径10.5cm | 有段口縁、内外赤彩 | 〃 |
| 21 | 〃 | 小型器台 | X60.2Y86.3Ⅲ層 | 口径7.5cm、器高7.5cm | 口縁部内湾ぎみ | 〃 |
| 22 | 〃 | 器台 | SD10 | 底径12.5cm | 口縁部直線的に開く | 〃 |
| 23 | 〃 | 細頸壺 | 不明 | 胴部径16cm | 粘土帯に擬凹線、赤彩 | 〃 |
| 24 | 〃 | 〃 | 〃 | 胴部径16cm | 粘土帯に刻み、赤彩 | 〃 |
| 25 | 〃 | 小型甕 | SD15 | 口径9.5cm、器高10cm | 口縁外反 | 〃 |
| 26 | 〃 | 蓋 | X58.3Y85.6SB04P４ | 紐径３cm | 紐が中実 | 〃 |
| 27 | 〃 | 甕 | SD06 | 口径16cm、器高27cm | 有段口縁、胴部丸い | 〃 |
| 28 | 〃 | 壺 | SD10 | 胴部径23cm | 頸部長く、胴部中央強く | 〃 |
| 29 | 〃 | 甕 | X58.6Y85.6Ⅲ層 | 口径17cm、器高25.5cm | 口縁強く外反、底部丸底 | 古墳前期 |
| 30 | 〃 | 〃 | b地区Ⅱ層 | 口径14cm、器高24.5cm | 〃　胴部丸い | 〃 |
| 31 | 〃 | 〃 | X57.5Y86.4 | 口径19.5cm、 | 〃　〃 | 〃 |

**表13－２　1987年度遺物一覧表(2)**

| 番号 | 種　類 | 器　種 | 出土遺構・地区・層位 | 大きさ | 特　徴 | 時　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 32 | 土師器 | 甕 | X58.1Y84.9Ⅲ層 | 口径16cm、器高25cm | 口縁強く外反、胴部丸い | 古墳前期 |
| 33 | 〃 | 〃 | X57.4Y85.5Ⅱ・Ⅲ層 | 口径22cm、器高34cm | 〃　〃 | 〃 |
| 34 | 〃 | 〃 | X59.3Y85.3 | 口径16cm、器高27cm | 口縁直線的に立つ | 〃 |
| 35 | 〃 | 〃 | X不明Y86.5Ⅱ層 | 口径15cm、器高28cm | 〃 | 〃 |
| 36 | 〃 | 〃 | SD15X60.5Y86.2 | 口径16cm、器高36cm | 口縁強く外反、胴部丸い | 〃 |
| 37 | 〃 | 〃 | X58.6Y84.9b地区 | 口径13cm | 口縁直線的に立つ | 〃 |
| 38 | 〃 | 〃 | G区 | 口径23.5cm | 口縁強く外反、胴部丸い | 〃 |
| 39 | 〃 | 壺 | X59.3Y84.9Ⅲ層 | 口径17cm | 口縁外面に稜を作る | 〃 |
| 40 | 〃 | 甕 | X60.2Y86.3 | 口径26cm | 〃 | 〃 |
| 41 | 〃 | 小型壺 | 不明　Ⅲ層 | 口径９cm、器高13.5cm | 胴部丸い、やや平底 | 〃 |
| 42 | 〃 | 〃 | X58.7Y86.2 | 口径７cm、器高10cm | 〃 | 〃 |
| 43 | 〃 | 〃 | X58.1Y85.8Ⅲ層 | 口径８cm、器高9.8cm | 〃 | 〃 |
| 44 | 〃 | 〃 | X57.6Y86.2Ⅲ層 | 口径9.5cm、器高10cm | 胴部丸い、やや平底 | 〃 |
| 45 | 〃 | 〃 | X58.4Y85.6Ⅲ層 | 口径７cm、器高7.5cm | 〃　〃 | 〃 |
| 46 | 〃 | 〃 | SD07 | 口径6.5cm | 胴部やや肩張る | 〃 |
| 47 | 〃 | 高杯 | X60.3Y85.6 | 口径13.5cm、器高14cm | 口縁部開き底部境に稜 | 〃 |
| 48 | 〃 | 〃 | X57.3Y84.9 | 口径17.5cm、器高14cm | 〃 | 〃 |
| 49 | 〃 | 〃 | 不明 | 口径18cm、器高13.5cm | 口縁部外反、底部丸み | 〃 |
| 50 | 〃 | 〃 | X60.8Y85.8 | 口径20cm、器高13cm | 口縁部開き底部境に稜 | 〃 |
| 51 | 〃 | 〃 | 不明 | 底径10.5cm | 〃 | 〃 |
| 52 | 須恵器 | 杯蓋 | SB01P７ | | 口縁端部三角 | 奈良中期 |
| 53 | 〃 | 〃 | 〃　P９ | | 〃 | 〃 |
| 54 | 〃 | 〃 | 〃　P７ | | つまみ部 | 〃 |
| 55 | 〃 | 高台杯 | 〃　P４ | 底径８cm | 高台部 | 〃 |
| 56 | 〃 | 壺 | 〃　P４ | | 肩部に２条の沈線 | 〃 |
| 57 | 〃 | 杯 | SB08 | 底径８cm | 底部境に稜、体部開く | 平安前期 |
| 58 | 〃 | 杯蓋 | SK01Ⅱ層 | 口径12.5cm、器高2.5cm | 口縁端部折れる | 〃 |
| 59 | 〃 | 高台杯 | 〃　SB12 | 口径16.5cm、器高６cm | 口縁部直線的に開く | 〃 |
| 60 | 〃 | 杯蓋 | SK07 | 口径14cm | 口縁端部細く立つ | 奈良中期 |
| 61 | 〃 | 〃 | 〃 | 口径14cm | 口縁端部短く立つ | 〃 |
| 62 | 〃 | 瓶 | 〃 | 底径６cm | 底部 | 〃 |
| 63 | 土師器 | 甕 | F区 | 口径17.5cm | 口縁端部丸い | 〃 |
| 64 | 〃 | 〃 | 〃 | 口径21.5cm | 口縁端部尖る | 奈良後期 |
| 65 | 〃 | 鍋 | SK07 | 口径30cm | 口縁端部丸く立つ | 〃 |
| 66 | 〃 | 甕 | 〃 | | 口縁端部尖る | 〃 |
| 67 | 〃 | 〃 | 〃 | | 口縁端部肥厚 | 〃 |
| 68 | 〃 | 小型甕 | 〃 | 口径10cm | 口縁端部立つ | 〃 |
| 69 | 〃 | 〃 | SK08 | 口径７cm | 口縁端部外反 | 奈良後期 |
| 70 | 土製品 | 土錘 | SK07 | 長さ3.5cm、径２cm | 筒形 | 奈良か |
| 71 | 〃 | 〃 | 〃 | 長さ3.5cm、径３cm | 紡錘形 | 〃 |
| 72 | 〃 | 〃 | 〃 | 長さ3.5cm、径３cm | 〃 | 〃 |
| 73 | 須恵器 | 杯蓋 | SK09 | 口径12.5cm | 口縁端部折れる | 平安前期 |
| 74 | 土師器 | 鍋 | 〃 | 口径33cm | 口縁端部尖る | 奈良後期 |
| 75 | 須恵器 | 杯蓋 | SK10 | | 口縁端部三角 | 〃 |
| 76 | 〃 | 〃 | 〃 | | 〃 | 〃 |
| 77 | 土師器 | 甕 | 〃 | 口径13.5cm | 口縁端部尖る | 〃 |
| 78 | 〃 | 〃 | 〃 | | 口縁端部内湾 | 〃 |

## 表13－３　1987年度遺物一覧表(3)

| 番号 | 種　類 | 器　種 | 出土遺構・地区・層位 | 大きさ | 特　徴 | 時　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 79 | 土師器 | 高杯 | SK10 | | 脚部 | 奈良後期 |
| 80 | 土製品 | 土錘 | 〃 | 長さ３㎝、径２㎝ | 紡錘形 | 〃 |
| 81 | 須恵器 | 杯蓋 | SK11 | 口径11.5㎝ | 口縁端部折れて丸い | 平安前期 |
| 82 | 〃 | 〃 | 〃 | | 口縁端部三角 | 〃 |
| 83 | 土師器 | 甕 | 〃 | | 口縁端部尖る | 〃 |
| 84 | 須恵器 | 杯蓋 | 〃 | 口径12㎝ | つまみ小さい | 〃 |
| 85 | 〃 | 高台杯 | 〃 | | 底部境に稜 | 〃 |
| 86 | 土師器 | 甕 | 〃 | | 口縁端部尖る | 〃 |
| 87 | 〃 | 〃 | 〃 | | 口縁端部肥厚 | 〃 |
| 88 | 〃 | 鍋 | 〃 | | 口縁端部尖る | 〃 |
| 89 | 〃 | 〃 | 〃 | | 口縁端部立つ | 〃 |
| 90 | 須恵器 | 杯蓋 | SK12 | 口径12㎝、器高2.5㎝ | 口縁端部丸い | 〃 |
| 91 | 〃 | 〃 | 〃 | 口径12㎝ | 口縁端部折れる | 〃 |
| 92 | 〃 | 杯 | 〃 | 口径11㎝、器高２㎝ | 底部境丸い、体部立つ | 〃 |
| 93 | 〃 | 〃 | 〃 | 口径10㎝ | 体部開く | 〃 |
| 94 | 土師器 | 甕 | 〃 | 口径16㎝ | 口縁端部丸く肥厚 | 〃 |
| 95 | 〃 | 〃 | 〃 | 口径25㎝ | 〃 | 〃 |
| 96 | 〃 | 〃 | 〃 | | 口縁端部丸く立つ | 〃 |
| 97 | 〃 | 鍋 | 〃 | 口径35㎝ | 口縁端部内面に肥厚 | 〃 |
| 98 | 〃 | 小型甕 | 〃 | 口径11.5㎝ | 口縁端部丸く立つ | 〃 |
| 99 | 〃 | 甕 | 〃 | 口径14㎝ | 〃 | 〃 |
| 100 | 〃 | 鍋 | 〃 | | 〃 | 〃 |
| 101 | 〃 | 〃 | 〃 | | 〃 | 〃 |
| 102 | 須恵器 | 杯蓋 | SK13 | | 口縁端部折れて丸い | 〃 |
| 103 | 〃 | 〃 | 〃 | | 口縁端部外へ開く | 〃 |
| 104 | 〃 | 高台杯 | 〃 | 底径10.5㎝ | 高台部 | 〃 |
| 105 | 土師器 | 甕 | 〃 | | 口縁端部丸く立つ | 〃 |
| 106 | 〃 | 〃 | SK14 | | 口縁端部三角 | 〃 |
| 107 | 須恵器 | 〃 | SK15 | | 口縁部水平 | 奈良後期 |
| 108 | 〃 | 杯蓋 | SK16 | | 口縁端部折れて丸い | 平安前期 |
| 109 | 〃 | 杯 | SK17 | 口径12㎝、器高2.5㎝ | 底部境に稜、体部開く | 奈良中期 |
| 110 | 〃 | 〃 | 〃 | 口径11.5㎝、器高３㎝ | 底部境丸い、体部立つ | 〃 |
| 111 | 〃 | 杯蓋 | 〃 | | 口縁端部三角 | 〃 |
| 112 | 土師器 | 甕 | F区 | | 口縁部内湾 | 〃 |
| 113 | 〃 | 鍋 | SK17 | | 口縁端部丸い | 〃 |
| 114 | 〃 | 甕 | SX01 | | 口縁端部丸く立つ | 平安前期 |
| 115 | 〃 | 〃 | 〃　SX02 | | 〃 | 〃 |
| 116 | 〃 | 〃 | 〃　〃 | | 〃 | 〃 |
| 117 | 〃 | 〃 | 〃 | | 口縁端部尖る | 奈良後期 |
| 118 | 須恵器 | 杯蓋 | SX04 | | 口縁端部三角 | 奈良中期 |
| 119 | 〃 | 杯 | SX05 | 口径11㎝、器高４㎝ | 口縁部内湾ぎみに立つ | 平安前期 |
| 120 | 〃 | 高台杯 | SX05 | 底径8.5㎝ | 口縁部内湾ぎみに立つ | 〃 |
| 121 | 〃 | 杯 | SX06 | 口径13㎝、器高2.5㎝ | 体部直線的に開く | 奈良中期 |
| 122 | 〃 | 杯蓋 | 〃 | | 口縁端部三角 | 〃 |
| 123 | 〃 | 高台杯 | 〃 | | 台部 | 〃 |
| 124 | 土師器 | 鍋 | 〃 | | 口縁部肥厚 | 平安前期 |
| 125 | 土製品 | 土錘 | 〃 | 長さ4.5㎝、径３㎝ | 紡錘形 | 〃 |

## 表13－4　1987年度遺物一覧表(4)

| 番号 | 種　類 | 器　種 | 出土遺構・地区・層位 | 大きさ | 特　徴 | 時　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 126 | 土製品 | 土錘 | SX06 | 長さ4㎝、径3㎝ | 紡錘形 | 平安前期 |
| 127 | 須恵器 | 杯蓋 | SX07 | | 口縁端部丸く立つ | 奈良後期 |
| 128 | 〃 | 〃 | 〃 | | 口縁端部三角 | 〃 |
| 129 | 土師器 | 鍋 | 〃 | | 口縁部肥厚 | 〃 |
| 130 | 〃 | 〃 | 〃 | | 口縁端部丸く立つ | 〃 |
| 131 | 〃 | 椀 | 〃 | 口径13㎝ | 体部開く | 〃 |
| 132 | 〃 | 鍋 | 〃 | | 口縁部肥厚 | 〃 |
| 133 | 須恵器 | 杯蓋 | SD11X58.7Y85.2 | 口径15.5㎝、器高2.5㎝ | 口縁端部嘴状 | 奈良前期 |
| 134 | 〃 | 〃 | 〃上 | 口径16㎝、器高3㎝ | 〃 | 〃 |
| 135 | 〃 | 〃 | 〃中 | 口径15.5㎝、器高3.5㎝ | 〃 | 〃 |
| 136 | 〃 | 〃 | 〃中 | 口径16.5㎝、器高3㎝ | 〃 | 〃 |
| 137 | 〃 | 〃 | 〃下 X57.6Y86 | 口径15.5㎝、器高3.2㎝ | 〃 | 〃 |
| 138 | 〃 | 〃 | 〃中 X57.6Y85.8 | 口径15㎝ | 〃 | 〃 |
| 139 | 〃 | 〃 | 〃 X57.4Y85.9 | 口径16㎝ | 〃 | 〃 |
| 140 | 〃 | 〃 | 〃 X58.7Y85.3 | 口径18.5㎝、器高2.5㎝ | 口縁端部三角 | 奈良中期 |
| 141 | 〃 | 〃 | 〃 | 口径15.4㎝、器高2.7㎝ | 口縁端部細く立つ | 〃 |
| 142 | 〃 | 〃 | 〃 X58.8Y85.2他 | 口径16.8㎝、器高1.7㎝ | 口縁端部三角 | 〃 |
| 143 | 〃 | 〃 | 〃 X58.7Y85.3他 | 口径17㎝ | 〃 | 〃 |
| 144 | 〃 | 〃 | 〃中 X58.8Y85.4他 | 口径14.8㎝、器高3.2㎝ | 口縁端部立つ | 〃 |
| 145 | 〃 | 〃 | 〃 | 口径15.2㎝、器高2.7㎝ | 〃 | 〃 |
| 146 | 〃 | 〃 | 〃　X59Y84.7他 | 口径12.8㎝、器高2.8㎝ | 口縁端部三角 | 〃 |
| 147 | 〃 | 〃 | 〃中 X58.4Y85.6 | 口径15.5㎝、器高3.2㎝ | 〃 | 〃 |
| 148 | 〃 | 〃 | 〃上 X59Y85.1 | 口径16㎝、器高3.2㎝ | 口縁端部折れて丸い | 奈良後期 |
| 149 | 〃 | 〃 | 〃中 X58.2Y85.7 | 口径12.8㎝、器高3㎝ | 口縁端部折れて外反 | 〃 |
| 150 | 〃 | 〃 | 〃中 X56.7Y85.9 | 口径12.8㎝、器高3.3㎝ | 口縁端部折れて立つ<br>天井部に漆記号「N」 | 〃 |
| 151 | 〃 | 〃 | 〃上 | 口径12.2㎝ | 〃 | 〃 |
| 152 | 〃 | 〃 | 〃 | 口径13㎝、器高3.6㎝ | 口縁端部細く立つ | 〃 |
| 153 | 〃 | 〃 | 〃上 | 口径13.2㎝、器高2.5㎝ | 口縁端部三角 | 〃 |
| 154 | 〃 | 〃 | 〃上Ⅱ層 | 口径12.4㎝、器高2.8㎝ | 口縁端部折れる | 〃 |
| 155 | 〃 | 〃 | 〃上 X59Y85.1 | 口径12.8㎝、器高2.6㎝ | 〃 | 〃 |
| 156 | 〃 | 〃 | 〃上 | 口径12.2㎝、器高2.5㎝ | 〃 | 〃 |
| 157 | 〃 | 〃 | 〃上 X58.8Y85 | 口径12.2㎝、器高2.9㎝ | 〃 | 〃 |
| 158 | 〃 | 〃 | 〃中 X58.2Y57 | 口径12.2㎝、器高3㎝ | 口縁端部小さい | 〃 |
| 159 | 〃 | 〃 | 〃上 X58.3Y85.7 | 口径13㎝ | 口縁端部折れる | 〃 |
| 160 | 〃 | 〃 | 〃下 X57.6Y84.9 | 口径14㎝ | 口縁端部三角 | 奈良中期 |
| 161 | 〃 | 〃 | 〃 | 口径12㎝ | 口縁端部丸い | 平安前期 |
| 162 | 〃 | 〃 | SD11上Ⅱ層 | 口径12㎝ | 〃 | 〃 |
| 163 | 〃 | 〃 | 〃 X57Y85.1他Ⅱ層 | 口径12.5㎝、器高2.8㎝ | 口縁端部折れる | 〃 |
| 164 | 〃 | 〃 | 〃 X58.9Y84.8Ⅱ層 | 口径11.7㎝、器高2.3㎝ | 〃 | 〃 |
| 165 | 〃 | 〃 | 〃上Ⅱ層 | 口径11.7㎝、器高2.4㎝ | 〃 | 〃 |
| 166 | 〃 | 〃 | 〃中 X58.2Y85.1 | 口径12.5㎝、器高2.1㎝ | 口縁端部小さい | 〃 |
| 167 | 〃 | 高台杯 | 〃 X57.7Y86 | 口径14㎝、器高3.7㎝ | 底部境丸い、体部開く | 奈良前期 |
| 168 | 〃 | 〃 | 〃中 X58.8Y85.3他 | 口径15.6㎝、器高4.6㎝ | 〃　体部立つ | 〃 |
| 169 | 〃 | 〃 | 〃中 X58.8Y85.3他 | 口径15.6㎝、器高4.5㎝ | 〃　体部開く | 〃 |
| 170 | 〃 | 〃 | 〃中 X58.8Y85.3 | 口径15㎝、器高4㎝ | 〃　〃 | 〃 |
| 171 | 〃 | 〃 | 〃中 X58.7Y85.3他 | 口径13.6㎝、器高4㎝ | 〃　体部立つ | 〃 |

## 表13－５　1987年度遺物一覧表(5)

| 番号 | 種　類 | 器　種 | 出土遺構・地区・層位 | 大 き さ | 特　徴 | 時　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 172 | 須恵器 | 高台杯 | SD11中 X58.8Y85.3 | 口径14cm、器高3.7cm | 底部境丸い　体部開く | 奈良前期 |
| 173 | 〃 | 〃 | 〃上 X58.7Y85 | 口径14cm、器高4.2cm | 〃　体部立つ | 奈良中期 |
| 174 | 〃 | 〃 | 〃下 X58.5Y85.3 | 口径14.6cm、器高4.5cm | 底部境に稜、体部開く | 〃 |
| 175 | 〃 | 〃 | 〃上 | 口径11cm、器高4.3cm | 〃　〃 | 〃 |
| 176 | 〃 | 〃 | 〃 | 口径11.5cm、器高４cm | 〃　〃 | 〃 |
| 177 | 〃 | 〃 | 〃中 X58.8Y85.3 | 口径11cm、器高3.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 178 | 〃 | 〃 | 〃中下 X57.6Y85.9 | 口径14.2cm、器高3.8cm | 底部境丸い　〃 | 奈良前期 |
| 179 | 〃 | 〃 | 〃中 X58.8Y85.3 | 口径13cm、器高4.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 180 | 〃 | 〃 | 〃上 | 口径14cm、器高4.4cm | 〃　〃 | 〃 |
| 181 | 〃 | 〃 | 〃中 X58.9Y84.9 | 口径15.2cm、器高3.6cm | 〃　〃 | 〃 |
| 182 | 〃 | 〃 | 〃上 X58.9Y85.3 | 口径13cm、器高4.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 183 | 〃 | 〃 | 〃 X58.4Y85.6 | 口径14cm、器高3.5cm | 〃　〃 | 〃 |
| 184 | 〃 | 〃 | 〃上 X59Y85 | 口径11.8cm、器高4.2cm | 底部境に稜　〃 | 奈良中期 |
| 185 | 〃 | 〃 | 〃上 | 口径11.5cm、器高3.8cm | 〃　〃 | 〃 |
| 186 | 〃 | 〃 | 〃中下 X58.8Y85他 | 口径11.7cm、器高3.9cm | 〃　〃 | 〃 |
| 187 | 〃 | 〃 | 〃中 X59Y84.8 | 口径11.4cm、器高3.5cm | 〃　〃 | 〃 |
| 188 | 〃 | 〃 | 〃上Ⅱ層 | 口径11.2cm、器高4.1cm | 〃　〃 | 〃 |
| 189 | 〃 | 〃 | 〃上 X58.7Y85.1 | 口径12cm、器高４cm | 底部境丸い　〃 | 奈良前期 |
| 190 | 〃 | 〃 | 〃 | 口径14cm、器高4.3cm | 〃　〃 | 〃 |
| 191 | 〃 | 〃 | 〃Ⅱ層 | 口径14cm、器高４cm | 〃　〃 | 〃 |
| 192 | 〃 | 〃 | 〃中 X58.3Y85.7 | 口径13cm、器高4.4cm | 〃　〃 | 〃 |
| 193 | 〃 | 〃 | 〃 X58Y85.3 | 口径12.5cm、器高4.9cm | 〃　〃 | 〃 |
| 194 | 〃 | 〃 | 〃上 | 口径12cm、器高４cm | 底部境に稜　〃 | 奈良中期 |
| 195 | 〃 | 〃 | 〃上 X59.1Y84.9 | 口径11cm、器高4.3cm | 〃　体部立つ | 〃 |
| 196 | 〃 | 〃 | 〃中 X58.4Y85.6 | 口径11.2cm、器高４cm | 〃　体部開く | 〃 |
| 197 | 〃 | 〃 | 〃上 | 口径11cm、器高４cm | 〃　〃 | 〃 |
| 198 | 〃 | 〃 | 〃上 X59Y85 | 口径11.4cm、器高4.5cm | 底部境丸い　〃 | 〃 |
| 199 | 〃 | 〃 | 〃下 X57.6Y86.8 | 口径12cm、器高3.9cm | 〃　〃 | 〃 |
| 200 | 〃 | 〃 | 〃 X58.3Y85.5 | 口径12cm、器高4.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 201 | 〃 | 〃 | 〃上 X62Y82.5 | 口径8.8cm、器高3.8cm | 〃　〃 | 〃 |
| 202 | 〃 | 〃 | 〃上 X59.1Y85 | 口径11.2cm、器高４cm | 〃　〃 | 〃 |
| 203 | 〃 | 〃 | 〃 X58.3Y85.5 | 口径11cm、器高４cm | 〃　体部立つ | 〃 |
| 204 | 〃 | 〃 | 〃上 X57.3Y85.7 | 口径10.2cm、器高4.6cm | 底部境に段がない | 平安前期 |
| 205 | 〃 | 〃 | 〃上Ⅱ層 | 口径11.6cm、器高4.3cm | 底部境丸い、体部開く | 奈良中期 |
| 206 | 〃 | 〃 | 〃上 | 口径10.6cm、器高４cm | 〃　〃 | 〃 |
| 207 | 〃 | 〃 | 〃中 X58.8Y85.3 | 口径14.4cm、器高５cm | 〃　〃 | 〃 |
| 208 | 〃 | 〃 | 〃下 X58.7Y85 | 口径15.6cm、器高６cm | 〃　〃 | 〃 |
| 209 | 〃 | 〃 | 〃上 X58.7Y85 | 口径15.5cm、器高6.4cm | 底部境に稜、　〃 | 奈良中期 |
| 210 | 〃 | 〃 | 〃 | 口径14cm、器高5.1cm | 〃　体部立つ | 〃 |
| 211 | 〃 | 〃 | 〃 X58.1Y85.8他 | 口径16cm、器高6.3cm | 底部境に段がない | 平安前期 |
| 212 | 〃 | 〃 | 〃 X60Y86.5他Ⅱ層 | 口径15.4cm、器高5.6cm | 〃 | 〃 |
| 213 | 〃 | 〃 | 〃 X58.2Y85.7 | 口径14.8cm、器高６cm | 〃 | 〃 |
| 214 | 〃 | 杯 | 〃上 X56.8Y85.4 | 口径13.2cm、器高3.5cm | 底部境丸い、体部開く | 奈良前期 |
| 215 | 〃 | 〃 | 〃中 X59Y84.8他 | 口径12.8cm、器高3.8cm | 〃　〃 | 〃 |
| 216 | 〃 | 〃 | 〃上 X58.8Y85.4 | 口径12cm、器高３cm | 底部境に稜　〃 | 奈良後期 |
| 217 | 〃 | 〃 | 〃Ⅱ層 | 口径13.2cm、器高3.4cm | 底部境丸い　〃 | 奈良前期 |
| 218 | 〃 | 〃 | 〃上Ⅱ層 | 口径11.2cm、器高３cm | 〃　〃 | 〃 |

## 表13－6　1987年度遺物一覧表(6)

| 番号 | 種　類 | 器　種 | 出土遺構・地区・層位 | 大きさ | 特　徴 | 時　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 219 | 須恵器 | 杯 | SD11中 X53.6Y85.3 | 口径11.8cm、器高3.6cm | 底部境丸い、体部立つ | 奈良前期 |
| 220 | 〃 | 〃 | 〃上 X59.1Y85 | 口径11cm、器高3.4cm | 〃　体部開く | 〃 |
| 221 | 〃 | 〃 | 〃中 X58.9Y87.6 | 口径13.8cm、器高3.4cm | 〃　〃 | 〃 |
| 222 | 〃 | 〃 | 〃中 X68.9Y 不明 | 口径11cm、器高3.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 223 | 〃 | 〃 | 〃上 X58.9Y85.3 | 口径13cm、器高3.4cm | 〃　〃 | 〃 |
| 224 | 〃 | 〃 | 〃中 | 口径12.8cm、器高3.5cm | 〃　〃 | 〃 |
| 225 | 〃 | 〃 | 〃中 X58.8Y85.4 | 口径12cm、器高3.5cm | 〃　〃 | 〃 |
| 226 | 〃 | 〃 | 〃上 X59.1Y84.9 | 口径10.8cm、器高3.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 227 | 〃 | 〃 | 〃中 X59.7Y85.9 | 口径11.4cm、器高3.4cm | 〃　〃 | 〃 |
| 228 | 〃 | 〃 | 〃上 X58.9Y85.9他 | 口径12.2cm、器高3.5cm | 〃　〃 | 〃 |
| 229 | 〃 | 〃 | 〃中 X59Y84.8 | 口径11.8cm、器高3.4cm | 〃　〃 | 〃 |
| 230 | 〃 | 〃 | 〃中 X58.7Y85.2 | 口径12.6cm、器高3.5cm | 〃　〃 | 〃 |
| 231 | 〃 | 〃 | 〃中 | 口径12cm、器高４cm | 〃　〃 | 〃 |
| 232 | 〃 | 〃 | 〃中 X59Y84.8 | 口径13cm、器高3.3cm | 〃　〃 | 〃 |
| 233 | 〃 | 〃 | 〃中 X58.2Y85.2 | 口径13.6cm、器高3.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 234 | 〃 | 〃 | 〃下 X58.7Y85.2他 | 口径12cm、器高2.6cm | 〃　〃 | 〃 |
| 235 | 〃 | 〃 | 〃中 X58.9Y85.4他 | 口径11.8cm、器高3.3cm | 〃　〃 | 〃 |
| 236 | 〃 | 〃 | 〃上Ⅱ層 | 口径11.6cm、器高3.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 237 | 〃 | 〃 | 〃上 X59.1Y84.9 | 口径12.8cm、器高3.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 238 | 〃 | 〃 | 〃下 X57.7Y86 | 口径12.6cm、器高2.8cm | 〃　〃 | 〃 |
| 239 | 〃 | 〃 | 〃中 X58.8Y85.3 | 口径11.4cm、器高2.9cm | 〃　〃 | 〃 |
| 240 | 〃 | 〃 | 〃中 X59.1Y84.2他 | 口径11.8cm、器高３cm | 〃　〃 | 〃 |
| 241 | 〃 | 〃 | 〃 X57.6Y85.9 | 口径13.2cm、器高3.4cm | 〃　〃 | 〃 |
| 242 | 〃 | 〃 | 〃中 X57.6Y85.8 | 口径11.2cm、器高3.3cm | 〃　〃 | 〃 |
| 243 | 〃 | 〃 | 〃下 X57.8Y86 | 口径11.6cm、器高3.1cm | 〃　〃 | 〃 |
| 244 | 〃 | 〃 | 〃上 X58.8Y85.1 | 口径11.7cm、器高2.9cm | 〃　〃 | 〃 |
| 245 | 〃 | 〃 | 〃上 X59Y85 | 口径12cm、器高3.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 246 | 〃 | 〃 | 〃中 X59Y85 | 口径12cm、器高3.1cm | 〃　〃 | 〃 |
| 247 | 〃 | 〃 | 〃上 | 口径11.6cm、器高3.5cm | 〃　〃 | 〃 |
| 248 | 〃 | 〃 | 〃 X57.5Y85.8 | 口径12cm、器高３cm | 〃　〃 | 〃 |
| 249 | 〃 | 〃 | 〃下 X57.6Y85.8他 | 口径12.8cm、器高3.5cm | 〃　〃 | 〃 |
| 250 | 〃 | 〃 | 〃上 X59Y85 | 口径12.4cm、器高３cm | 〃　〃 | 〃 |
| 251 | 〃 | 〃 | 〃上 X59Y84.9他 | 口径11.3cm、器高３cm | 〃　〃 | 〃 |
| 252 | 〃 | 〃 | 〃上 X57.7Y86 | 口径12cm、器高2.8cm | 〃　〃 | 〃 |
| 253 | 〃 | 〃 | 〃上 X57.7Y86 | 口径11.8cm、器高3.4cm | 〃　〃 | 〃 |
| 254 | 〃 | 〃 | 〃中 X58.7Y85.2 | 口径12.8cm、器高3.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 255 | 〃 | 〃 | 〃上 X59Y85.2 | 口径11.8cm、器高3.4cm | 〃　〃 | 〃 |
| 256 | 〃 | 〃 | 〃中 X58.8Y85.3 | 口径12cm、器高３cm | 〃　〃 | 〃 |
| 257 | 〃 | 〃 | 〃上 | 口径10.8cm、器高３cm | 〃　〃 | 〃 |
| 258 | 〃 | 〃 | 〃中 | 口径12cm、器高3.4cm | 〃　〃 | 〃 |
| 259 | 〃 | 〃 | 〃上 X59Y85Ⅱ層 | 口径12cm、器高３cm | 〃　〃 | 〃 |
| 260 | 〃 | 〃 | 〃上 | 口径12cm、器高3.6cm | 〃　〃 | 〃 |
| 261 | 〃 | 〃 | 〃上 X59Y84.9 | 口径11.6cm、器高3.4cm | 〃　〃 | 〃 |
| 262 | 〃 | 〃 | 〃上 X59.1Y84.9 | 口径11.4cm、器高3.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 263 | 欠　番 | | | | | |
| 264 | 須恵器 | 杯 | 〃中 | 口径13.2cm、器高3.4cm | 〃　〃 | 〃 |
| 265 | 〃 | 〃 | 〃中 X54Y84.9 | 口径12.8cm、器高3.5cm | 〃　〃 | 〃 |

**表13－７　1987年度遺物一覧表(7)**

| 番号 | 種　類 | 器　種 | 出土遺構・地区・層位 | 大 き さ | 特　徴 | 時　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 266 | 須恵器 | 杯 | SD11上 X58.7Y85 | 口径13cm、器高3.3cm | 底部境丸い、体部開く | 奈良前期 |
| 267 | 〃 | 〃 | 〃 | 口径12cm、器高3.4cm | 底部境に稜　〃 | 奈良中期 |
| 268 | 〃 | 〃 | 〃　上 X58.8Y85.1他<br>Ⅱ層 | 口径12.4cm、器高3.3cm | 〃　〃 | 〃 |
| 269 | 〃 | 〃 | 〃上 X59Y85.3 | 口径11.8cm、器高3.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 270 | 〃 | 〃 | 〃中 X58.1Y85.8 | 口径12.4cm、器高3.6cm | 〃　〃 | 〃 |
| 271 | 〃 | 〃 | 〃中 | 口径11.8cm、器高3.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 272 | 〃 | 〃 | 〃上 X59Y84.8 | 口径11.6cm、器高2.9cm | 〃　〃 | 〃 |
| 273 | 〃 | 〃 | 〃中 X58.4Y85.5他 | 口径11.6cm、器高2.8cm | 〃　〃 | 〃 |
| 274 | 〃 | 〃 | 〃下 X58.5Y85 | 口径12.4cm、器高３cm | 〃　〃 | 〃 |
| 275 | 〃 | 〃 | 〃上 | 口径12.2cm、器高3.6cm<br>口径11.8cm、器高3.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 276 | 〃 | 〃 | 〃Ⅱ層 | | 〃　〃 | 〃 |
| 277 | 〃 | 〃 | 〃上 X59Y84.9 | 口径12.4cm、器高3.6cm | 〃　〃 | 〃 |
| 278 | 〃 | 〃 | 〃中 X57.6Y85.8 | 口径12.2cm、器高3.7cm | 〃　〃 | 〃 |
| 279 | 〃 | 〃 | 〃中 X57.6Y85.9 | 口径11.6cm、器高3.3cm | 〃　〃 | 〃 |
| 280 | 〃 | 〃 | 〃上 X58.8Y84.7 | 口径12cm、器高3.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 281 | 〃 | 〃 | 〃上 X59.1Y84.9 | 口径12cm、器高3.5cm | 〃　〃 | 〃 |
| 282 | 〃 | 〃 | 〃下 X57.6Y86.8 | 口径12cm、器高2.9cm<br>口径12cm、器高４cm | 〃　〃 | 〃 |
| 283 | 〃 | 〃 | 〃 X58.7Y85.3 | | 〃　〃 | 〃 |
| 284 | 〃 | 〃 | 〃上 X59.1Y85.2他 | 口径12.4cm、器高3.4cm | 〃　〃 | 〃 |
| 285 | 〃 | 〃 | 〃上 X59.1Y85.2 | 口径13cm、器高３cm | 〃　〃 | 〃 |
| 286 | 〃 | 〃 | 〃上 X59.1Y84.9 | 口径11.3cm、器高2.7cm | 〃　〃 | 〃 |
| 287 | 〃 | 〃 | 〃上 X58.8Y84.9 | 口径12.4cm、器高3.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 288 | 〃 | 〃 | 〃上 X59Y85 | 口径12cm、器高3.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 289 | 〃 | 〃 | 〃上 X59Y84.9他 | 口径13cm、器高３cm | 〃　〃 | 〃 |
| 290 | 〃 | 〃 | 〃中 X57.6Y85.8 | 口径12.4cm、器高3.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 291 | 〃 | 〃 | 〃上 X58.8Y85.4 | 口径12.4cm、器高3.5cm | 〃　〃 | 〃 |
| 292 | 〃 | 〃 | 〃上 X59.1Y84.9 | 口径12cm、器高３cm | 〃 | 〃 |
| 293 | 〃 | 〃 | 〃上 X58.3Y84.9 | 口径12.8cm、器高3.3cm | 底部境丸い　〃 | 〃 |
| 294 | 〃 | 〃 | 〃中 X58.7Y85.2 | 口径13cm、器高４cm | 〃　体部立つ | 〃 |
| 295 | 〃 | 〃 | 〃中 X59.1Y84.9他 | 口径11.8cm、器高3.2cm | 底部境に稜、体部開く | 奈良後期 |
| 296 | 〃 | 〃 | 〃上 | 口径11.6cm、器高３cm<br>口径12.7cm、器高3.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 297 | 〃 | 〃 | 〃中 X54Y84.8他 | | 底部境丸い　〃 | 奈良中期 |
| 298 | 〃 | 〃 | 〃Ⅱ層 | 口径12.6cm、器高３cm | 底部境に稜　〃 | 奈良後期 |
| 299 | 〃 | 〃 | 〃中下 X58.8Y84.9 | 口径12.8cm、器高３cm<br>口径11.4cm、器高3.3cm | 底部境丸い　〃 | 奈良中期 |
| 300 | 〃 | 〃 | 〃下 X58.5Y85.4 | | 底部小さい | 平安前期 |
| 301 | 〃 | 〃 | 〃Ⅱ層 | 口径12cm、器高３cm | 底部境に稜　〃 | 奈良後期 |
| 302 | 〃 | 〃 | 〃上 X59Y85.1 | 口径12.5cm、器高3.1cm | 〃　〃 | 奈良中期 |
| 303 | 土師器 | 〃 | 〃上 X58.2Y85.7 | 口径12.7cm、器高3.7cm | 底部小さい　〃 | 平安前期 |
| 304 | 須恵器 | 〃 | 〃上 X58.3Y85.6 | 口径12.6cm、器高3.4cm | 〃 | 〃 |
| 305 | 〃 | 〃 | 〃 X58.4Y85.6 | 口径12cm、器高3.7cm | 〃　〃 | 〃 |
| 306 | 〃 | 〃 | 〃上 | 口径12.6cm、器高3.1cm | 〃　〃 | 〃 |
| 307 | 〃 | 〃 | 〃中 X58.2Y85 | 口径13.3cm、器高3.8cm | 〃　〃 | 〃 |

## 表13－８　1987年度遺物一覧表(8)

| 番号 | 種　類 | 器　種 | 出土遺構・地区・層位 | 大 き さ | 特　徴 | 時　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 308 | 須恵器 | 杯 | SD11X58.4Y85.6 | 口径12cm、器高2.9cm | 底部小さい、体部開く | 平安前期 |
| 309 | 〃 | 〃 | 〃上 X58.2Y85.7 | 口径12cm、器高３cm | 〃　〃 | 〃 |
| 310 | 〃 | 〃 | 〃中 X58.2Y85.7 | 口径12cm、器高3.1cm | 〃　〃 | 〃 |
| 311 | 〃 | 〃 | 〃 | 口径12cm、器高2.6cm | 〃　〃 | 〃 |
| 312 | 〃 | 〃 | 〃 X58.3Y85.7 | 口径13.4cm、器高3.7cm | 〃　〃 | 〃 |
| 313 | 〃 | 〃 | 〃中 | 口径13.2cm、器高4.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 314 | 〃 | 〃 | 〃 X57.6Y85.9 | 口径12cm、器高3.5cm | 〃　〃 | 〃 |
| 315 | 〃 | 〃 | 〃中 X58.3Y85.5 | 口径12cm、器高3.7cm | 〃　〃 | 〃 |
| 316 | 〃 | 〃 | 〃中 X58.2Y85.7他 | 口径11.6cm、器高3.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 317 | 〃 | 〃 | 〃中 X58.3Y85,5 | 口径12cm、器高3.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 318 | 〃 | 〃 | 〃上 | 口径11.4cm、器高３cm | 〃　〃 | 〃 |
| 319 | 〃 | 〃 | 〃中 X58.2Y85.7 | 口径12cm、器高３cm | 〃　〃 | 〃 |
| 320 | 〃 | 〃 | 〃上 X58.2Y85.7 | 口径12.6cm、器高3.4cm | 〃　〃 | 〃 |
| 321 | 〃 | 〃 | 〃中 | 口径11.8cm、器高2.9cm | 〃　〃 | 〃 |
| 322 | 〃 | 〃 | 〃中 X58.3Y85.5 | 口径12.6cm、器高３cm | 〃　〃 | 〃 |
| 323 | 〃 | 〃 | 〃上 | 口径13cm、器高3.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 324 | 〃 | 〃 | 〃中 X58.2Y85.7 | 口径13.2cm、器高2.9cm | 〃　〃 | 〃 |
| 325 | 〃 | 〃 | 〃中 X58.4Y85.6 | 口径12.8cm、器高3.5cm | 〃　〃 | 〃 |
| 326 | 〃 | 〃 | 〃上 X58.2Y85.7<br>Ⅱ層 | 口径11.8cm、器高３cm | 〃　〃 | 〃 |
| 327 | 〃 | 〃 | 〃中 X58.7Y85 | 口径12.4cm、器高3.9cm | 〃　〃 | 〃 |
| 328 | 〃 | 〃 | 〃中 | 口径11.8cm、器高3.8cm | 〃　〃生焼 | 〃 |
| 329 | 〃 | 〃 | 〃中上 X57.3Y85.7<br>他 | 口径12.4cm、器高3.5cm | 〃　〃 | 〃 |
| 330 | 〃 | 〃 | 〃上 X58.3Y85.6 | 口径12.4cm、器高3.6cm | 〃　〃 | 〃 |
| 331 | 〃 | 〃 | 〃上 X58.2Y85.7 | 口径12.2cm、器高３cm | 〃　〃 | 〃 |
| 332 | 〃 | 〃 | 〃上 | 口径11.8cm、器高2.9cm | 〃　〃 | 〃 |
| 333 | 〃 | 〃 | 〃中 X58.3Y85.5 | 口径12.5cm、器高３cm | 〃　〃 | 〃 |
| 334 | 〃 | 〃 | 〃上 | 口径12.4cm、器高3.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 335 | 〃 | 〃 | 〃上 | 口径13cm、器高3.4cm | 〃　〃生焼 | 〃 |
| 336 | 〃 | 〃 | 〃 | 口径12.8cm、器高3.9cm | 〃　〃 | 〃 |
| 337 | 〃 | 〃 | 〃 X58.5Y85.6 | 口径15.6cm、器高2.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 338 | 〃 | 杯蓋 | 〃中 | 口径15cm | 口縁端部折れる<br>内面に墨書「長岡神祝」 | 〃 |
| 339 | 〃 | 〃 | 〃上　X59.1Y85 | 口径12.8cm | 口縁端部三角<br>内面に墨書「大祝」 | 奈良後期 |
| 340 | 〃 | 高台杯 | 〃中　X58.7Y84.9 | 口径11.5cm、器高4.6cm | 底部境に稜、白い砂粒<br>底部裏面に墨書「長岡」 | 平安前期 |
| 341 | 〃 | 〃 | 〃上　X58.8Y85 | 底径７cm | 底部境に稜<br>底部裏面に墨書「大社祝」 | 〃 |
| 342 | 〃 | 〃 | 〃Ｃ－３区 | 底径6.6cm | 底部境に稜<br>底部裏面に墨書「祢宜」 | 〃 |
| 343 | 〃 | 〃 | 〃中　X59.6Y85.8 | 口径11.5cm、器高４cm | 底部境が丸い<br>底部裏面に墨書「真茂」 | 奈良後期 |
| 344 | 〃 | 杯 | 〃中　X58.3Y85.5 | 口径11.8cm、器高３cm | 底部小さい、体部開く<br>白と黒の砂粒目立つ<br>底部裏面に墨書「小継」 | 平安前期 |

## 表13－９　1987年度遺物一覧表(9)

| 番号 | 種　類 | 器　種 | 出土遺構・地区・層位 | 大きさ | 特　徴 | 時　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 345 | 須恵器 | 杯 | SD11中　X57.6Y85.8 | 口径12.5cm、器高3.4cm | 底部境に稜、体部開く<br>底部裏面に墨書「衣女」 | 奈良後期 |
| 346 | 〃 | 杯蓋 | 〃中　X58.2Y85.7 | 口径13cm、器高2.2cm | 口縁端部折れる<br>天井部に墨書「竹長」 | 〃 |
| 347 | 〃 | 杯 | SD11中　X59Y84.8 | 口径12.2cm、器高３cm | 底部境に稜、体部開く<br>底部裏面に墨書「二」 | 奈良後期 |
| 348 | 〃 | 〃 | 〃　中　X58.3Y85.5 | 口径12.4cm、器高３cm | 底部小さい、体部開く<br>口縁部外面に墨書「中」 | 平安前期 |
| 349 | 土師器 | 椀 | 〃　中　X58.7Y84.9 | 底径5.2cm | 底部回転糸切り<br>底部裏面に墨書「主」<br>則天文字か | 〃 |
| 350 | 須恵器 | 杯蓋 | 〃　SX18 | 口径16.5cm | 口縁端部三角<br>内面にヘラ書き「一」<br>内面に漆付着 | 奈良中期 |
| 351 | 〃 | 〃 | Ⅰ・Ⅱ層 | 口径13.5cm、器高2.4cm | 口縁端部折れ、白い砂粒<br>内面にヘラ書き「一」 | 平安前期 |
| 352 | 〃 | 〃 | 〃上 | | 扁平つまみ<br>内面にヘラ書き「×」 | 奈良中期 |
| 353 | 〃 | 高台杯 | SD11中 X59.7Y85.9 | 口径12cm、器高4.4cm | 底部境が丸い、体部開く<br>口縁部外面にヘラ書き「×」 | 奈良後期 |
| 354 | 〃 | 〃 | 〃下 | 底径７cm | 底部境に稜、体部立つ<br>外底面にヘラ書き「×」 | 〃 |
| 355 | 〃 | 〃 | 〃上 X58.7Y85.2 | 口径14.5cm、器高４cm | 底部境が丸い、体部開く<br>外底面にヘラ書き「扱」 | 奈良前期 |
| 356 | 〃 | 〃 | 〃 X57.6Y86Ⅱ層 | 底径10cm | 外底面にヘラ書き「×」 | 〃 |
| 357 | 〃 | 〃 | 〃上 X59Y84.8 | 底径10cm | 底部境に稜、白い砂粒<br>内底面にヘラ書き「×」 | 〃 |
| 358 | 〃 | 〃 | 〃上 | 口径11cm、器高4.2cm | 底部境が丸い<br>外底面にヘラ書き「一」 | 〃 |
| 359 | 〃 | 杯 | C区 | 口径12cm、器高3.2cm | 底部厚い<br>外底面にヘラ書き「×」 | 〃 |
| 360 | 〃 | 高台杯 | X59.5Y86他 | 口径17.5cm、器高4.6cm | 底部境が丸い | 奈良前期 |
| 361 | 〃 | 〃 | SD11X57Y86他 | 口径13.5cm、器高４cm | 底部境に稜、体部開く<br>外底面にヘラ書き「∪」 | 奈良中期 |
| 362 | 〃 | 杯 | D区Ⅱ層 | 口径12.5cm、器高3.2cm | 底部境に稜、体部開く<br>口縁部外面にヘラ書き「×」 | 〃 |
| 363 | 〃 | 高台杯 | SD11下 X58.7Y85.2 | 口径11.5cm、器高４cm | 底部境に稜、体部開く<br>外底面にヘラ書き「×」 | 〃 |
| 364 | 〃 | 〃 | 〃 X57.7Y86 | 口径14.4cm、器高4.4cm | 底部境に稜<br>敷物の圧痕 | 奈良前期 |
| 365 | 〃 | 杯 | 〃中 | 底径８cm | 底部小さい、体部開く<br>外底面にヘラ書き「×」 | 平安前期 |
| 366 | 〃 | 高台杯 | 〃 X58.9Y84.8 | 口径11.8cm、器高４cm | 底部境に稜、体部立つ<br>敷物の圧痕 | 奈良中期 |

## 表13－10　1987年度遺物一覧表(10)

| 番号 | 種　類 | 器　種 | 出土遺構・地区・層位 | 大 き さ | 特　徴 | 時　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 367 | 須恵器 | 高台杯 | G区Ⅱ層 | 口径15cm、器高４cm | 底部境丸い、体部開く<br>外底面にヘラ書き「一」 | 奈良中期 |
| 368 | 〃 | 杯蓋 | SD11上 | 口径14.8cm | 口縁端部折れる | 平安前期 |
| 369 | 〃 | 杯 | SD11上 X57.8Y86.4 | 口径12.5cm、器高４cm | 底部境に稜、体部立つ<br>外底面に漆記号「＋」 | 奈良中期 |
| 370 | 〃 | 〃 | 〃中 X58.8Y85.5 | 口径12cm、器高3.4cm | 底部小さい、体部開く<br>内面に漆（漆容器） | 平安前期 |
| 371 | 須恵器 | 高台杯 | SD11下 X58.7Y85.4 | 口径11.4cm、器高2.8cm | 底部境に稜、口縁部を欠く、内面に漆（漆容器） | 奈良後期 |
| 372 | 〃 | 〃 | 〃上 X58.8Y85.2 | 口径10.8cm、器高４cm | 底部境に稜、体部立つ | 奈良後期 |
| 373 | 〃 | 杯 | 〃 X58.4Y85.6 | 口径11.8cm、器高３cm | 底部小さい、体部開く、口縁部内外に油煙痕（灯明皿） | 平安前期 |
| 374 | 〃 | 〃 | 〃上 X59Y85.1 | 口径12.2cm、器高３cm | 〃 | 〃 |
| 375 | 〃 | 円面硯 | X60Y86～86.5 | 口径10.5cm | 透かし穴あり | 〃 |
| 376 | 土師器 | 杯 | SD11下 | 口径12cm、器高3.8cm | 底部境丸い、体部開く<br>内面黒色 | 奈良中期 |
| 377 | 〃 | 〃 | 〃中 | 口径16.5cm、器高4.6cm | 底部境丸い、体部外反<br>外面赤彩 | 〃 |
| 378 | 〃 | 〃 | 〃 | 口径18cm、器高６cm | 〃　〃 | 〃 |
| 379 | | | 〃中 | 口径17.8cm、器高3.8cm | 〃　暗文<br>内外面赤彩 | 〃 |
| 380 | 〃 | 〃 | 〃中 | 口径17.2cm、器高4.8cm | 口縁部外反、内外赤彩 | 〃 |
| 381 | 〃 | 椀 | 〃 X58Y85.3 | 口径15.8cm、器高７cm | 口縁部内湾、ヘラ切り平底、内面黒色 | 奈良後期 |
| 382 | 〃 | 杯 | 〃中 | 口径13cm | 体部開く、内面黒色 | 奈良中期 |
| 383 | 〃 | 〃 | 〃 X57.3Y85.7 | 口径15.8cm、器高5.6cm | 〃　ヘラ切り平底<br>内面黒色 | 奈良後期 |
| 384 | 〃 | 〃 | 〃上 | 口径15.2cm | 体部開く、内面黒色 | 〃 |
| 385 | 〃 | 〃 | 〃中 X58.1Y85.8 | 口径12.6cm、器高2.8cm | 底部小さい、体部開く<br>底部回転糸切り、外面赤彩 | 平安前期 |
| 386 | 〃 | 〃 | 〃中 X58.3Y85.5 | 口径10cm、器高5.7cm | 体部立つ、ヘラ切り平底<br>内面黒色 | 奈良後期 |
| 387 | 〃 | 〃 | 〃上 | 口径11.6cm、器高3.8cm | 体部開く、ヘラ切り平底<br>内外面赤彩 | 〃 |
| 388 | 〃 | 〃 | 〃中 X58.3Y85.7 | 口径11.2cm、器高3.9cm | 口縁部内湾、篦切り平底<br>内面黒色 | 〃 |
| 389 | 〃 | 〃 | 〃中 | 口径11.8cm、器高3.2cm | 体部開く、ヘラ切り平底<br>内外面赤彩 | 〃 |
| 390 | 〃 | 高台皿 | 〃中 X58.2Y85.7 | 底径６cm | 底部回転糸切り<br>内面赤彩 | 〃 |
| 391 | 〃 | 〃 | 〃 X58.2Y85.7 | 底径７cm | 〃 | 〃 |
| 392 | 〃 | 高台椀 | 〃上 | 底径8.2cm | 高台部、内面黒色 | 〃 |
| 393 | 〃 | 杯 | 〃 X58.6Y85.2 | 口径13.8cm、器高2.6cm | 口縁内湾、内外面赤彩 | 奈良中期 |
| 394 | 須恵器 | 〃 | 〃中 | 口径12.8cm、器高2.8cm | 〃　〃 | 〃 |
| 395 | 〃 | 〃 | 〃中 | 口径14cm、器高３cm | 口縁開く、内面黒色 | 〃 |

## 表13－11　1987年度遺物一覧表(11)

| 番号 | 種　類 | 器　種 | 出土遺構・地区・層位 | 大きさ | 特　徴 | 時　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 396 | 須恵器 | 杯 | SD11X57.7Y86.2 | 口径13.8cm | 口縁内湾、内外面黒色 | 奈良中期 |
| 397 | 〃 | 〃 | 〃 X58.9Y85.3 | 口径14cm、器高3cm | 口縁開く、内面黒色 | 〃 |
| 398 | 〃 | 〃 | 〃中 X58.4Y85.5 | 口径19.2cm | 口縁内湾、　〃 | 〃 |
| 399 | 〃 | 〃 | 〃中 | 口径13cm、器高3cm | 口縁開く、　〃 | 〃 |
| 400 | 〃 | 〃 | 〃 X58.8Y85.4 | 口径14.8cm | 〃　〃 | 〃 |
| 401 | 〃 | 〃 | 〃中 X58.8Y85.3 | 口径13.4cm | 〃　〃 | 〃 |
| 402 | 〃 | 〃 | 〃下 X57.6Y84.9 | 口径15cm | 口縁部外反、外側に稜 | 古墳後期 |
| 403 | 〃 | 〃 | 〃中 | 口径15cm | 〃　〃 | 〃 |
| 404 | 〃 | 〃 | 〃 X58.2Y85.6 | 口径16cm | 〃　〃 | 〃 |
| 405 | 〃 | 高杯 | 〃中 X58.8Y65.4 | 口径14.8cm | 口縁部内湾、内面黒色 | 奈良後期 |
| 406 | 〃 | 〃 | 〃 X58.7Y83.2 | 口径15cm | 〃　〃 | 〃 |
| 407 | 土師器 | 杯 | 〃中 X58.8Y85.3 | 口径約14cm | 口縁部内湾、内面黒色 | 奈良後期 |
| 408 | 〃 | 〃 | 〃上 X57.6Y84.7 | 底径9.8cm | 〃　〃 | 〃 |
| 409 | 〃 | 甕 | 〃下 X57.7Y86 | 口径28cm | 口縁端部丸い | 奈良中期 |
| 410 | 〃 | 〃 | 〃中 X58.8Y85.3 | 口径21cm | 口縁端部面取り | 〃 |
| 411 | 〃 | 〃 | 〃上 | 口径18.5cm | 口縁端部尖る | 奈良後期 |
| 412 | 〃 | 〃 | 〃 X58.2Y85.7 | 口径21cm | 〃 | 〃 |
| 413 | 〃 | 〃 | 〃中 X58.7Y85.7 | 口径22.4cm | 〃 | 〃 |
| 414 | 〃 | 鍋 | 〃下 X57.7Y85.9 | 口径34cm | 〃 | 〃 |
| 415 | 〃 | 〃 | 〃中 X58.7Y84.8 | 不明 | 〃 | 〃 |
| 416 | 〃 | 製塩土器 | 〃中 X59Y85.1 | 口径10.5cm | 棒状尖底型 | 飛鳥 |
| 417 | 須恵器 | 横瓶 | 〃下 X57.2Y86 | 口径11cm、器高23.8cm | 口唇部水平 | 奈良中期 |
| 418 | 〃 | 壺 | 〃 X58.8Y85.5 | 口径11.8cm | 〃 | 〃 |
| 419 | 〃 | 把手付鍋 | 〃中 X58.4Y85.5 | 口径35.6cm | 胴部に環状把手 | 〃 |
| 420 | 〃 | 双耳瓶 | 〃 X58.7Y85.7 | 口径11.5cm | 口縁部 | 平安前期 |
| 421 | 〃 | 瓶 | 〃中 X58.4Y85.6 | 底径18cm | 胴部カキ目 | 奈良中期 |
| 422 | 〃 | 杯蓋 | 試掘 F18 | 口径13.6cm | 口縁部に段がある | 古墳後期 |
| 423 | 〃 | 〃 | Ⅲ層 | 口径14.2cm、器高4cm | 口縁端部が細い | 〃 |
| 424 | 〃 | 〃 | 〃 | 口径15cm、器高4cm | 〃 | 〃 |
| 425 | 〃 | 杯 | 〃 | 口径11.2cm | 立ち上がりが長い | 〃 |
| 426 | 〃 | 〃 | X57.7Y86.4Ⅱ層 | | 〃 | 〃 |
| 427 | 〃 | 〃 | SD06 | 口径11.8cm | 立ち上がりがやや長い | 飛鳥前期 |
| 428 | 〃 | 〃 | E区Ⅱ層 | 口径11.4cm | 〃 | 〃 |
| 429 | 〃 | 〃 | C区 | 口径11.6cm | 立ち上がりが短い | 〃 |
| 430 | 〃 | 〃 | X57.7Y86 | 口径0.5cm | 〃 | 〃 |
| 431 | 〃 | 〃 | SD11下 X58.7Y85.4 | 口径12cm | 〃 | 〃 |
| 432 | 〃 | 〃 | 〃中 X58.8Y85.4 | 口径10cm | 〃 | 〃 |
| 433 | 〃 | 杯蓋 | 〃下 X57.7Y86 | 口径17cm | 小さなかえり | 飛鳥後期 |
| 434 | 〃 | 〃 | 〃上 | 口径17cm | 〃 | 〃 |
| 435 | 〃 | 〃 | 〃上 | 口径18cm | 〃 | 〃 |
| 436 | 〃 | 〃 | X60Y86.1Ⅱ層他 | 口径16.2cm、器高3.2cm | 口縁端部嘴状 | 奈良前期 |
| 437 | 〃 | 〃 | E－3区Ⅱ層 | 口径12cm | 口縁端部折れる | 奈良後期 |
| 438 | 〃 | 〃 | E－2区Ⅱ層 | 口径11.8cm | 口縁端部嘴状 | 奈良前期 |
| 439 | 〃 | 〃 | F－1区Ⅰ層 | 口径15cm | 〃 | 〃 |
| 440 | 〃 | 〃 | SX6、E－2区 | 口径12.8cm | 〃 | 〃 |
| 441 | 〃 | 〃 | G－1区Ⅱ層 | 口径16cm | 口縁端部短い | 〃 |

## 表13－12　1987年度遺物一覧表(12)

| 番号 | 種　類 | 器　種 | 出土遺構・地区・層位 | 大 き さ | 特　徴 | 時　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 442 | 須恵器 | 杯蓋 | 不明 | 口径16cm、器高3.4cm | 口縁端部立つ<br>天井部に漆付着 | 奈良前期 |
| 443 | 〃 | 〃 | G－５区Ⅱ～Ⅲ層 | 口径16cm | 口縁端部立つ | 〃 |
| 444 | 〃 | 〃 | E－３区Ⅱ層 | 口径18cm、器高３cm | 〃 | 〃 |
| 445 | 〃 | 〃 | G－２区Ⅱ層 | 口径17.2cm | 〃 | 〃 |
| 446 | 〃 | 〃 | D－２区Ⅰ層 | 口径15.6cm、器高1.4cm | 口縁端部細く立つ | 奈良中期 |
| 447 | 〃 | 〃 | E－２区Ⅱ層 | 口径6.2cm、器高3.2cm | 口縁端部嘴状 | 奈良前期 |
| 448 | 〃 | 〃 | F－３・４区Ⅱ層 | 口径17.8cm、器高2.8cm | 口縁端部外へ開く | 奈良中期 |
| 449 | 〃 | 〃 | SX１、F－５区Ⅱ層 | 口径15.4cm、器高2.8cm | 口縁端部三角 | 〃 |
| 450 | 〃 | 〃 | SX６、D－１区、E－２区Ⅰ・Ⅱ層 | | つまみ上面広い | 〃 |
| 451 | 〃 | 〃 | E－２区Ⅱ層 | 口径16.8cm | 口縁端部三角 | 〃 |
| 452 | 〃 | 〃 | E－３区Ⅰ・Ⅱ層 | 口径15.2cm、器高３cm | 口縁端部立つ | 奈良中期 |
| 453 | 〃 | 〃 | X60.1Y85.6Ⅱ層 | 口径14.4cm、器高2.7cm | 口縁端部三角 | 〃 |
| 454 | 〃 | 〃 | X60.1Y86.5Ⅱ層 | 口径15cm | 〃 | 〃 |
| 455 | 〃 | 〃 | F－３・４区Ⅱ層 | 口径11.6cm、器高2.6cm | 口縁端部短い | 奈良後期 |
| 456 | 〃 | 〃 | B－１区Ⅱ層 | 口径12.4cm、器高2.7cm | 〃 | 〃 |
| 457 | 〃 | 〃 | G－５区Ⅲ層 | 口径16.6cm | 〃 | 〃 |
| 458 | 〃 | 〃 | F－１区 | 口径11.5cm、器高２cm | 口縁端部短い | 平安前期 |
| 459 | 〃 | 〃 | F－２区Ⅱ層 | 口径17.2cm、器高3.9cm | 口縁端部折れる | 奈良後期 |
| 460 | 〃 | 〃 | C－１区Ⅱ層 | 口径16.4cm、器高３cm | 〃 | 〃 |
| 461 | 〃 | 〃 | D－２区Ⅱ層 | 口径16cm | 口縁端部短い | 〃 |
| 462 | 〃 | 〃 | D－２区Ⅰ・Ⅱ層 | 口径17.4cm | 口縁端部折れる | 〃 |
| 463 | 〃 | 〃 | B－２区 | 口径15.2cm | 〃 | 〃 |
| 464 | 〃 | 〃 | C－５区Ⅰ・Ⅱ層 | 口径11.8cm、器高2.9cm | 〃 | 〃 |
| 465 | 〃 | 〃 | G－２区Ⅱ層 | 口径13.2cm、器高2.2cm | 〃 | 〃 |
| 466 | 〃 | 〃 | C－１区Ⅱ層 | 口径12.6cm、器高2.7cm | 口縁端部三角 | 〃 |
| 467 | 〃 | 〃 | H－１・２区 | 口径13.3cm | 〃 | 〃 |
| 468 | 〃 | 〃 | F－３区Ⅱ層 | 口径11.6cm、器高2.5cm | 口縁端部丸い | 平安前期 |
| 469 | 〃 | 〃 | E－３区Ⅰ・Ⅱ層 | 口径14cm、器高2.2cm | 口縁端部内屈 | 奈良後期 |
| 470 | 〃 | 〃 | F－３・４区Ⅱ層 | 口径16cm、器高３cm | 口縁端部丸い | 平安前期 |
| 471 | 〃 | 〃 | F－５区Ⅰ・Ⅱ層 | 口径12.4cm、器高2.7cm | 口縁端部折れる | 〃 |
| 472 | 〃 | 〃 | SX22 | 口径13.8cm | 口縁端部立つ | 奈良後期 |
| 473 | 〃 | 〃 | B－３区Ⅰ層 | 口径13.2cm、器高３cm | 口縁端部折れる | 平安前期 |
| 474 | 〃 | 〃 | X60.1Y85.6 | 口径12cm、器高2.5cm | 口縁端部小さい | 〃 |
| 475 | 〃 | 〃 | X60.8Y85.8 | 口径12cm、器高2.6cm | 口縁端部折れる | 〃 |
| 476 | 〃 | 〃 | X60.7Y85.8 | 口径13cm、器高2.2cm | 〃 | 〃 |
| 477 | 〃 | 〃 | X59.5Y85他Ⅱ層 | 口径13cm、器高2.4cm | 〃 | 〃 |
| 478 | 〃 | 〃 | C－１区Ⅱ層 | 口径12.8cm | 〃 | 〃 |
| 479 | 〃 | 〃 | E－２区Ⅱ層 | 口径11.6cm、器高2.6cm | 口縁端部丸い | 〃 |
| 480 | 〃 | 〃 | X59.1Y85.2 | 口径13.2cm、器高3.2cm | 〃 | 〃 |
| 481 | 〃 | 〃 | C－４区Ⅱ層 | 口径13.6cm、器高1.4cm | 〃 | 〃 |
| 482 | 〃 | 〃 | B－３区畦 | 口径12.2cm、器高2.8cm | 〃 | 〃 |
| 483 | 〃 | 〃 | C－２区Ⅱ層 | 口径11.2cm、器高2.3cm | 〃 | 〃 |
| 484 | 〃 | 〃 | F－４区Ⅱ層 | 口径12cm | 〃 | 〃 |
| 485 | 〃 | 〃 | C－４区Ⅱ層 | 口径13.2cm | 口縁端部折れる | 〃 |
| 486 | 〃 | 〃 | E－３区Ⅰ・Ⅱ層 | 口径11cm、器高2.6cm | 〃 | 〃 |

## 表13－13　1987年度遺物一覧表(13)

| 番号 | 種　類 | 器　種 | 出土遺構・地区・層位 | 大 き さ | 特　徴 | 時　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 487 | 須恵器 | 杯蓋 | C－４区Ⅱ層 | 口径12cm、器高2.5cm | 口縁端部折れる | 平安前期 |
| 488 | 〃 | 〃 | D－２Ⅱ層 | 口径12.6cm、器高2.5cm | 〃 | 〃 |
| 489 | 〃 | 〃 | SX１、F－５区Ⅰ・Ⅱ層 | 口径13.7cm | 〃 | 〃 |
| 490 | 〃 | 〃 | C－２区Ⅱ層 | 口径11.5cm、器高2.1cm | 〃 | 〃 |
| 491 | 〃 | 〃 | SD11、C－１区 | 口径12.8cm | 〃　つまみ無し | 〃 |
| 492 | 〃 | 〃 | SX17、E－３区 | 口径16.6cm | 口縁端部細く立つ | 奈良前期 |
| 493 | 〃 | 高台杯 | G－４区Ⅱ・Ⅲ層 | 口径17cm、器高4.4cm | 底部境丸い、体部開く | 〃 |
| 494 | 〃 | 〃 | X61Y85.9 | 口径14.8cm、器高3.8cm | 〃　〃 | 〃 |
| 495 | 〃 | 〃 | SX、E－８区 | 口径14.6cm、器高4.4cm | 〃　〃 | 〃 |
| 496 | 〃 | 〃 | G－４区Ⅱ・Ⅲ層 | 口径15cm、器高４cm | 〃　〃 | 〃 |
| 497 | 〃 | 〃 | SD11中 X58.8Y85.3 | 口径14.6cm、器高3.8cm | 体部に稜部 | 奈良中期 |
| 498 | 〃 | 〃 | E－２区 | 口径14cm、器高4.4cm | 底部境丸い　体部立つ | 〃 |
| 499 | 〃 | 〃 | SD11X58Y85.3 | 口径13.1cm、器高3.4cm | 〃　体部開く | 〃 |
| 500 | 〃 | 〃 | E－５区Ⅰ・Ⅱ層 | 口径14cm、器高3.8cm | 〃　〃 | 〃 |
| 501 | 〃 | 〃 | E－２区Ⅱ層 | 口径14cm、器高4.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 502 | 〃 | 〃 | X60.9Y85.9 | 口径11.8cm、器高3.8cm | 〃　〃 | 〃 |
| 503 | 〃 | 〃 | F－３・４区Ⅱ層 | 口径14cm、器高3.5cm | 底部境に稜　〃 | 〃 |
| 504 | 〃 | 〃 | C－４区Ⅱ層 | 口径14cm、器高4.2cm | 底部境丸い　〃 | 〃 |
| 505 | 〃 | 〃 | E－３区 | 口径14cm、器高4.4cm | 〃　〃 | 〃 |
| 506 | 〃 | 〃 | C－４区Ⅱ層 | 口径11.8cm、器高3.2cm | 底部境に稜　〃 | 奈良後期 |
| 507 | 〃 | 〃 | A－２区Ⅰ・Ⅱ層 | 口径13.5cm、器高3.7cm | 底部境丸い　〃 | 奈良前期 |
| 508 | 〃 | 〃 | X58.5Y86.5Ⅱ層 | 口径12.2cm、器高3.8cm | 底部境に稜　〃 | 奈良中期 |
| 509 | 〃 | 〃 | E－４区Ⅱ層 | 口径13cm、器高3.4cm | 底部境丸い　〃 | 奈良前期 |
| 510 | 〃 | 〃 | A－１区Ⅰ層 | 口径11.5cm、器高４cm | 底部境に稜　体部立つ | 奈良中期 |
| 511 | 〃 | 〃 | F－４区Ⅱ層 | 口径11cm、器高４cm | 〃　〃 | 〃 |
| 512 | 〃 | 〃 | X58.8Y86.5Ⅱ層 | 口径11.2cm、器高3.9cm | 底部境丸い　〃 | 〃 |
| 513 | 〃 | 〃 | F－４区Ⅱ層 | 口径11cm、器高４cm | 〃　〃 | 奈良前期 |
| 514 | 〃 | 〃 | C区Ⅱ層 | 口径12.4cm、器高5.1cm | 底部境に稜　体部開く | 奈良中期 |
| 515 | 〃 | 〃 | SD11、C－４区Ⅱ層 | 口径11.4cm、器高3.5cm | 底部境丸い　〃 | 奈良前期 |
| 516 | 〃 | 〃 | E－３区Ⅱ層 | 口径10.4cm、器高4.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 517 | 〃 | 〃 | X60.2Y85.6 | 口径10.4cm、器高3.7cm | 〃　〃 | 〃 |
| 518 | 〃 | 〃 | E－２区Ⅱ層 | 口径10.6cm、器高4.3cm | 〃　〃 | 〃 |
| 519 | 〃 | 〃 | F－３・４区Ⅱ層 | 口径12cm、器高４cm | 〃　〃 | 〃 |
| 520 | 〃 | 〃 | B－５区 | 口径11cm、器高3.5cm | 底部境に稜　〃 | 奈良後期 |
| 521 | 〃 | 〃 | D－５区Ⅰ・Ⅱ層 | 口径11cm、器高4.3cm | 底部境丸い　〃 | 奈良中期 |
| 522 | 〃 | 〃 | C－４区Ⅰ・Ⅱ層 | 口径11.7cm、器高4.5cm | 底部境に稜　〃 | 奈良後期 |
| 523 | 〃 | 〃 | SD11中 X59Y84.6 | 口径17.4cm、器高4.5cm | 底部境丸い　〃 | 奈良前期 |
| 524 | 〃 | 〃 | 〃 X58.7Y85.3 | 口径16cm、器高4.6cm | 〃　〃 | 〃 |
| 525 | 〃 | 〃 | 〃 X57.6Y86他 | 口径16cm、器高６cm | 〃　〃 | 〃 |
| 526 | 〃 | 〃 | 〃 X58.3Y85.6 | 口径16cm、器高6.8cm | 底部境に稜　〃 | 奈良後期 |
| 527 | 〃 | 〃 | G－２区Ⅲ層 | 口径15.4cm、器高６cm | 底部境丸い　〃 | 奈良中期 |
| 528 | 〃 | 〃 | X61Y85.9 | 口径16cm、器高6.3cm | 〃　〃 | 〃 |
| 529 | 〃 | 〃 | X58.7Y86.5 | 口径14.6cm、器高5.2cm | 底部境に稜　〃 | 奈良後期 |
| 530 | 〃 | 〃 | 〃下 X57.6Y86.8 | 口径16.4cm、器高4.5cm | 底部境丸く口縁部開く | 奈良前期 |
| 531 | 〃 | 〃 | SD11中 X58.8Y85.2 | 口径17cm、器高4.3cm | 底部境に稜、体部立つ | 奈良中期 |
| 532 | 〃 | 〃 | 〃 X59Y 不明 | 口径16.2cm、器高6.2cm | 底部境丸い、体部開く | 奈良前期 |
| 533 | 〃 | 〃 | D－４区Ⅱ層 | 口径16cm、器高5.9cm | 〃　〃 | 〃 |

## 表13－14　1987年度遺物一覧表(14)

| 番号 | 種　類 | 器　種 | 出土遺構・地区・層位 | 大 き さ | 特　徴 | 時　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 534 | 須恵器 | 高台杯 | X61Y85.7他 | 口径16.5cm、器高6.2cm | 底部境丸い、体部開く | 奈良前期 |
| 535 | 〃 | 〃 | C－２区Ⅱ層 | 口径15cm、器高5.8cm | 底部境に稜　〃 | 平安前期 |
| 536 | 〃 | 〃 | X58.3Y85.8 | 口径19.3cm、器高3.2cm | 〃　〃 | 奈良後期 |
| 537 | 〃 | 杯 | X58.8Y86.4Ⅱ層 | 口径11.6cm、器高3.8cm | 底部境丸い　〃 | 奈良前期 |
| 538 | 〃 | 〃 | E－３・４区Ⅱ層 | 口径13cm、器高3.8cm | 〃　〃 | 〃 |
| 539 | 〃 | 〃 | D－４区Ⅰ・Ⅱ層 | 口径11.8cm、器高3.6cm | 〃　〃 | 〃 |
| 540 | 〃 | 〃 | X58.7Y85.3 | 口径13.2cm、器高3.4cm | 〃　〃 | 〃 |
| 541 | 〃 | 〃 | X60.9Y85.9 | 口径12.2cm、器高３cm | 底部境に稜　〃 | 奈良中期 |
| 542 | 〃 | 〃 | F－３・４区Ⅱ層 | 口径13.6cm、器高3.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 543 | 〃 | 〃 | X60.9Y85.8 | 口径13cm、器高３cm | 〃　〃 | 〃 |
| 544 | 〃 | 〃 | C－４区Ⅱ層 | 口径11.6cm、器高3.1cm | 〃　体部立つ | 〃 |
| 545 | 〃 | 〃 | G－５区Ⅱ・Ⅲ層 | 口径13cm、器高３cm | 〃　体部開く | 〃 |
| 546 | 〃 | 〃 | F－４区 | 口径12.2cm、器高3.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 547 | 〃 | 〃 | G－１区Ⅱ層 | 口径12.4cm、器高3.6cm | 底部境に稜　〃 | 奈良後期 |
| 548 | 〃 | 〃 | G－１区 | 口径12cm、器高3.5cm | 底部境丸い　〃 | 奈良中期 |
| 549 | 〃 | 〃 | G－４区Ⅱ層 | 口径11.8cm、器高3.5cm | 底部境に稜　〃 | 〃 |
| 550 | 〃 | 〃 | X59.8Y85.3Ⅱ層 | 口径11.8cm、器高3.4cm | 底部境丸い　〃 | 〃 |
| 551 | 〃 | 〃 | F－３区Ⅱ層 | 口径12cm、器高3.6cm | 〃　〃 | 奈良前期 |
| 552 | 〃 | 〃 | C－４区 | 口径12.2cm、器高3.4cm | 底部境に稜　〃 | 奈良中期 |
| 553 | 〃 | 〃 | F－４区Ⅱ層 | 口径12.8cm、器高3.2cm | 底部境丸い　〃 | 〃 |
| 554 | 〃 | 〃 | G－２区Ⅱ層 | 口径11.4cm、器高3.6cm | 底部境に稜　〃 | 〃 |
| 555 | 〃 | 〃 | G－２区Ⅱ層 | 口径12cm、器高3.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 556 | 〃 | 〃 | X60.8Y85.8 | 口径11.6cm、器高3.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 557 | 〃 | 〃 | D－２区Ⅰ・Ⅱ層 | 口径11.5cm、器高3.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 558 | 〃 | 〃 | G－２区Ⅱ層 | 口径11.6cm、器高３cm | 〃　〃 | 〃 |
| 559 | 〃 | 〃 | X60.9Y85.9 | 口径11.8cm、器高3.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 560 | 〃 | 〃 | SB11P３、E－２区 | 口径10.8cm、器高3.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 561 | 〃 | 〃 | C－４区Ⅱ層 | 口径11.2cm、器高2.8cm | 〃　〃 | 〃 |
| 562 | 〃 | 〃 | E－１区Ⅱ層 | 口径11.8cm、器高3.2cm | 底部境丸い　〃 | 〃 |
| 563 | 〃 | 〃 | SD11、C－11Ⅱ層 | 口径11.6cm、器高3.6cm | 〃　〃 | 〃 |
| 564 | 〃 | 〃 | E－１区Ⅱ層 | 口径12cm、器高3.6cm | 〃　〃 | 〃 |
| 565 | 〃 | 〃 | D－４区Ⅱ層 | 口径12cm、器高3.7cm | 〃　〃 | 〃 |
| 566 | 〃 | 〃 | A－２区Ⅰ・Ⅱ層他 | 口径12cm、器高3.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 567 | 〃 | 〃 | G－５区Ⅰ・Ⅱ層 | 口径12cm、器高3.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 568 | 〃 | 〃 | X59.5Y86.5Ⅱ層 | 口径11.9cm、器高3.8cm | 〃　〃 | 〃 |
| 569 | 〃 | 〃 | C－４区Ⅱ層 | 口径12cm、器高3.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 570 | 〃 | 〃 | E－２区Ⅱ層 | 口径11.4cm、器高３cm | 〃　〃 | 〃 |
| 571 | 〃 | 〃 | X58.9Y84.8 | 口径12.6cm、器高3.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 572 | 〃 | 〃 | F－３区Ⅱ層 | 口径12.6cm、器高3.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 573 | 〃 | 〃 | X60.9Y85.8 | 口径11cm、器高3.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 574 | 〃 | 〃 | X60Y85他 | 口径13cm、器高３cm | 〃　〃 | 〃 |
| 575 | 〃 | 〃 | X60.1Y85.6 | 口径12.6cm、器高2.6cm | 〃　〃 | 奈良前期 |
| 576 | 〃 | 〃 | SX22、F－２区 | 口径12.2cm、器高3.2cm | 底部境に稜　〃 | 奈良後期 |
| 577 | 〃 | 〃 | X60.9Y85.8 | 口径11.6cm、器高3.3cm | 〃　〃 | 〃 |
| 578 | 〃 | 〃 | C－１区Ⅱ層 | 口径12.2cm、器高3.1cm | 〃　〃 | 〃 |
| 579 | 〃 | 〃 | X57.5Y86.4Ⅱ層 | 口径12cm、器高３cm | 〃　〃 | 〃 |
| 580 | 〃 | 〃 | C－１区Ⅱ層 | 口径12.4cm、器高３cm | 底部小さい　〃 | 平安前期 |

## 表13－15　1987年度遺物一覧表(15)

| 番号 | 種　類 | 器　種 | 出土遺構・地区・層位 | 大 き さ | 特　徴 | 時　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 581 | 須恵器 | 杯 | H－１Ⅰ層 | 口径11.8cm、器高３cm | 底部小さい、体部開く | 平安前期 |
| 582 | 〃 | 〃 | C－１区Ⅰ層 | 口径12cm、器高３cm | 〃　〃 | 〃 |
| 583 | 〃 | 〃 | X59.6Y86.6 | 口径11.8cm、器高３cm | 〃　〃 | 〃 |
| 584 | 〃 | 〃 | SX22、F－２区 | 口径12.8cm、器高2.8cm | 底部境丸い　〃生焼 | 奈良中期 |
| 585 | 〃 | 〃 | X60.9Y85.9 | 口径12cm、器高3.2cm | 底部境に稜　〃 | 〃 |
| 586 | 〃 | 〃 | C－４区Ⅱ層 | 口径11.8cm、器高3.3cm | 〃　〃 | 奈良後期 |
| 587 | 〃 | 〃 | G－２区Ⅱ層 | 口径12.3cm、器高3.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 588 | 〃 | 〃 | B－３区Ⅰ層 | 口径11.6cm、器高3.3cm | 底部小さい　〃生焼 | 平安前期 |
| 589 | 〃 | 〃 | B－３区Ⅱ層 | 口径12.5cm、器高2.8cm | 〃　〃 | 〃 |
| 590 | 〃 | 〃 | D－２区Ⅱ層 | 口径11.8cm、器高3.2cm | 底部境に稜　〃 | 奈良後期 |
| 591 | 〃 | 〃 | C－１区Ⅰ層 | 口径12.3cm、器高2.8cm | 底部小さい　〃 | 平安前期 |
| 592 | 〃 | 〃 | C－１区Ⅰ層 | 口径12.2cm、器高2.8cm | 〃　〃生焼 | 〃 |
| 593 | 〃 | 〃 | X61Y85.9 | 口径12cm、器高3.2cm | 底部境に稜　〃 | 奈良後期 |
| 594 | 〃 | 〃 | X60.9Y85.8 | 口径12cm、器高3.1cm | 〃　〃 | 〃 |
| 595 | 〃 | 〃 | C－４区 | 口径12.5cm、器高3.7cm | 〃　〃 | 〃 |
| 596 | 〃 | 〃 | F－２区Ⅱ層 | 口径12cm、器高3.2cm | 〃　〃 | 〃 |
| 597 | 〃 | 〃 | C－４区Ⅱ層 | 口径12.4cm、器高3.1cm | 底部小さい　〃 | 平安前期 |
| 598 | 〃 | 〃 | X58.7Y86.5Ⅱ層 | 口径12.8cm、器高３cm | 〃　〃生焼 | 〃 |
| 599 | 〃 | 〃 | B－３区Ⅰ層 | 口径12.6cm、器高3.2cm | 〃　〃　〃 | 〃 |
| 600 | 〃 | 〃 | X58.7Y86.7Ⅰ・Ⅱ層 | 口径13cm、器高2.8cm | 〃　〃 | 〃 |
| 601 | 〃 | 高杯 | SD11中 X58.7Y85.8 | 底径6.2cm | 脚端部外へ出る | 奈良中期 |
| 602 | 〃 | 平瓶 | X60Y86.1Ⅱ層 | 底径16cm | 体部角張る | 飛鳥 |
| 603 | 〃 | 小型壺蓋 | 試掘C－13 | 口径5.3cm、器高２cm | つまみ小さい | 奈良後期 |
| 604 | 〃 | 〃 | F－５区Ⅰ・Ⅱ層 | 口径5.5cm | 口縁端部丸い | 〃 |
| 605 | 〃 | 〃 | G－５区Ⅰ・Ⅱ層 | 口径7.5cm、器高３cm | 口縁端部尖る | 〃 |
| 606 | 〃 | 壺蓋 | H－１区Ⅰ層 | 口径12cm、器高4.1cm | 口縁端部尖る | 奈良後期 |
| 607 | 〃 | 〃 | B－１区Ⅰ層 | 口径12.2cm | 口縁端部面取り | 〃 |
| 608 | 〃 | 小型壺 | 試掘F－18 | 口径4.6cm、器高4.8cm | 肩部丸い | 〃 |
| 609 | 〃 | 〃 | X60.9Y85.8 | 口径5.2cm | 肩部張る | 〃 |
| 610 | 〃 | 〃 | X58.2Y85.8Ⅰ層 | 口径8.2cm、器高6.8cm | 肩部丸い<br>外底面にヘラ書き「又」 | 〃 |
| 611 | 〃 | 横瓶 | E－４区 | 口径11cm | 口唇部水平 | 奈良 |
| 612 | 〃 | 壺 | C－２区Ⅰ・Ⅱ層 | 口径12.7cm | 口縁端部立つ | 〃 |
| 613 | 〃 | 短頸壺 | C－４区Ⅱ層 | 口径10.8cm | 口縁端部面取り | 〃 |
| 614 | 〃 | 双耳瓶 | C－２区Ⅱ層 | 口径11.6cm | 口縁端部外側に面取り | 平安前期 |
| 615 | 〃 | 〃 | C－２区Ⅰ・Ⅱ層 | 口径11.8cm | 口縁端部折れ端部立つ | 〃 |
| 616 | 〃 | 〃 | SI03、G－５区Ⅱ層 | 口径18.8cm | 〃 | 〃 |
| 617 | 〃 | 〃 | X59.3Y86.4Ⅱ層 | 口径10.6cm | 口縁端部尖る | 〃 |
| 618 | 〃 | 〃 | C－１区Ⅱ層 | 口径17.8cm | 口縁端部外側に面取り | 〃 |
| 619 | 〃 | 壺 | SD11中、C－４区 | 口径16cm、器高24cm | 口唇部水平、肩部丸い | 〃 |
| 620 | 〃 | 甕 | SD11下 X57.7Y85.9 | 口径32cm | 口縁端部肥厚 | 飛鳥 |
| 621 | 〃 | 〃 | G－５区Ⅱ・Ⅲ層 | 口径27.4cm | 口唇部外へ張り出す | 奈良中期 |
| 622 | 土師器 | 杯 | 試掘F－18 | 口径16.7cm | 口縁部内湾、内外面赤彩 | 〃 |
| 623 | 〃 | 〃 | SD06、E－４区 | 口径13.6cm、器高4.2cm | 口縁部外反、外面に稜<br>内面黒色 | 古墳後期 |
| 624 | 〃 | 〃 | X58.3Y85.7 | 口径11.7cm、器高3.7cm | 口縁部内湾、底部ヘラ切り | 平安前期 |

## 表13－16　1987年度遺物一覧表(16)

| 番号 | 種　類 | 器　種 | 出土遺構・地区・層位 | 大 き さ | 特　徴 | 時　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 625 | 土師器 | 杯 | X59.7Y85.2Ⅱ層 | 口径13.4cm、器高3.2cm | 口縁端部外反<br>内外面赤彩 | 奈良後期 |
| 626 | 〃 | 〃 | SD06 | 口径15.8cm、器高4.7cm | 口縁部内湾、内面黒色<br>外底面にヘラ書き「×」 | 古墳後期 |
| 627 | 〃 | 〃 | 不明 | 底径７cm | 底部回転糸切り、内面黒色 | 平安前期 |
| 628 | 〃 | 〃 | SD11中 X58.2Y85.7 | 口径6.5cm | 底部回転糸切り、内面黒色 | 〃 |
| 629 | 〃 | 〃 | 試掘Ｃ－13 | 口径12.2cm、器高4.1cm | 口縁部開く、底部回転糸切り | 〃 |
| 630 | 〃 | 〃 | Ｂ－３区 | 口径11.8cm、器高3.4cm | 口縁部開く、内面黒色 | 〃 |
| 631 | 〃 | 皿 | Ｃ－４区Ⅲ層 | 口径14.8cm、器高2.4cm | 口縁部開く | 〃 |
| 632 | 〃 | 〃 | Ｂ－３区 | 口径14.6cm、器高2.4cm | 口縁部開く | 平安前期 |
| 633 | 〃 | 杯 | 不明 | 口径19.6cm、器高4.8cm | 口縁端部外反、内外赤彩 | 奈良後期 |
| 634 | 〃 | 高杯 | Ｅ－３区 | 口径26cm、器高2.8cmか | 口縁部皿、外面赤彩、内面黒色 | 〃 |
| 635 | 〃 | 〃 | SB11P４、Ｅ－２区 | 台径7.2cm | 脚部 | 〃 |
| 636 | 〃 | 〃 | SX22試掘、Ｆ－２ | | 〃 | 〃 |
| 637 | 〃 | 台 | Ｆ－18 | 台径4.8cm | 〃 | 〃 |
| 638 | 〃 | 鍋 | 不明 | 口径37.2cm | 口縁端部外反 | 奈良前期 |
| 639 | 〃 | 〃 | X58.4Y86.4Ⅰ～Ⅱ層 | 口径37cm | 口縁端部面取り | 奈良中期 |
| 640 | 〃 | 〃 | X57.7Y86.5 | 口径35.8cm | 〃 | 〃 |
| 641 | 〃 | 〃 | Ｇ－５区Ⅱ～Ⅲ層 | | 口縁端部面取り先立つ | 平安前期 |
| 642 | 〃 | 〃 | X57.4Y86.3Ⅱ層 | | 口縁端部内面肥厚三角 | 〃 |
| 643 | 〃 | 〃 | X58.8Y85.4Ⅲ層 | | 〃 | 〃 |
| 644 | 〃 | 〃 | X58.8Y86.9Ⅰ～Ⅱ層 | | 〃 | 〃 |
| 645 | 〃 | 小型甕 | SX18 | 口径12cm | 口縁部外反 | 奈良前期 |
| 646 | 〃 | 〃 | Ｇ－３区Ⅱ層 | 口径12.4cm | 口縁端部面取り | 奈良後期 |
| 647 | 〃 | 〃 | SX23、Ｆ－２区 | 口径14.8cm | 口縁端部やや内傾 | 〃 |
| 648 | 〃 | 〃 | SD11上 X59Y84.9 | 口径13.6cm | 口縁端部立つ | 〃 |
| 649 | 〃 | 甑 | X57.5Y86.6Ⅱ～Ⅲ層 | 底径14.6cm | 底部端部面取り | 奈良後期 |
| 650 | 〃 | 〃 | X57.5Y86.6 | 口径16.6cm | 〃 | 〃 |
| 651 | 土製品 | 土錘 | | 長さ2.6cm、径1.1cm | 管状 | 奈良・平安 |
| 652 | 〃 | 〃 | Ｇ－２区Ⅱ層 | 長さ2.3cm、径1.5cm | 〃 | 〃 |
| 653 | 〃 | 〃 | | 長さ2.5cm、径２cm | 紡錘形 | 〃 |
| 654 | 〃 | 〃 | SD11Ｃ－４区 | 長さ4.2cm、径1.1cm | 管状 | 〃 |
| 655 | 〃 | 〃 | Ｅ－３区 | 長さ4.6cm、径1.5cm | 〃 | 〃 |
| 656 | 〃 | 〃 | Ｇ－２区Ⅱ層 | 長さ3.8cm、径1.6cm | 〃 | 〃 |
| 657 | 〃 | 〃 | Ｇ－１区Ⅰ層 | 長さ4.1cm、径1.7cm | 〃 | 〃 |
| 658 | 〃 | 〃 | Ｇ－２区Ⅱ層 | 長さ4.7cm、径1.2cm | 〃 | 〃 |
| 659 | 〃 | 〃 | Ｈ－１区Ⅰ層 | 長さ3.3cm、径1.4cm | 〃 | 〃 |
| 660 | 〃 | 〃 | Ｇ－１区Ⅱ層 | 長さ3.6cm、径1.2cm | 〃 | 〃 |
| 661 | 〃 | 〃 | Ｇ－Ⅰ区 | 長さ3.8cm、径1.3cm | 〃 | 〃 |
| 662 | 〃 | 〃 | | 長さ4.7cm、径1.3cm | 〃 | 〃 |
| 663 | 〃 | 〃 | | 長さ3.1cm、径２cm | 筒形 | 〃 |
| 664 | 〃 | 〃 | SX07 | 長さ2.6cm、径2.6cm | 紡錘形 | 〃 |
| 665 | 〃 | 〃 | Ｃ－２区Ⅱ層 | 長さ2.8cm、径３cm | 〃 | 〃 |

## 表13－17　1987年度遺物一覧表(17)

| 番号 | 種　類 | 器　種 | 出土遺構・地区・層位 | 大きさ | 特　徴 | 時　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 666 | 土製品 | 土錘 | SD11中 | 長さ3.8cm、径2.1cm | 紡錘形 | 奈良・平安 |
| 667 | 〃 | 〃 | | 長さ3.4cm、径2.4cm | 〃 | 〃 |
| 668 | 〃 | 〃 | | 長さ3.6cm、径３cm | 〃 | 〃 |
| 669 | 〃 | 〃 | | 長さ3.3cm、径３cm | 〃 | 〃 |
| 670 | 〃 | 〃 | F－２区Ⅱ層 | 長さ3.8cm、径2.4cm | 〃 | 〃 |
| 671 | 〃 | 〃 | | 長さ3.6cm、径2.7cm | 〃 | 〃 |
| 672 | 〃 | 〃 | P２G－２区 | 長さ3.8cm、径2.4cm | 〃 | 〃 |
| 673 | 〃 | 〃 | G－１区 | 長さ3.6cm、径2.5cm | 〃 | 〃 |
| 674 | 〃 | 〃 | Ⅲ層 | 長さ4.1cm、径３cm | 〃 | 〃 |
| 675 | 〃 | 〃 | F－３・４区Ⅰ・Ⅱ層 | 長さ4.1cm、径3.1cm | 〃 | 〃 |
| 676 | 〃 | 〃 | | 長さ3.7cm、径３cm | 〃 | 〃 |
| 677 | 〃 | 〃 | F－２区Ⅱ層 | 長さ3.7cm、径2.9cm | 〃 | 〃 |
| 678 | 〃 | 〃 | E－３区Ⅱ層 | 長さ4.2cm、径2.7cm | 紡錘形 | 奈良・平安 |
| 679 | 〃 | 〃 | | 長さ4.6cm、径2.6cm | 〃 | 〃 |
| 680 | 〃 | 〃 | | 長さ5.4cm、径2.8cm | 〃 | 〃 |
| 681 | 〃 | 〃 | SD11X58.3Y83.6 | 長さ4.9cm、径３cm | 〃 | 〃 |
| 682 | 〃 | 〃 | F－３・４区Ⅰ・Ⅱ層 | 長さ4.4cm、径３cm | 〃 | 〃 |
| 683 | 〃 | 〃 | G－２区Ⅱ層 | 長さ4.6cm、径3.6cm | 〃 | 〃 |
| 684 | 〃 | 〃 | | 長さ5.7cm、径3.4cm | 〃 | 〃 |
| 685 | 〃 | 〃 | E－４区Ⅱ・Ⅲ層 | 長さ５cm、径3.4cm | 〃 | 〃 |
| 686 | 〃 | 〃 | P４G－２区 | 長さ5.2cm、径3.8cm | 〃 | 〃 |
| 687 | 〃 | 〃 | | 長さ5.4cm、径3.3cm | 〃 | 〃 |
| 688 | 〃 | 〃 | F－２区Ⅱ層 | 長さ4.8cm、径3.2cm | 筒形 | 飛鳥か |
| 689 | 〃 | 〃 | E－２区 | 長さ7.1cm、径5.2cm | 紡錘形 | 奈良・平安 |
| 690 | 〃 | 〃 | SD11X56.8Y85.3 | 長さ7.2cm、径3.6cm | 筒形 | 飛鳥か |
| 691 | 〃 | 〃 | X58.7Y85.3 | 長さ５cm、径４cm | 糸巻形 | 奈良・平安 |
| 692 | 須恵器 | 陶錘 | E－1.2区Ⅱ層 | 長さ5.8cm、径3.4cm | 紡錘形 | 飛鳥 |
| 693 | 石製品 | 紡錘車 | SI01F－１区 | 径７cm、厚さ1.2cm | 全体を平滑に磨いてある | 奈良 |
| 694 | 〃 | 〃 | X59.6Y86.6Ⅱ層 | 径10.4cm、厚さ3.2cm | 自然のよう | 〃 |
| 695 | 〃 | 〃 | X60Y86.6Ⅱ層 | 径６cm、厚さ2.3cm | 滑石、磨かれている | 古墳後期 |
| 696 | 欠　番 | | | | | |
| 697 | 帯金具 | 鉸具 | SD11C－９区 | 長さ2.5cm、幅2.2cm | 銅製、重さ７mg | 平安前期 |
| 698 | 〃 | 鉈尾 | 〃 | 長さ2.9cm、幅2.4cm | 鉄製、重さ11mg | 〃 |
| 699 | 〃 | 巡方 | 〃 | 長さ3.6cm、幅3.3cm | 銅製、重さ22mg<br>裏金具とも | 〃 |
| 700 | 金属製品 | かんざし | 不明 | 長さ16cm | 真鍮 | 江戸 |
| 701 | 〃 | キセル | 〃 | 長さ5.5cm | 銅製 | 江戸中期 |
| 702 | 木製品 | 台部か | SD11C－４区 | 台径６cm | 削り痕明瞭（未製品か）<br>スギ | 平安前期 |
| 703 | 〃 | 細棒(箸か) | C－４区Ⅱ層 | 長さ18.8cm、径８mm | スギ | 〃 |
| 704 | 〃 | 〃(箸か) | SD11X58.9Y85.2 | 長さ19cm、径８mm | スギ | 〃 |
| 705 | 〃 | 板（箱か） | 〃 C－４区 | 長さ16.5cm、厚さ６mm | アスナロ | 〃 |
| 706 | 〃 | 編板 | 〃中 X59Y84.8 | 幅2.6cm、厚さ８mm | 刻み４ヶ所､間隔4.5cm・7.2cm・5.8cm、スギ | 〃 |
| 707 | 〃 | 〃 | SD10A－３区 | 幅6.2cm、厚さ1.8cm | 刻み２ヶ所、間隔4.8cm<br>スギ | 奈良後期 |
| 708 | 〃 | 下駄 | SD11X57.6Y85.9 | 長さ26.8cm、幅13.2cm | ４本歯、右足用、スギ | 平安前期 |

## 表13－18　1987年度遺物一覧表(18)

| 番号 | 種　類 | 器　種 | 出土遺構・地区・層位 | 大 き さ | 特　徴 | 時　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 709 | 木製品 | 板 | SD11X58.9Y84.8 | 幅3.5cm、厚さ９㎜ | 柾目、スギ | 平安前期 |
| 710 | 〃 | 〃 | 〃　〃 | 幅3.6cm、厚さ１cm | 板目、スギ | 〃 |
| 711 | 〃 | 〃 | 〃　中X58.9Y84.8 | 幅４cm、厚さ1.2cm | 柾目 | 〃 |
| 712 | 〃 | 〃 | 〃　中X58.9Y84.9 | 幅５cm、厚さ８㎜ | 柾目、建築材か、スギ | 〃 |
| 713 | 〃 | 〃 | 〃　中 | 幅3.5cm、厚さ1.5cm | 柾目、スギ | 〃 |
| 714 | 〃 | 丸棒 | 〃　X58.5Y84.9 | 径2.2cm | スギ | 〃 |
| 715 | 〃 | 〃 | 〃　中 | 径1.4cm | スギ | 〃 |
| 716 | 〃 | 鞘 | SD10 | 幅4.3cm | 未製品か、スギ | 奈良後期 |
| 717 | 〃 | 木簡 | SD11中X58.9Y84.9 | 長さ11.6cm、幅1.9cm、厚さ７㎜ | 両端欠損、柾目、墨書「一石一石」か、スギ | 平安前期 |
| 718 | 〃 | 〃 | 〃　中X58.9Y84.8 | 長さ14.8cm、幅２cm、厚さ６㎜ | 両端欠損、柾目、墨書あるが不明、スギ | 〃 |
| 719 | 〃 | 〃 | 〃　中X58.8Y84.8 | 長さ10.5cm、幅２cm、厚さ８㎜ | 両端欠損、柾目、墨書あるが不明、スギ | 〃 |
| 720 | 〃 | 木簡か | 〃　中 | 長さ10.4cm、幅2.2cm、厚さ７㎜ | 柾目、スギ | 〃 |
| 721 | 〃 | 〃 | 〃　X58.9Y84.9 | 長さ11.7cm、幅1.9cm、厚さ８㎜ | 柾目、スギ | 〃 |
| 722 | 〃 | 木簡 | 〃　中Ｃ５区 | 長さ7.9cm、幅2.2cm、厚さ５㎜ | 柾目、墨書あるが不明スギ | 〃 |
| 723 | 〃 | 木簡か | 〃　中X58.8Y84.8 | 長さ16.3cm、幅３cm、厚さ７㎜ | 柾目、スギ | 〃 |
| 724 | 〃 | 斎串 | 〃　中X58.7Y84.9 | 長さ13.8cm、幅2.9cm、厚さ４㎜ | 柾目、上部圭頭状、下部尖る、スギ | 〃 |
| 725 | 〃 | 木簡 | 〃　中X58.8Y84.9 | 長さ8.3cm、幅2.4cm、厚さ４㎜ | 上部欠損下部尖る、墨書あるが不明、柾目、スギ | 〃 |
| 726 | 〃 | 杭（漆掻き枝） | SD06D－３区杭４ | 太さ4.5cm | 約３㎜間隔に幅２～３㎜深さ３㎜の掻き傷が残る、杭に転用、ウルシ | 江戸前期 |
| 727 | 〃 | 〃 | 〃　D－３区杭３ | 太さ５cm | 〃　〃 | 〃 |
| 728 | 〃 | 〃 | 〃　E－３区 | 太さ4.8cm | 〃　〃 | 〃 |
| 729 | 〃 | 〃 | 〃　〃 | 太さ４cm | 〃　〃 | 〃 |
| 730 | 〃 | 杭（厚板） | SD10 | 厚さ2.4cm | 建築材を杭に転用、板目スギ | 奈良後期 |
| 731 | 〃 | 〃 | 〃　しがらみ43 | 厚さ３cm | 〃 | 〃 |
| 732 | 〃 | 厚板 | 〃　A－７区 | 幅13cm、厚さ３cm | 板目、スギ | 〃 |
| 733 | 〃 | 〃 | 〃　A－８区 | 幅12cm、厚さ３cm | 〃　〃 | 〃 |
| 734 | 〃 | 杭（柱） | SD11W７ | 幅8.5cm、厚さ７cm | 建築材を杭に転用、コナラ節クヌギ節 | 平安前期 |
| 735 | 〃 | 〃 | 〃W26 | 幅６cm、厚さ3.5cm | 角を丸くしてある、建築材を杭に転用、スギ | 〃 |
| 736 | 〃 | 〃 | 〃 | 幅５cm、厚さ2.5cm | 建築材を杭に転用、スギ | 〃 |
| 737 | 〃 | 〃 | 〃W１ | 幅7.5cm、厚さ5.5cm | 〃　クリ | 〃 |
| 738 | 〃 | 〃 | 〃W２ | 幅９cm、厚さ4.5cm | 建築材を杭に転用コナラ節クヌギ | 〃 |

## 表13－19　1987年度遺物一覧表(19)

| 番号 | 種　類 | 器　種 | 出土遺構・地区・層位 | 大きさ | 特　徴 | 時　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 739 | 木製品 | 柱 | SD11⑧層上 | 幅８cm | 建築材、丸柱に縦５cm横４cm深さ約４cmの穴（ほぞ穴か）、スギ | 平安前期 |
| 740 | 〃 | 〃 | 〃 W１ | 幅７cm、厚さ５cm | 建築材、クリ | 〃 |
| 741 | 〃 | 杭（柱） | 〃 W６ | 径4.5cm | 丸く削り出した柱を杭に転用、スギ | 〃 |
| 742 | 〃 | 柱 | 〃 W７ | 径4.5cm | 丸く削り出した柱、スギ | 〃 |
| 743 | 〃 | 〃 | SD06　42 | 径４cm | 〃　スギ | 奈良後期 |
| 744 | 〃 | 細棒 | SD11W22 | 径1.8cm | 紡錘車の軸か、スギ | 〃 |
| 745 | 〃 | 厚板 | 〃中 X58.8Y85.3 | 縦11.2cm、横12cm、厚さ５cm | 栓あるいはクサビか<br>斜め木取り、ヒノキ | 〃 |
| 746 | 〃 | 〃 | 〃 SD11W31 | 縦22.5cm、横18.5cm、厚さ６cm | 端部斜め削ぎ、オニグルミ | 〃 |
| 747 | 土師器 | 甕 | X59.8Y85SD06　C区 | 胴部26cm | 胴部丸く張る | 古墳前期 |
| 748 | 〃 | 高杯 | X59.1Y85.2SD38肩 | 口径18.3cm、器高13cm | 口縁部開く底部境に稜 | 〃 |
| 749 | 〃 | 蓋 | X59.3Y85.3Ⅲ層 | 口径９cm、器高4.2cm | 外面赤彩 | 古墳初期 |
| 750 | 〃 | 杯 | X55.8Y 不明 SD07 | 口径14cm、器高4.7cm | 口縁部内湾、内面黒色 | 古墳後期 |
| 751 | 〃 | 〃 | 不明 | 口径15.2cm、器高5.4cm | 口縁部内湾 | 古墳後期 |
| 752 | 須恵器 | 〃 | X61Y85.8 | 口径11.6cm、器高４cm | | 平安前期 |
| 753 | 欠　番 | | | | | |
| 754 | 須恵器 | 杯 | SD11下 | 口径12.3cm、器高3.7cm | 底部境丸い | 奈良後期 |
| 755 | 欠　番 | | | | | |
| 756 | 須恵器 | 短頸壺 | SD11中 X59.1Y84.9 | 口径11cm | 肩部丸い | 〃 |
| 757 | 弥生土器 | 甕 | G－２区 | 口径19cm | 有段口縁 | 弥生終末期 |
| 758 | 〃 | 〃 | D－２区Ⅱ層 | | 口縁部に擬凹線 | 〃 |
| 759 | 〃 | 細頸壺 | X60Y84.9 | 口径8.5cm | 内外赤彩 | 〃 |
| 760 | 〃 | 高杯 | G区 | 口径26cm | 杯部が長い | 〃 |
| 761 | 〃 | 装飾器台 | SD15 | | 杯部に円孔を巡らす | 〃 |
| 762 | 〃 | 小型土器 | A－４区Ⅰ層 | 口径5.3cm、器高4.3cm | 口縁部立つ | 弥生・古墳 |
| 763 | 〃 | 〃 | X58.6Y 不明 | 口径7.5cm、器高4.5cm | 口縁部開く | 〃 |
| 764 | 〃 | 〃 | C－３区Ⅱ層 | 口径５cm、器高3.2cm | 口縁部立つ | 〃 |
| 765 | 〃 | 台付鉢か | X59.5Y86.5Ⅱ層 | 台径11cm | | 弥生終末期 |
| 766 | 〃 | 〃 | X60.8Y86.2Ⅲ層 | 台径15cm | 脚部に透かし穴 | 〃 |
| 767 | 〃 | 甕 | X58.7Y 不明 | 口径17cm | 口縁端部面取り | 〃 |
| 768 | 土師器 | 〃 | X60.6Y 不明 | 口径17cm | 口縁部外反、内外刷毛目 | 古墳中期 |
| 769 | 〃 | 壺 | X59.1Y86.7土器集中 | 口径21cm | 有段口縁外反 | 古墳初期 |
| 770 | 〃 | 高杯 | X58.8Y85.5Ⅲ層 | 口径14cm | 口縁部小さい | 古墳中期 |
| 771 | 〃 | 台付鉢 | D－１区土器集中 | 台径７cm | 酸化鉄の砂粒 | 古墳初期 |
| 772 | 〃 | 椀 | SD10中 X59.3Y85.2 | 口径13cm | 口縁部内湾 | 古墳中期 |
| 773 | 〃 | 小型壺 | X59Y86.4土器集中 | 口径8.4cm | 口縁部外反 | 古墳前期 |
| 774 | 〃 | 高杯 | X59.6Y86.5Ⅱ層 | 口径21cm | 底部境に稜 | 〃 |
| 775 | 〃 | 〃 | X59.5Y86.5Ⅱ層 | 口径23.3cm | 〃 | 〃 |
| 776 | 〃 | 高杯か | SD11中 X58.8Y84.8 | 口径13cm | 口縁部内湾Ⅲ、内外赤彩 | 平安前期 |
| 777 | 〃 | 〃 | 〃中 X57.6Y85.8 | 口径18.5cm | 口縁部内湾Ⅲ | 〃 |
| 778 | 〃 | 高台杯 | 〃下 X57.9Y85 | | 底部境丸い、外面赤彩 | 〃 |
| 779 | 〃 | 杯か | 〃 X57.6Y85.9 | | 内黒 | 〃 |
| 780 | 〃 | 高杯か | 〃上C－１区 | | 口縁部屈曲、内黒 | 〃 |

## 表13－20　1987年度遺物一覧表(20)

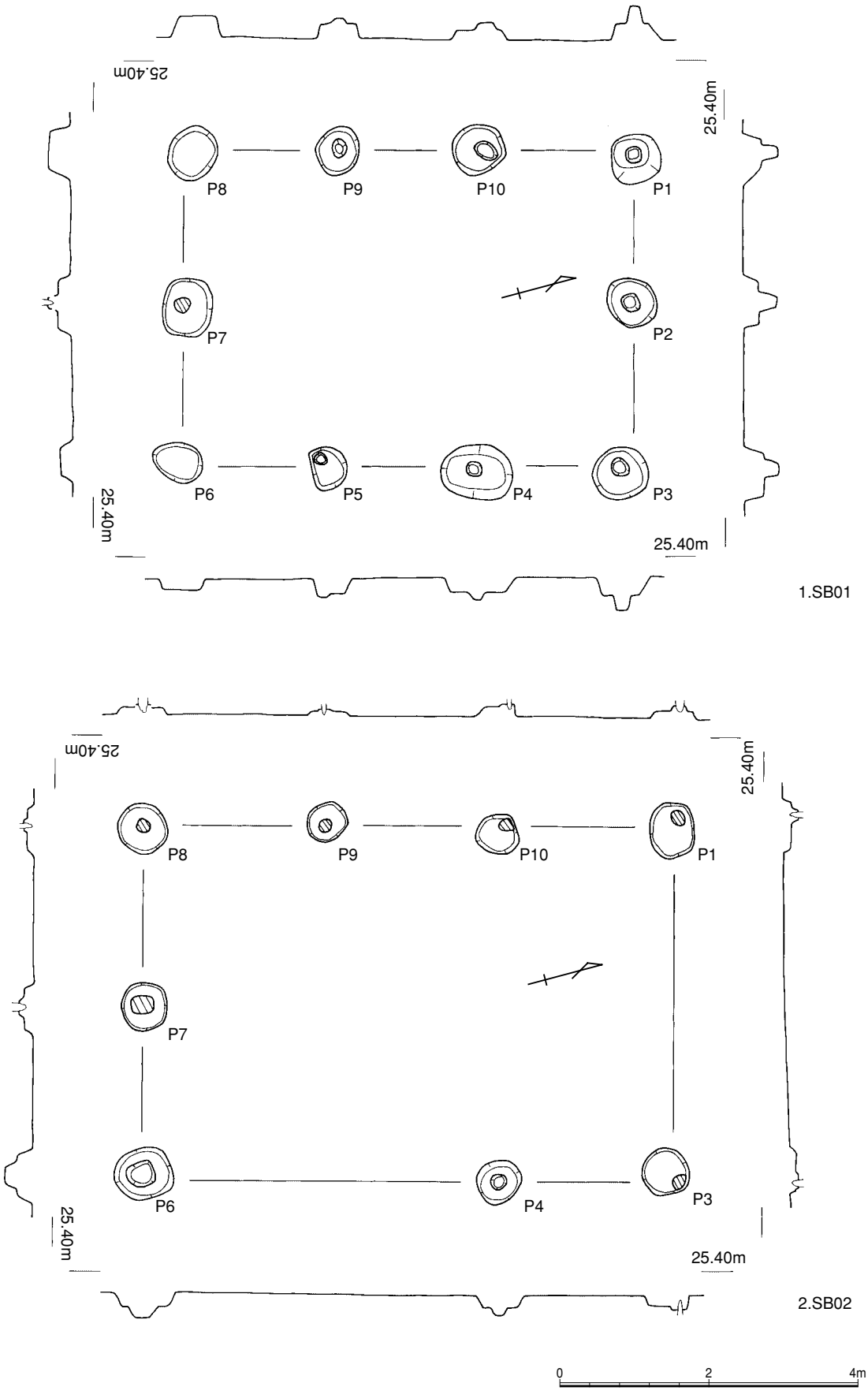
| 番号 | 種　類 | 器　種 | 出土遺構・地区・層位 | 大 き さ | 特　徴 | 時　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 781 | 土師器 | 高杯か | SD10D－３区 | 口径18cm | 口縁部内湾、内黒 | 平安前期 |
| 782 | 〃 | 蓋 | SD11中 X58.7Y85.5 | | 内黒、径2.9cmのつまみの痕跡あり | 〃 |
| 783 | 〃 | 椀 | 〃中 X57Y85.4 | 口径18cm | 口縁部内湾、内面黒色 | 〃 |
| 784 | | 〃 | 〃 X58.5Y87.5 | 底径５cm | 底部回転糸切り、内面黒色 | 〃 |
| 785 | 〃 | 台付鉢か | 〃上 X58.3Y85.6 | 底部と台の間の径13cm | 台部欠損、内面黒色 | 〃 |
| 786 | 〃 | 椀か | 不明 | 底径7.3cm | 底部回転糸切り、内面黒色 | 〃 |
| 787 | 〃 | 高杯 | SD11中 C－５区 | 台径８cm | 脚端部面取り、内面黒色 | 〃 |
| 788 | 須恵器 | 杯蓋 | D－５区Ⅲ層 | | 内面かえりあり | 飛鳥後期 |
| 789 | 〃 | 杯か | X60Y86.5Ⅱ層 | 口径９cm | 外面黒色、沈線巡る | 〃 |
| 790 | 〃 | 甕 | XG－５区Ⅱ・Ⅲ層 | 口径60cm | 口縁部に櫛歯波状文 | 奈良 |
| 791 | 〃 | 〃 | SD11中 B－４区 | | 口縁部に櫛歯波状文 | 飛鳥 |
| 792 | 〃 | 〃 | 〃 X57.3Y85.7砂礫 | 口径40cm | 口縁端部面取り | 奈良 |
| 793 | 〃 | 〃 | X59Y84.7 | 口径20cm | 口縁端部外には張り出す | 奈良後期 |
| 794 | 〃 | 双耳瓶 | C－１区Ⅰ層 | | 耳部 | 平安 |
| 795 | 〃 | 〃 | X57.4Y86.3Ⅱ層 | | 〃 | 〃 |
| 796 | 〃 | 〃 | C－１区Ⅱ層 | | 〃 | 〃 |
| 797 | 〃 | 杯蓋 | SD11X57.3Y85.7砂礫 | 口径12cm、器高2.6cm | 口縁端部折れる<br>内面に墨書「長岡」 | 平安前期 |
| 798 | 〃 | 〃 | 〃 X58.3Y85.6 | 口径14.3cm、器高2.6cm | 口縁端部折れる<br>内面に墨書「長岡神祝」 | 〃 |
| 799 | 〃 | 〃 | 〃 C－４区 | 口径12cm、器高2.2cm | 口縁端部折れる<br>内面に墨書「真茂」 | 〃 |
| 800 | 〃 | 杯 | 〃上 X59.1Y85.2 | 底径８cm | 底部境丸い<br>底面に墨書「島長」か | 奈良後期 |
| 801 | 〃 | 〃 | G－４区Ⅱ層 | 口径11cm、器高３cm | 底部境丸い<br>外底面に墨書「君」 | 〃 |
| 802 | 〃 | 〃 | SK09F－１区 | | 底部境丸い<br>外底面に墨書「中」 | 〃 |
| 803 | 〃 | 〃 | SD11上 C－４区 | | 底部境丸い<br>体部側面に墨書「女」 | 平安前期 |
| 804 | 欠　番 | | | | | |
| 805 | 〃 | | | | | |
| 806 | 須恵器 | 高台杯 | F－３・４区Ⅱ層 | 台径6.5cm | 底部境に稜<br>外底面に墨書「祝」か | 〃 |
| 807 | 〃 | 〃 | D－４区Ⅱ層 | 台径6.5cm | 底部境に稜<br>底面に墨痕 | 〃 |
| 808 | 〃 | 〃 | X58.9Y84.9 | 台径7.4cm | 底面に墨書「小継」 | |
| 809 | 〃 | 〃 | B－３区Ⅰ層 | 台径6.5cm | 底部境丸い<br>底面に墨書「千」か | 〃 |
| 810 | 〃 | 杯蓋 | SD11上 C－５区 | | 天井部に漆書「大」 | 奈良 |
| 811 | 〃 | 杯 | 〃中 X58.2Y85.2 | 口径11cm、器高2.4cm | 底部境丸い<br>外底面に墨書「++」<br>内面に漆付着（漆容器） | 奈良後期 |

## 表13－21　1987年度遺物一覧表(21)

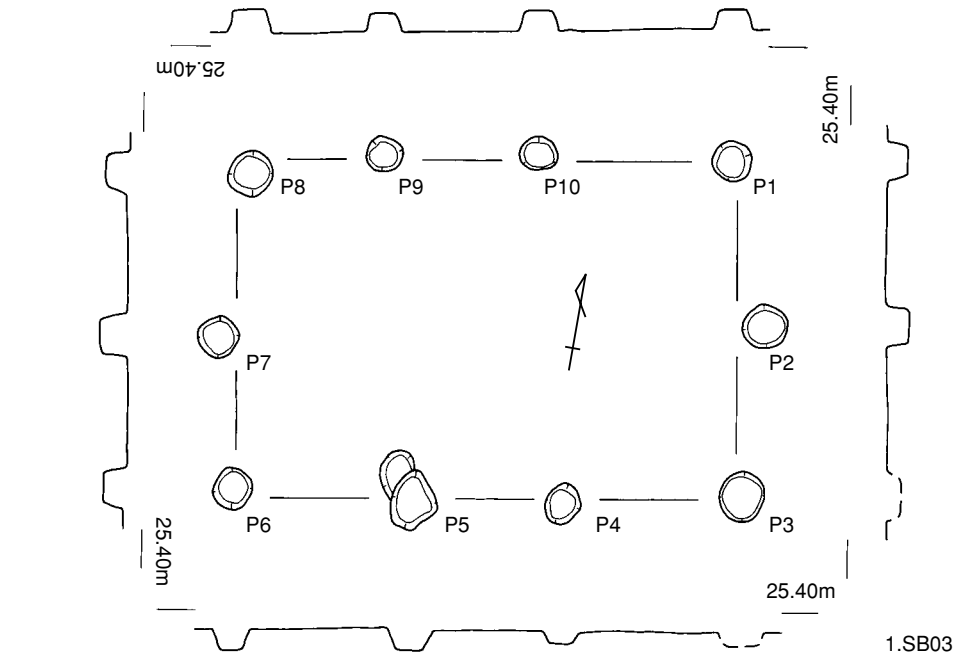
| 番号 | 種　類 | 器　種 | 出土遺構・地区・層位 | 大 き さ | 特　徴 | 時　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 812 | 須恵器 | 杯 | SD11中 X58.2Y85.7 | 口径13㎝、器高３㎝ | 底部境に稜<br>底面に墨書「継」<br>内面に油煙痕（灯明皿） | 平安前期 |
| 813 | 〃 | 高台杯 | SD11中 X592Y84.9 | 台径7.8㎝ | 底部境丸い、高台高い<br>底面に墨書「椅家」か | 奈良後期 |
| 814 | 〃 | 〃 | 〃上C－５区 | 台径5.5㎝ | 台径小さい<br>天井部に漆書「大」 | 平安前期 |
| 815 | 〃 | 〃 | SX P－１E－３区 | 口径13.8㎝、器高3.9㎝<br>台径11㎝ | 底部境丸い、白い砂粒<br>底面に墨書「二」 | 奈良中期 |
| 816 | 〃 | 〃 | SD11中 X58.8Y85.3 | 台径8.5㎝ | 底部境丸い<br>底面に墨書「尉」 | 〃 |
| 817 | 〃 | 〃 | 〃C－５区 | 台径7.5㎝ | 底部境に稜<br>外底面に墨書「人□」 | 奈良後期 |
| 818 | 〃 | 〃 | 〃 X57.6Y86Ⅱ層 | 口径13㎝ | 底部境丸い、白い砂粒<br>体部に墨書「小」 | 奈良 |
| 819 | 〃 | 〃 | 〃上C－４区 | 台径６㎝ | 底部境に稜<br>底面に墨書「祝」か | 奈良後期 |
| 820 | 〃 | 杯 | 〃上C－５区 | | 底部境に稜<br>底面に墨書「小継」 | 平安前期 |
| 821 | 土師器 | 〃 | 〃 X58.2Y 不明 | 口径12.5㎝、器高2.7㎝ | 底部平坦<br>内外面灰色彩色 | 奈良後期 |
| 822 | 〃 | 〃 | 不明 | 口径15.5㎝、器高2.6㎝ | 〃 | 〃 |
| 823 | 〃 | 〃 | SD11中 X58.2Y85.7 | 口径12㎝ | 〃 | 〃 |
| 824 | 〃 | 〃 | SD11中 B－３区 | 口径13㎝ | 〃 | 〃 |
| 825 | 〃 | 〃 | 〃中 | 口径14㎝ | 〃 | 〃 |
| 826 | 〃 | 〃 | E－２Ⅱ層 | 口径13㎝、器高2.5㎝ | 〃 | 〃 |
| 827 | 〃 | 〃 | F－１Ⅰ層 | 口径13㎝、器高2.4㎝ | 〃 | 〃 |
| 828 | 須恵器 | 〃 | 不明 | 口径13㎝、器高3.4㎝ | 底部境丸い<br>内面に漆付着（漆容器） | 〃 |
| 829 | 〃 | 〃 | 不明 | 口径13㎝、器高３㎝ | 〃 | 〃 |
| 830 | 〃 | 〃 | X59.7Y85.2 | | 〃 | 〃 |
| 831 | 〃 | 〃 | SD11中 X58.7Y85.2 | 底径９㎝ | 底部境丸い<br>体部にヘラ書き「□」<br>内面に漆付着（漆容器） | 〃 |
| 832 | 〃 | 杯蓋 | 〃 X57.7Y85.9 | 口径15.6㎝ | 口縁端部立つ<br>内面に漆付着（漆容器） | |
| 833 | 〃 | 杯 | 〃中 X58.8Y85.3 | | 底部境丸い<br>内面に漆付着（漆容器） | 奈良中期 |
| 834 | 〃 | 〃 | 〃中 X57.3Y85.7砂礫 | 口径13.6㎝ | 口縁部内湾ぎみに立つ<br>内外面に漆あり漆容器 | 〃 |
| 835 | 〃 | 杯蓋 | 〃上C－４区Ⅱ層 | | 天井部ヘラケズリ<br>内面に漆あり漆容器 | 〃 |
| 836 | 〃 | 杯<br>(9点一括) | 〃 | | 底部境丸い<br>内面に漆あり漆容器 | 奈良中期 |
| 837 | 〃 | 杯蓋 | SD11上 X59.1Y85 | 口径19㎝ | 口縁部立つ<br>内面に墨痕か | 〃 |

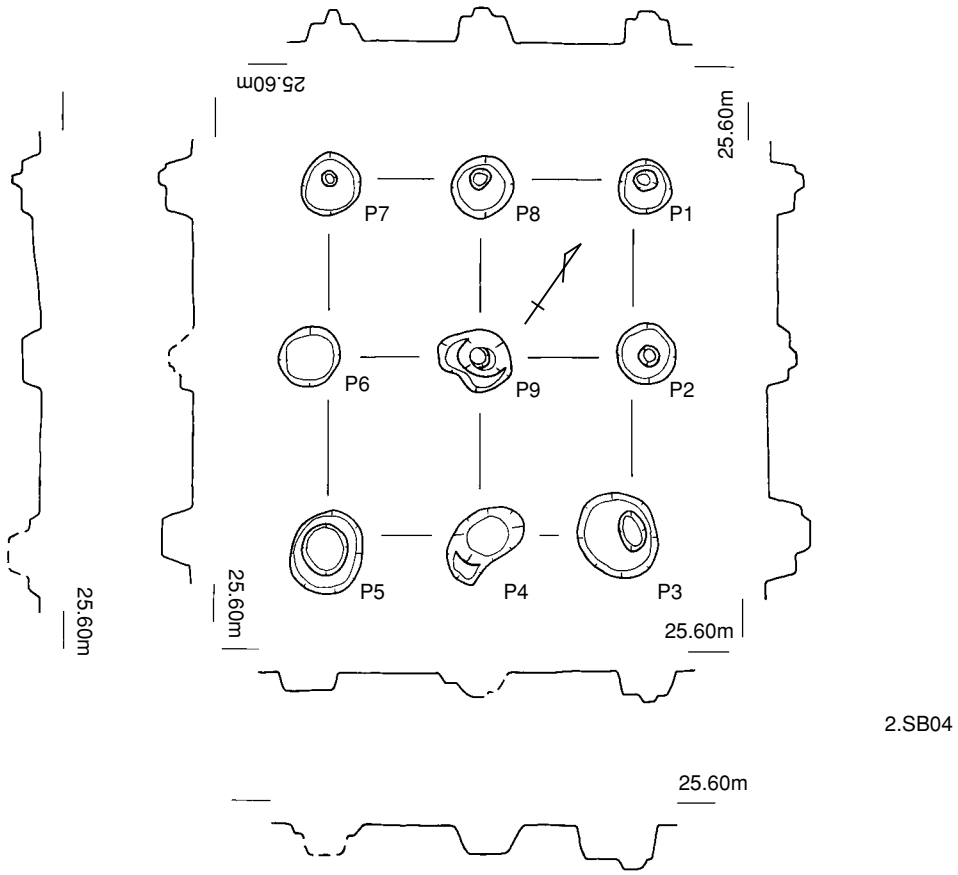
## 表13－22　1987年度遺物一覧表(22)

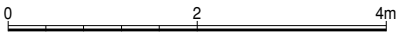
| 番号 | 種　類 | 器　種 | 出土遺構・地区・層位 | 大 き さ | 特　徴 | 時　期 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 838 | 須恵器 | 高台杯 | 〃上Ⅱ層 | 台径7.6㎝ | 底部境に稜<br>外底面に墨痕か | 奈良後期 |
| 839 | 〃 | 杯 | X55.8Y86.8砂礫 | | 底部境丸い<br>外底面に墨痕か | 奈良中期 |
| 840 | 〃 | 高台杯 | C－4区Ⅱ層 | 口径11.5㎝、器高4.7㎝ | 底部境に稜<br>外底面に墨痕か | 平安前期 |
| 841 | 〃 | 杯蓋 | SD11上 X58.2Y85.7 | 口径11.5㎝、 | 口縁端部折れ<br>内面に墨痕（杯蓋硯） | 〃 |
| 842 | 〃 | 高台杯 | 〃下 X57.6Y84.9 | 台径7.5㎝ | 底部境丸い<br>外底面に墨痕か | 奈良後期 |
| 843 | 〃 | 杯 | 〃上 X59Y85.2 | | 口縁部開く、口縁内外面に油煙痕（灯明皿） | 平安前期 |
| 844 | 〃 | 〃 | 〃中 X58.1Y85.8 | 口径13㎝ | 〃 | 〃 |
| 845 | 〃 | 〃 | 〃中 X58.3Y85.5 | 口径13㎝ | 〃 | 〃 |
| 846 | 〃 | 〃 | 〃中 B－4区 | 口径10.5㎝ | 〃 | 〃 |
| 847 | 〃 | 〃 | 〃中 X58.3Y85.6 | 口径12㎝、器高3㎝ | 〃 | 〃 |
| 848 | 銅銭貨 | 無文銭 | 不明 | 径2.4㎝ | いびつな形 | 江戸か |
| 849 | 青磁 | 椀 | E－4区Ⅱ層 | | 鎬蓮弁文 | 鎌倉 |
| 850 | 〃 | 〃 | F－1区Ⅰ層 | | 口縁端部肥厚 | 室町 |
| 851 | 〃 | 〃 | H－1区Ⅱ層 | | | 〃 |
| 852 | 瀬戸 | 瓶子 | D－4区Ⅱ層 | | 肩部、灰釉、圏線 | 鎌倉 |
| 853 | 〃 | おろし皿 | G－5区Ⅲ層 | | 内面に格子目、灰釉 | 室町 |
| 854 | 珠洲 | すり鉢 | A－2区溝 | | 口端部水平、珠洲第Ⅳ期 | 南北朝 |
| 855 | 〃 | 〃 | SD06C－2区Ⅰ層 | | 口端部内側肥厚、沈線状おろしめ、珠洲第Ⅵ期 | 戦国 |
| 856 | 〃 | 壺 | G－5区Ⅱ層 | 底径9㎝ | 割面を漆で接合 | 室町か |
| 857 | 土師器 | 甕 | SD11中 X57.7Y85.4 | 口径18㎝ | くの字口縁、胴部張る | 古墳前期 |
| 858 | 〃 | 〃 | 〃中 X58.1Y85.7 | 口径20.5㎝ | 口縁端部丸い、内面に煤 | 奈良 |
| 859 | 〃 | 〃 | G－5区Ⅲ層 | | 口縁端部丸く肥厚 | 平安前期 |
| 860 | 〃 | 〃 | SD11X58.4Y85.5 | | 口縁端部尖る | 奈良後期 |
| 861 | 〃 | 鍋 | | | 口縁端部方頭 | 奈良後期 |
| 862 | 〃 | 〃 | C－2区・Ⅱ層 | | 口縁端部内面肥厚三角 | 平安前期 |
| 863 | 〃 | 〃 | D－1区Ⅰ・Ⅱ層 | 口径20㎝ | 口縁端部立つ | 〃 |
| 864 | 鉄滓 | 鍛冶滓 | D－2区Ⅰ・Ⅱ層 | 縦8㎝、横6.5㎝<br>厚さ3㎝ | 椀形 | 奈良・平安 |
| 865 | 〃 | 〃 | 不明 | 縦6㎝、横4.5㎝<br>厚さ2.8㎝ | 気泡、木炭多く含む | 〃 |
| 866 | 土師器 | 小型土器 | X60.2Y 不明 | 口径3.2㎝、器高3.1㎝ | 底部丸底 | 古墳 |
| 867 | ひょうたん | 果皮 | SD11下 X57.7Y84.9 | 径7～11㎝ | 球形 | 平安前期 |
| 868 | 〃 | 〃 | 〃下 X58.5Y84.7 | | 紡錘形 | 〃 |



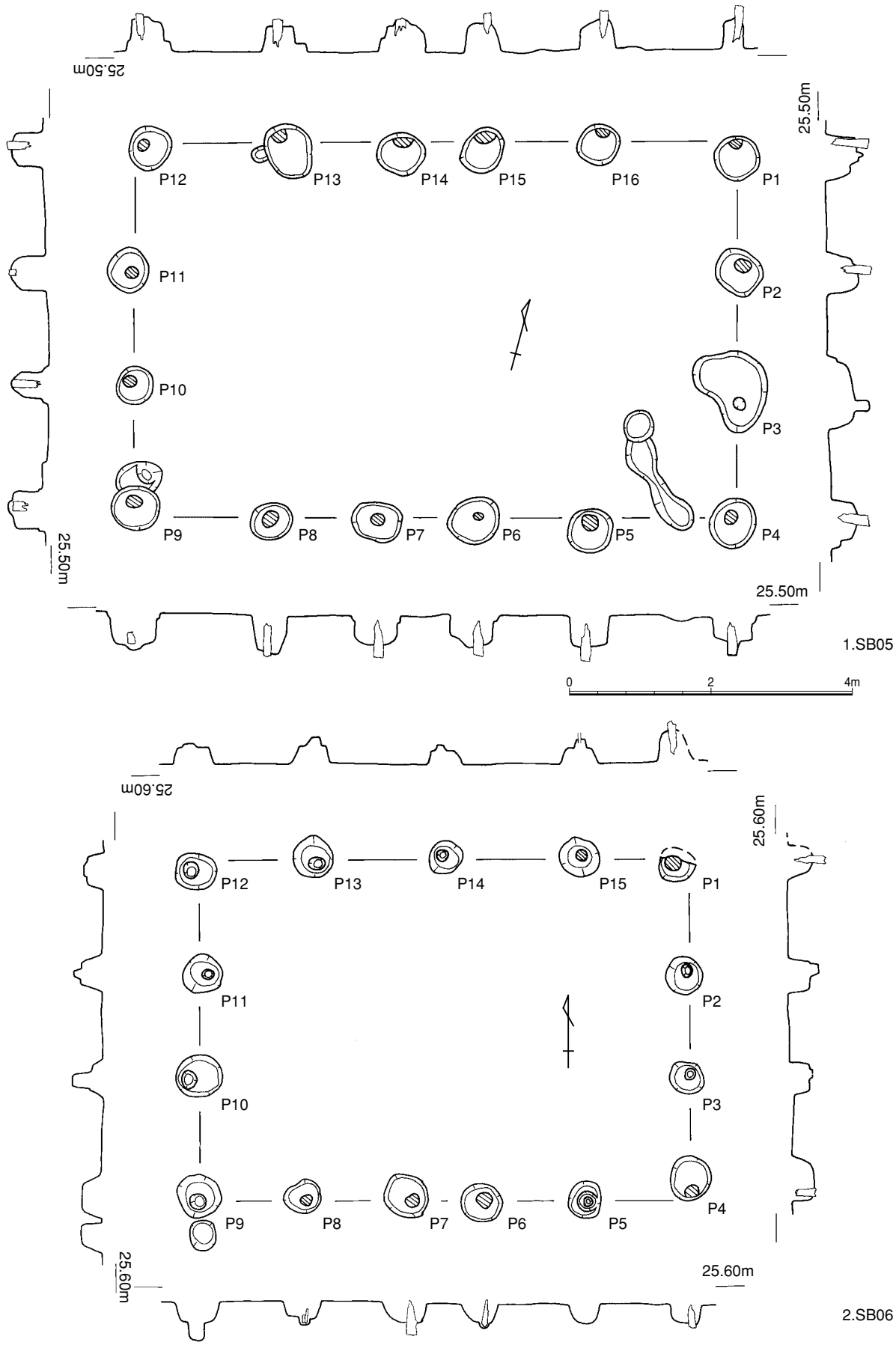

第 6 図　1984年度調査区遺構図⑴ 掘立柱建物



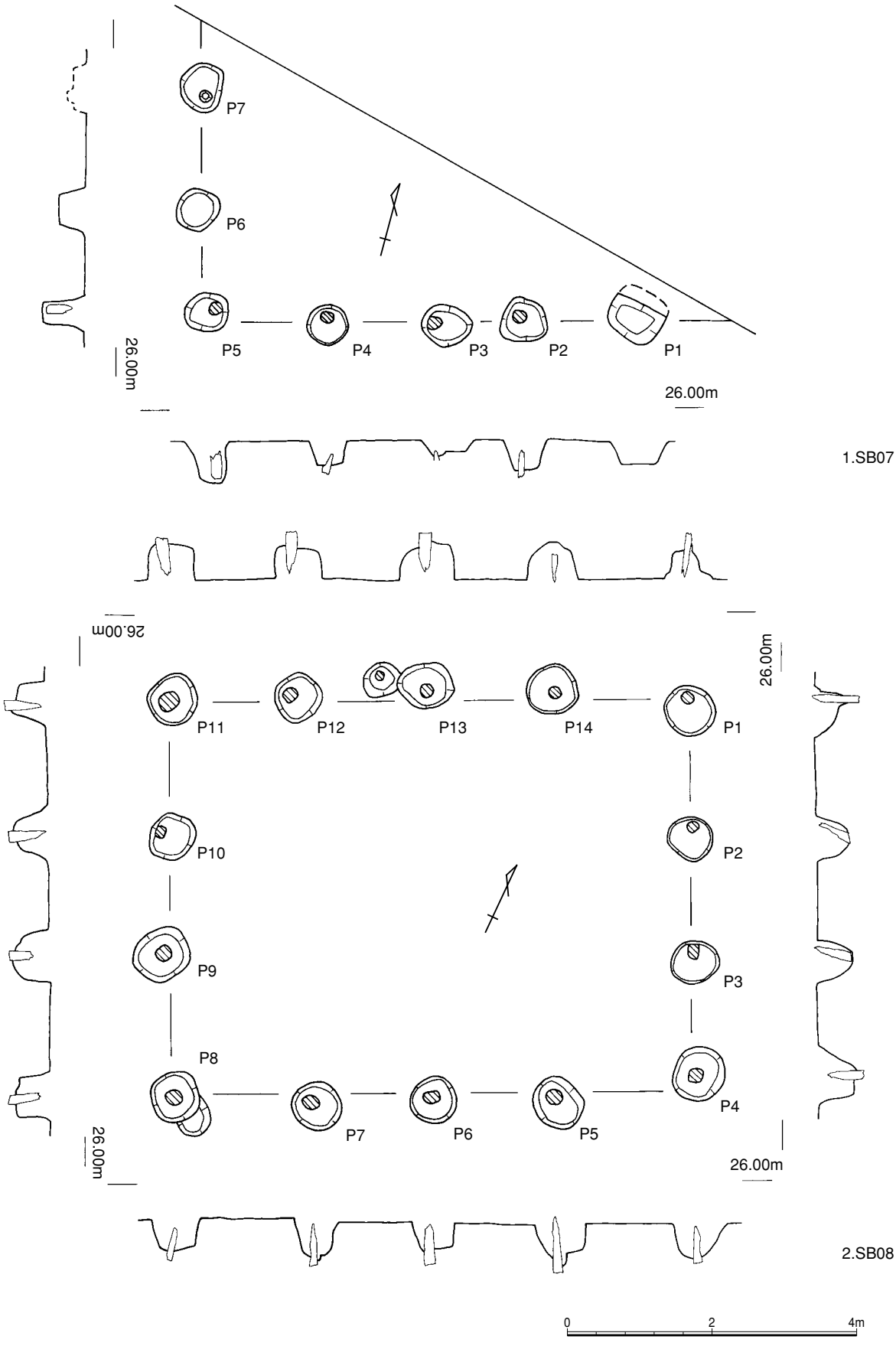



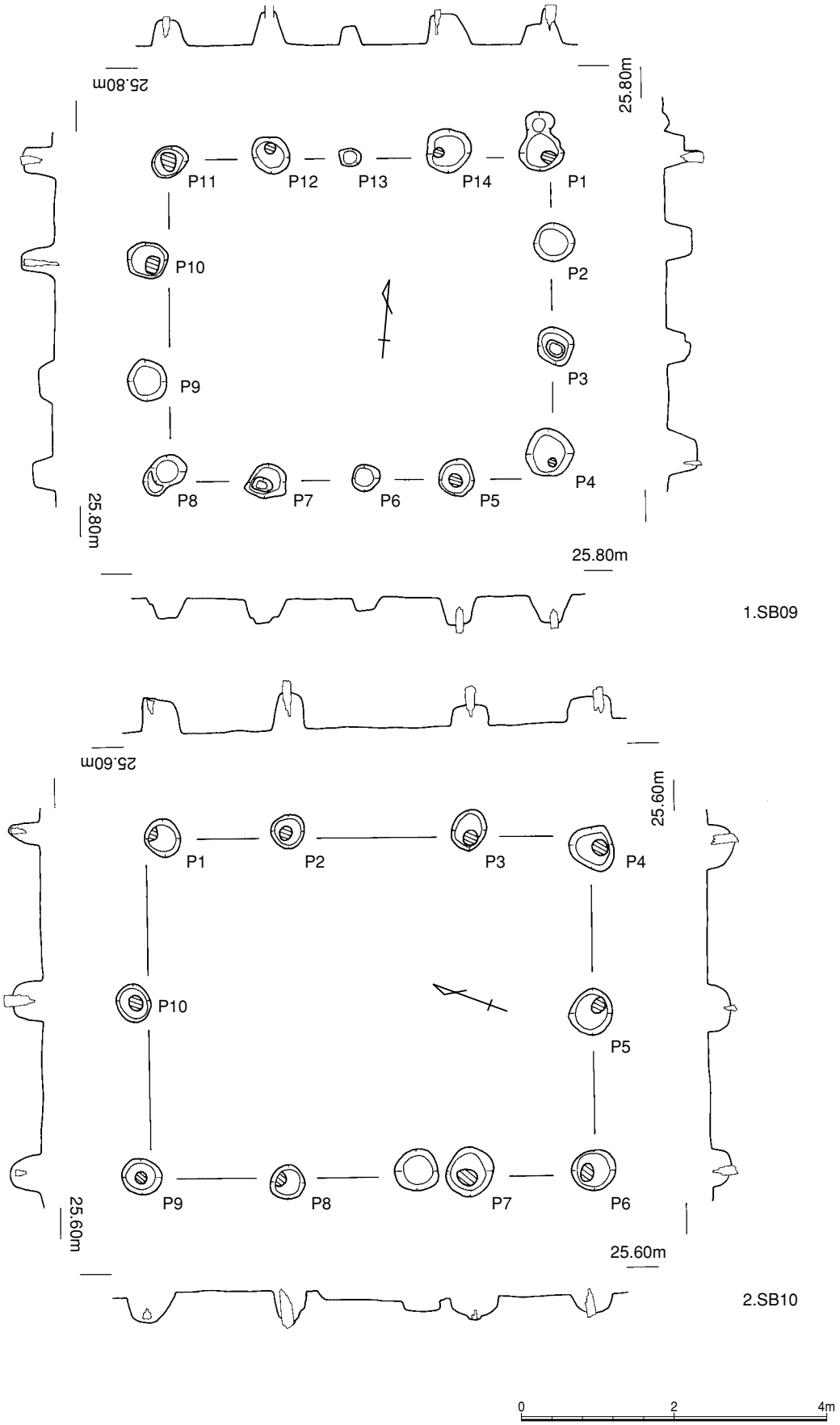

第7図　1984年度調査区遺構図⑵ 掘立柱建物



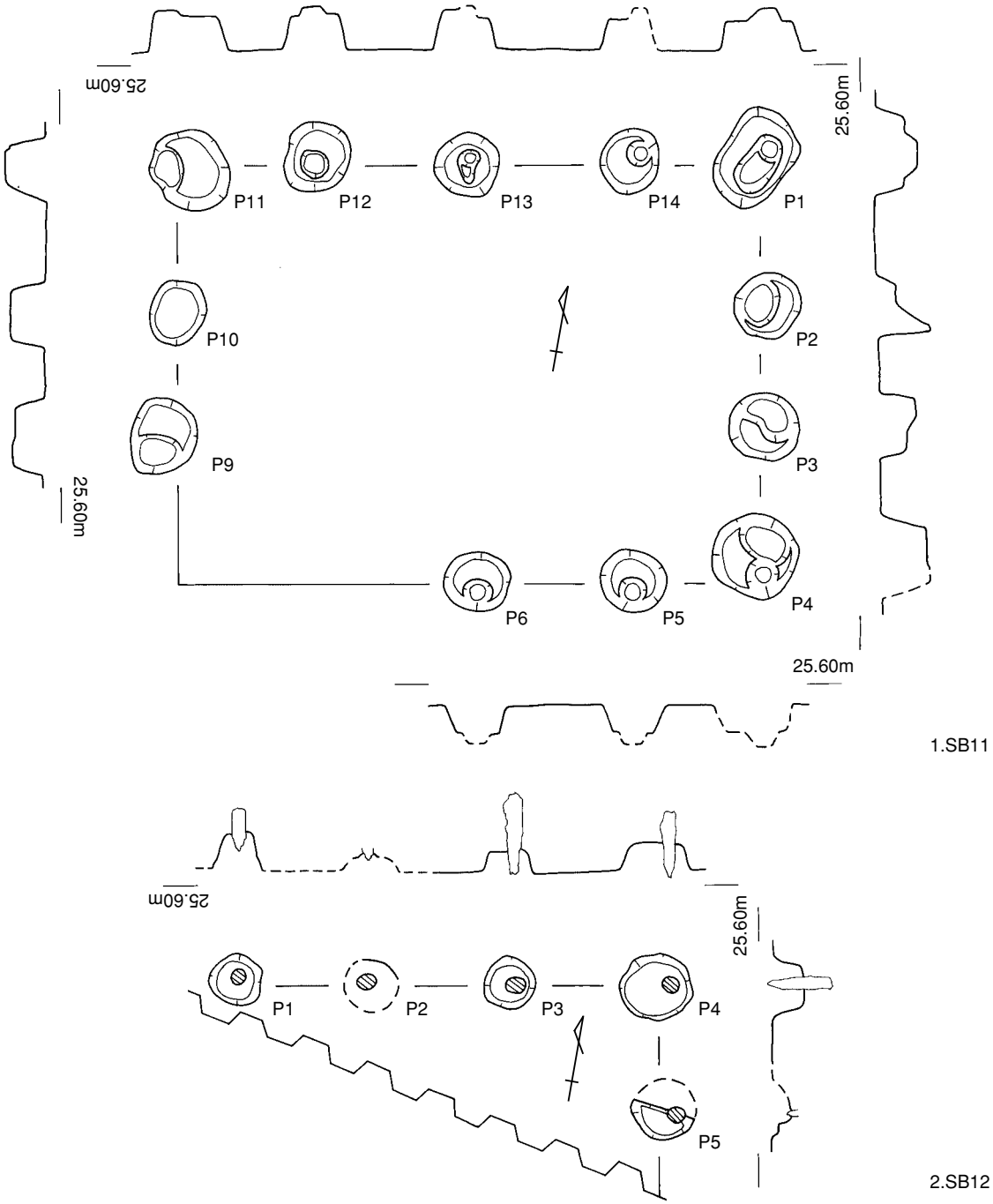

第 8 図　1984年度調査区遺構図⑶ 掘立柱建物



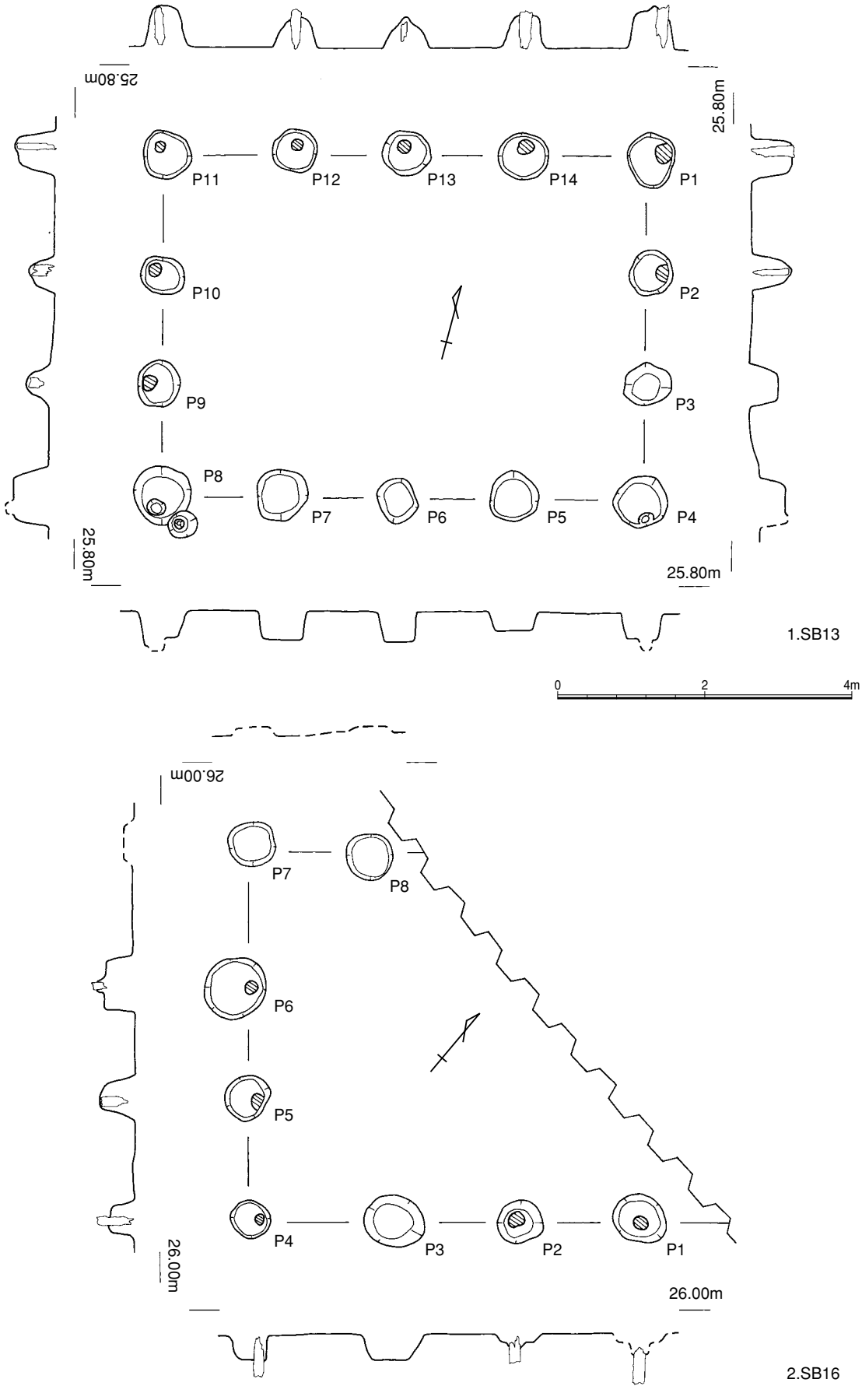

第 9 図　1984年度調査区遺構図⑷ 掘立柱建物



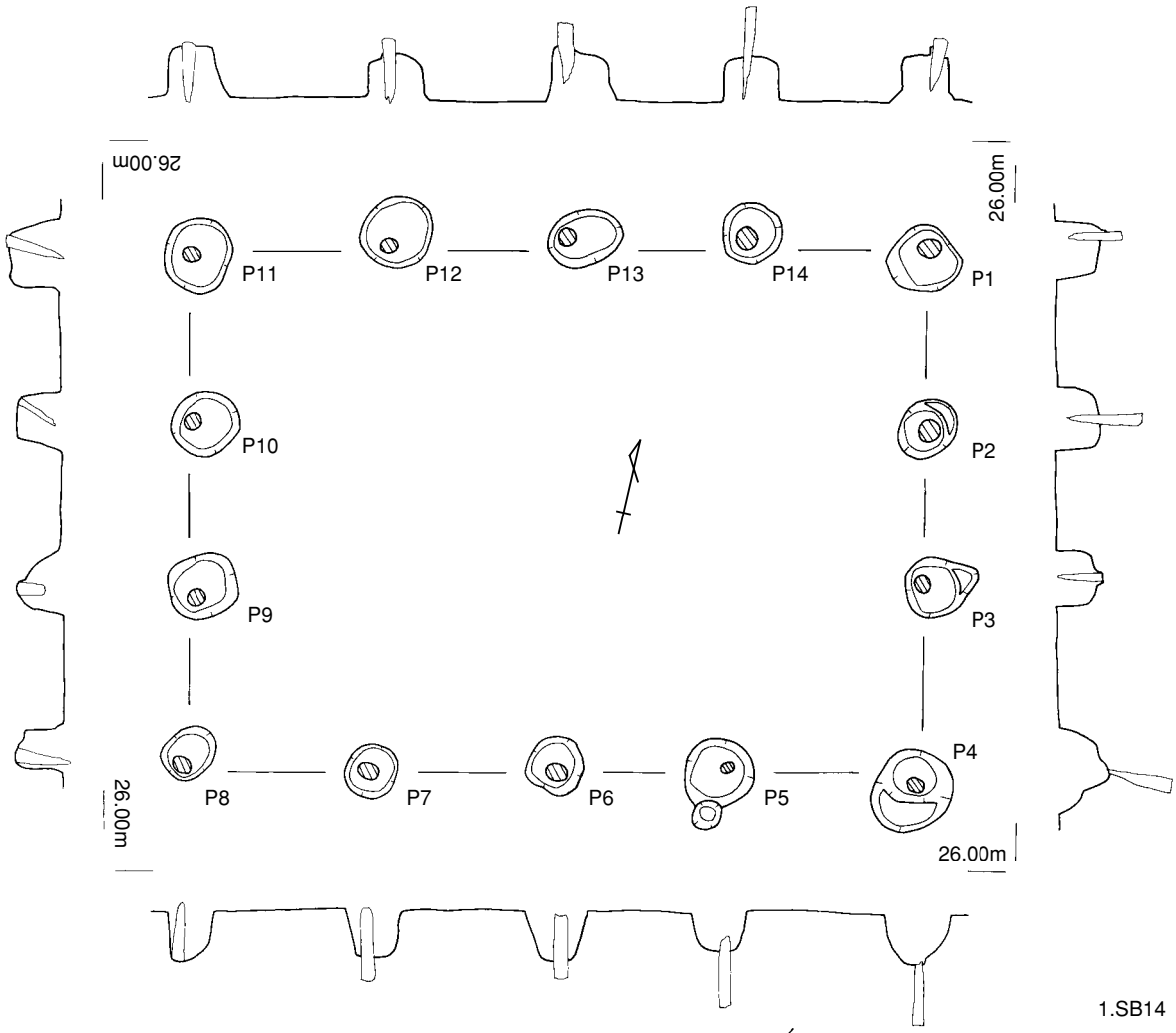

第10図　1984年度調査区遺構図⑸ 掘立柱建物



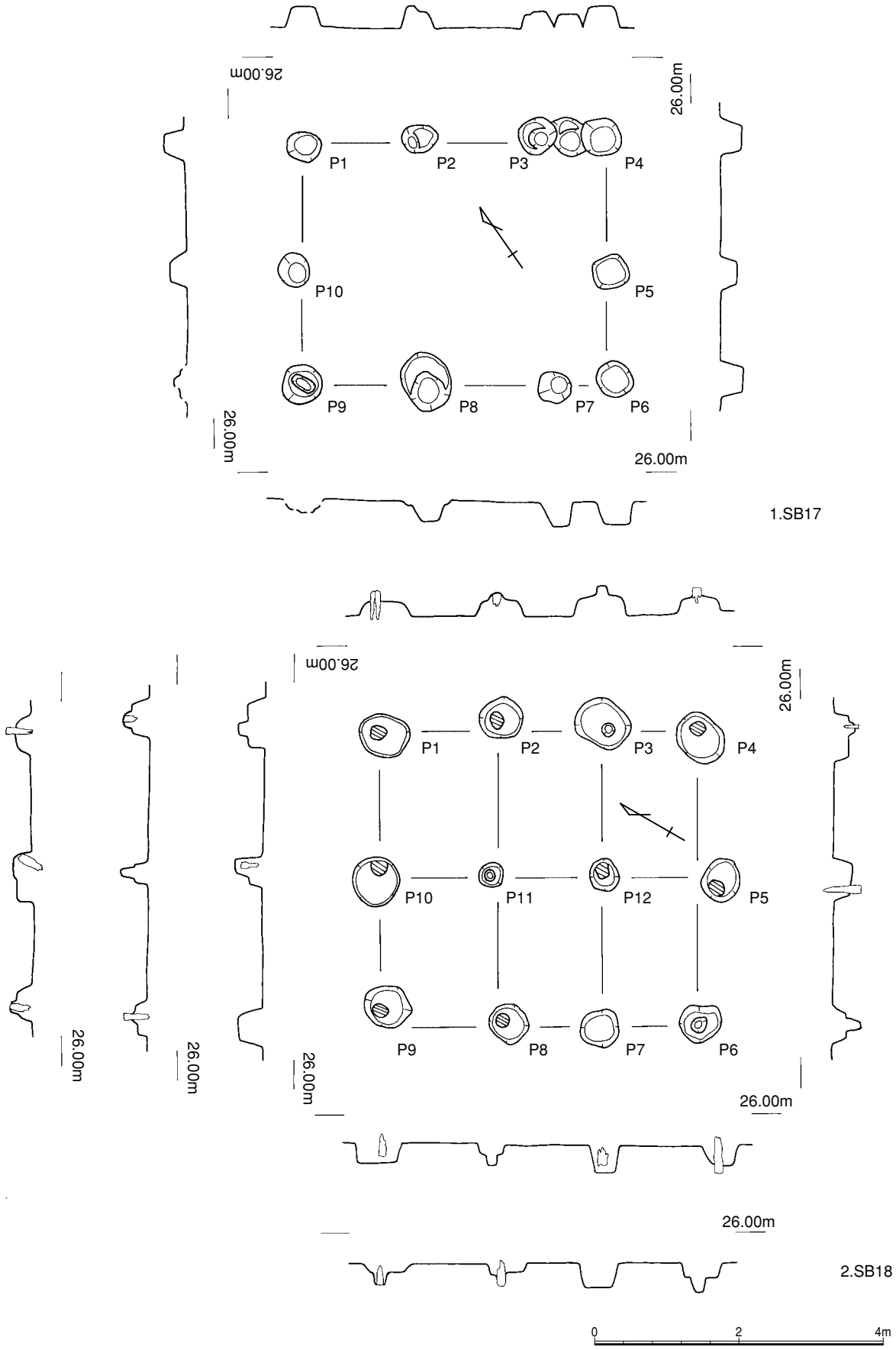

第11図　1984年度調査区遺構図⑹ 掘立柱建物



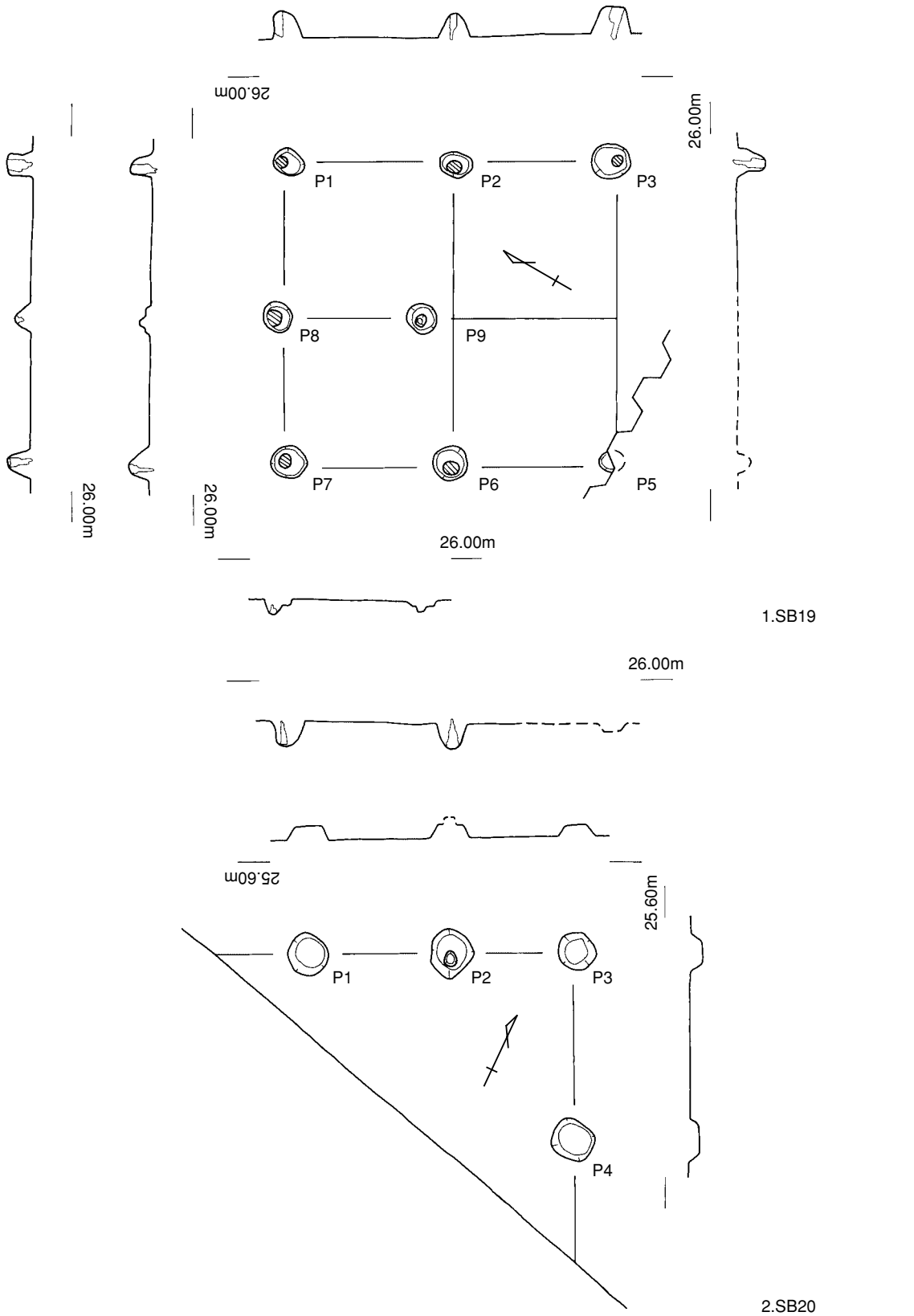

第12図　1984年度調査区遺構図(7) 掘立柱建物



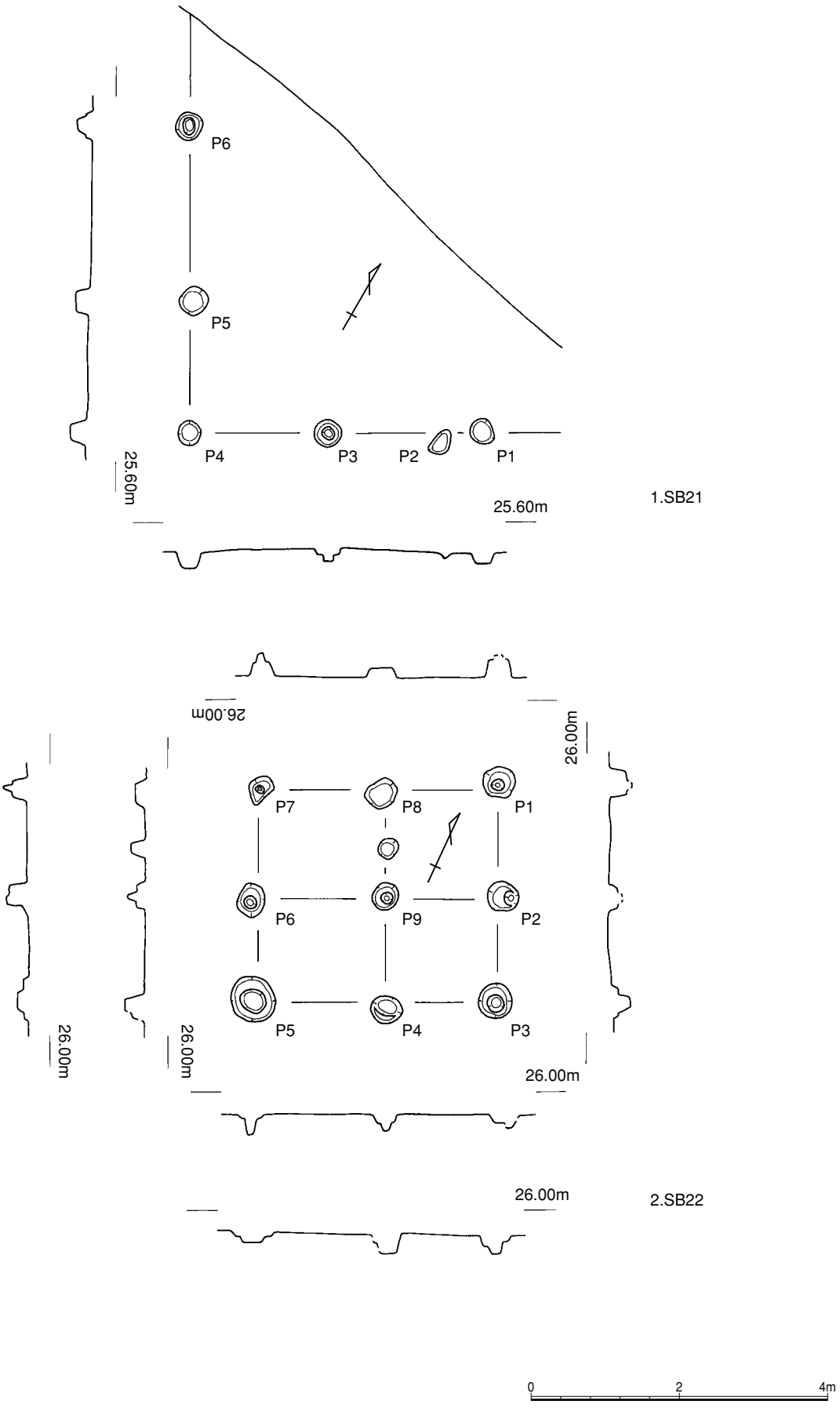

第13図　1984年度調査区遺構図(8) 掘立柱建物



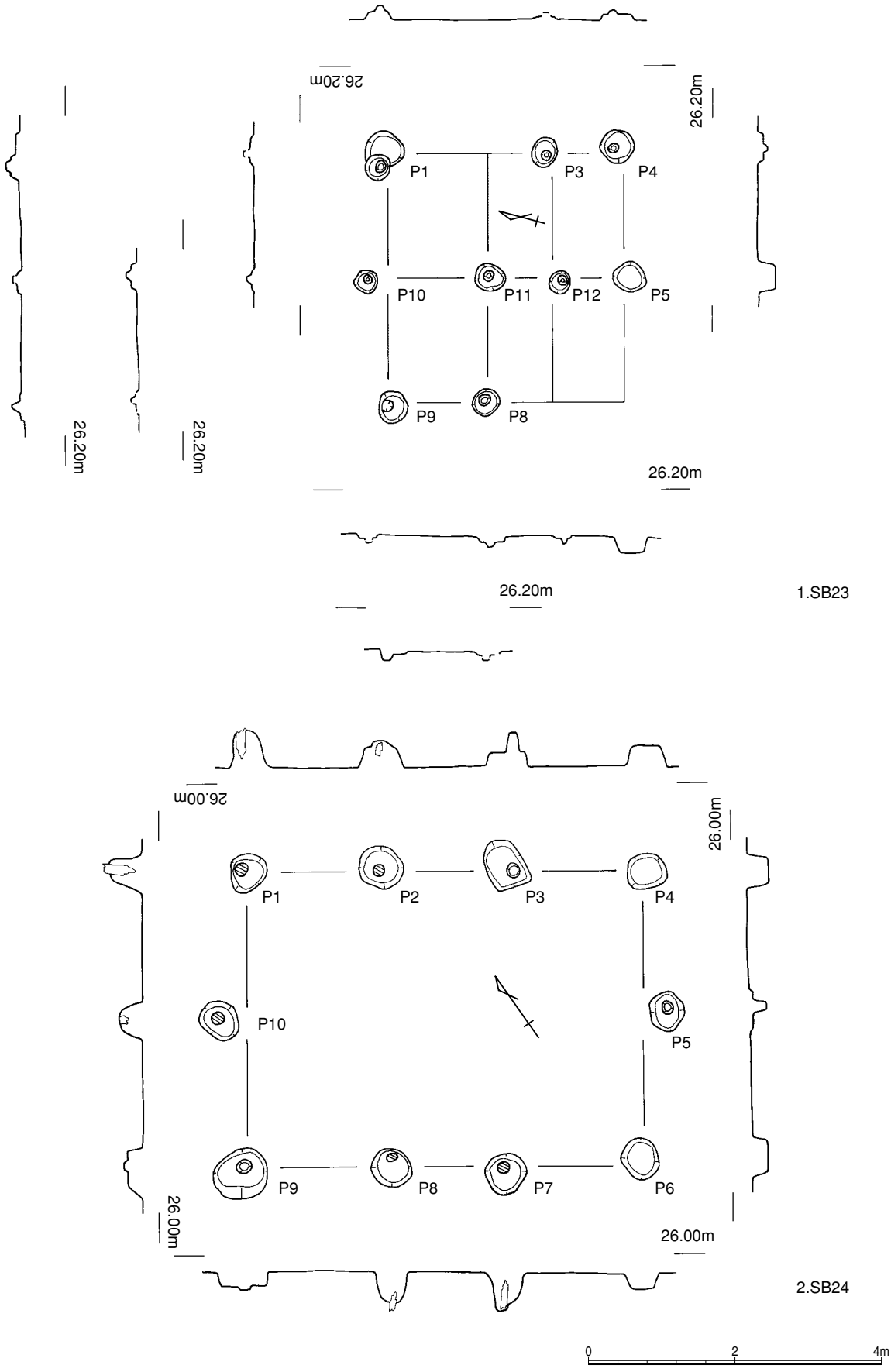

第14図　1984年度調査区遺構図⑼ 掘立柱建物



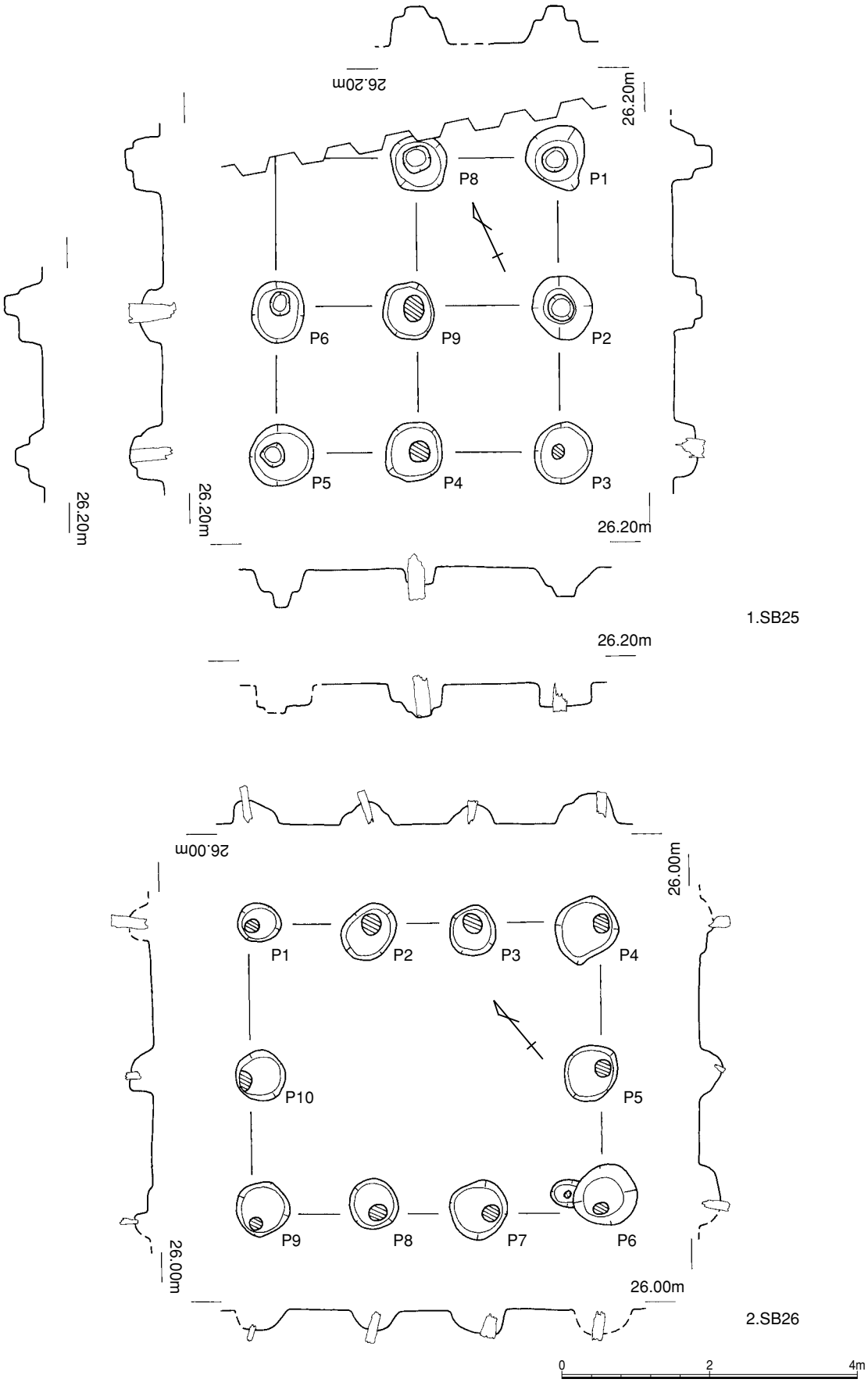

第15図　1984年度調査区遺構図(10) 掘立柱建物



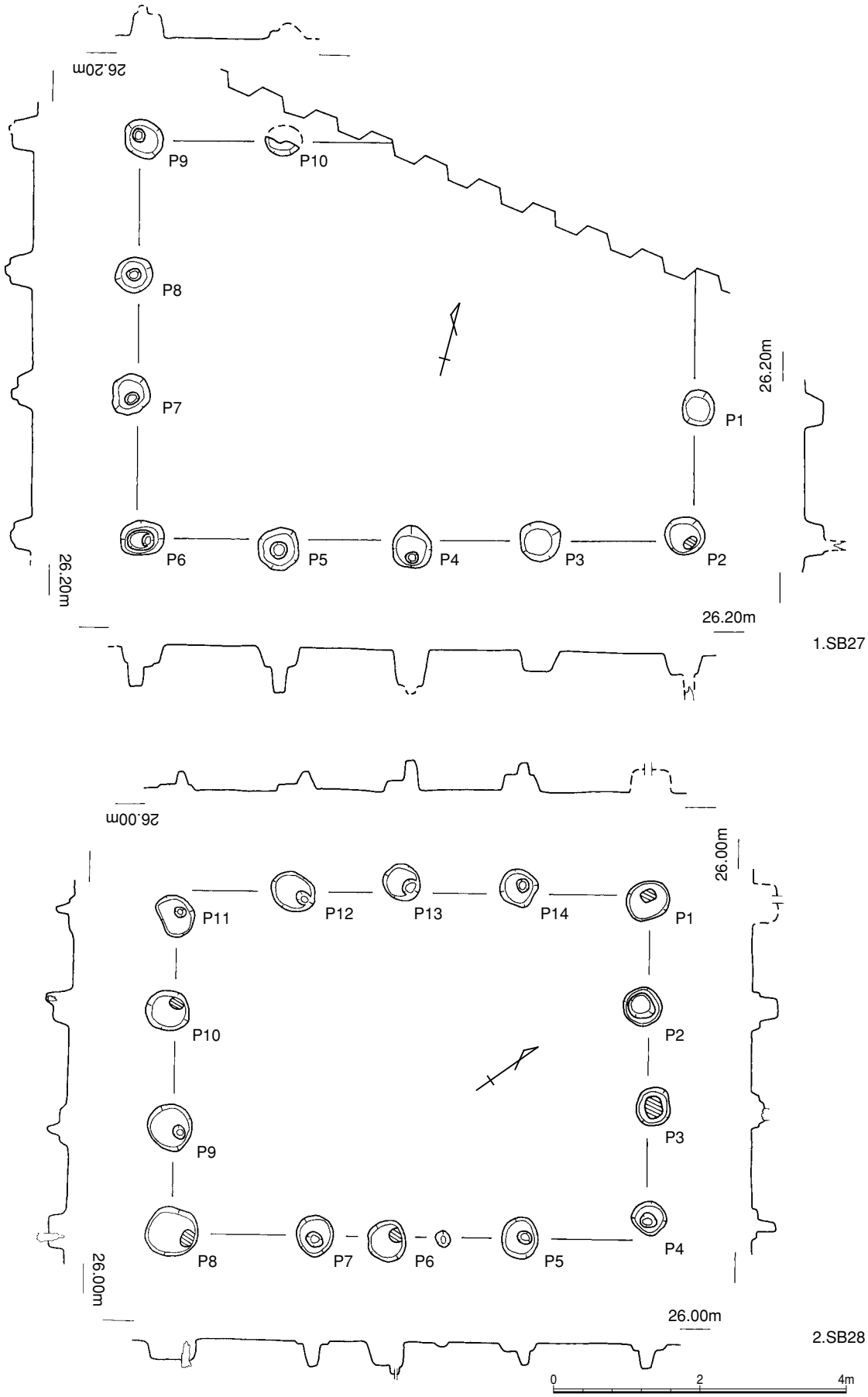

第16図　1984年度調査区遺構図(11) 掘立柱建物



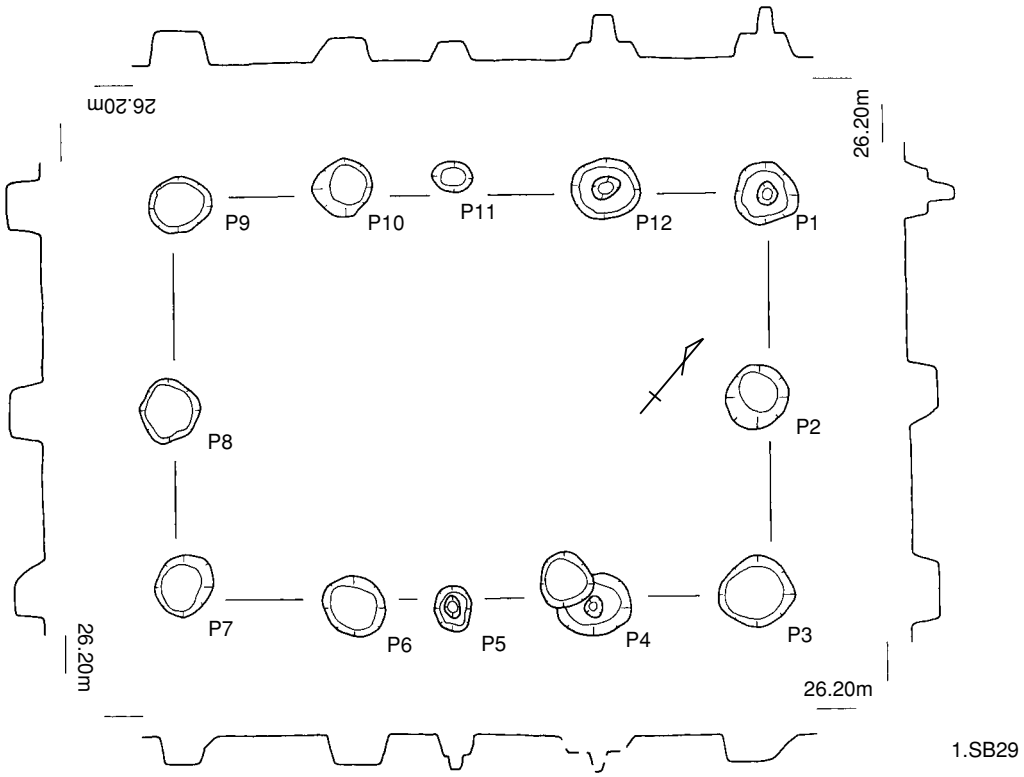

第17図　1984年度調査区遺構図(12) 掘立柱建物

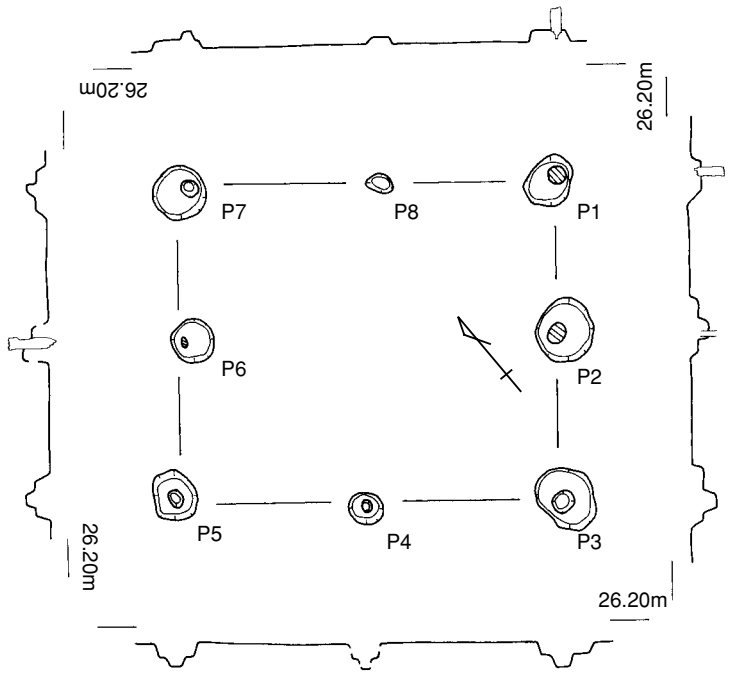


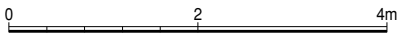

第18図　1984年度調査区遺構図⑬ 掘立柱建物



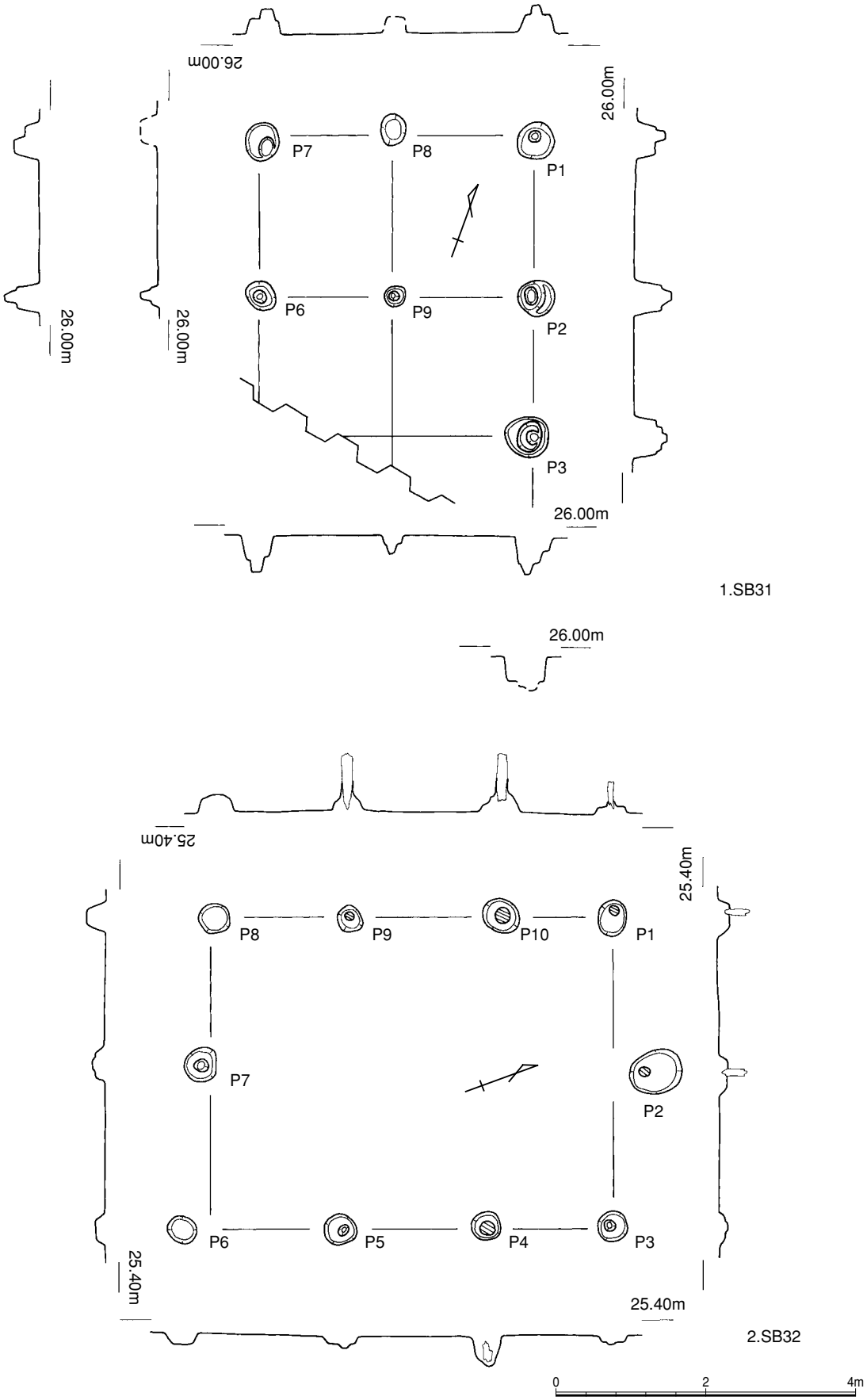

第19図　1984年度調査区遺構図⑭ 掘立柱建物



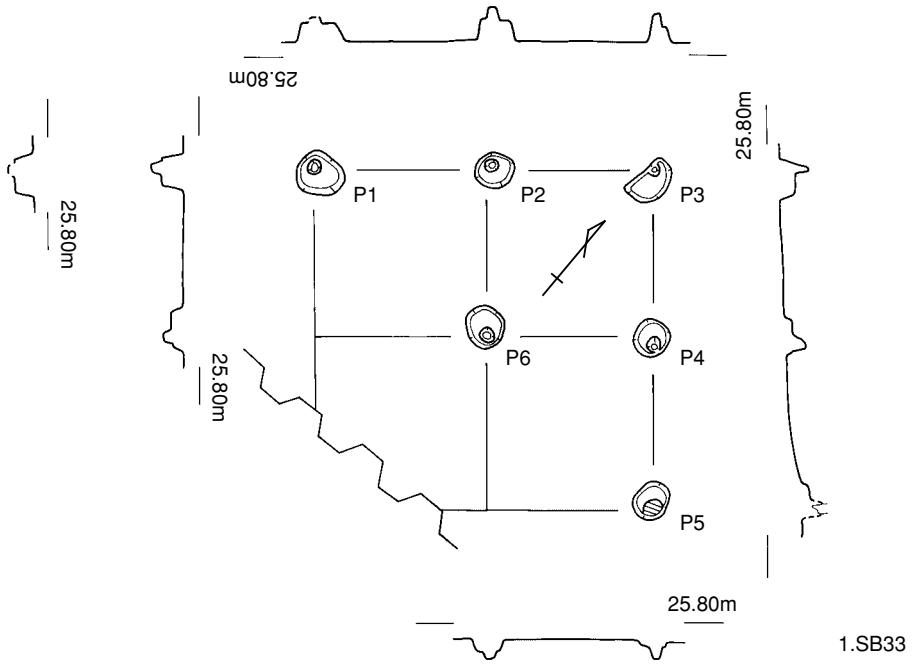



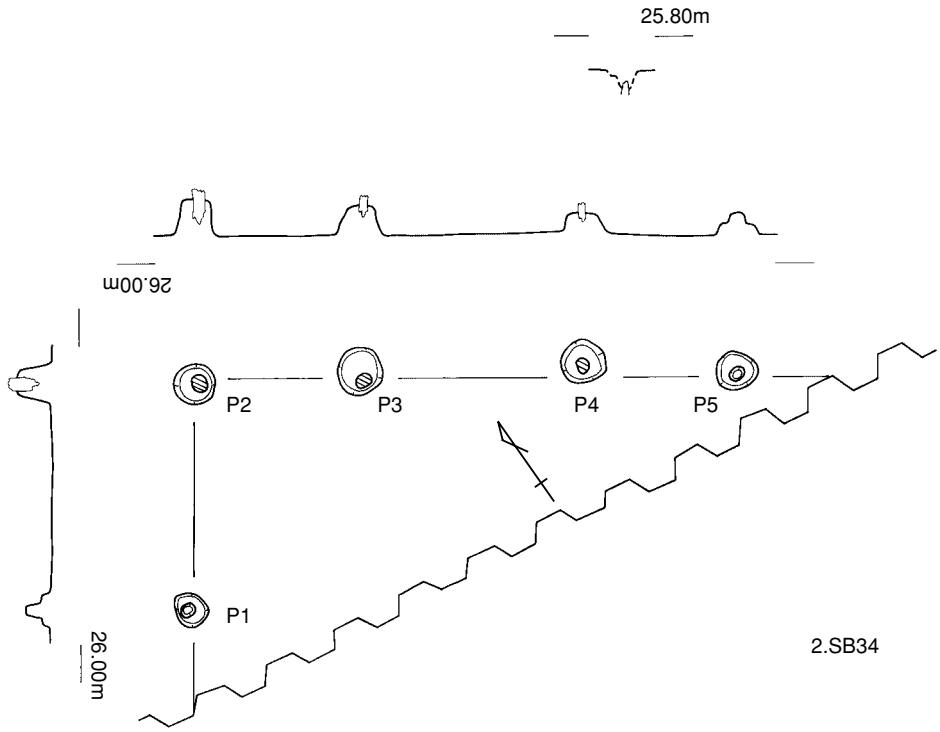



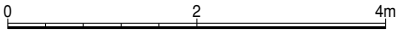

第20図　1984年度調査区遺構図(15) 掘立柱建物



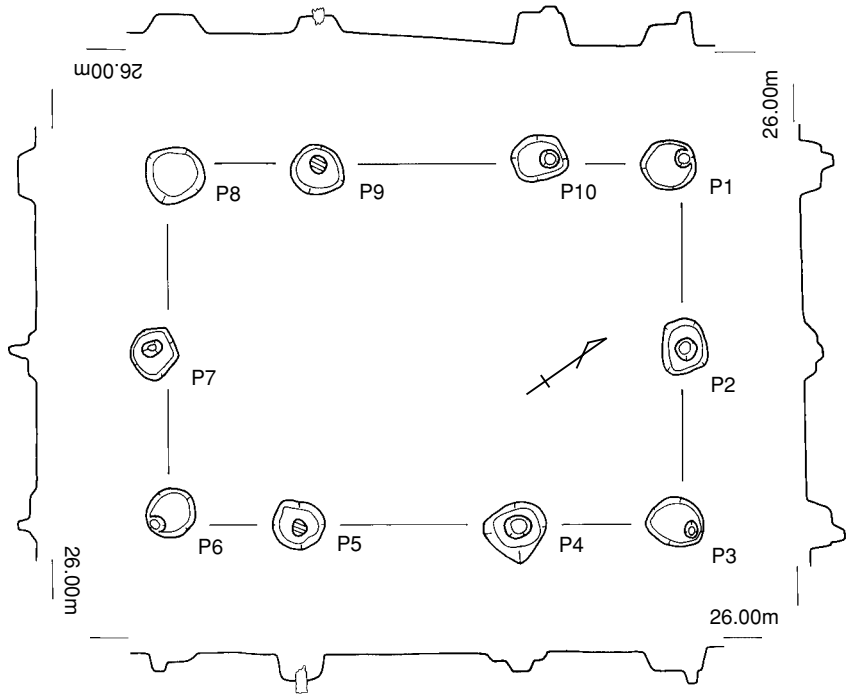

第21図　1984年度調査区遺構図(16) 掘立柱建物



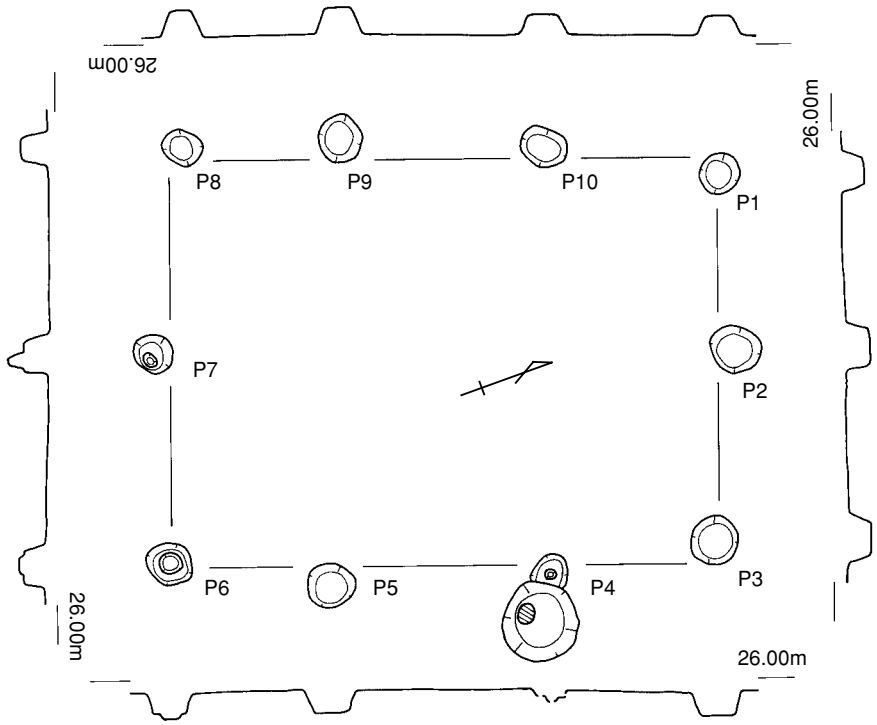



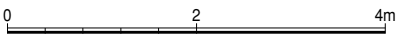

第22図　1984年度調査区遺構図⑰ 掘立柱建物



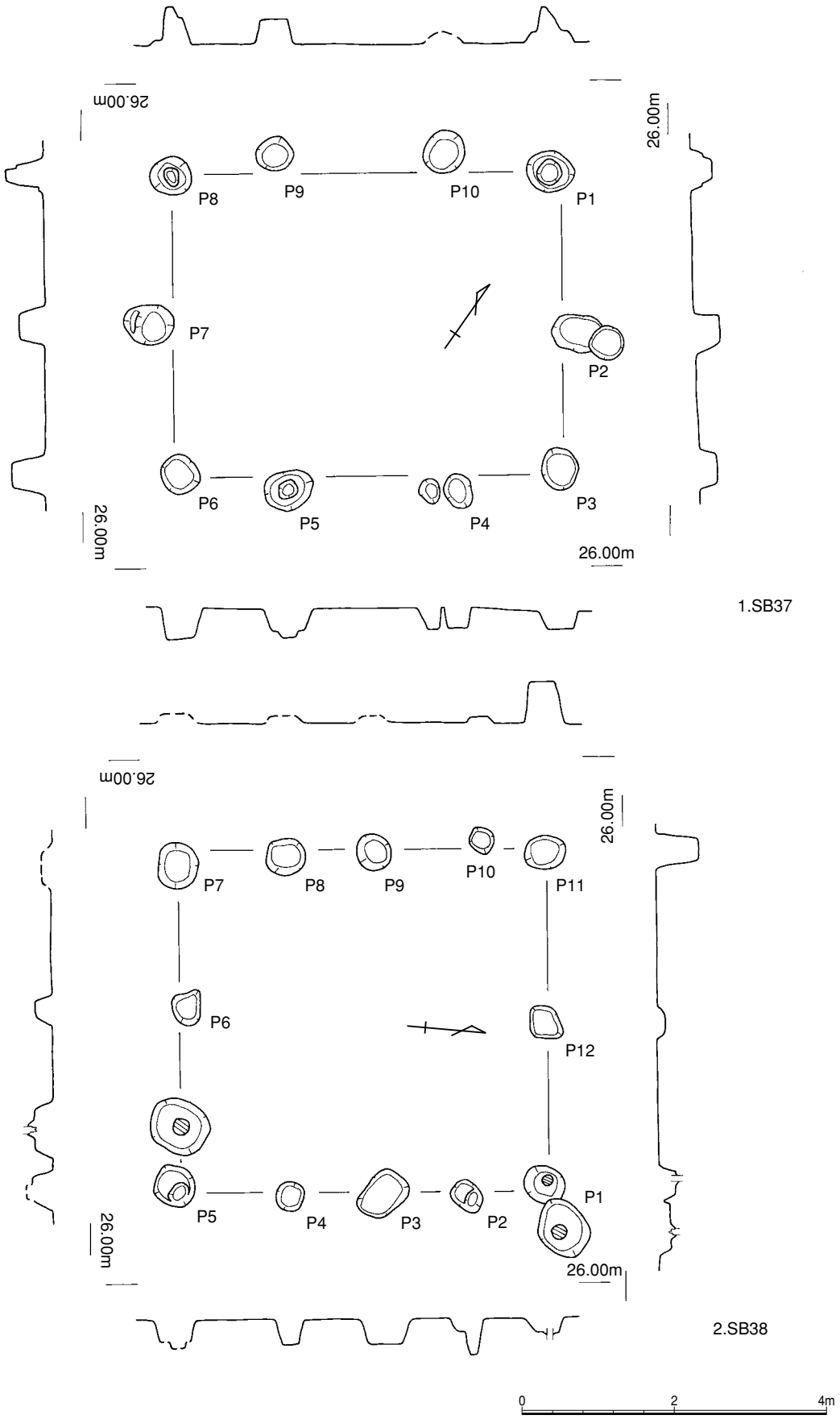

1.SB35



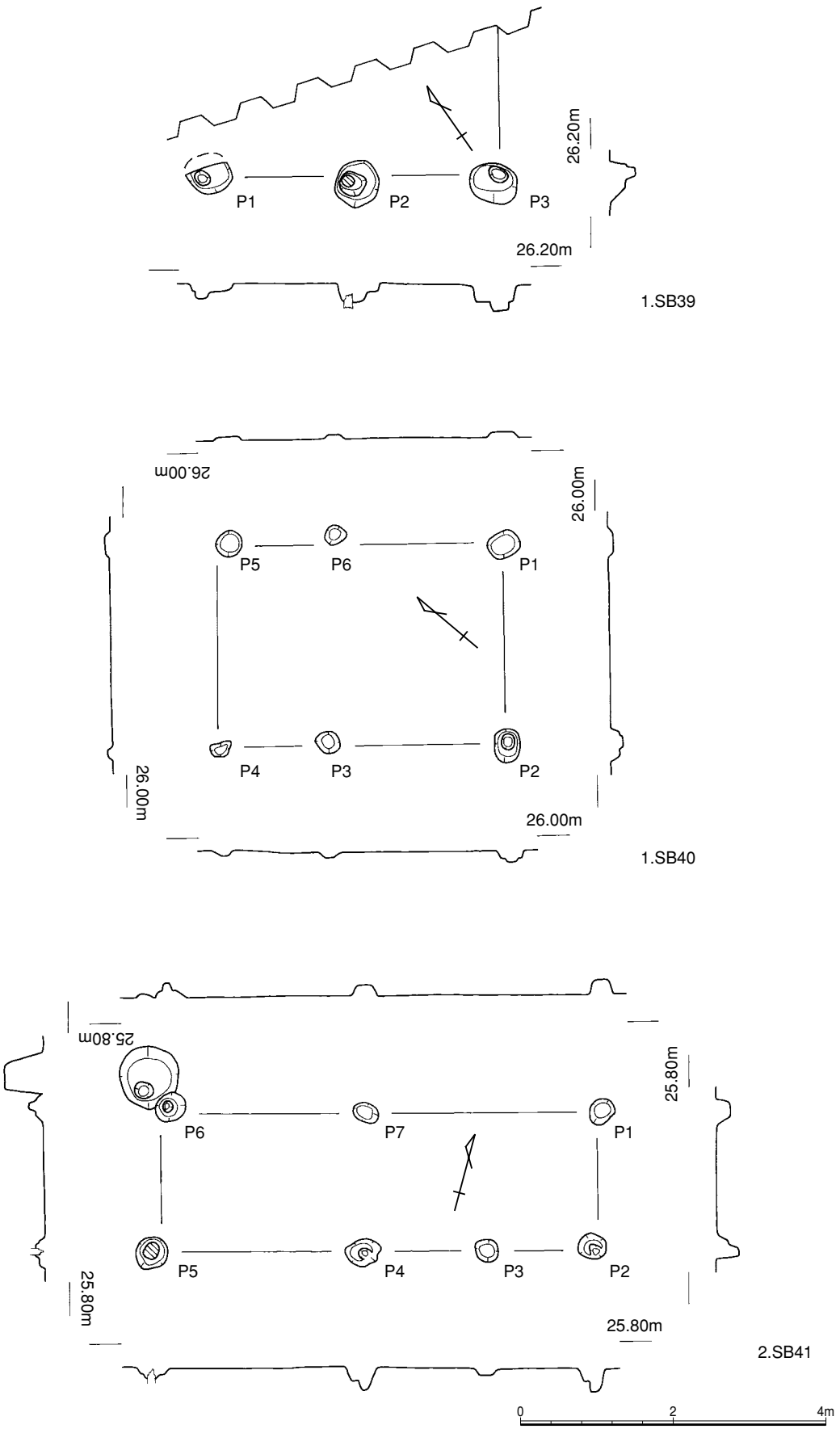

2.SB36



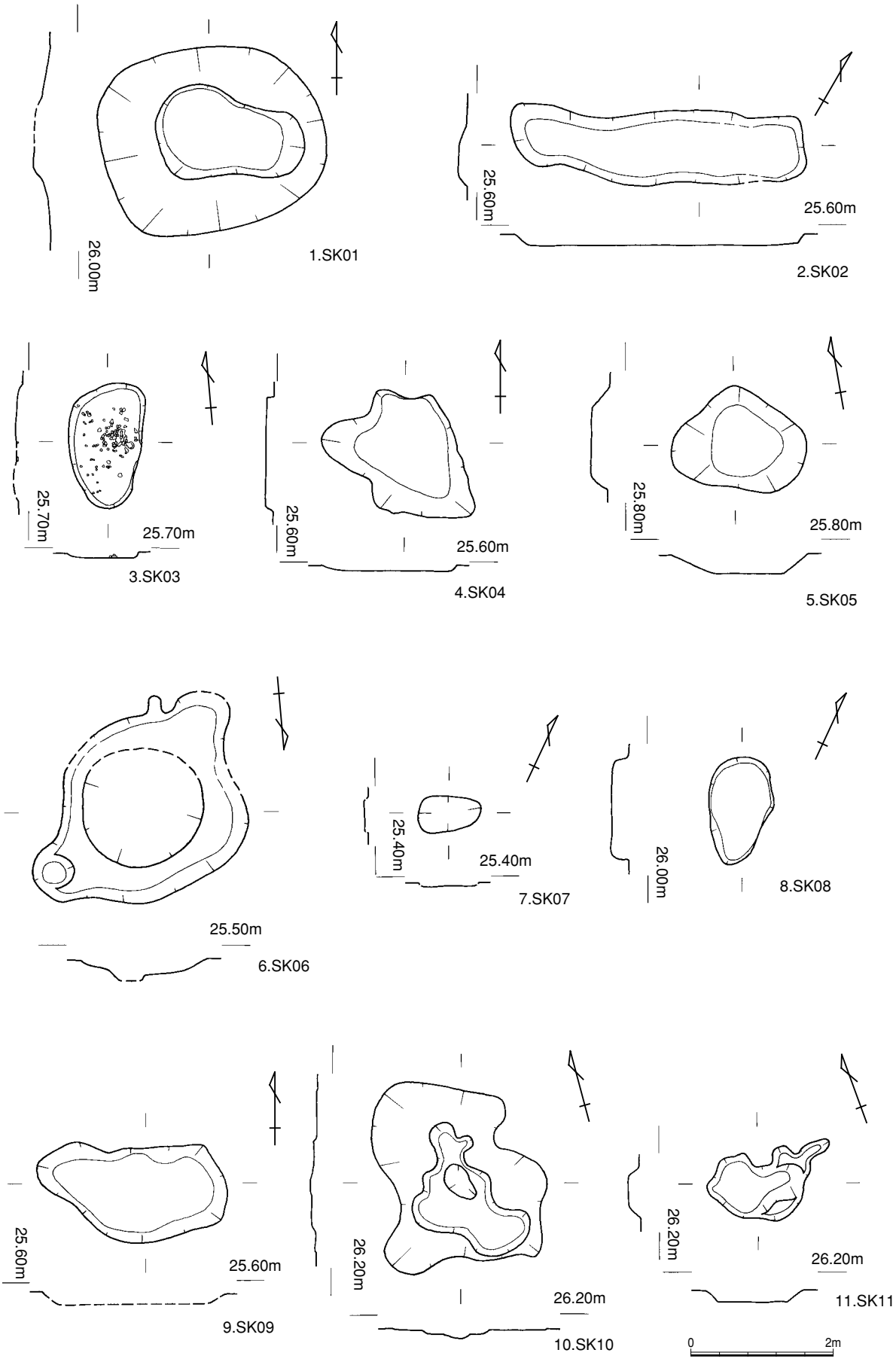

第23図　1984年度調査区遺構図(18) 掘立柱建物



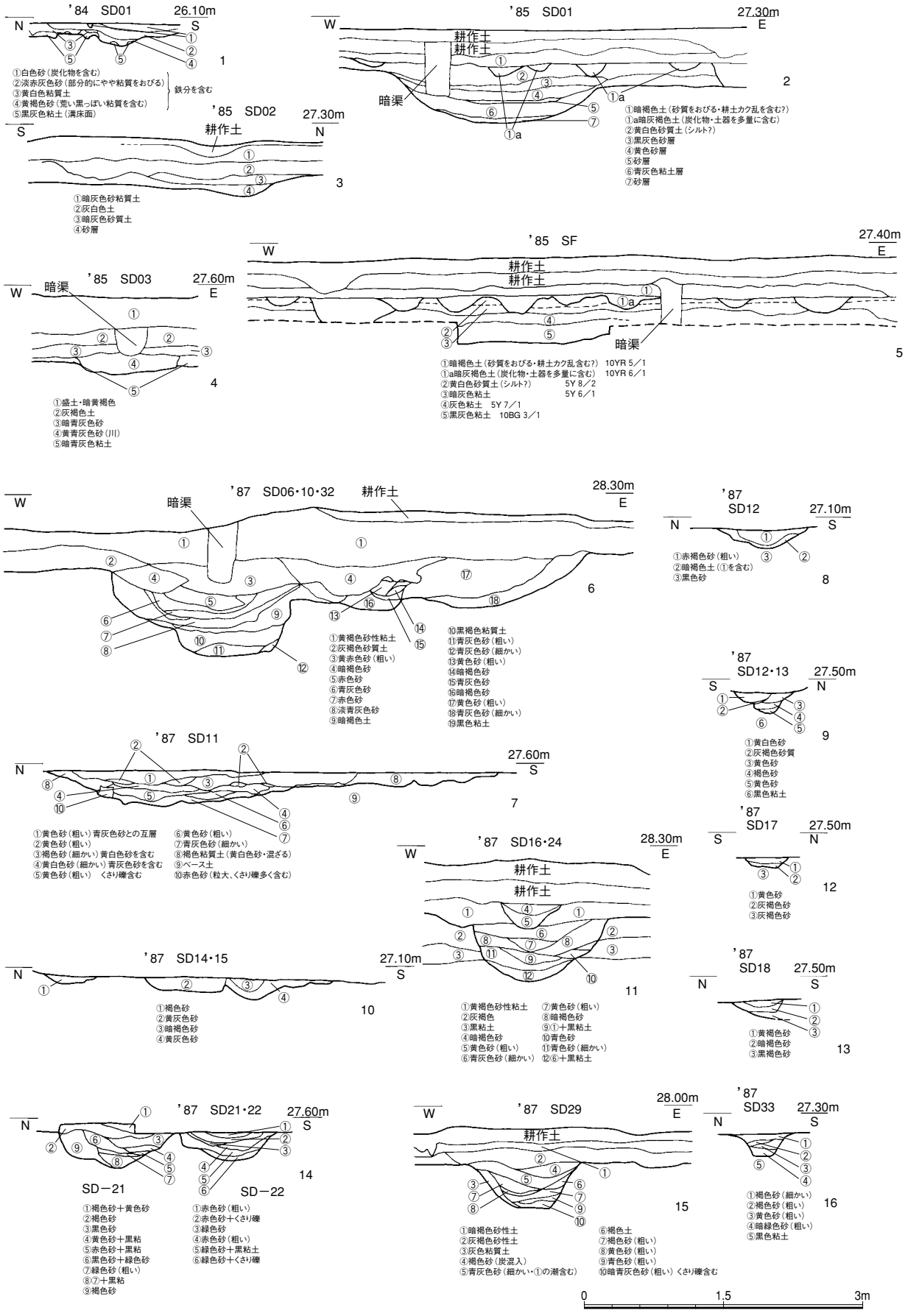

第24図　1984年度調査区遺構図(19) 掘立柱建物



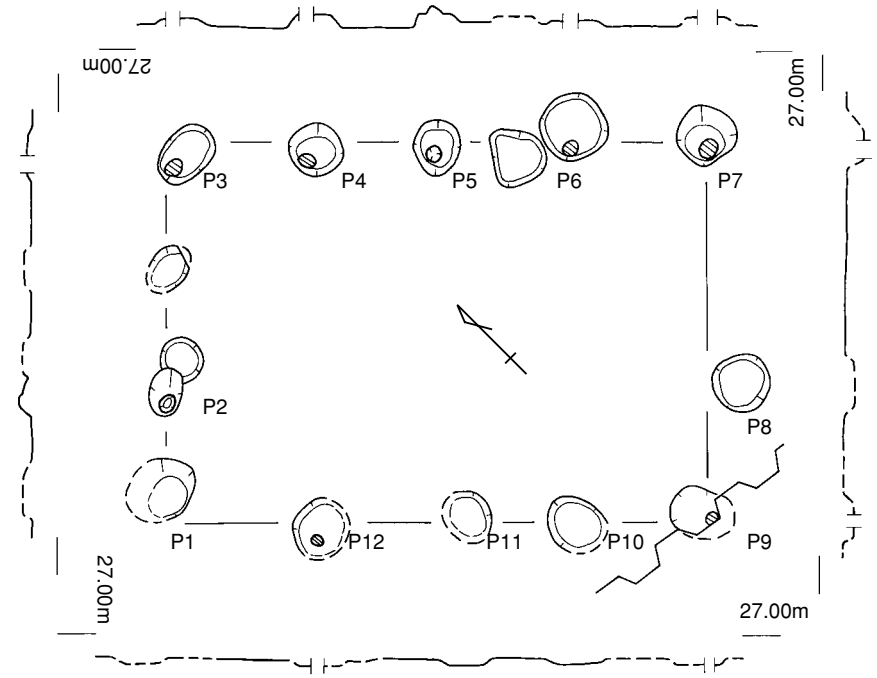

第25図　1984年度調査区遺構図⑳ 掘立柱建物



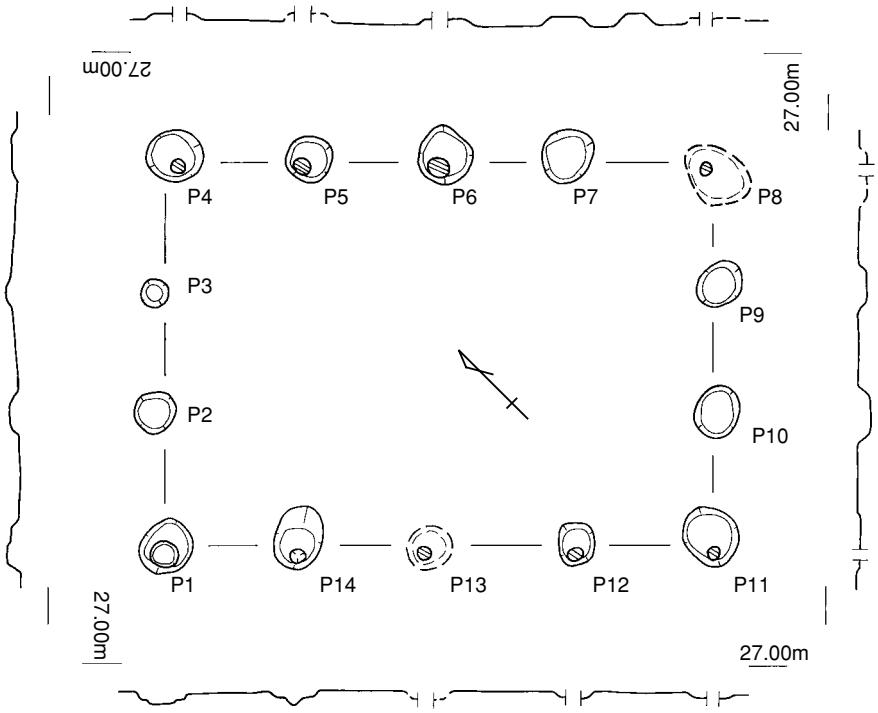

第26図　1984年度調査区遺構図(21) 土抗



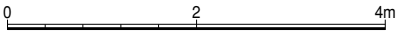

第27図　1984～1987年度調査区遺構図(22) 土層



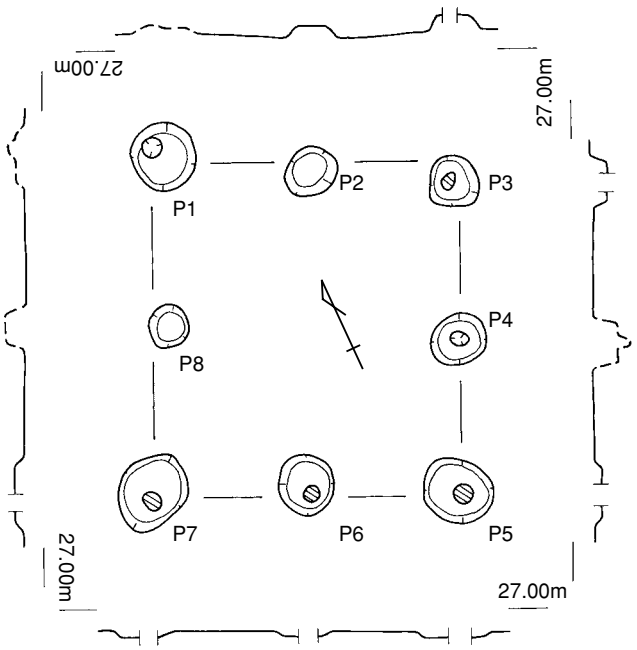

1.SB01



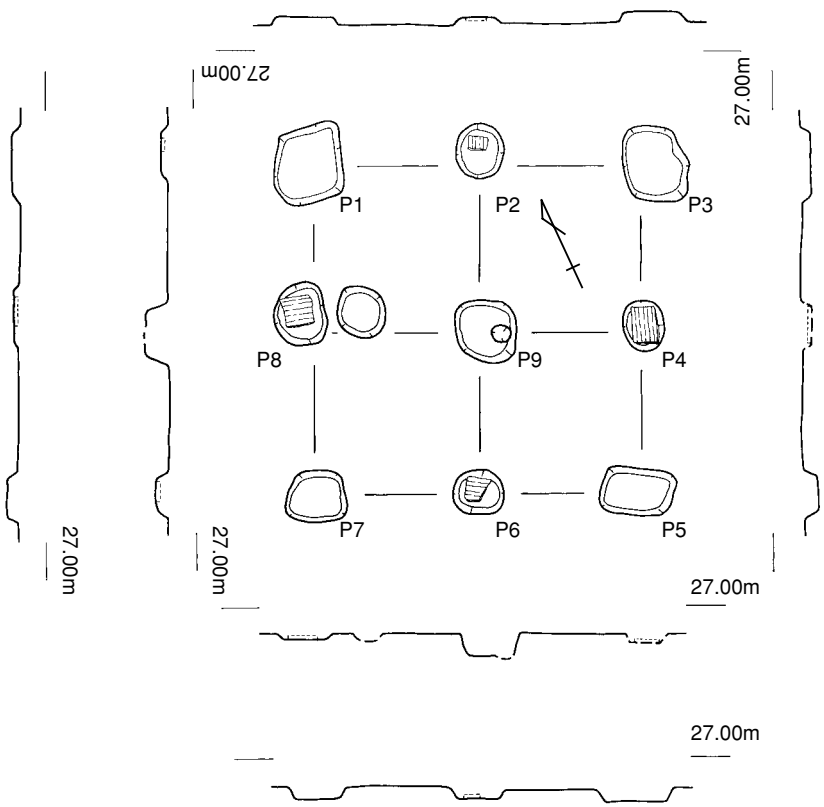

2.SB02




第28図　1985年度調査区遺構図⑴ 掘立柱建物



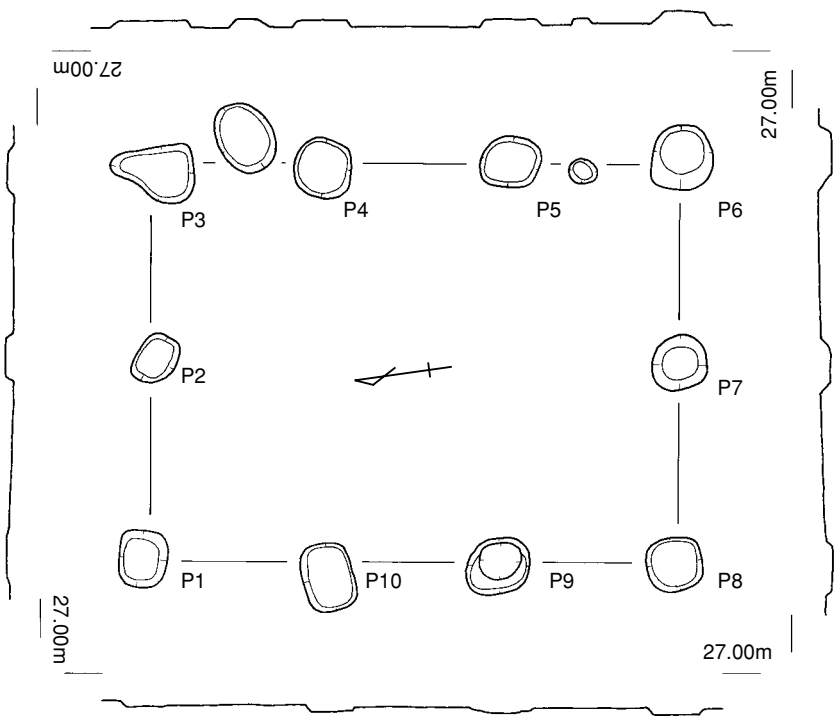

1.SB03



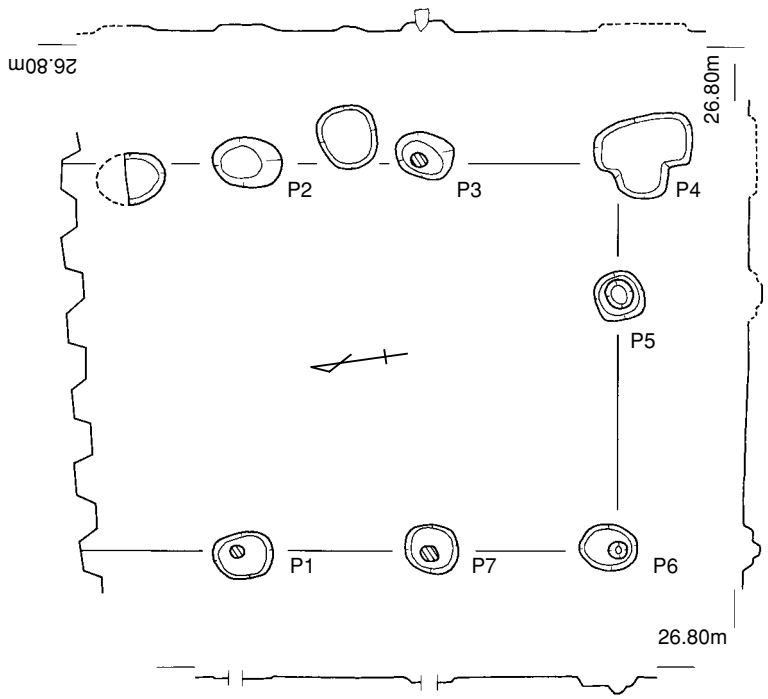

2.SB04

0 2 4m

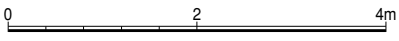
第29図　1985年度調査区遺構図⑵ 掘立柱建物



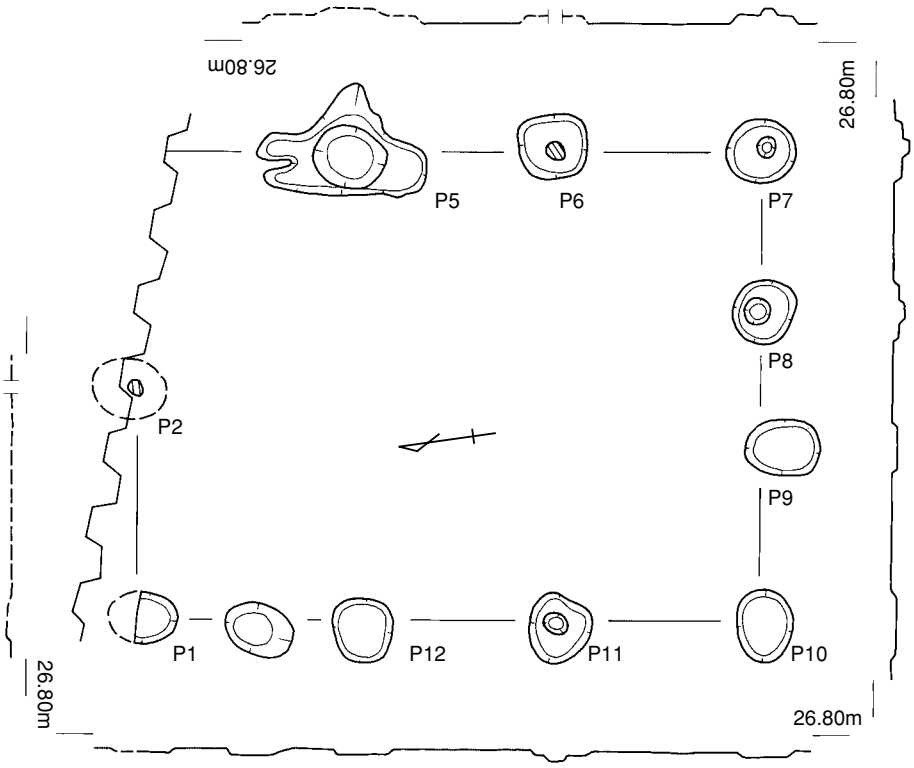

1.SB05



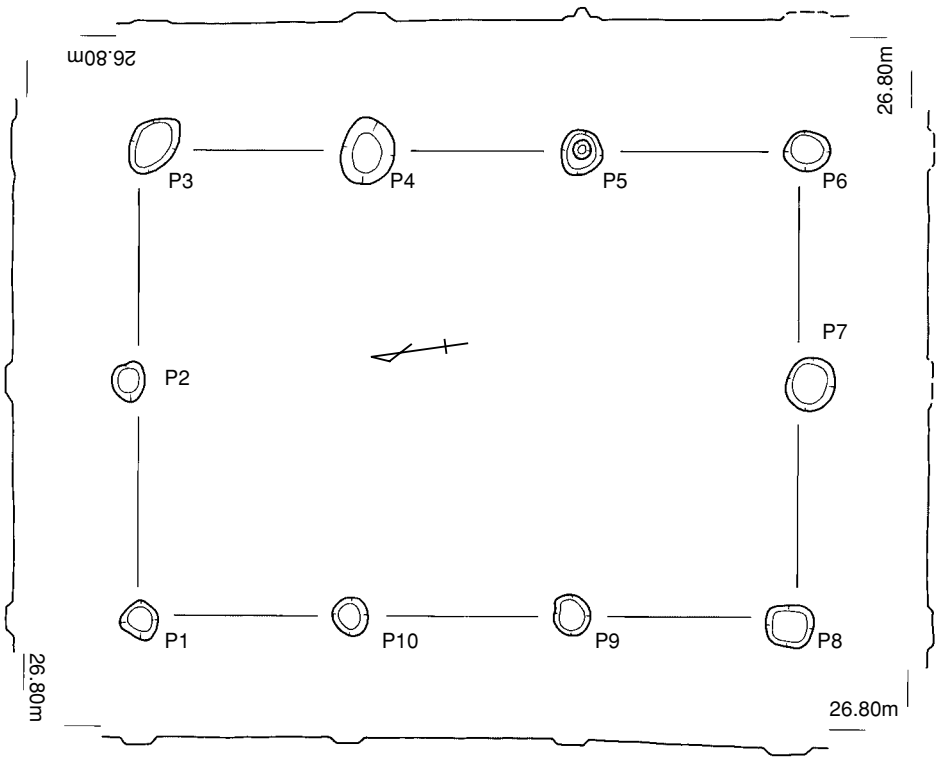

2.SB06



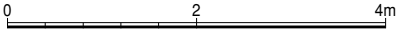

第30図　1985年度調査区遺構図⑶ 掘立柱建物



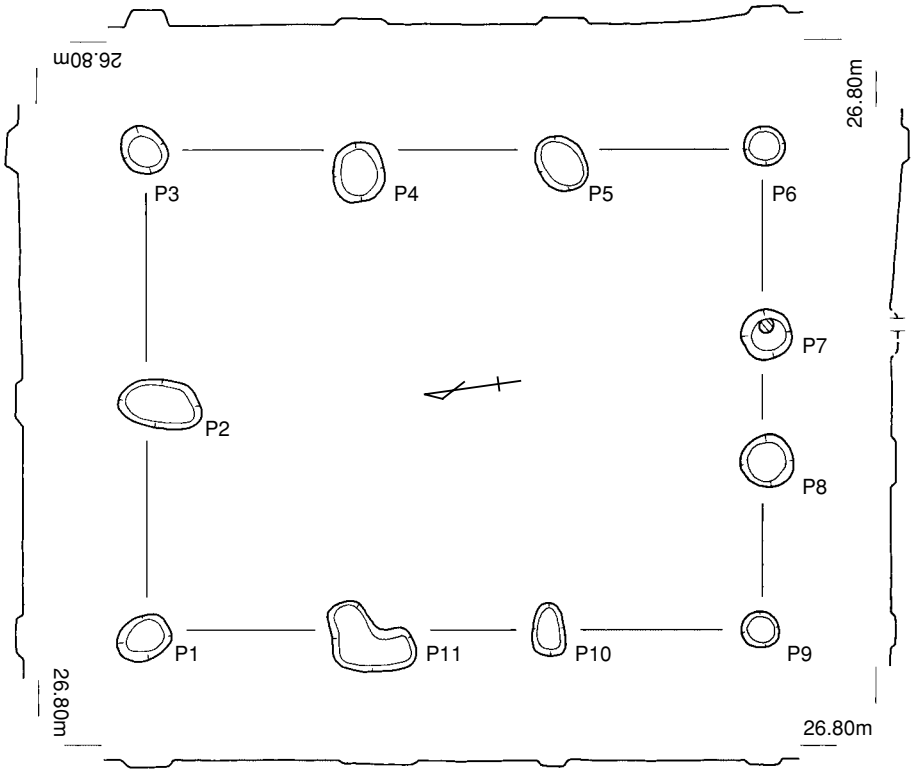

1.SB07

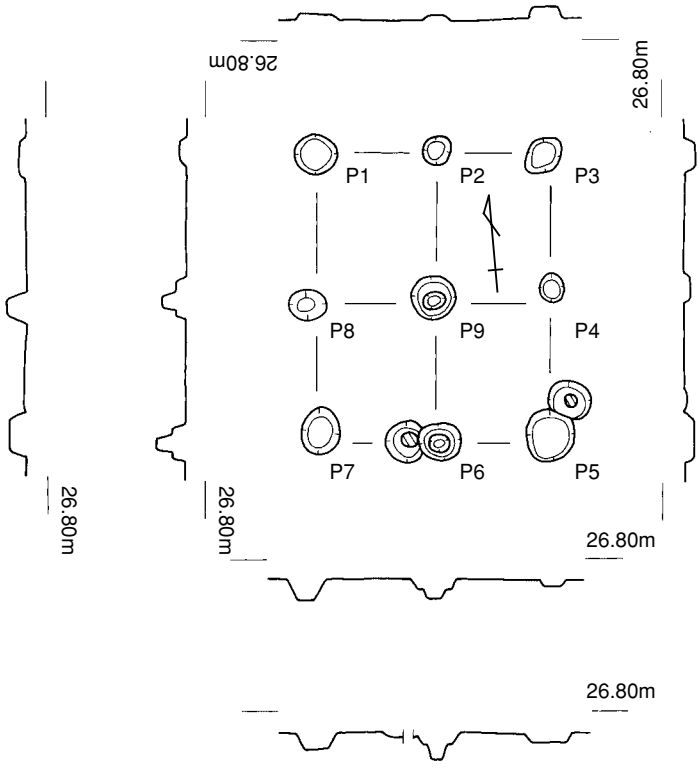



2.SB08

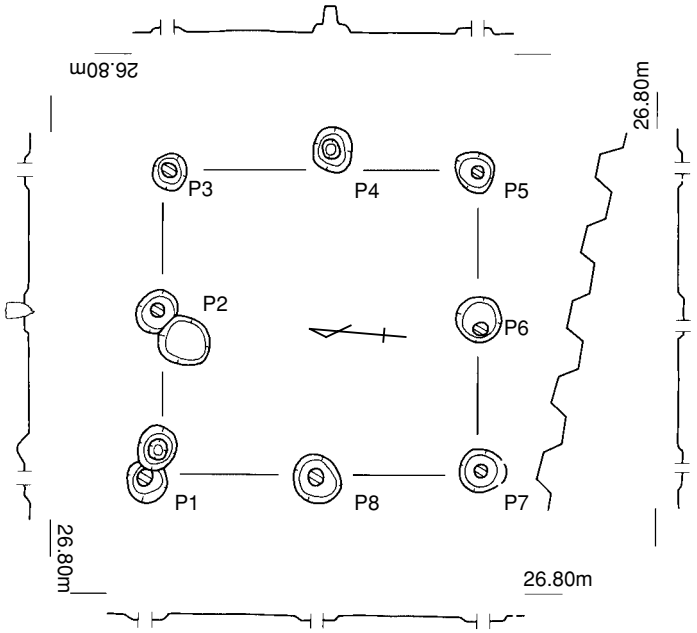



第31図　1985年度調査区遺構図⑷ 掘立柱建物

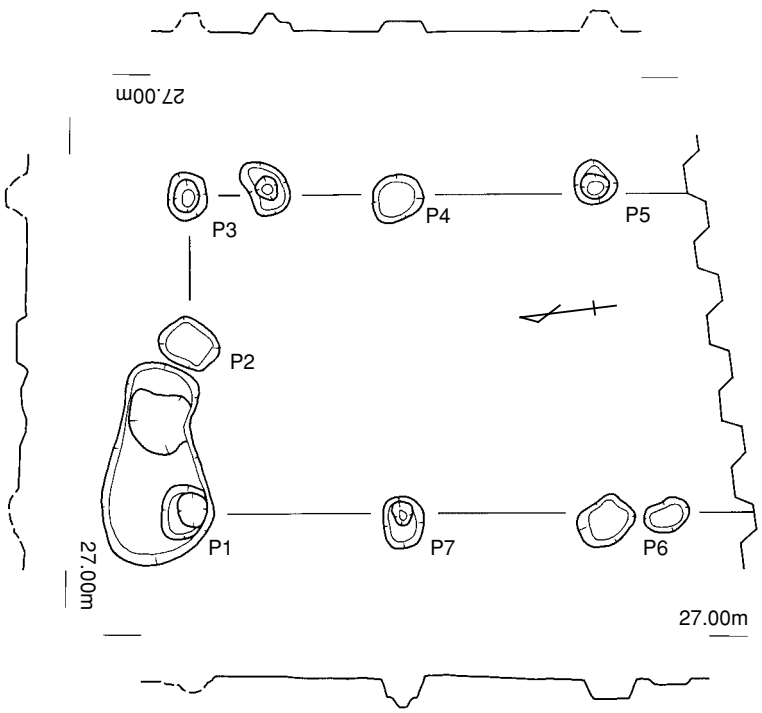



第32図　1985年度調査区遺構図⑸ 掘立柱建物



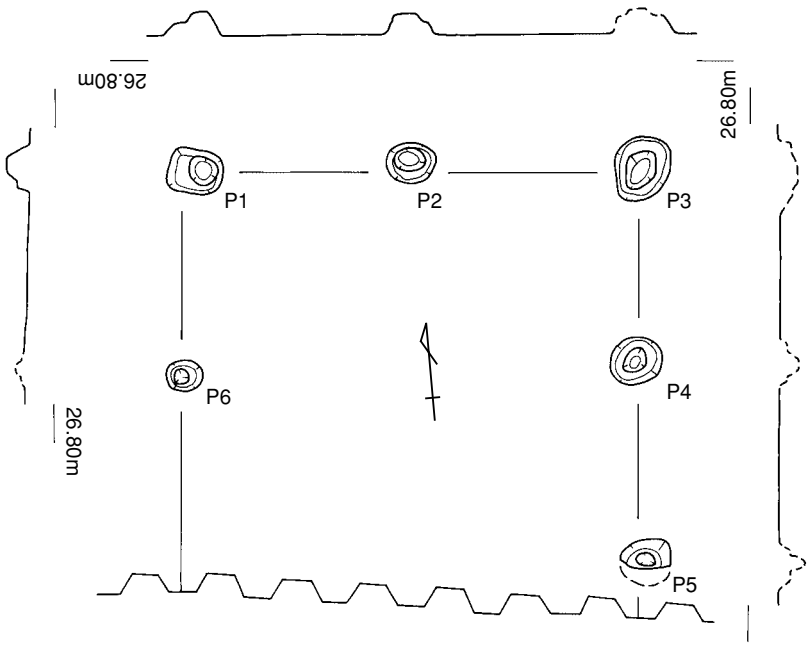

1.SB11



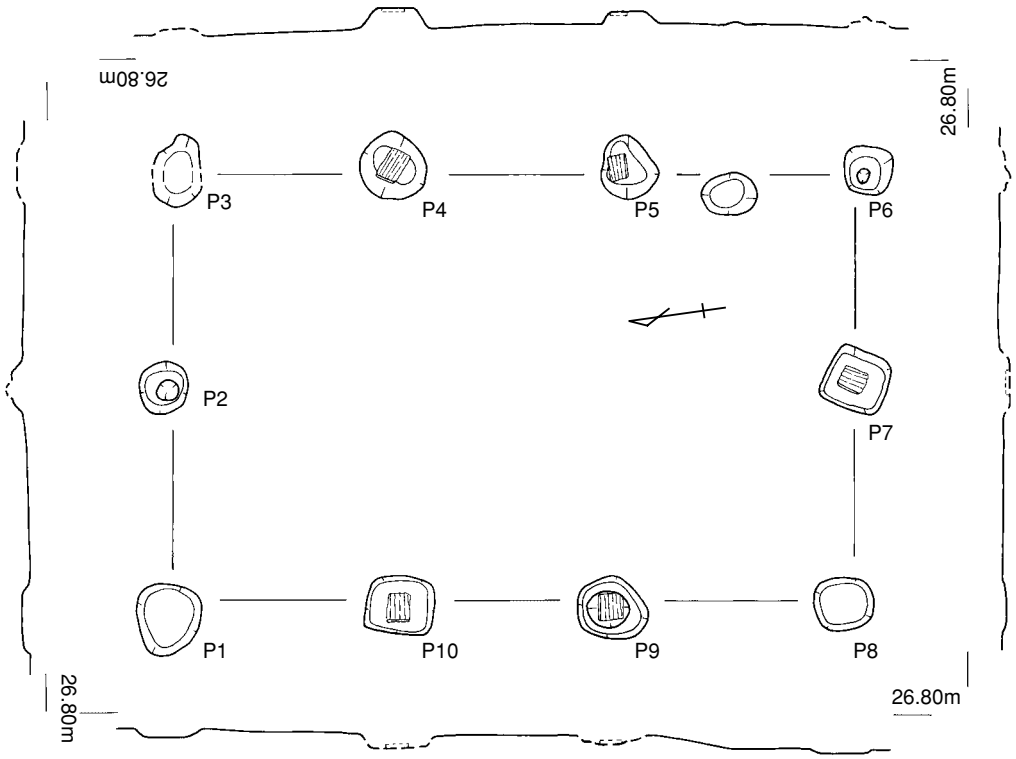

2.SB12

0 2 4m

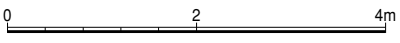
第33図　1985年度調査区遺構図⑹ 掘立柱建物



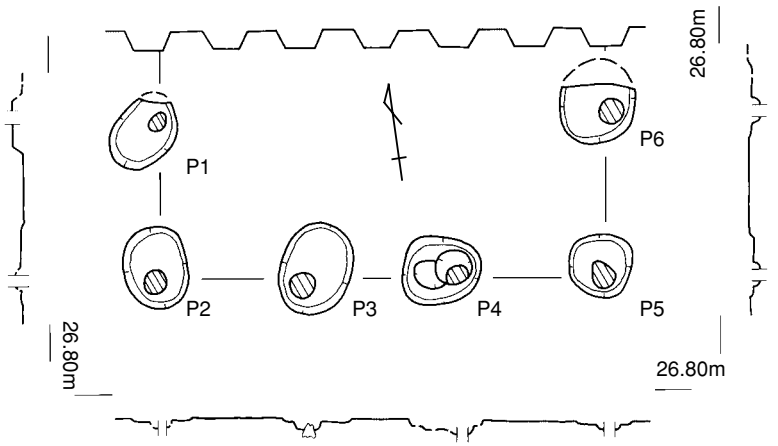

1.SB13



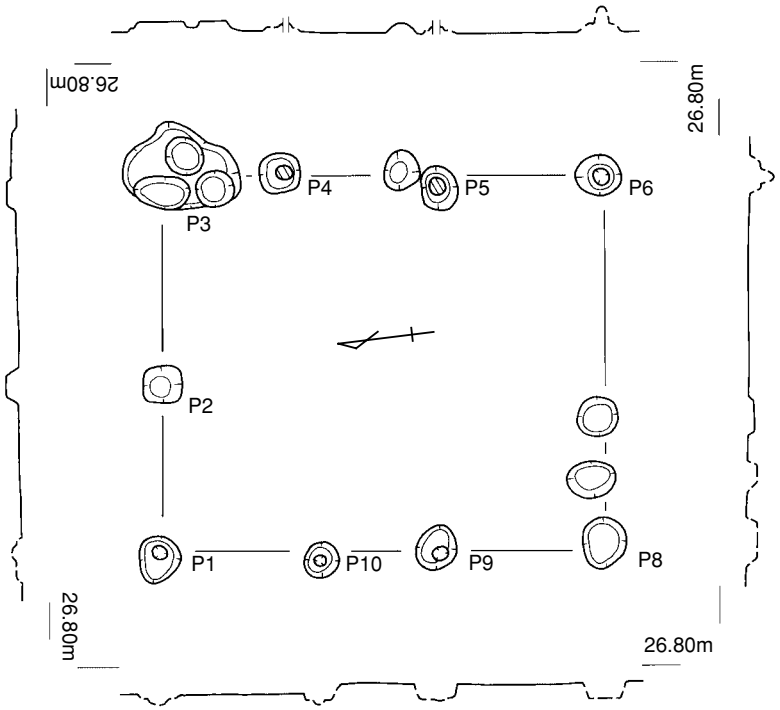

2.SB14




第34図　1985年度調査区遺構図(7) 掘立柱建物



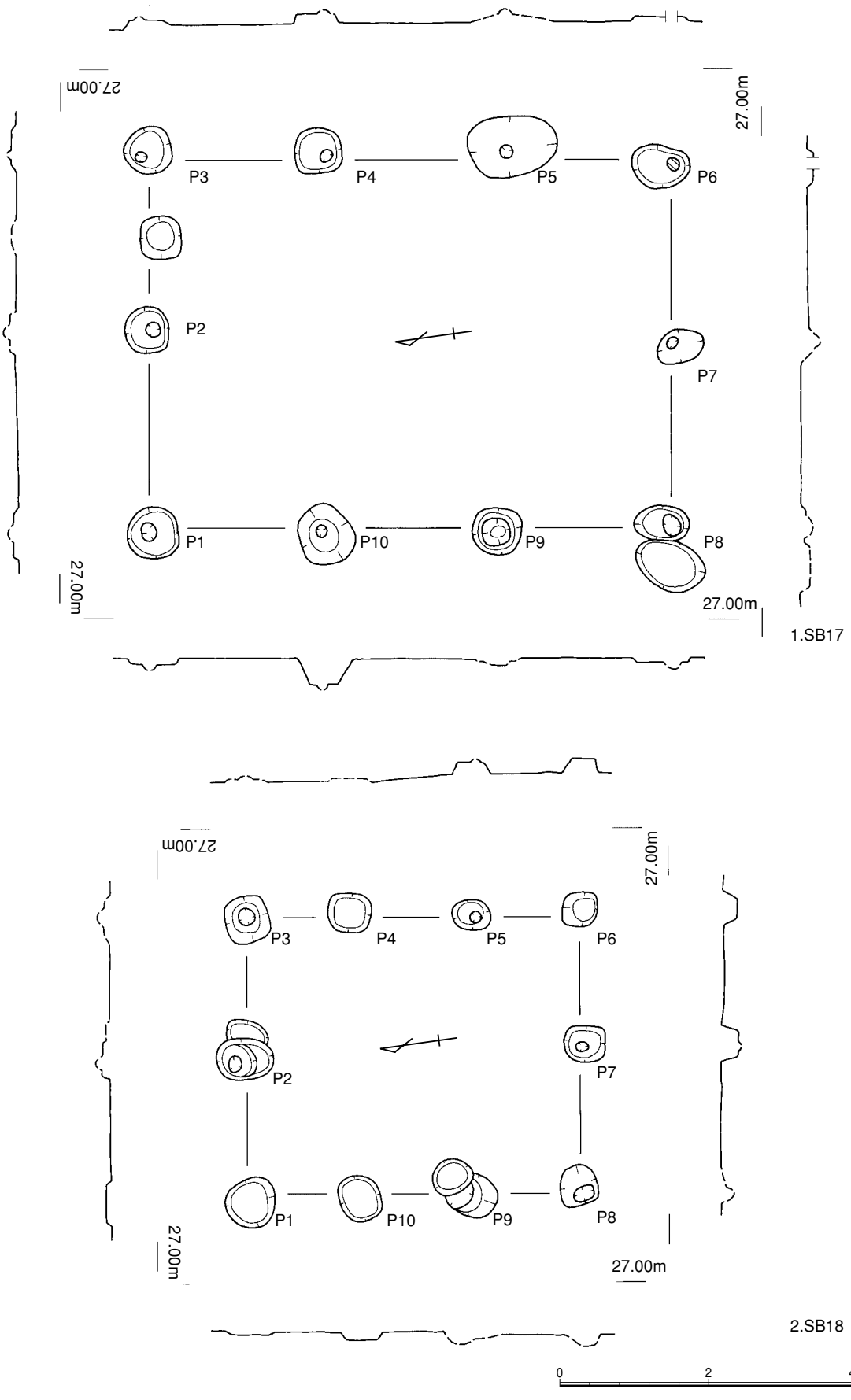

1.SB15



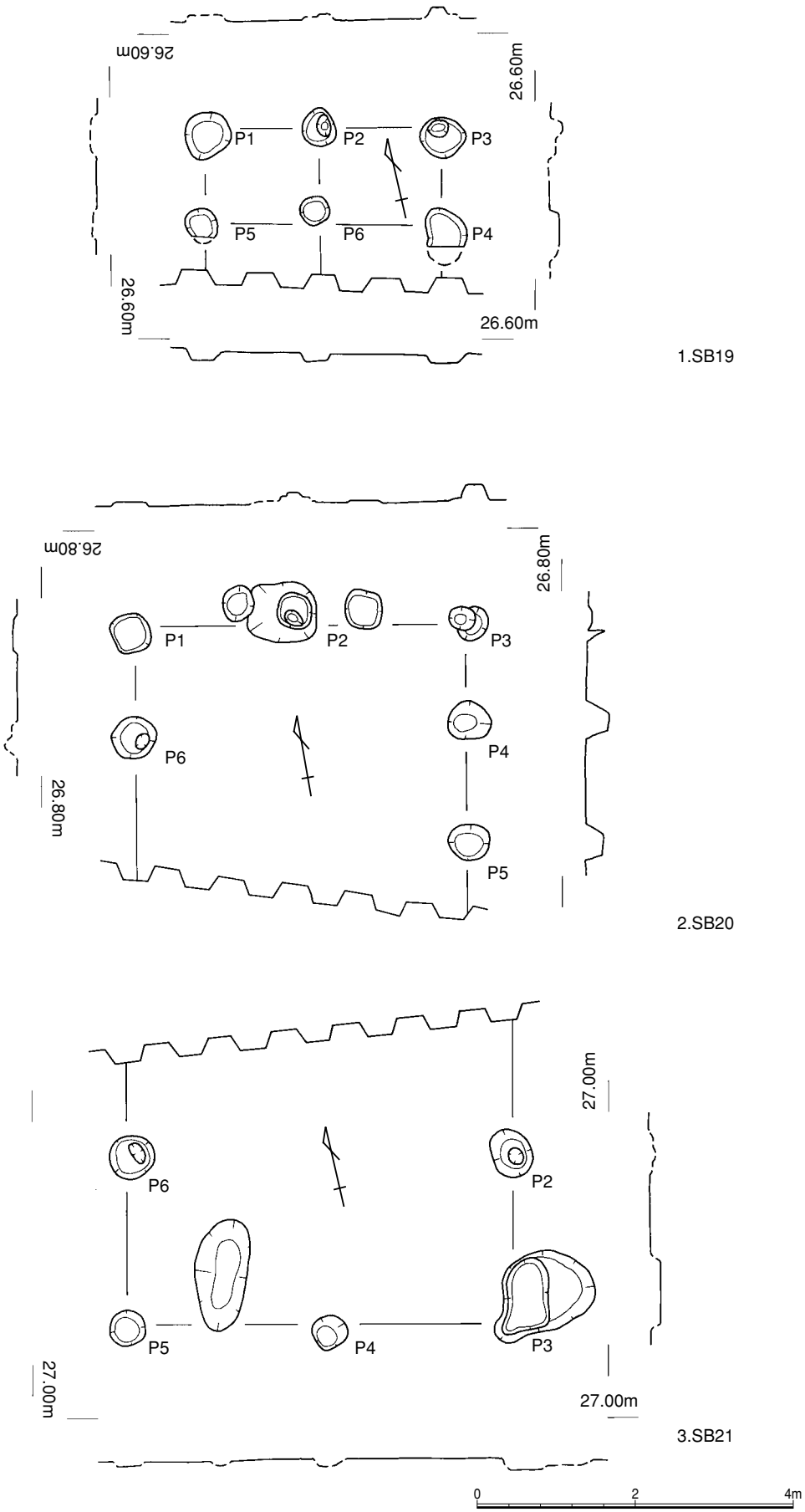

2.SB16

0 2 4m

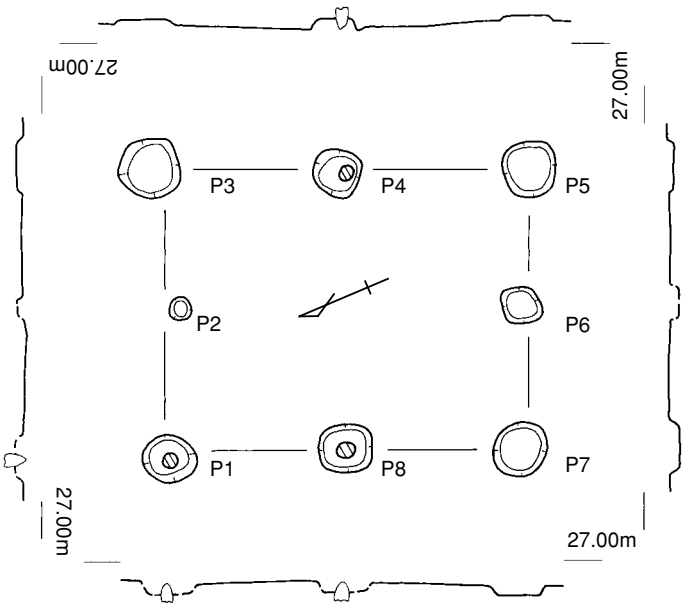
第35図　1985年度調査区遺構図(8) 掘立柱建物



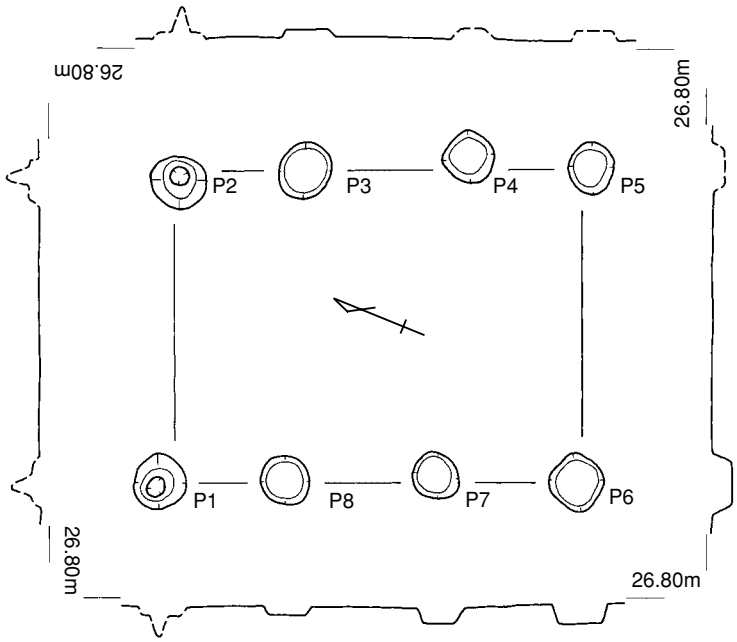

第36図　1985年度調査区遺構図⑼ 掘立柱建物



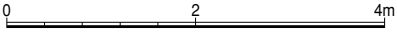

第37図　1985年度調査区遺構図(10) 掘立柱建物



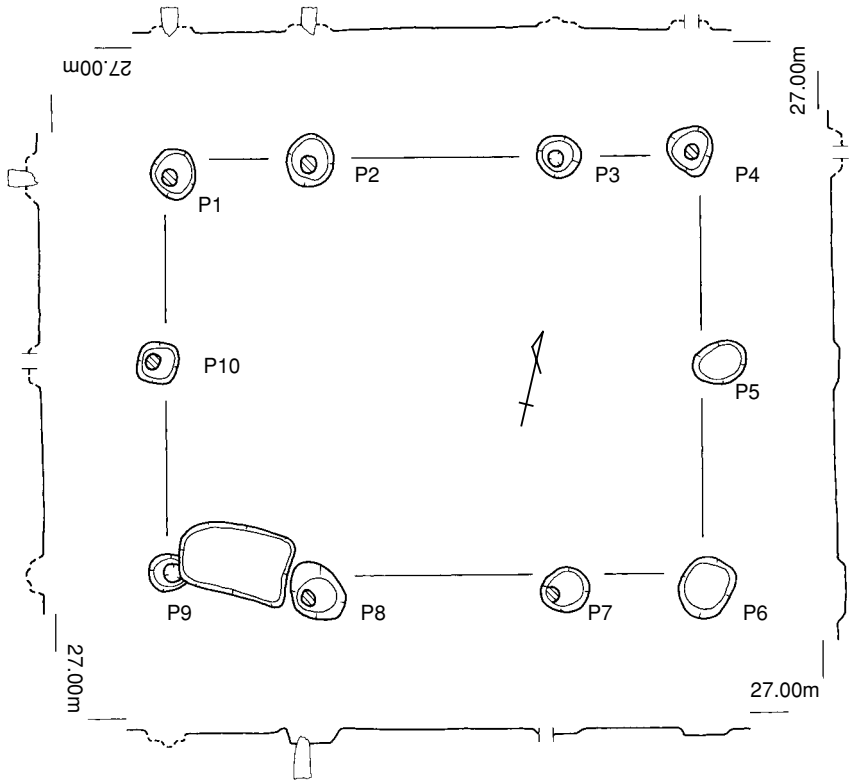

1.SB22



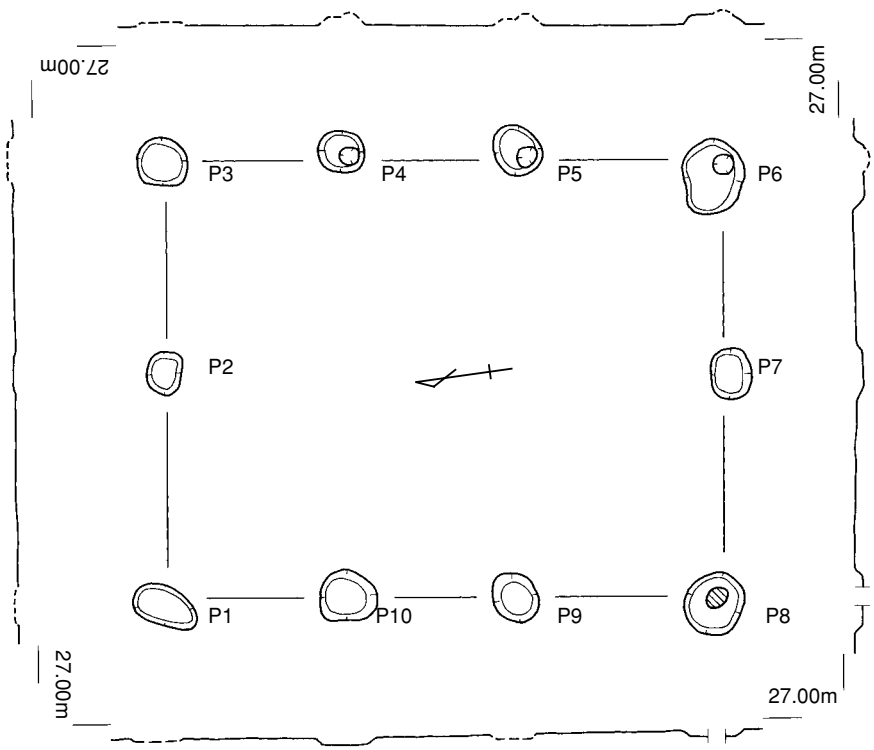

2.SB23



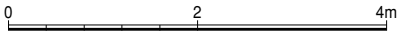

第38図　1985年度調査区遺構図(11) 掘立柱建物



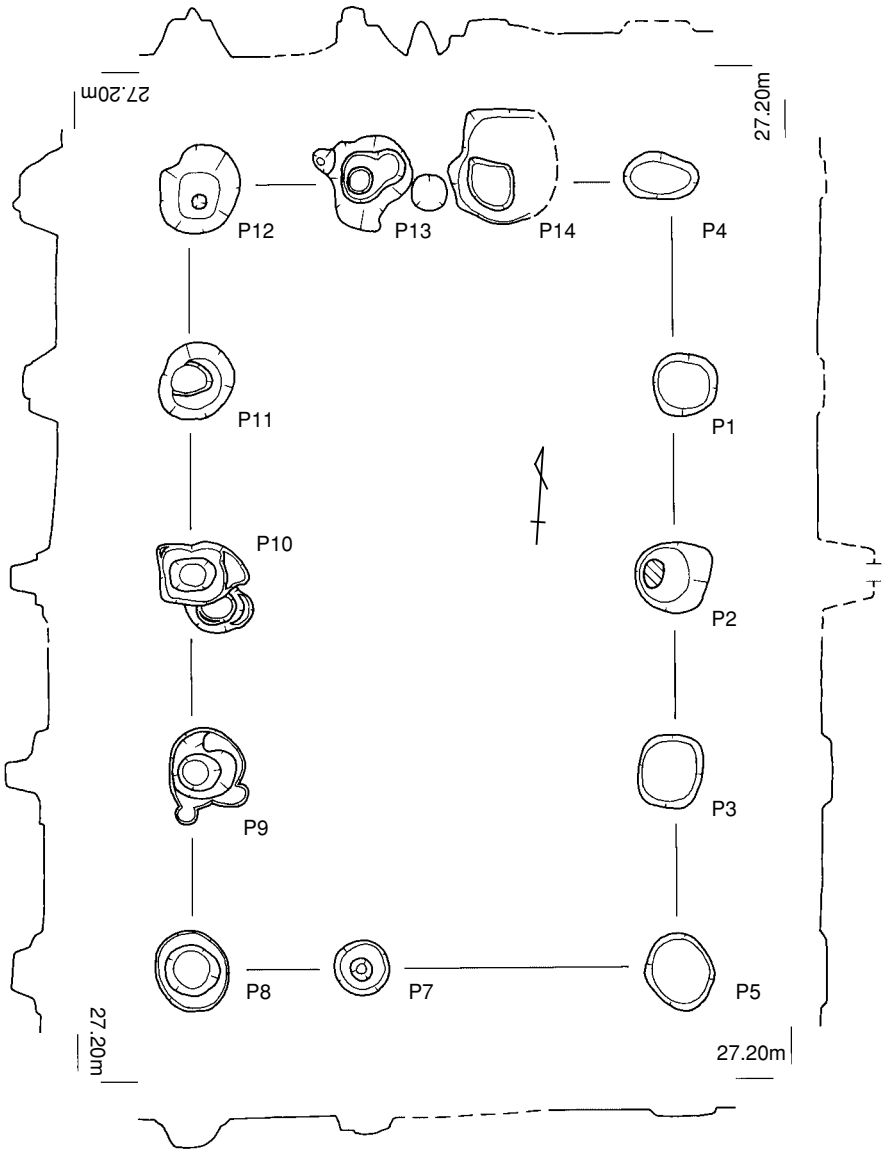

1.SB24




2.SB25



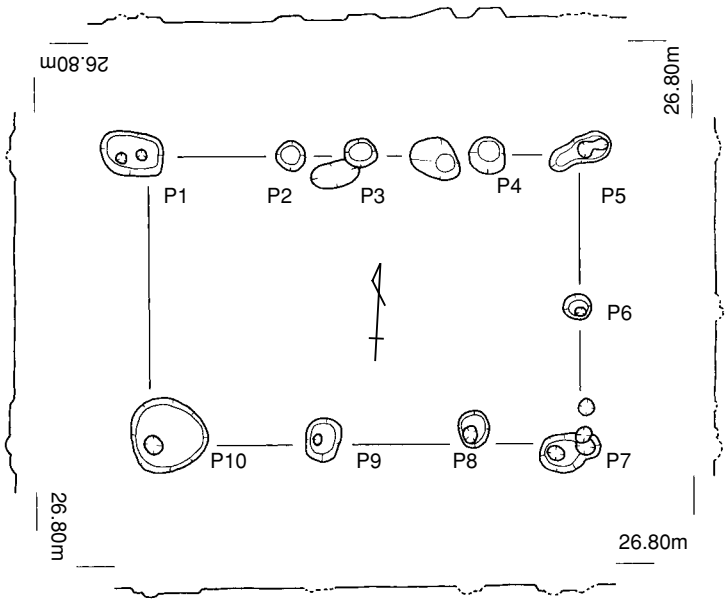

第39図　1985年度調査区遺構図(12) 掘立柱建物



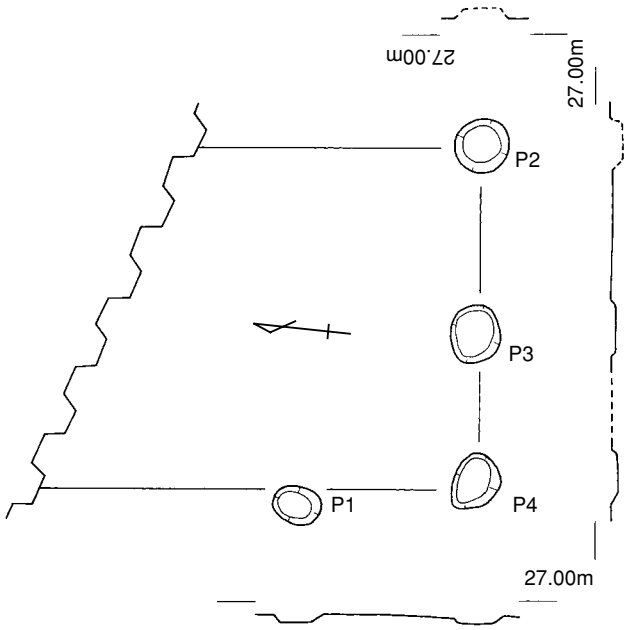

1.SB26

0 2 4m

第40図　1985年度調査区遺構図⑬ 掘立柱建物



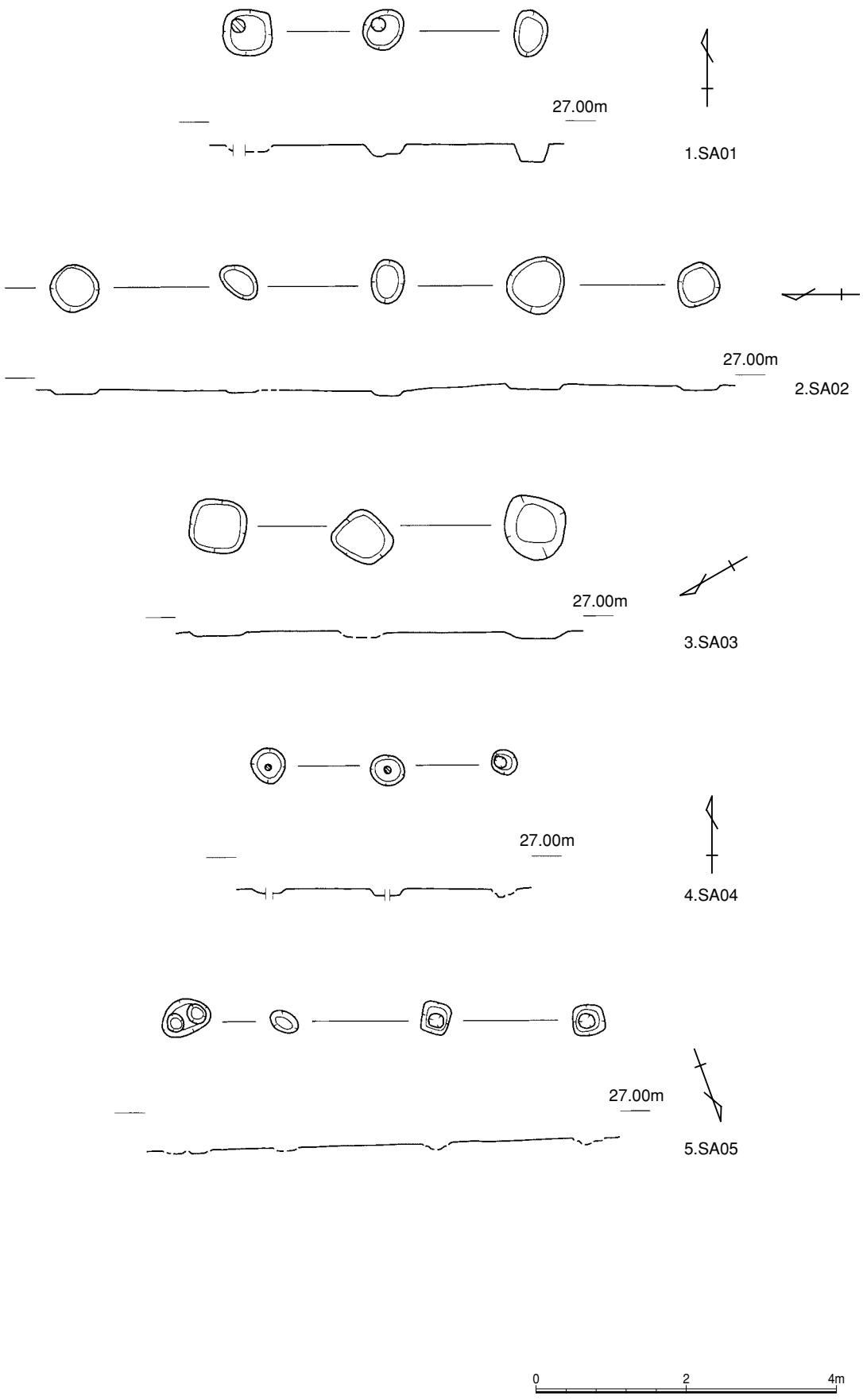

1.SB27



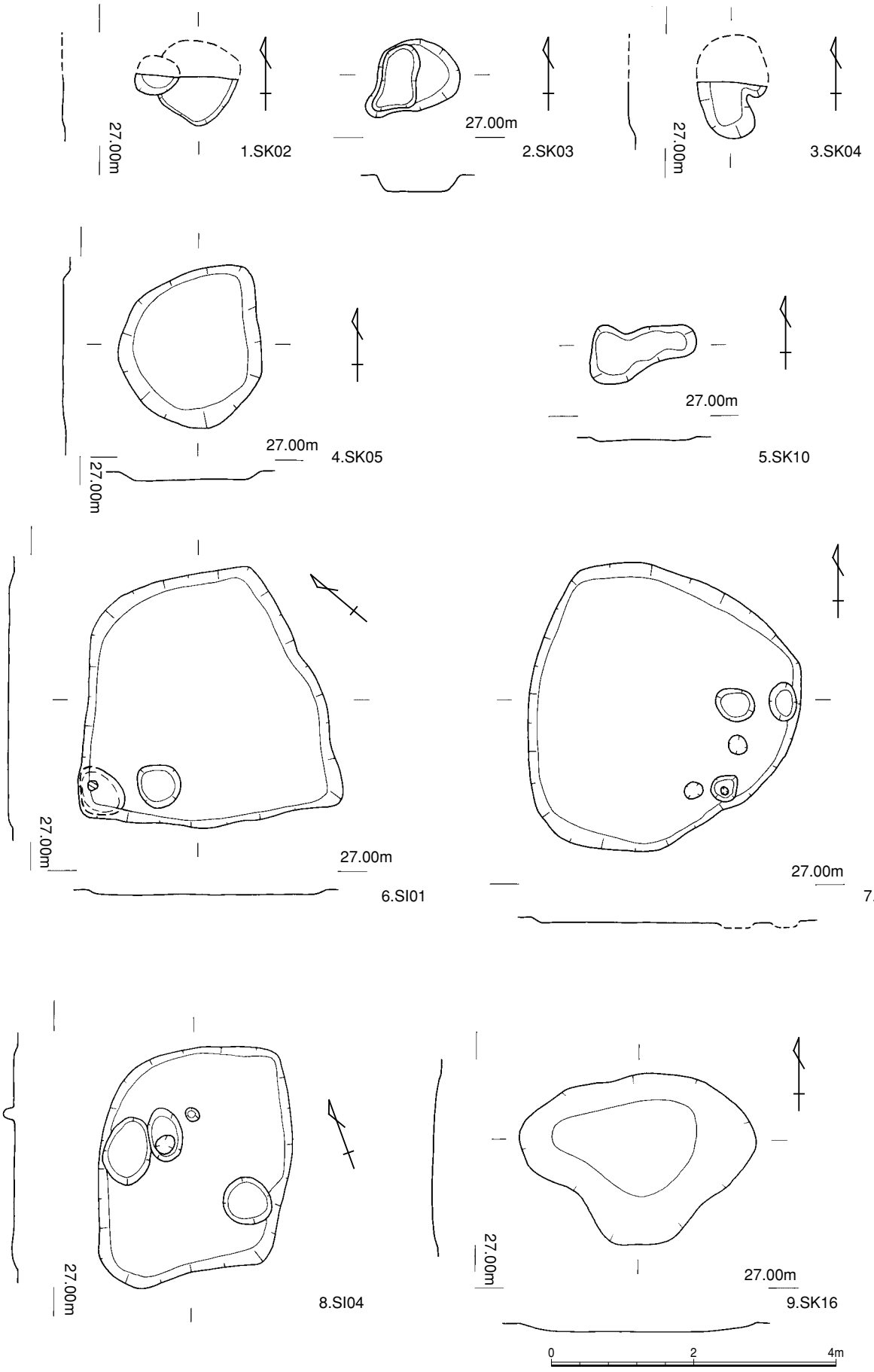

2.SB28

0 2 4m

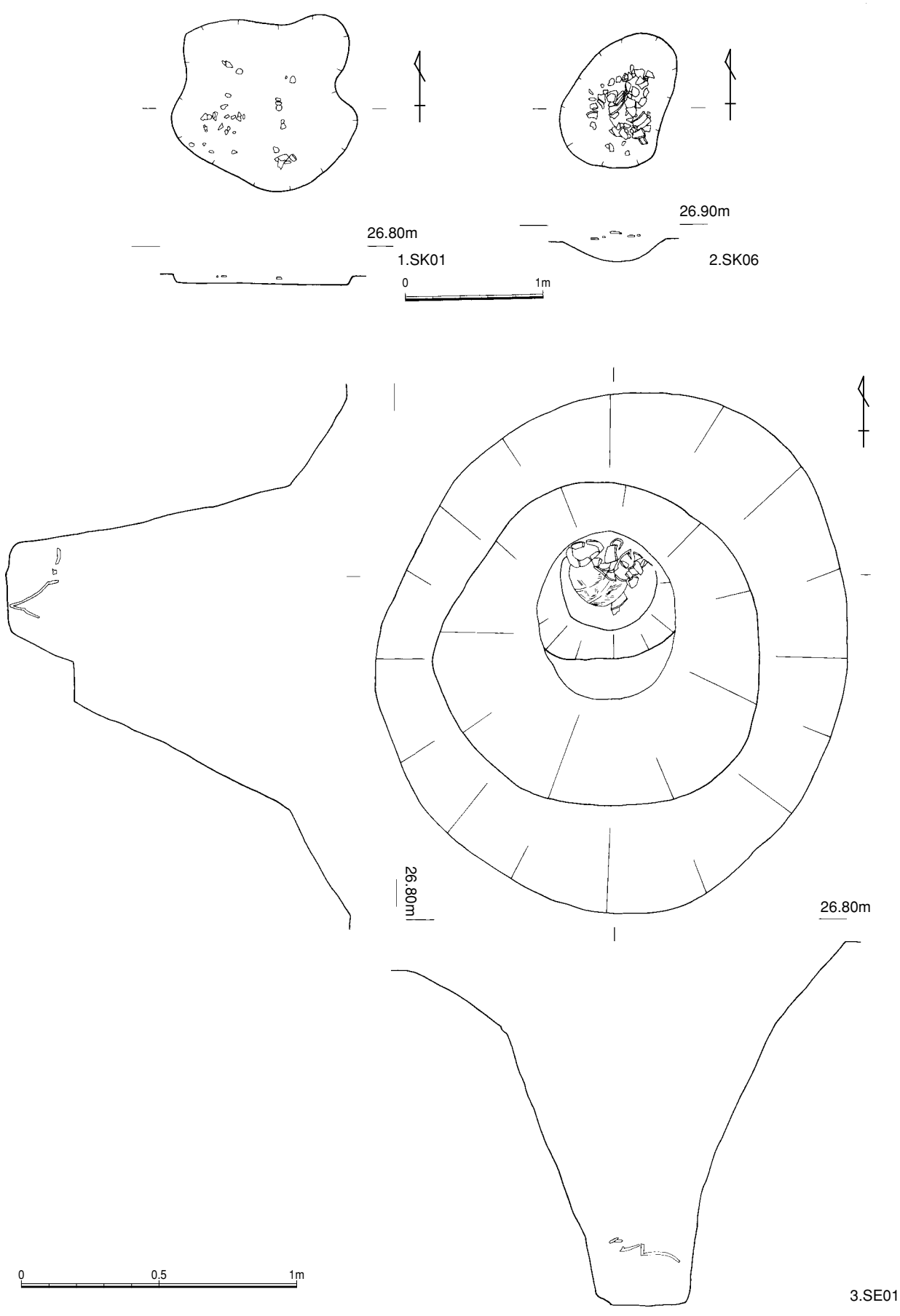
第41図　1985年度調査区遺構図⑭ 掘立柱建物



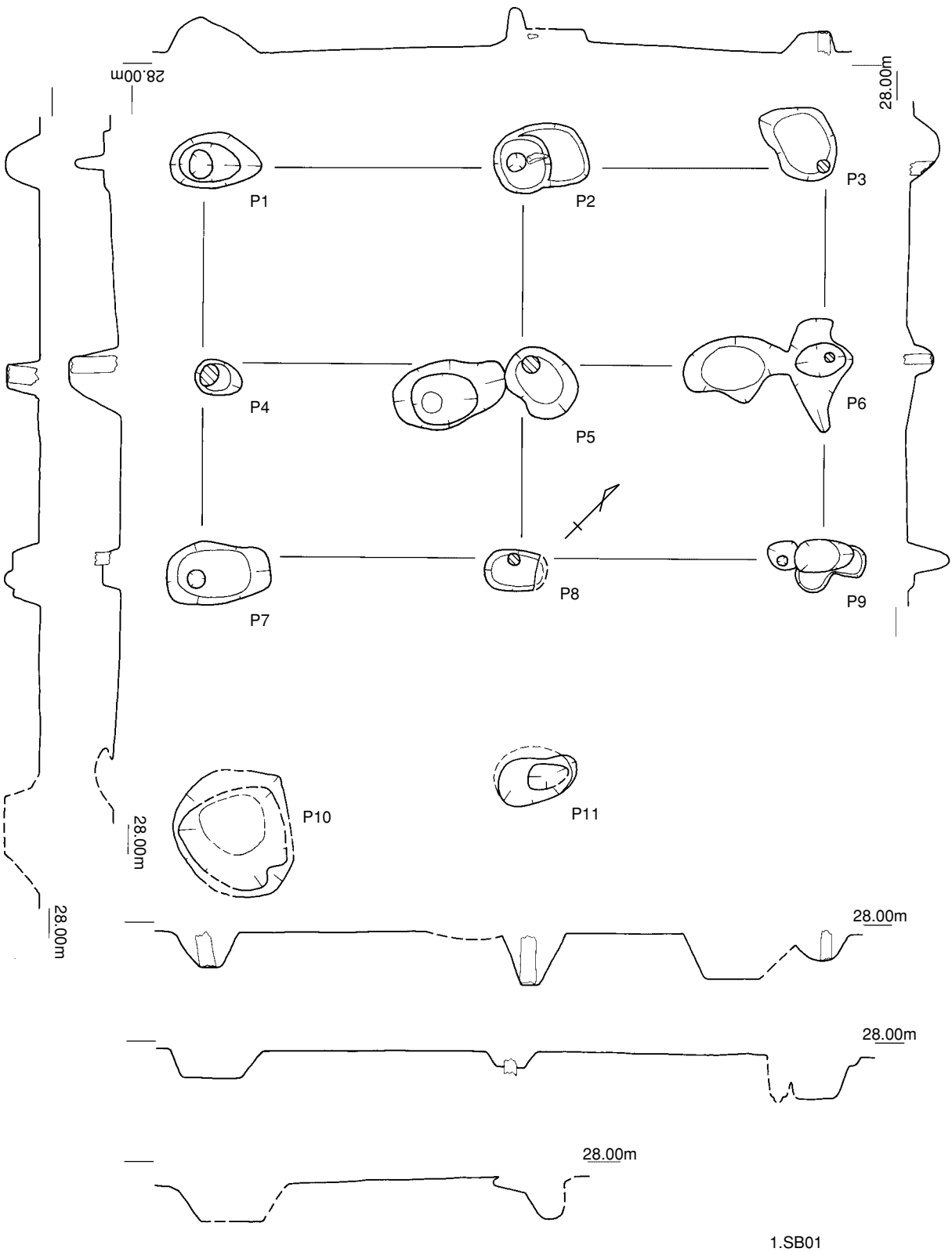

第42図　1985年度調査区遺構図(15) 柵



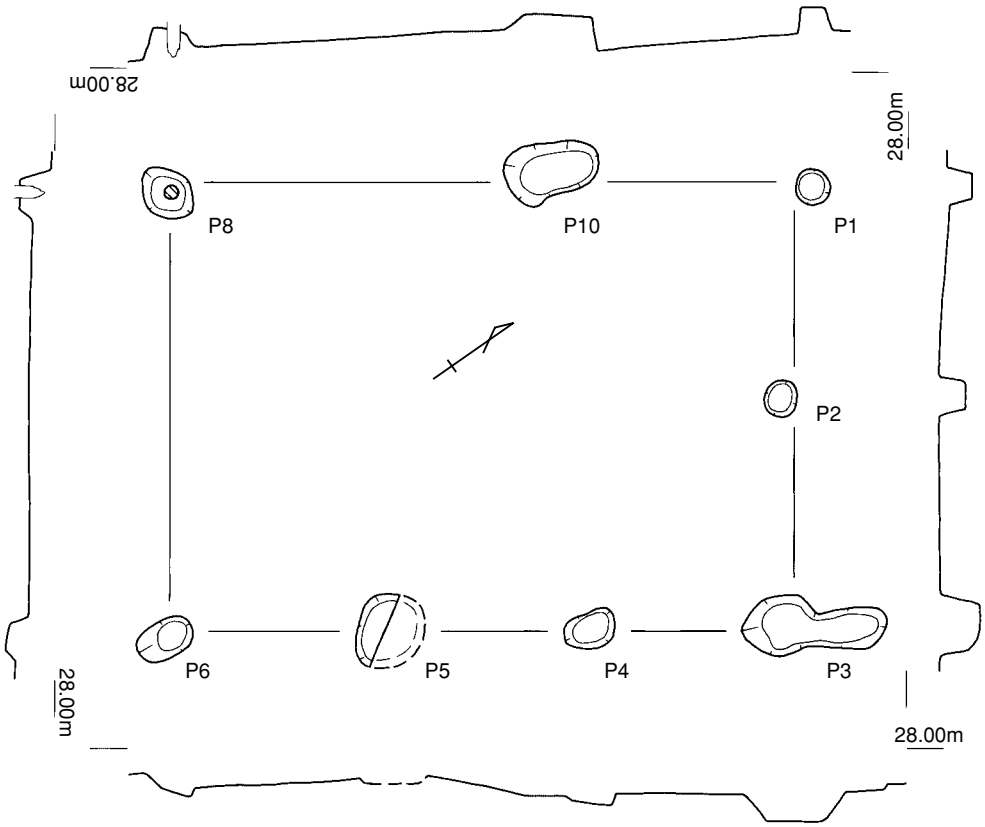

第43図　1985年度調査区遺構図(16) 土坑



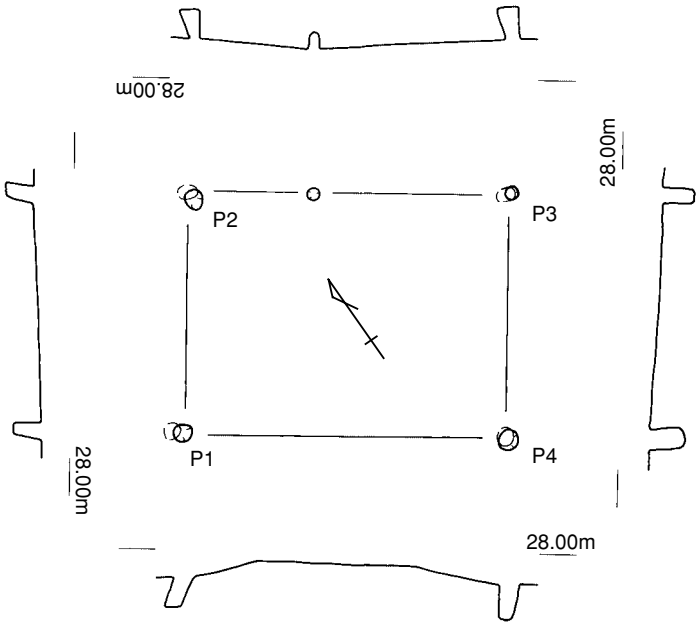

第44図　1985年度調査区遺構図(17) 土坑・井戸




第45図　1986年度調査区遺構図⑴ 掘立柱建物



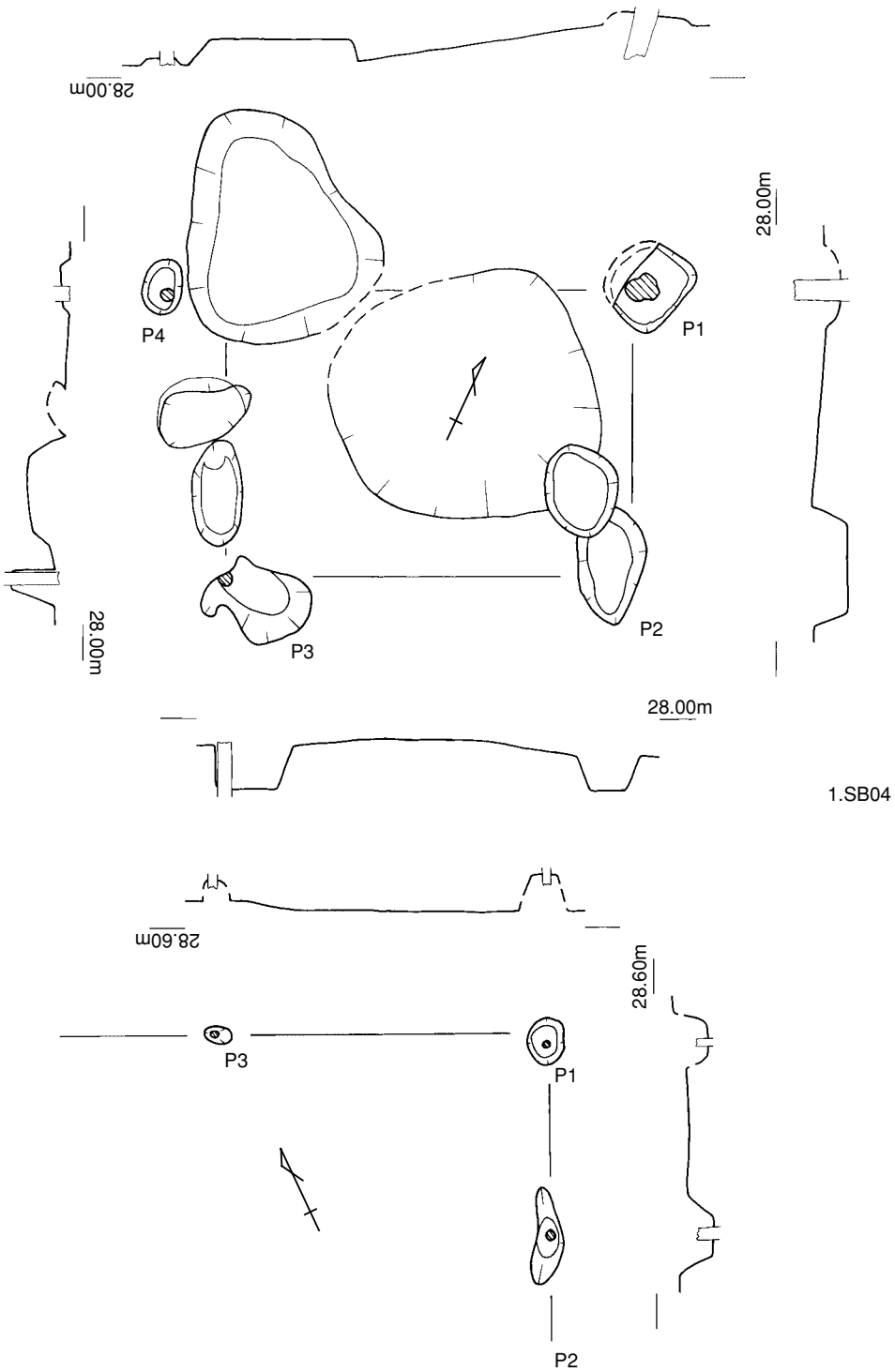

1.SB02



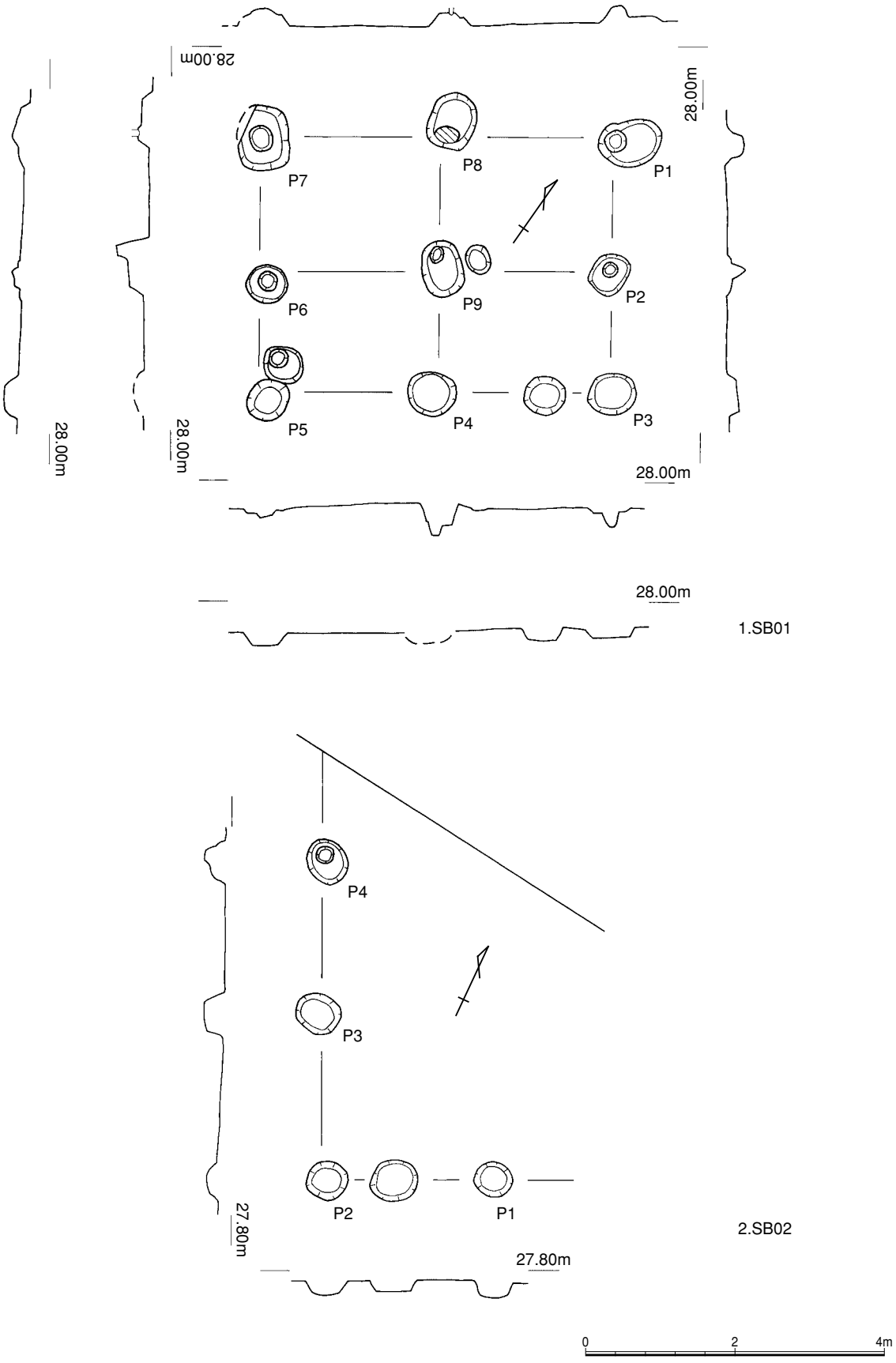

2.SB03

0 2 4m

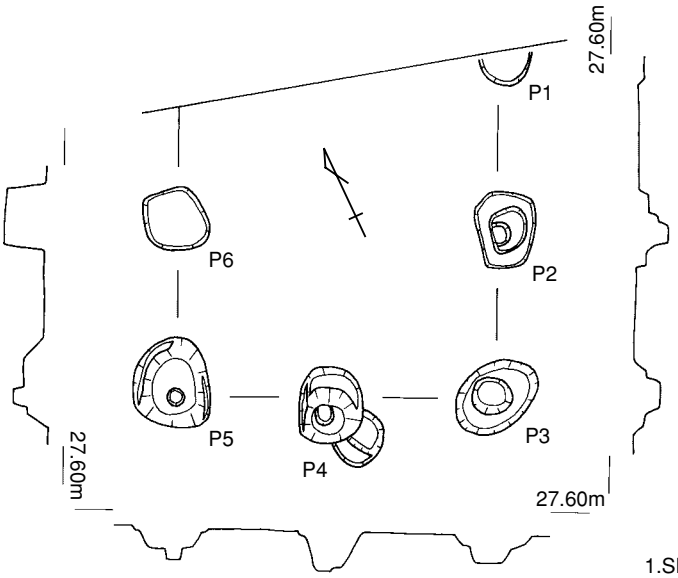
第46図　1986年度調査区遺構図⑵ 掘立柱建物



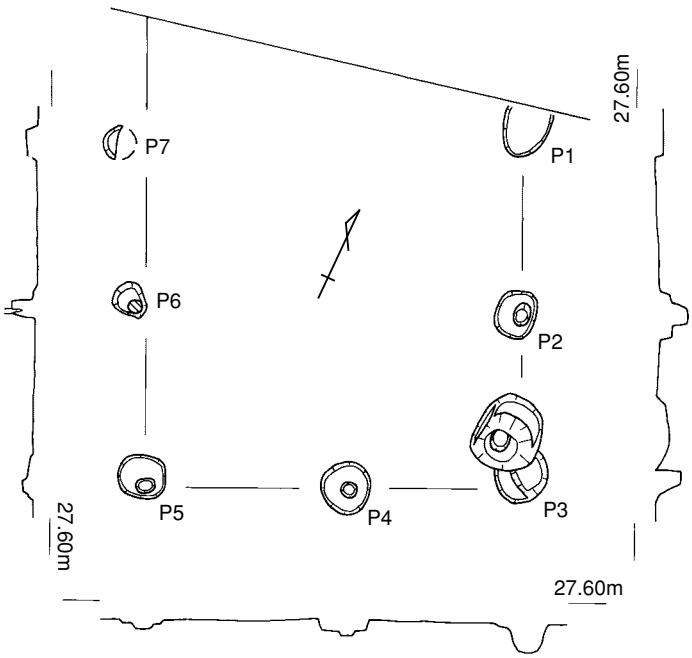

第47図　1986年度調査区遺構図⑶ 掘立柱建物




第48図　1987年度調査区遺構図⑴ 掘立柱建物



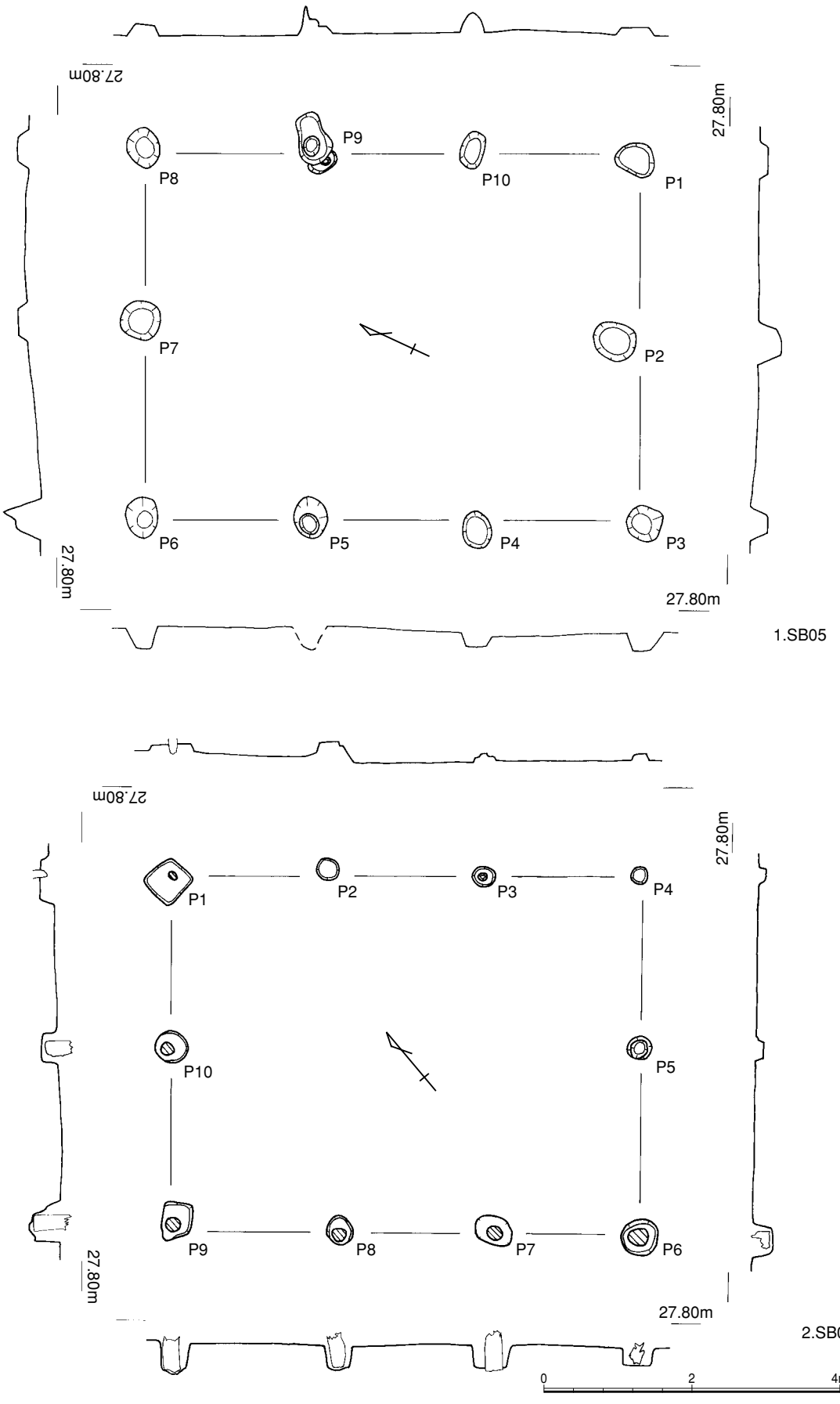

1.SB03



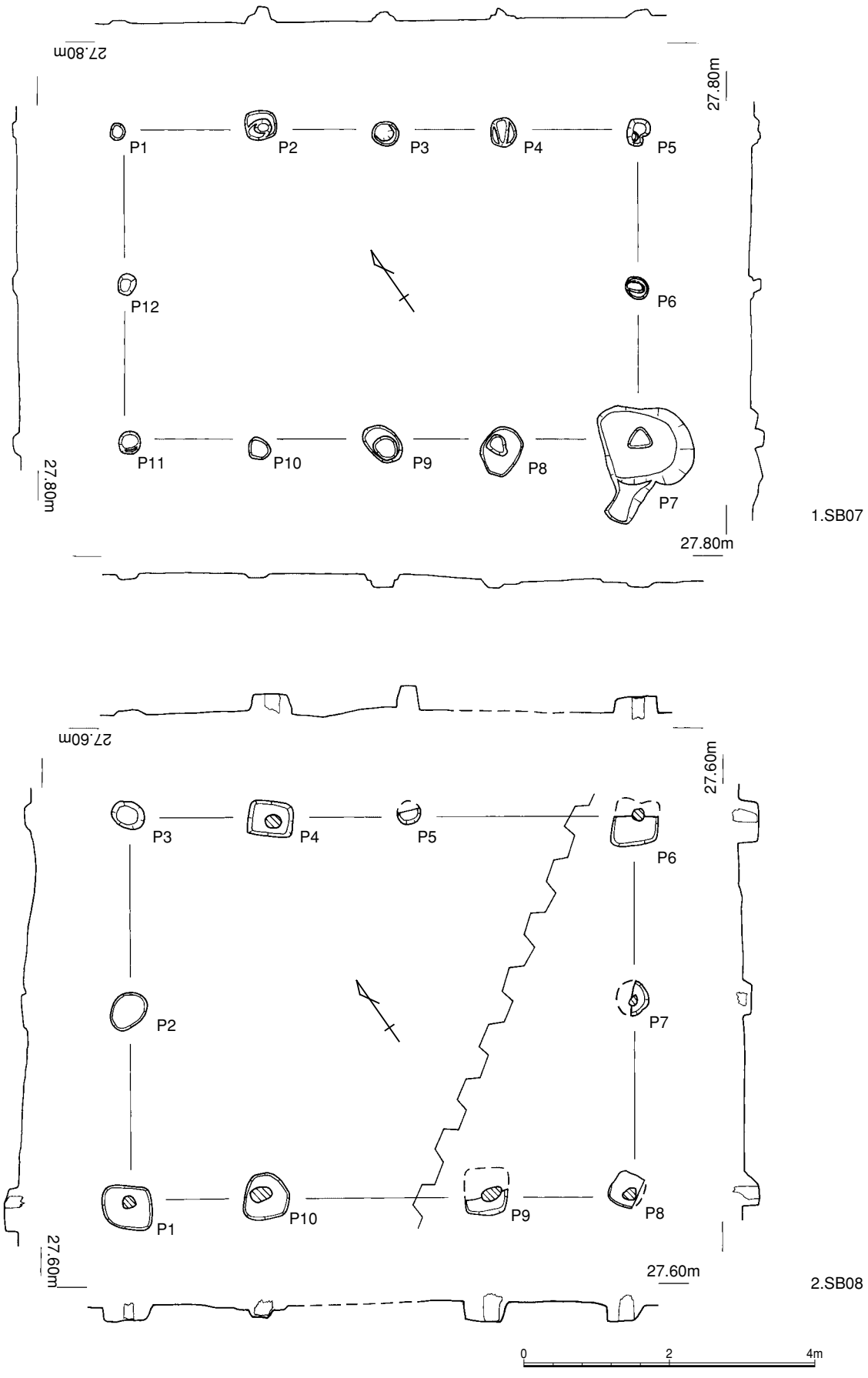

2.SB04

0 2 4m

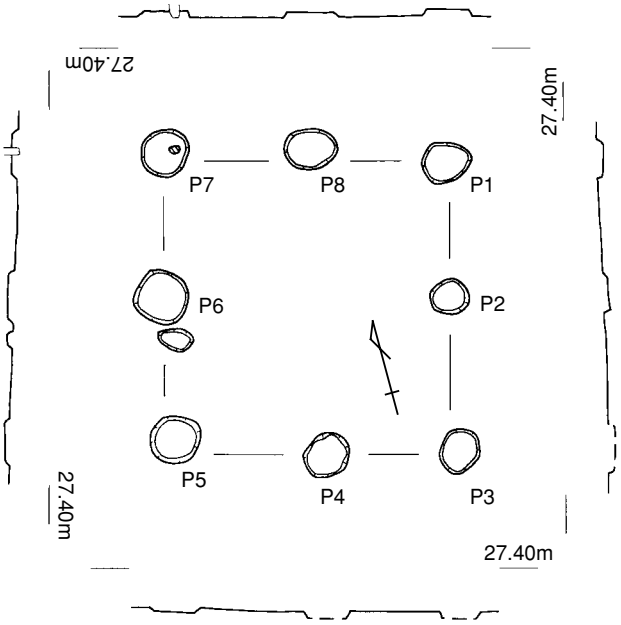
第49図　1987年度調査区遺構図⑵ 掘立柱建物



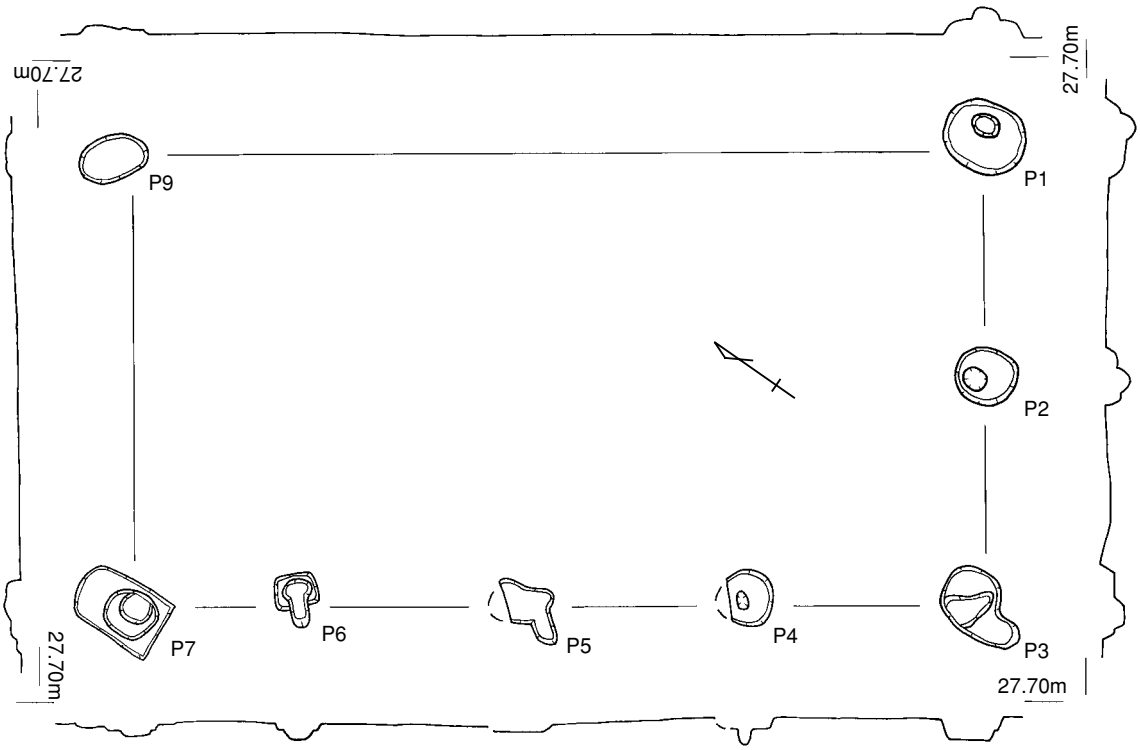

第50図　1987年度調査区遺構図⑶ 掘立柱建物




第51図　1987年度調査区遺構図⑷ 掘立柱建物



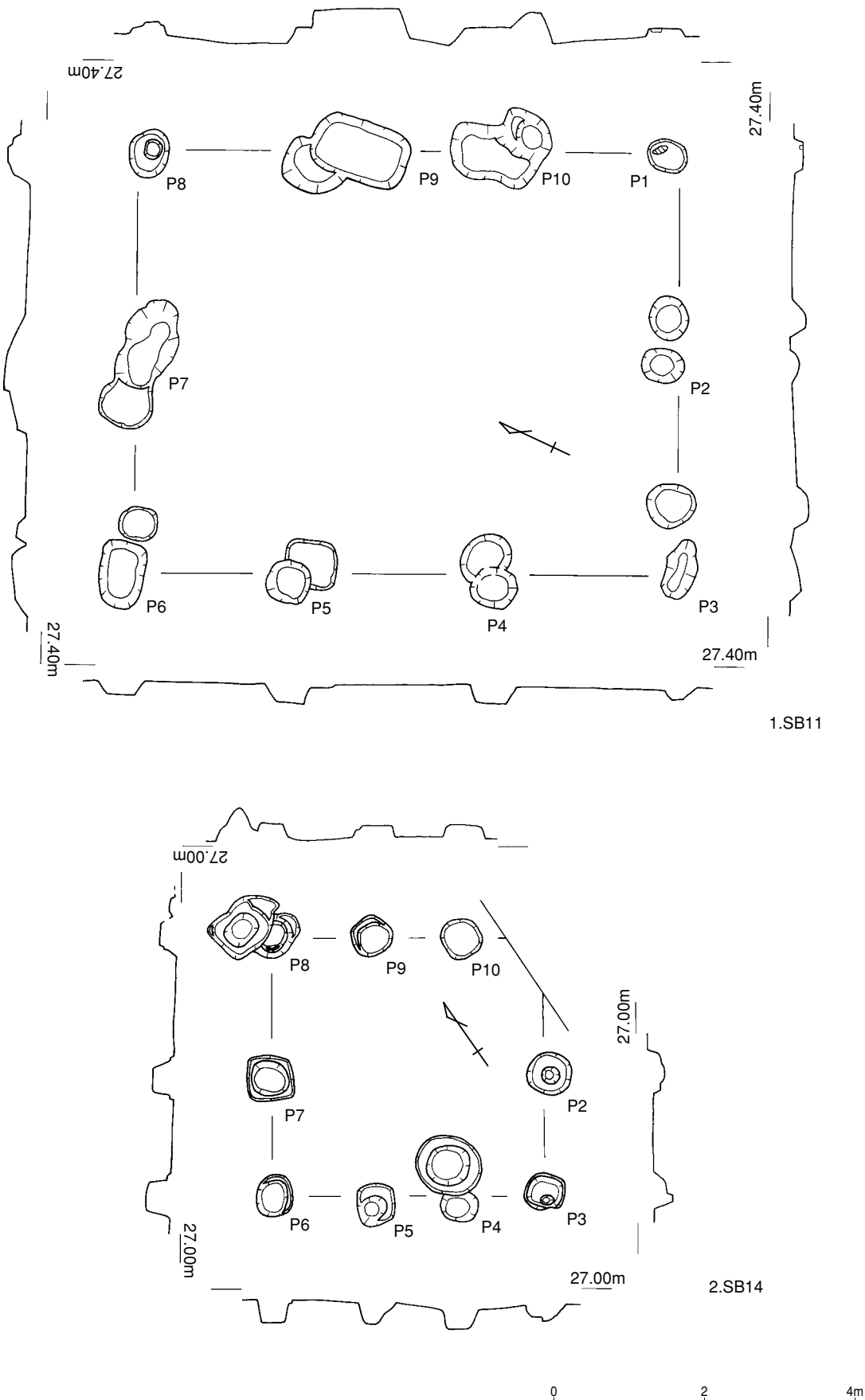

1.SB09



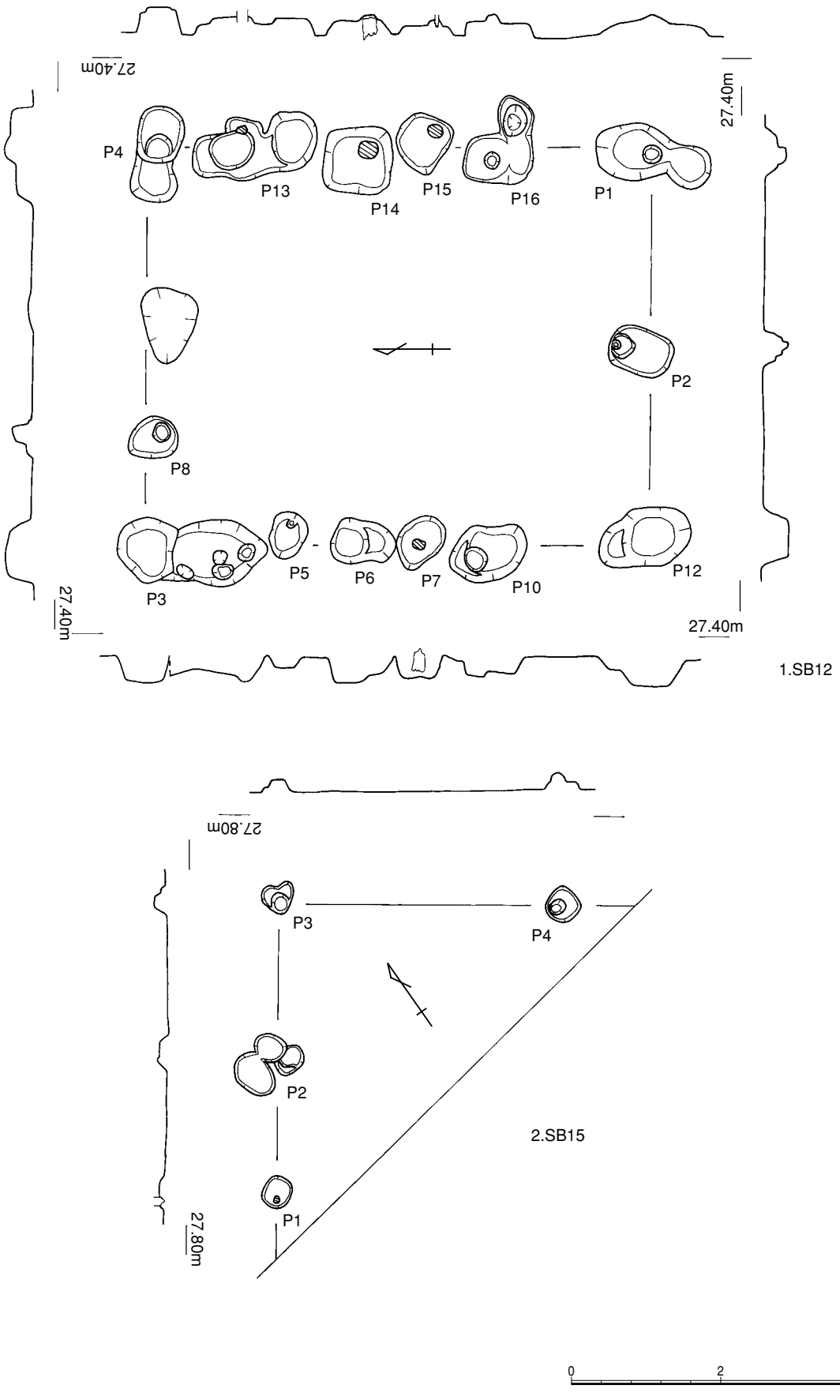

2.SB10

0 2 4m

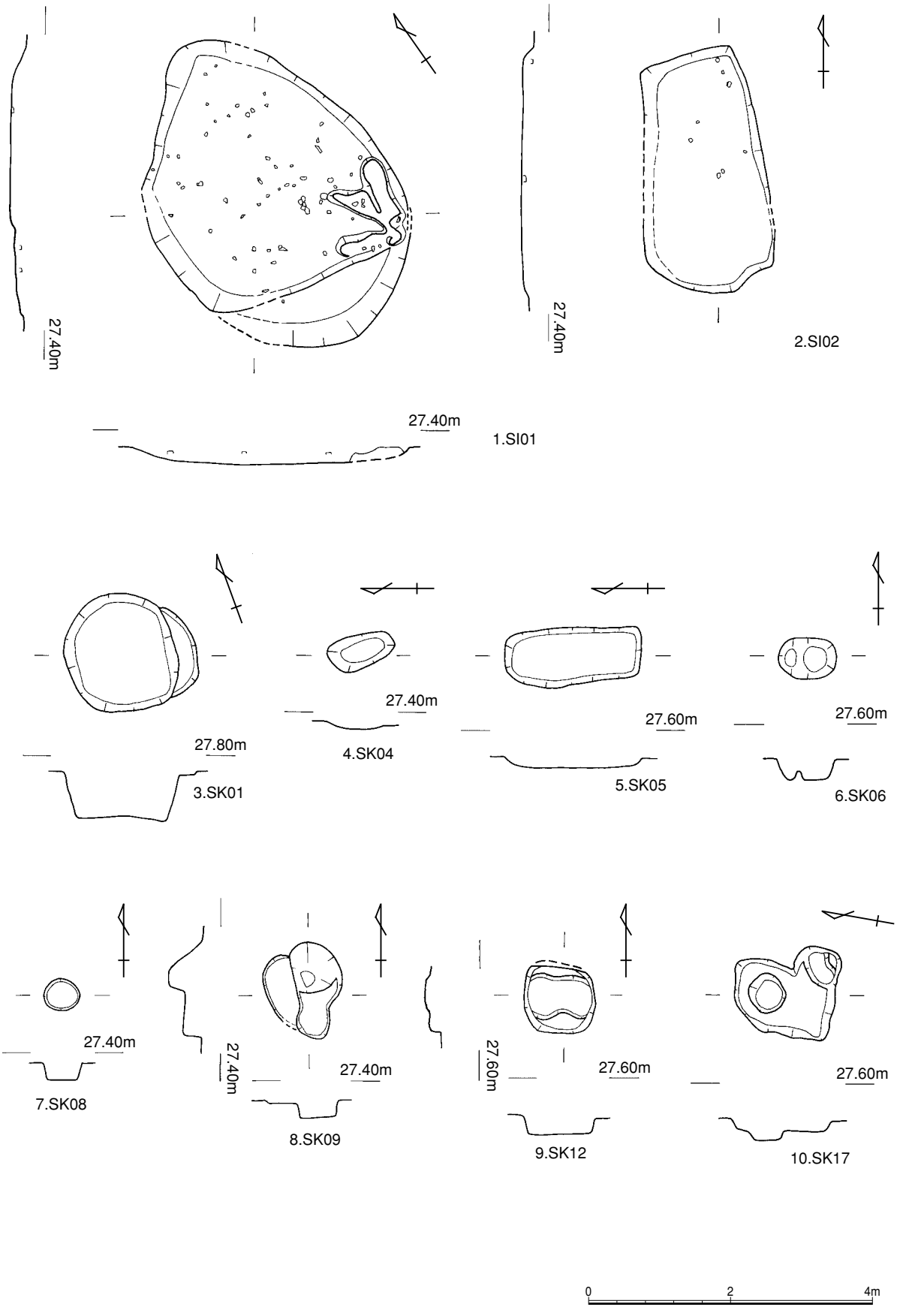
第52図　1987年度調査区遺構図⑸ 掘立柱建物



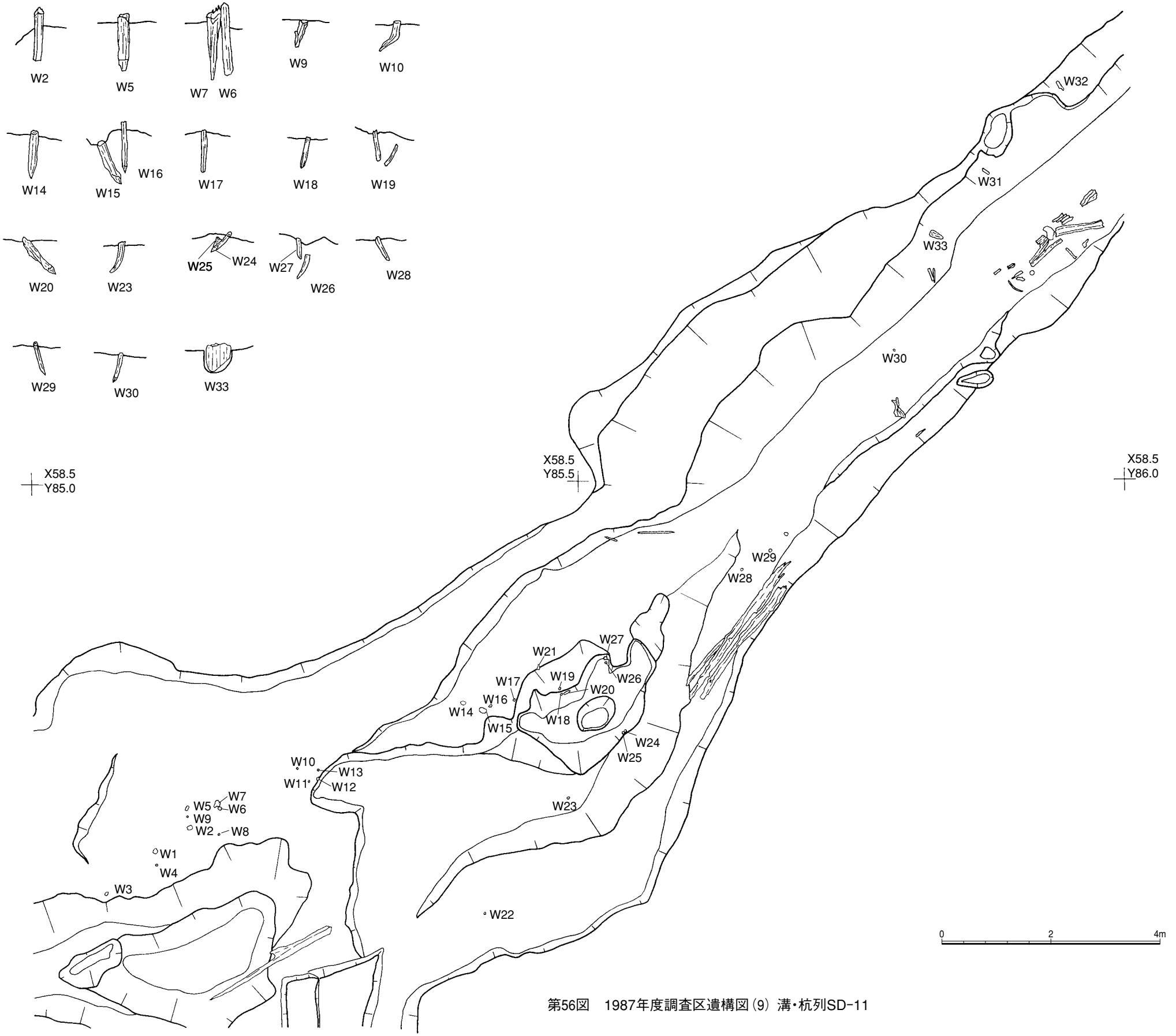

第53図　1987年度調査区遺構図⑹ 掘立柱建物



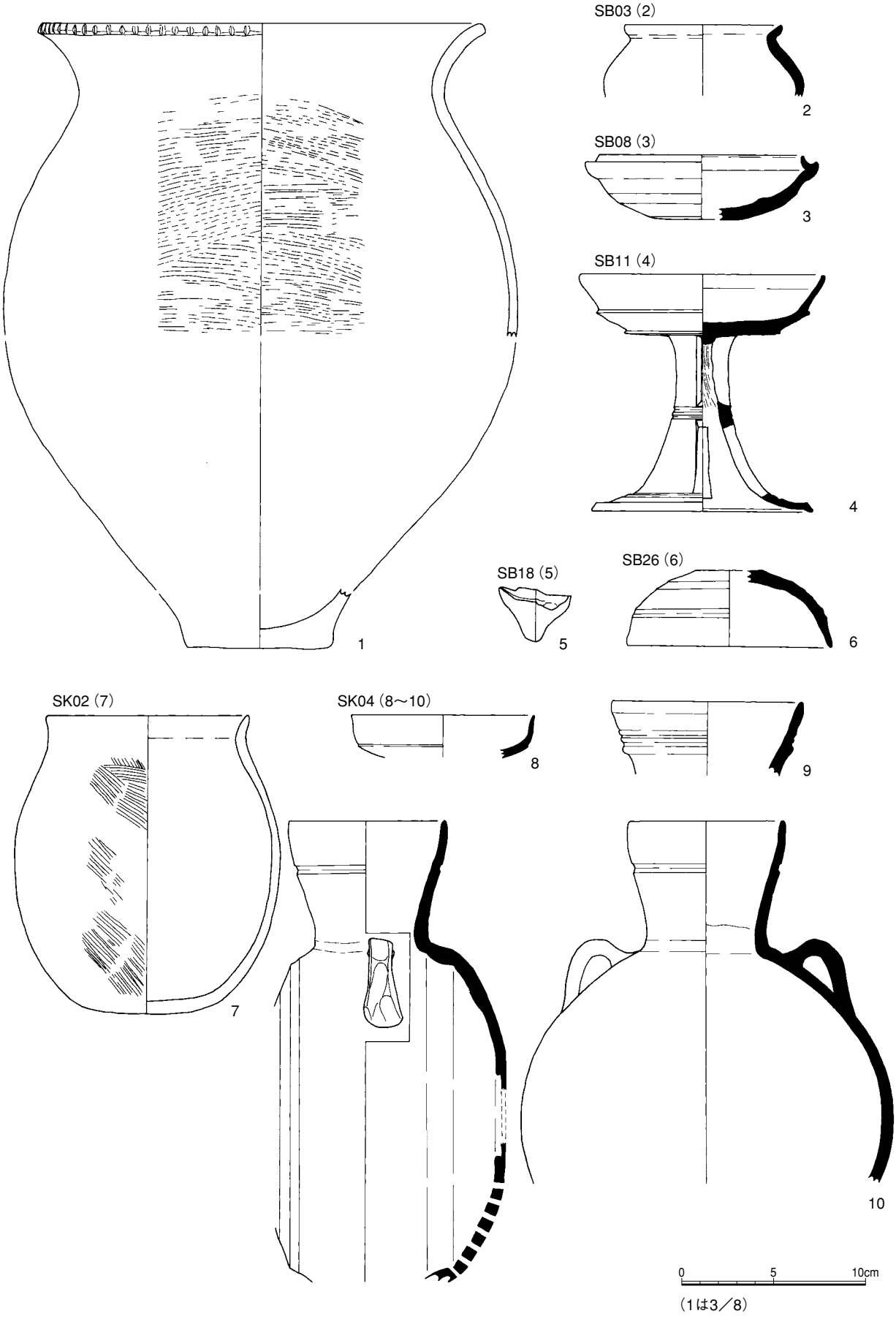

第54図　1987年度調査区遺構図(7) 掘立柱建物



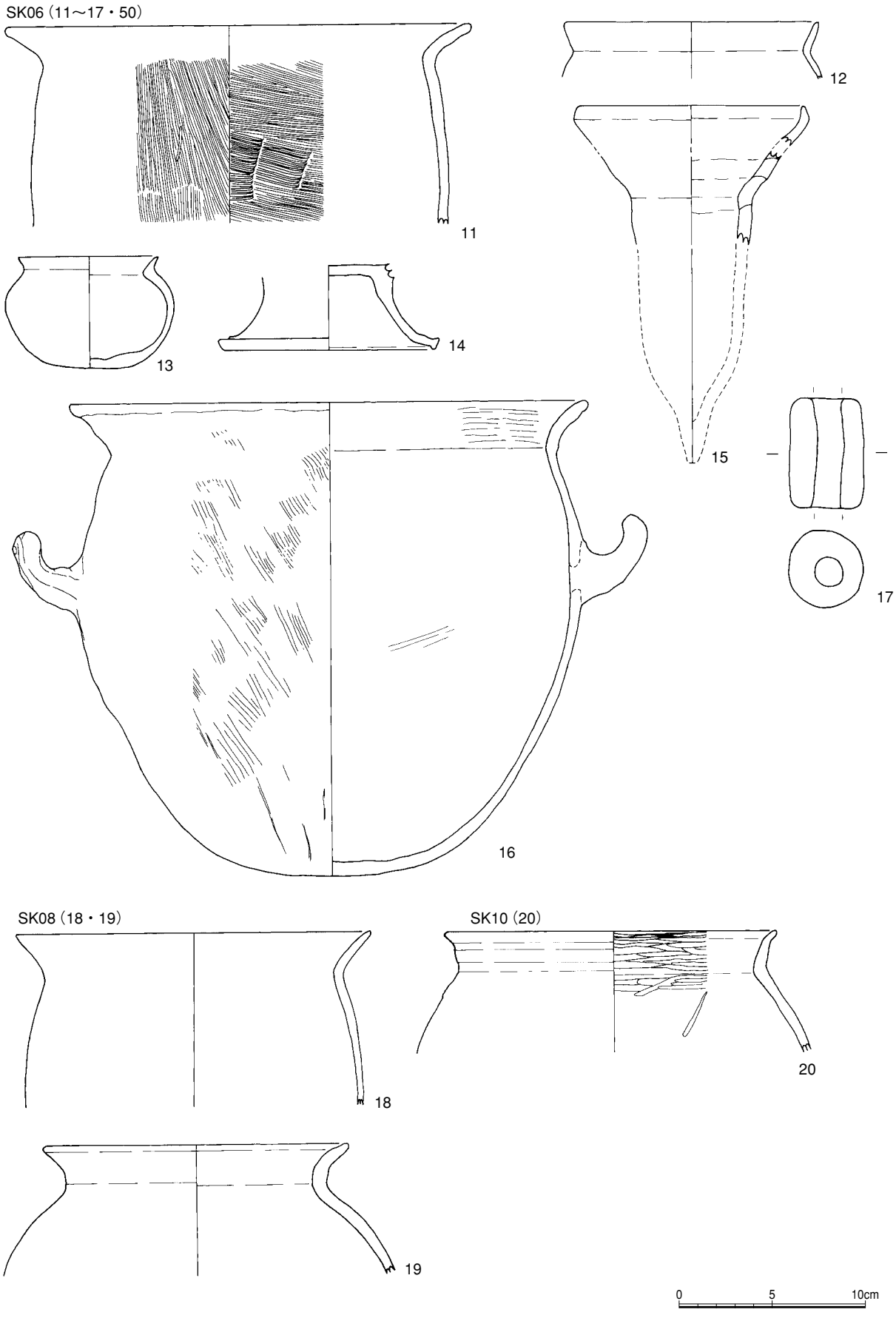

第55図　1987年度調査区遺構図⑻ 土抗



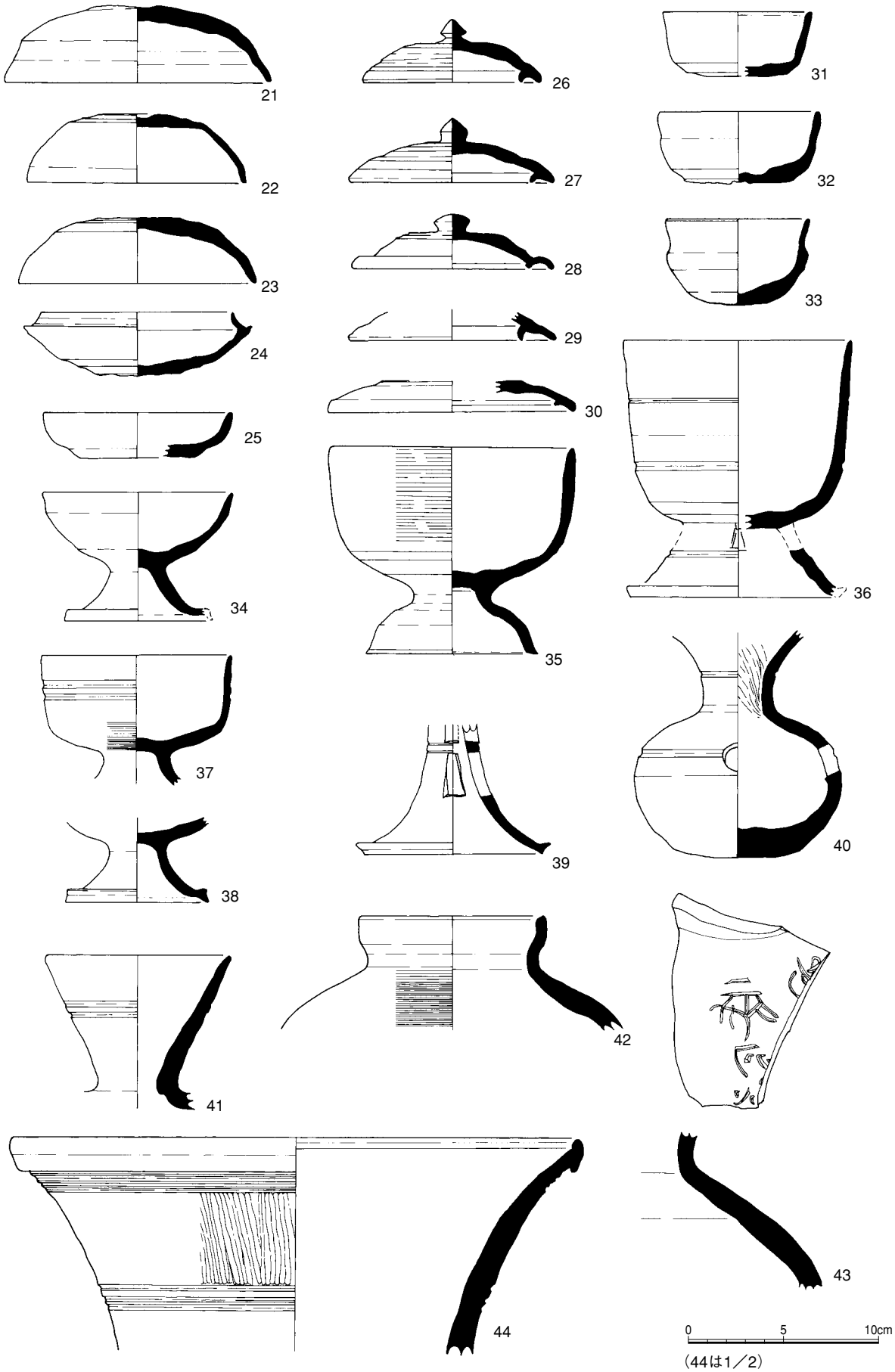

第56図　1987年度調査区遺構図（9）溝・杭列SD-11



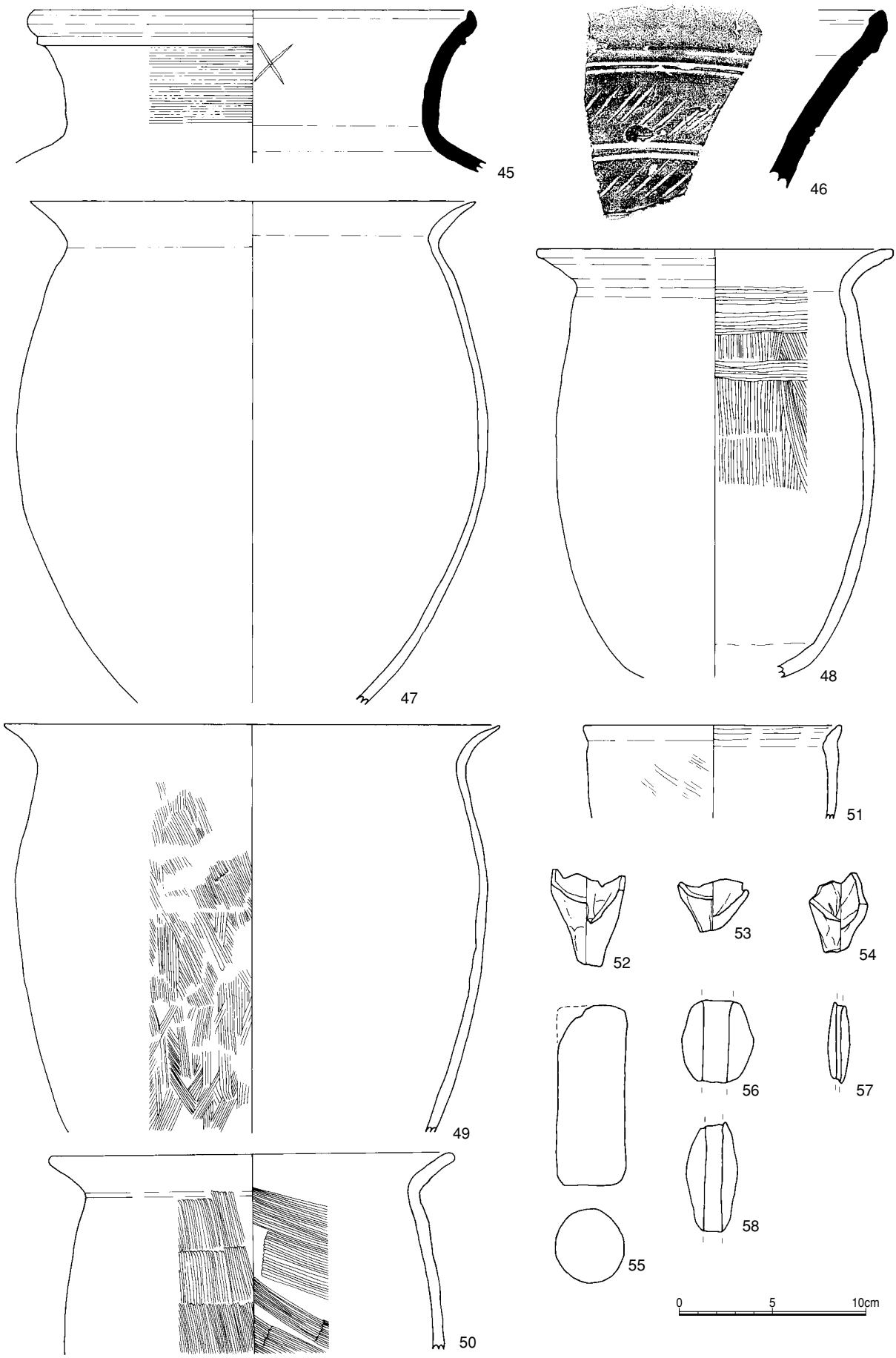

第57図　1984年度調査区遺物図⑴ 弥生土器・須恵器・土師器・製塩土器



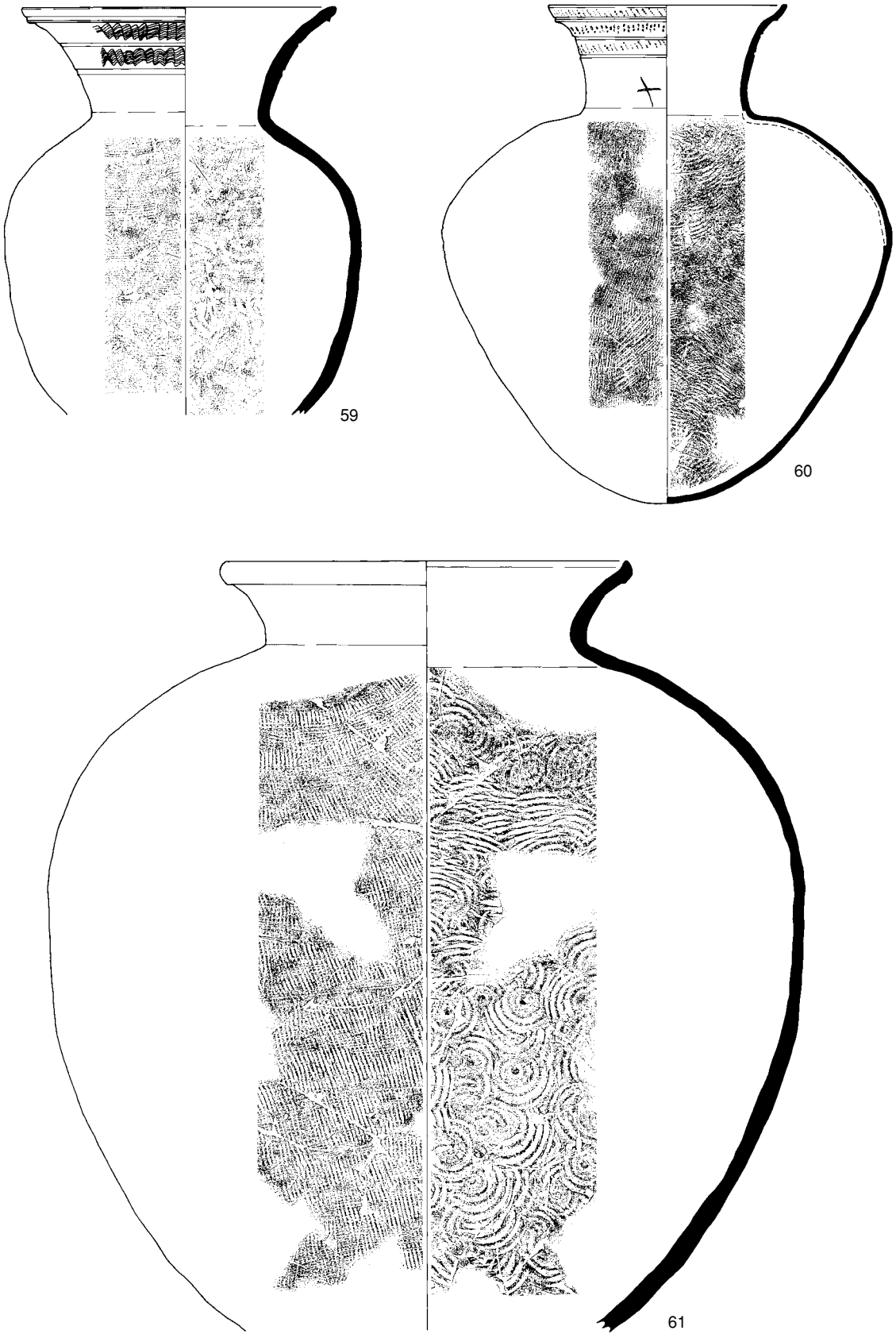

第58図　1984年度調査区遺物図⑵ 土師器・土錘



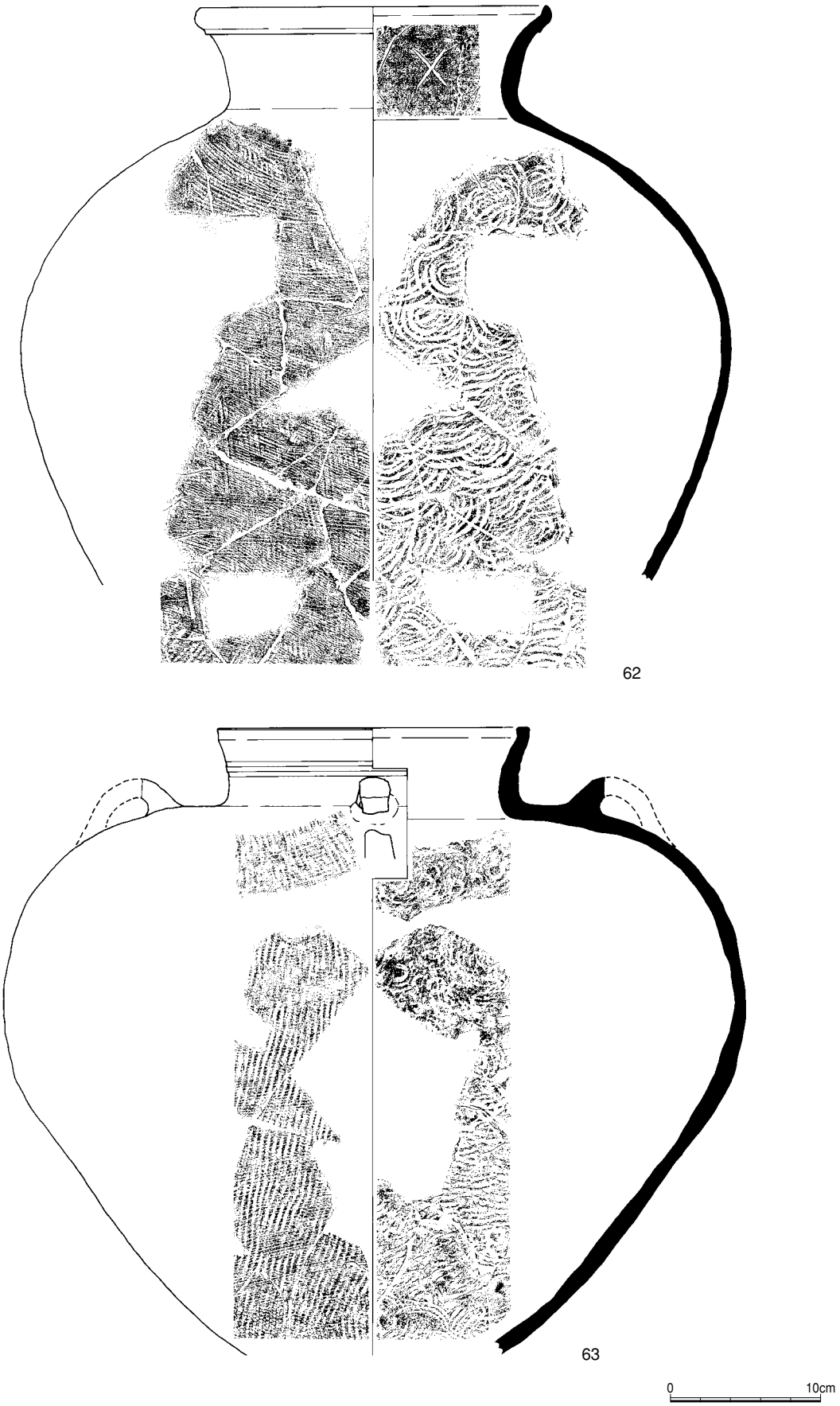

第59図　1984年度調査区遺物図⑶ 須恵器・ヘラ書き土器



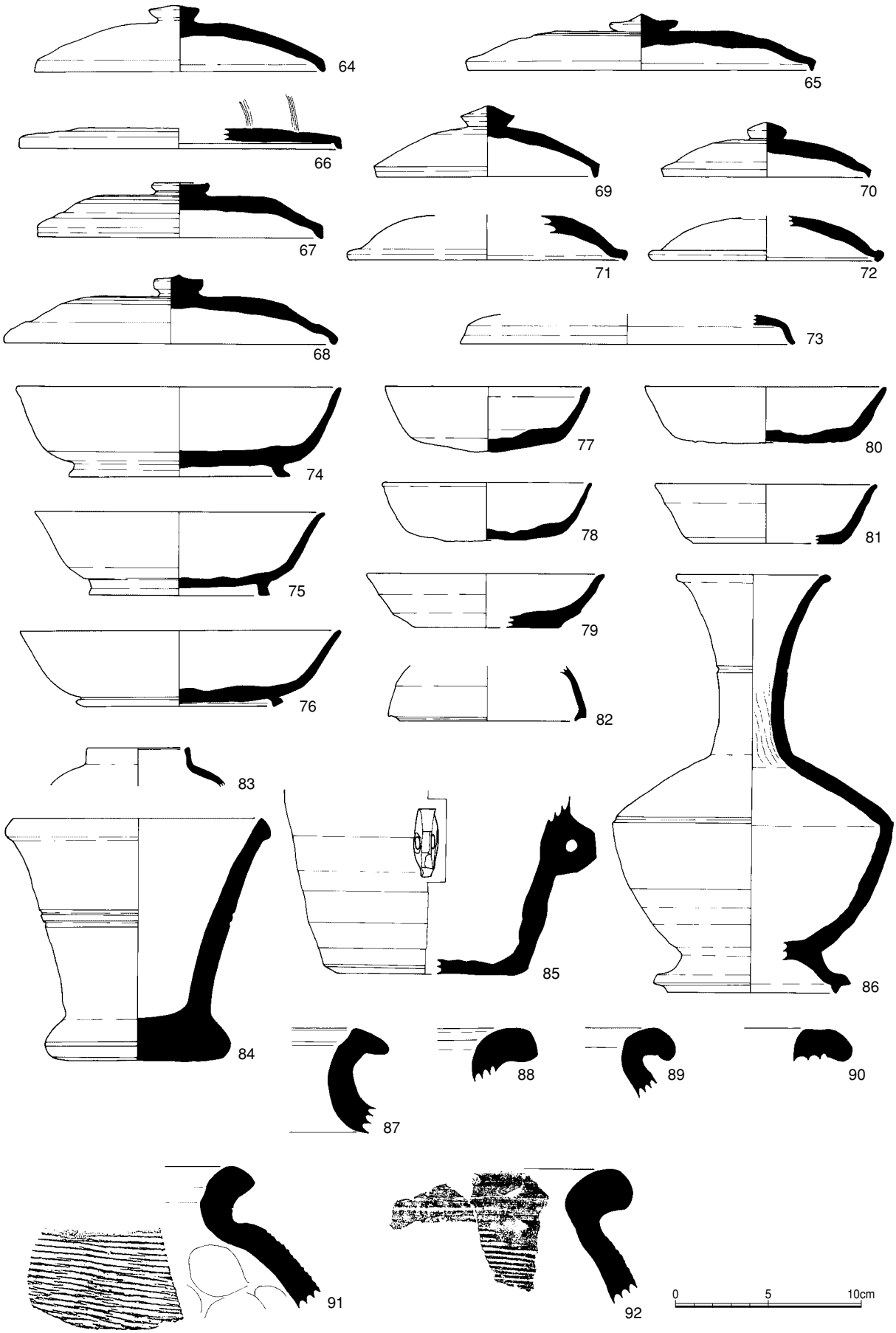

第60図　1984年度調査区遺物図⑷ 須恵器・土師器・製塩土器・支脚・土錘



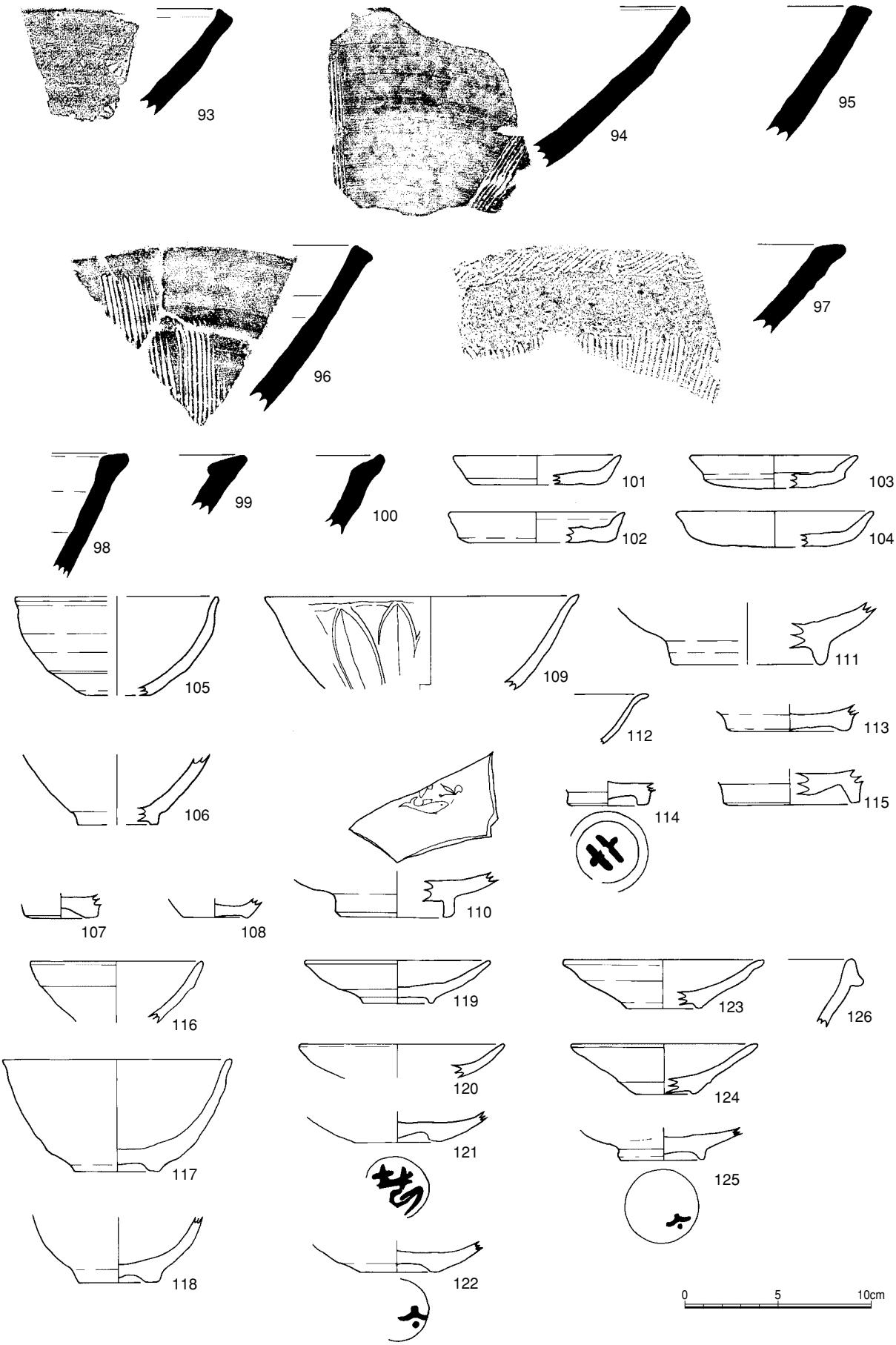

第61図　1984年度調査区遺物図⑸ 須恵器



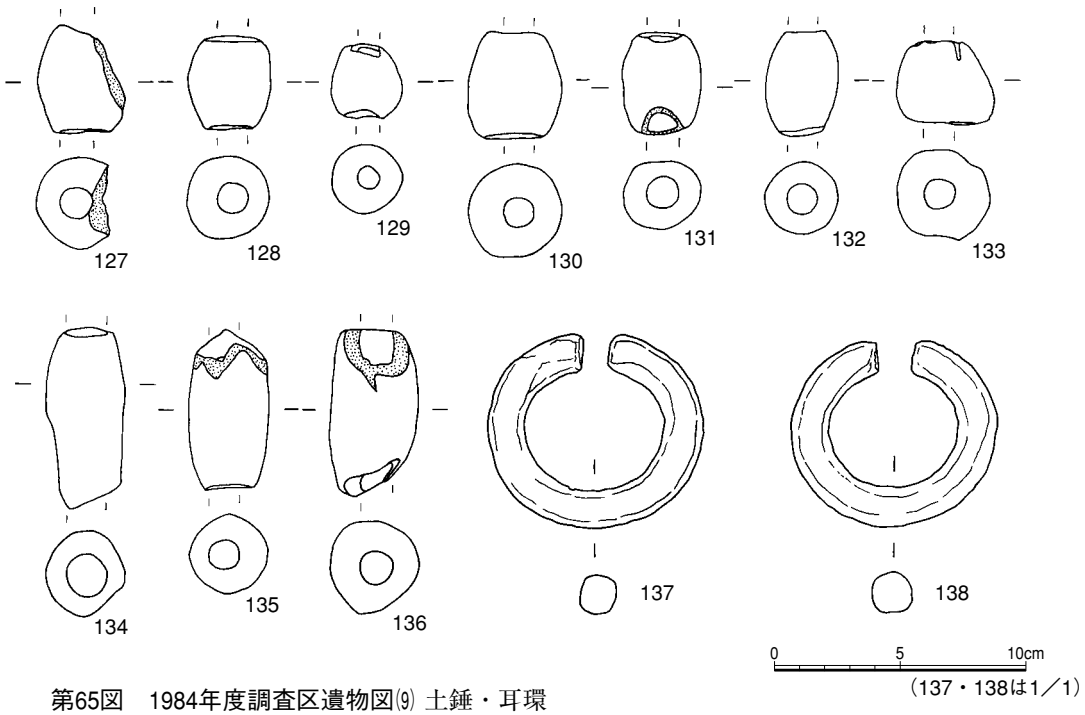

第62図　1984年度調査区遺物図⑹ 須恵器




第63図　1984年度調査区遺物図(7) 須恵器・珠洲

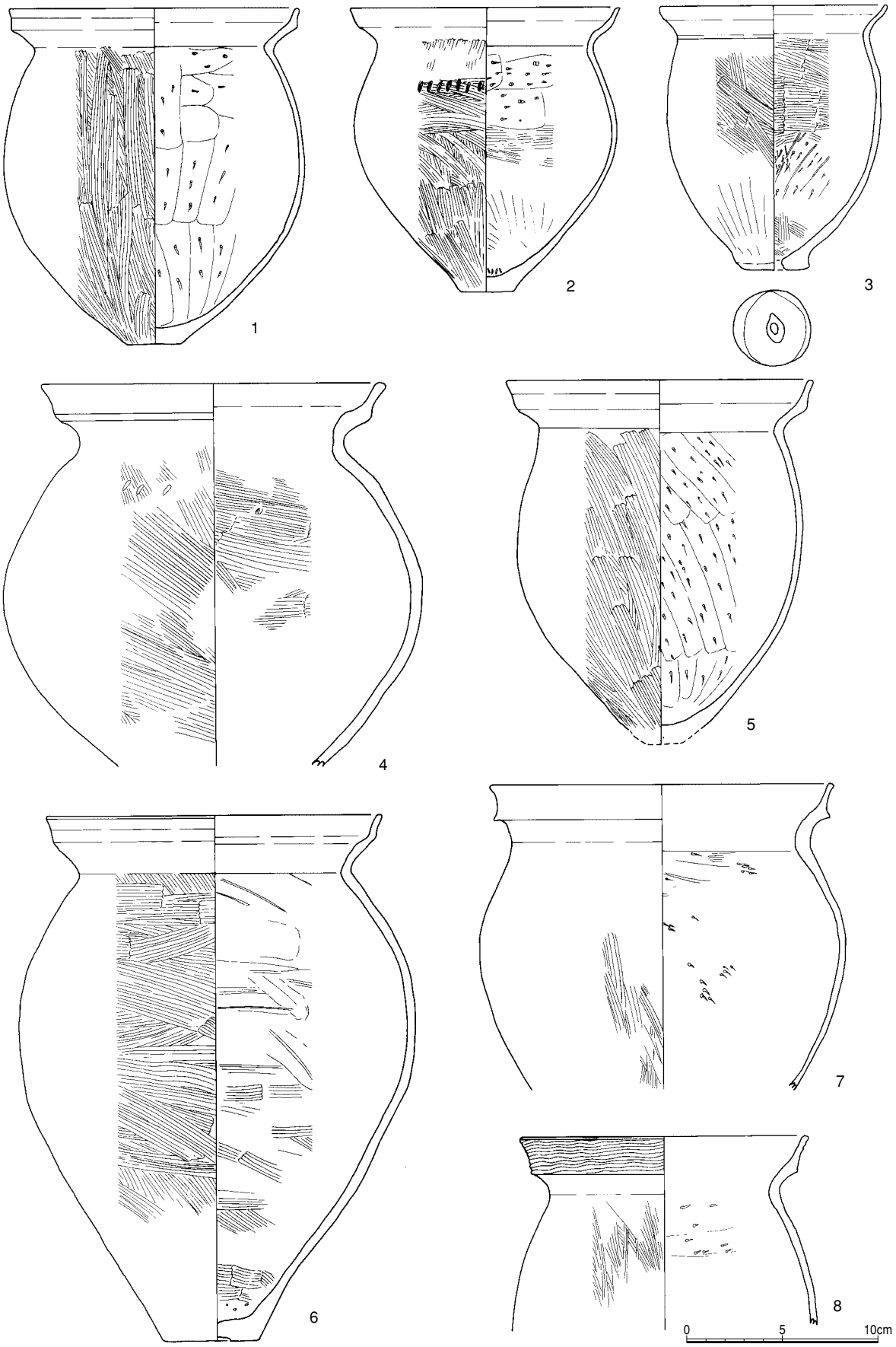



第64図　1984年度調査区遺物図(8) 珠洲・土師皿・瀬戸美濃・青磁・唐津・越中瀬戸

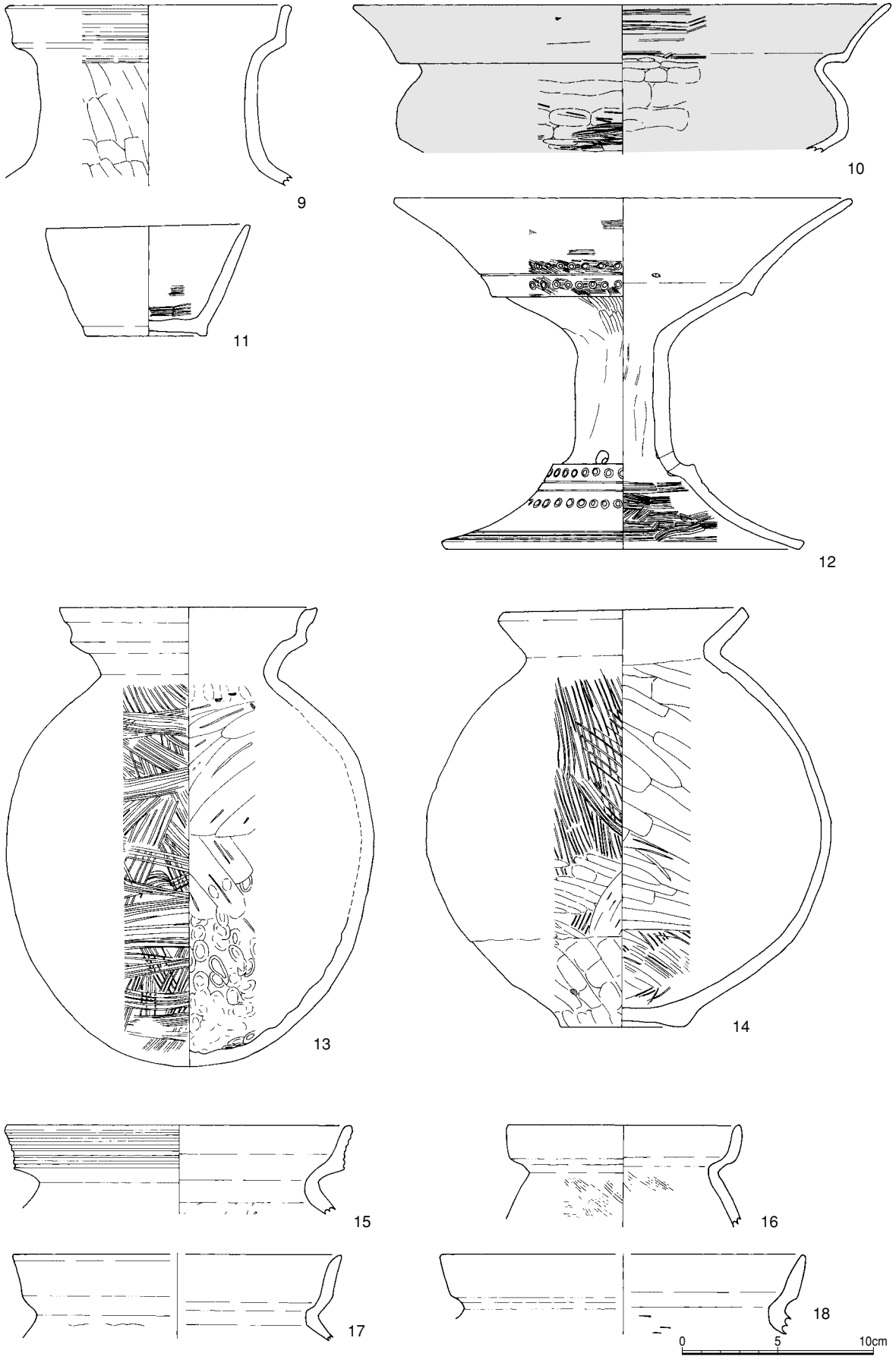



第65図　1984年度調査区遺物図⑼ 土錘・耳環

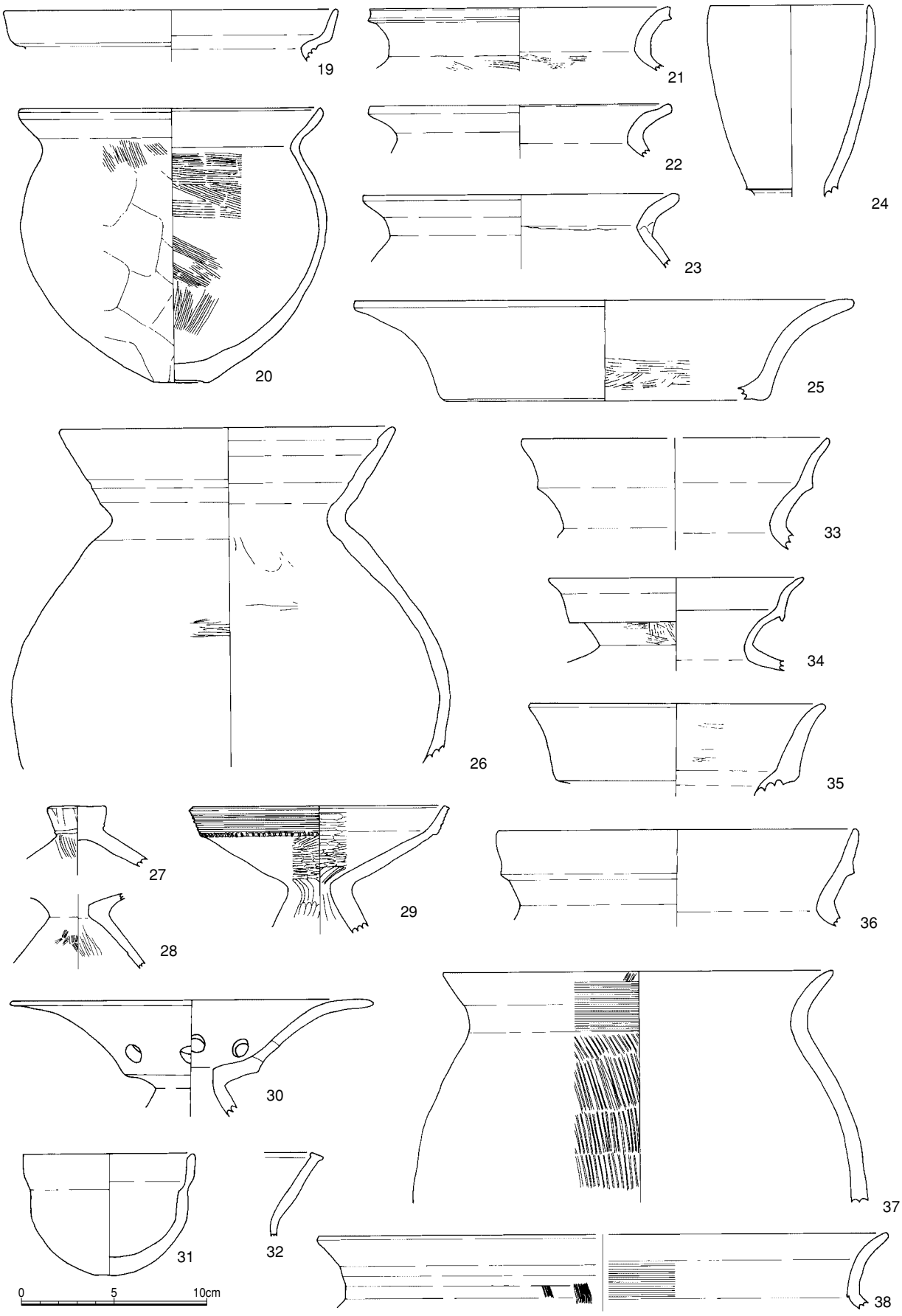
（137・138は1／1）




第66図　1985年度調査区遺物図(1)弥生土器

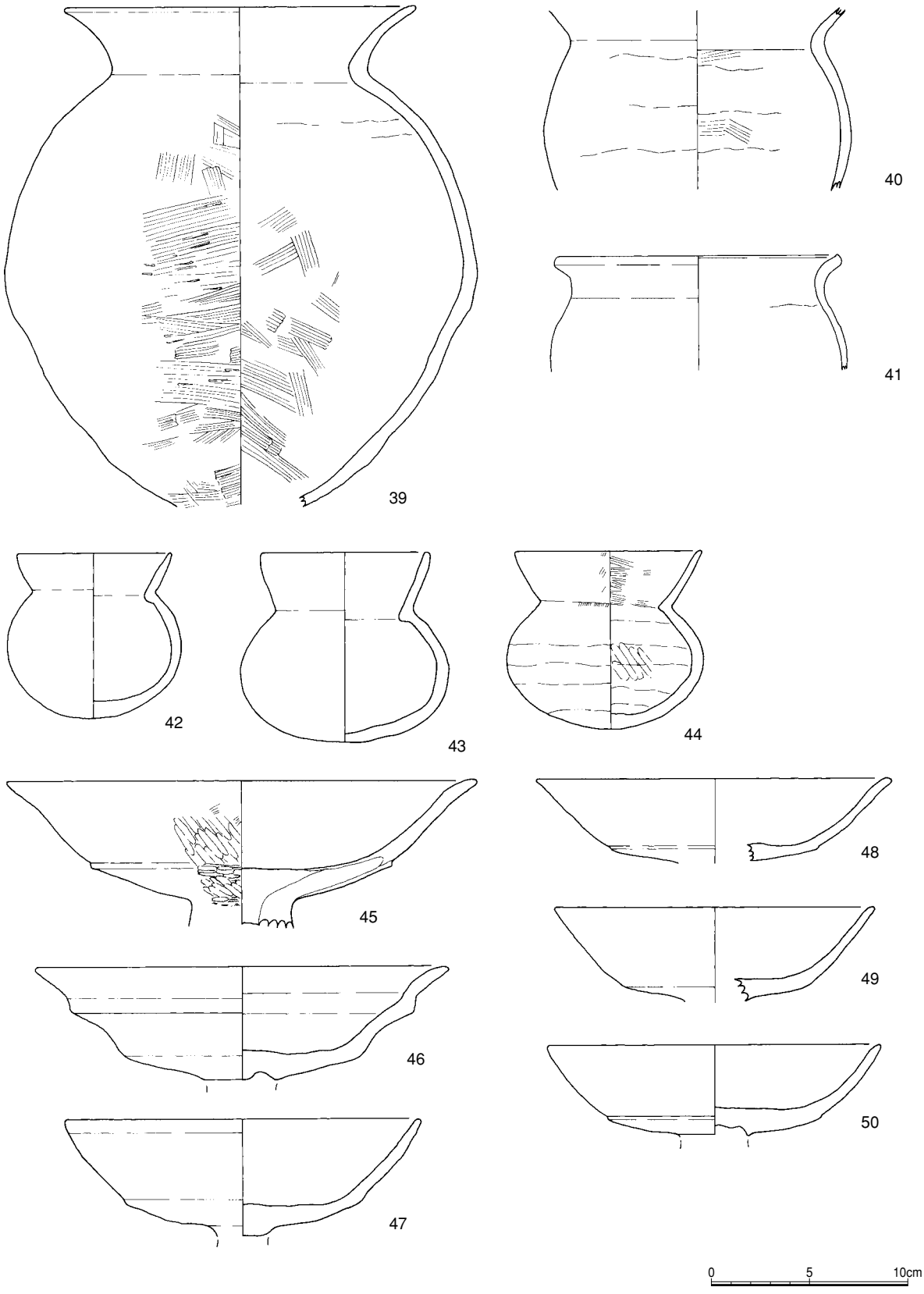



第67図　1985年度調査区遺物図(2)弥生土器・土師器

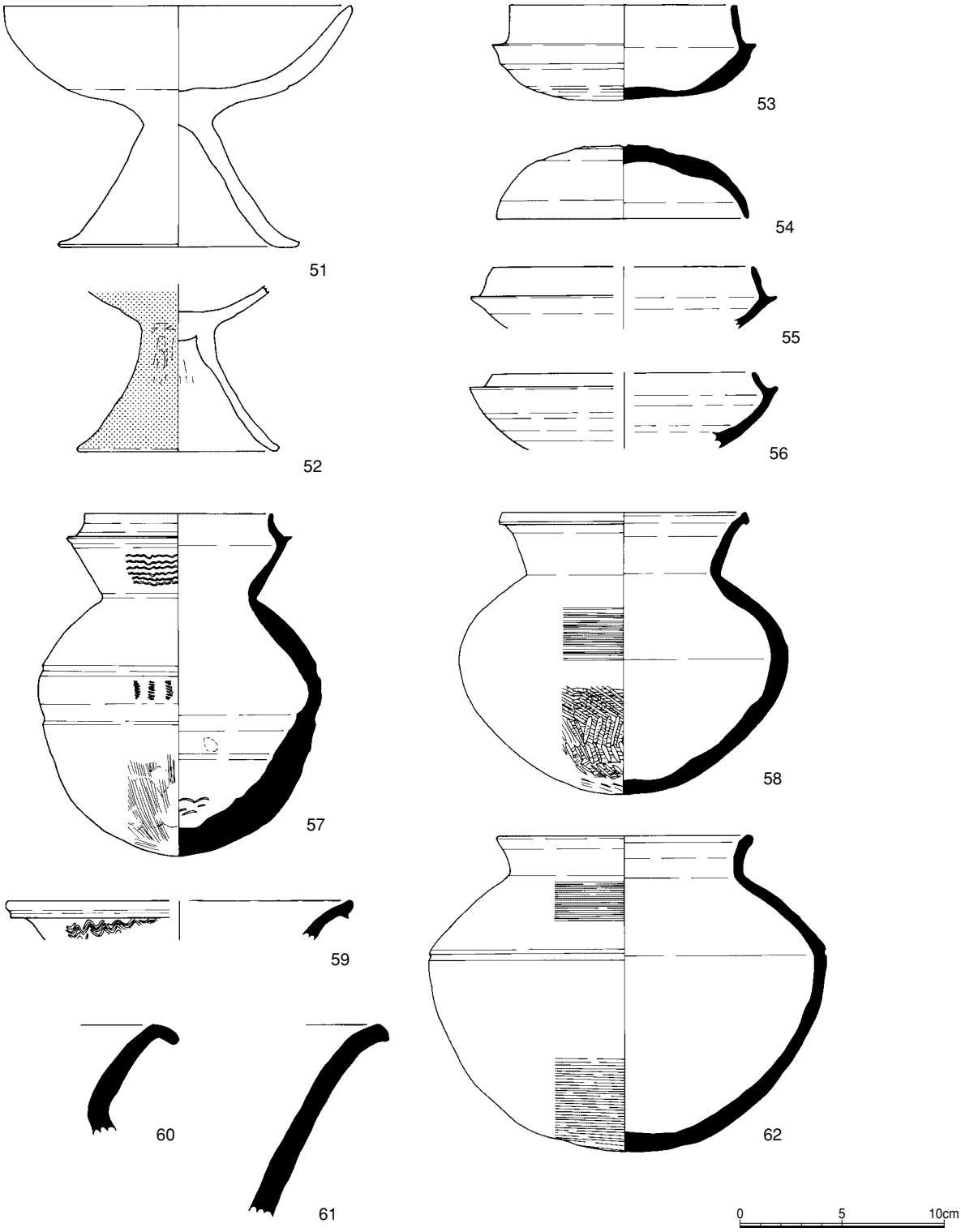



（34は1／4　32は1／2）

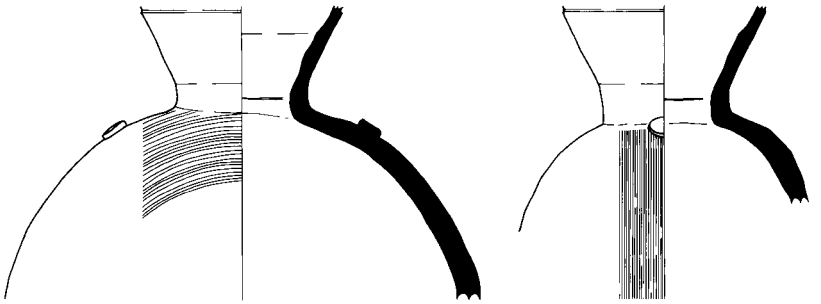
第68図　1985年度調査区遺物図(3)弥生土器・土師器

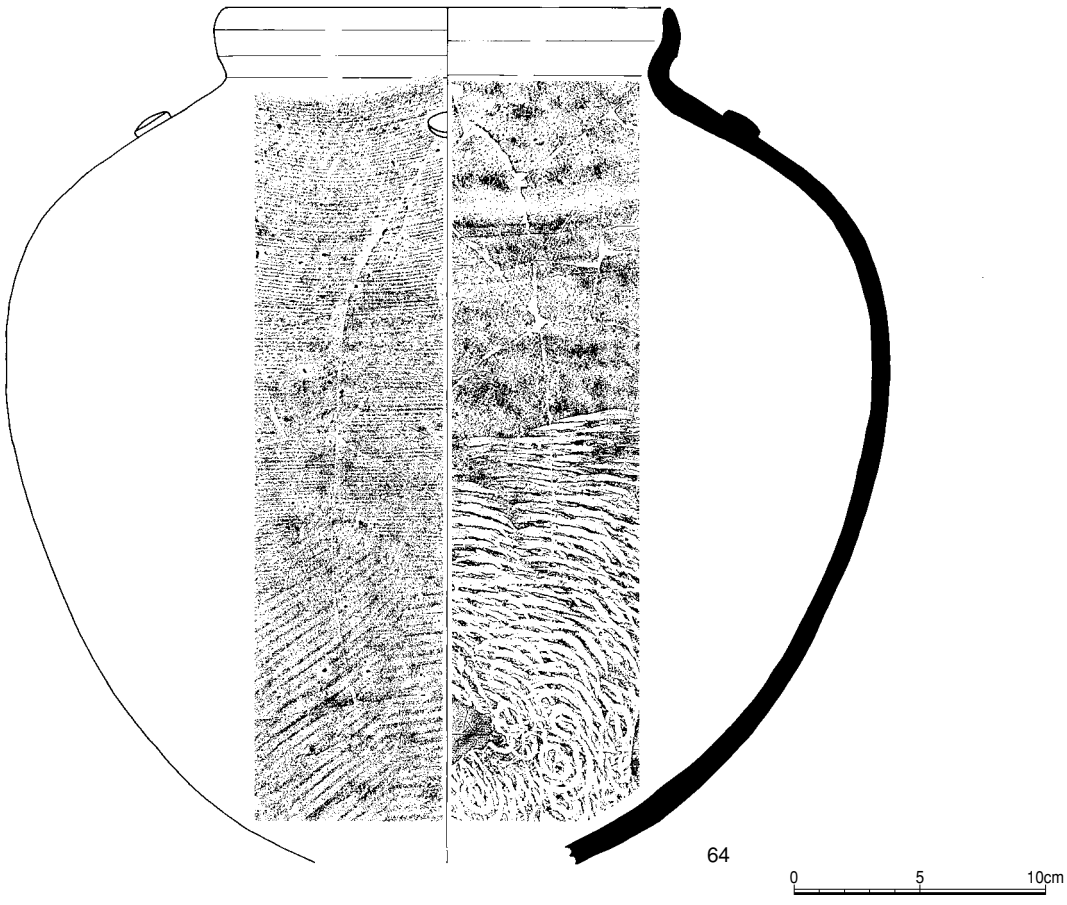



第69図　1985年度調査区遺物図(4)土師器

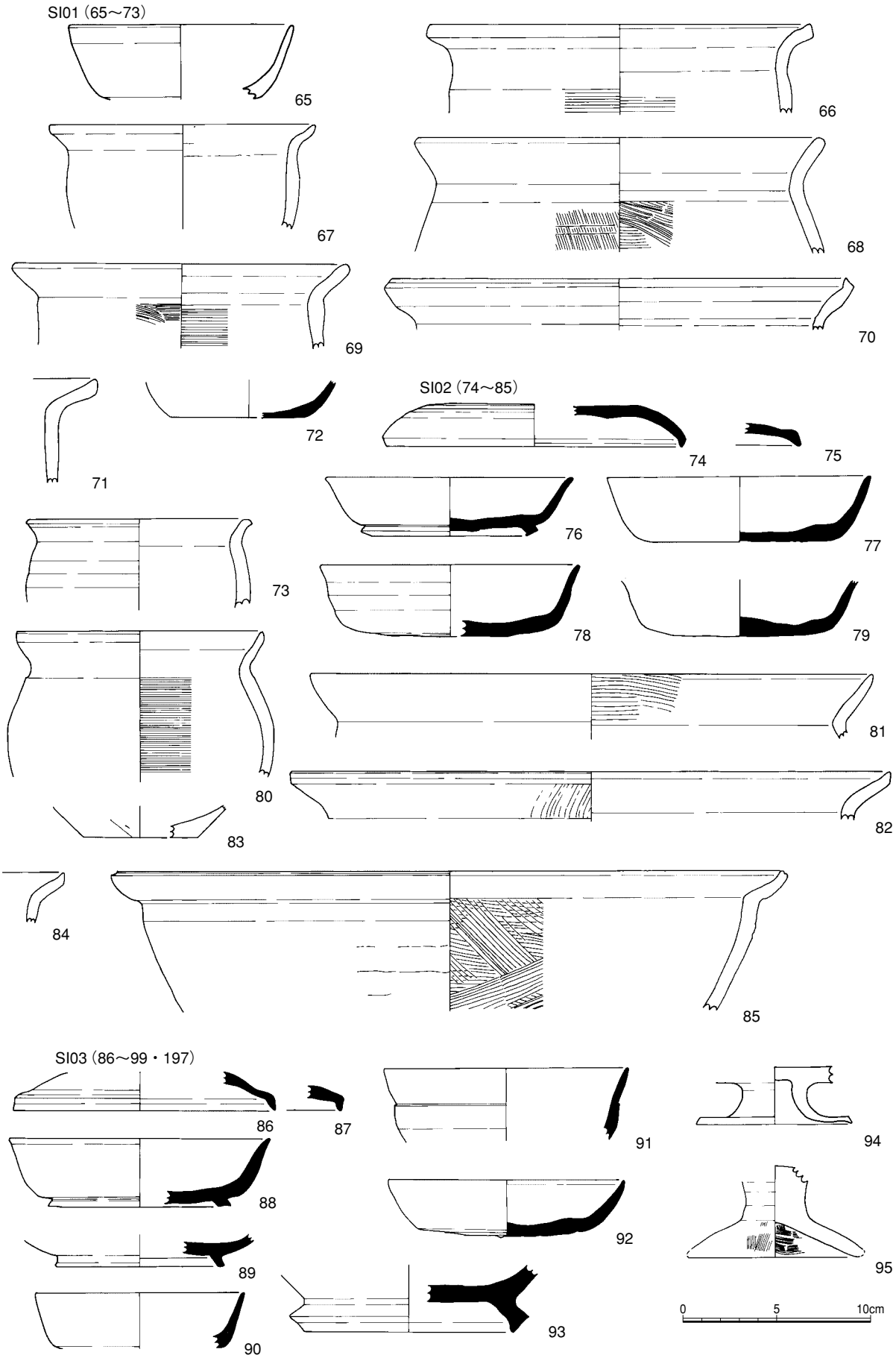



第70図　1985年度調査区遺物図(5)土師器・須恵器

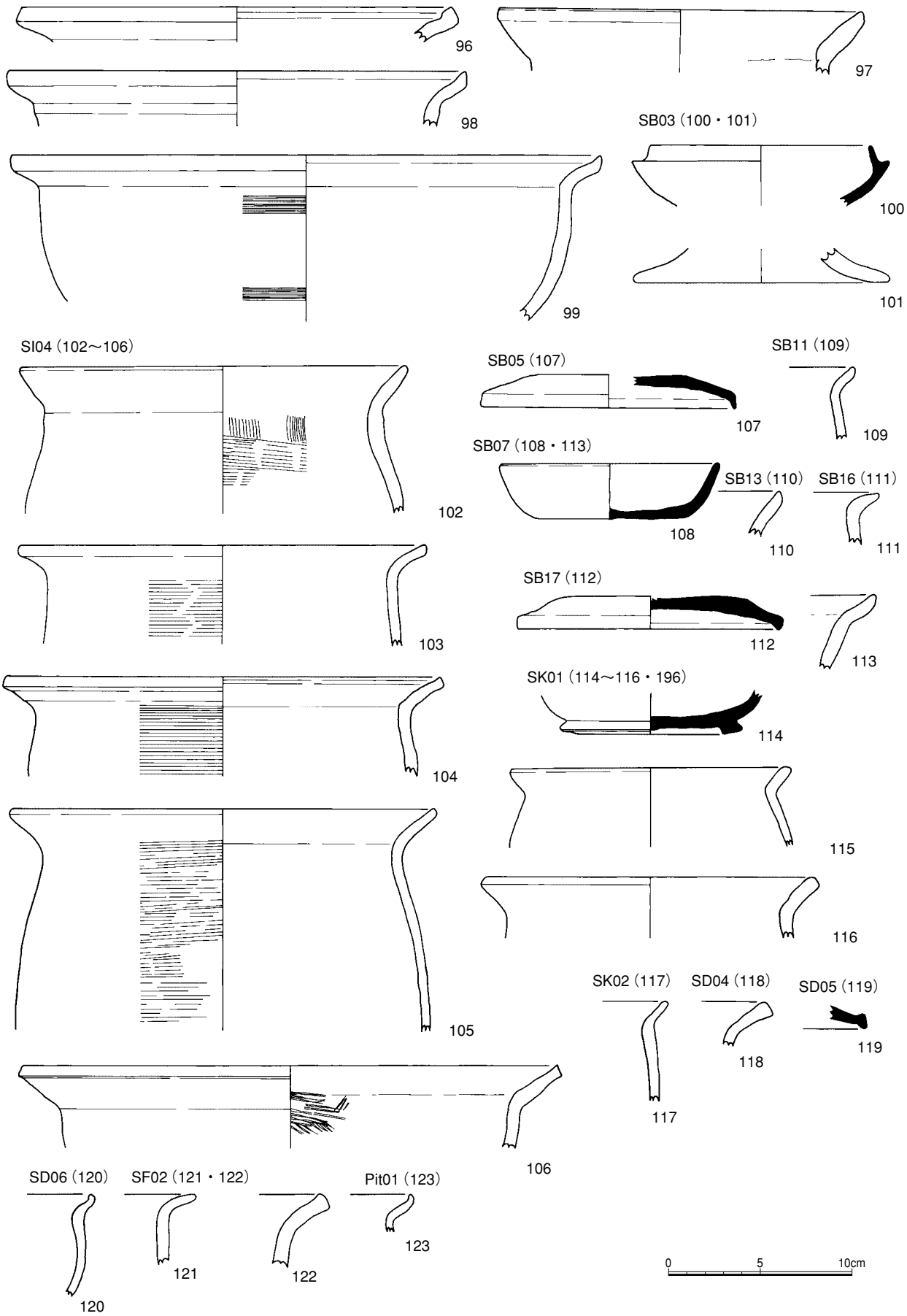


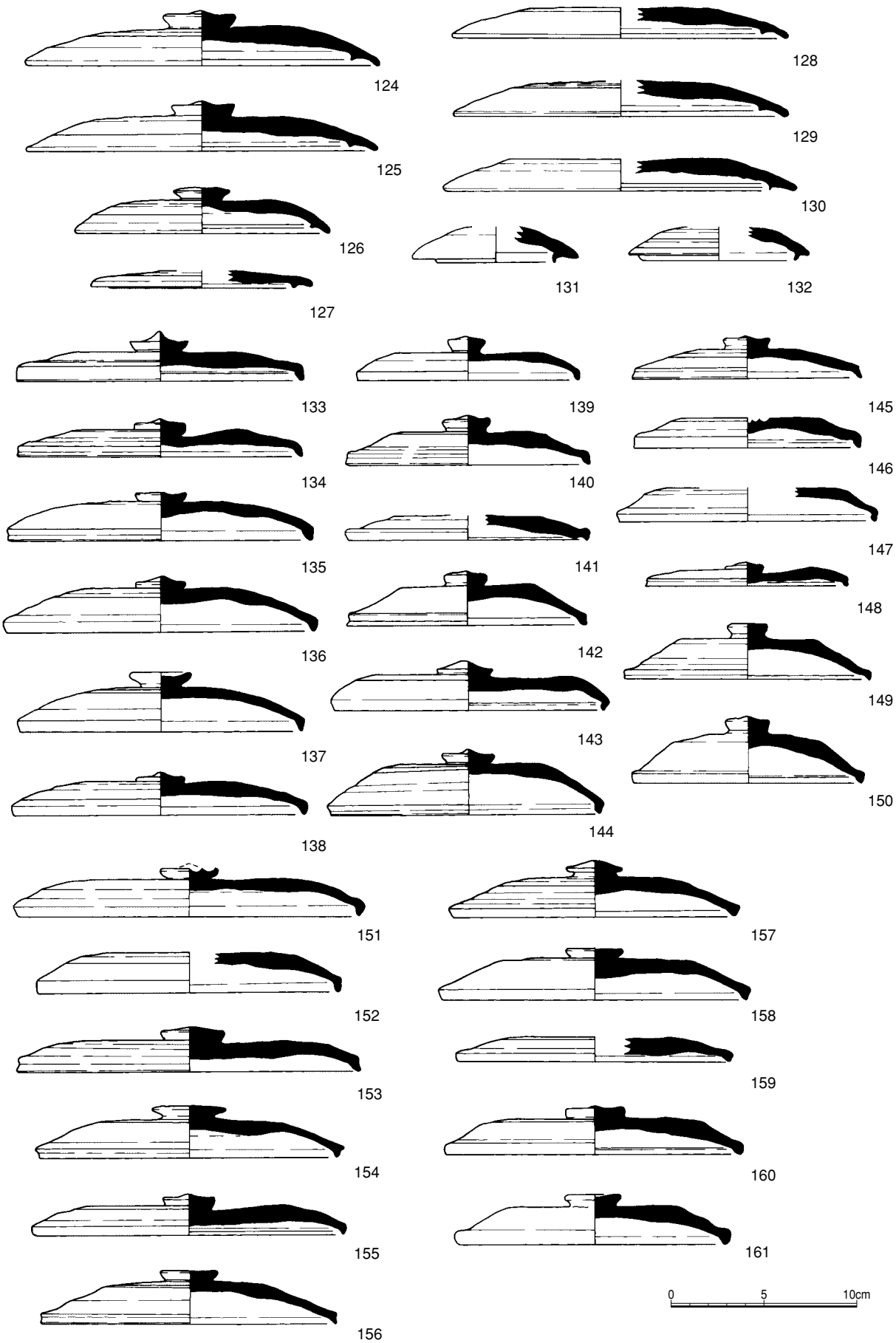

第71図　1985年度調査区遺物図(6)須恵器



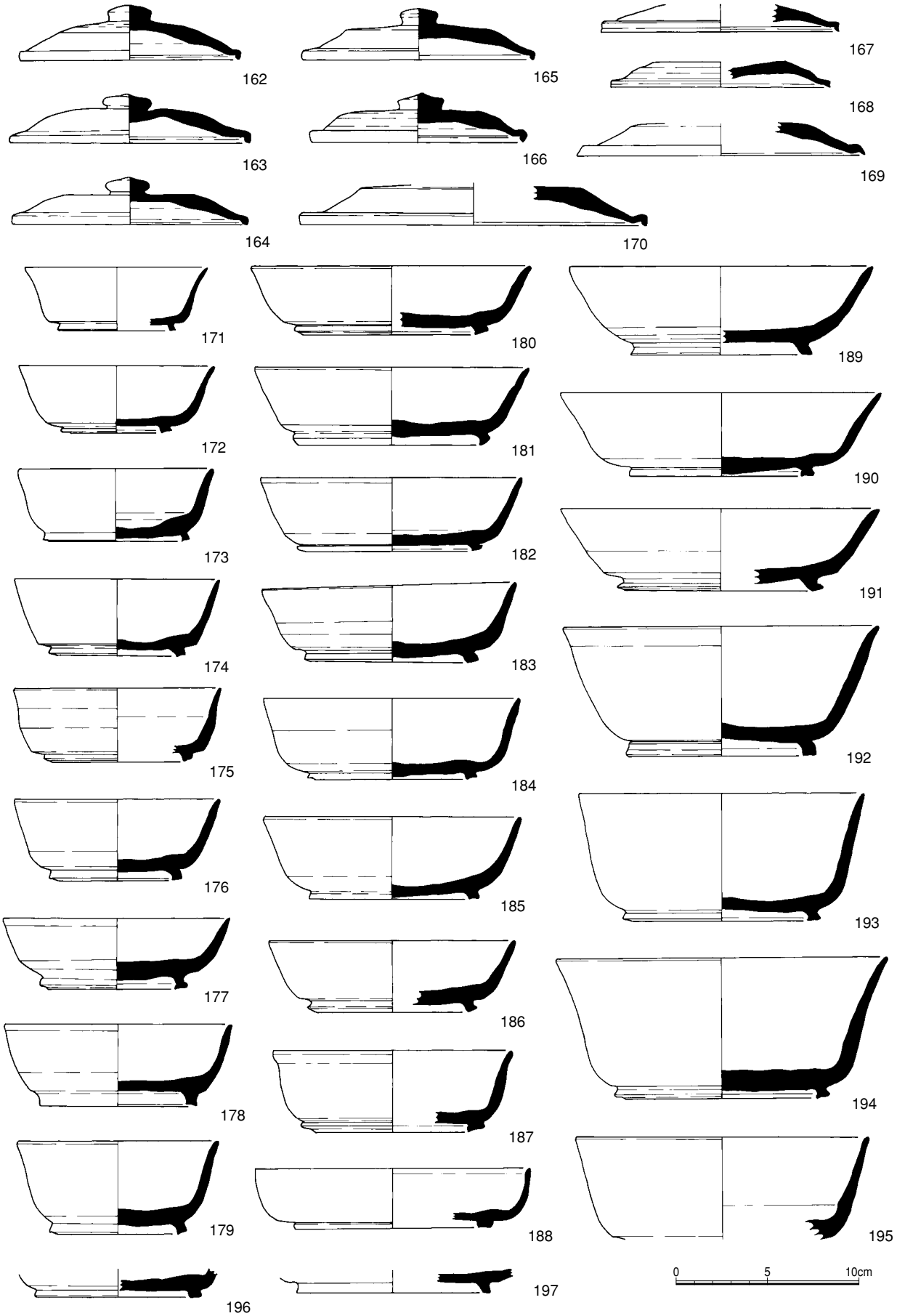

第72図　1985年度調査区遺物図(7)遺構　須恵器・土師器



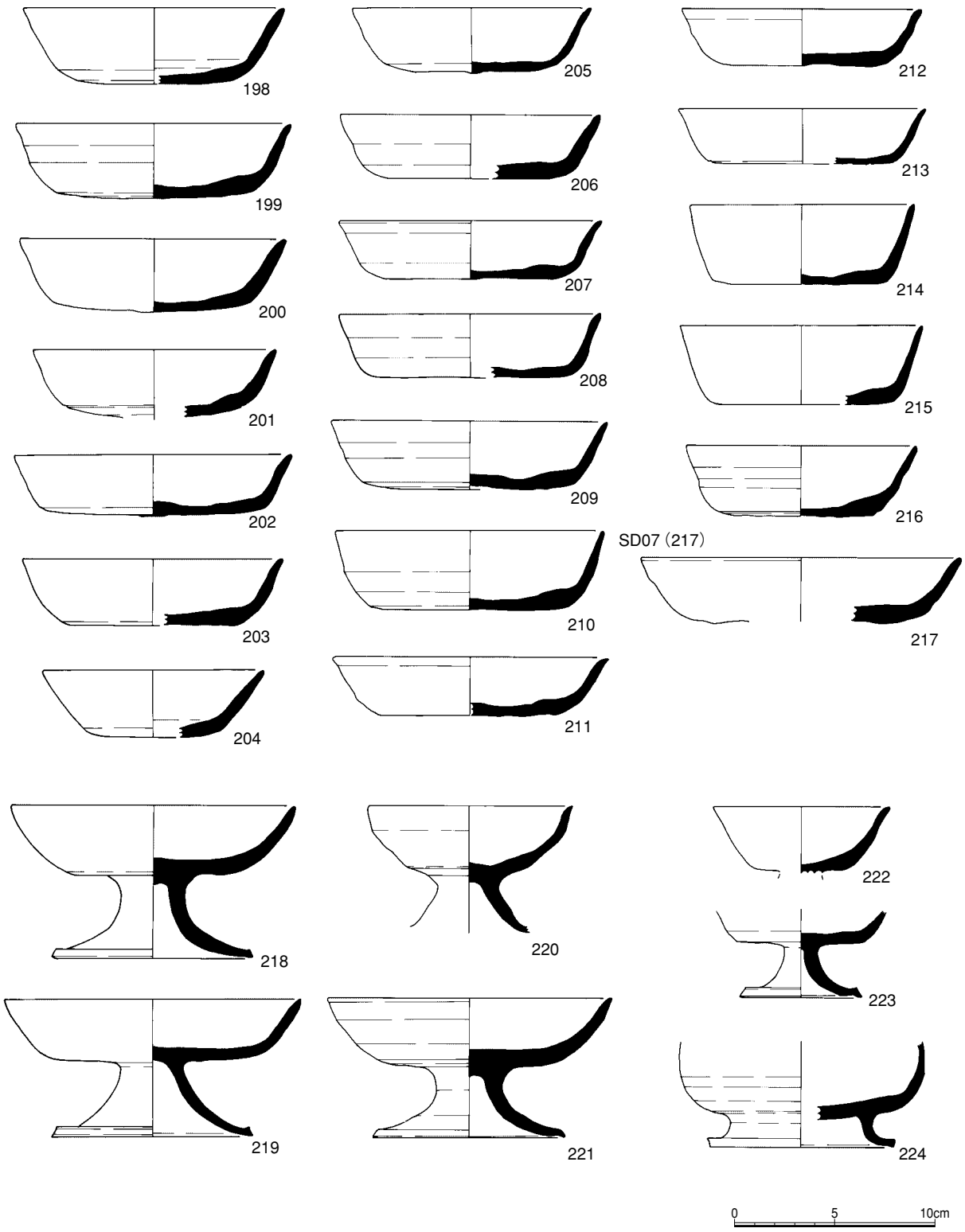

第73図　1985年度調査区遺物図(8)遺構　須恵器・土師器



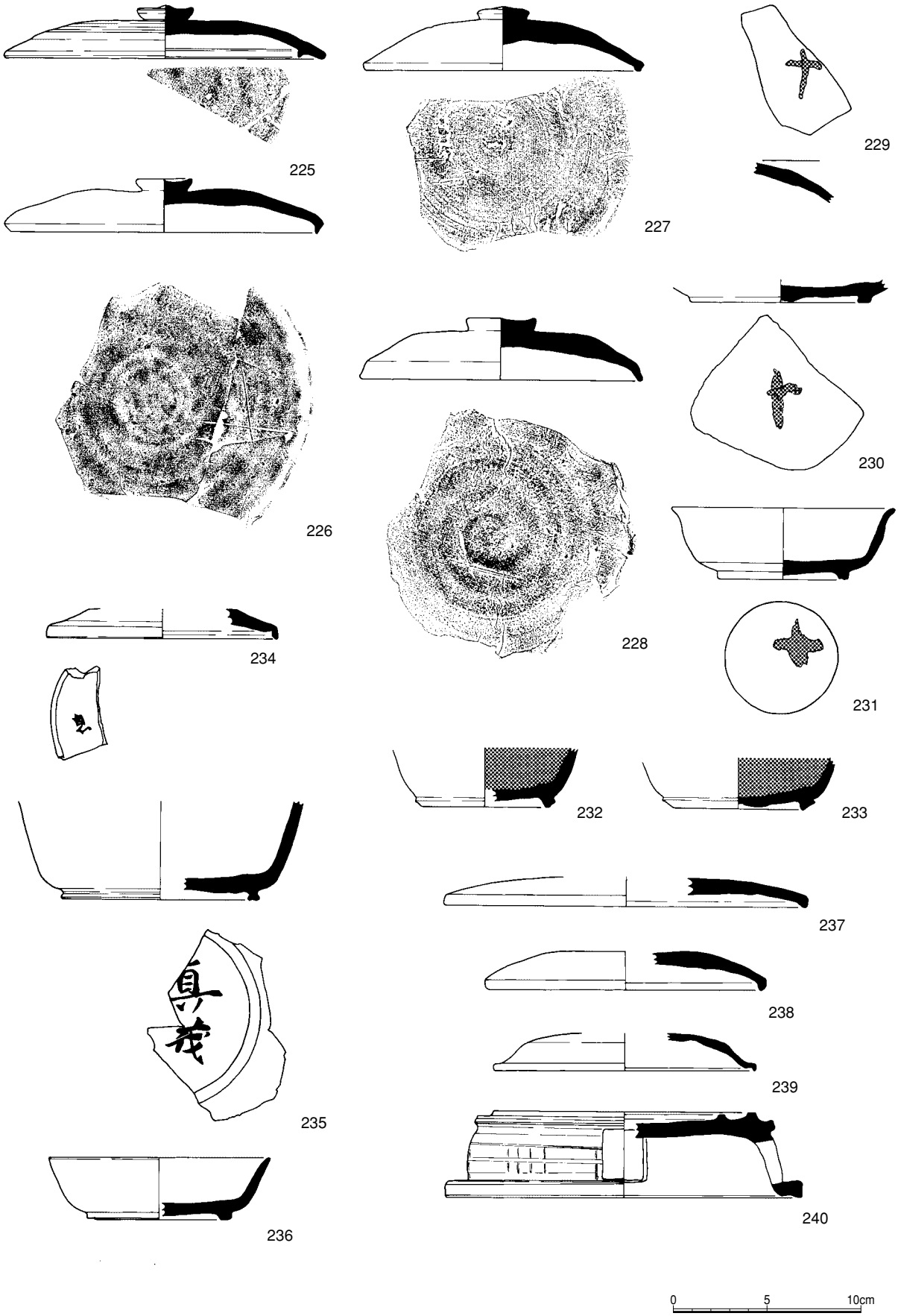

第74図　1985年度調査区遺物図(9)須恵器



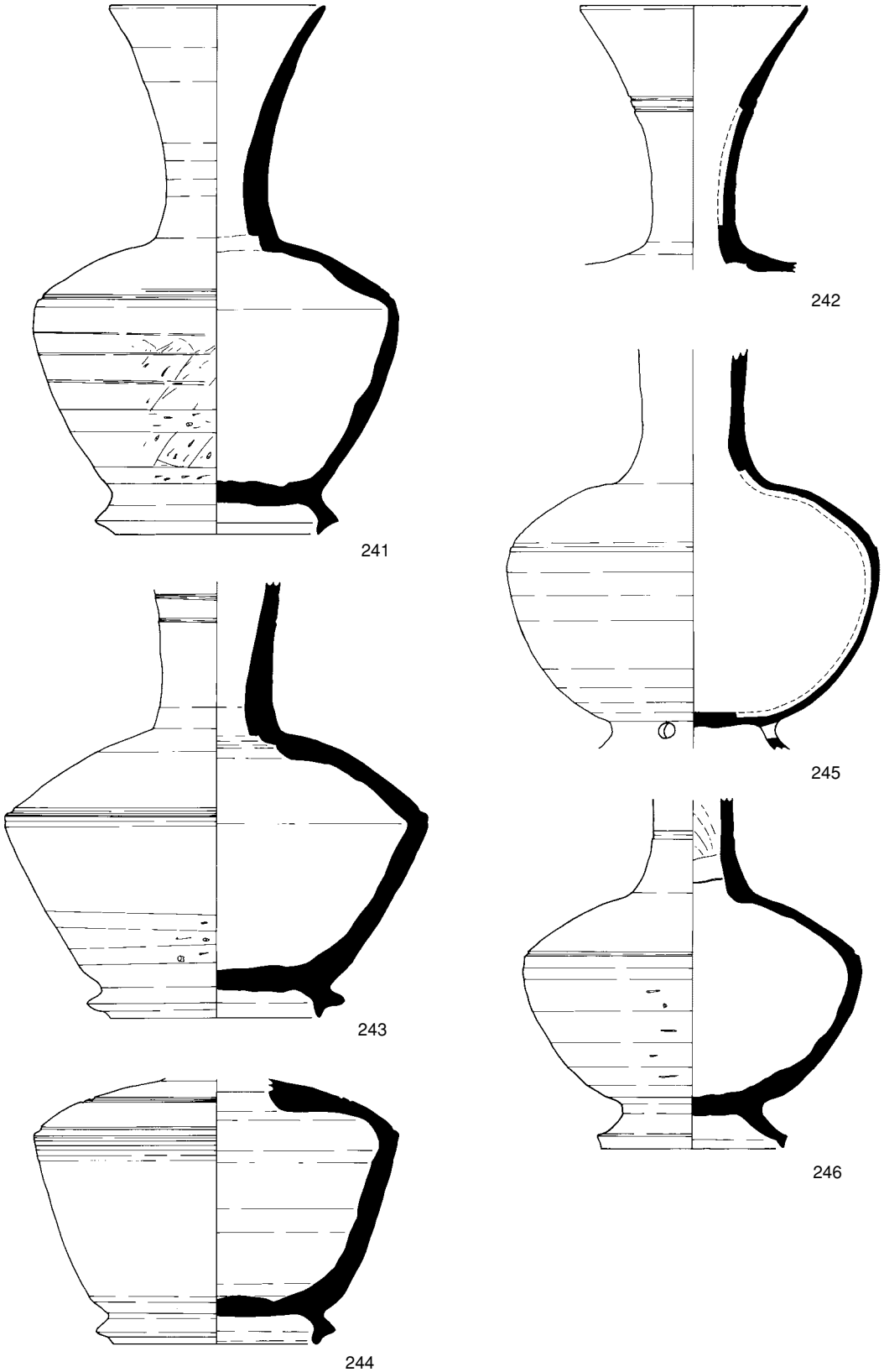

第75図　1985年度調査区遺物図(10) 須恵器



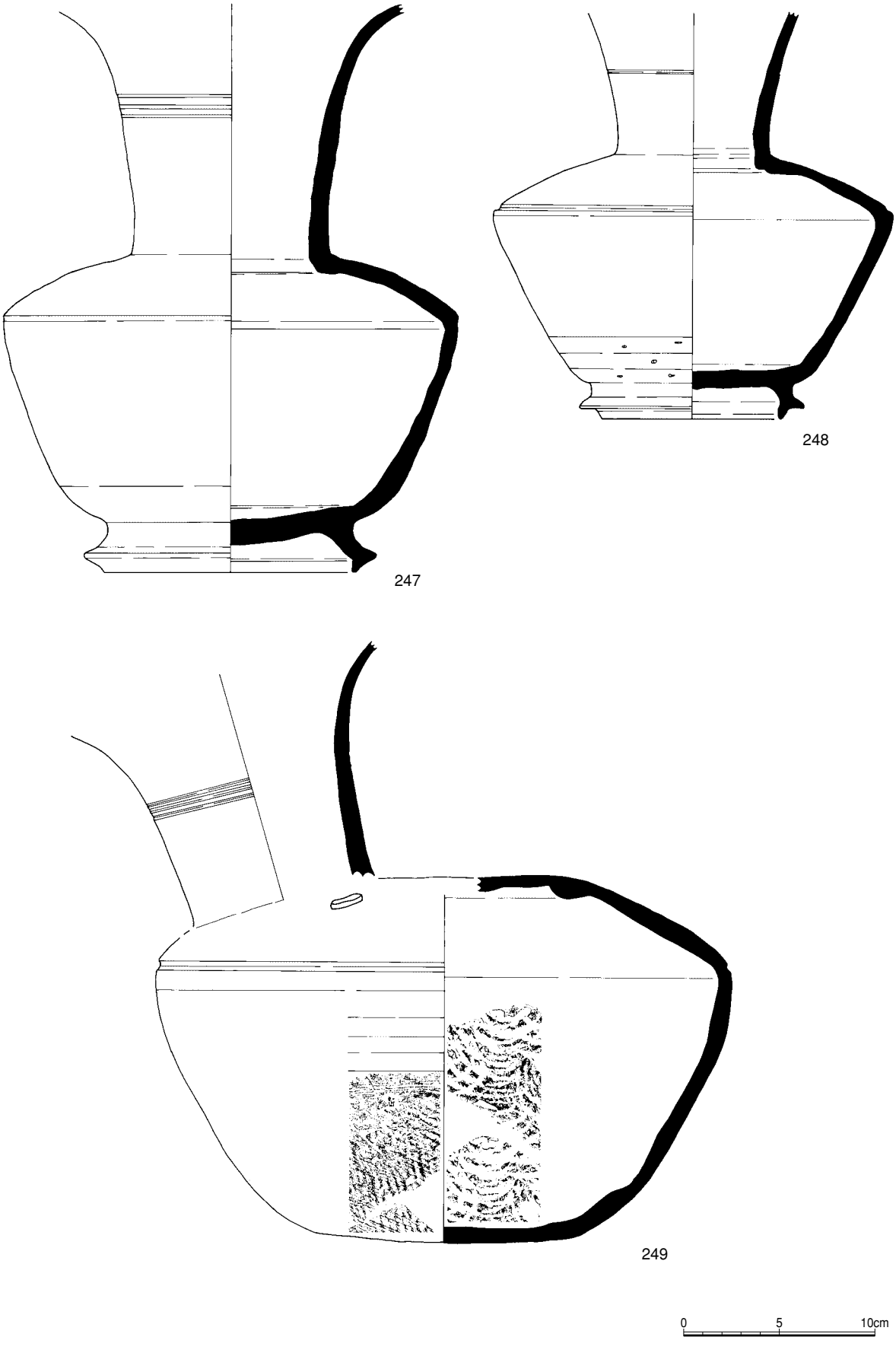

第76図　1985年度調査区遺物図(11) 須恵器



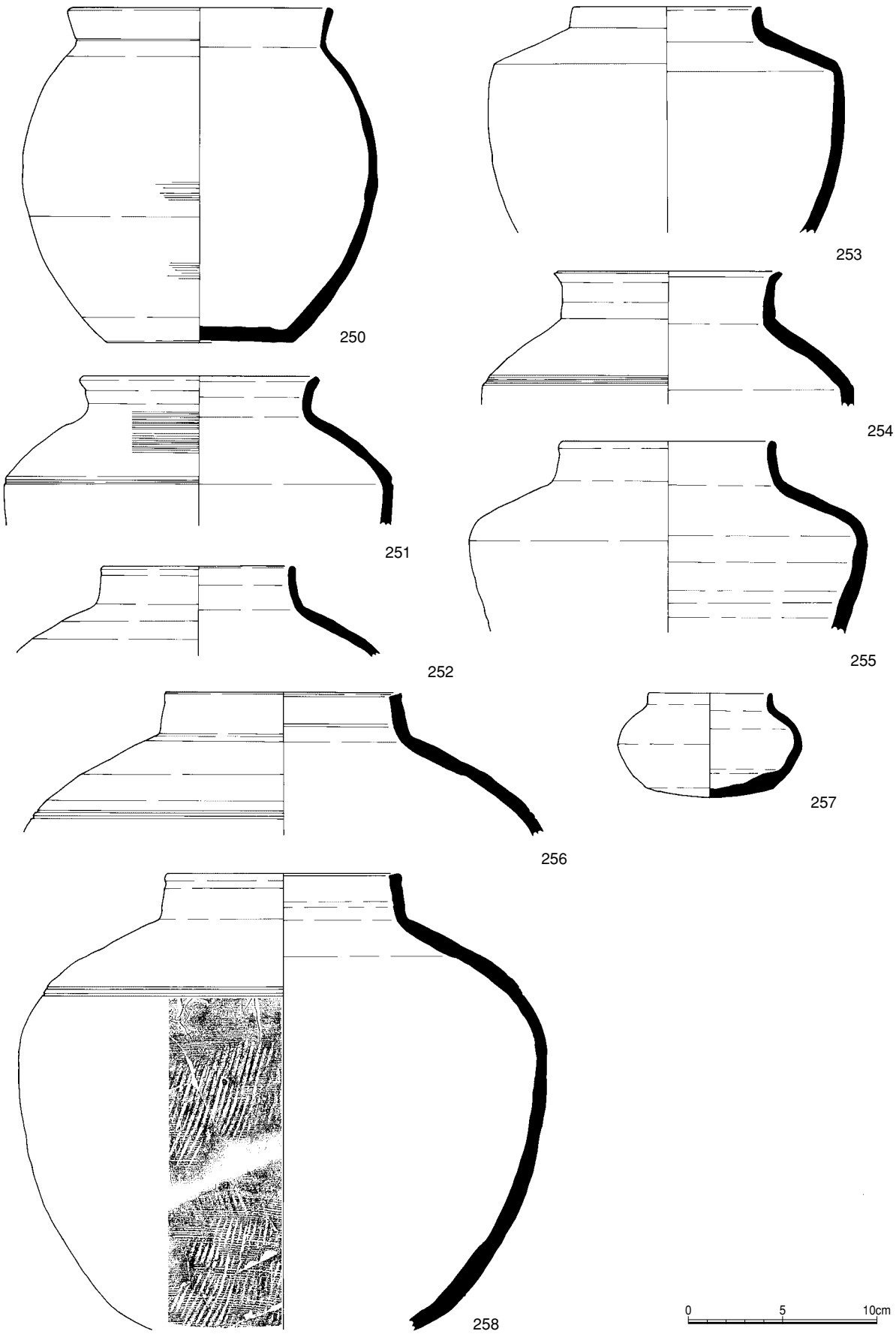

第77図　1985年度調査区遺物図⑿ 須恵器・ヘラ書き土器・墨書土器・漆書土器・円面硯



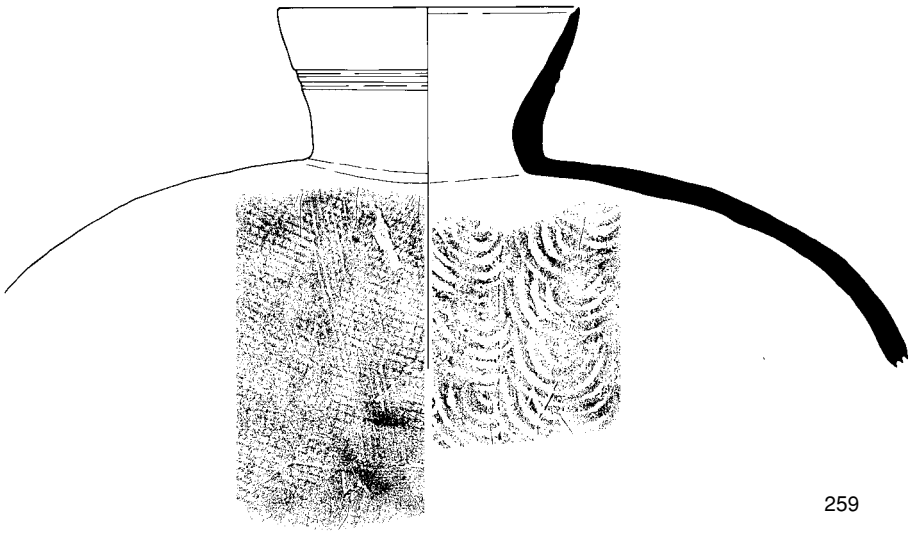

第78図　1985年度調査区遺物図⑬ 須恵器



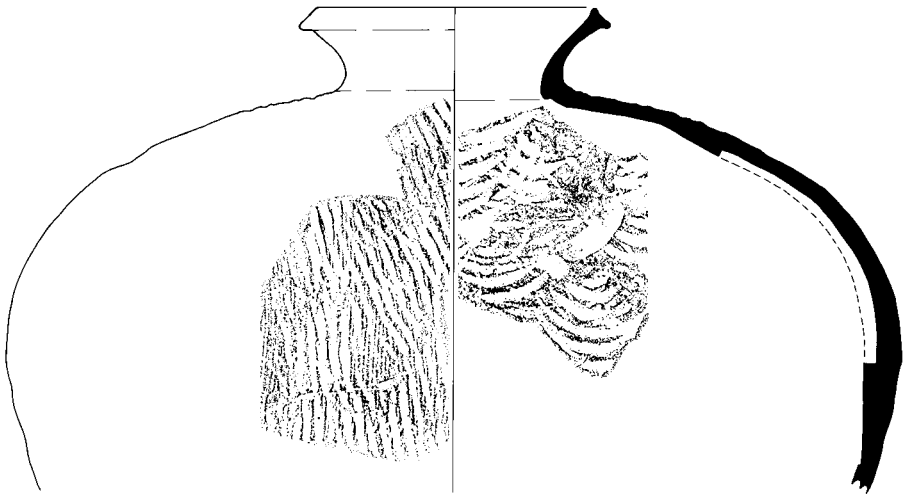

第79図　1985年度調査区遺物図⑭ 須恵器




第80図　1985年度調査区遺物図(15) 須恵器



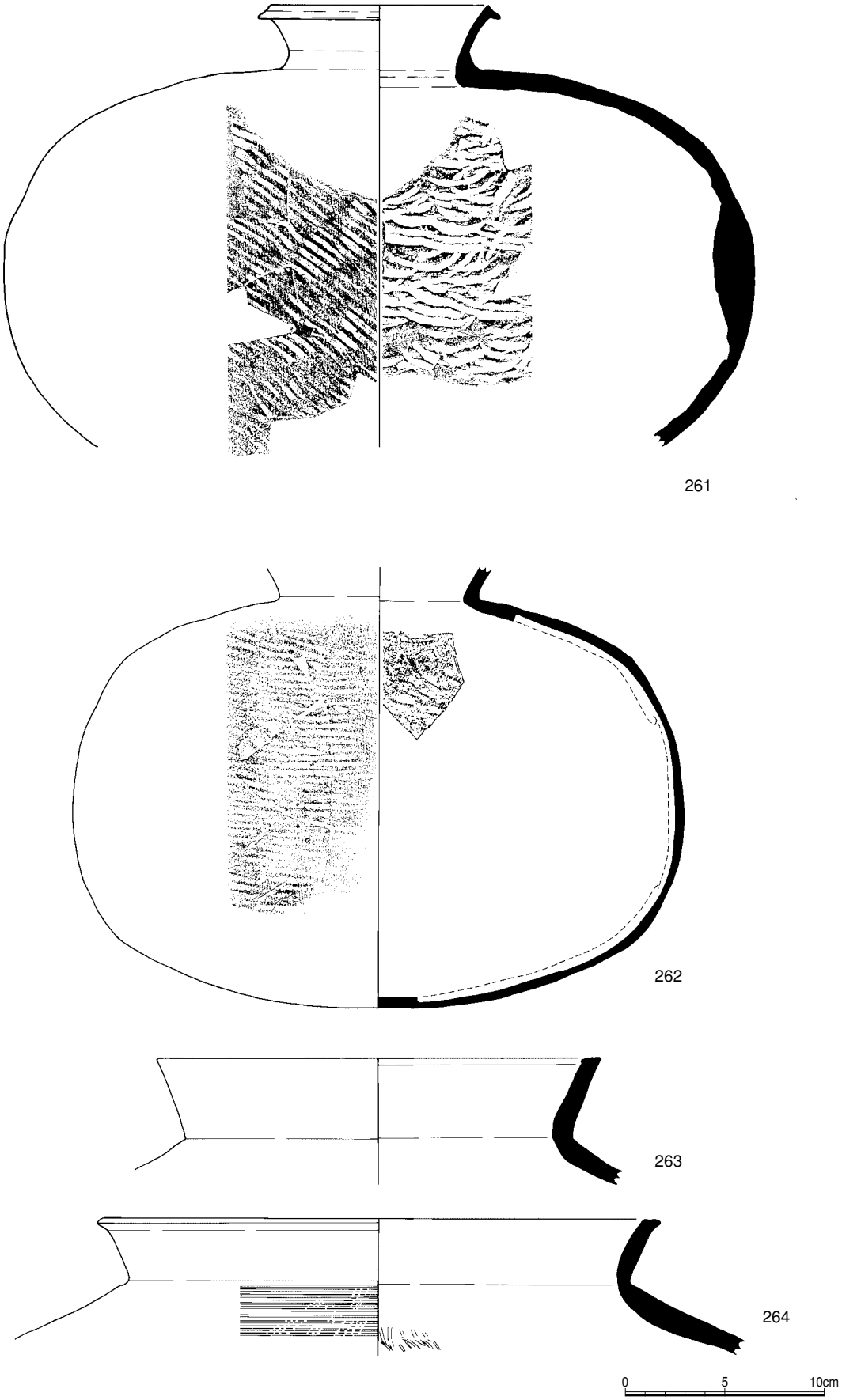
259



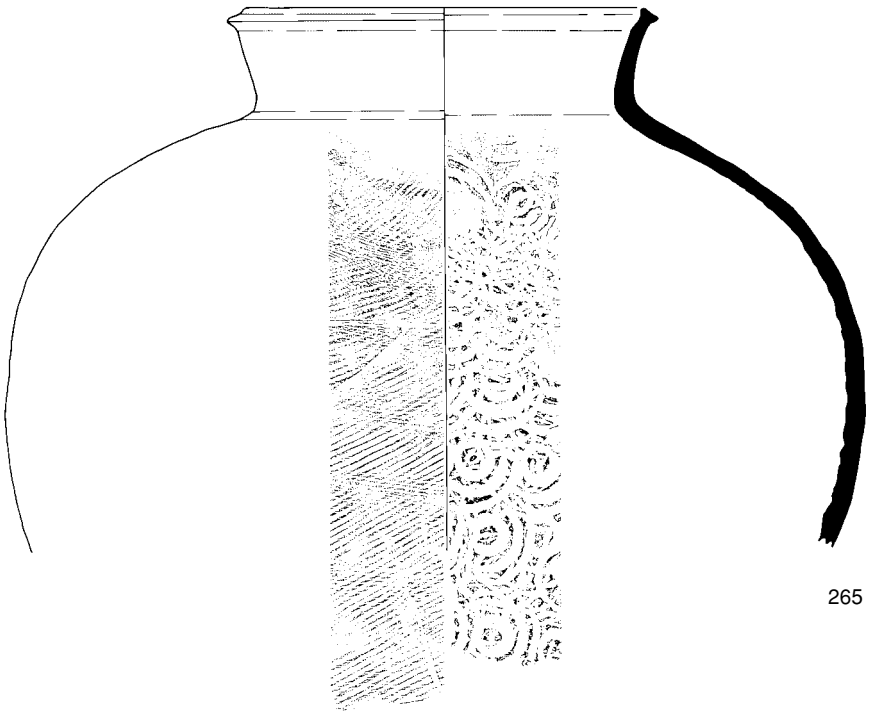
260

0 5 10cm

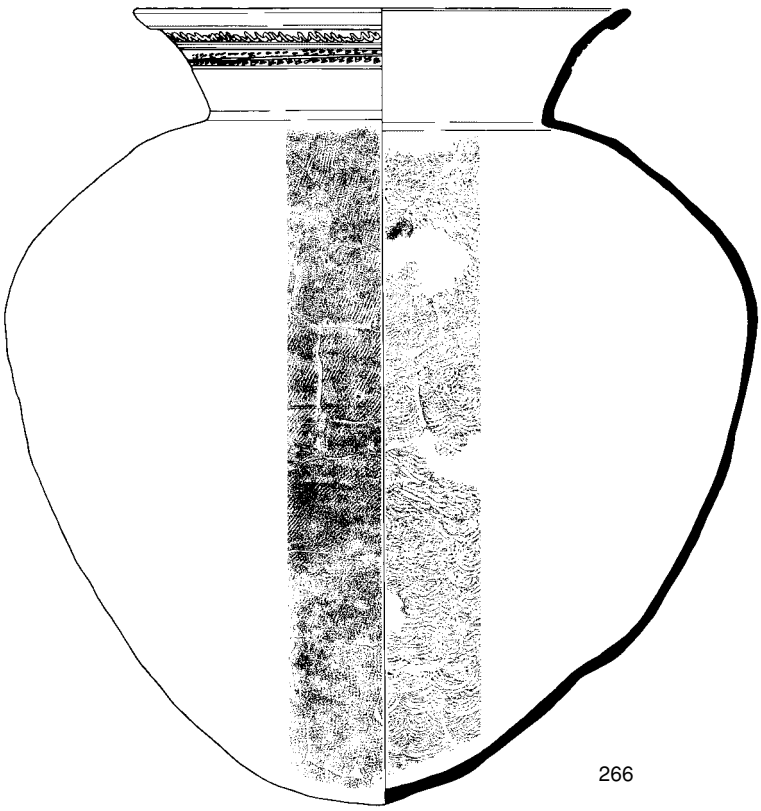
第81図　1985年度調査区遺物図(16)須恵器




第82図　1985年度調査区遺物図(17) 須恵器



265

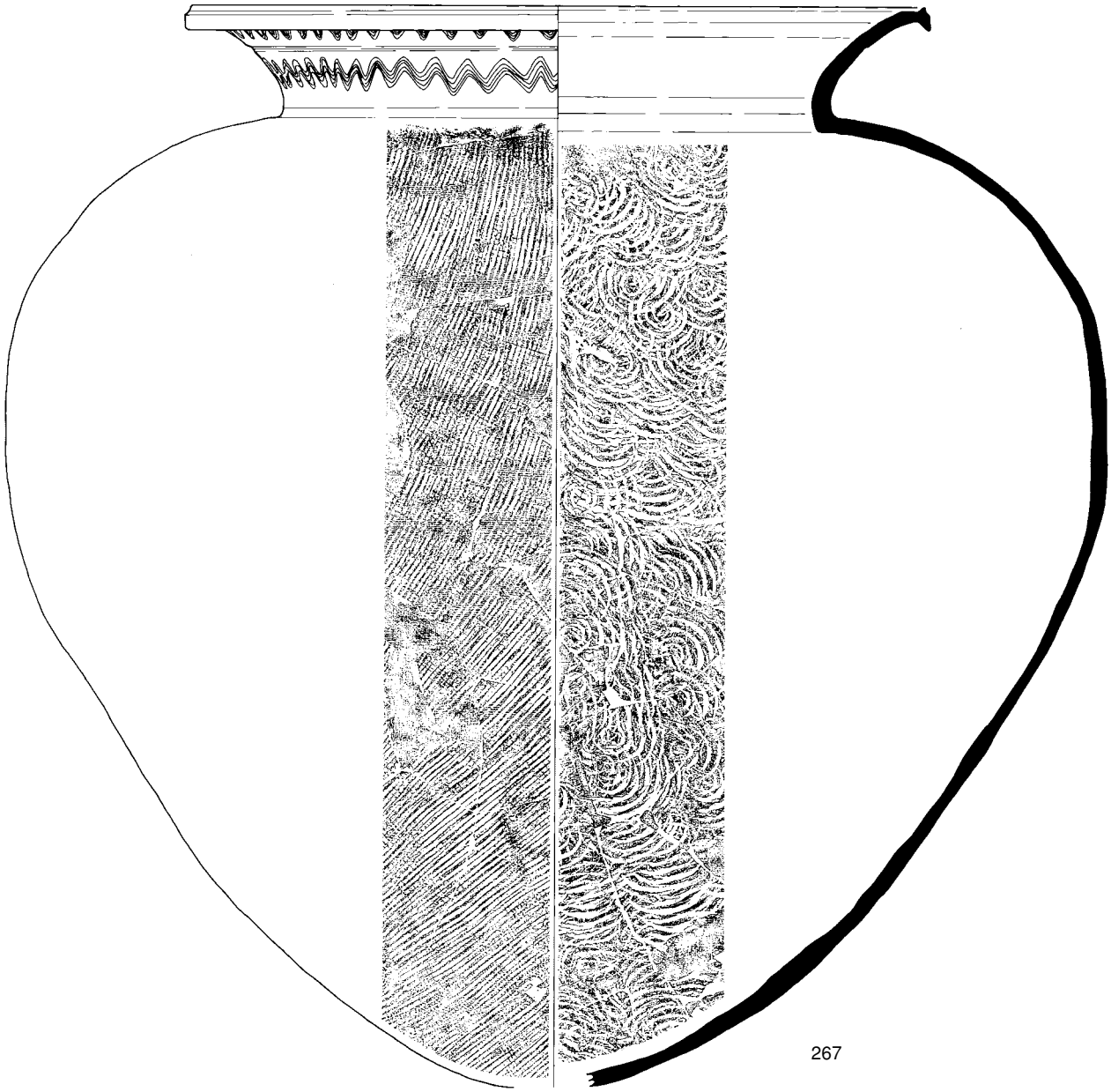


266

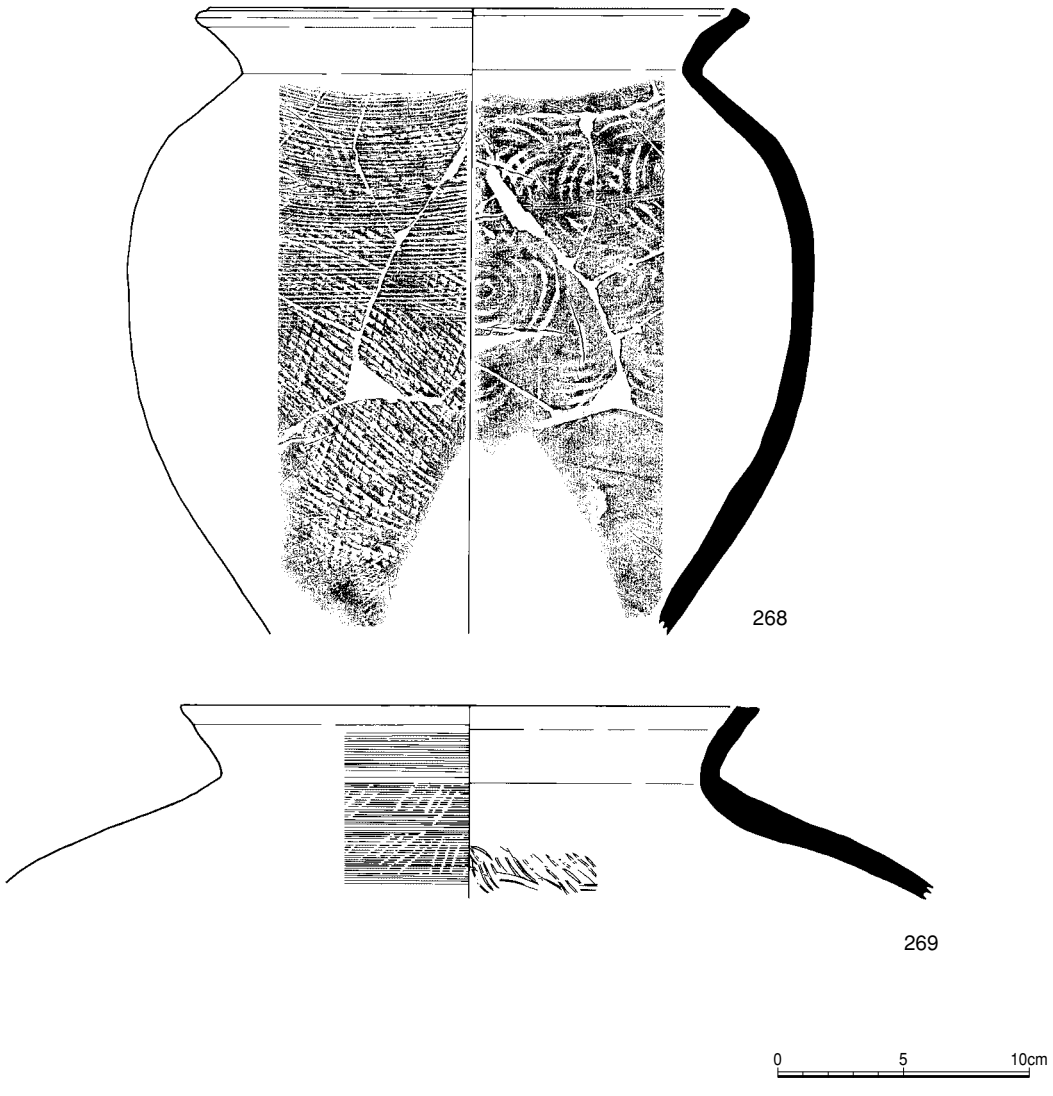
0 10cm

(266は1／8)

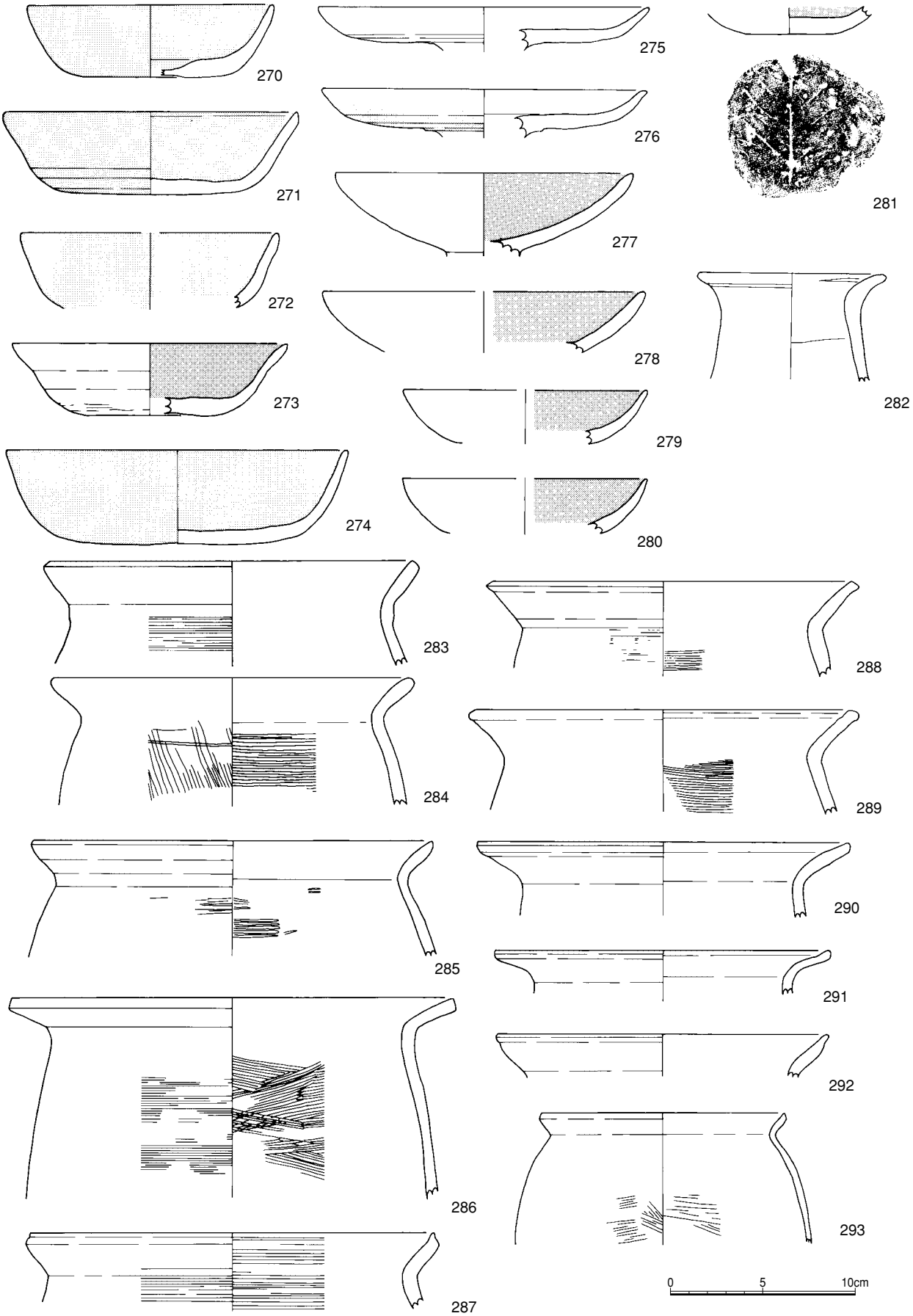
第83図　1985年度調査区遺物図(18) 須恵器




第84図　1985年度調査区遺物図(19) 須恵器

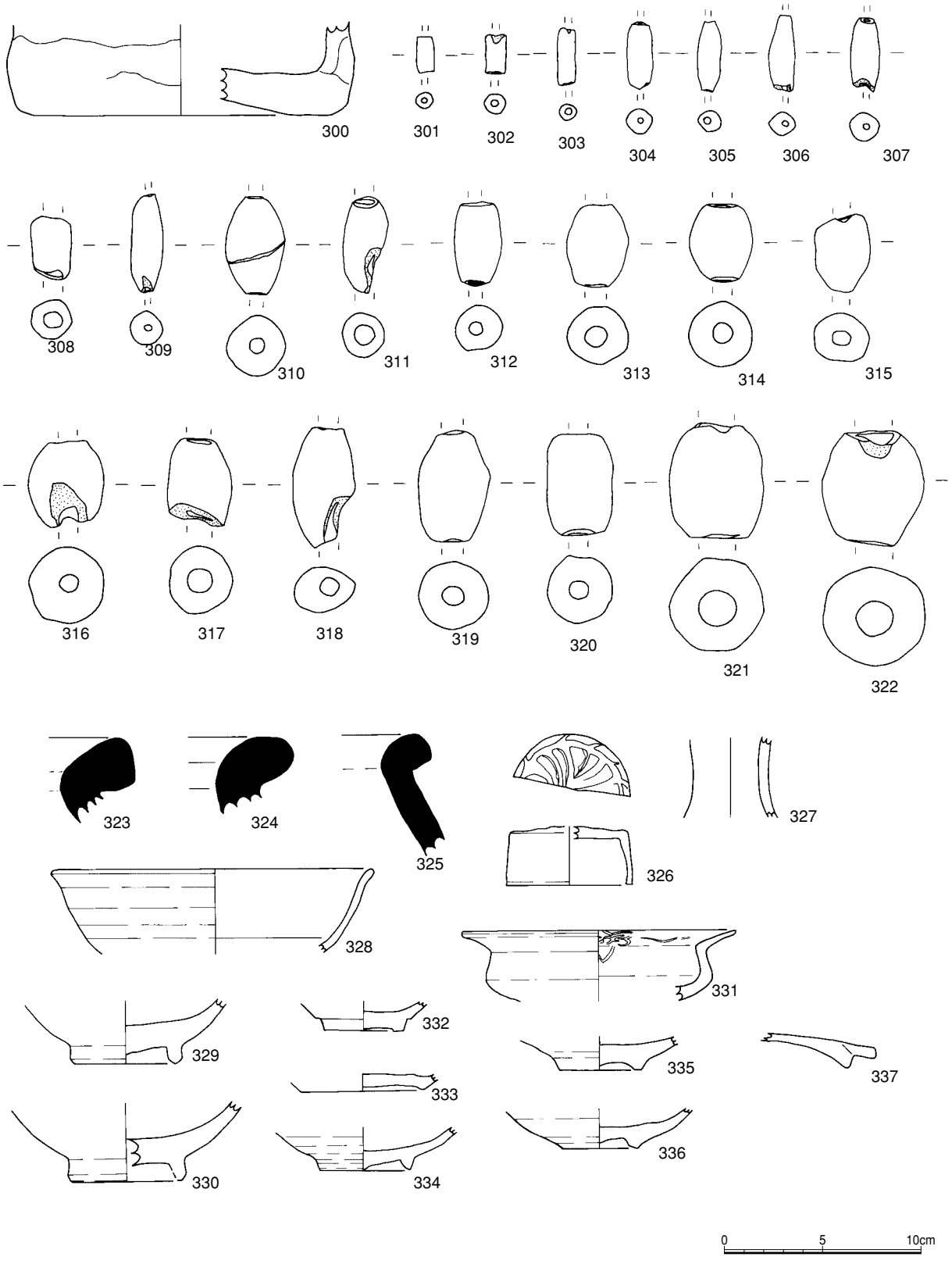



第85図　1985年度調査区遺物図⑳ 須恵器

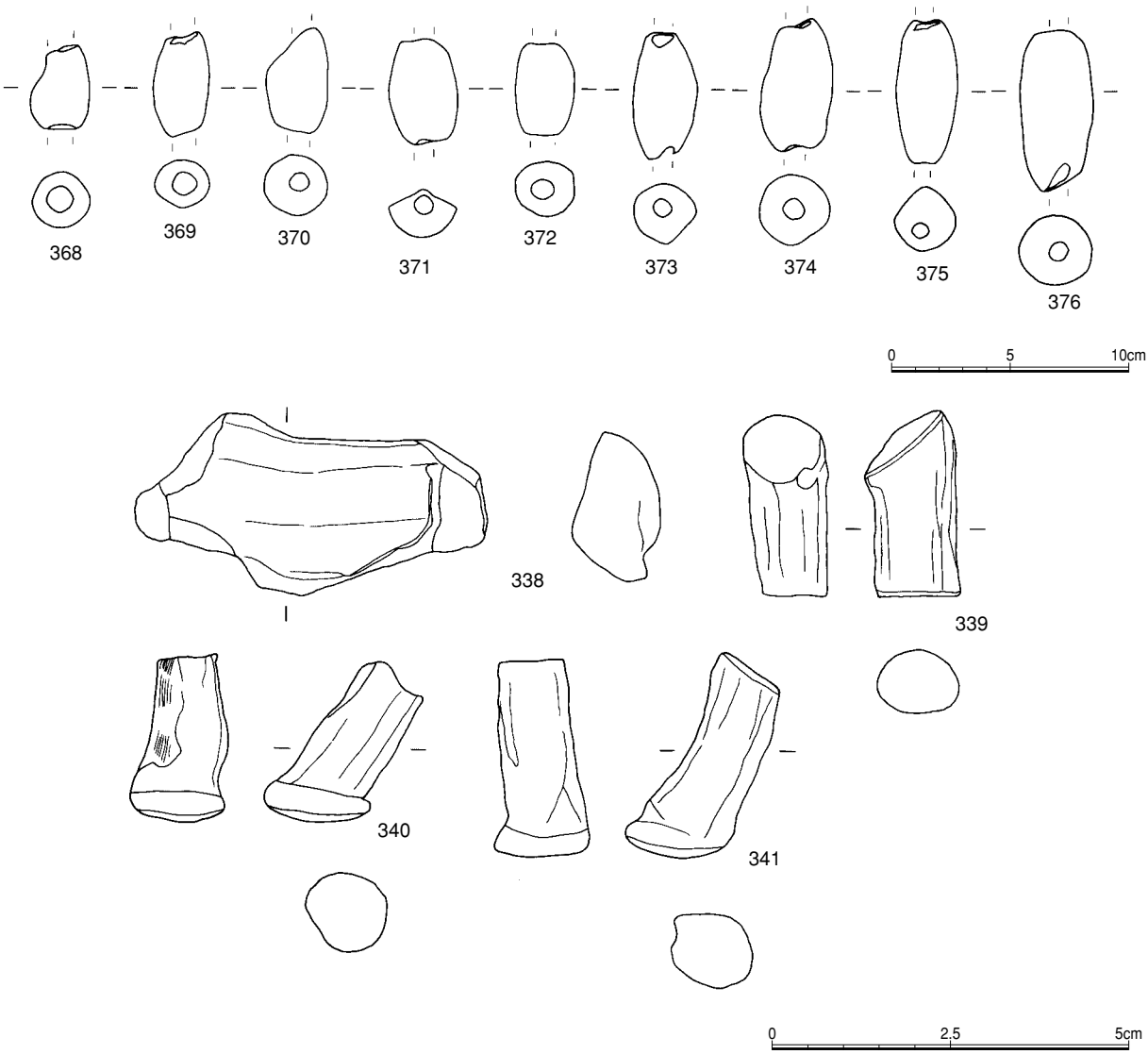



第86図　1985年度調査区遺物図(21)土師器　赤彩土器・黒色土器

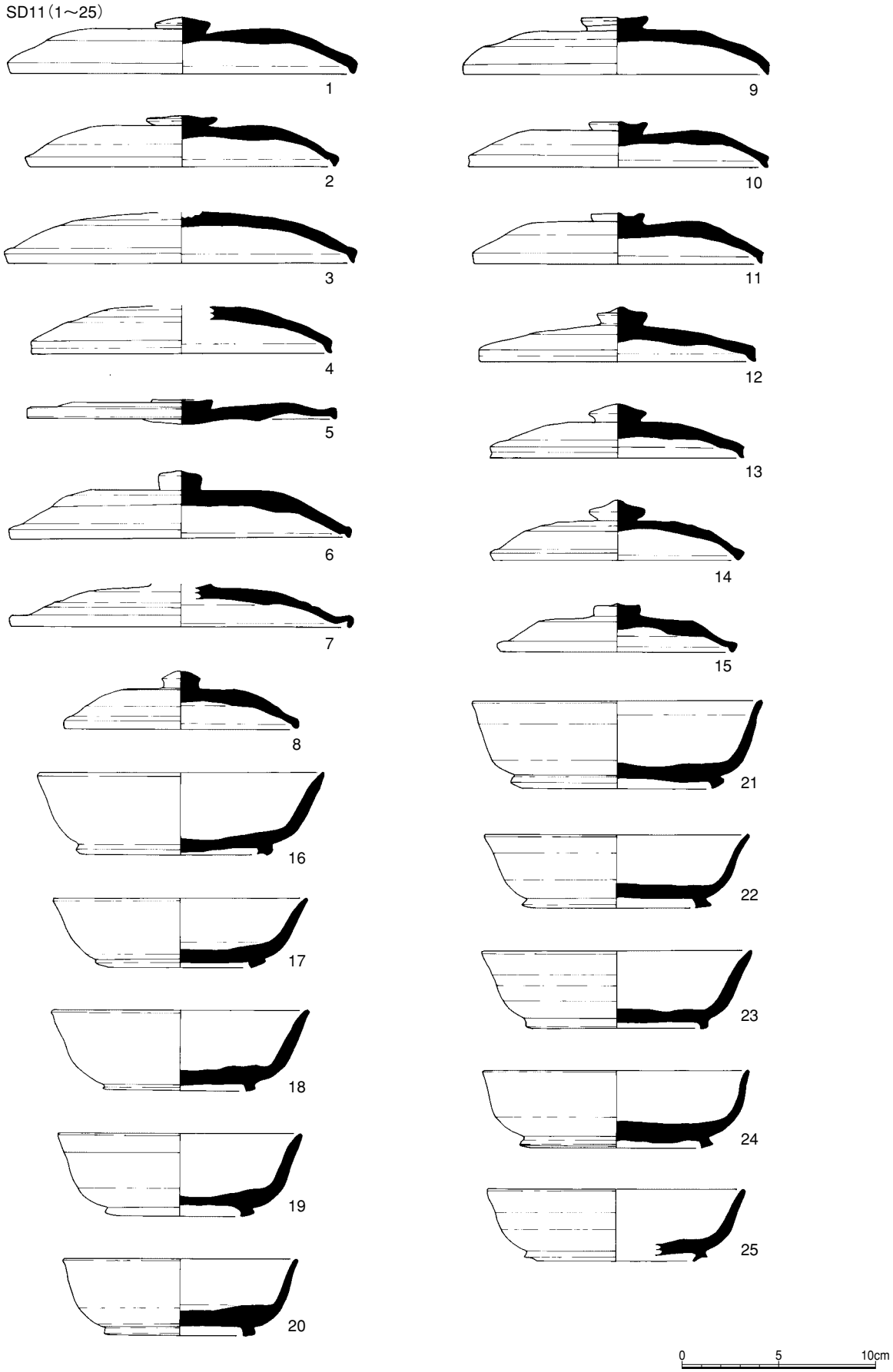
第87図　1985年度調査区遺物図(22) 土師器



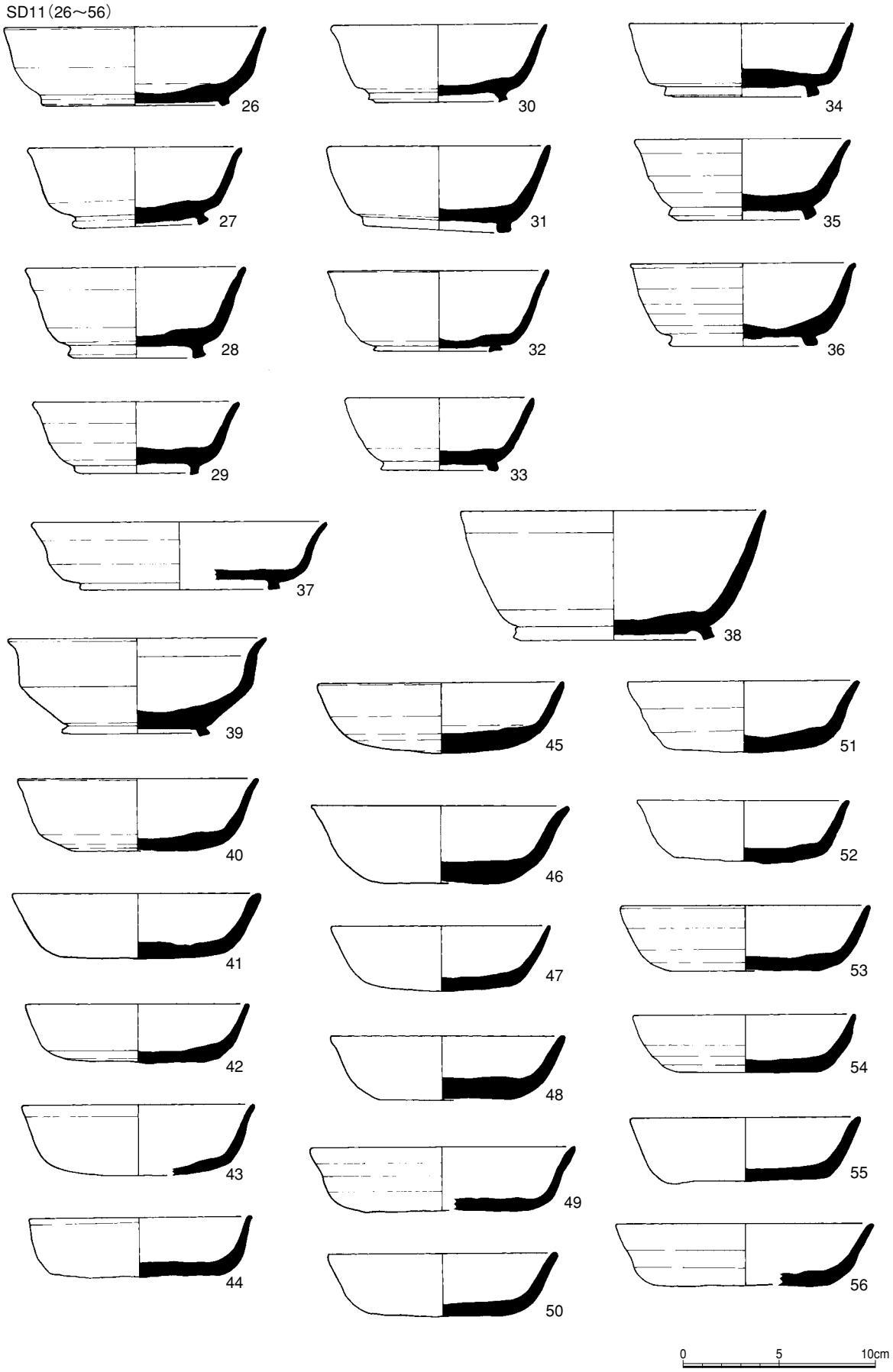

第88図　1985年度調査区遺物図(23) 製塩土器・土錘・珠洲・青磁・白磁・瀬戸美濃・唐津・越中瀬戸・土師器



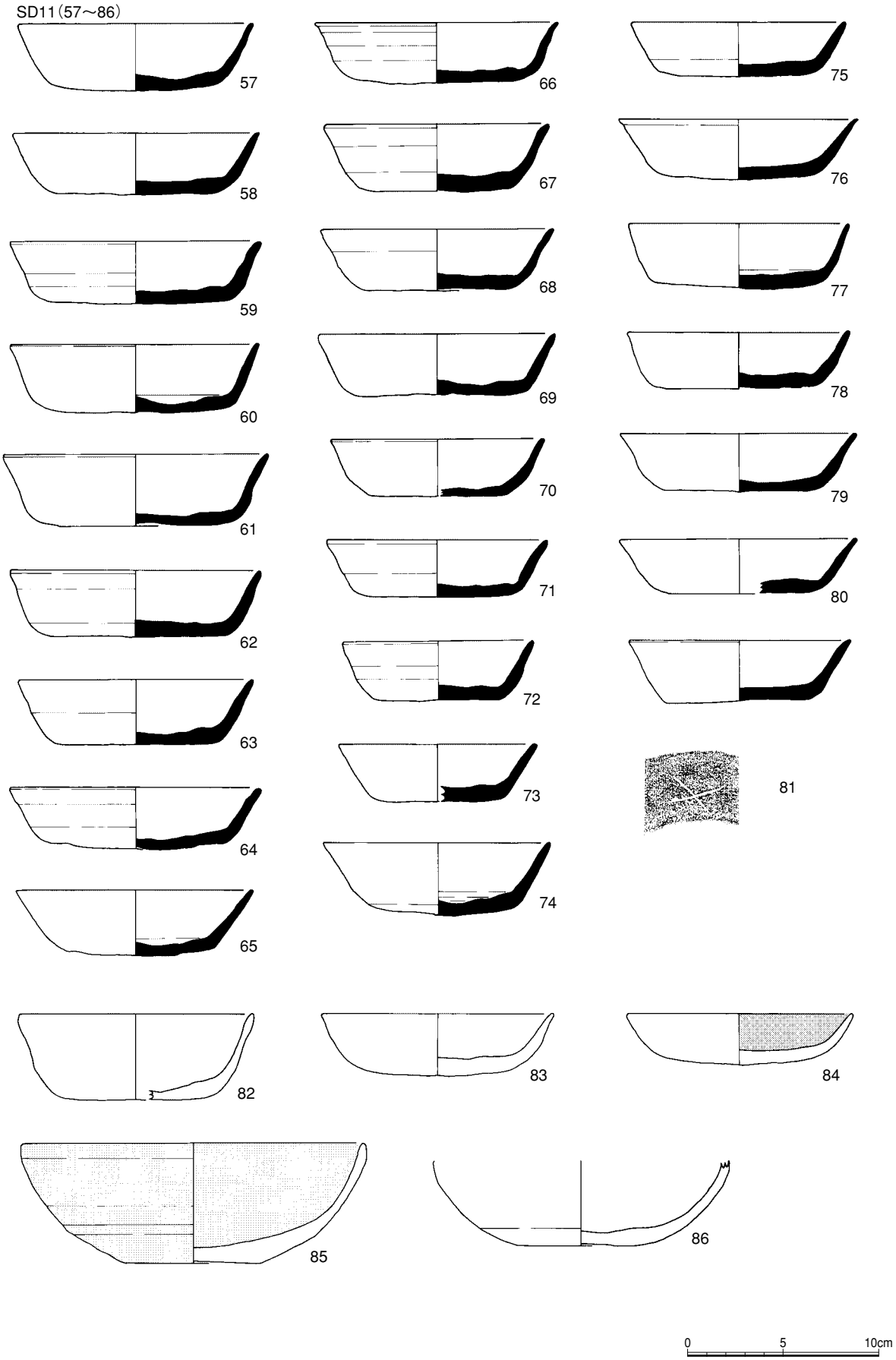

第89図　1985年度調査区遺物図(24) 土錘・土馬



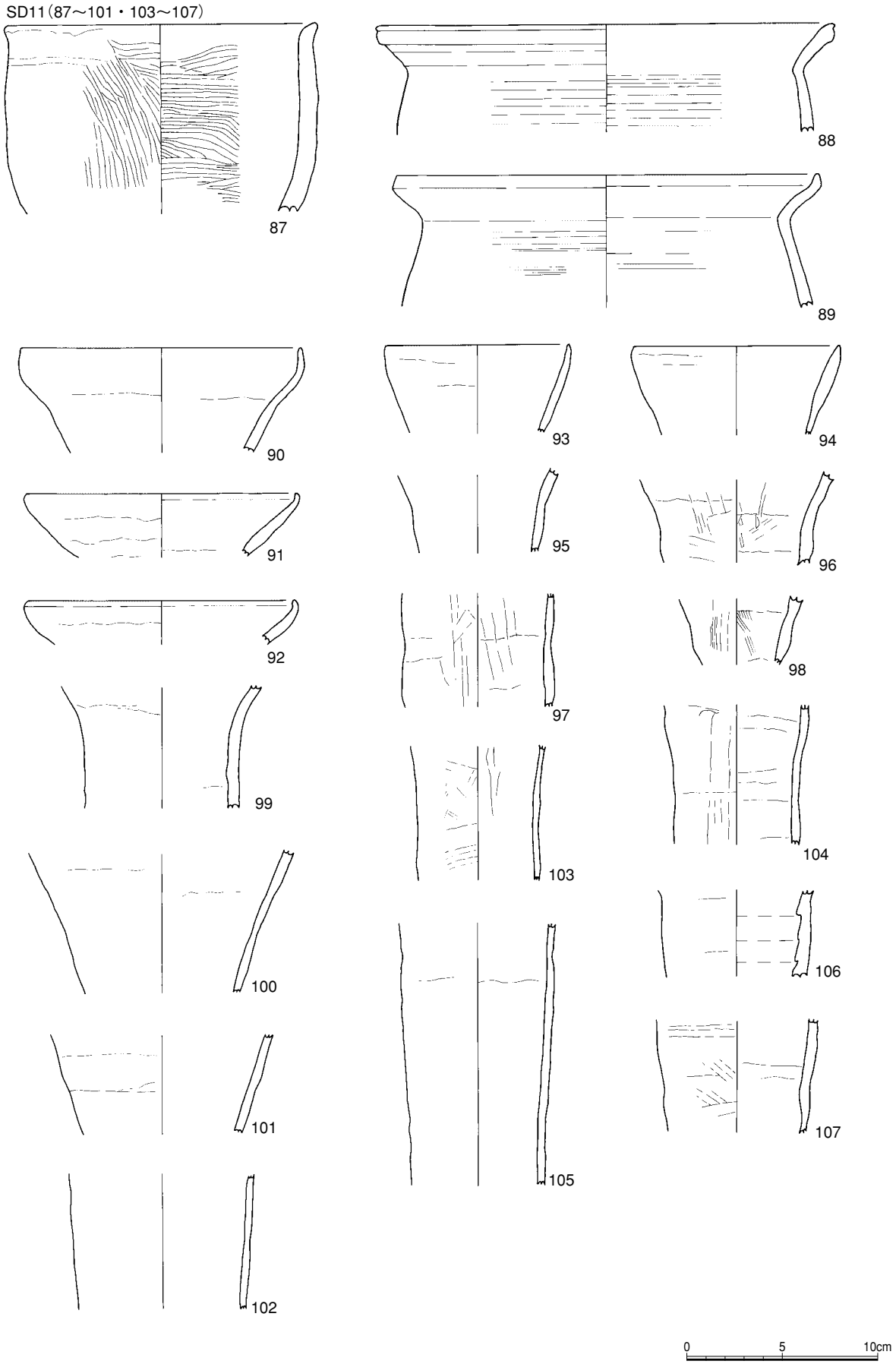

第90図　1986年度調査区遺物図(1) 須恵器



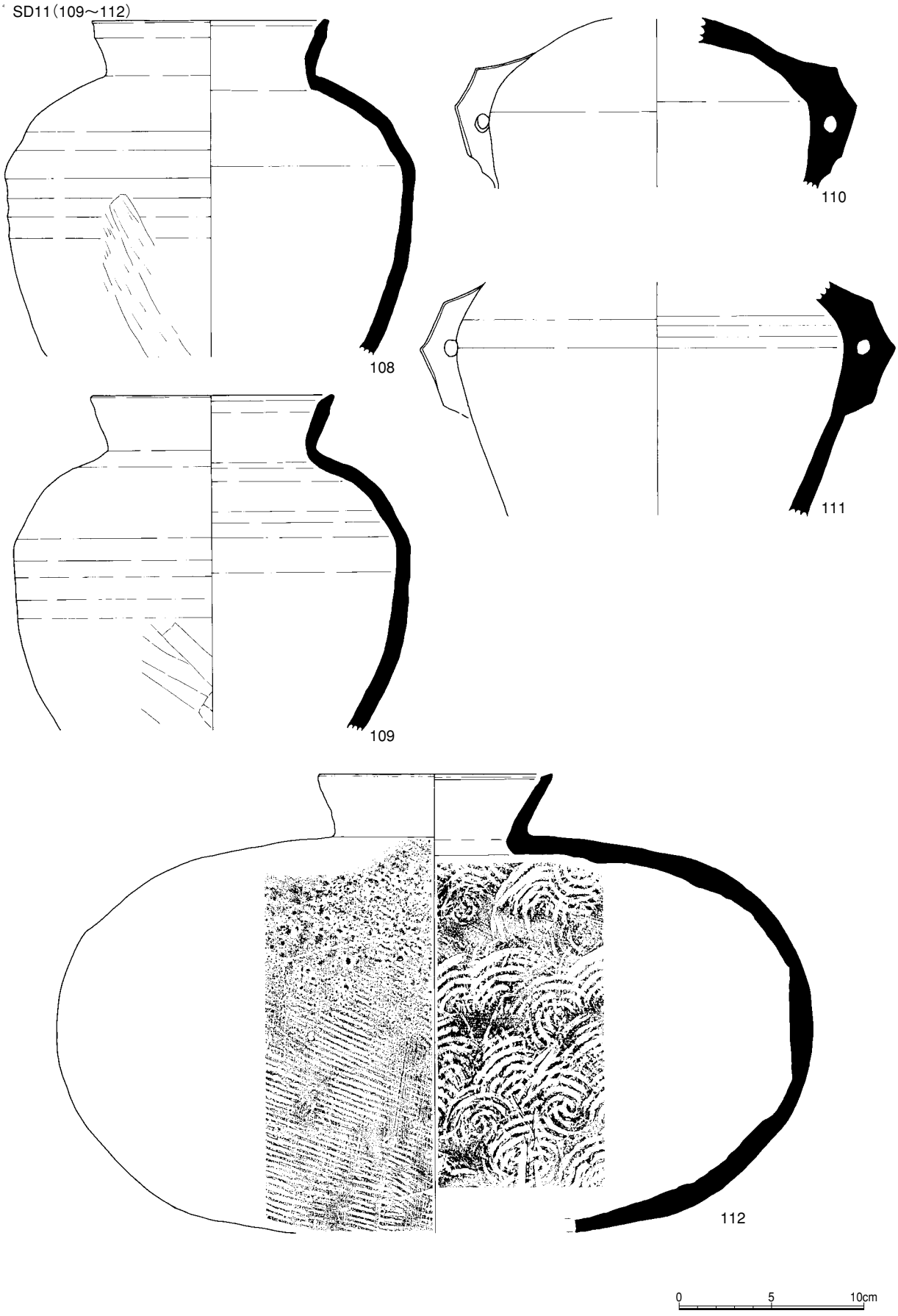

第91図　1986年度調査区遺物図(2) 須恵器




第92図　1986年度調査区遺物図(3) 須恵器・土師器

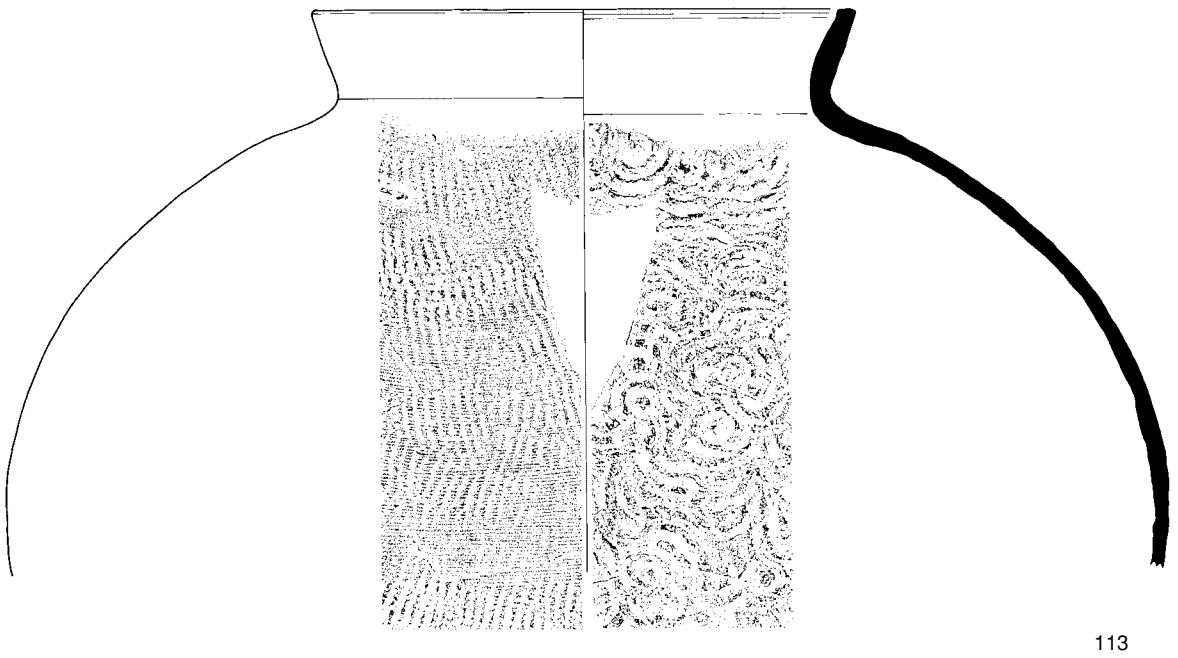



第93図　1986年度調査区遺物図(4) 土師器・製塩土器

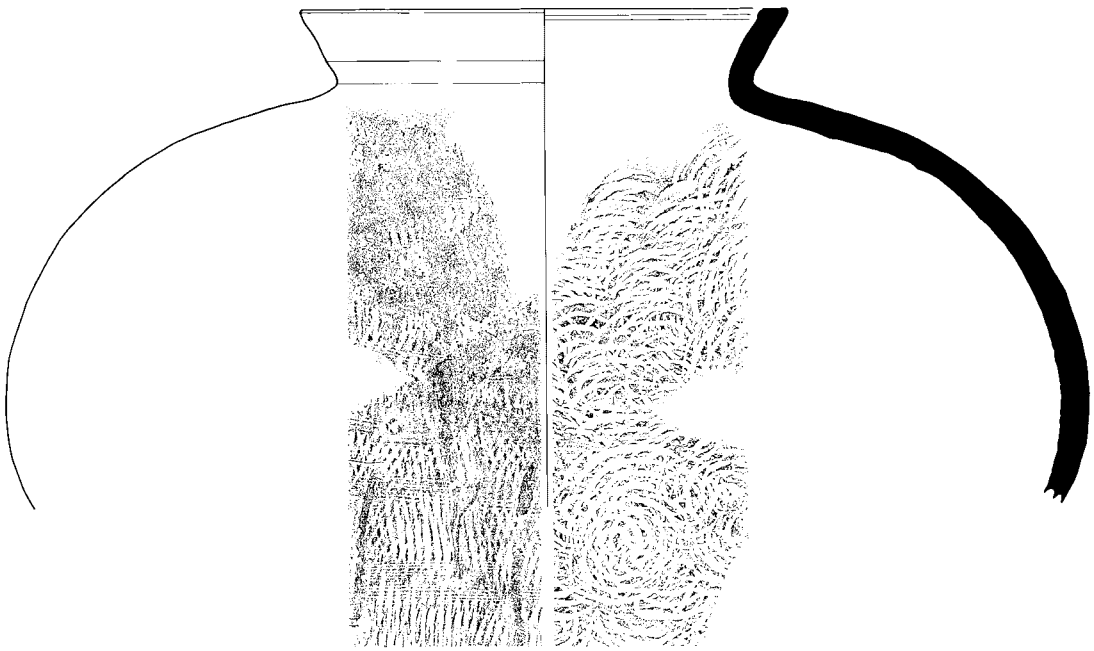



第94図　1986年度調査区遺物図(5) 須恵器

SD11(113)



113

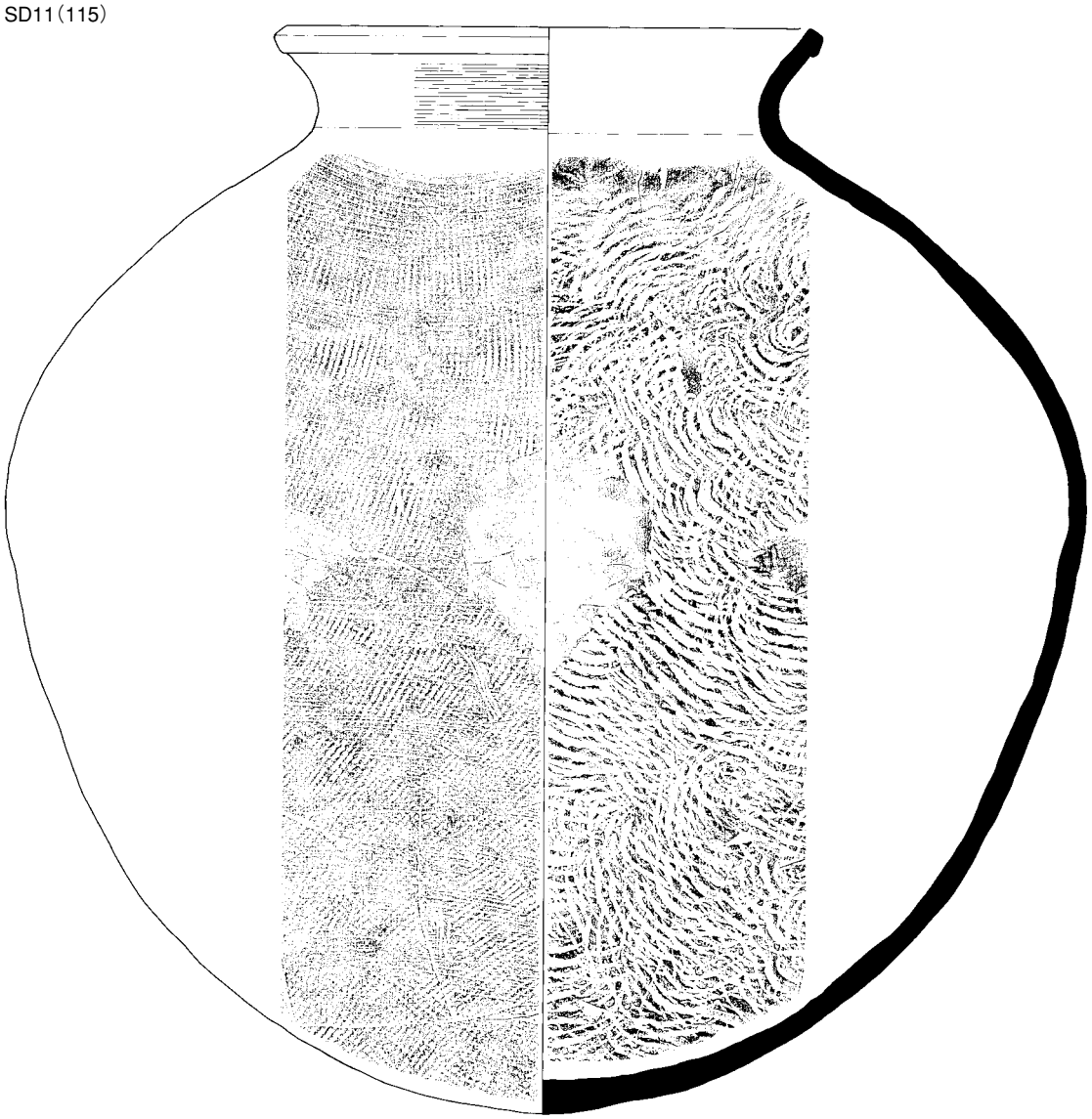


114

0 5 10cm

第95図　1986年度調査区遺物図(6) 須恵器

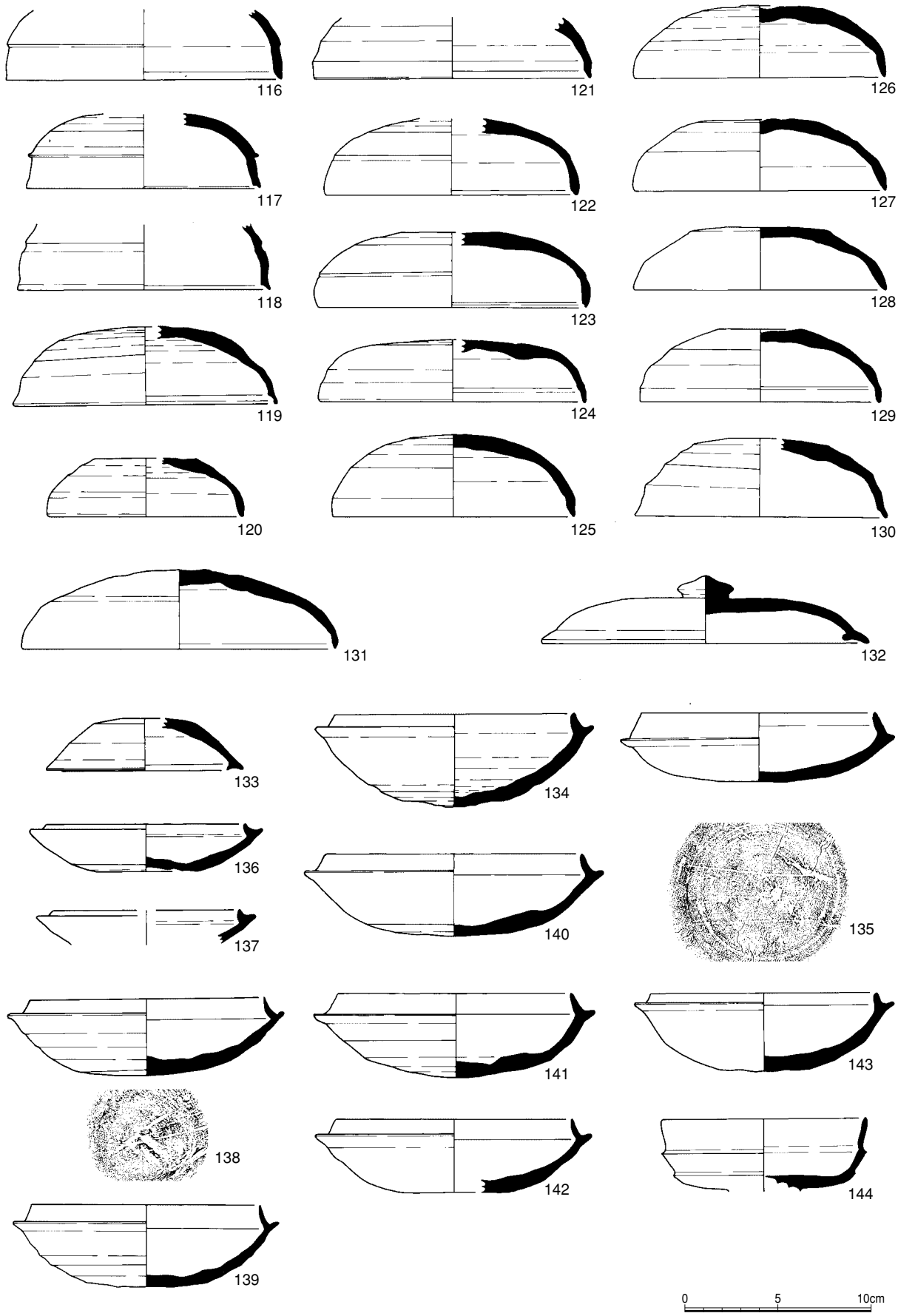
SD11(115)



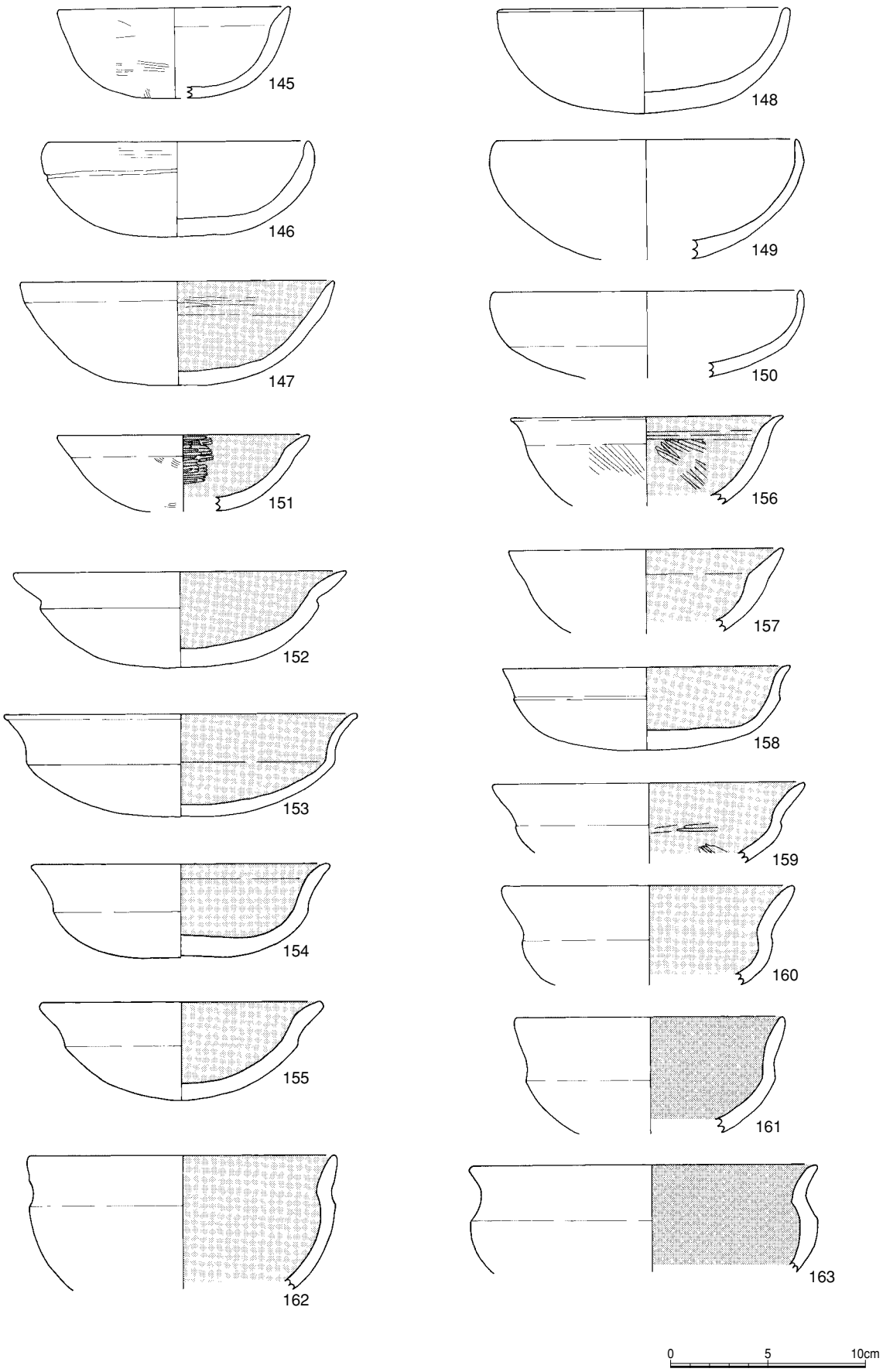
115

0 5 10cm

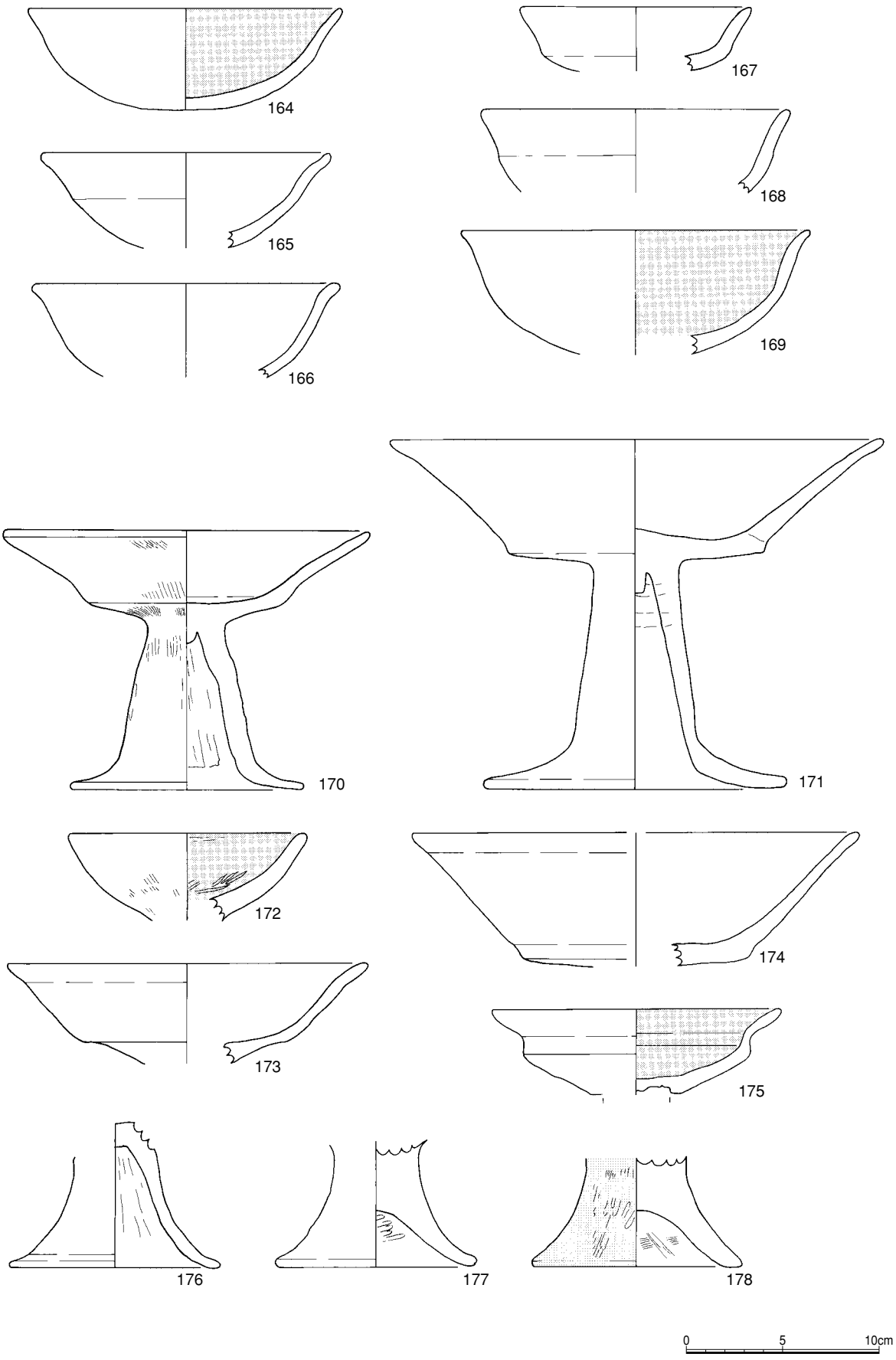
第96図　1986年度調査区遺物図(7) 須恵器



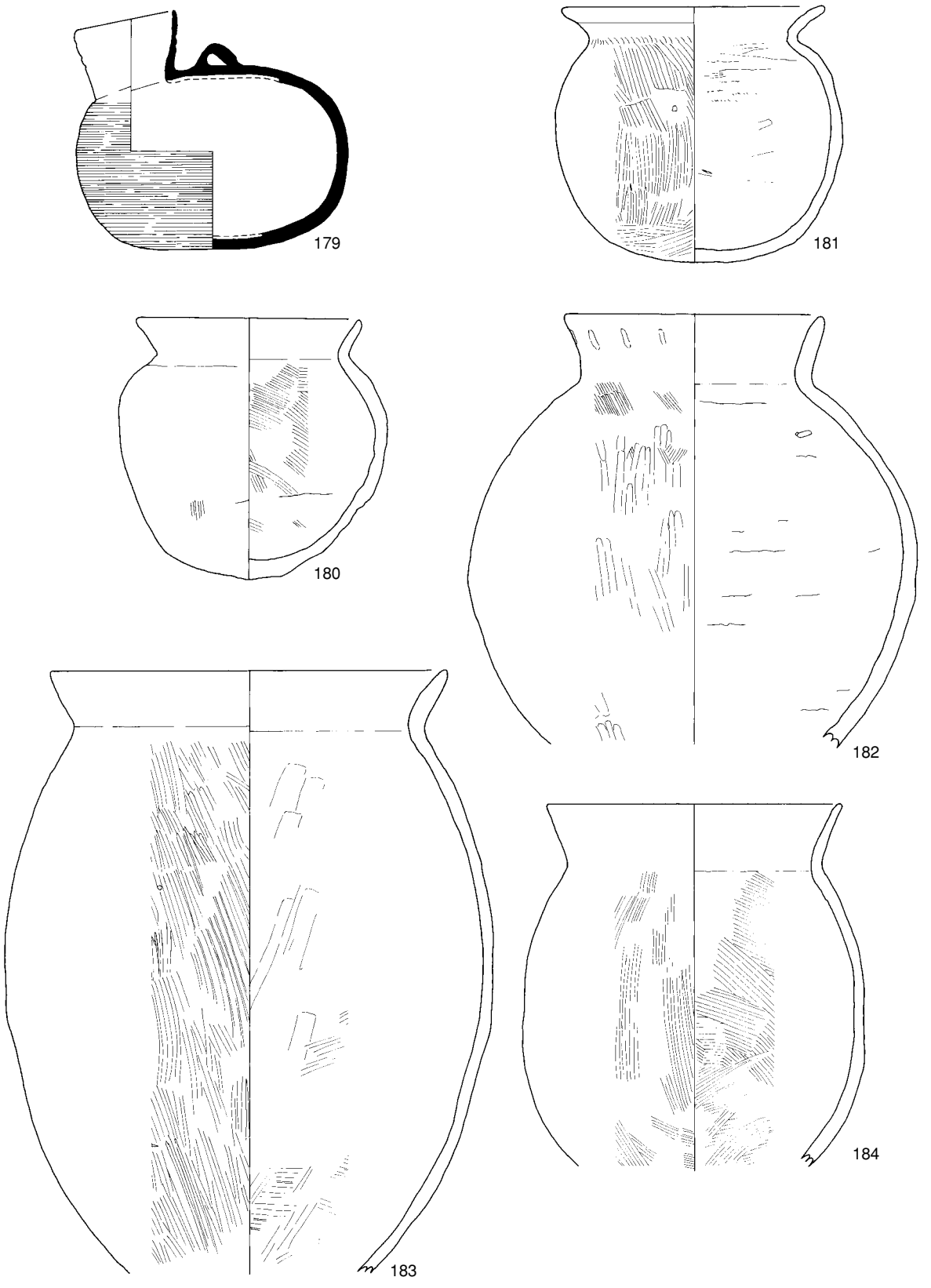

第97図　1986年度調査区遺物図(8) 須恵器



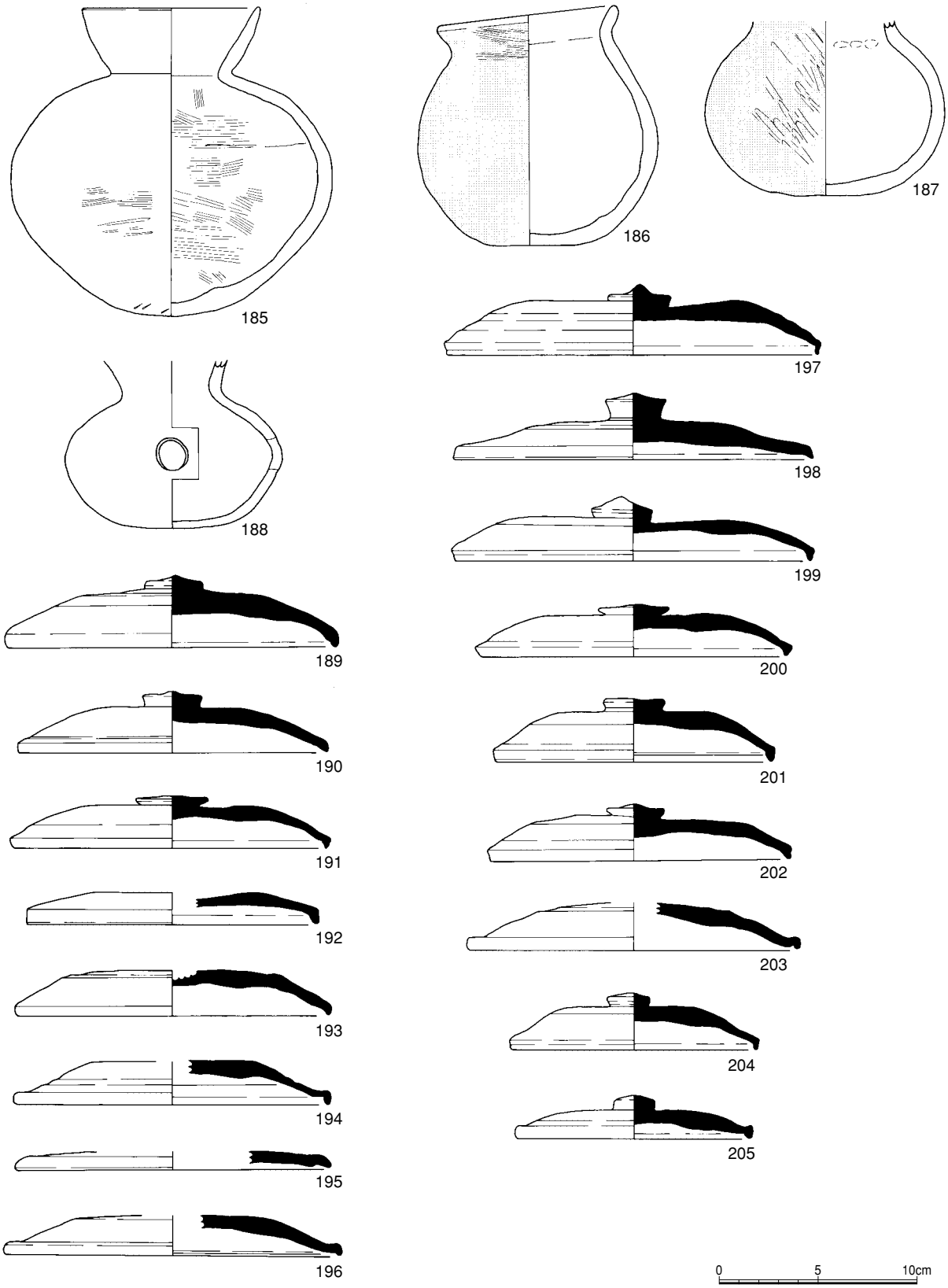

第98図　1986年度調査区遺物図(9) 須恵器



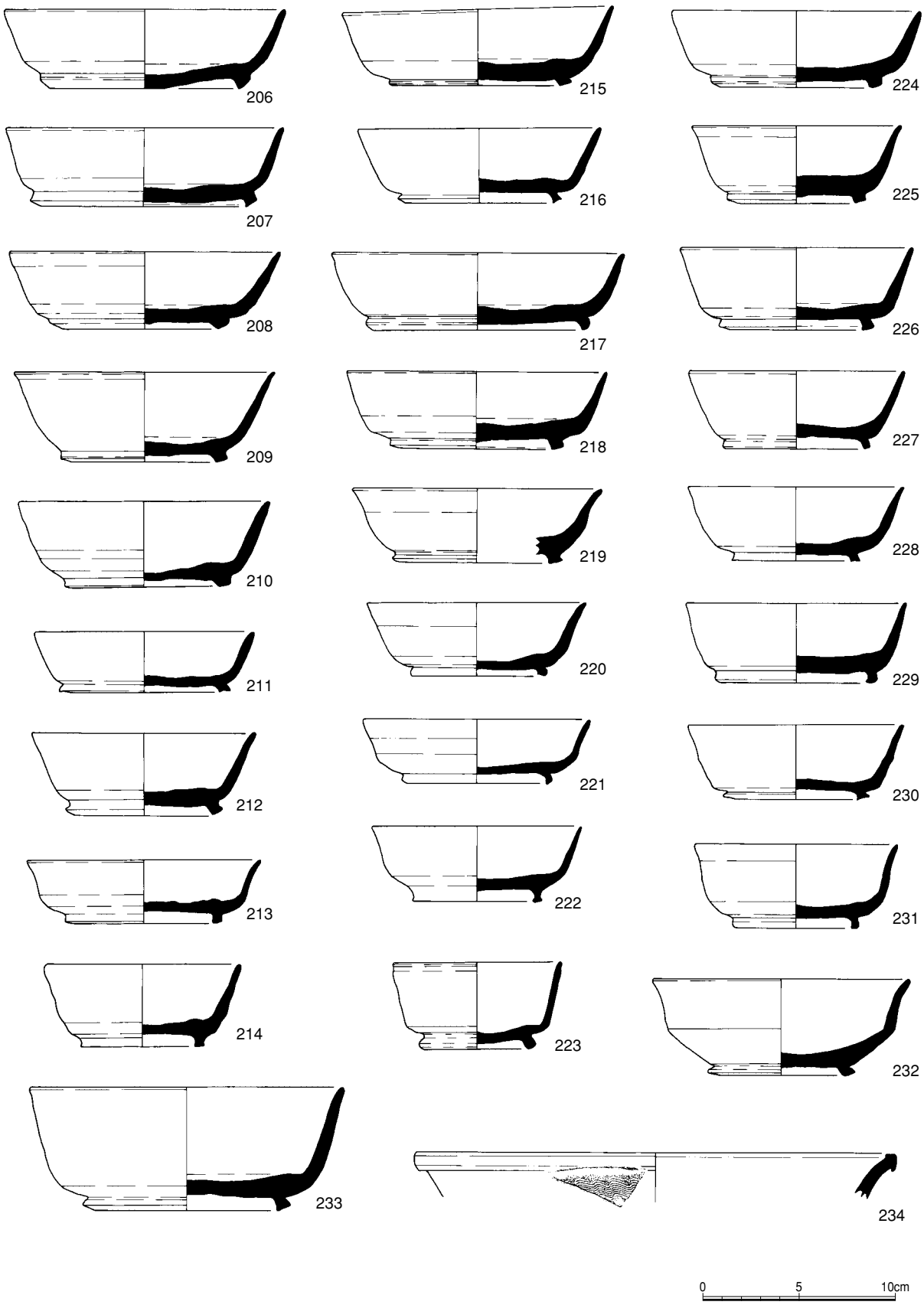

第99図　1986年度調査区遺物図(10) 須恵器



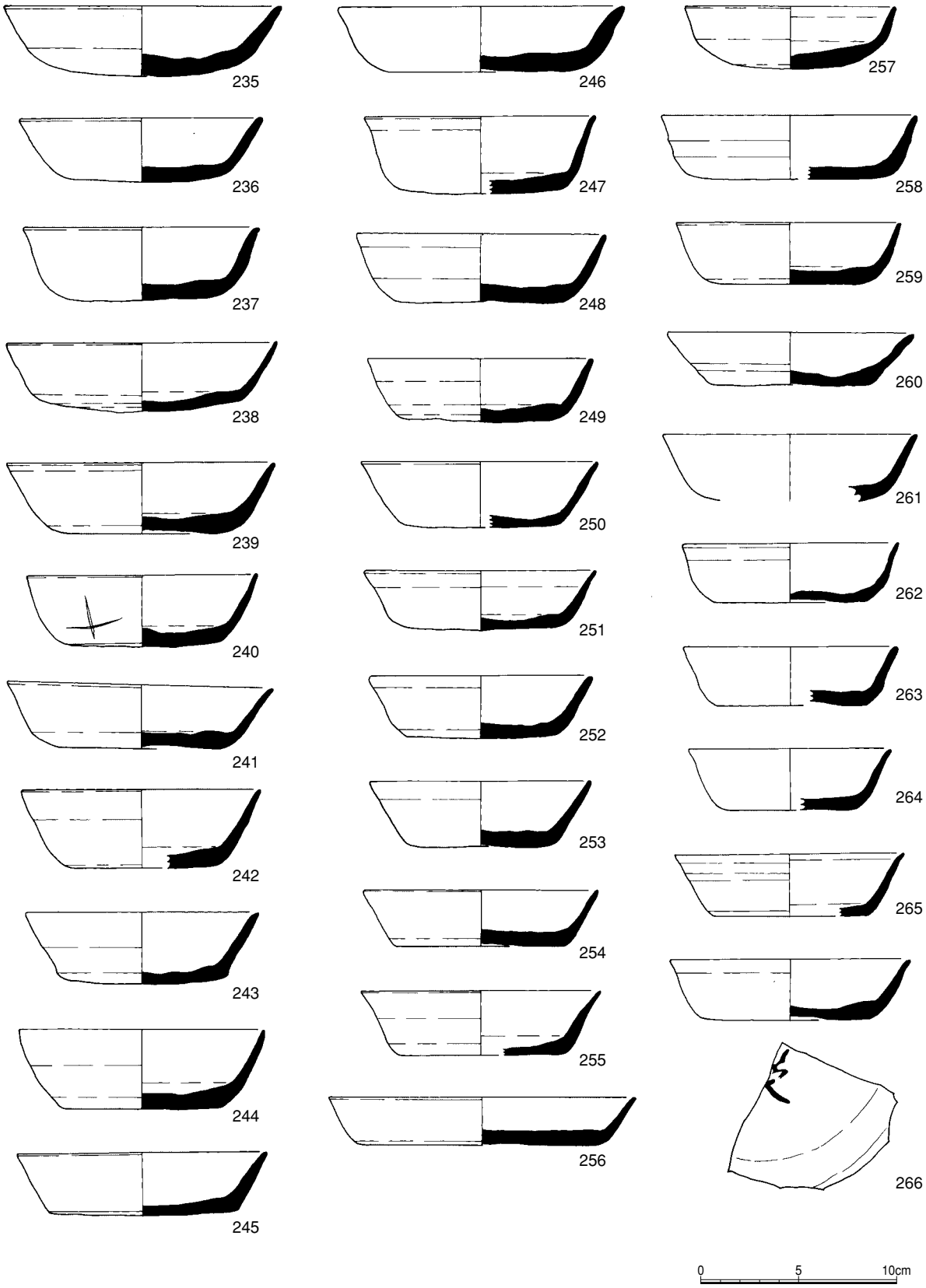

第100図　1986年度調査区遺物図(11) 須恵器・土師器



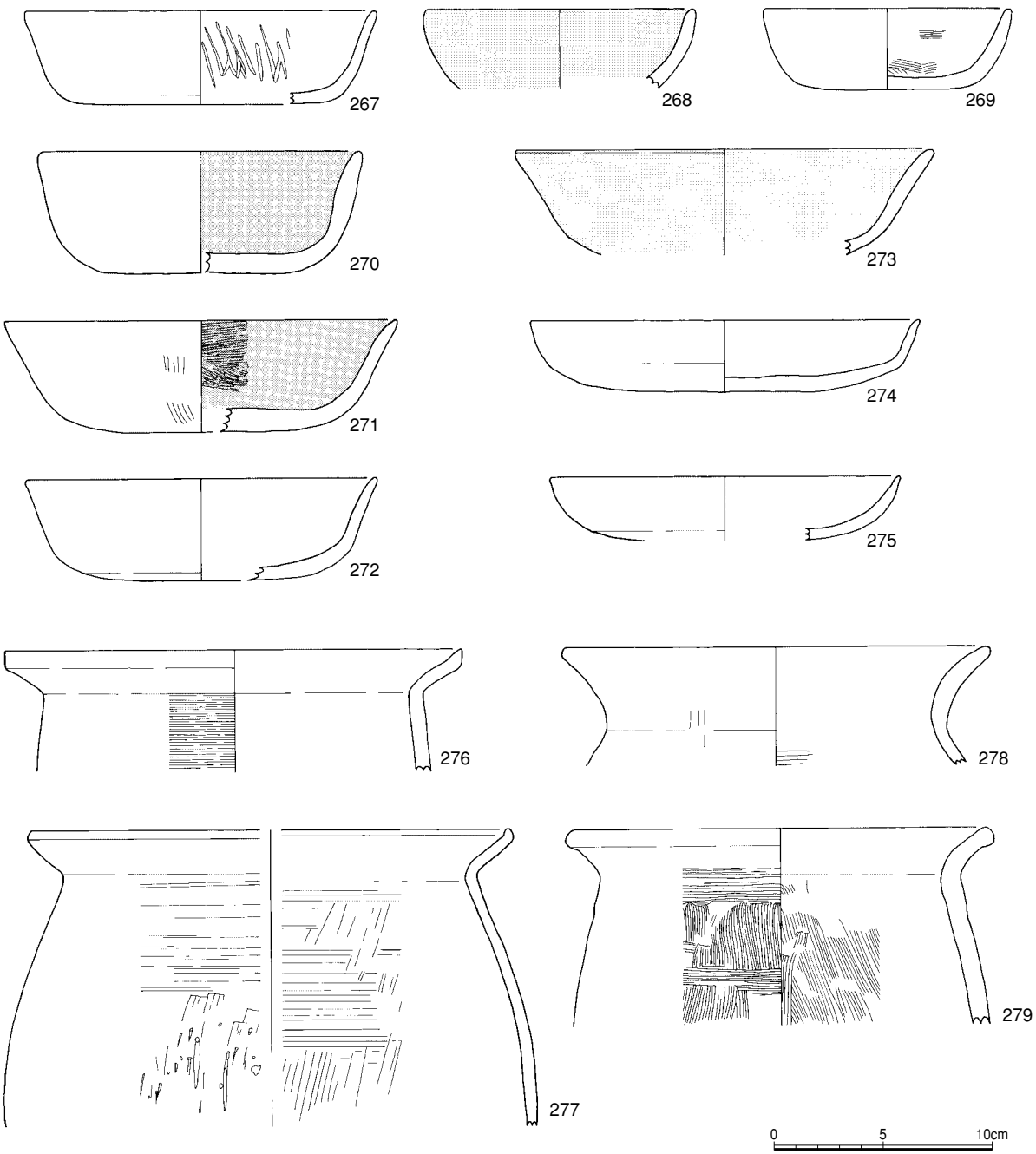

第101図　1986年度調査区遺物図(12) 須恵器・土師器



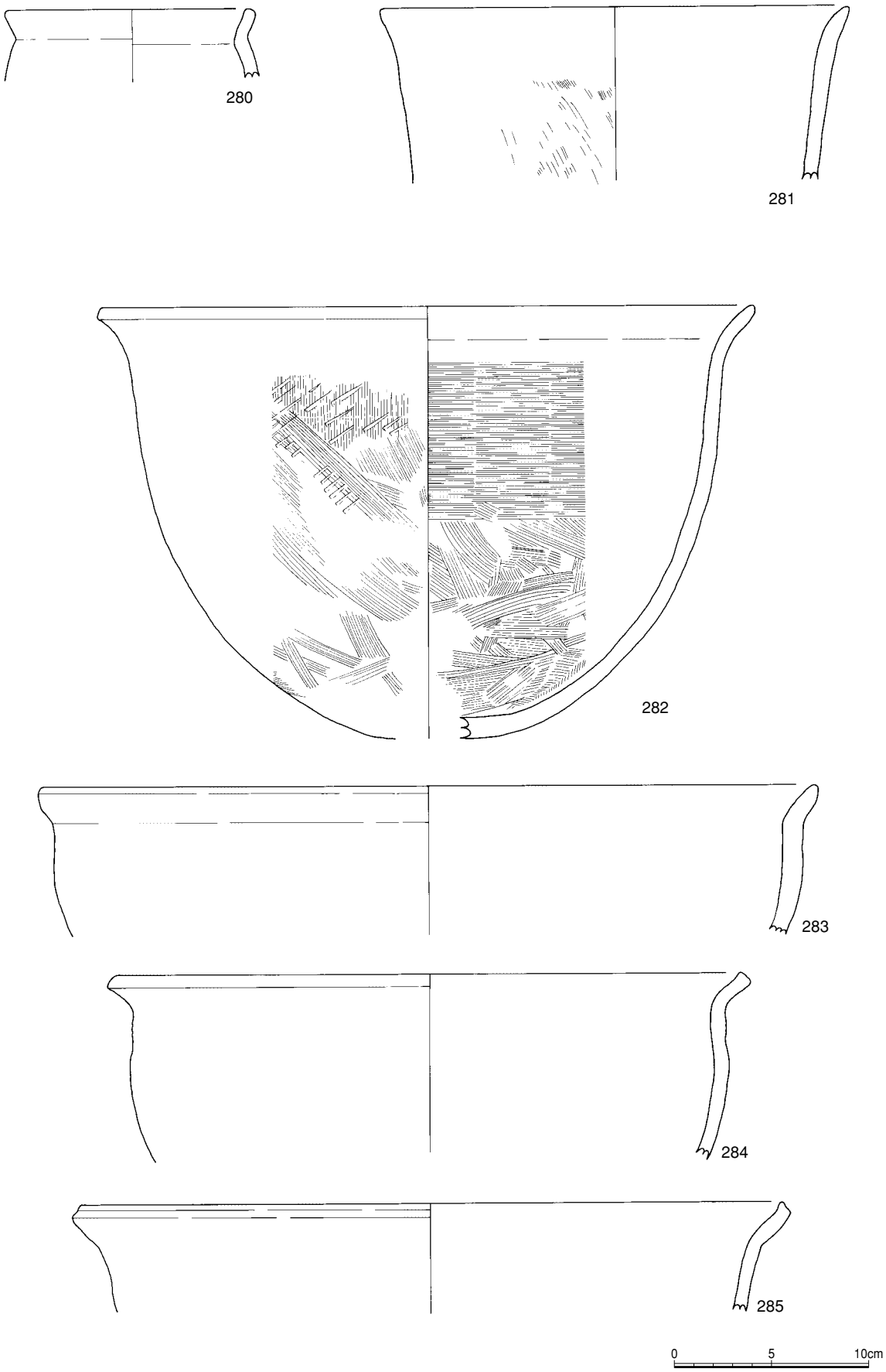

第102図　1986年度調査区遺物図(13) 須恵器



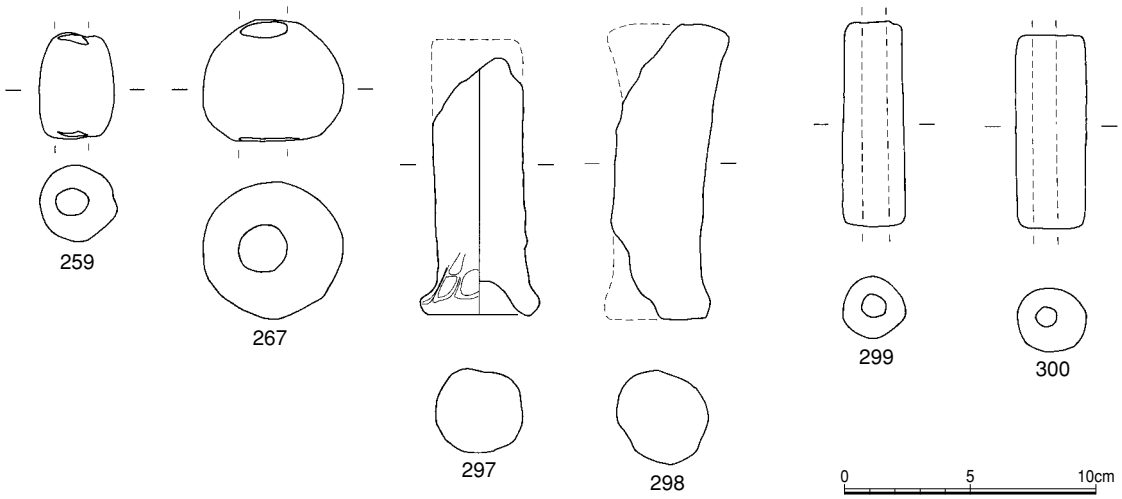

第103図　1986年度調査区遺物図(14) 須恵器・墨書土器



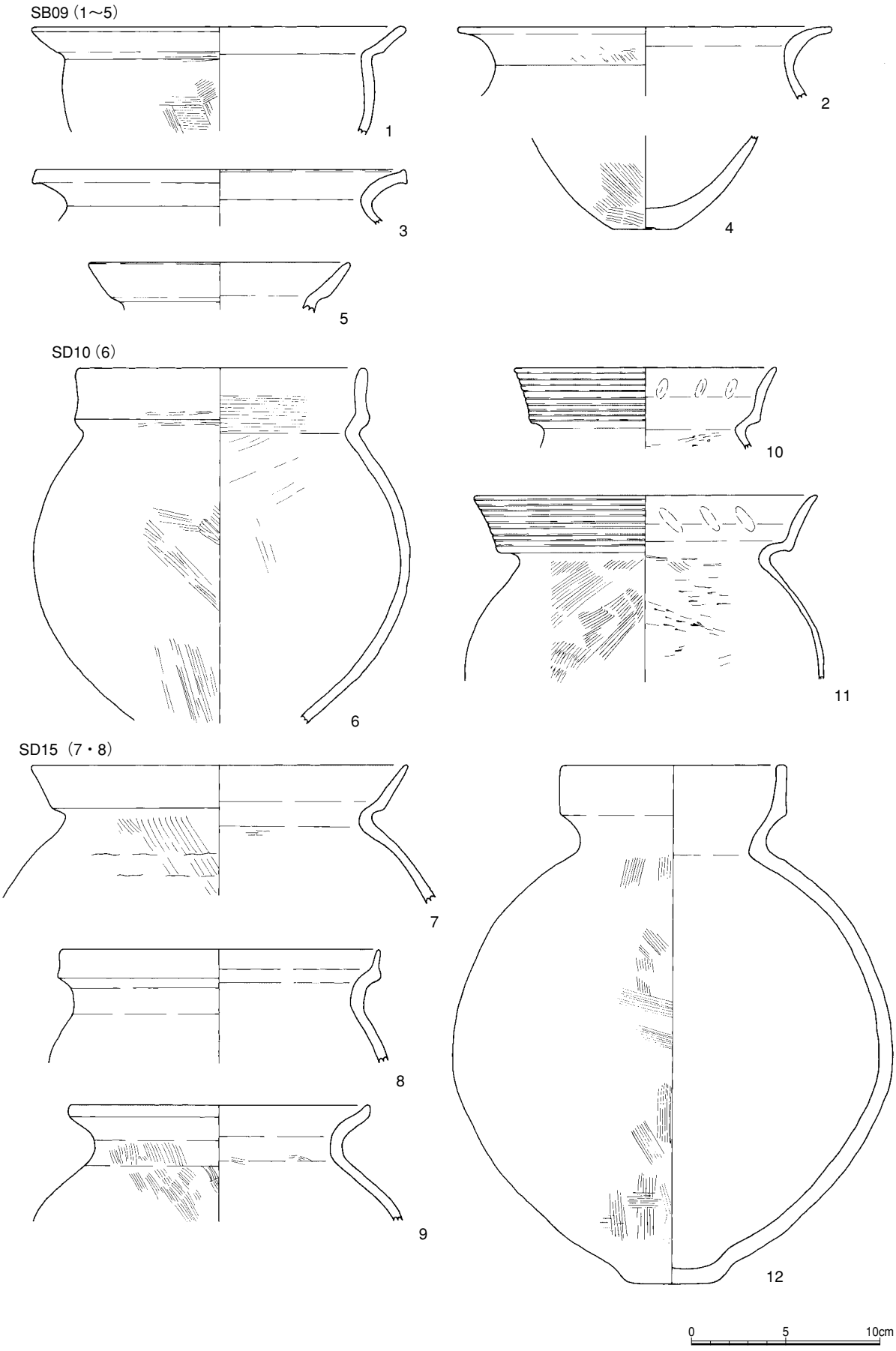

第104図　1986年度調査区遺物図(15) 土師器　赤彩土器・黒色土器



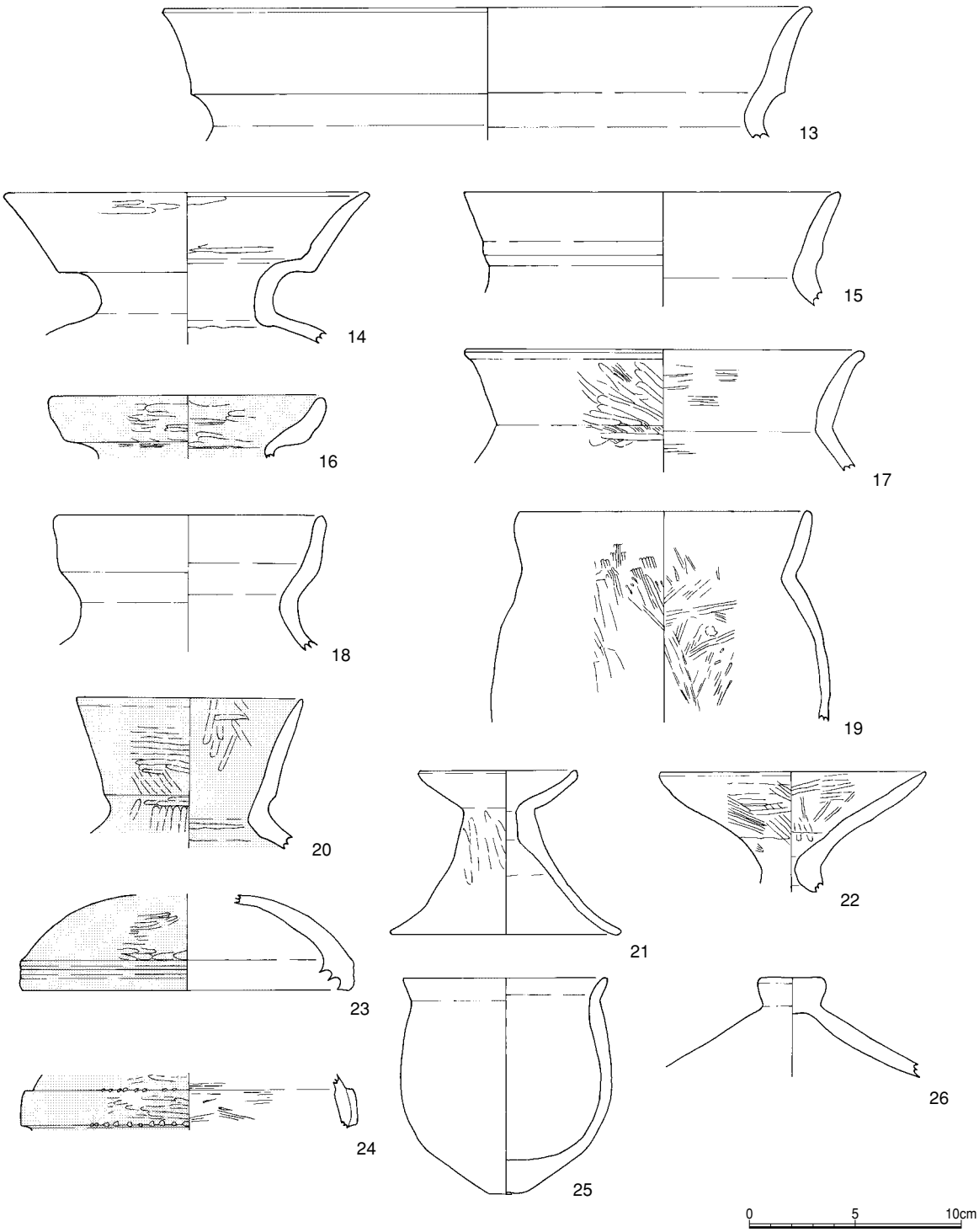

第105図　1986年度調査区遺物図(16) 土師器



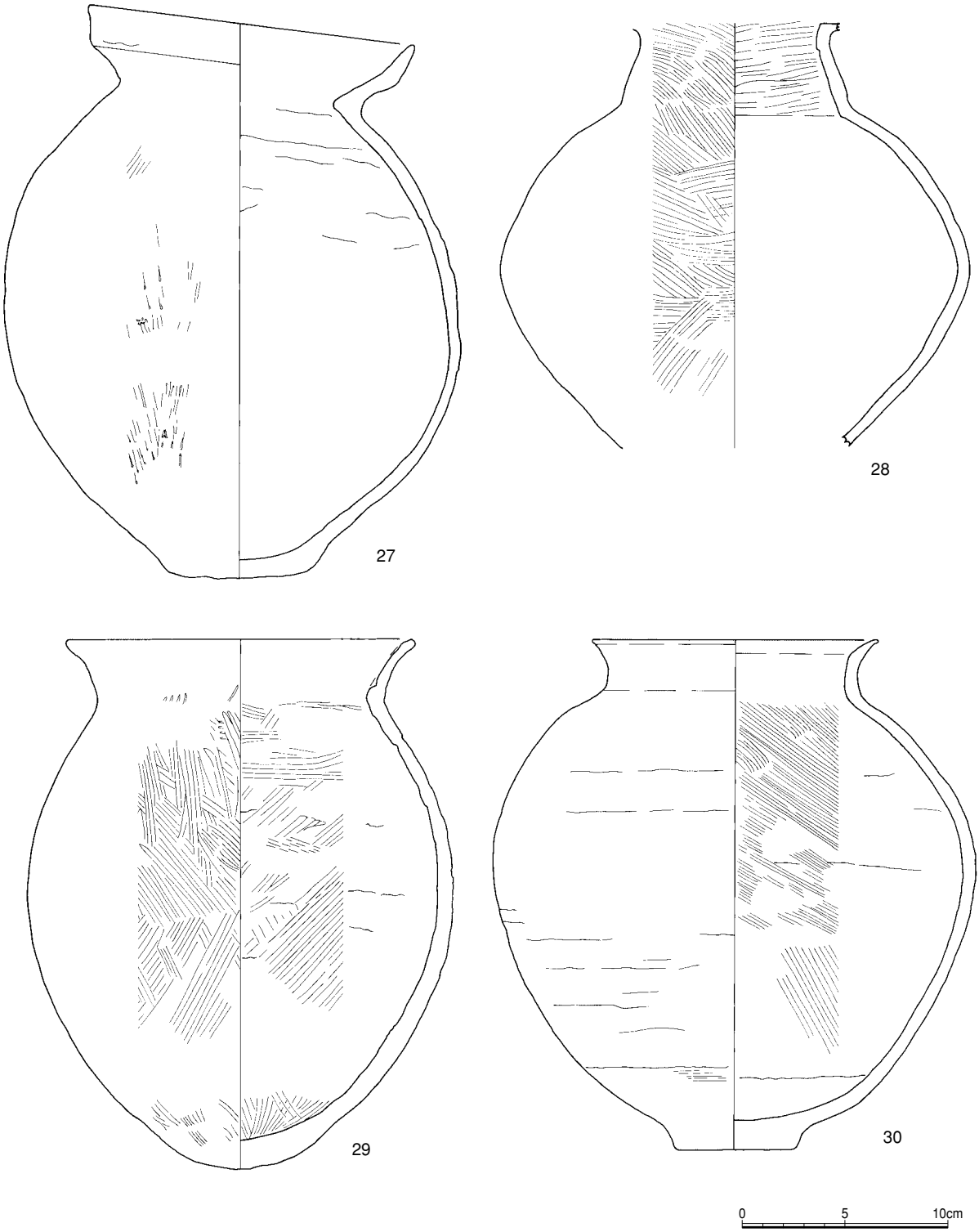

第106図　1986年度調査区遺物図⑰ 土錘・支脚・管玉



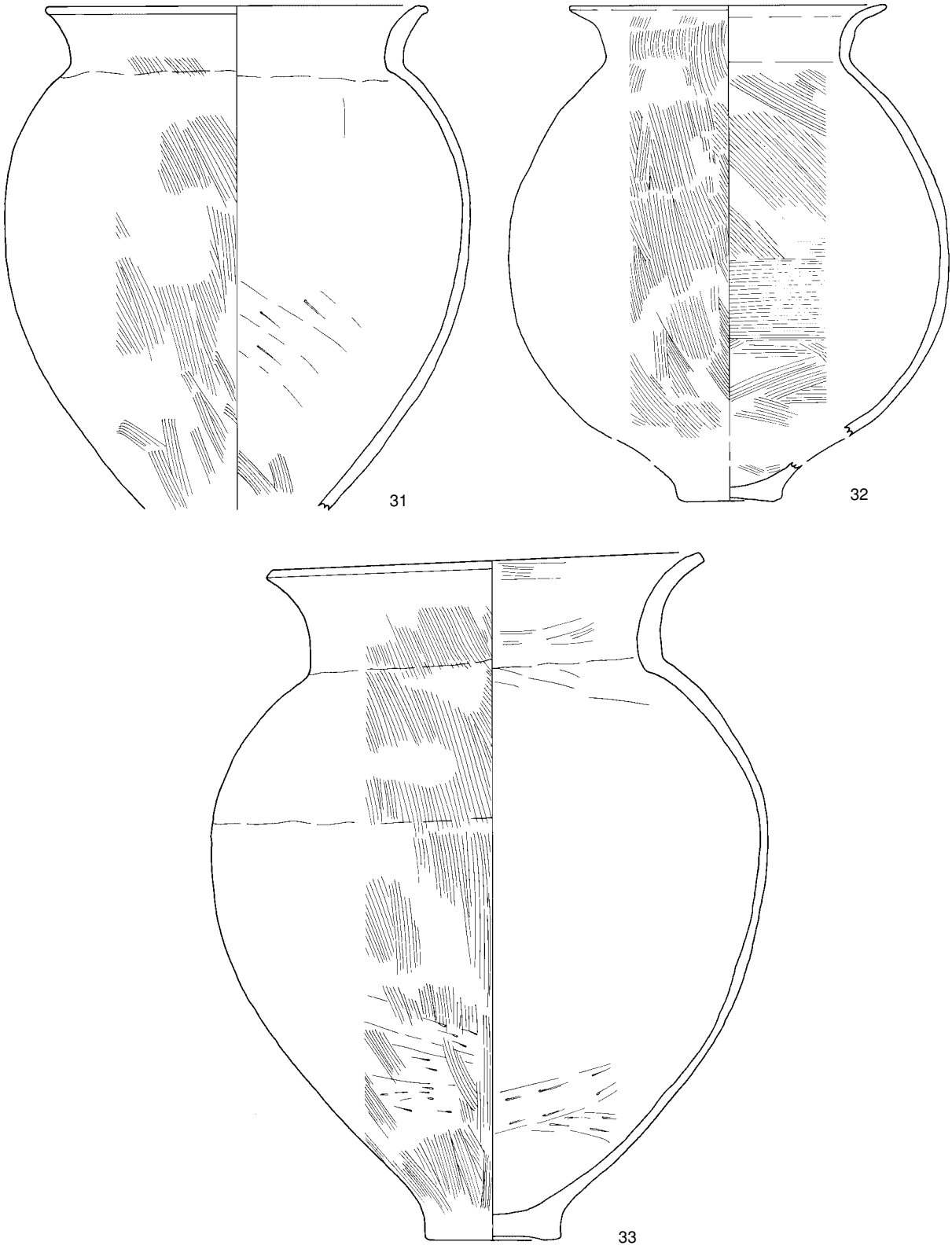

第107図　1987年度調査区遺物図(1) 弥生土器・土師器



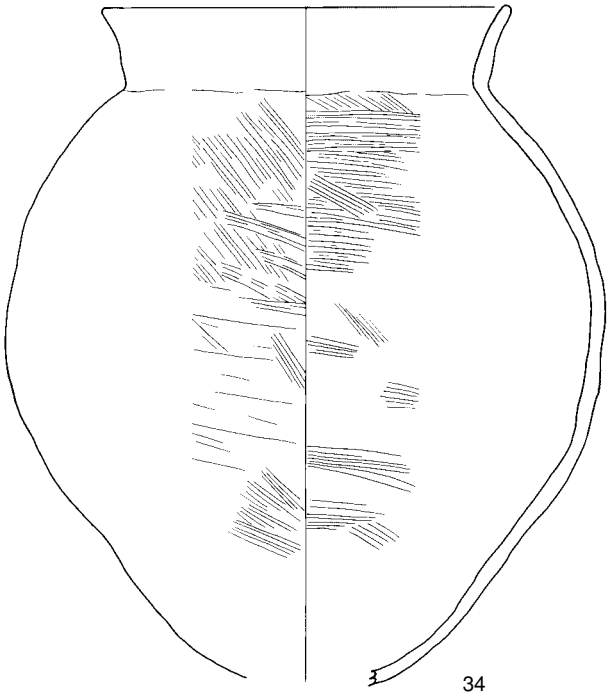

第108図　1987年度調査区遺物図(2) 弥生土器・土師器

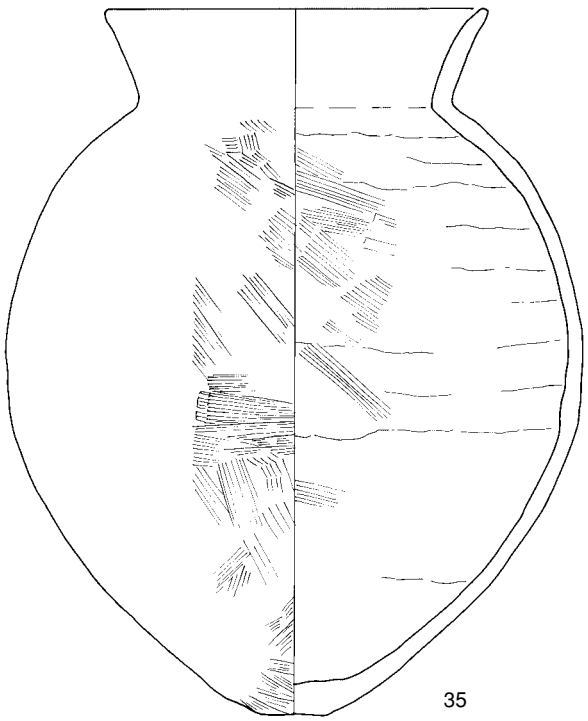


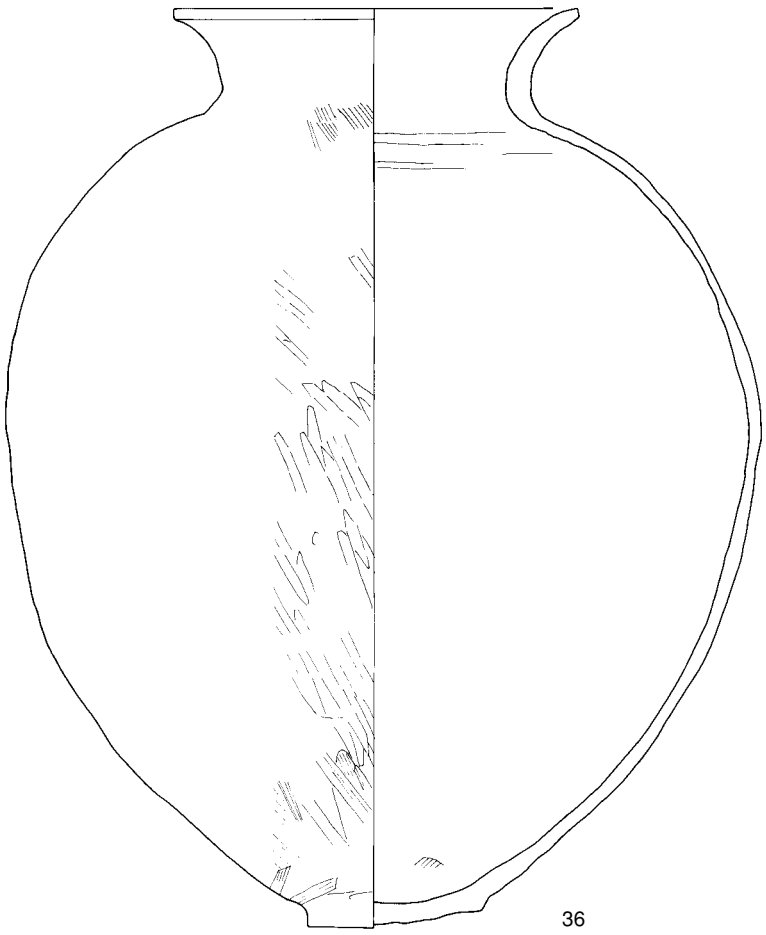

第109図　1987年度調査区遺物図(3) 弥生土器・土師器

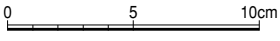



第110図　1987年度調査区遺物図(4) 土師器

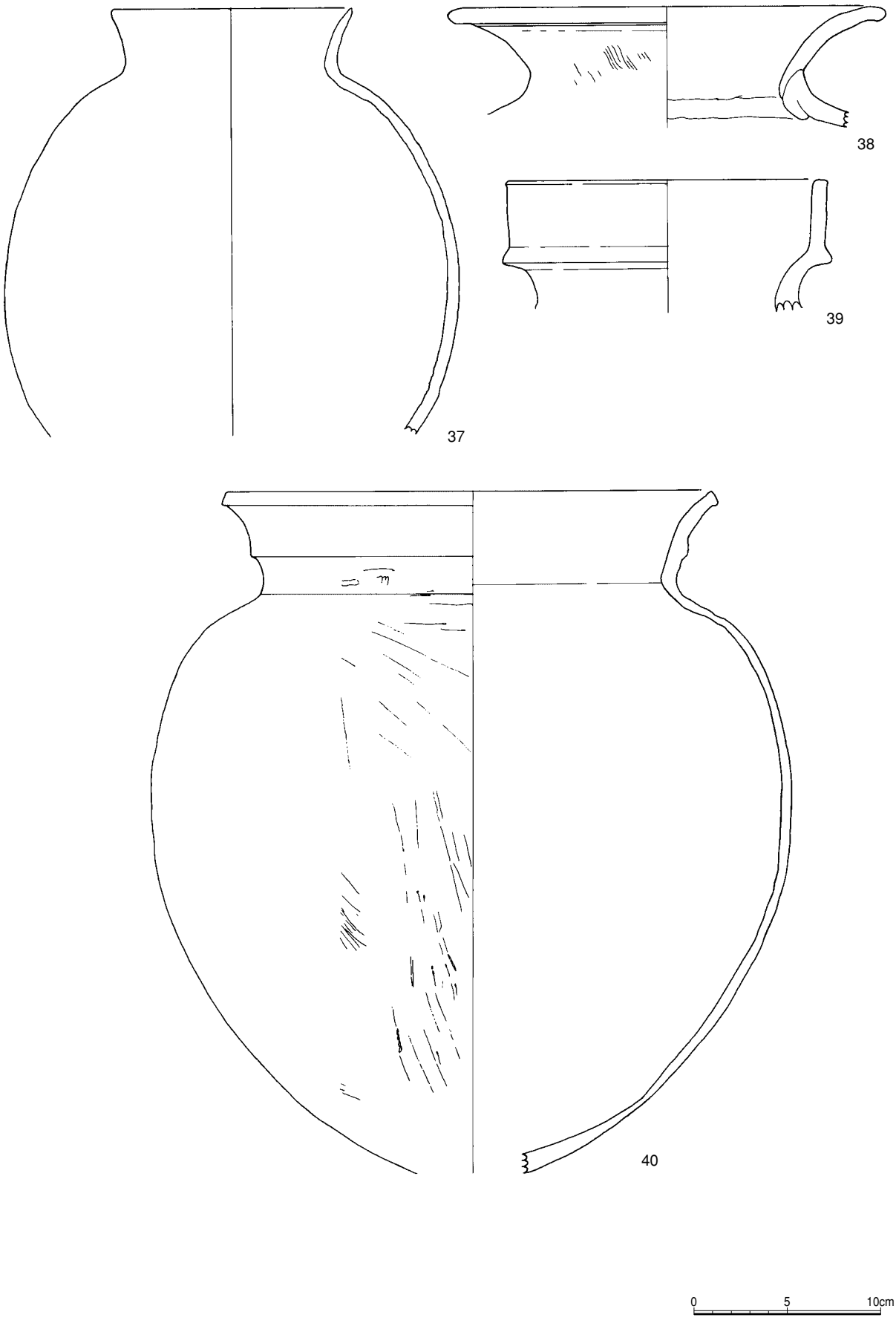


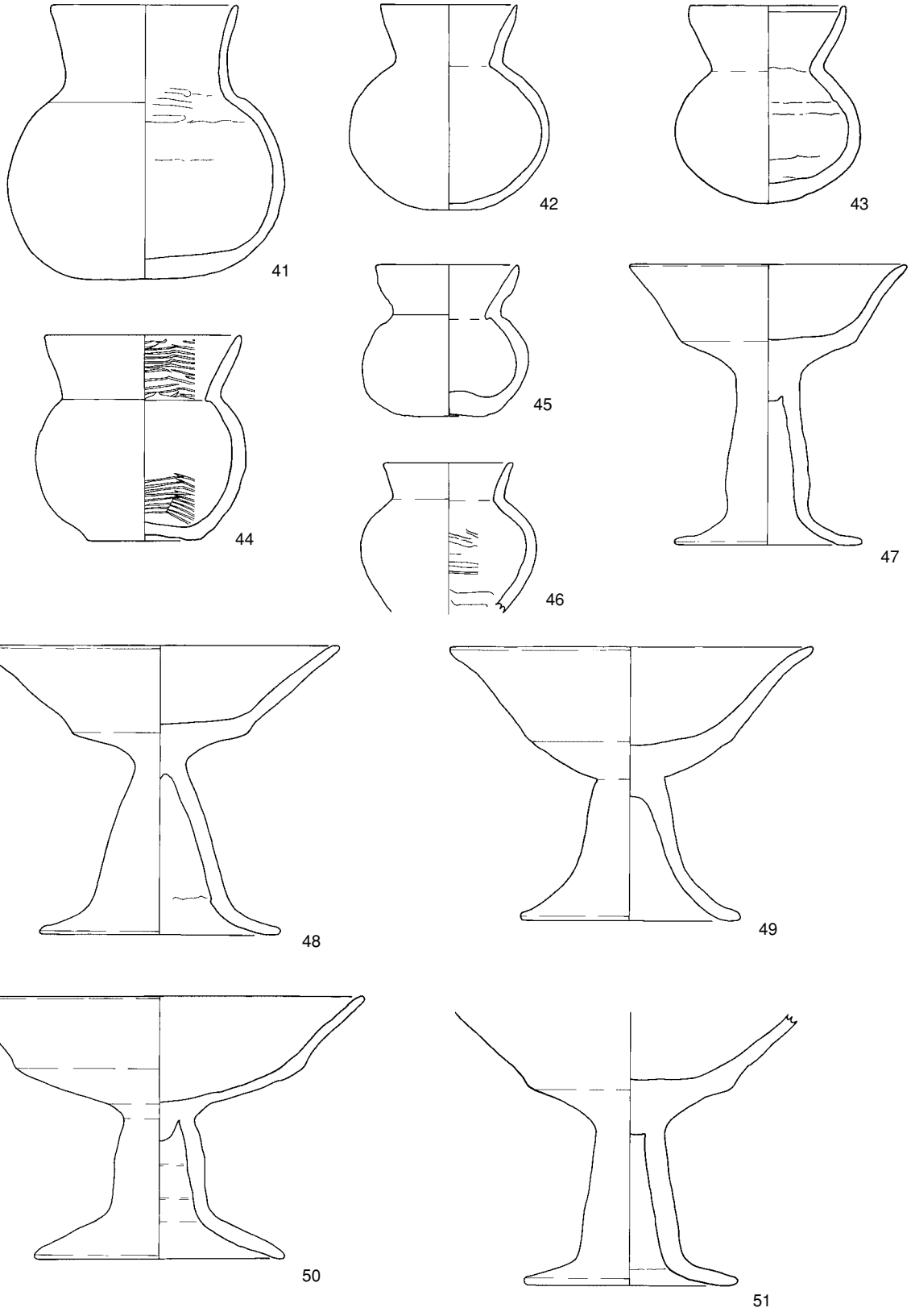



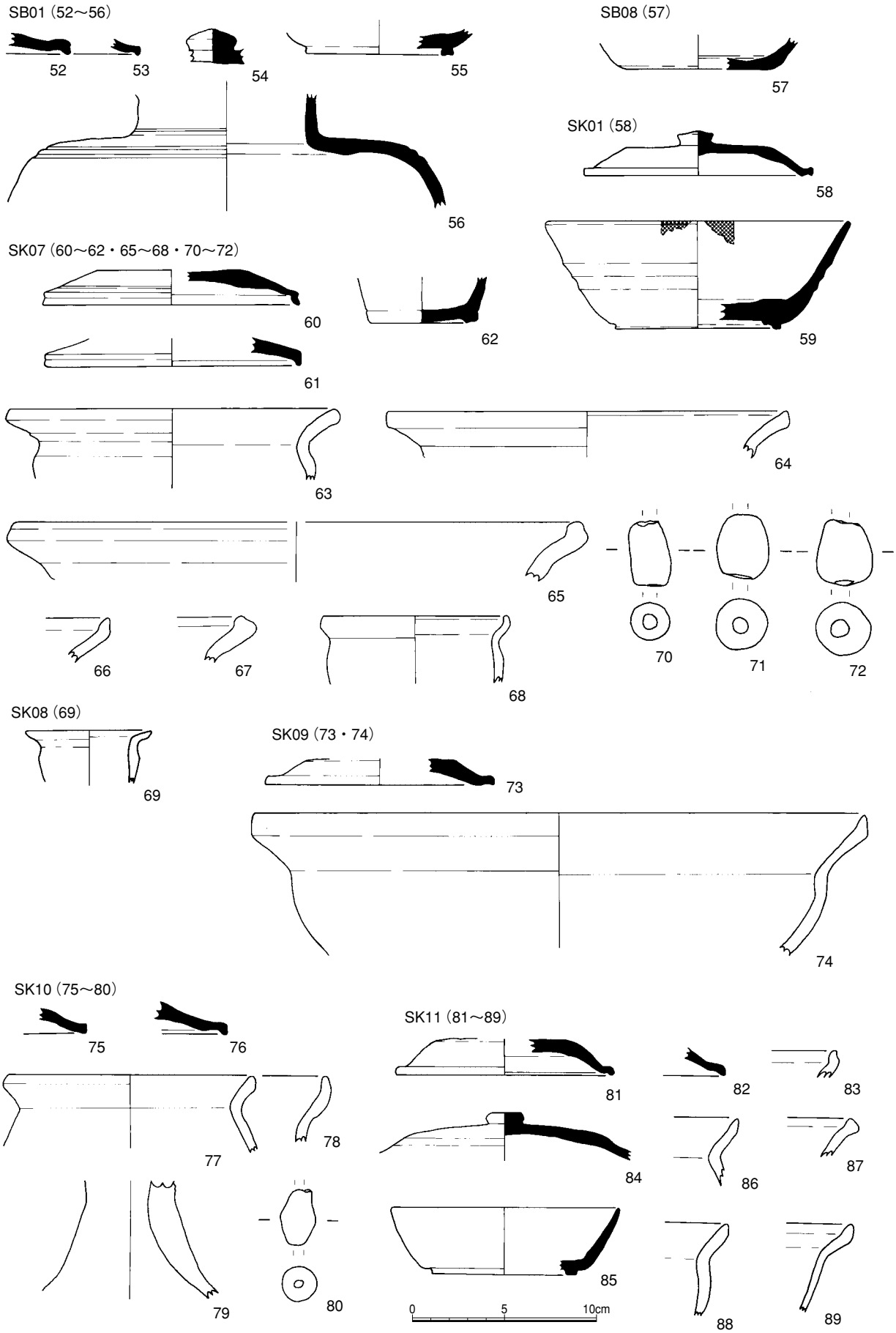

第111図　1987年度調査区遺物図(5) 土師器



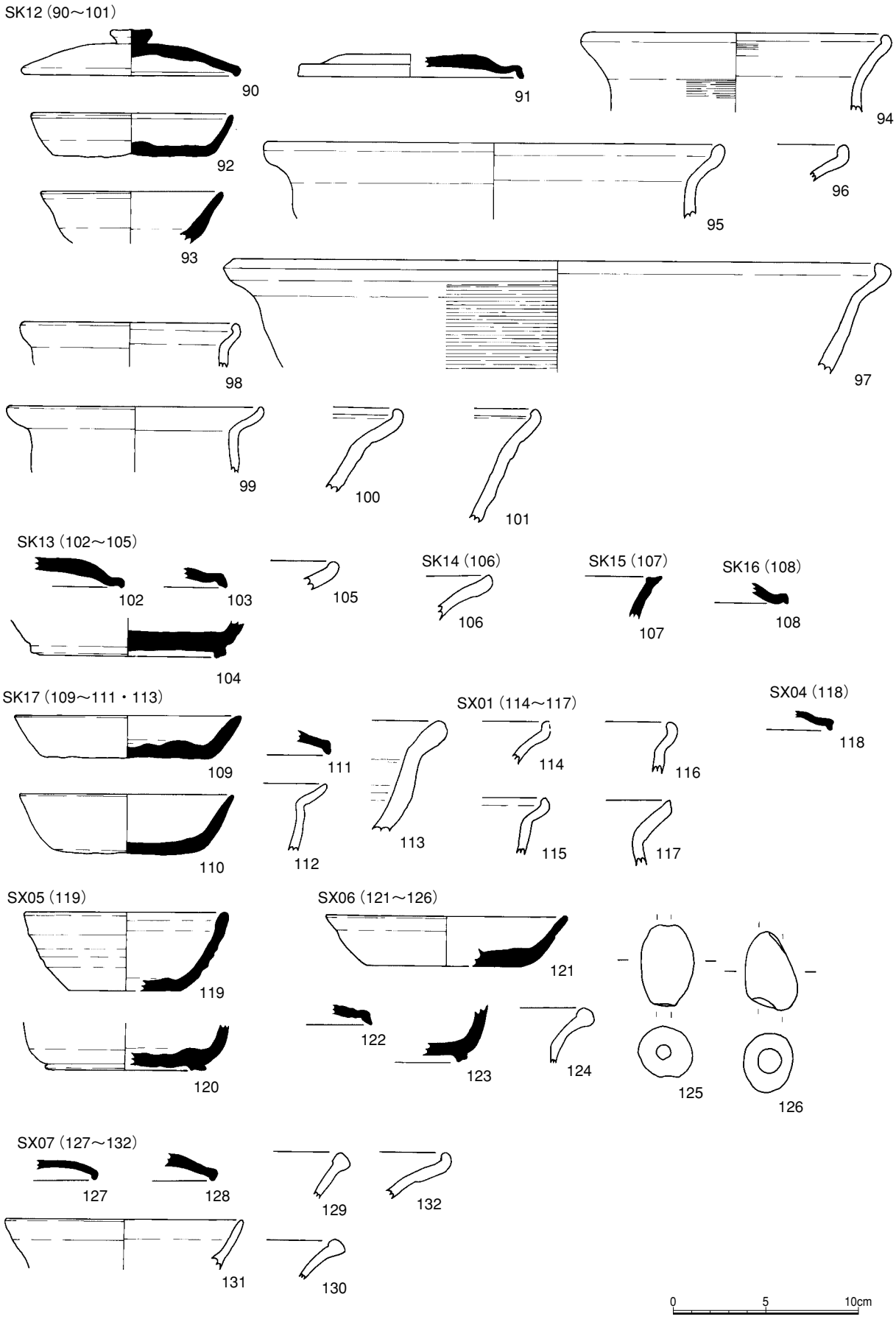

第112図　1987年度調査区遺物図(6) 土師器




第113図　1987年度調査区遺物図(7) 土師器

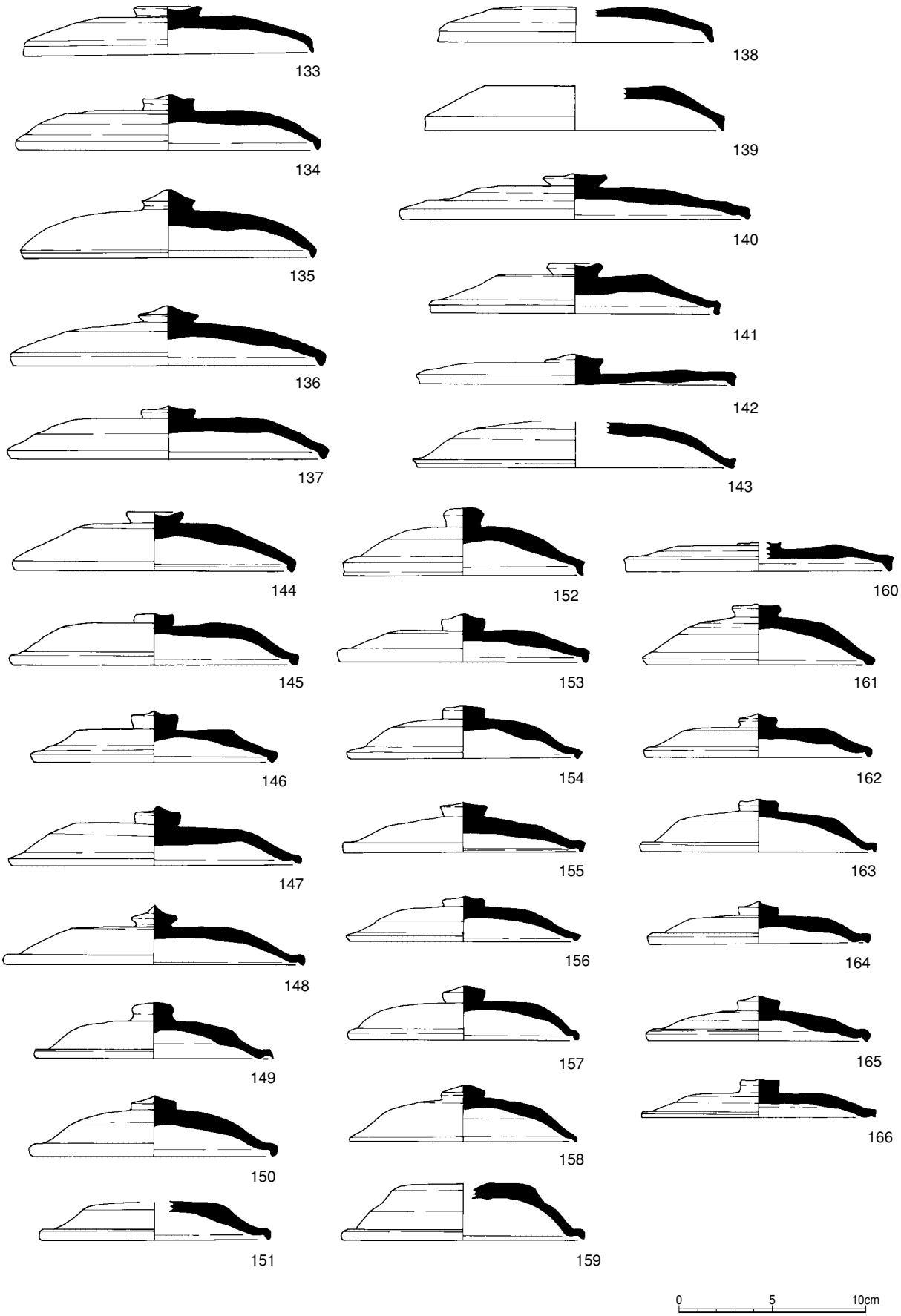



第114図　1987年度調査区遺物図(8) 須恵器・土師器



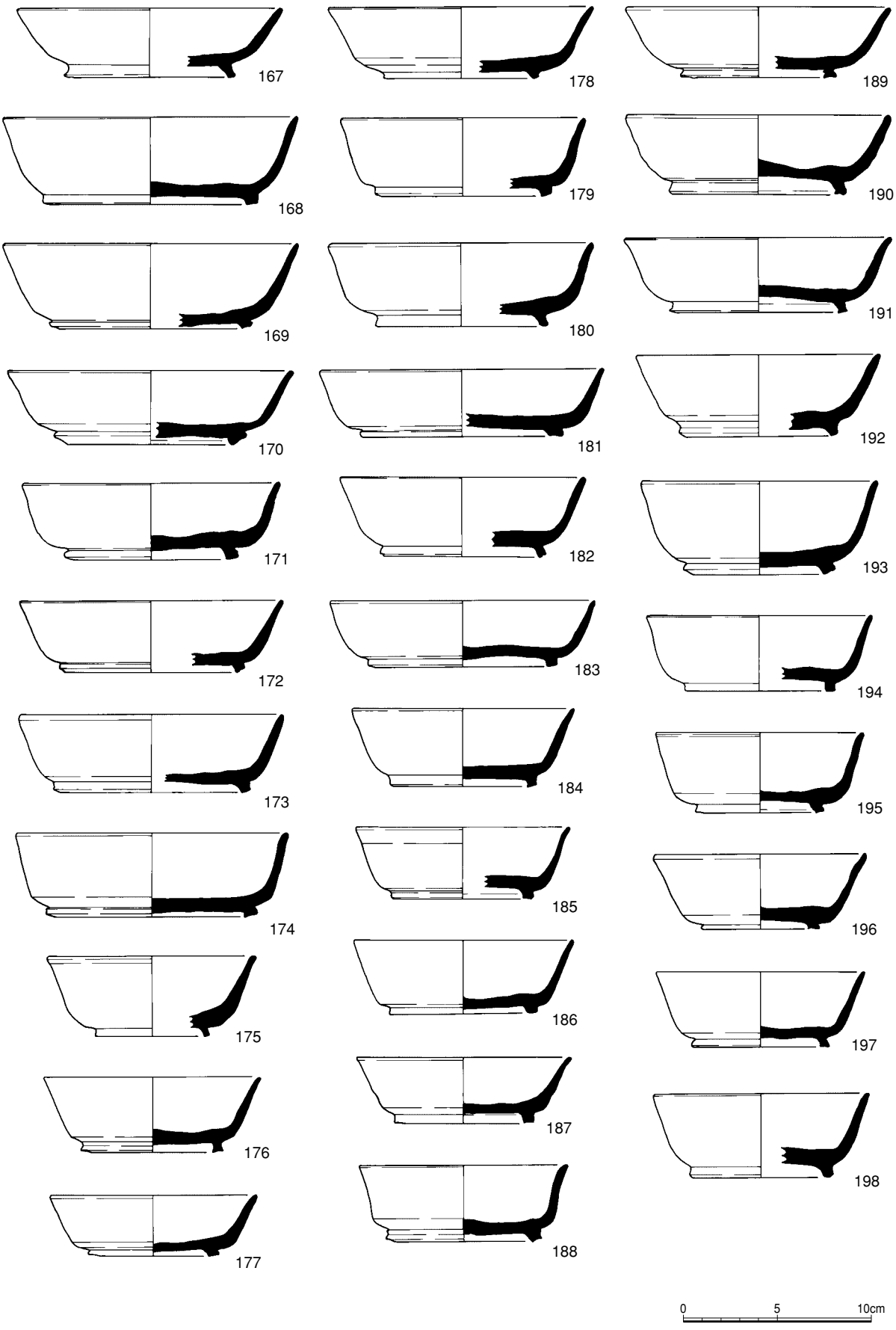

第115図　1987年度調査区遺物図(9) 須恵器・土師器

SD11 (133～166)



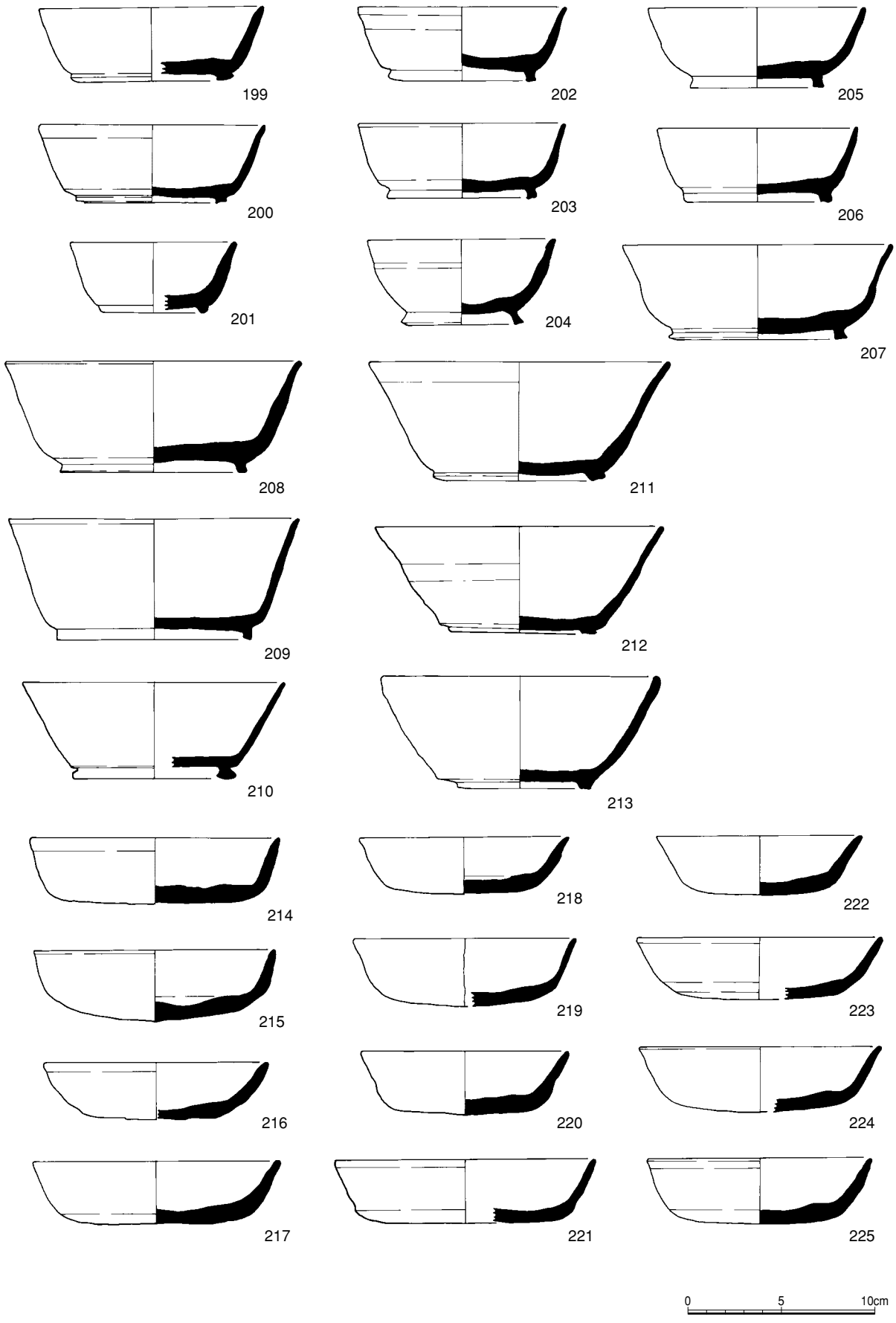

第116図　1987年度調査区遺物図(10) 須恵器

SD11 (167～198)



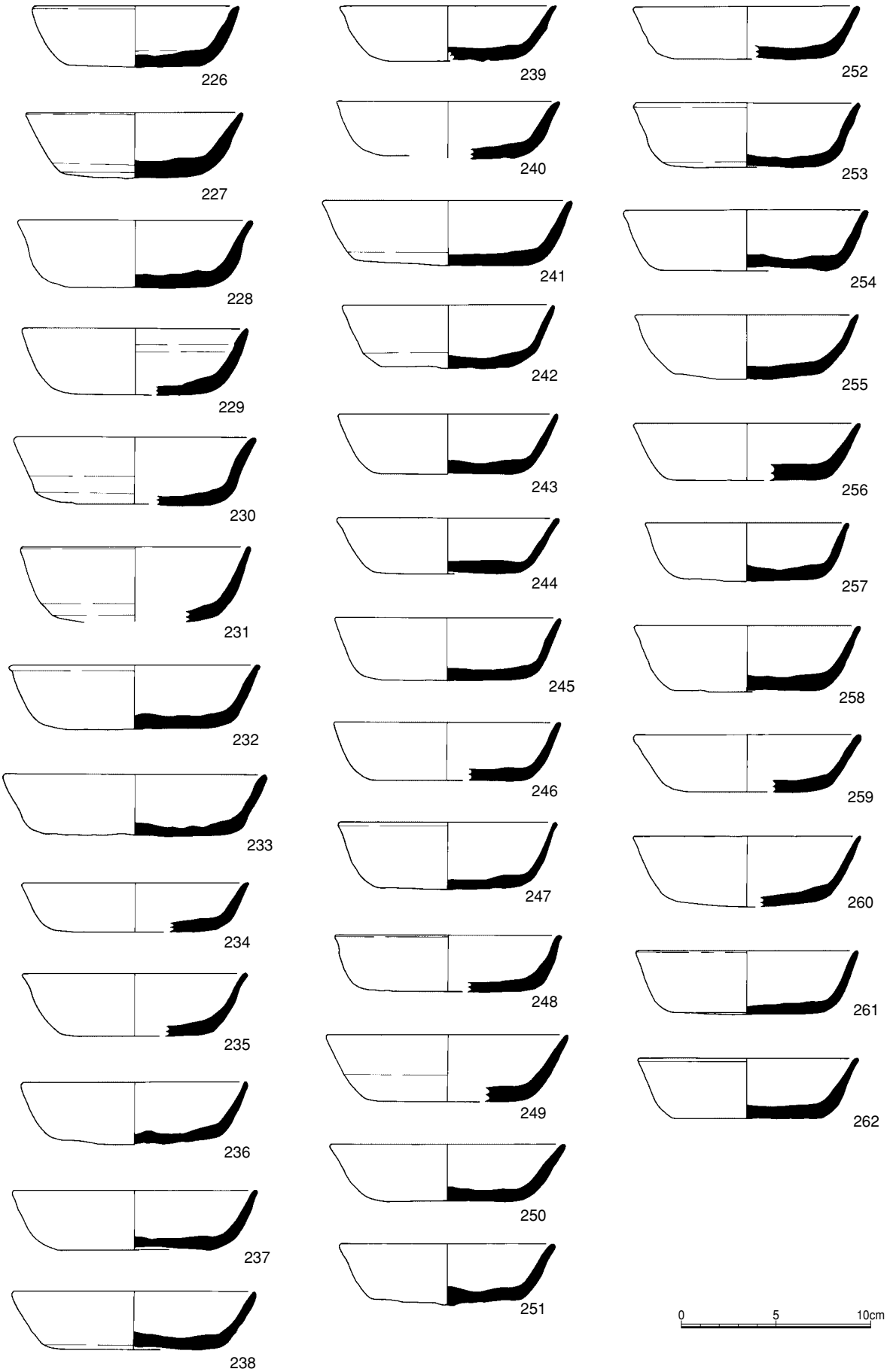

第117図　1987年度調査区遺物図(11) 須恵器

SD11 (199～225)

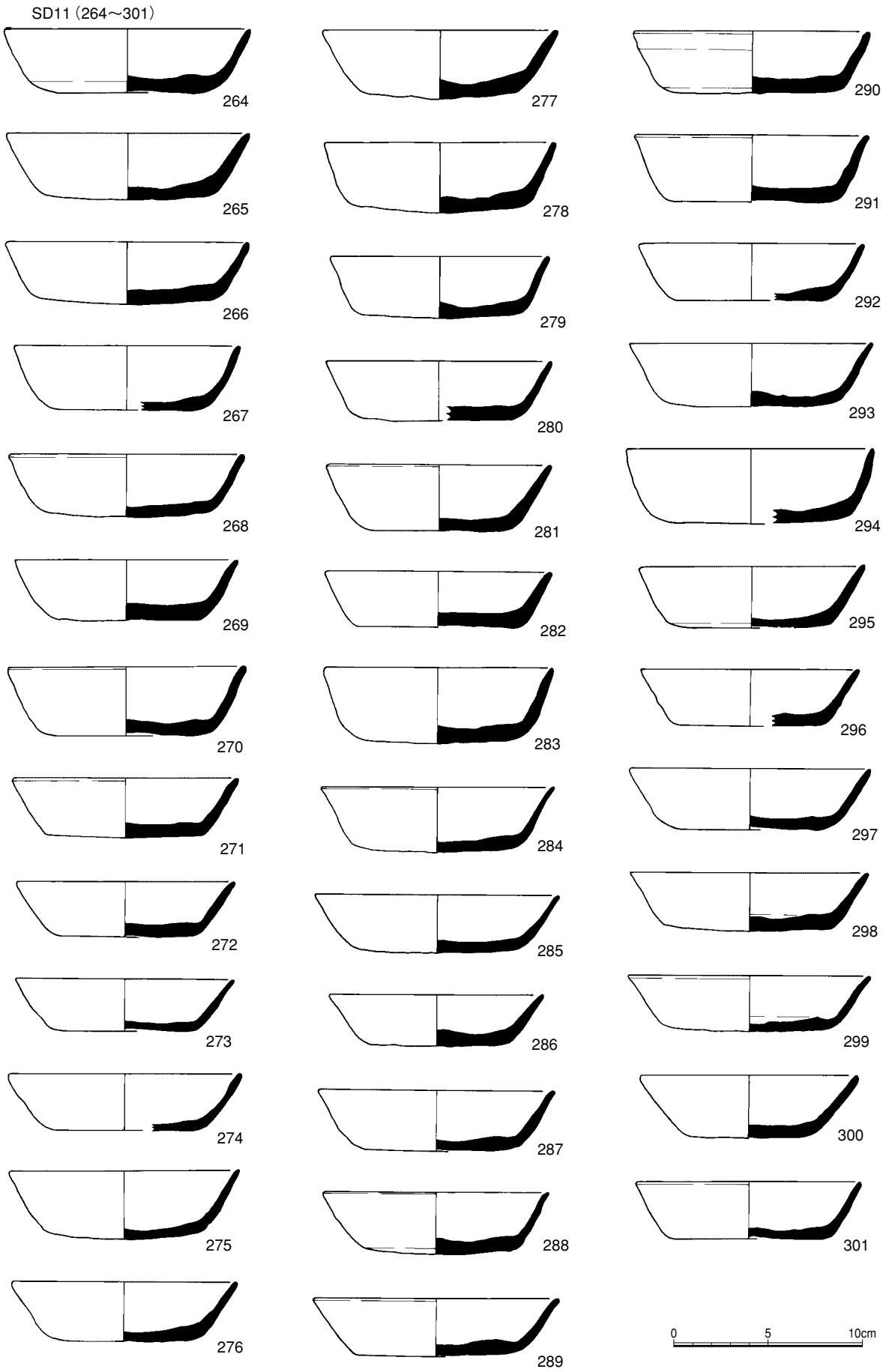



第118図　1987年度調査区遺物図(12) 須恵器

SD11（226～263）

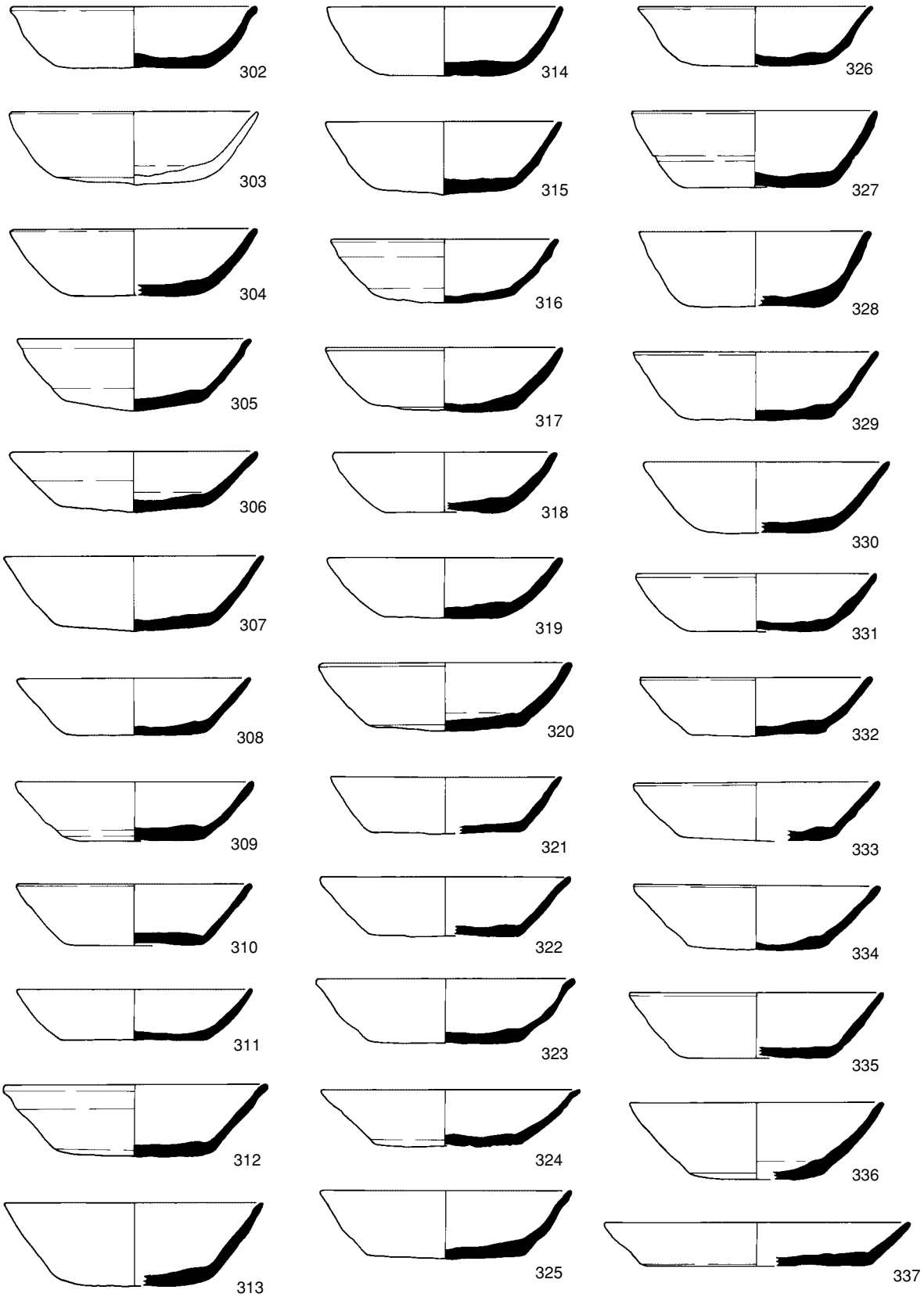



第119図　1987年度調査区遺物図(13) 須恵器

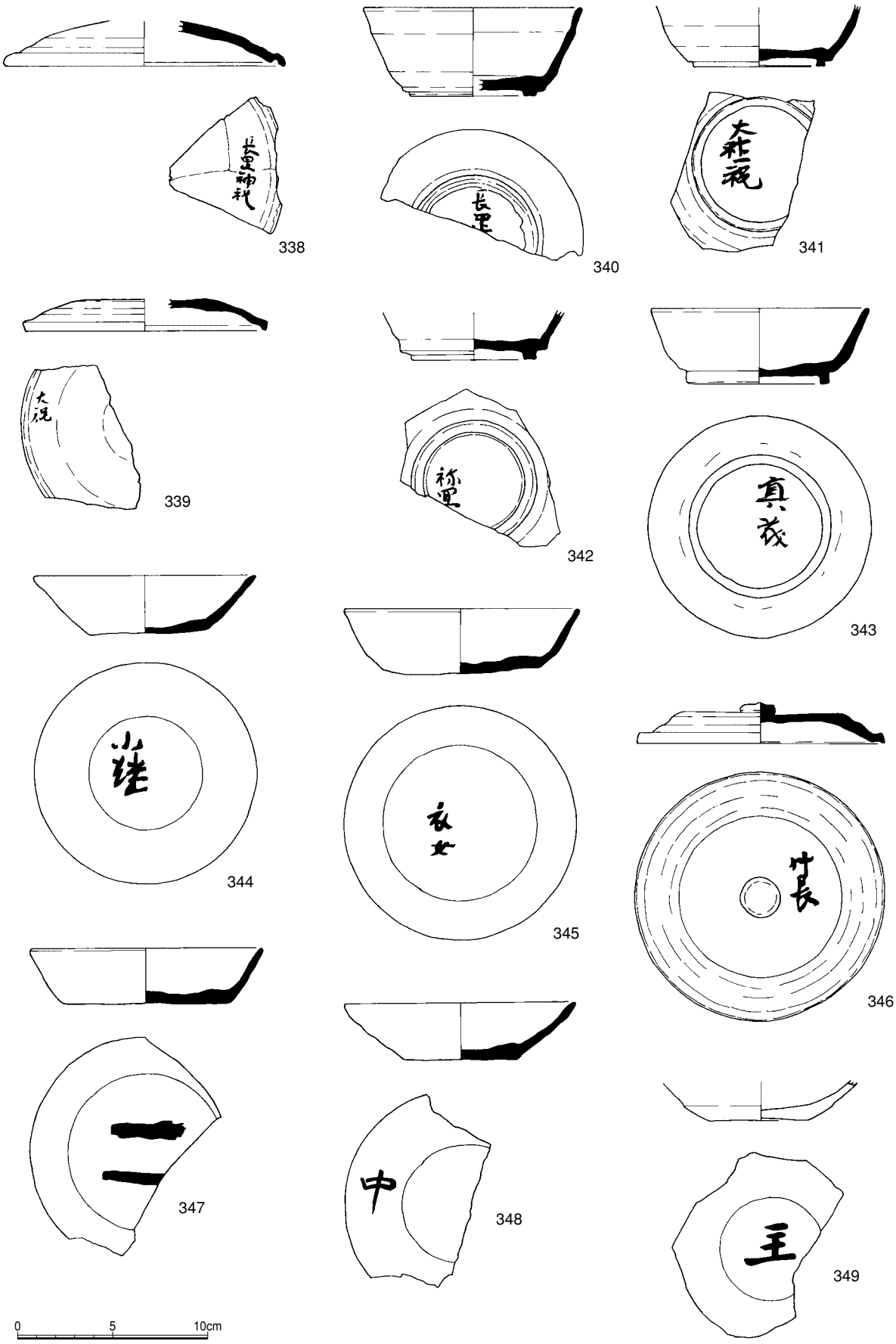



第120図　1987年度調査区遺物図(14) 須恵器

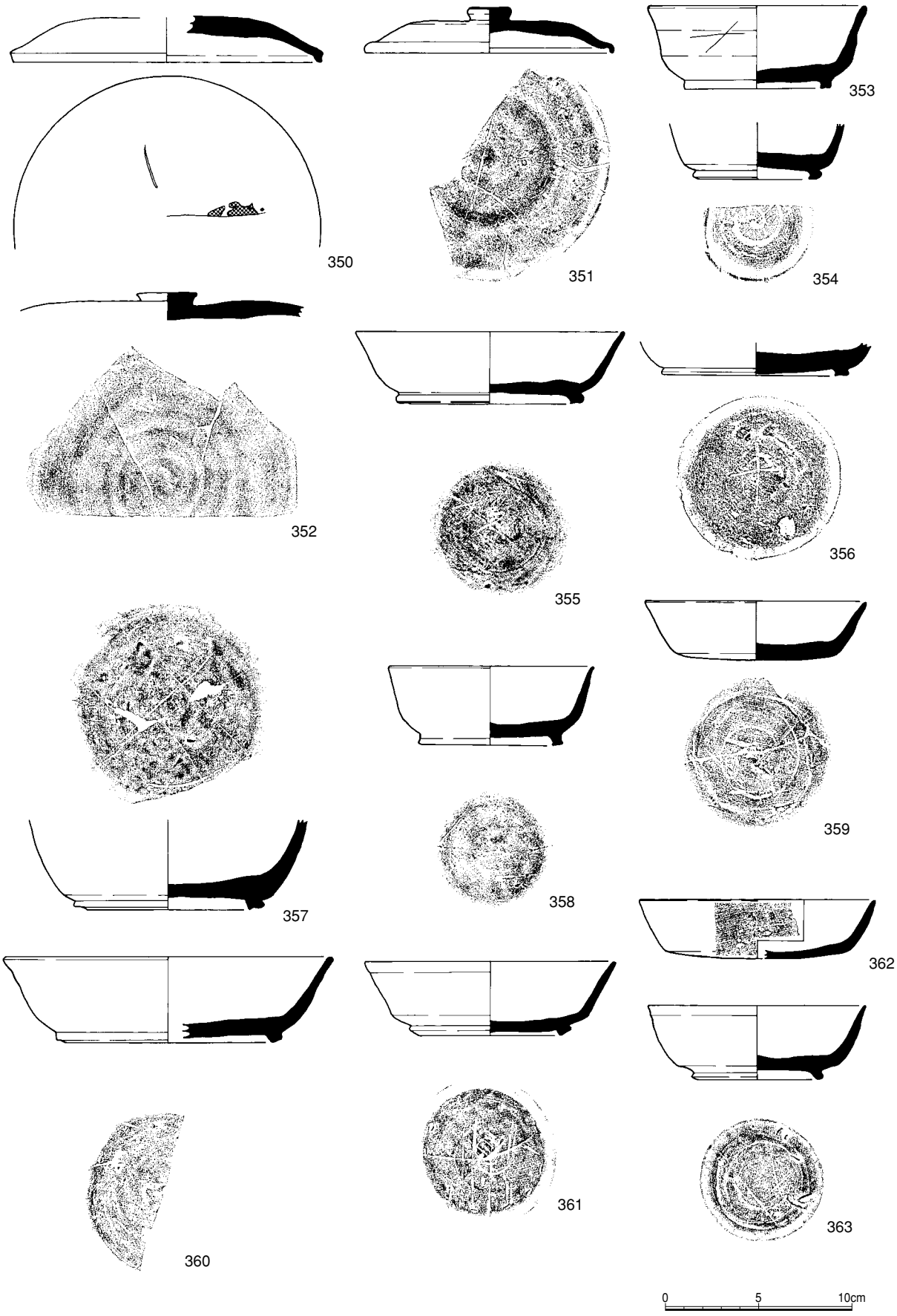
SD11 (302～337)



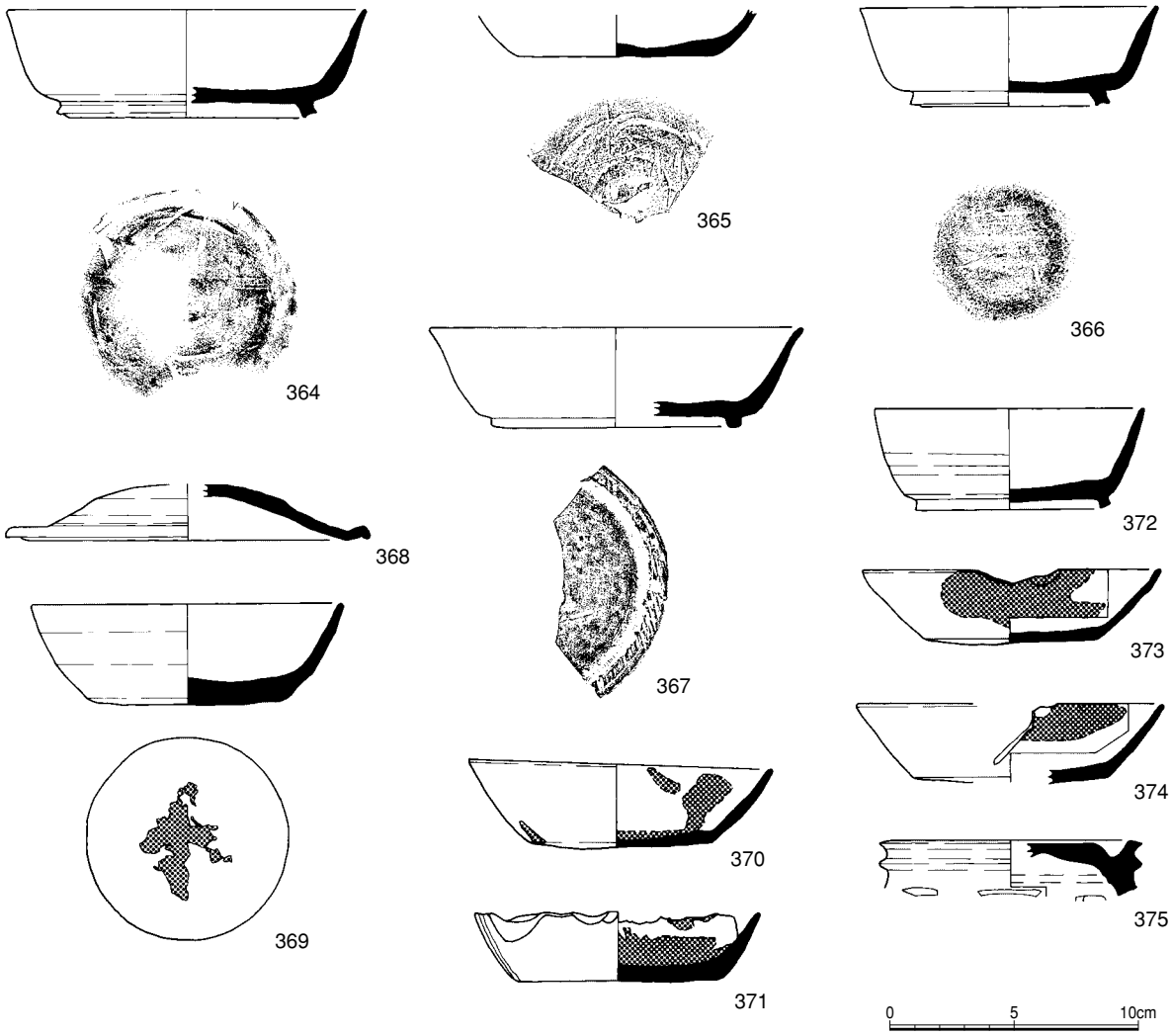

第121図　1987年度調査区遺物図(15) 須恵器



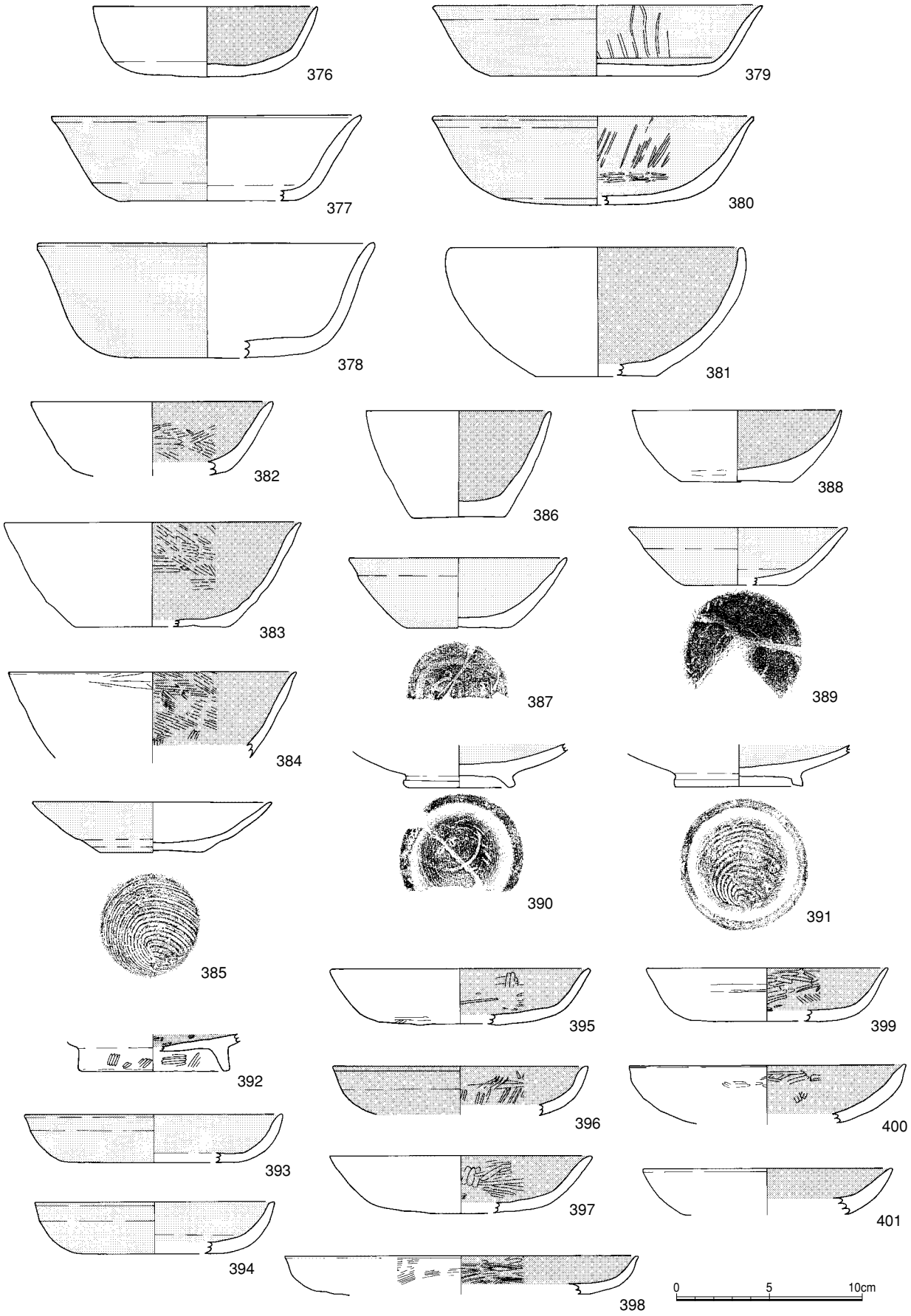

第122図　1987年度調査区遺物図(16) 須恵器　墨書土器



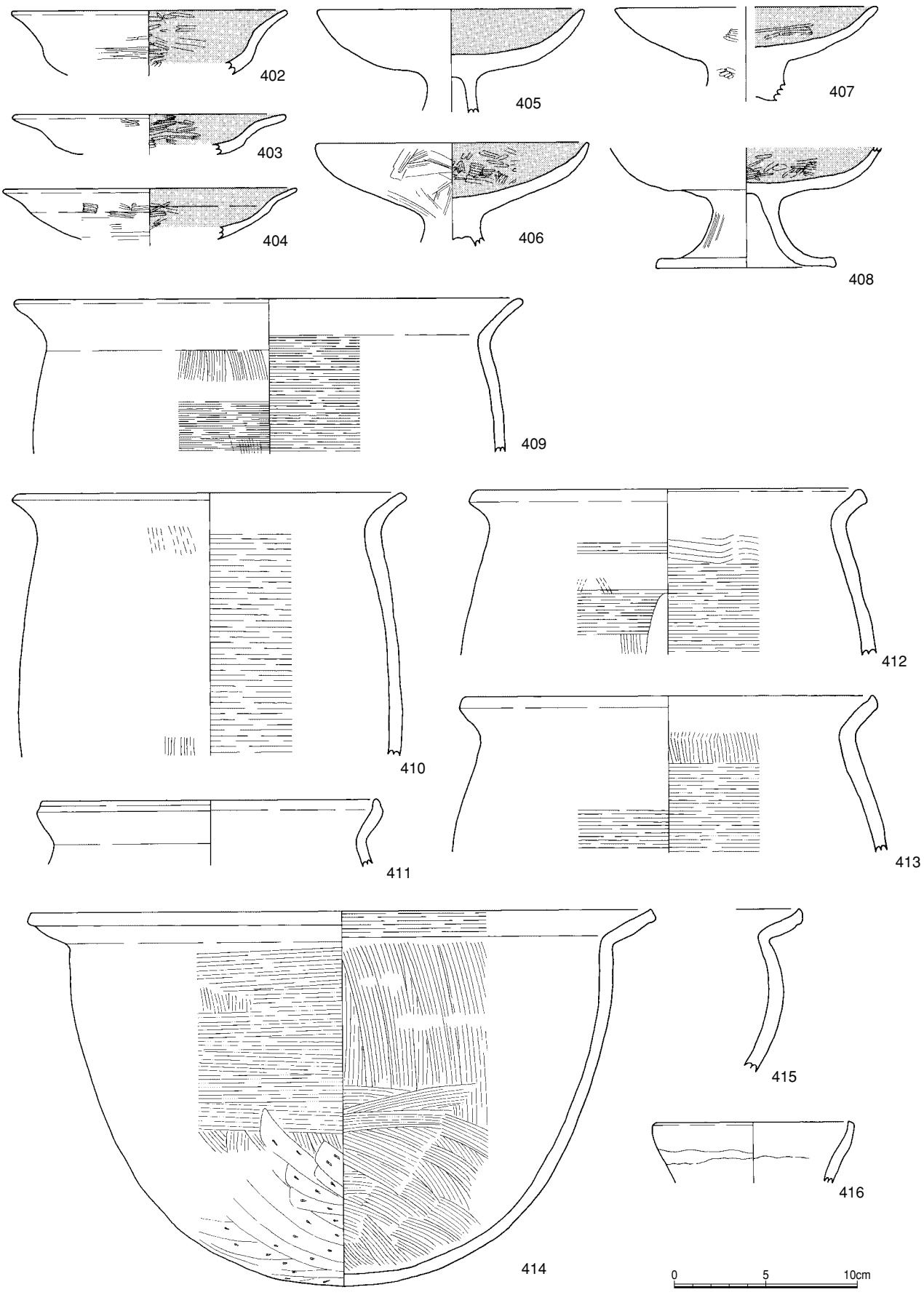

第123図　1987年度調査区遺物図(17) 須恵器　ヘラ書き土器



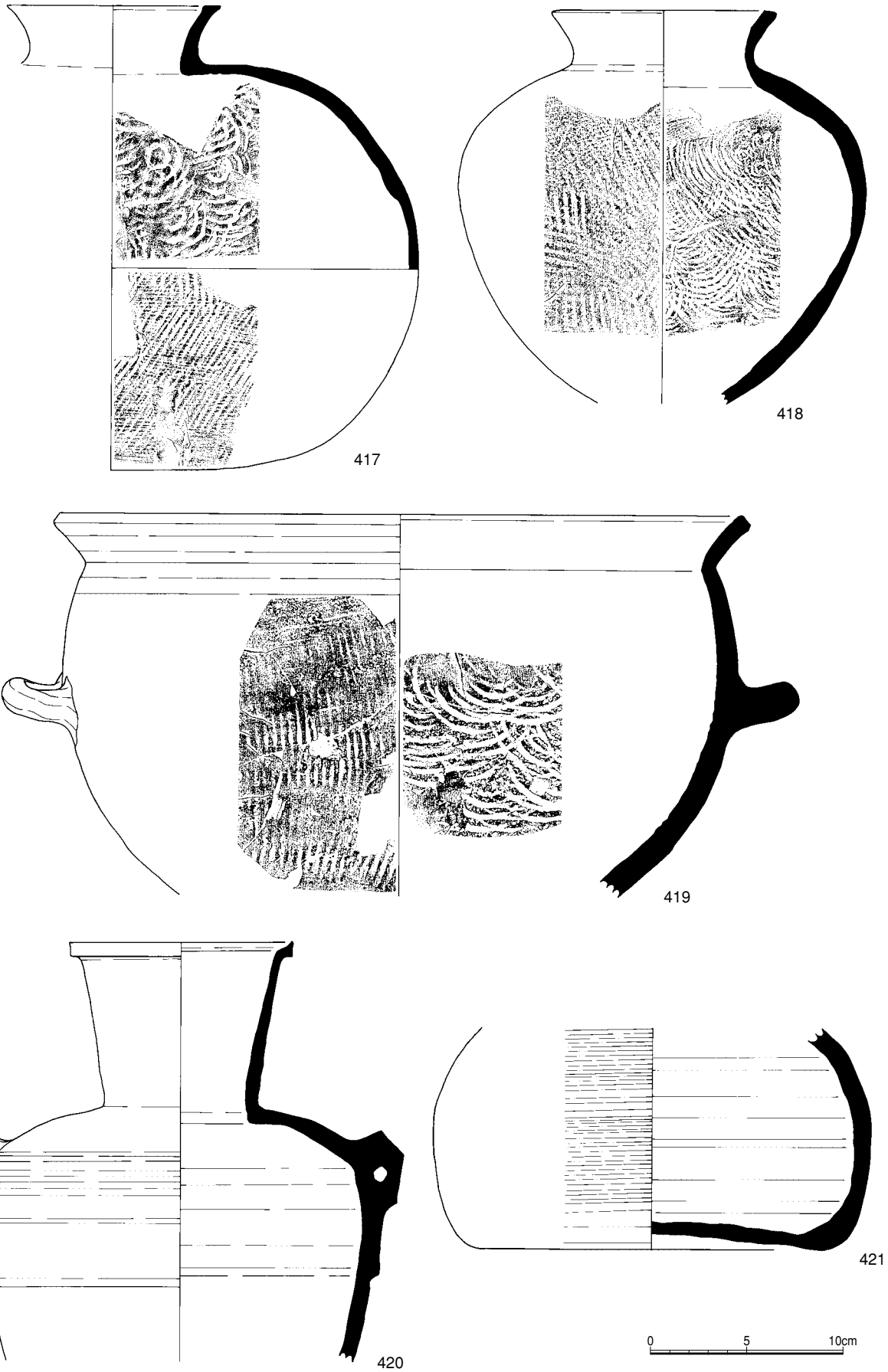

第124図　1987年度調査区遺物図⑱ 須恵器　ヘラ書き土器・漆書土器・漆容器



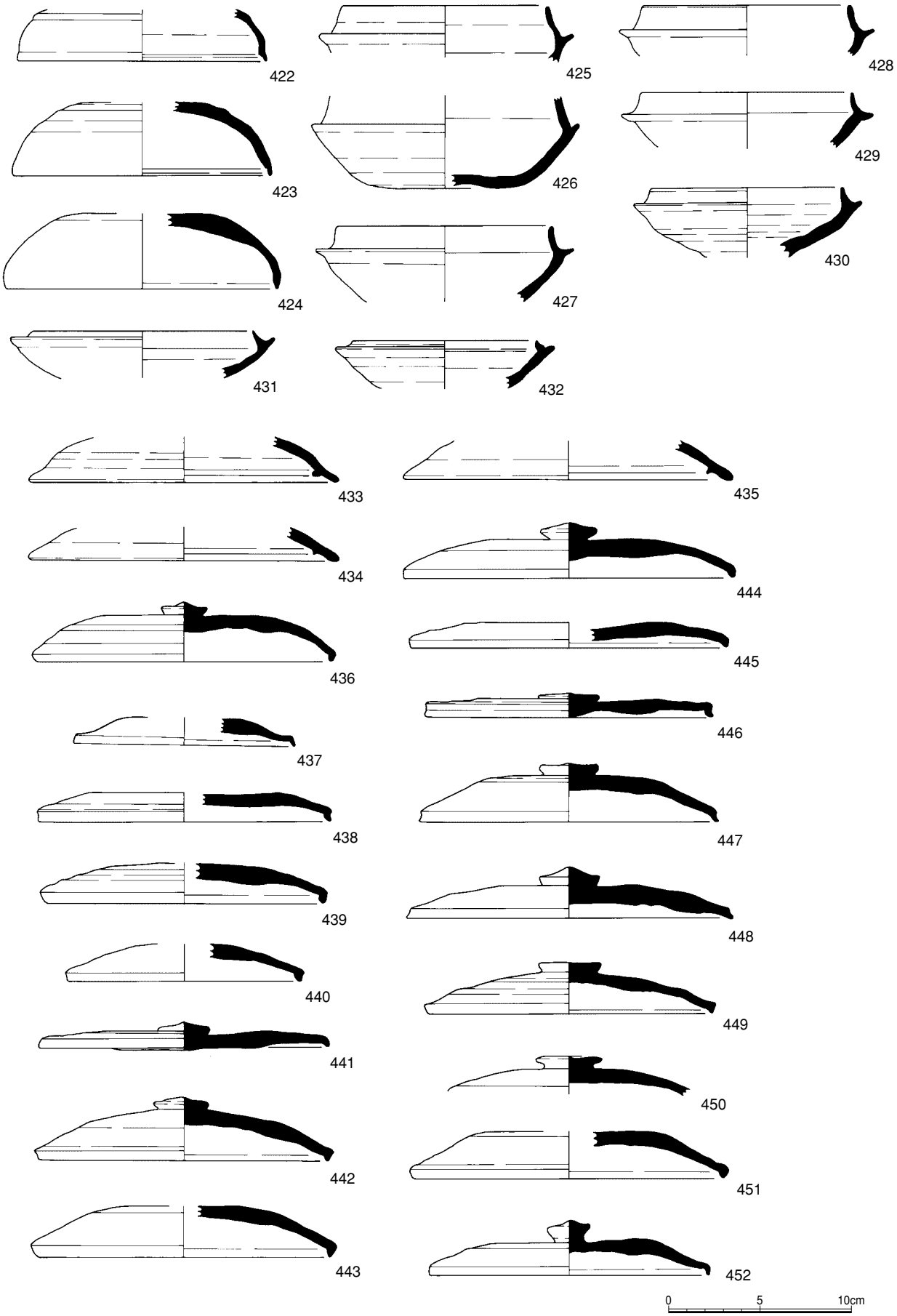

第125図　1987年度調査区遺物図(19) 土師器　赤彩土器・黒色土器



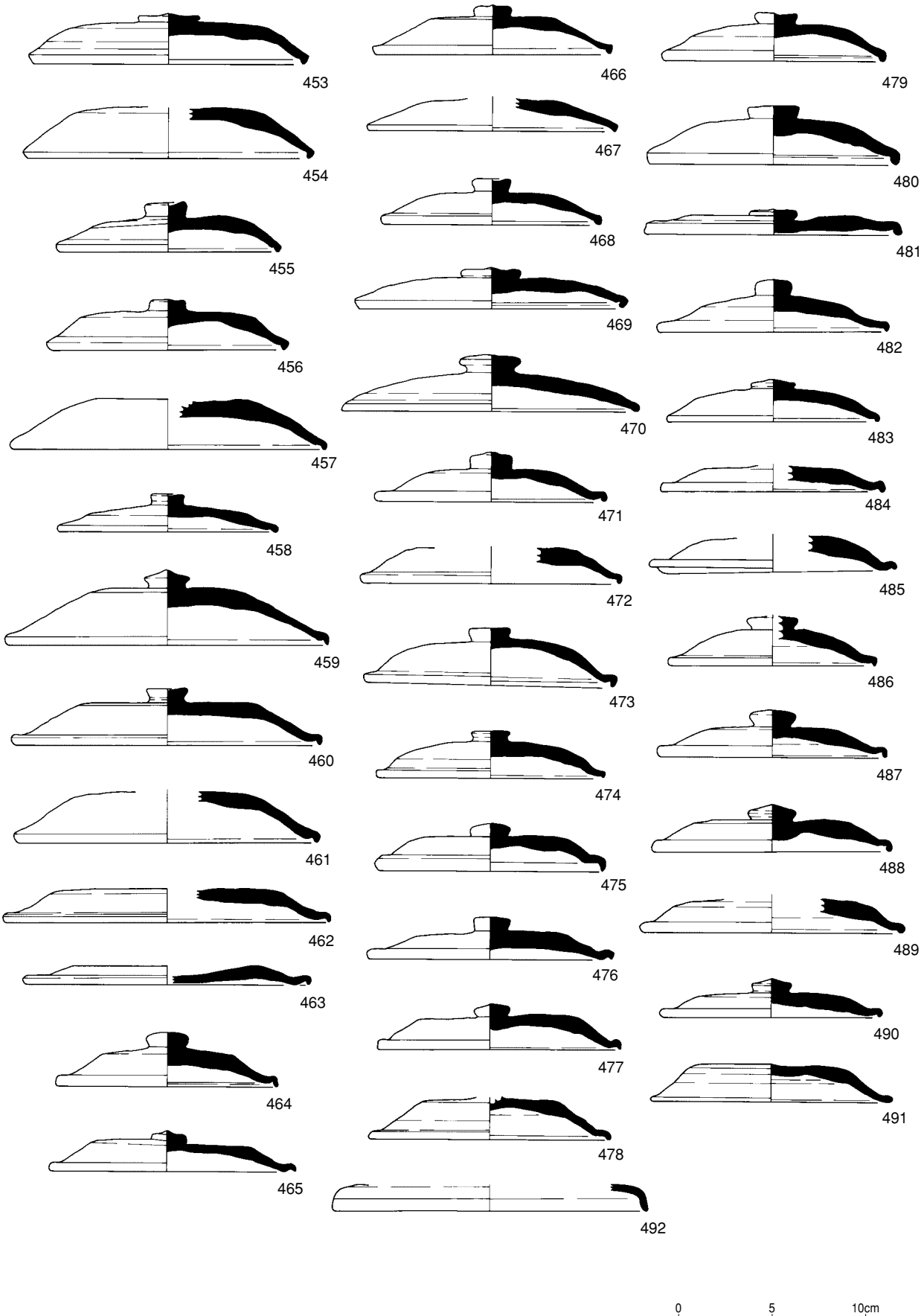

第126図　1987年度調査区遺物図⑳ 土師器　黒色土器



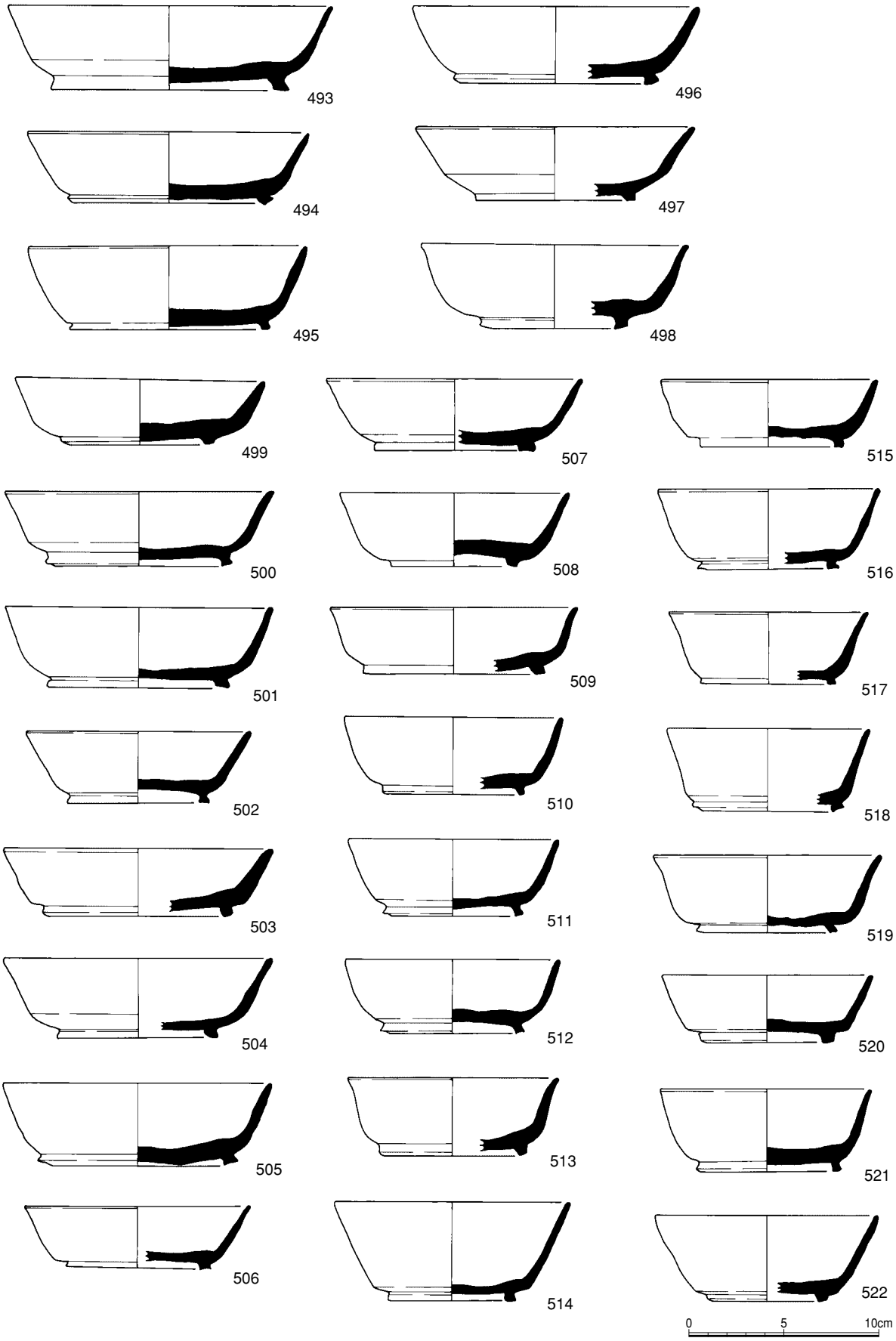

第127図　1987年度調査区遺物図(21) 須恵器



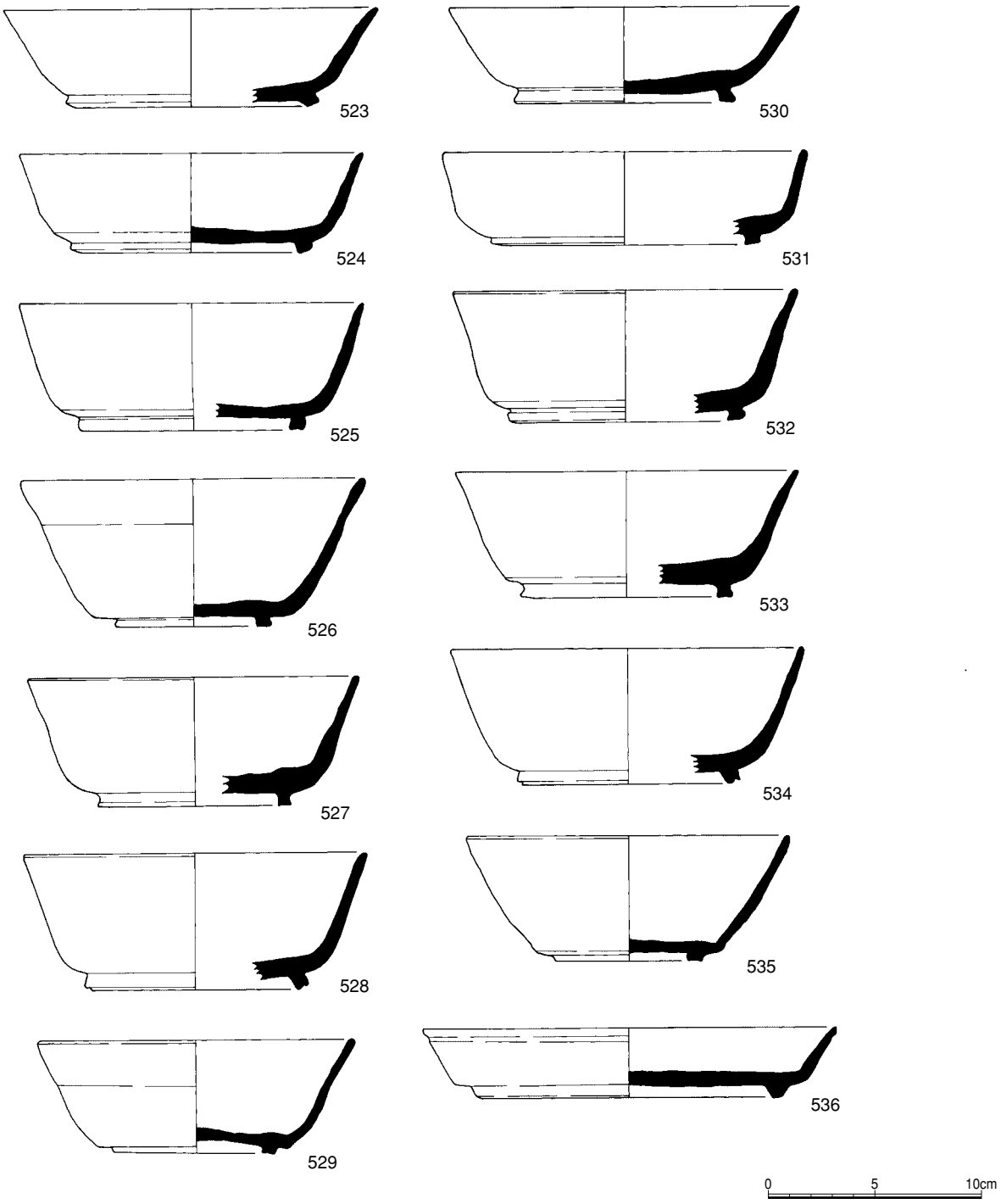

第128図　1987年度調査区遺物図(22) 須恵器



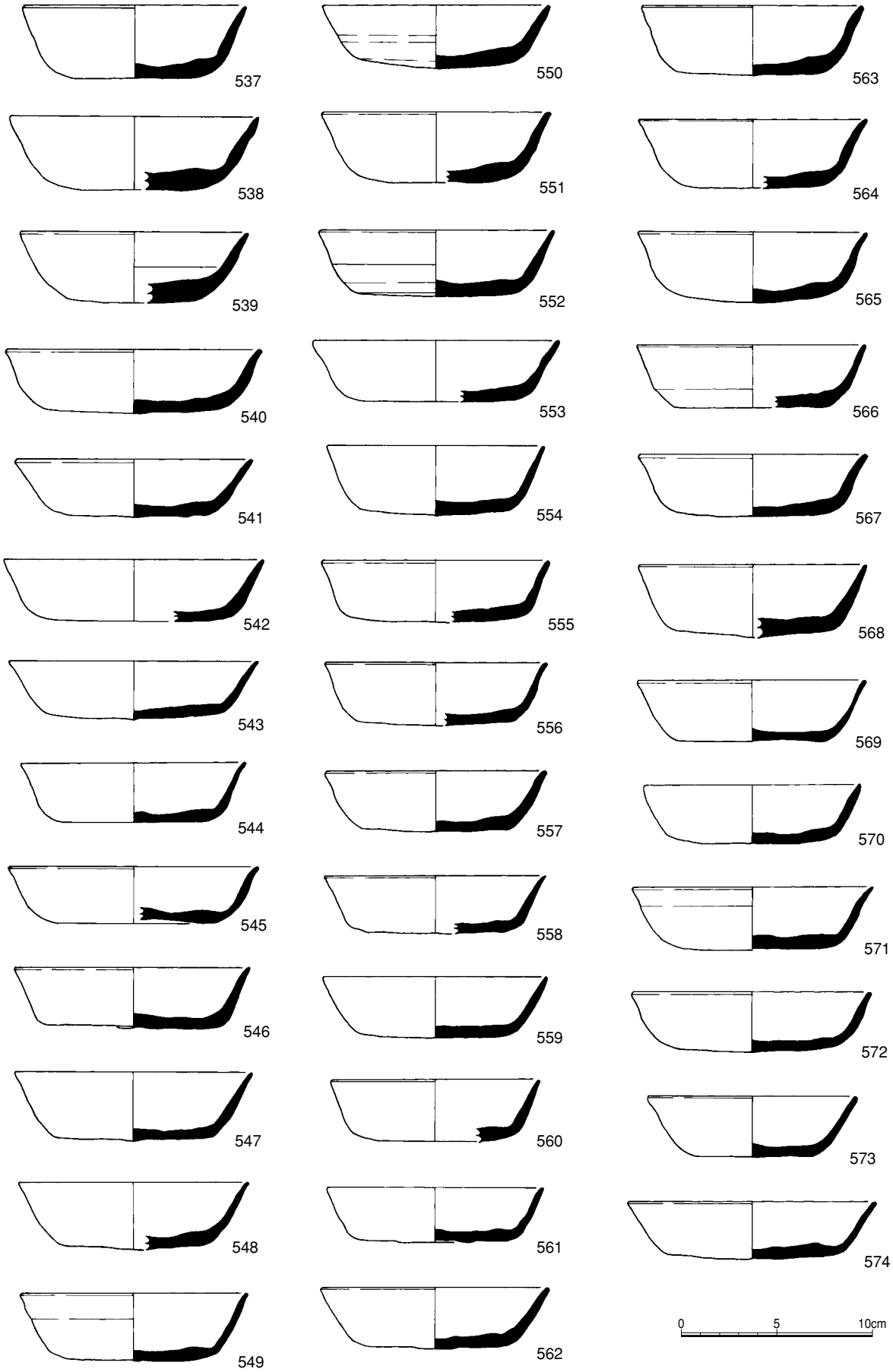

第129図　1987年度調査区遺物図(23) 須恵器



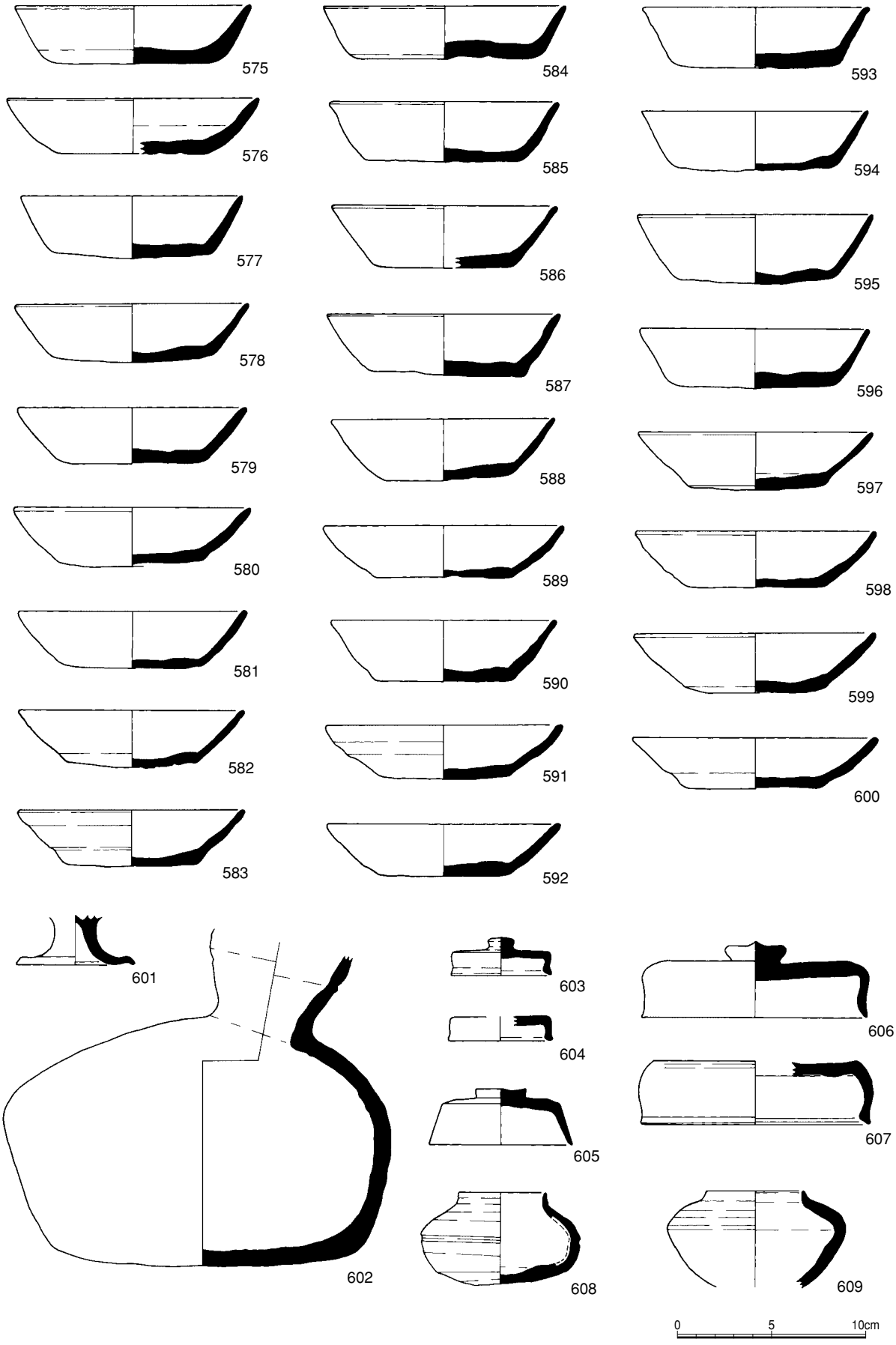

第130図　1987年度調査区遺物図(24) 須恵器



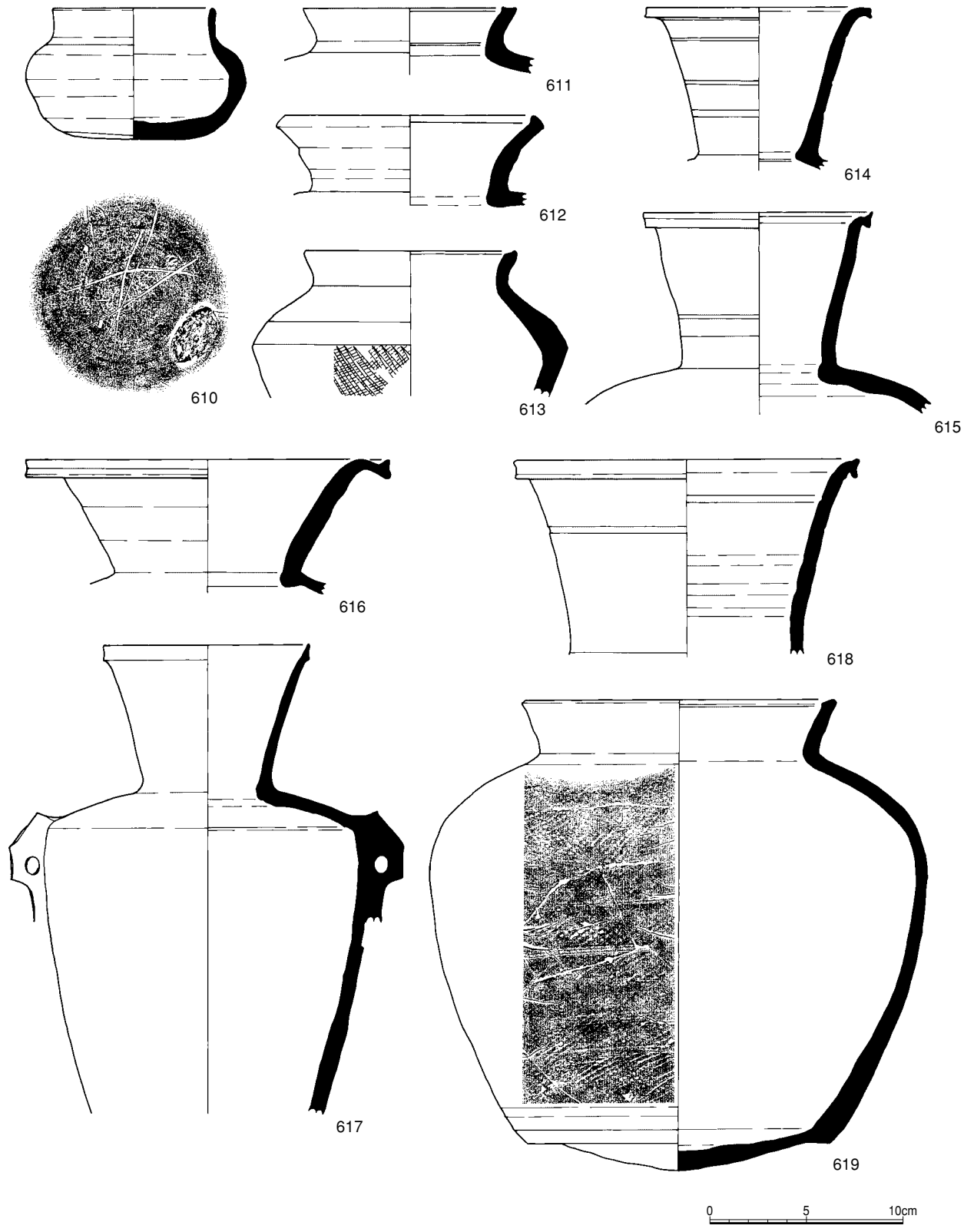

第131図　1987年度調査区遺物図(25) 須恵器



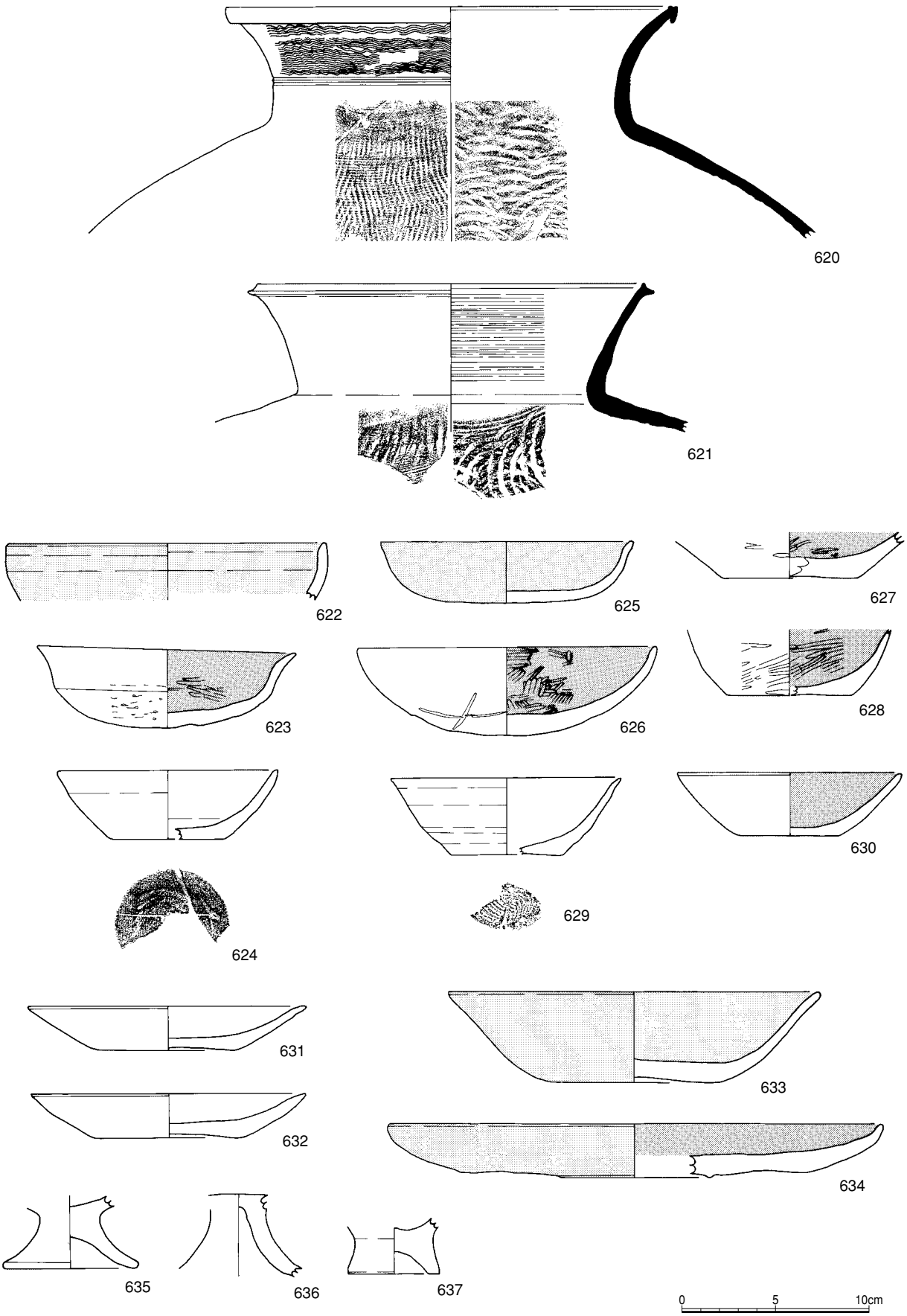

第132図　1987年度調査区遺物図(26) 須恵器



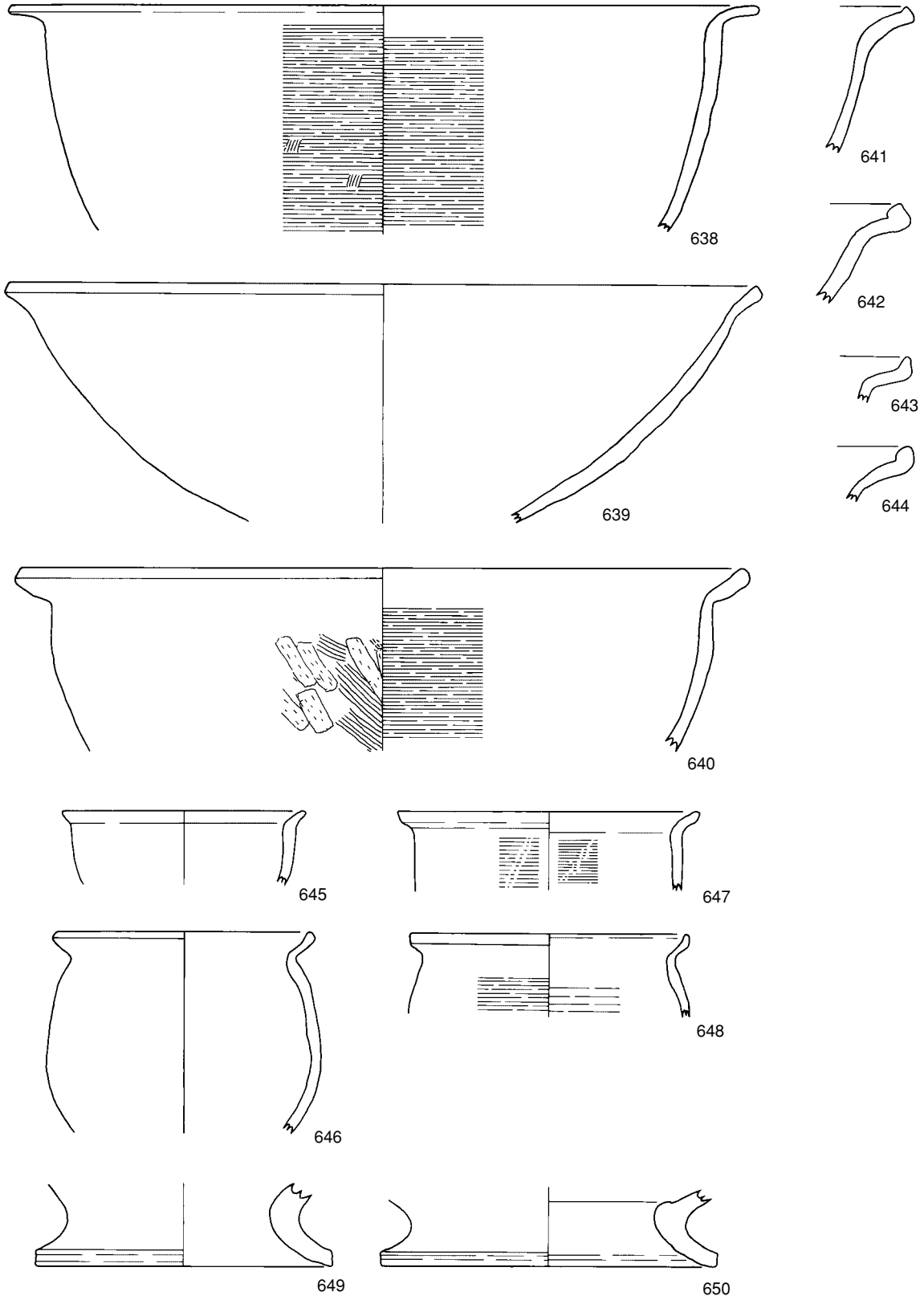

第133図　1987年度調査区遺物図(27) 須恵器



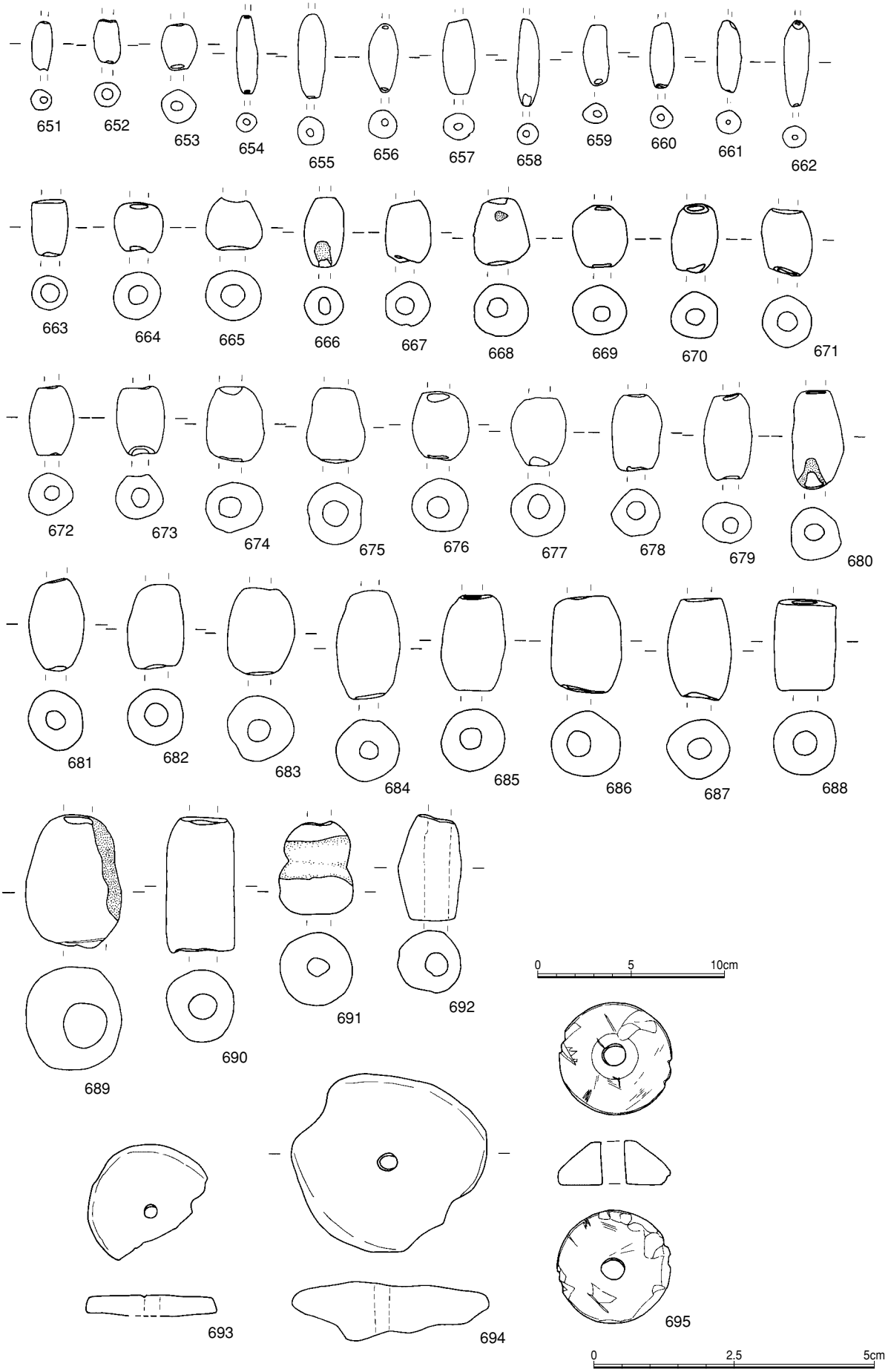

第134図　1987年度調査区遺物図(28) 須恵器・土師器



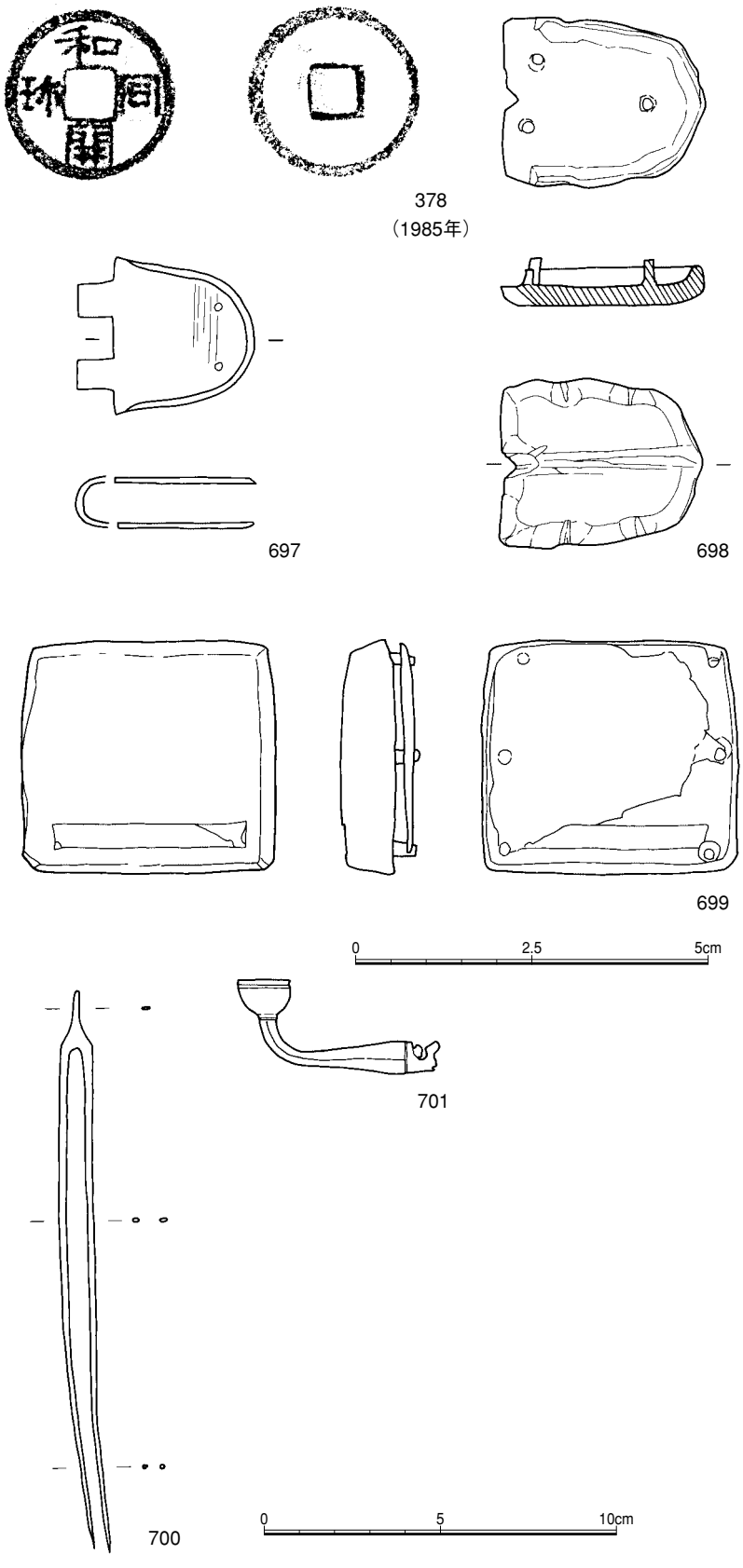

第135図　1987年度調査区遺物図(29) 須恵器・土師器



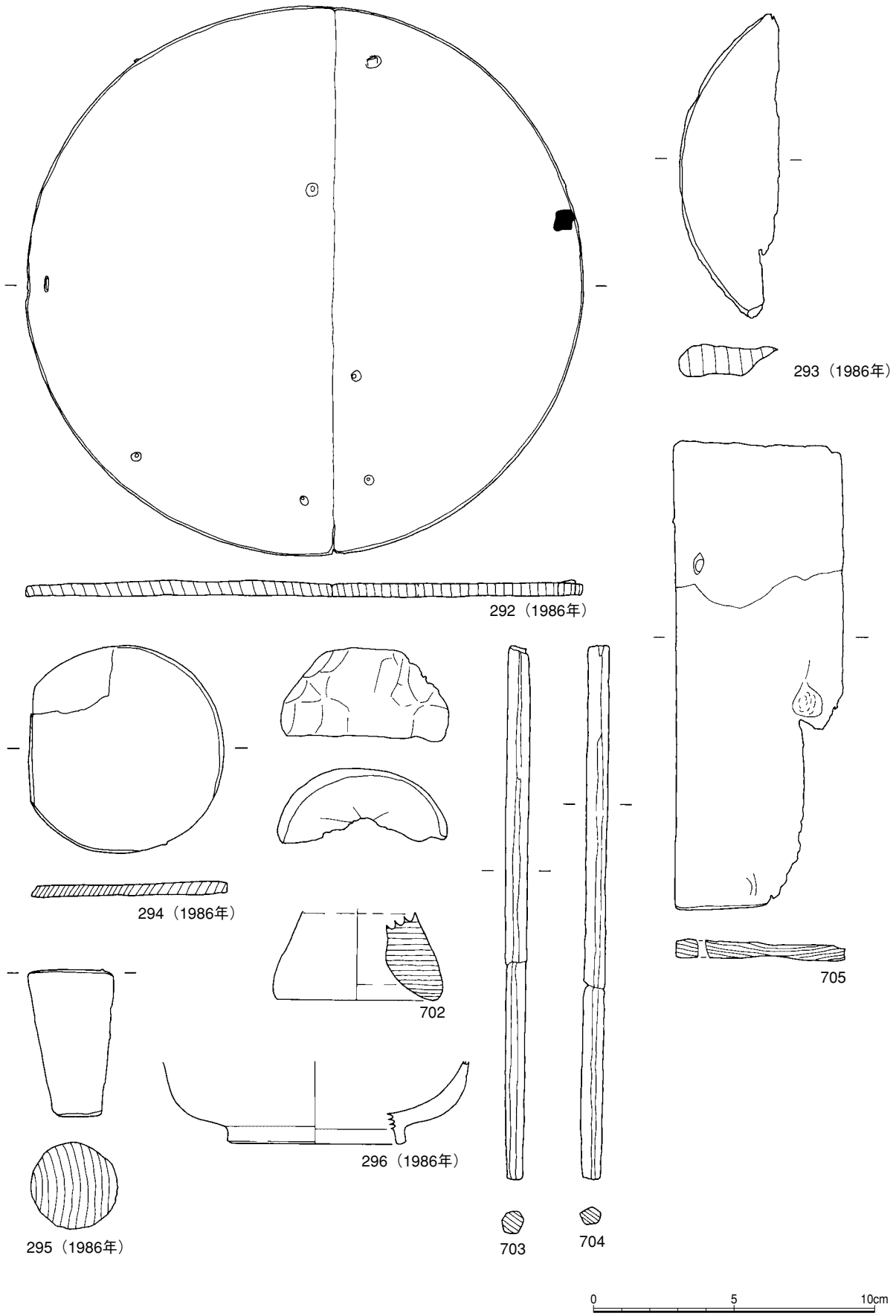

第136図　1987年度調査区遺物図(30) 土師器



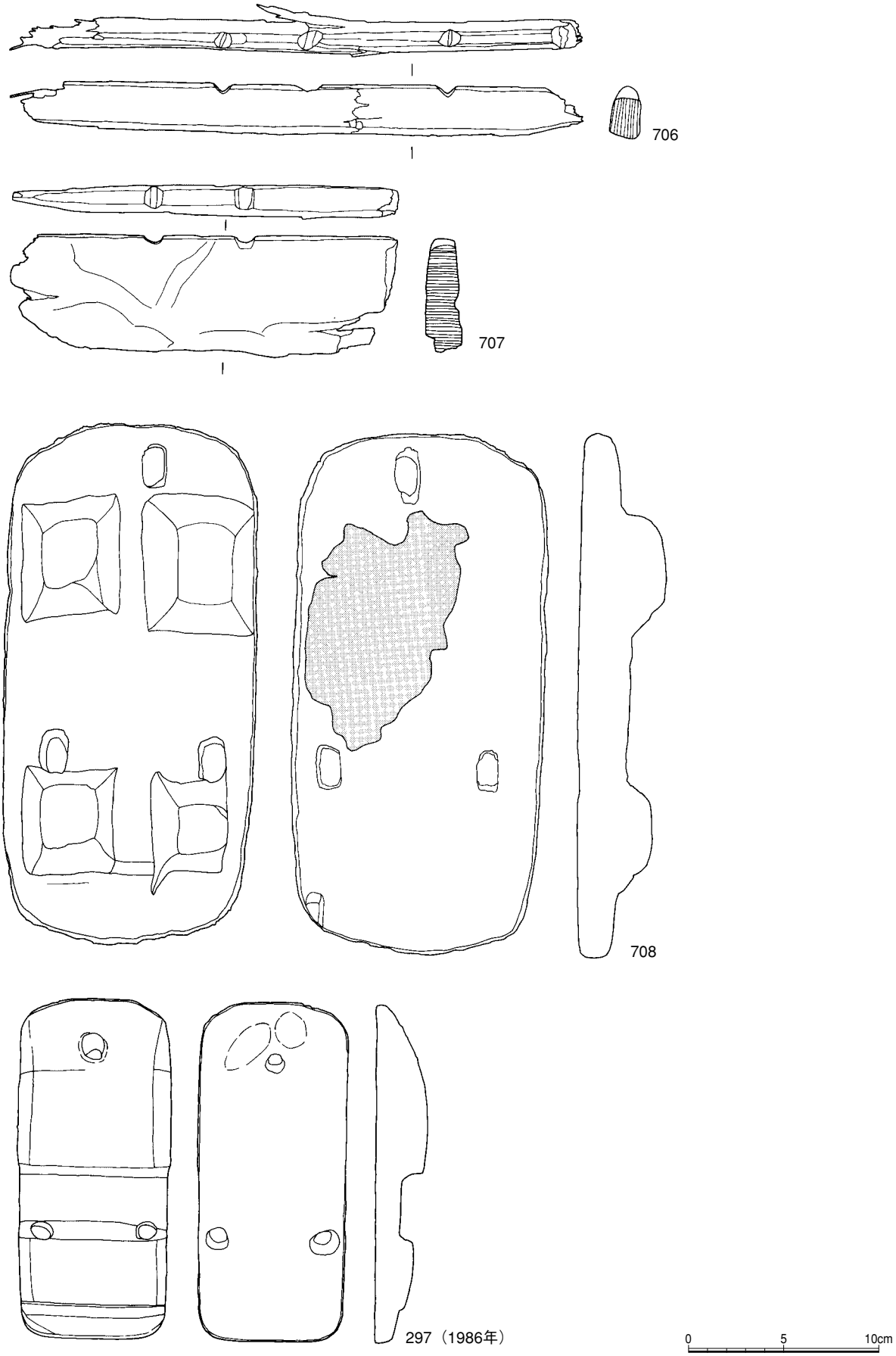

第137図　1987年度調査区遺物図（31）土錘・陶錘・紡錘車



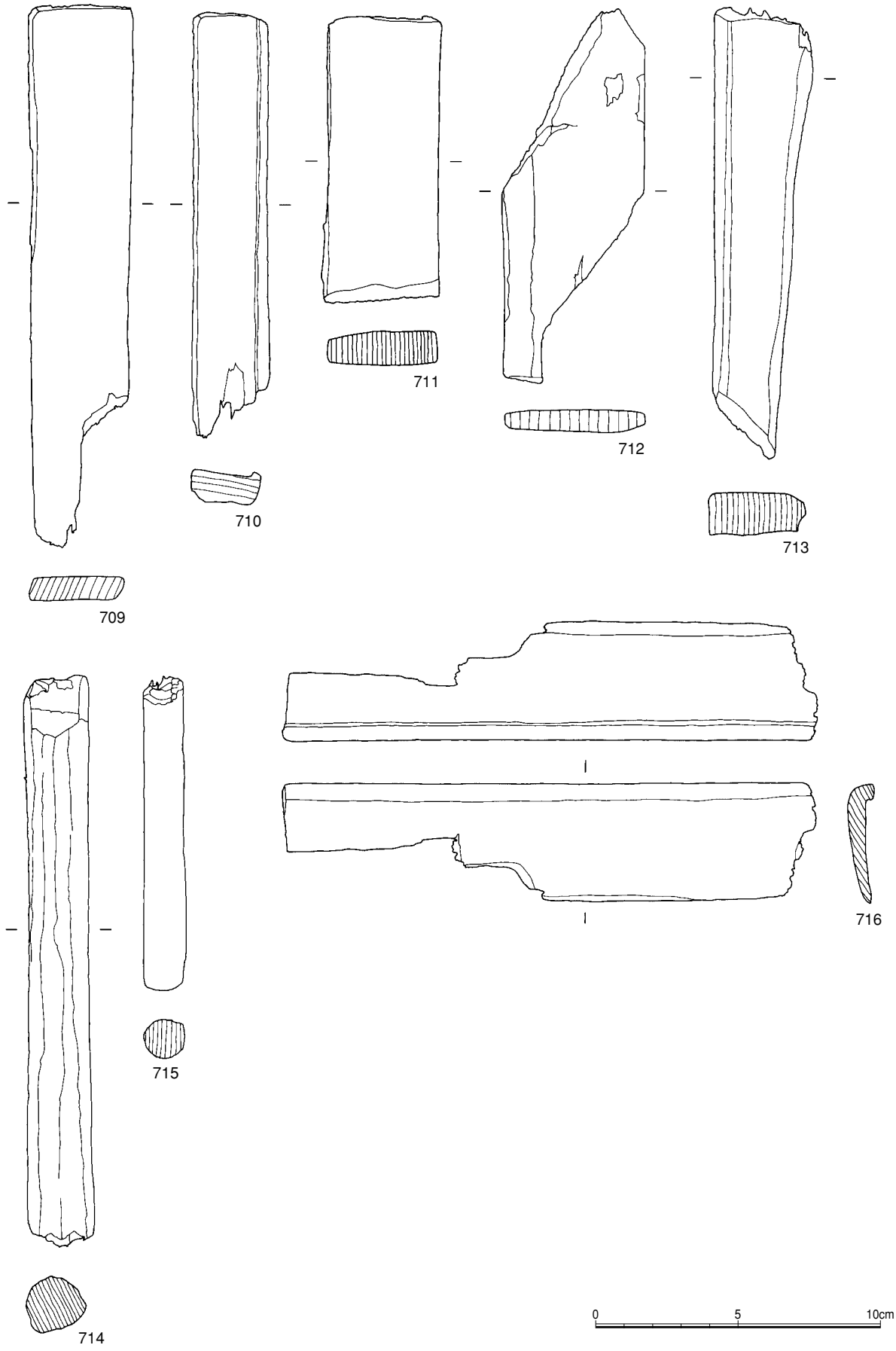

第138図　1985・1987年度調査区遺物図(32)和同開珎・帯金具



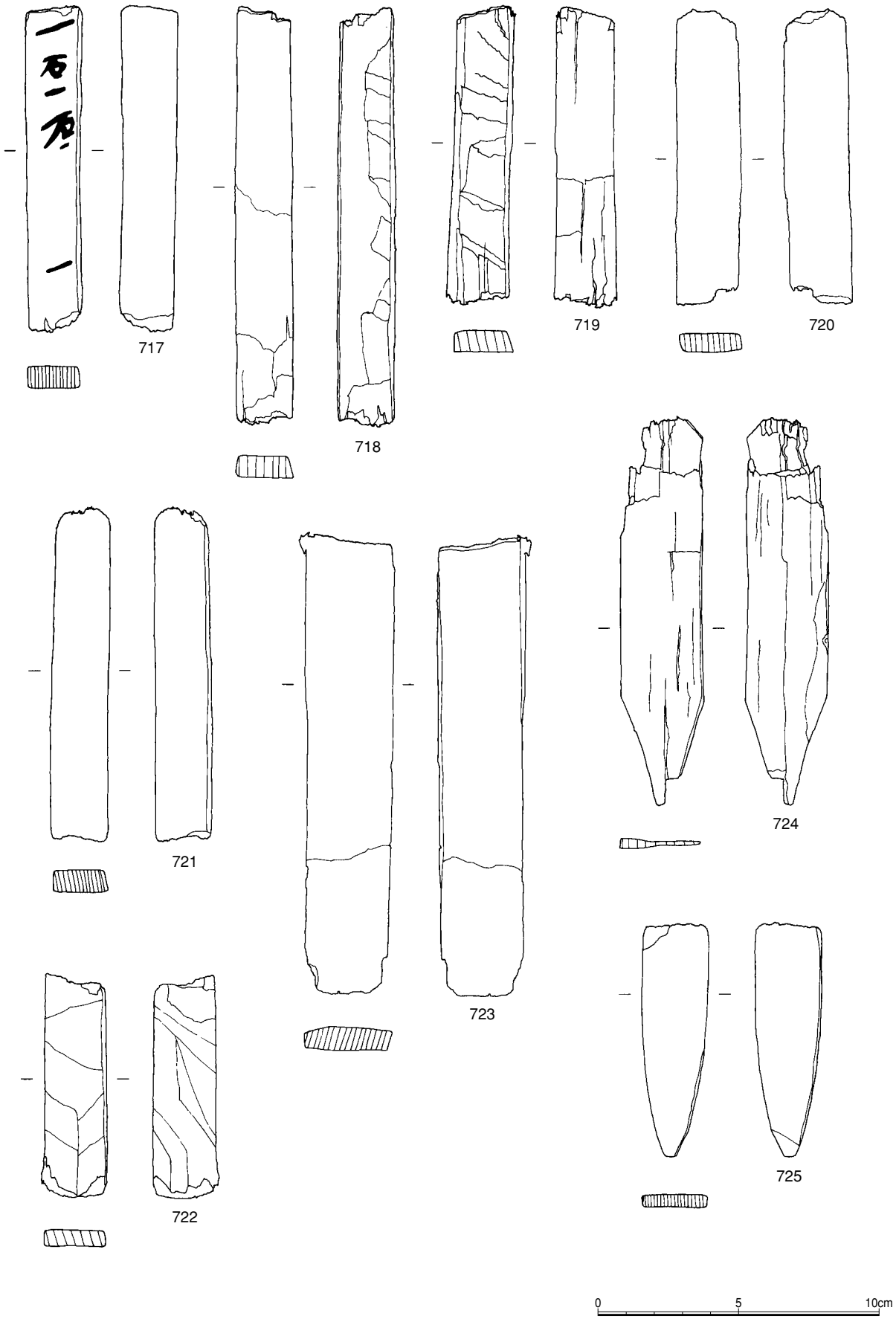

第139図　1986・1987年度調査区遺物図(33)桶・漆器椀・棒ほか



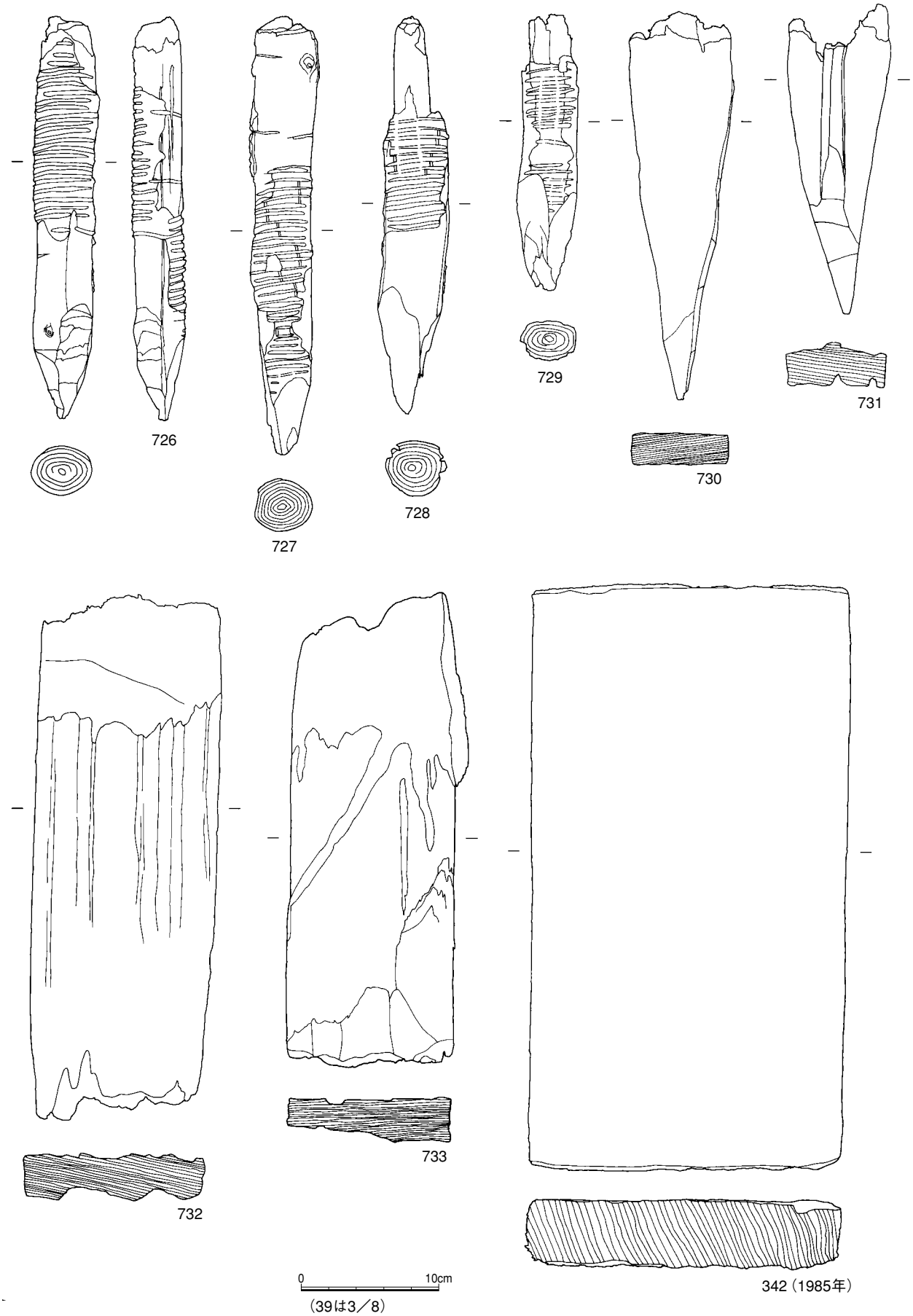

第140図　1986・1987年度調査区遺物図(34)編板・下駄



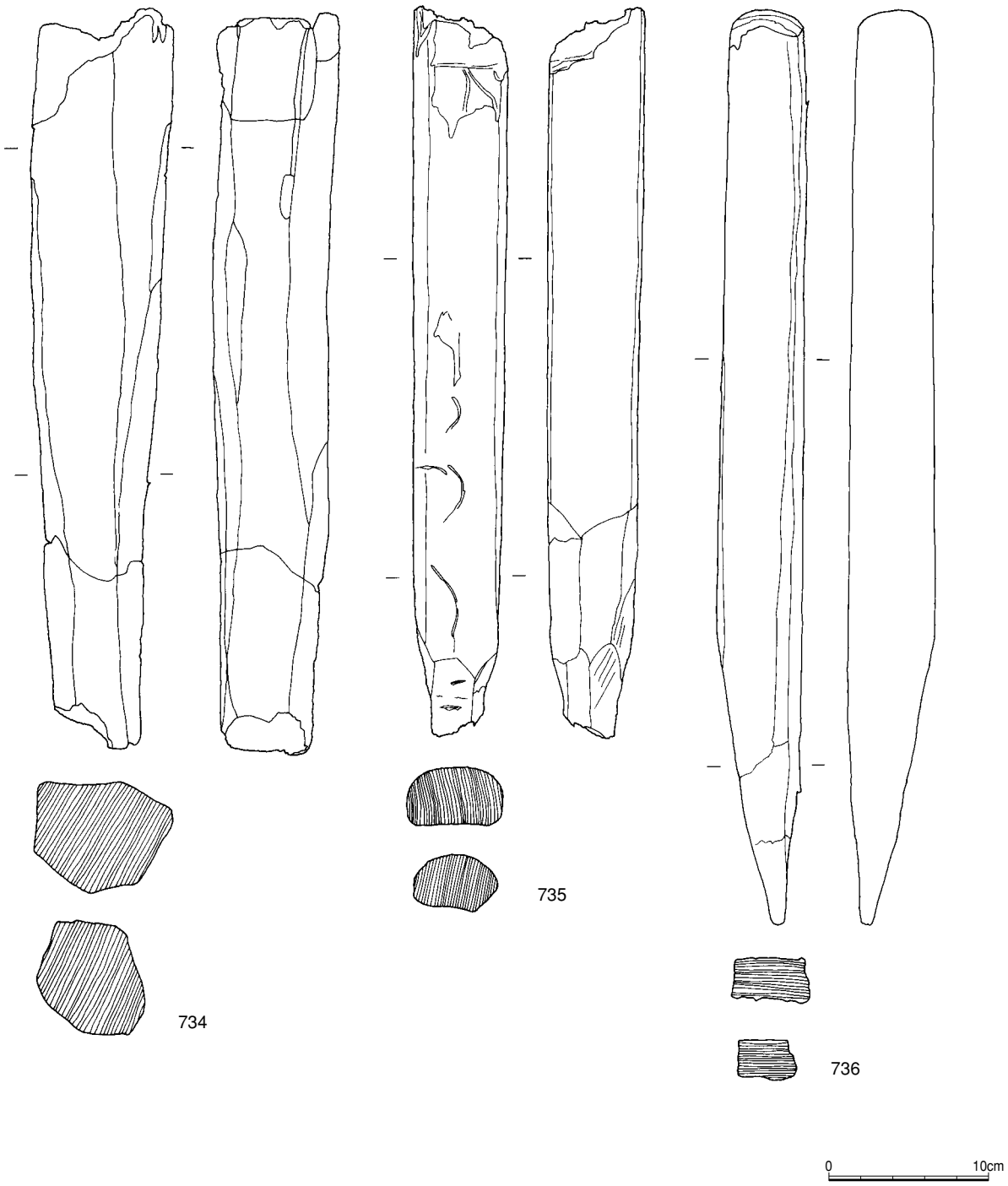

第141図　1987年度調査区遺物図(35)板・棒・鞘



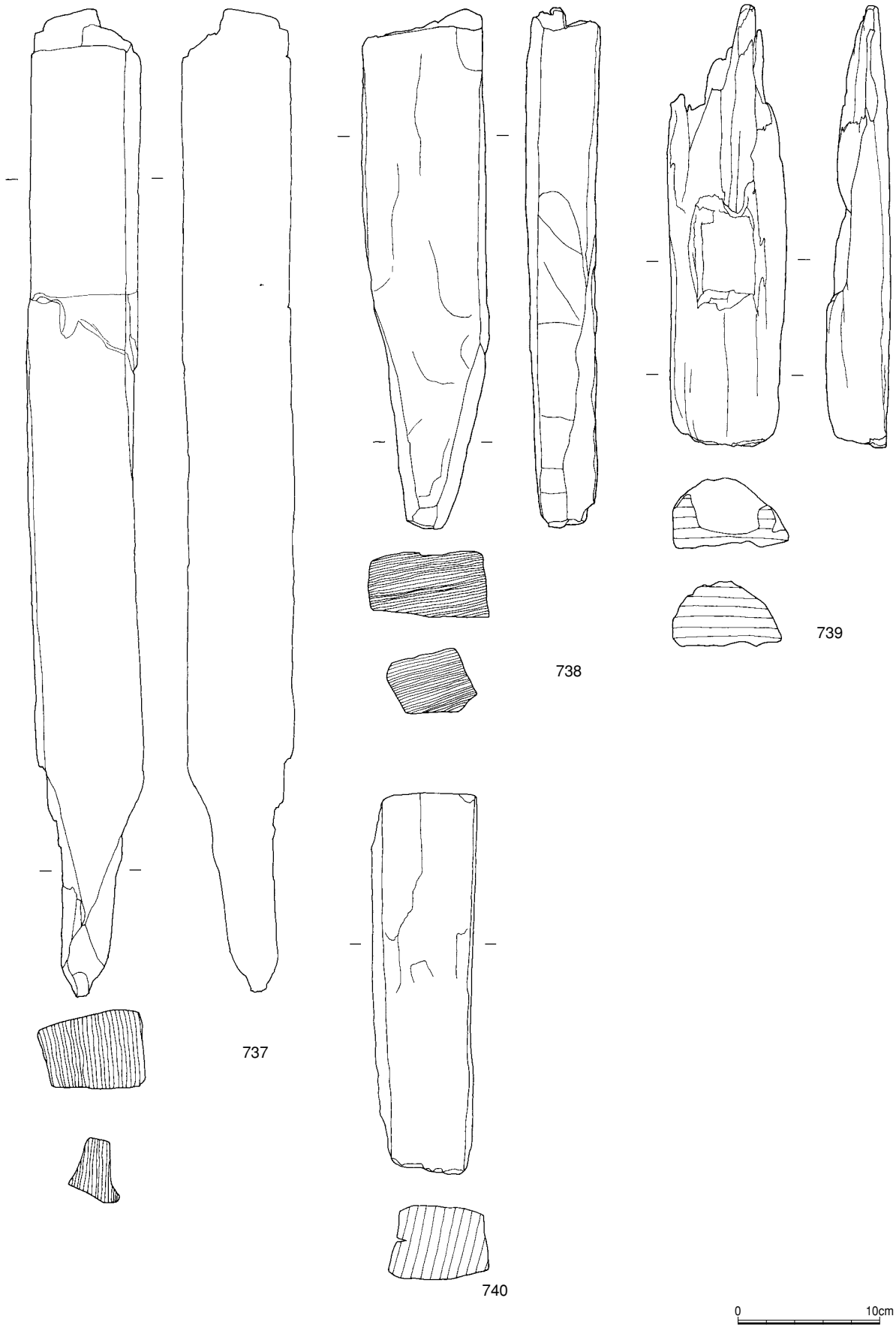

第142図　1987年度調査区遺物図(36) 木簡・斎串・板



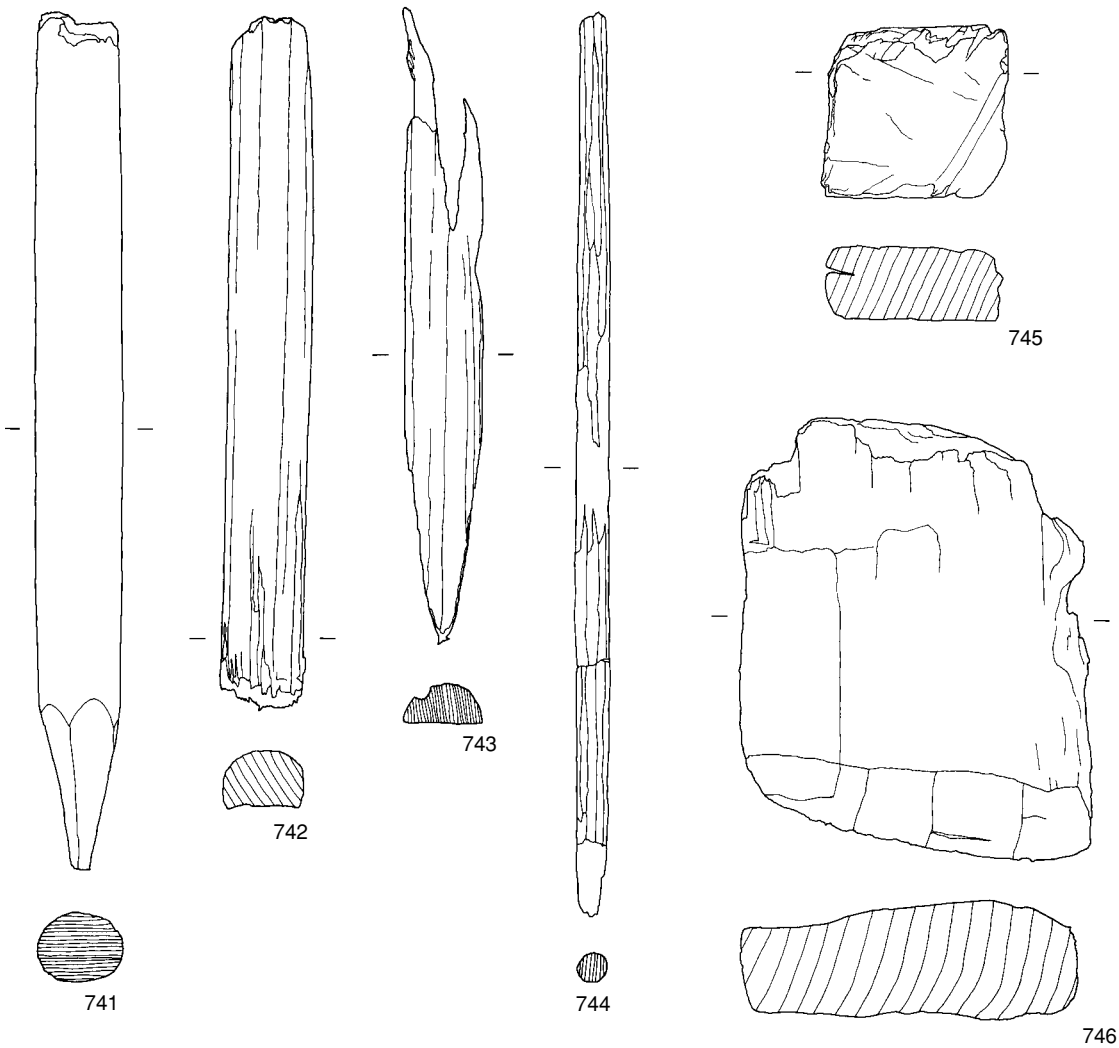

第143図　1985・1987年度調査区遺物図(37)漆掻き木・板・杭




第144図　1987年度調査区遺物図(38)杭

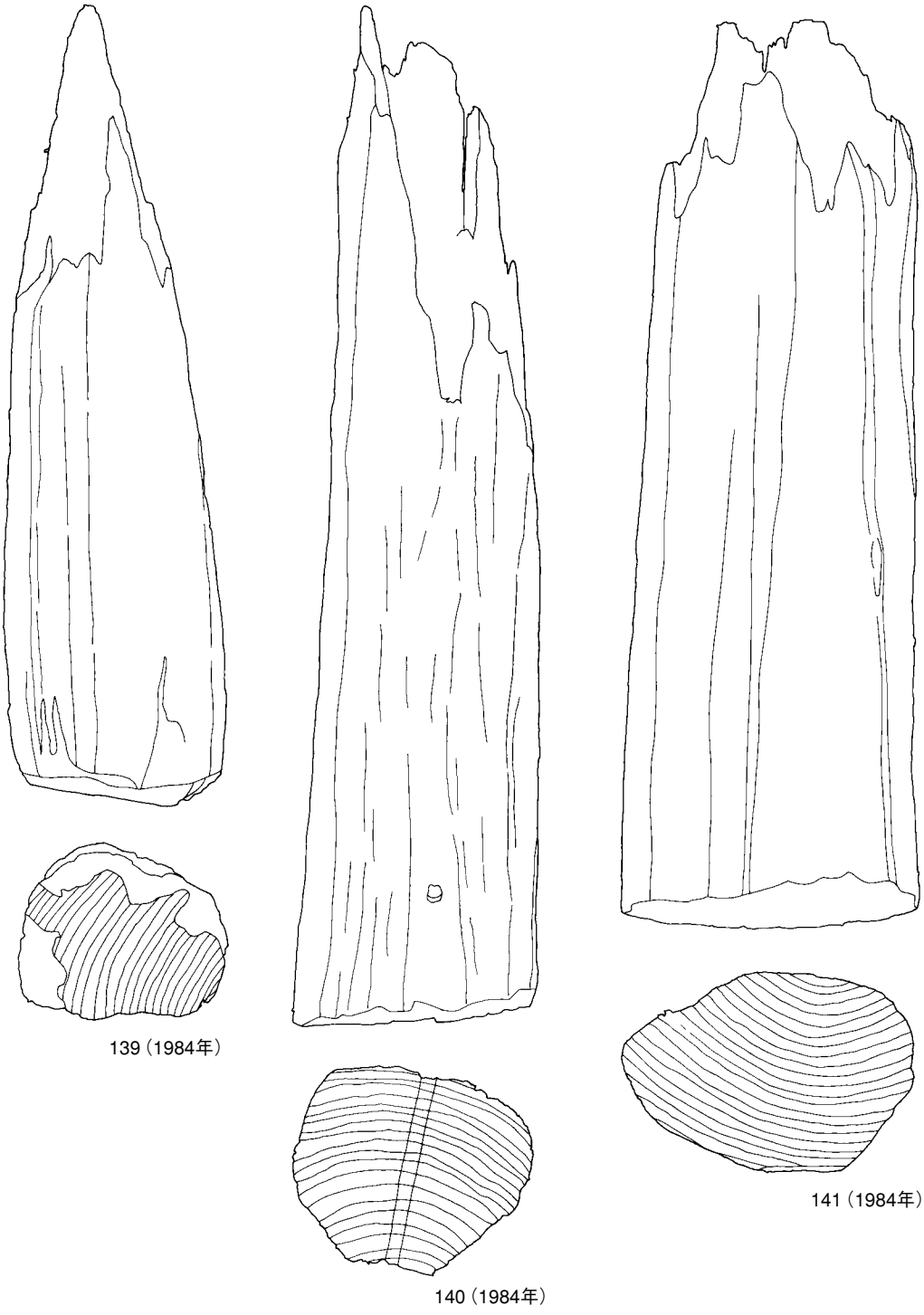



第145図　1987年度調査区遺物図(39)杭・柱

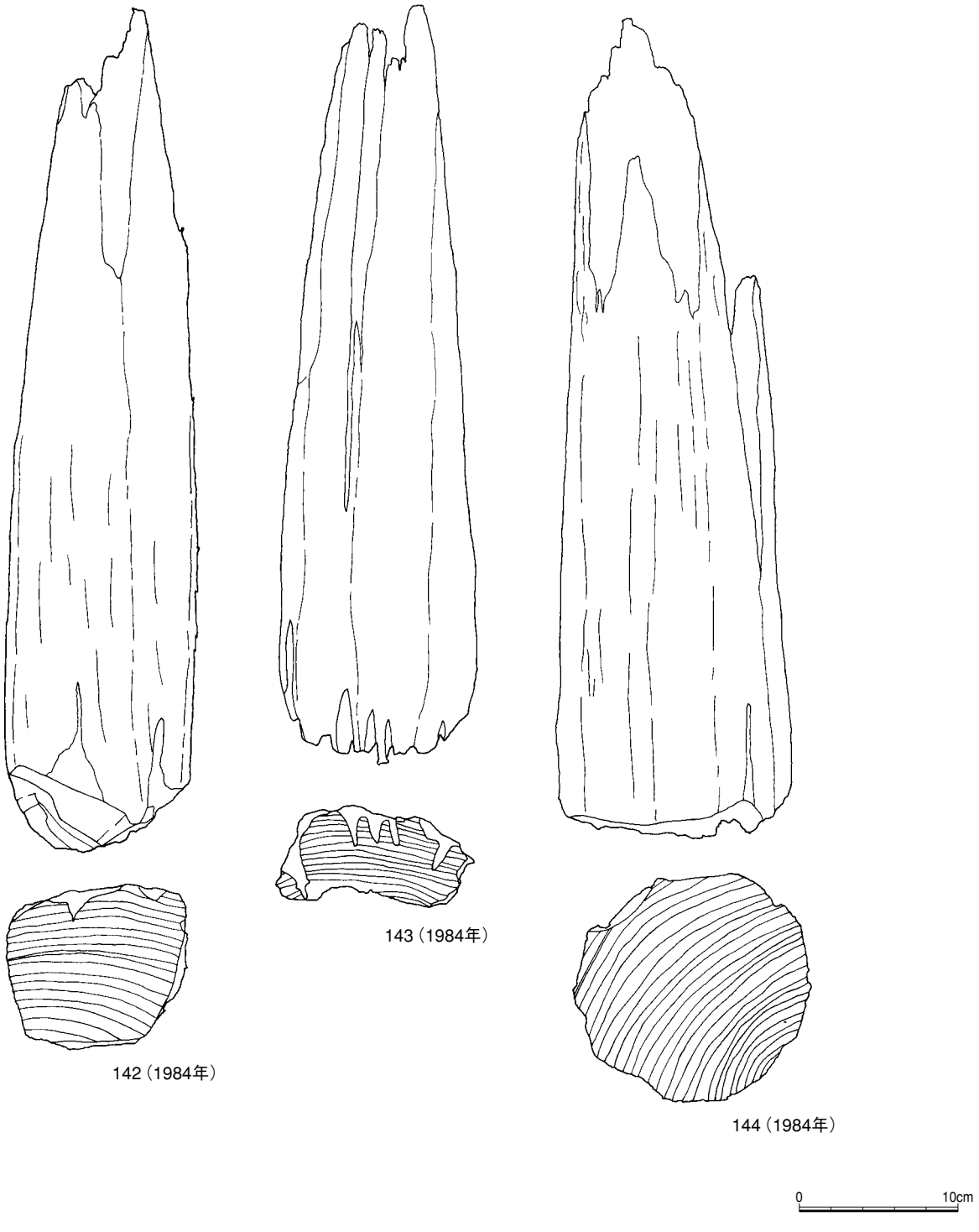



(51は1／5)

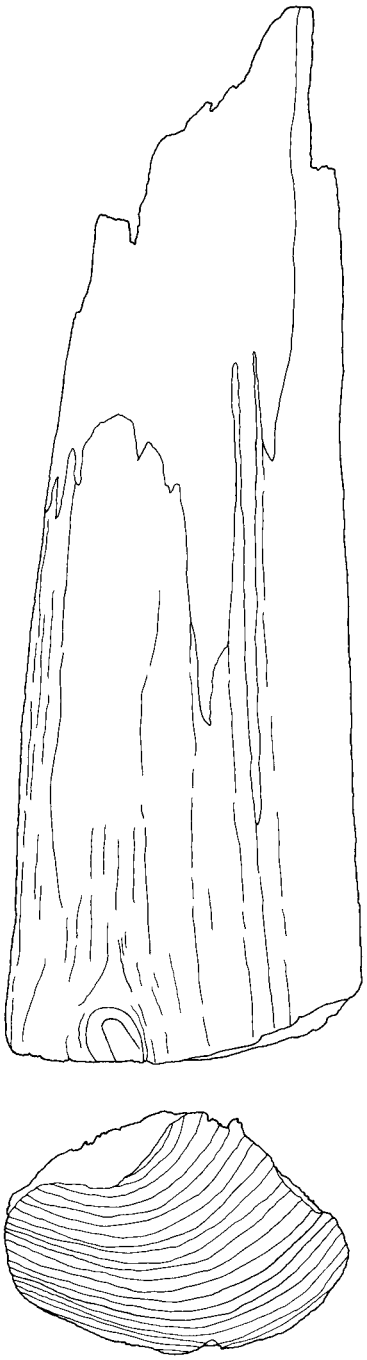
第146図　1987年度調査区遺物図(40)棒・板



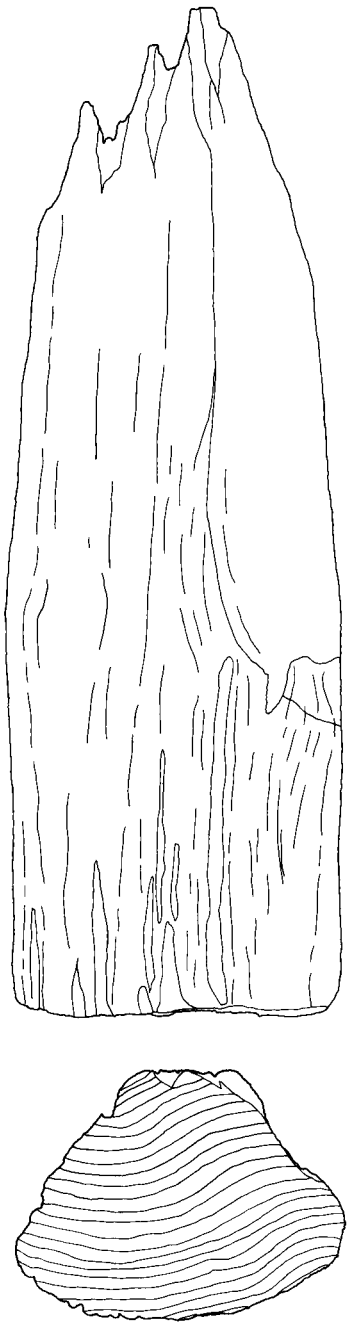

第147図　1984年度調査区遺物図⑽ 柱




第148図　1984年度調査区遺物図(11)柱



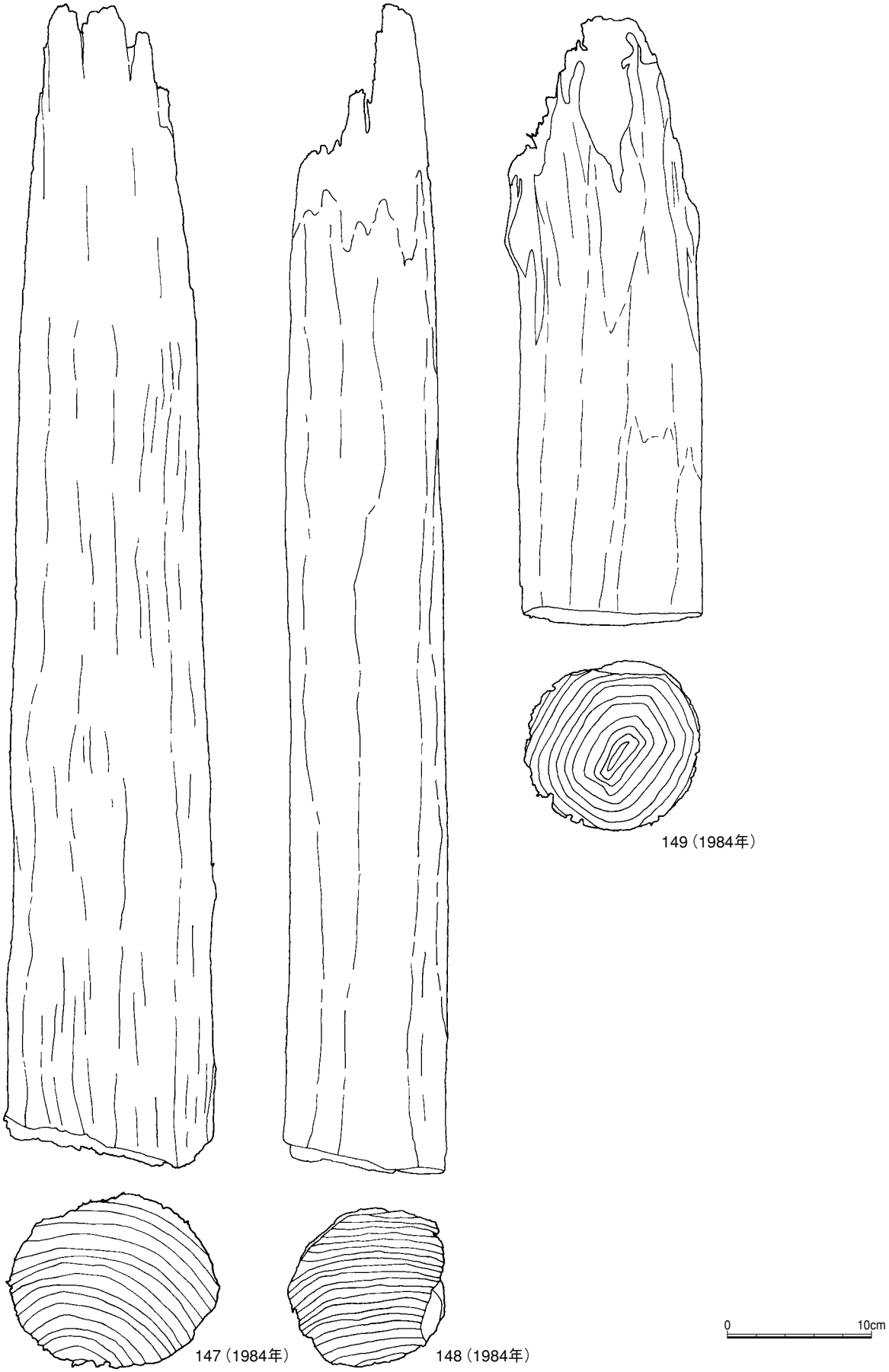
145（1984年）



146（1984年）

0　10cm

第149図　1984年度調査区遺物図⑿柱




第150図　1984年度調査区遺物図⑬ 柱

第151図　1985・1986年度調査区遺物図(25)柱

**発掘調査及び整理作業補助員名簿**

赤野　和恵、石黒　淑元、上田寿美子、梅本　雅子、大谷　節子、織田　　玲
蟹谷百合子、重原美代子、高山　恵子、滝田　珠紀、田畑　郁子、永井ちか子
中川　久子、長沢小百合、中田　睦世、西田　芳江、橋本真奈美、早助よし子
福嶋　桂子、福家かちよ、藤村　裕子、堀内　美奈、森谷奈利子

富山県小矢部市

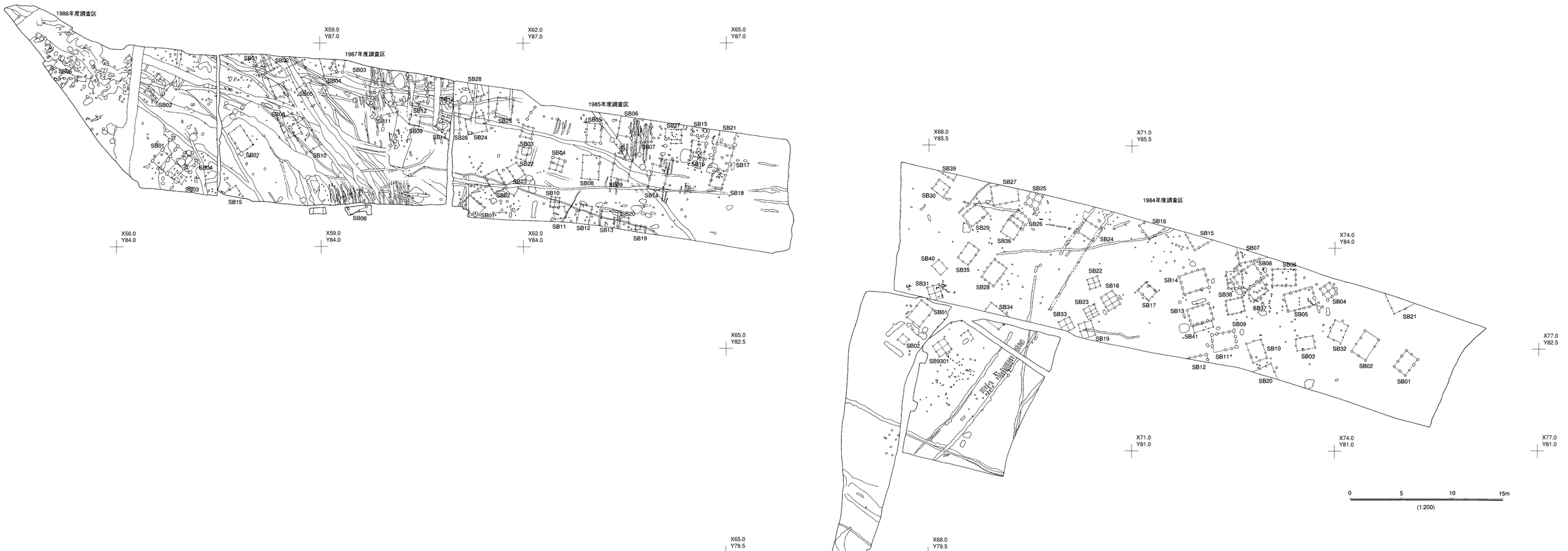
# 桜町遺跡発掘調査報告書

弥生・古墳・古代・中世編Ⅰ

第1分冊

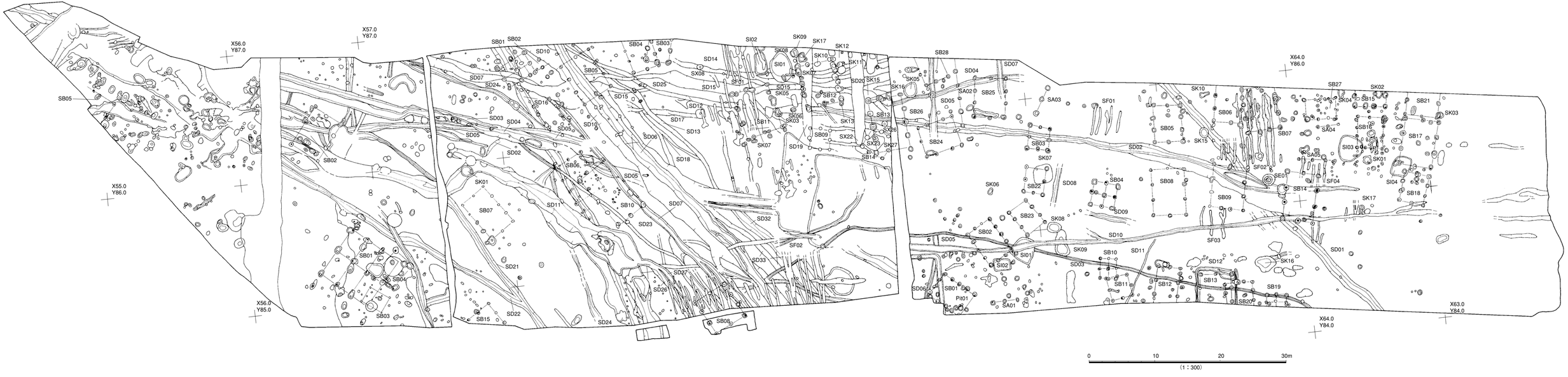
発　行　日　平成15年3月31日
編集・発行　小矢部市教育委員会
〒932-8611　富山県小矢部市本町1－1
TEL　0766-67-1760
印　　刷　ピーアール・プランニング

# 付図１　1984年度～1987年度調査区遺構全体図



付図２　1984年度調査区遺構全体図

付図３　1985年度～1987年度調査区遺構全体図



付図 4　1987年度調査区　SD-11　遺物出土状況（右上）
及び SD-06・07堰遺構図（左下）

SD-06・07堰遺構図

SD-11　遺物出土状況図